HITACHI
Inspire the Next

JP1 Version 9

JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response

解説・文法書

3020-3-R51-01

マニュアルの購入方法

このマニュアル，および関連するマニュアルをご購入の際は，巻末の「ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内」をご参照ください。

■対象製品

P-242C-AA94 JP1/Performance Management - Manager 09-00（適用 OS：Windows Server 2003）
P-2A2C-AA94 JP1/Performance Management - Manager 09-00（適用 OS：Windows Server 2008）
P-1J2C-AA91 JP1/Performance Management - Manager 09-00（適用 OS：HP-UX 11i V2 (IPF)，HP-UX 11i V3 (IPF)）
P-9D2C-AA91 JP1/Performance Management - Manager 09-00（適用 OS：Solaris 9 (SPARC)，Solaris 10 (SPARC)）
P-1M2C-AA91 JP1/Performance Management - Manager 09-00（適用 OS：AIX 5L V5.3，AIX V6.1）
P-9S2C-BA91 JP1/Performance Management - Manager 09-00（適用 OS：Linux 5 (x86)，Linux 5 Advanced Platform (x86)，Linux 5 (AMD/Intel 64)，Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)）
P-242C-AJ94 JP1/Performance Management - Base 09-00（適用 OS：Windows Server 2003）
P-2A2C-AJ94 JP1/Performance Management - Base 09-00（適用 OS：Windows Server 2008）
P-242C-AR94 JP1/Performance Management - Web Console 09-00（適用 OS：Windows Server 2003）
P-2A2C-AR94 JP1/Performance Management - Web Console 09-00（適用 OS：Windows Server 2008）
P-1J2C-AR91 JP1/Performance Management - Web Console 09-00（適用 OS：HP-UX 11i V2 (IPF)，HP-UX 11i V3 (IPF)）
P-9D2C-AR91 JP1/Performance Management - Web Console 09-00（適用 OS：Solaris 9 (SPARC)，Solaris 10 (SPARC)）
P-1M2C-AR91 JP1/Performance Management - Web Console 09-00（適用 OS：AIX 5L V5.3，AIX V6.1）
P-9S2C-AR91 JP1/Performance Management - Web Console 09-00（適用 OS：Linux 5 (x86)，Linux 5 Advanced Platform (x86)，Linux 5 (AMD/Intel 64)，Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)）
P-242C-AS94 JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response 09-00（適用 OS：Windows Server 2003）
P-2A2C-AS94 JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response 09-00（適用 OS：Windows Server 2008）
これらの製品には，他社からライセンスを受けて開発した部分が含まれています。

■輸出時の注意

本製品を輸出される場合には，外国為替および外国貿易法ならびに米国の輸出管理関連法規などの規制をご確認の上，必要な手続きをお取りください。
なお，ご不明な場合は，弊社担当営業にお問い合わせください。

■商標類

Adobe，および Reader は，Adobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社) の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
AIX は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
AIX 5L は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
BEA WebLogic Server は，BEA Systems, Inc. の登録商標です。
BSAFE は，RSA Security Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
DB2 は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
DB2 Universal Database は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。

HP-UX は，米国 Hewlett-Packard Company のオペレーティングシステムの名称です。
Internet Explorer は，米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。
Itanium は，アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
JavaScript は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Linux は，Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。
Lotus は，IBM Corporation の登録商標です。
Lotus Domino は，IBM Corporation の登録商標です。
Microsoft は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft, Hyper-V は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Exchange Server は，米国 Microsoft Corp. の商品名称です。
Microsoft Internet Information Server は，米国 Microsoft Corp. の商品名称です。
Microsoft SQL Server は，米国 Microsoft Corp. の商品名称です。
Netscape は，米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。
Netscape Navigator は，米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。
ODBC は，米国 Microsoft Corp. が提唱するデータベースアクセス機構です。
OpenView は，ヒューレット・パッカード社の商標です。
ORACLE は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Oracle 及び WebLogic は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
PA-RISC は，米国 Hewlett-Packard Company の商標です。
RC2 は，RSA Security Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
RC4 は，RSA Security Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。
Red Hat は，米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標若しくは商標です。
RSA は，RSA Security Inc. の登録商標です。
Solaris は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
すべての SPARC 商標は，米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標がついた製品は，米国 Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。
Sun は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
Sun Microsystems は，Oracle Corporation 及びその子会社，関連会社の米国 及びその他の国における登録商標または商標です。
UNIX は，The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。
WebSphere は，米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の商標です。
Windows は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Windows Server は，米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
その他製品名などの固有名詞は各社の商品名，商標および登録商標です。
プログラムプロダクト「P-9D2C-AA91，P-9D2C-AR91」には，Oracle Corporation 及びその子会社，関連

会社 . が著作権を有している部分が含まれています。
プログラムプロダクト「P-9D2C-AA91，P-9D2C-AR91」には，UNIX System Laboratories, Inc. が著作権を有している部分が含まれています。
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response は，RSA Security Inc. の RSA(R) BSAFE(TM) ソフトウェアを搭載しています。

■発行

2009 年 8 月 (第 1 版) 3020-3-R51
2010 年 9 月 (第 1.1 版) 3020-3-R51-01

■著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2010, Hitachi, Ltd.
All Rights Reserved. Copyright (C) 2009, 2010, Hitachi Systems & Services, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-R51-01)

追加・変更内容	変更個所
記載内容を変更した。詳細は，付録 L を参照のこと。	付録 L

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

はじめに

このマニュアルは，JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の機能や収集レコードなどについて説明したものです。

■対象読者

このマニュアルは，次の方を対象としています。

- JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の機能および収集レコードについて知りたい方
- JP1/Performance Management を使用したシステムを構築，運用して，インターネットサービスのパフォーマンスデータを収集したい方

また，インターネットサービスの各プロトコルについて熟知していることを前提としています。なお，JP1/Performance Management を使用したシステムの構築，運用方法については，次のマニュアルをご使用ください。

- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド（3020-3-R31）
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 運用ガイド（3020-3-R32）
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management リファレンス（3020-3-R33）

■マニュアルの構成

このマニュアルは，次に示す編から構成されています。なお，このマニュアルは，Windows Server 2003（Windows Server 2003 (x86)），および Windows Server 2008 の各 OS（Operating System）に共通のマニュアルです。OS ごとに差異がある場合は，本文中でそのつど内容を書き分けています。

第 1 編　概要編

JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の概要について説明しています。

第 2 編　構築・運用編

JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response のインストール，セットアップ，サービス計測のための定義，起動と終了，およびクラスタシステムでの運用方法について説明しています。

第 3 編　リファレンス編

JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の画面，定義ファイル，監視テンプレート，レコード，コマンド，およびメッセージについて説明しています。

第 4 編　トラブルシューティング編

JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response でトラブルが発生したときの対処方法について説明しています。

■関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

JP1/Performance Management 関連

- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 設計・構築ガイド（3020-3-R31）
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management 運用ガイド（3020-3-R32）
- JP1 Version 9 JP1/Performance Management リファレンス（3020-3-R33）

JP1 関連

- JP1 Version 8 JP1/Cm2/Network Node Manager ネットワーク管理ガイド（3020-3-L01）
- JP1 Version 8 JP1/NETM/DM 運用ガイド 1（Windows(R) 用）（3020-3-S81）

■読書手順

このマニュアルは，利用目的に合わせて章を選択して読むことができます。利用目的別にお読みいただくことをお勧めします。

マニュアルを読む目的	記述個所
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の特長を知りたい。	1 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の機能概要を知りたい。	1 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の導入時の作業を知りたい。	2 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response のサービス計測のための定義方法について知りたい。	3 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の起動方法と終了方法について知りたい。	4 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response のクラスタシステムでの運用方法について知りたい。	5 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の画面について知りたい。	6 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の定義ファイルについて知りたい。	7 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response の監視テンプレートについて知りたい。	8 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response のレコードについて知りたい。	9 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response のコマンドについて知りたい。	10 章
JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response のメッセージについて知りたい。	11 章
障害発生時の対処方法について知りたい。	12 章

■このマニュアルでの表記

このマニュアルでは，日立製品およびその他の製品の名称を省略して表記しています。製品の正式名称と，このマニュアルでの表記を次に示します。

このマニュアルでの表記			正式名称
AIX			AIX 5L V5.3
			AIX V6.1
HP-UX	HP-UX 11i		HP-UX 11i V2 (IPF)
			HP-UX 11i V3 (IPF)
Internet Explorer			Microsoft(R) Internet Explorer(R)
			Windows(R) Internet Explorer(R)
IPF			Itanium(R) Processor Family
JP1/IM	JP1/IM - Manager		JP1/Integrated Management - Manager
	JP1/IM - View		JP1/Integrated Management - View
JP1/NETM/DM			JP1/NETM/DM Client
			JP1/NETM/DM Manager
			JP1/NETM/DM SubManager
Linux	Linux (IPF)	Linux 5 Advanced Platform (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (IPF)
		Linux 5 (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (IPF)
		Linux AS 4 (IPF)	Red Hat Enterprise Linux(R) AS 4 (IPF)
	Linux (x64)	Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)
		Linux 5 (AMD/Intel 64)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (AMD/Intel 64)
		Linux AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)	Red Hat Enterprise Linux(R) AS 4 (AMD64 & Intel EM64T)

このマニュアルでの表記			正式名称
		Linux ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)	Red Hat Enterprise Linux(R) ES 4 (AMD64 & Intel EM64T)
	Linux (x86)	Linux 5 Advanced Platform (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 Advanced Platform (x86)
		Linux 5 (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) 5 (x86)
		Linux AS 4 (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) AS 4 (x86)
		Linux ES 4 (x86)	Red Hat Enterprise Linux(R) ES 4 (x86)
MSCS			Microsoft(R) Cluster Server
			Microsoft(R) Cluster Service
NNM	HP NNM		HP Network Node Manager Software バージョン 6 以前
			HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前
	JP1/Cm2/NNM		JP1/Cm2/Network Node Manager バージョン 7 以前
			JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョン 8 以前
			JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8 以前
Performance Management			JP1/Performance Management
PFM - Agent	PFM - Agent for Cosminexus		JP1/Performance Management - Agent Option for uCosminexus Application Server

このマニュアルでの表記		正式名称
PFM - Agent for DB2		JP1/Performance Management - Agent Option for IBM(R) DB2(R) Universal Database(TM)
PFM - Agent for Domino		JP1/Performance Management - Agent Option for Domino
PFM - Agent for Enterprise Applications		JP1/Performance Management - Agent Option for Enterprise Applications
PFM - Agent for Exchange Server		JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Exchange Server
PFM - Agent for HiRDB		JP1/Performance Management - Agent Option for HiRDB
PFM - Agent for IIS		JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) Internet Information Server
PFM - Agent for JP1/AJS	PFM - Agent for JP1/AJS2	JP1/Performance Management - Agent Option for JP1/AJS2
	PFM - Agent for JP1/AJS3	JP1/Performance Management - Agent Option for JP1/AJS3
PFM - Agent for Microsoft SQL Server		JP1/Performance Management - Agent Option for Microsoft(R) SQL Server
PFM - Agent for OpenTP1		JP1/Performance Management - Agent Option for OpenTP1
PFM - Agent for Oracle		JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle
PFM - Agent for Platform	PFM - Agent for Platform（UNIX）	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform（UNIX 用）

このマニュアルでの表記			正式名称
		PFM - Agent for Platform（Windows）	JP1/Performance Management - Agent Option for Platform（Windows 用）
	PFM - Agent for Service Response		JP1/Performance Management - Agent Option for Service Response
	PFM - Agent for Virtual Machine		JP1/Performance Management - Agent Option for Virtual Machine
	PFM - Agent for WebLogic Server		JP1/Performance Management - Agent Option for BEA WebLogic Server
			JP1/Performance Management - Agent Option for Oracle(R) WebLogic Server
	PFM - Agent for WebSphere Application Server		JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere Application Server
	PFM - Agent for WebSphere MQ		JP1/Performance Management - Agent Option for IBM WebSphere MQ
PFM - Base			JP1/Performance Management - Base
PFM - Manager			JP1/Performance Management - Manager
PFM - RM	PFM - RM for Microsoft SQL Server		JP1/Performance Management - Remote Monitor for Microsoft(R) SQL Server
	PFM - RM for Oracle		JP1/Performance Management - Remote Monitor for Oracle
	PFM - RM for Platform		JP1/Performance Management - Remote Monitor for Platform
PFM - Web Console			JP1/Performance Management - Web Console

このマニュアルでの表記		正式名称
Solaris	Solaris 9	Solaris 9 (SPARC)
	Solaris 10	Solaris 10 (SPARC)
		Solaris 10 (x64)
		Solaris 10 (x86)
Win32		Win32(R)
Windows Server 2003	Windows Server 2003 (x86) または 2003 (x86)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003, Standard Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard Edition
	Windows Server 2003 (x64) または 2003 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 Standard x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Enterprise x64 Edition
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2, Standard x64 Edition
Windows Server 2008	Windows Server 2008 (x86)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise without Hyper-V(TM)
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard without Hyper-V(TM)

このマニュアルでの表記		正式名称
	Windows Server 2008 (x64)	Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard(x64)
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise(x64)
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2, Standard(x64)
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2, Enterprise(x64)
		Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2, Datacenter(x64)

- PFM - Manager，PFM - Agent，PFM - Base，PFM - Web Console，および PFM - RM を総称して，Performance Management と表記することがあります。
- Windows Server 2003 および Windows Server 2008 を総称して，Windows と表記することがあります。

■このマニュアルで使用する英略語

このマニュアルで使用する英略語を，次の表に示します。

正式名称	このマニュアルでの表記
Byte Order Mark	BOM
Domain Name System	DNS
Dynamic Host Configuration Protocol	DHCP
Extensible Markup Language	XML
File Transfer Protocol	FTP
Hyper Text Markup Language	HTML
Hypertext Transfer Protocol	HTTP ※
Hypertext Transfer Protocol Security	HTTPS ※
Internet Message Access Protocol Version 4	IMAP4
Internet Protocol	IP
Network Address Port Translation	NAPT
Network Address Translation	NAT
Network Time Protocol	NTP
Open Database Connectivity	ODBC
Operating System	OS

正式名称	このマニュアルでの表記
Portable Document Format	PDF
Post Office Protocol Version 3	POP3
Privacy Enhanced Mail	PEM
Request for Comments	RFC
Secure Socket Layer	SSL
Simple Mail Transfer Protocol	SMTP
Simple Network Time Protocol	SNTP
Small Computer System Interface	SCSI
Transmission Control Protocol	TCP
Transport Layer Security	TLS
Uniform Resource Locator	URL

注※　HTTP と HTTPS を総称して，HTTP(S) と表記することがあります。

■このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号を次に示します。

記号	意　味
［ ］	画面，タブ，メニュー，ダイアログボックス，ダイアログボックスのボタン，ダイアログボックスのチェックボックスなどを示します。 **(例)** ［メイン］画面 ［エージェント］タブ
《 》	ユーザーが指定しなかった場合に仮定される値を示します。
(( ))	ユーザー指定値の指定範囲を示します。
太字	重要な用語，または利用状況によって異なる値であることを示します。

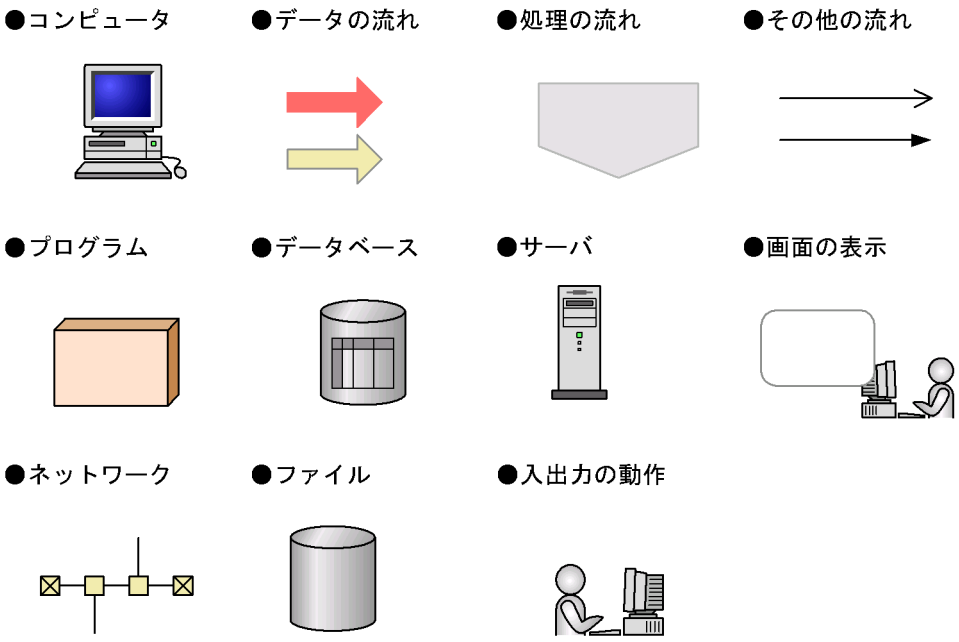
■このマニュアルの数式中で使用する記号

このマニュアルの数式中で使用する記号を次に示します。

記号	意　味
＊	乗算記号を示します。
/	除算記号を示します。

■図中で使用する記号

このマニュアルの図中で使用する記号を次のように定義します。



■フォルダおよびディレクトリの統一表記

このマニュアルでは，Windows で使用されている「フォルダ」と UNIX で使用されている「ディレクトリ」とが同じ場合，原則として，「ディレクトリ」と統一表記しています。

■このマニュアルでのコマンドの表記

Performance Management 09-00 以降では，08-51 以前のコマンドと互換性を持つ新形式のコマンドが追加されました。このため，このマニュアルではコマンドを次のように表記しています。

新形式のコマンド（08-51 以前のコマンド）

（例）

`jpcconf agent setup`（`jpcagtsetup`）

この例では，`jpcconf agent setup` が新形式のコマンドで，`jpcagtsetup` が 08-51 以前のコマンドになります。

新形式のコマンドを使用できるのは，PFM-Agent の同一装置内の前提プログラム（PFM - Manager または PFM - Base）のバージョンが 09-00 以降の場合です。なお，前提プログラムのバージョンが 09-00 以降の場合でも，08-51 以前のコマンドは使用できます。

■このマニュアルでのプロダクト名，サービス ID，およびサービスキーの表記

Performance Management 09-00 以降では，プロダクト名表示機能を有効にすることで，サービス ID およびサービスキーをプロダクト名で表示できます。

識別子	プロダクト名表示機能	
	無効	有効
サービス ID	VS1 **ホスト名**	**ホスト名** < Service Response >(Store)
	VA1 **ホスト名**	**ホスト名** < Service Response >
サービスキー	agtv	SR

このマニュアルでは，プロダクト名表示機能を有効としたときの形式で表記しています。
なお，プロダクト名表示機能を有効にできるのは，次の条件を同時に満たす場合です。

- PFM - Agent の同一装置内の前提プログラム（PFM - Manager または PFM - Base）のバージョンが 09-00 以降
- PFM - Web Console および接続先の PFM - Manager のバージョンが 09-00 以降

■ Performance Management のインストール先フォルダの表記

このマニュアルでは，Windows 版 Performance Management のインストール先フォルダを，**インストール先フォルダ**と表記しています。
Windows 版 Performance Management のデフォルトのインストール先フォルダは，次のとおりです。

PFM - Web Console 以外の Performance Management のプログラムのインストール先フォルダ

・Windows Server 2003 (x64)，64 ビット版の Windows Server 2008 の場合
　システムドライブ ¥Program Files(x86)¥Hitachi¥jp1pc

・上記以外の場合
　システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥jp1pc

PFM - Web Console のインストール先フォルダ

・Windows Server 2003 (x64)，64 ビット版の Windows Server 2008 の場合
　システムドライブ ¥Program Files(x86)¥Hitachi¥jp1pcWebCon

・上記以外の場合
　システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥jp1pcWebCon

■ Performance Management で対応する NNM 製品について

Performance Management では，次の製品との連携をサポートしています。

- HP Network Node Manager Software バージョン 6 以前
- HP Network Node Manager Starter Edition Software バージョン 7.5 以前
- JP1/Cm2/Network Node Manager バージョン 7 以前
- JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition 250 バージョン 8 以前
- JP1/Cm2/Network Node Manager Starter Edition Enterprise バージョン 8 以前

このマニュアルでは，これらの製品を「NNM」，これらの製品と連携するための機能を「NNM連携」と表記します。
なお，Performance Management では，次の製品との連携はサポートしていません。ご注意ください。

- HP Network Node Manager i Software v8.10
- JP1/Cm2/Network Node Manager i 09-00 以降

■常用漢字以外の漢字の使用について

このマニュアルでは，常用漢字を使用することを基本としていますが，次に示す用語については，常用漢字以外の漢字を使用しています。
宛先（あてさき） 鍵（かぎ） 個所（かしょ） 桁（けた） 貼り付け（はりつけ） 汎用（はんよう） 必須（ひっす） 捕捉（ほそく）

■ KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ1,024 バイト，$1{,}024^2$ バイト，$1{,}024^3$ バイト，$1{,}024^4$ バイトです。

目次

第 1 編　概要編

1 PFM - Agent for Service Response の概要 1

1.1 PFM - Agent for Service Response の特長 2

1.1.1 インターネットサービスのパフォーマンスデータを収集できます 2

1.1.2 パフォーマンスデータの性質に応じた方法で収集できます 4

1.1.3 パフォーマンスデータを保存できます 4

1.1.4 インターネットサービスの運用上の問題点を通知できます 5

1.1.5 アラームおよびレポートが容易に定義できます 5

1.1.6 クラスタシステムで運用できます 6

1.2 PFM - Agent for Service Response の機能 7

1.2.1 インターネットサービスの計測 7

1.2.2 IE シナリオの計測 8

1.2.3 Web トランザクションの計測 12

1.2.4 ユーザー定義サービスの計測 18

1.3 パフォーマンスデータの収集と管理の概要 20

1.4 パフォーマンス監視の運用例 22

1.4.1 パフォーマンス監視の目的 22

1.4.2 ベースラインの選定 22

1.4.3 定義例（IE シナリオを計測する場合） 22

1.4.4 定義例（Web トランザクションを計測する場合） 26

第 2 編　構築・運用編

2 インストールとセットアップ 33

2.1 インストールとセットアップ 34

2.1.1 インストールとセットアップの前に 34

2.1.2 インストールとセットアップの流れ 40

2.1.3 インストール手順 42

2.1.4 PFM - Agent for Service Response のセットアップ手順 44

2.2 アンインストールとアンセットアップ 50

2.2.1 アンインストールの前に 50
2.2.2 アンセットアップ手順 51
2.2.3 アンインストール手順 51
2.3 PFM - Agent for Service Response のシステム構成の変更 53
2.4 PFM - Agent for Service Response の運用方式の変更 54
2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更 54
2.4.2 Store バージョン 2.0 への移行 58
2.4.3 統合トレースログ機能の設定の変更 60
2.4.4 欠落データ補間の設定 61
2.5 コマンドプロンプトの起動方法 62
2.6 バックアップとリストア 64
2.6.1 バックアップ 64
2.6.2 リストア 65
2.7 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定 66
2.7.1 設定手順 66
2.7.2 参照手順 67

3 サービス計測のための定義 69
3.1 定義の流れ 70
3.2 サービス計測の定義にあたっての注意事項 71
3.3 インターネットサービスを計測するための定義 72
3.3.1 パスワードの登録 72
3.3.2 計測条件の定義 72
3.3.3 証明書ファイルの登録 75
3.3.4 定義情報の反映 75
3.4 IE シナリオを計測するための定義 76
3.4.1 IE シナリオの定義（IE シナリオファイルの作成） 76
3.4.2 計測条件の定義 84
3.4.3 定義情報の反映 85
3.5 Web トランザクションを計測するための定義 87
3.5.1 Web トランザクションの定義（Web トランザクションファイルの作成） 87
3.5.2 パスワードの登録 96
3.5.3 計測条件の定義 96
3.5.4 証明書ファイルの登録 97
3.5.5 定義情報の反映 98
3.5.6 動的セッション管理対応のための定義 98

3.6 ユーザー定義サービスを計測するための定義 101
3.6.1 ユーザー定義サービスの定義 101
3.6.2 計測条件の定義 102
3.6.3 定義情報の反映 103
3.7 PFM - Web Console からの計測条件の定義 104
3.7.1 タスクの追加 105
3.7.2 タスクの削除 106
3.7.3 タスク情報の設定 107
3.7.4 タスク情報の反映 108
3.7.5 タスク情報の一括配布 110

4 起動と終了 113
4.1 PFM - Agent for Service Response の起動と終了 114
4.2 運用上の注意事項 119
4.2.1 システムの運用に関する注意事項 119
4.2.2 PFM - Agent for Service Response の機能に関する注意事項 120
4.2.3 IE シナリオに関する注意事項 129
4.2.4 ナビゲーションに関する注意事項 146

5 クラスタシステムでの運用 167
5.1 クラスタシステムの概要 168
5.1.1 HA クラスタシステム 168
5.2 フェールオーバー時の処理 170
5.2.1 障害が発生した場合のフェールオーバー 170
5.2.2 PFM - Manager が停止した場合の影響 171
5.3 インストールとセットアップ 172
5.3.1 インストールを始める前に 172
5.3.2 インストールから運用開始までの流れ 174
5.3.3 インストール 176
5.3.4 セットアップ 176
5.4 アンインストールとアンセットアップ 186
5.4.1 PFM - Agent for Service Response のアンインストールとアンセットアップの流れ 186
5.4.2 PFM - Agent for Service Response のアンセットアップ 188
5.4.3 アンインストール 192

5.5 PFM - Agent for Service Response の運用方式の変更 193
5.5.1 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポート 193
5.5.2 PFM - Agent for Service Response 用定義ファイルの変更 193
5.6 クラスタシステムで運用する場合の注意事項 194
5.6.1 IE シナリオを使用する場合の注意事項 194

第 3 編　リファレンス編

6 画面 197
6.1 画面の基本操作と画面遷移 198
6.1.1 画面の基本操作 198
6.1.2 画面遷移 198
6.2 IE Recorder の画面 200
6.2.1 [IE Recorder]（メイン）画面 200
6.2.2 [操作の設定] 画面 210
6.2.3 [パスワードの変更] 画面 219
6.2.4 [IE Recorder の設定] 画面 220
6.2.5 [スコープ起点の設定] 画面 221
6.2.6 [スコープ終点の設定] 画面 222
6.2.7 [スコープ一覧] 画面 222
6.2.8 [再生レポート] 画面 223
6.3 Web Recorder の画面 226
6.3.1 [Web Recorder]（メイン）画面 226
6.3.2 [Web トランザクションの作成] 画面 229
6.3.3 [名前を付けて保存] 画面 231
6.3.4 [Web トランザクションの選択] 画面 232
6.3.5 [スコープ選択] 画面 233
6.3.6 [トランザクションの設定] 画面 233
6.3.7 [プロパティ] 画面 238
6.3.8 [可変文字列の設定] 画面 250
6.3.9 [可変文字列設定の取込元選択] 画面 254
6.3.10 [代替文字列の設定] 画面 255
6.3.11 [代替文字列設定の取込元選択] 画面 259
6.3.12 [要素の絞り込み条件の設定] 画面 259

7 定義ファイル 261
7.1 定義ファイル一覧 262
7.2 Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf） 265
7.3 計測条件登録ファイル（esptask.xml） 271
7.3.1 計測条件登録ファイル全体の書式と定義内容 271
7.3.2 計測条件（共通部分）の書式と定義内容 273
7.3.3 計測条件（サービス固有条件部分）の書式と定義内容 273
7.3.4 記述例 287
7.4 IE シナリオファイル 289
7.5 Web トランザクションファイル 290
7.5.1 Web トランザクションファイル全体の書式と定義内容 290
7.5.2 Web トランザクション計測条件定義の書式と定義内容 291
7.6 コマンド登録ファイル（espcommand.xml） 309
7.7 計測条件ラベル定義ファイル（esptasklabel.conf） 311
7.8 IE Recorder 動作条件定義ファイル（jpcvierec.conf） 313
7.9 Web Recorder 動作条件定義ファイル（wr.conf） 315

8 監視テンプレート 317
監視テンプレートの概要 318
アラームの記載形式 319
アラーム一覧 320
FTP Failure 322
FTP Response Time 323
IES Failure 324
IES Replay Time 325
IMAP4 Failure 326
IMAP4 Response Time 327
POP3 Failure 328
POP3 Response Time 329
SMTP Failure 330
SMTP Response Time 331
TCP Failure 332
TCP Response Time 333
WT Failure 334
WT Response Time 335

レポートの記載形式 336
レポートのフォルダ構成 338
レポート一覧 341
DHCP Response Time Status 346
DHCP Response Time Status（**リアルタイムレポート**） 347
DHCP Response Time Summary 348
DHCP Response Time Trend 349
DNS Response Time Status 350
DNS Response Time Status（**リアルタイムレポート**） 351
DNS Response Time Summary 352
DNS Response Time Trend 353
FTP Rate 354
FTP Response Time Status 355
FTP Response Time Status（**リアルタイムレポート**） 356
FTP Response Time Summary 357
FTP Response Time Trend 358
FTP Top 10 359
HTTP Rate 360
HTTP Response Time Status 361
HTTP Response Time Status（**リアルタイムレポート**） 362
HTTP Response Time Summary 363
HTTP Response Time Trend 364
HTTP Top 10 365
HTTPS Rate 366
HTTPS Response Time Status 367
HTTPS Response Time Status（**リアルタイムレポート**） 368
HTTPS Response Time Summary 369
HTTPS Response Time Trend 370
HTTPS Top 10 371
IE Scenario Detail 372
IE Scenario Logged Message 373
IE Scenario Replay Time Status 374
IE Scenario Replay Time Status（**リアルタイムレポート**） 375
IE Scenario Replay Time Summary 377
IE Scenario Replay Time Trend 378
IE Scenario Scope Detail 379
IE Scenario Scope Rate 381

IE Scenario Top 10	382
IMAP4 Rate	383
IMAP4 Response Time Status	384
IMAP4 Response Time Status（リアルタイムレポート）	385
IMAP4 Response Time Summary	386
IMAP4 Response Time Trend	387
IMAP4 Top 10	388
POP3 Rate	389
POP3 Response Time Status	390
POP3 Response Time Status（リアルタイムレポート）	391
POP3 Response Time Summary	392
POP3 Response Time Trend	393
POP3 Top 10	394
Scope Detail	395
SMTP Rate	396
SMTP Response Time Status	397
SMTP Response Time Status（リアルタイムレポート）	398
SMTP Response Time Summary	399
SMTP Response Time Trend	400
SMTP Top 10	401
TCP Response Time Status	402
TCP Response Time Status（リアルタイムレポート）	403
TCP Response Time Summary	404
TCP Response Time Trend	405
Transaction Detail	406
User Defined Service Response Time Status	407
User Defined Service Response Time Status（リアルタイムレポート）	408
User Defined Service Response Time Summary	409
User Defined Service Response Time Trend	410
Web Transaction Response Time Status	411
Web Transaction Response Time Status（リアルタイムレポート）	412
Web Transaction Response Time Summary	413
Web Transaction Response Time Trend	414
Web Transaction Scope Detail	415
Web Transaction Scope Rate	416
Web Transaction Top 10	417

9 レコード 419
データモデルについて 420
レコードの記載形式 421
ODBC キーフィールド一覧 424
要約ルール 425
データ型一覧 427
フィールドの値 428
Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド 430
共通フィールド 432
レコード一覧 436
DHCP（PI_DHCP） 437
DNS（PI_DNS） 440
FTP（PI_FTP） 442
HTTP（PI_HTP） 446
HTTPS（PI_HTPS） 451
IE Scenario（PI_IES） 458
IE Scenario Overview（PI_IESO） 460
IMAP4（PI_IMP4） 464
Logged Message for IE Scenario（PL_IESM） 468
POP3（PI_POP3） 471
Service Summary Interval（PI_PI） 475
SMTP（PI_SMTP） 476
TCP（PI_TCP） 480
User Defined Service（PI_UDEF） 482
Web Transaction（PI_WT） 483
Web Transaction Overview（PI_WTO） 487

10 コマンド 489
コマンド一覧 490
コマンドの詳細 491
esppasswd（パスワードを登録・変更・削除する） 492
hntr2util（統合トレースログの設定を変更する） 495

11 メッセージ 497
11.1 メッセージの形式 498
11.1.1 メッセージの出力形式 498
11.1.2 メッセージの記載形式 498
11.2 メッセージの出力先一覧 499
11.3 Windows イベントログの一覧 514
11.4 メッセージ一覧 516

第 4 編 トラブルシューティング編

12 トラブルへの対処方法 583
12.1 対処の手順 584
12.2 トラブルシューティング 585
12.2.1 セットアップやサービスの起動について 585
12.2.2 コマンドの実行について 589
12.2.3 レポートの定義について 590
12.2.4 アラームの定義について 590
12.2.5 パフォーマンスデータの収集と管理について 591
12.2.6 その他のトラブルについて 592
12.3 ログ情報 593
12.3.1 ログ情報の種類 593
12.3.2 ログファイルおよびフォルダ一覧 594
12.4 トラブル発生時に採取が必要な資料 598
12.4.1 Windows の場合 598
12.5 資料の採取方法 604
12.5.1 Windows の場合 604
12.6 Performance Management の障害検知 608
12.7 Performance Management システムの障害回復 609

付録 611
付録 A システム見積もり 612
付録 A.1 メモリー所要量 612

付録 A.2　ディスク占有量　613
付録 A.3　クラスタ運用時のディスク占有量　623
付録 B　識別子一覧　624
付録 C　プロセス一覧　625
付録 D　ポート番号一覧　626
付録 D.1　PFM - Agent for Service Response のポート番号　626
付録 D.2　ファイアウォールの通過方向　626
付録 D.3　ファイアウォール /NAT を挟んだ計測を行う時の注意事項　628
付録 E　PFM - Agent for Service Response のプロパティ　630
付録 E.1　Agent Store サービスのプロパティ一覧　630
付録 E.2　Agent Collector サービスのプロパティ一覧　634
付録 F　ファイルおよびフォルダ一覧　653
付録 G　移行手順と移行時の注意事項　658
付録 H　バージョン互換　659
付録 I　動作ログの出力　660
付録 I.1　動作ログに出力される事象の種別　660
付録 I.2　動作ログの保存形式　660
付録 I.3　動作ログの出力形式　661
付録 I.4　動作ログを出力するための設定　666
付録 J　IE シナリオの計測と Web トランザクションの計測の相違点　669
付録 K　各バージョンの変更内容　670
付録 K.1　09-00 の変更内容　670
付録 K.2　08-50 の変更内容　671
付録 L　（3020-3-R51-01）の変更内容　673
付録 M　用語解説　675

索引　685

1 PFM - Agent for Service Response の概要

この章では，PFM - Agent for Service Response の概要について説明します。

1.1　PFM - Agent for Service Response の特長
1.2　PFM - Agent for Service Response の機能
1.3　パフォーマンスデータの収集と管理の概要
1.4　パフォーマンス監視の運用例

1.1 PFM - Agent for Service Response の特長

PFM - Agent for Service Response は，インターネットサービスのパフォーマンスを監視するために，パフォーマンスデータを収集および管理するプログラムです。

PFM - Agent for Service Response の特長を次に示します。

● インターネットサービスの稼働状況を分析できる
監視対象のインターネットサービスから，応答時間などのパフォーマンスデータを PFM - Agent for Service Response で収集および集計し，その傾向や推移を図示することで，インターネットサービスの稼働状況の分析が容易にできます。

● インターネット上の運用上の問題点を早期に発見し，原因を調査する資料を提供できる
インターネット上で，応答時間が遅延するなどのパフォーマンスの低下が発生した場合，E メールなどを使ってユーザーに通知することで，問題点を早期に発見できます。また，その問題点に関連する情報を図示することで，原因を調査する資料を提供できます。

PFM - Agent for Service Response を使用するには，PFM - Manager，PFM - Base および PFM - Web Console が必要です。

PFM - Agent for Service Response について次に説明します。

1.1.1 インターネットサービスのパフォーマンスデータを収集できます

PFM - Agent for Service Response を使用すると，インターネットサービスの応答時間などのパフォーマンスデータが収集できます。

PFM - Agent for Service Response では，パフォーマンスデータを，次のように収集および利用できます。

● インターネットサービスの応答性能情報を収集できる
PFM - Agent for Service Response は，各インターネットサービスのサーバにリクエストを送信し，レスポンスを得るまでの時間やデータ転送のスループットを計測することによって，インターネットサービスの応答性能の情報を収集します。PFM - Agent for Service Response が収集する応答時間やスループットなどを，応答性能情報といいます。PFM - Agent for Service Response は次の 9 種類のインターネットサービスを計測対象としています。

- HTTP
- HTTPS
- SMTP
- POP3

- IMAP4
- DNS
- DHCP
- FTP
- TCP

● Internet Explorer の操作を計測できる

Internet Explorer で操作してから Web ページの表示が完了するまでの時間を計測することによって，Internet Explorer を使用しているときの体感性能に近い応答性能情報を収集できます。Internet Explorer での複数の操作から成る一連の作業を，一つの IE シナリオとして定義し，計測できます。

● トランザクションを計測できる

HTTP および HTTPS（以降，HTTP(S) と表記します）サービスの計測については，1 回のリクエスト・レスポンスの計測だけでなく複数の HTTP(S) のリクエスト・レスポンスから成る一連の作業を一つの Web トランザクションとして計測できます。

● 計測対象サービスを拡張できる

PFM - Agent for Service Response が標準でサポートするインターネットサービス以外のサービスを計測したい場合，サービスの応答時間を計測するプログラムを用意し，PFM - Agent for Service Response にユーザー定義コマンドとして登録することで，計測対象サービスを追加できます。

PFM - Agent for Service Response では，パフォーマンスデータは，次のように利用できます。

● インターネットサービスの稼働状況をグラフィカルに表示できる

パフォーマンスデータは，PFM - Web Console を使用して，「レポート」と呼ばれるグラフィカルな形式に加工し，表示できます。レポートによって，インターネットサービスの稼働状況がよりわかりやすく分析できるようになります。

レポートには，次の種類があります。

- リアルタイムレポート
  監視しているインターネットサービスの現在の状況を示すレポートです。主に，システムの現在の状態や問題点を確認するために使用します。リアルタイムレポートの表示には，収集した時点のパフォーマンスデータが直接使用されます。
- 履歴レポート
  監視しているインターネットサービスの過去から現在までの状況を示すレポートです。主に，システムの傾向を分析するために使用します。履歴レポートの表示には，PFM - Agent for Service Response のデータベースに格納されたパフォーマンスデータが使用されます。

● 問題が起こったかどうかの判定条件として使用できる

収集されたパフォーマンスデータの値が何らかの異常を示した場合，ユーザーに通知するなどの処置を取るように設定できます。

1.1.2 パフォーマンスデータの性質に応じた方法で収集できます

パフォーマンスデータは，「レコード」の形式で収集されます。各レコードは，「フィールド」と呼ばれるさらに細かい単位に分けられます。レコードおよびフィールドの総称を「データモデル」と呼びます。

レコードは，性質によって三つのレコードタイプに分けられます。どのレコードでどのパフォーマンスデータが収集されるかは，PFM - Agent for Service Response で定義されています。ユーザーは，PFM - Web Console を使用して，どのパフォーマンスデータのレコードを収集するか選択します。

PFM - Agent for Service Response のレコードタイプを次に示します。

- Product Interval レコードタイプ（以降，PI レコードタイプと省略します）
  PI レコードタイプのレコードには，1 分ごとのプロセス数など，ある一定の時間（インターバル）ごとのパフォーマンスデータが収集されます。PI レコードタイプは，時間の経過に伴うシステムの状態の変化や傾向を分析したい場合に使用します。
- Product Detail レコードタイプ（以降，PD レコードタイプと省略します）
  PD レコードタイプのレコードには，現在起動しているプロセスの詳細情報など，ある時点でのシステムの状態を示すパフォーマンスデータが収集されます。PD レコードタイプは，ある時点でのシステムの状態を知りたい場合に使用します。
- Product Log レコードタイプ（以降，PL レコードタイプと省略します）
  PL レコードタイプのレコードには，システムやアプリケーションのログやメッセージなどが収集されます。

各レコードについては，「9. レコード」を参照してください。

1.1.3 パフォーマンスデータを保存できます

収集したパフォーマンスデータを，PFM - Agent for Service Response の「Store データベース」と呼ばれるデータベースに格納することで，現在までのパフォーマンスデータを保存し，インターネットサービスの稼働状況について，過去から現在までの傾向を分析できます。傾向を分析するためには，履歴レポートを使用します。

ユーザーは，PFM - Web Console を使用して，どのパフォーマンスデータのレコードを Store データベースに格納するか選択します。PFM - Web Console でのレコードの選択方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

1.1.4 インターネットサービスの運用上の問題点を通知できます

PFM - Agent for Service Response で収集したパフォーマンスデータは，インターネットサービスのパフォーマンスをレポートとして表示するのに利用できるだけでなく，インターネットサービスを運用していて問題が起こったり，障害が発生したりした場合にユーザーに警告することもできます。

例えば，インターネットサービスのサーバにリクエストを送信し，レスポンスを得るまでの時間が 10 秒を上回った場合，ユーザーに E メールで通知するとします。このように運用するために，「インターネットサービスのサーバにリクエストを送信し，レスポンスを得るまでの時間が 10 秒を上回る」を異常条件のしきい値として，そのしきい値に達した場合，E メールをユーザーに送信するように設定します。しきい値に達した場合に取る動作を「アクション」と呼びます。アクションには，次の種類があります。

- E メールの送信
- コマンドの実行
- SNMP トラップの発行
- JP1 イベントの発行

しきい値やアクションを定義したものを「アラーム」と呼びます。一つ以上のアラームを一つのテーブルにまとめたものを「アラームテーブル」と呼びます。アラームテーブルを定義したあと，PFM - Agent for Service Response と関連づけます。アラームテーブルと PFM - Agent for Service Response とを関連づけることを「バインド」と呼びます。バインドすると，PFM - Agent for Service Response によって収集されているパフォーマンスデータが，アラームで定義したしきい値に達した場合，ユーザーに通知できるようになります。

このように，アラームおよびアクションを定義することによって，インターネットサービスの運用上の問題を早期に発見し，対処できます。

アラームおよびアクションの設定方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，アラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

1.1.5 アラームおよびレポートが容易に定義できます

PFM - Agent for Service Response では，「監視テンプレート」と呼ばれる，必要な情報があらかじめ定義されたレポートおよびアラームを提供しています。この監視テンプレートを使用することで，複雑な定義をしなくてもインターネットサービスの運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。監視テンプレートは，ユーザーの環境に合わせてカスタマイズすることもできます。監視テンプレートの使用方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働分析のためのレポー

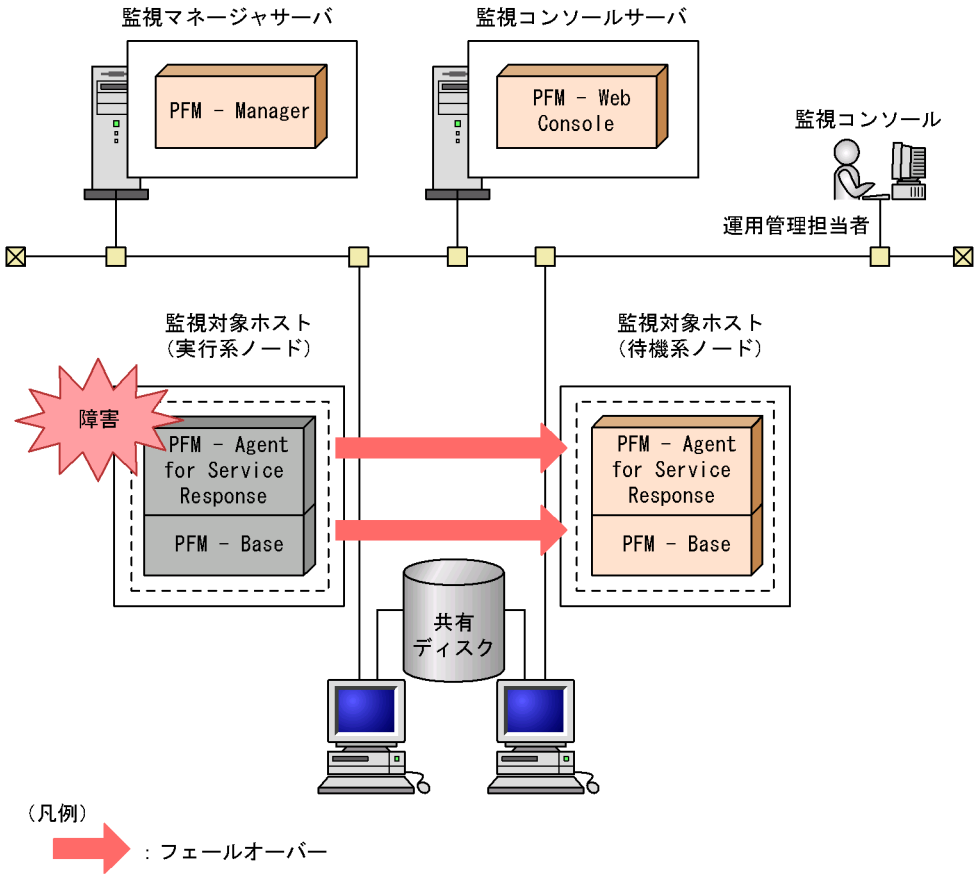
トの作成またはアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。また，監視テンプレートの詳細については，「8.　監視テンプレート」を参照してください。

1.1.6　クラスタシステムで運用できます

クラスタシステムを使うと，システムに障害が発生した場合にも継続して業務を運用できる，信頼性の高いシステムが構築できます。このため，システムに障害が発生した場合でも Performance Management の 24 時間稼働および 24 時間監視ができます。

クラスタシステムでホストに障害が発生した場合の運用例を次の図に示します。

図 1-1　クラスタシステムの運用例



同じ設定の環境を二つ構築し，通常運用する方を「実行系ノード」，障害発生時に使う方を「待機系ノード」として定義しておきます。

クラスタシステムでの Performance Management の運用の詳細については，「5.　クラスタシステムでの運用」を参照してください。

1.2　PFM - Agent for Service Response の機能

PFM - Agent for Service Response は，インターネットサービスの応答時間やデータ転送スループットなどを計測するプログラムです。PFM - Agent for Service Response を使ったインターネットサービスの計測には，次の形態があります。

- インターネットサービスの計測
- IE シナリオの計測
- Web トランザクションの計測
- ユーザー定義サービスの計測

IE シナリオの計測では，Internet Explorer の複数の操作から成る一連の作業を測定できます。Web トランザクションの計測では，複数の HTTP(S) のリクエスト・レスポンスから成る一連の作業を計測できます。

IE シナリオの計測と Web トランザクションの計測の相違点については，「付録 J　IE シナリオの計測と Web トランザクションの計測の相違点」を参照してください。

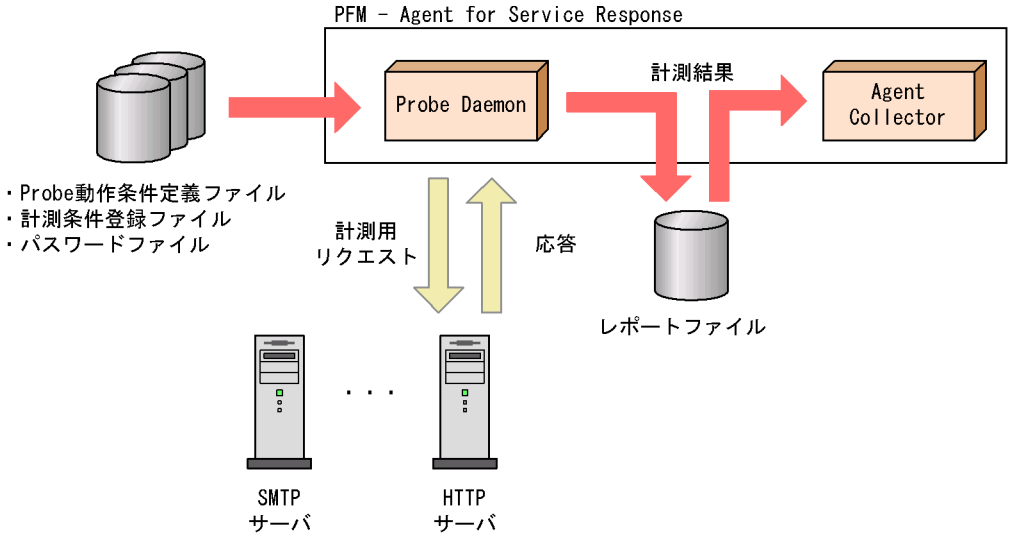
それぞれの形態について，サービスの計測の仕組みや，計測項目，計測条件について説明します。

1.2.1　インターネットサービスの計測

PFM - Agent for Service Response は，HTTP や SMTP などのサーバに対し，リクエストを送信してレスポンスを取得するまでの時間や，データ転送のスループットなどを取得してインターネットサービスの応答性能を計測します。インターネットサービスの応答性能を計測する機能をプローブといいます。PFM - Agent for Service Response では，インターネットサービスの応答時間を，秒単位で小数点第 3 位（0.001 秒の位）まで計測できます。

PFM - Agent for Service Response でのインターネットサービス計測の概要を次の図に示します。

図 1-2　インターネットサービス計測の概要



PFM - Agent for Service Response の Probe Daemon は，起動時に次の三つのファイルを読み込みます。計測結果は，計測条件ごとにいったんレポートファイルに出力され，一定の間隔で Agent Collector によって収集されます。

- Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）
  PFM - Agent for Service Response のプローブの計測多重度やレポートファイルのサイズ上限などの起動オプションを定義するファイルです。詳細については，「7.2 Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）」を参照してください。
- 計測条件登録ファイル（esptask.xml）
  計測対象のサービスタイプや，ホスト名，計測間隔などの計測条件を定義するファイルです。PFM - Web Console から設定します（直接編集することもできます）。PFM - Web Console からの設定については，「3.7　PFM - Web Console からの計測条件の定義」を参照してください。計測条件登録ファイルの詳細については，「7.3　計測条件登録ファイル（esptask.xml）」を参照してください。
- パスワードファイル（esp.pdb）
  計測対象のインターネットサービスへログインする際に必要なパスワードを登録・管理するファイルです。詳細については，「3.3.1　パスワードの登録」を参照してください。

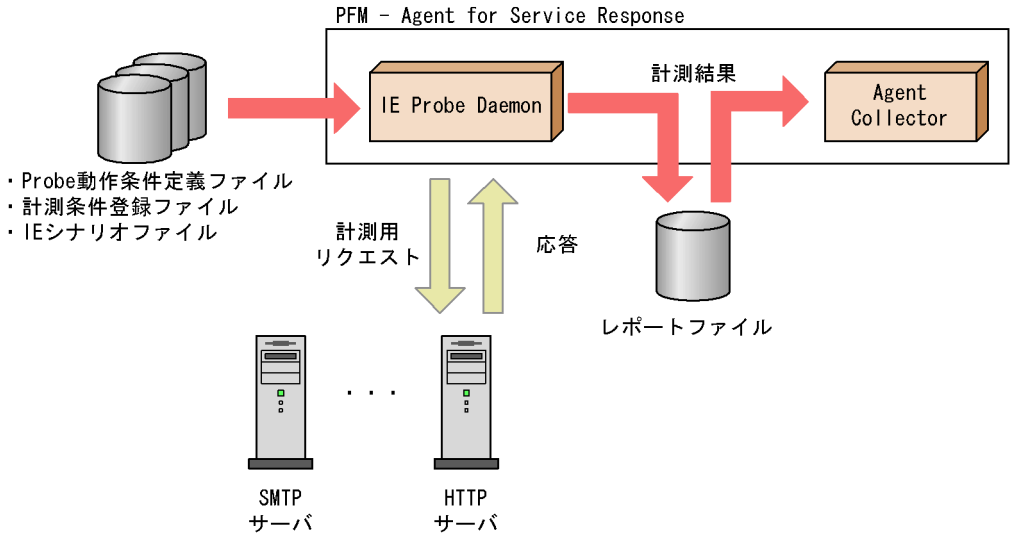
1.2.2　IE シナリオの計測

PFM - Agent for Service Response は，Internet Explorer で操作してから Web ページの表示が完了するまでの時間を取得し，Internet Explorer を使用しているときに体感する応答性能を計測します。Internet Explorer での複数の操作から成る一連の作業を，一つの IE シナリオとして定義し，計測できます。PFM - Agent for Service Response では，

IE シナリオの応答時間を，秒単位で小数点第 3 位（0.001 秒の位）まで計測できます。

IE シナリオ計測の概要を次の図に示します。

図 1-3　IE シナリオ計測の概要



PFM - Agent for Service Response の IE Probe Daemon は，起動時に次の三つのファイルを読み込みます。計測結果は，計測条件ごとにいったんレポートファイルに出力され，一定の間隔で Agent Collector によって収集されます。

- Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）
  PFM - Agent for Service Response の IE プローブの計測多重度やレポートファイルのサイズ上限などの起動オプションを定義するファイルです。詳細については，「7.2 Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）」を参照してください。
- 計測条件登録ファイル（esptask.xml）
  計測対象のサービスタイプや，ホスト名，計測間隔などの計測条件を定義するファイルです。PFM - Web Console から設定します（直接編集することもできます）。PFM - Web Console からの設定については，「3.7　PFM - Web Console からの計測条件の定義」を参照してください。計測条件登録ファイルの詳細については，「7.3　計測条件登録ファイル（esptask.xml）」を参照してください。
- IE シナリオファイル
  Internet Explorer で実行した操作情報を記録して IE シナリオとして定義するファイルです。IE シナリオは，IE Recorder で定義できます。IE Recorder では，Internet Explorer の画面をウィンドウに呼び出し，ウィンドウ上で実行する Internet Explorer の操作を記録することによって IE シナリオを定義できます。

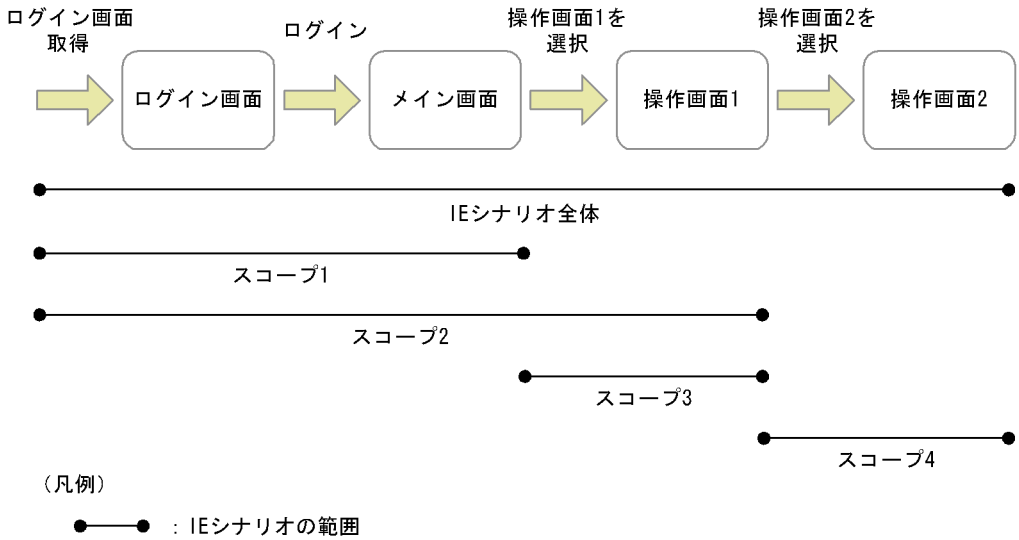
IE シナリオの計測では，IE シナリオファイルの定義に従って，Internet Explorer の操作を再生し，再生の所要時間などを計測します。

計測結果は，IE シナリオを再生した全体の計測結果が出力されます。また，IE シナリオの任意の操作を計測した結果についても同様に出力されます。計測結果となる稼働性能情報については，「9.　レコード」の「IE Scenario（PI_IES)」「IE Scenario Overview（PI_IESO)」を参照してください。

(1) 任意の操作の応答性能計測

任意の操作の応答性能を計測できます。任意の操作の応答性能を計測する場合は，操作の範囲をスコープとして定義します。スコープは 16 個まで定義できます。スコープとして定義する操作の範囲は，ほかのスコープで定義した範囲と重複してもかまいません。スコープの定義例を次の図に示します。

図 1-4　スコープの定義例



上記の例の場合，各スコープの計測項目は次のようになります。

- IE シナリオ全体
  ログイン画面の取得から，ログイン後のメイン画面の表示完了，操作画面 1 の表示完了，操作画面 2 の表示完了までの IE シナリオの再生に要した時間
- スコープ 1
  ログイン画面の取得から，ログイン後のメイン画面の表示完了までの IE シナリオの再生に要した時間
- スコープ 2
  ログイン画面の取得から，ログイン後のメイン画面の表示完了，操作画面 1 の表示完了までの IE シナリオの再生に要した時間
- スコープ 3
  メイン画面で操作画面 1 を選択してから，操作画面 1 の表示完了までの IE シナリオの再生に要した時間

- スコープ 4
  操作画面 1 で操作画面 2 を選択してから，操作画面 2 の表示完了までの IE シナリオの再生に要した時間

このように，一つの IE シナリオについて，スコープを定義することによって各処理の性能を計測できます。

(2) レスポンス判定

レスポンス判定情報を定義することによって，取得した HTML の応答内容をチェックし，計測対象の異常を検知できます。

ログイン失敗を通知する画面が表示された場合を計測の失敗と扱いたいときは，レスポンス判定情報を定義して，応答内容をチェックしてください。応答内容のチェックでは，画面の HTML ファイルに含まれる文字列だけをチェックの対象とします。

(3) タグの特定

IE シナリオを記録したあとで，計測対象サイトの画面のレイアウト変更などを行ったために，HTML ファイル中の操作対象となるタグの属性や記述位置などが変更されることがあります。そのような場合に，IE シナリオを記録し直さなくても IE シナリオの計測ができるように，操作対象となるタグの絞り込み方法を指定できます。

操作対象となるタグの特定方法を次に示します。

インナーテキスト
開始タグと終了タグに囲まれたインナーテキストから，操作対象となるタグを特定します。インナーテキストを指定すると，IE シナリオの再生時に，指定したインナーテキストを含むタグが選択され，実行されます。指定したテキストを含むタグが複数ある場合，HTML ファイルで最初に記述されているタグが選択されます。

属性
タグに含まれる属性の値から，操作対象となるタグを特定します。
属性を指定すると，IE シナリオの再生時に，指定した属性の値を含むタグが選択され，実行されます。指定した属性の値を含むタグが複数ある場合，最初に記述されているタグが選択され，実行されます。

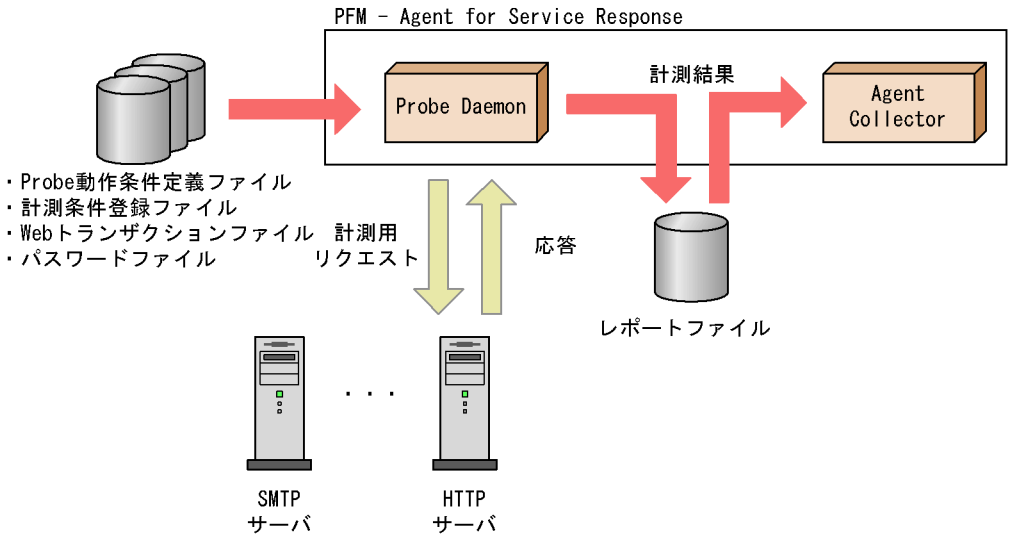
タグの位置
インナーテキストや属性の値が同じタグのうち，HTML ファイルの先頭から数えて何番目にあるかというタグの位置から，操作対象となるタグを特定します。タグの位置を指定すると，IE シナリオの再生時に，指定した位置に記述されたタグが選択され，実行されます。
操作対象となるタグの特定方法を指定する方法については，「6.2.2 ［操作の設定］画面」を参照してください。

1.2.3　Web トランザクションの計測

PFM - Agent for Service Response では，HTTP(S) サービスを計測するにあたって，1 回のリクエスト・レスポンスの計測だけでなく複数の HTTP(S) のリクエスト・レスポンスから成る一連の作業を Web トランザクションとして定義し，計測できます。これによって，Web サーバの計測だけでなく，ログインを必要とする Web アプリケーションの計測もできます。PFM - Agent for Service Response では，Web トランザクションの応答時間を，秒単位で小数点第 3 位（0.001 秒の位）まで計測できます。

Web トランザクション計測の概要を次の図に示します。

図 1-5　Web トランザクション計測の概要



PFM - Agent for Service Response の Probe Daemon は，起動時に次の四つのファイルを読み込みます。計測結果は，計測条件ごとにいったんレポートファイルに出力され，一定の間隔で Agent Collector によって収集されます。

- Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）
  PFM - Agent for Service Response のプローブの計測多重度やレポートファイルのサイズ上限などの起動オプションを定義するファイルです。詳細については，「7.2 Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）」を参照してください。
- 計測条件登録ファイル（esptask.xml）
  計測対象のサービスタイプや，ホスト名，計測間隔などの計測条件を定義するファイルです。PFM - Web Console から設定します（直接編集することもできます）。PFM - Web Console からの設定については，「3.7　PFM - Web Console からの計測条件の定義」を参照してください。計測条件登録ファイルの詳細については，「7.3　計測条件登録ファイル（esptask.xml）」を参照してください。

- Web トランザクションファイル
  計測対象となる Web トランザクションのアクセス先の URL，Web 認証，プロキシなどの情報を定義するファイルです。詳細については，「7.5　Web トランザクションファイル」を参照してください。
- パスワードファイル（esp.pdb）
  計測対象のインターネットサービスへログインする際に必要なパスワードを登録・管理するファイルです。詳細については，「3.3.1　パスワードの登録」を参照してください。

Web トランザクションの計測では，Web トランザクションの定義に従って HTTP(S) リクエストを発行し，応答時間などを計測します。計測する URL は，HTML のフレーム単位に定義する必要があります。トランザクションは，Internet Explorer などのブラウザーソフトでの連続した操作をシミュレーションして計測されます。また，Web トランザクション全体の計測のほか，次について計測できます。

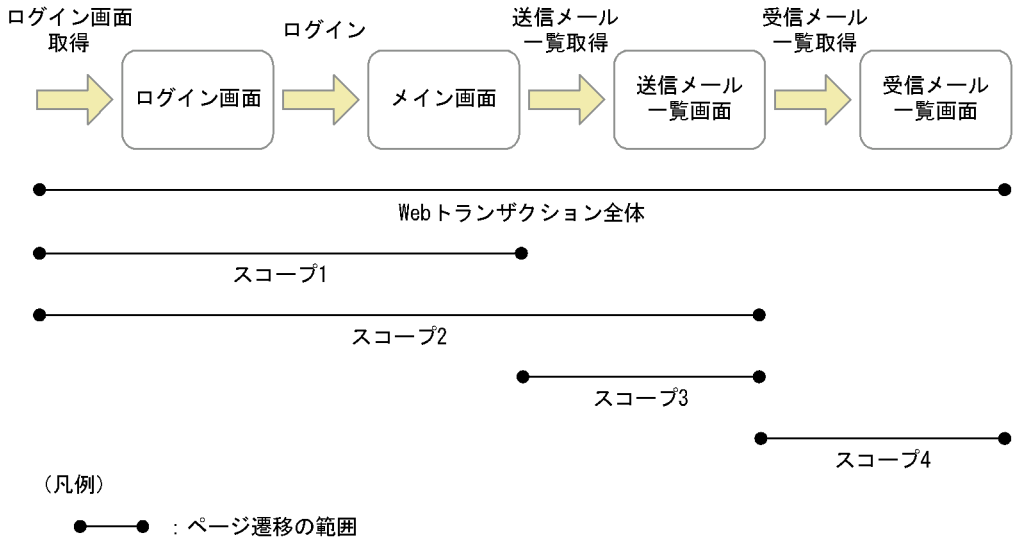
計測結果は，Web トランザクションを再生した全体の計測値が出力されます。また，Web トランザクションの任意のページ遷移を計測した結果についても同様に出力されます。計測結果となる稼働性能情報については，「9.　レコード」の「Web Transaction（PI_WT）」「Web Transaction Overview（PI_WTO）」を参照してください。

Web トランザクション情報は Web Recorder で定義できます。Web Recorder では，Internet Explorer の画面をウィンドウに呼び出し，ウィンドウ上で実行するブラウザー操作を記録することによって Web トランザクション情報を定義できます。

（1） 任意のページ遷移の応答性能計測

任意のページ遷移の応答性能を計測できます。任意のページ遷移の応答性能を計測する場合は，ページの遷移範囲をスコープとして定義します。スコープは 8 個まで定義できます。スコープとして定義するページ遷移の範囲は，ほかのスコープで定義した範囲と重複してもかまいません。スコープの定義例を次の図に示します。

図 1-6 スコープの定義例



上記の例の場合，各スコープの計測項目は次のようになります。

- トランザクション全体
  ログイン画面の取得から，ログイン，送信メール一覧取得，受信メール一覧取得に要した時間
- スコープ 1
  ログイン画面の取得とログインに要した時間など
- スコープ 2
  ログイン画面の取得から，送信メール一覧の取得までに要した時間など
- スコープ 3
  送信メール一覧の取得に要した時間など
- スコープ 4
  受信メール一覧の取得に要した時間など

このように，一つの Web トランザクションについて，スコープを定義することによって各処理の性能を計測できます。

(2) レスポンス判定

レスポンス判定情報を定義することによって，定義した URL から取得した HTML の応答内容をチェックし，計測対象の異常を検知できます。ログインに失敗しても再度ログイン画面が表示されるなど，HTTP プロトコルレベルでは成功していても，Web トランザクションの監視は失敗と扱いたい場合は，レスポンス判定情報を定義して，応答内容をチェックしてください。

(3) 埋め込みリソースの取得

埋め込みリソースを取得するよう定義することによって，計測時に埋め込みリソースを自動的に取得できます。計測時に取得した HTML を解析し，次の表に示すタグおよび属性名の値に指定されているリソースを取得します。埋め込みリソースの取得対象となっていないタグで指定している埋め込みリソースや，JavaScript などを使用して埋め込まれているリソースなどの取得時間を応答時間に含めて計測したい場合は，Web トランザクションの定義でそれらのリソースの URL をステップとして追加してください。

表 1-1 埋め込みリソースの取得対象

タグ名	属性名
applet	code
body	background
embed	src
img	src
object	data
script	src

注

タグ名および属性名は，大文字・小文字を区別しません。

(4) 動的セッション管理対応

Web トランザクションの計測では，発行するリクエストの内容が動的に変化する場合にも対応しており，セッション ID を用いてセッション管理を行っているサイトなども計測できます。

例として，Web アプリケーションなどを使用したサイトで，HTML 上のフォームでログインを行うページについて説明します。このようなサイトでは，ログイン時にセッション ID を割り当て，その後のリクエスト内にセッション ID を含めることで，アクセス元を特定しています。

このようなサイトを監視する場合は，ログイン時に発行（返信）されたセッション ID を以降のアクセスで発行するリクエストに含ませる必要があります。

しかし，Web Recorder で記録したセッション ID でリクエストを発行すると，Web サーバで不当なセッション ID としてリクエストが送信されていると判断され，「セッション ID が無効」などのエラーメッセージを示す HTML が返信されます（このようなエラーメッセージを表示する場合でも HTTP としてのリクエスト結果は成功になります）。

このような環境で正しく計測するには，Web Recorder で記録したセッション ID ではなく，Web トランザクション計測中に発行されたセッション ID を使用してリクエストを発行する必要があります。

PFM - Agent for Service Response では，可変文字列と代替文字列を設定することで，動的セッション管理に対応します。可変文字列として，記録時に発行されたセッション ID が含まれる部分を設定します。このとき，Web トランザクションの定義で HTML を出力するように指定した状態（<HTML_OUT> タグを指定）で計測し，出力された HTML を基に，セッション ID となる部分を探して定義します。また，代替文字列には，実際に取得した HTML 内のセッション ID となる部分を指定します。

なお，Web トランザクションの計測では，計測中に発生した Cookie は，その条件に従って，リクエストを発行します。動的セッション管理を Cookie で実装しており，Cookie の値を編集しなくてよい場合は，可変文字列と代替文字列の定義は不要です。Cookie の値を編集する場合は，Cookie の値を編集するための代替文字列生成コマンドを用意して，可変文字列に Cookie の値を，代替文字列に代替文字列生成コマンドを定義します。

(5) 文字セットの指定

Web トランザクションの計測では，次の文字セットを指定できます。文字セットは，Web トランザクションファイルで指定します。

- Web トランザクションファイルを記載する文字セット
  Web トランザクションファイルの XML 宣言文で指定します。指定できる文字セットは，Shift_JIS，EUC-JP，ISO-2022-JP，UTF-8 または US-ASCII です。
  複数の文字セットが混合する Web トランザクションファイルは作成できません。ファイルを分けて定義してください。なお，UTF-8 を指定する場合，Web トランザクションファイルをエディタで編集して保存する際に BOM（Byte Order Mark）を付加しないでください。BOM を付加すると Web Recorder で読み込みに失敗します。
- 取得する HTML の文字セット
  Web トランザクションファイルの <DEFAULT_CHARSET> タグまたは <CHARSET> タグで指定します。指定できる文字セットは，Shift_JIS，EUC-JP，ISO-2022-JP または UTF-8 のどれかです。また，HTML の文字セットが US-ASCII の場合，Shift_JIS を指定して，レスポンス判定や可変文字列を ASCII 文字で定義することで対応できます。
  レスポンス判定や可変文字列を定義する場合は，この文字セットを正しく指定する必要があります。
- 計測時に送信するリクエスト情報（URL，メッセージボディ，Cookie）の文字セット
  Web トランザクションファイルの <REQUEST_CHARSET> タグで指定します。
  Web トランザクションファイルを記載した文字セット，取得した HTML の文字セットに関係なく，ここで指定した文字セットでリクエスト情報が送信されます。指定できる文字セットは，Shift_JIS，EUC-JP，ISO-2022-JP または UTF-8 のどれかです。また，リクエスト情報を US-ASCII で送信する場合，指定の省略または Shift_JIS の指定によって対応できます。なお，ISO-2022-JP を指定した場合は，URL にマルチバイト文字を含まないようにしてください。また，可変文字列も定義しないでくださ

い。
リクエスト情報をすべて ASCII コードで定義している場合（URL エンコードされた文字列など）は，特に指定する必要はありません。

なお，UTF-8 は日本語だけをサポートしています。

指定方法の詳細については，「7.5　Web トランザクションファイル」を参照してください。

（6）URL エンコード

Web トランザクションファイルに定義されている URL とメッセージボディは，リクエスト発行時に，次のように URL エンコードが行われます。

表 1-2　URL エンコードの処理

URL エンコード対象	対象の文字列	URL エンコードの処理
URL	「%xy」※1 の 3 文字の文字列	そのまま
	英数字	そのまま
	次の記号文字 ; / ? : @ & = + $, - _ . ! ~ * ' ( )	そのまま
	上記以外の文字	1 バイトごとに「%xy」※1 の 3 文字の文字列に変換されます。
メッセージボディ※2	半角スペース	「+」に変換されます。
	「%xy」※1 の 3 文字の文字列	そのまま
	英数字	そのまま
	次の記号文字 ; / ? : @ & = + $, - _ . ! ~ * ' ( )	そのまま
	上記以外の文字	1 バイトごとに「%xy」※1 の 3 文字の文字列に変換されます。

注※ 1

x，y はそれぞれ 4 ビットを 16 進数で表現した値です。

注※ 2

application/x-www-form-urlencoded で送信する場合だけです。

代替文字列に対しても，上表と同様に処理されて，可変文字列に置き換えられます。
URL で区切り文字として扱われる文字（「/」「=」など）を可変文字列として使用したい場合，その文字を強制的に URL エンコードする必要があります。この場合，Web トランザクションファイルで <SUBSTITUTE_FORCE_URLENCODE> タグを指定してください。<SUBSTITUTE_FORCE_URLENCODE> タグの詳細については，「7.5.2　Web

トランザクション計測条件定義の書式と定義内容」を参照してください。

1.2.4　ユーザー定義サービスの計測

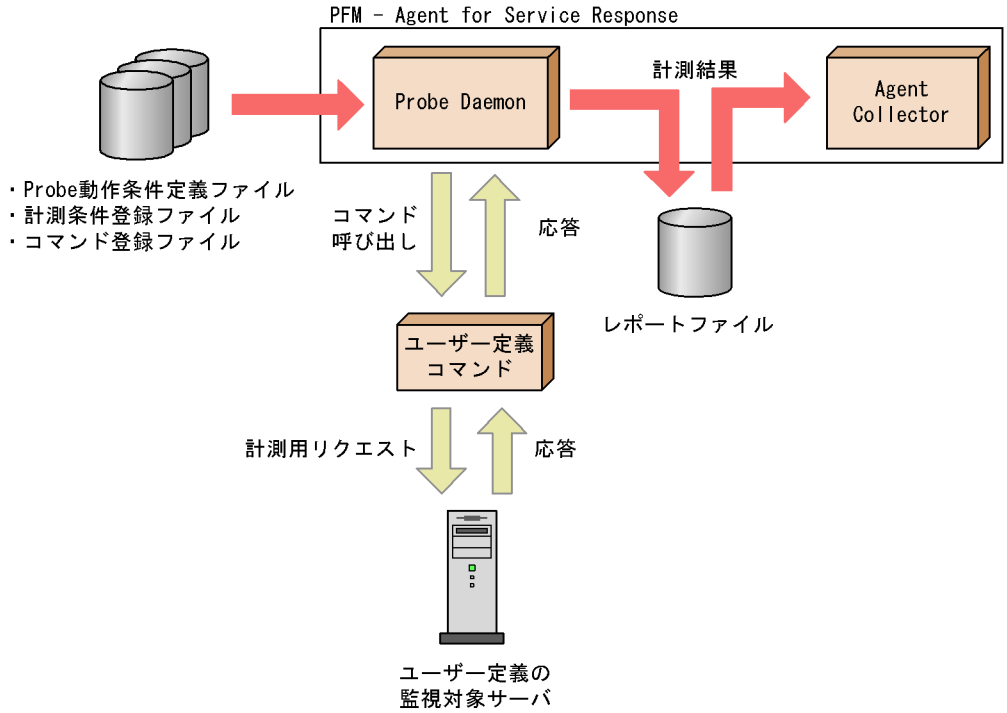
PFM - Agent for Service Response が標準でサポートするインターネットサービス以外のサービスを計測したい場合は，計測対象サービスの応答時間などを計測するプログラムを用意し，ユーザー定義コマンドとして登録します。PFM - Agent for Service Response では，このプログラムをユーザー定義コマンドといいます。また，ユーザー定義コマンドで計測するサービスをユーザー定義サービスといいます。PFM - Agent for Service Response では，ユーザー定義サービスの応答時間を，秒単位で小数点第 3 位（0.001 秒の位）まで計測できます。

ユーザー定義コマンドの計測には，次の二とおりがあります。

- ユーザー定義コマンドが出力した数値を計測結果とする。
- ユーザー定義サービスの実行時間を計測結果とする。

ユーザー定義サービス計測の概要を次の図に示します。

図 1-7　ユーザー定義サービス計測の概要



PFM - Agent for Service Response の Probe Daemon は，起動時に次の三つのファイルを読み込みます。計測結果は，計測条件ごとにいったんレポートファイルに出力され，一定の間隔で Agent Collector によって収集されます。

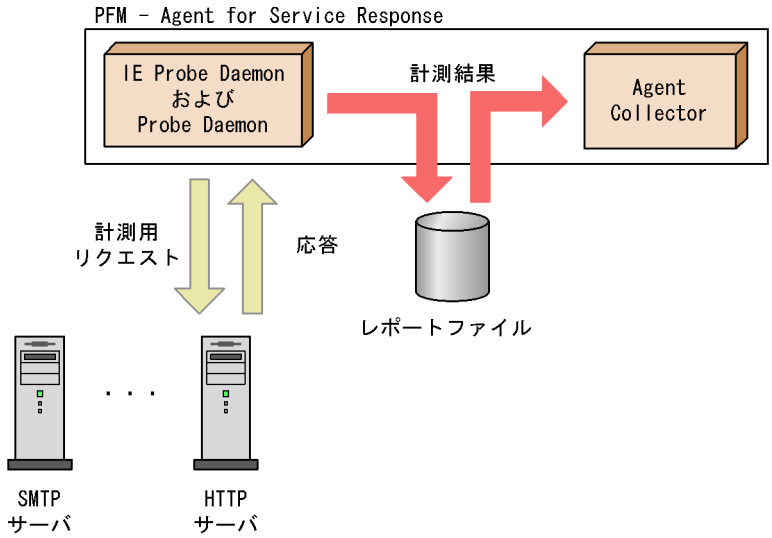
- Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）
  PFM - Agent for Service Response のプローブの計測多重度やレポートファイルのサイズ上限などの起動オプションを定義するファイルです。詳細については，「7.2 Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）」を参照してください。
- 計測条件登録ファイル（esptask.xml）
  計測対象のサービスタイプや，ホスト名，計測間隔などの計測条件を定義するファイルです。PFM - Web Console から設定します（直接編集することもできます）。PFM - Web Console からの設定については，「3.7　PFM - Web Console からの計測条件の定義」を参照してください。計測条件登録ファイルの詳細については，「7.3　計測条件登録ファイル（esptask.xml）」を参照してください。
- コマンド登録ファイル（espcommand.xml）
  ユーザー定義コマンドを登録するファイルです。詳細については，「7.6　コマンド登録ファイル（espcommand.xml）」を参照してください。

PFM - Agent for Service Response は，標準でサポートするインターネットサービスの計測と同様に，定義した計測条件に従ってユーザー定義コマンドを計測間隔ごとに呼び出し，継続的に計測します。ただし，一つのユーザー定義サービスについて計測できる項目は一つだけです。一つのユーザー定義サービスについて複数の項目を計測したい場合は，別のユーザー定義コマンドとして定義する必要があります。

1.3　パフォーマンスデータの収集と管理の概要

PFM - Agent for Service Response によるパフォーマンスデータ収集の流れを次の図に示します。

図 1-8　PFM - Agent for Service Response によるパフォーマンスデータ収集の流れ



PFM - Agent for Service Response では，IE Probe Daemon および Probe Daemon が計測対象の応答時間を測定しています。計測結果はいったんレポートファイルに出力されます。Agent Collector は，レポートファイルの最新のデータを収集し，レコードの形式で管理します。

なお，パフォーマンスデータの収集方法と管理方法は，パフォーマンスデータが格納されるレコードのレコードタイプによって異なります。PFM - Agent for Service Response のレコードは，次の三つのレコードタイプに分けられます。

- PI レコードタイプ
- PD レコードタイプ
- PL レコードタイプ

パフォーマンスデータの収集方法と管理方法については，次の個所を参照してください。

● パフォーマンスデータの収集方法
パフォーマンスデータの収集方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management の機能について説明している章を参照してください。
収集されるパフォーマンスデータの値については，「9.　レコード」を参照してください。

● パフォーマンスデータの管理方法
パフォーマンスデータの管理方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

PFM - Agent で収集および管理されているレコードのうち，どのパフォーマンスデータを利用するかは，PFM - Web Console で選択します。選択方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

1.4 パフォーマンス監視の運用例

インターネットサービスを安定稼働させるためには，パフォーマンスを監視してシステムの状態を把握することが重要です。この節では，PFM - Agent for Service Response を用いてパフォーマンスを監視する方法について説明します。

1.4.1 パフォーマンス監視の目的

パフォーマンスを監視することは，インターネットサービスを安定稼働させる上で重要な作業です。

PFM - Agent for Service Response を用いたパフォーマンス監視は，主にインターネットサービスの応答性能情報を分析し，ボトルネックの原因を見つけることを目的に使用できます。

インターネットサービスのパフォーマンスを監視したり，障害の発生をユーザーに警告するよう設定したりすることで，インターネットサービスの運用上の問題を早期に発見し，対処できるようになります。

このように，システムを安定稼働させるには，PFM - Agent for Service Response を用いて正しくパフォーマンスを監視することが重要です。

パフォーマンスの監視方法について「1.4.3　定義例（IE シナリオを計測する場合）」および「1.4.4　定義例（Web トランザクションを計測する場合）」で例を挙げて紹介します。具体的な設定項目については，システムの運用形態に合わせて，検討してください。

1.4.2 ベースラインの選定

ベースラインの選定とは，インターネットサービスの運用で問題なしと想定されるラインをパフォーマンス測定結果から選定する作業です。

PFM 製品では，ベースラインの値をしきい値とすることでシステムの運用監視をします。ベースラインの選定はしきい値を決定し，パフォーマンスを監視する上での重要な作業となります。

なお，ベースラインの選定では，次の注意事項を考慮してください。

- 運用環境の高負荷テスト時など，ピーク時の状態を測定することをお勧めします。
- システム構成によってしきい値が大きく異なるため，システムリソースや運用環境を変更する場合は，再度ベースラインを測定することをお勧めします。

1.4.3 定義例（IE シナリオを計測する場合）

ここでは，PFM - Web Console を例として，動的セッション管理を行っているサイトで IE シナリオを計測するための設定方法について説明します。

IE Recorder を使用することで，動的に変化する「セッション ID」などを意識することなく，IE シナリオを作成できます。

PFM - Web Console で次に示す一連の動作を行い，IE シナリオとして記録しています。

1. PFM - Web Console へのログイン
2. PFM - Web Console での操作（レポート階層の表示）
3. PFM - Web Console からのログアウト

この IE シナリオを正常に計測するための設定手順の概要を次に示します。

1. **IE シナリオの記録**
   IE Recorder を使って，IE シナリオを記録します。
2. **IE シナリオのテスト**
   記録した IE シナリオが正常に再生されるか確認します。
3. **計測条件の登録**
   記録した IE シナリオを計測条件登録ファイルに登録します。
4. **動作確認テスト**
   IE シナリオが正常に計測できるか確認します。

上記の設定手順 1 から設定手順 3 は，IE Recorder を使用して GUI 上で操作できます。

次に設定手順の詳細を (1) から (4) で説明します。

参考

IE Recorder は，メニューバーのメニューコマンドと同様に，ツールバーの各アイコンからも操作ができます。［IE Recorder］（メイン）画面のツールバーのアイコンについては，「6.2.1 ［IE Recorder］（メイン）画面」を参照してください。

(1) IE シナリオの記録

IE シナリオを記録する手順を次に示します。

1. **［スタート］－［プログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［IE Recorder］を選択する。**
   ［IE Recorder］（メイン）画面が表示されます。
2. **［IE Recorder］（メイン）画面で［アクション］－［記録］を選択する。**
   IE シナリオの記録が開始されます。
3. **［IE Recorder］（メイン）画面の［アドレス］に，PFM - Web Console のログイン画面の URL を入力する。**
4. **［IE Recorder］（メイン）画面で［表示］－［移動］を選択する。**

IE ウィンドウ内に PFM - Web Console のログイン画面が表示されます。

5. **IE ウィンドウ内のログイン画面で，［ユーザー名］と［パスワード］を入力し［ログイン］ボタンをクリックする。**
   IE ウィンドウ内に PFM - Web Console 画面が表示されます。
6. **IE ウィンドウ内で［レポート階層］に移動する。**
7. **IE ウィンドウ内で［ログアウト］を選択する。**
   IE ウィンドウ内に PFM - Web Console のログイン画面が表示されます。
8. **［IE Recorder］（メイン）画面で［アクション］－［停止］を選択する。**
   IE シナリオの記録が停止されます。
9. **［IE Recorder］（メイン）画面で［ファイル］－［名前を付けて保存］を選択する。**
   ［名前を付けて保存］画面が表示されます。
10. **［保存する場所］に「iescena」フォルダを，［ファイル名］に「IE シナリオ」を指定し［保存］ボタンをクリックする。**
    IE シナリオが IE シナリオファイルに保存されます。

(2) IE シナリオのテスト

記録した IE シナリオを再生する手順を次に示します。

1. **［IE Recorder］（メイン）画面で［アクション］－［計測テスト］を選択する。**
   記録時の操作が IE ウィンドウに再現されます。再生結果が［再生レポート］画面に表示されます。［再生レポート］画面の詳細については，「6.2.8 ［再生レポート］画面」を参照してください。

参考

IE シナリオの再生に失敗した場合は，［IE Recorder］（メイン）画面で［アクション］－［再生］を選択したり，［アクション］－［ステップ再生］を選択したりするなど，再生に失敗した原因を調査できます。

(3) 計測条件の登録

計測条件登録ファイルに，IE シナリオの計測条件を簡易登録する手順を次に示します。

1. **Windows の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択し，PFM - Agent for ServiceResponse を停止する。**
   IE プローブを Windows サービスから起動する機能を使用している場合は，IE Probe Daemon のサービスが停止されます。2. の操作は不要です。※

   注※
   Windows のサービスから IE プローブを起動するための設定については，「4.1(5) Windows サービスからの IE プローブの起動と終了」を参照してください。

2. IE プローブを Windows の［スタート］メニューから起動した場合は，タスクトレイに表示された［IE Probe］アイコンを右クリックし，ポップアップメニューから［終了］を選択する。
   IE Probe Daemon のサービスが停止されます。
3. ［IE Recorder］（メイン）画面で［ツール］－［計測条件の簡易登録］を選択する。
   「KAVK38120-I 計測条件が正常に登録されました。」というメッセージダイアログが表示されます。
   簡易登録の詳細ついては，「3.4.2　計測条件の定義」を参照してください。

（4） 動作確認テスト

IE シナリオが正しく計測できるか確認する手順を次に示します。

1. Windows の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択し，PFM - Agent for ServiceResponse を起動する。
   IE プローブを Windows サービスから起動する機能を使用している場合は，IE Probe Daemon のサービスが起動されます。2. の操作は不要です。※

   注※
   Windows のサービスから IE プローブを起動するための設定については，「4.1(5) Windows サービスからの IE プローブの起動と終了」を参照してください。
2. Windows の［スタート］－［プログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［IE Probe］を選択する。
   IE Probe Daemon が起動されます。
3. インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥probedata¥iescena¥ieprobed_ 計測条件 ID¥IE シナリオの計測開始時刻フォルダに，名称が出力番号 _ 操作番号 _ フレーム番号 .html のファイルが出力されていることを確認する。
   出力されたファイルに，次のようなエラーメッセージが出力されていないことを確認してください。

   計測失敗時のエラーメッセージの表示例を示します。

```
(PFM7532)
</td>
</tr>
<tr class="v50pr-err-contents">

<td>Message</td>

<td class="v50pr-space-normal">
すでにログアウト済みのセッションで表示されたウィンドウが操作されました。<br>ウィンドウを閉じて，再度ウィンドウを開き直してください。
</td>
</tr>
</table>
</td>
<td class="v50-dialog-right-contents"></td>
</tr>
```

1.4.4 定義例（Web トランザクションを計測する場合）

ここでは，PFM - Web Console を例として，動的セッション管理を行っているサイトで Web トランザクションを計測するための設定方法について説明します。

動的セッション管理を行っているサイトを Web トランザクションとして計測するためには，計測するごとに可変となる文字列の設定が必要です。

PFM - Web Console のトランザクションを計測する場合，Web サイトにログインするたびに変化するセッション ID によって，通信が管理されていることを考慮しなければなりません。また，セッション ID が含まれる部分は，「URL」や「メッセージボディ」などアクセスするサイトごとに異なる場合があることにも注意が必要です。

そのため，Web トランザクションを正常に計測するには，URL やメッセージボディに含まれているセッション ID は，PFM - Web Console に再度ログインしたときに与えられる新しいセッション ID へ，計測のたびに置き換える必要があります。

PFM - Web Console で次に示す一連の動作を行い，Web トランザクションとして記録しています。

1. PFM - Web Console へのログイン
2. PFM - Web Console での操作（レポート階層の表示）
3. PFM - Web Console からのログアウト

この Web トランザクションを正常に計測するための設定手順の概要を次に示します。

1. **Web トランザクションの記録**
   Web Recorder を使って，Web トランザクションのステップ情報を記録します。
2. **計測条件の定義**
   作成した Web トランザクションを計測するために必要な定義を追加します。
3. **計測条件のテスト**
   追加した定義に誤りがないか確認します。同時に，動的セッション管理に対応した設定を行うために必要な情報を取得します。
4. **動的セッション管理に対応した設定**
   可変文字列を代替文字列に置き換えるための設定を行います。
5. **動作確認テスト**
   Web トランザクションが正常に計測できるか確認します。

次に設定手順の詳細を (1) から (5) で説明します。

なお，(1) 以降の手順では，次の情報を使用しています。これらの値は，説明中，*斜体*で示しています。

表 1-3　Web トランザクションを計測するために必要な情報

設定項目	設定値
Web トランザクションファイル名	sample01.xml
Web トランザクション名	sample01
ステップ識別子のプリフィックス	SAMPLE_STEP
タスク ID	103※

注※
ほかのタスクのタスク ID と異なる値である必要があります。

（1）Web トランザクションの記録

Web トランザクションを記録する手順を次に示します。

1. **［スタート］－［プログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［Web Recorder］を選択する。**
［Web Recorder］（メイン）画面が表示されます。

2. **［Web Recorder］（メイン）画面から，［トランザクション］－［新規作成］をクリックする。**
［Web トランザクションの作成］画面が表示されます。

3. **トランザクションを作成するために必要な情報を入力する。**
［Web トランザクションファイル名］に「*sample01.xml*」を，［新規 Web トランザクション名］に「*sample01*」を指定します。
［ステップ識別子を自動的に付与する］にチェックを入れ，［プリフィックス］を入力してください。ステップ識別子は，トランザクション計測時にアクセスした各サイトから取得する HTML または HTTP ヘッダーをファイルとして出力するために必要です。
［Web トランザクションの作成］画面の詳細については，「6.3.2 ［Web トランザクションの作成］画面」を参照してください。

4. **［OK］ボタンをクリックする。**
トランザクションが作成され，Web Recorder 画面の［Web トランザクションファイル名］，［Web トランザクション名］に設定値が表示されます。

5. **［Web Recorder］（メイン）画面から，［トランザクション］－［トランザクションの設定］をクリックする。**
［トランザクションの設定］画面が表示されます。

6. **［トランザクション］タブで，HTML および HTTP ヘッダーをファイルに出力するよう設定する。**
   - ［取得した HTML および HTTP ヘッダーをファイルに出力する］にチェックを入れます。

トランザクションファイル中の可変文字列（記録時のセッション ID）を代替文字列（再度ログインした時に与えられる新しいセッション ID）で置き換えるために必要な情報を取得できるようになります。また，トランザクションが正常に計測されているかを確認できるようになります。

- ［文字セット］で［UTF-8］を選択します。

［トランザクションの設定］画面の詳細については，「6.3.6 ［トランザクションの設定］画面」を参照してください。

7. **［OK］ボタンをクリックする。**
［トランザクションの設定］画面が閉じます。

8. **［Web Recorder］（メイン）画面の［アドレス］に，PFM - Web Console のログイン画面の URL を入力して［移動］ボタンをクリックする。**
IE ウィンドウ内に PFM - Web Console のログイン画面が表示されます。

9. **IE ウィンドウ内のログイン画面で，［ユーザー名］と［パスワード］を入力し［ログイン］ボタンをクリックする。**
IE ウィンドウ内に PFM - Web Console 画面が表示されます。

10. **IE ウィンドウ内で［レポート階層］に移動する。**

11. **IE ウィンドウ内で［ログアウト］をクリックする。**
IE ウィンドウ内に PFM - Web Console のログイン画面が表示されます。

12. **［トランザクション］－［上書き保存］をクリックする。**
ファイルが保存されます。

(2) 計測条件の定義

PFM - Web Console を使用して，トランザクション計測のための条件を定義する手順を次に示します。

1. **監視コンソールのブラウザーから PFM - Web Console にログインする。**
［メイン］画面が表示されます。

2. **［メイン］画面のナビゲーションフレームで［サービス階層］タブを選択する。**
［サービス階層］画面が表示されます。

3. **ナビゲーションフレームからエージェントを選択する。**
［プロパティ］画面が表示されます。

4. **［Probe］ツリーを展開し，［ADD OR DELETE A TASK］ツリーを選択する。**

5. **インフォメーションフレームの下部でプロパティを設定する。**
New Task ID に「*103*」を，New Task Protocol に「WEBTRANS」を指定してください。

6. **インフォメーションフレームの下部の［OK］ボタンをクリックする。**
［Task List］ツリーの下位に，「WEBTRANS_103」という名前のツリーが生成され

ます。

7. **［WEBTRANS_103］ツリーを選択する。**

8. **インフォメーションフレームの下部でプロパティを設定する。**
   Interval に「80」，Filename に「*sample01.xml*」，Transaction に「*sample01*」をそれぞれ指定します。

9. **［OK］ボタンをクリックする。**
   計測条件登録ファイルに設定内容が反映されます。

参考

計測条件は，計測条件登録ファイルを直接編集することでも定義できます。この場合，計測条件登録ファイルに次の内容を追加してください。

```
<TASK>
  <GEN_PARAM>
    <TASKID>103</TASKID>
    <INTERVAL>80</INTERVAL>
    <TIMEOUT>30</TIMEOUT>
  </GEN_PARAM>
  <SERV_PARAM>
    <WEBTRANS>
      <TRANSACTION_FILE>sample01.xml</TRANSACTION_FILE>
      <TRANSACTION_NAME>sample01</TRANSACTION_NAME>
    </WEBTRANS>
  </SERV_PARAM>
</TASK>
```

（3）計測条件のテスト

設定の確認手順を次に示します。この手順で，動的セッション管理に対応した設定をするために必要な情報も取得できます。

1. **［Task List］フォルダに追加したタスクをクリックし，［Status］が「Valid」になっていることを確認する。**

2. **［サービス階層］にある［Probe］フォルダで，［Reload］を「Yes」にして［OK］ボタンをクリックする。**

3. **［Task List］フォルダに追加したタスクをクリックし，［Status］が「Applied」になっていることを確認する。**

4. **「*SAMPLE_STEP*」をプリフィックスに持つ HTML ファイル（*SAMPLE_STEP*00001.html など），次のフォルダに出力されていることをエクスプローラなどで確認する。**
   インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥probedata¥webtransフォルダ

5. *SAMPLE_STEP*00002.html を開き，<frame> タグの内容から代替文字列を確認する。
次の例の下線で示す部分の文字列です。

```
  <frameset border="0" frameborder="no" framespacing="0"
rows="32,*" onUnload="baseLogout()">

   <frame name="PrTitle" noresize scrolling="no" frameborder="no"
          src="/PFMWebConsole/
dispMainTitle.do?prSessionId=A_00E71812A672E7E3AA00385404F53228_
1197249957218&launchMode=" />

    <frameset cols="350,*" border="8" frameborder="yes"
framespacing="4" bordercolor="silver">
```

ポイント

この例では，代替文字列（トランザクションを計測するたびに新しく与えられるセッションID）を最初に確認できるファイルは *SAMPLE_STEP*00002.html であるため，このファイルについて確認しています。

（4） 動的セッション管理に対応した設定

可変文字列を代替文字列に置き換えるための設定の手順を次に示します。

1. **［スタート］－［プログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［Web Recorder］をクリックする。**
［Web Recorder］（メイン）画面が表示されます。

2. **［トランザクション］－［開く］を選択する。**
［Web トランザクションの選択］画面が表示されます。

3. **［Web トランザクションファイル一覧］から「sample01.xml」を選択し，［Web トランザクション一覧］から「sample01」を選択して，［OK］ボタンをクリックする。**
設定した計測条件が読み込まれて［Web トランザクションの選択］画面が閉じます。

4. **［Web Recorder］（メイン）画面に表示されている［URL リスト］から URL を選択し，［編集］－［プロパティ］をクリックする。**
［プロパティ］画面が表示されます。

5. **［ページ情報］タブの［URL］，および［リクエスト情報］タブの［メッセージボディ］に可変文字列が含まれているかを確認する。**
どちらかに「(3) 計測条件のテスト」で確認した代替文字列と同じ形式の文字列（可変文字列）が含まれている場合は，次の手順に進んでください。どちらにも可変文字列が含まれていない場合，以降の手順は不要です。
［プロパティ］画面の詳細については，「6.3.7 ［プロパティ］画面」を参照してください。

6. **［可変文字列］タブをクリックする。**
［可変文字列］タブが表示されます。

7. **［追加］ボタンをクリックする。**
［可変文字列の設定］画面が表示されます。

8. **［可変文字列］タブの［可変文字列の設定］で，手順 5 で可変文字列が含まれていた項目をチェックする。**
［URL］または［メッセージボディ］にチェックしてください。

9. **［記録時の可変文字列］に，手順 5 で確認した可変文字列を入力する。**
可変文字列は，［記録時の情報］に表示されている文字列で確認できます。

10. **［代替文字列］タブをクリックする。**
［代替文字列］タブが表示されます。

11. **［HTML または HTTP ヘッダーから取得］をチェックして，［追加］ボタンをクリックする。**
［代替文字列の設定］画面が表示されます。

12. **［代替文字列の設定］画面で代替文字列を設定する。**
次のように設定してください。

設定項目	設定値
［ステップ識別子］	「*SAMPLE_STEP*00002」を選択する。
［代替文字列取得元の設定］	［代替文字列を HTML から取得］にチェックする。
［要素名］	「frame」を入力する※ 1。
［代替文字列が含まれる個所の設定］	［属性］にチェックし，［属性名］に「src」を入力する※ 1。
［代替文字列として扱わない文字列の設定］	チェックボックスをオンにし，［直前の文字列］に「prSessionId=」を，［直後の文字列］に「&」を入力する※ 2。

注※ 1
「(3) 計測条件のテスト」で確認した可変文字列が，<frame> タグの src 属性に含まれているためです。

注※ 2
「(3) 計測条件のテスト」で確認した可変文字列の前後の文字列です。
［代替文字列の設定］画面の詳細については，「6.3.10 ［代替文字列の設定］画面」を参照してください。

13. **［代替文字列の設定］画面で［OK］ボタンをクリックする。**
［代替文字列の設定］画面が閉じます。

14. **［可変文字列の設定］画面で［OK］ボタンをクリックする。**
［可変文字列の設定］画面が閉じます。

15. **［プロパティ］画面で［OK］ボタンをクリックする。**
［プロパティ］画面が閉じます。

16. **トランザクションファイルの可変文字列を含むすべてのステップに対して，手順 4 から手順 15 を繰り返す。**
設定済みの可変文字列および代替文字列は，［可変文字列の設定］画面および［代替文字列の設定］画面の［取込］ボタンを使用して取り込むことができます。
詳細については，次の項目を参照してください。

可変文字列の設定を取り込む場合
- 「6.3.8 ［可変文字列の設定］画面」
- 「6.3.9 ［可変文字列設定の取込元選択］画面」

代替文字列の設定を取り込む場合
- 「6.3.10 ［代替文字列の設定］画面」
- 「6.3.11 ［代替文字列設定の取込元選択］画面」

17. **[Web Recorder]（メイン）画面で［トランザクション］－［上書き保存］をクリックする。**
設定内容が保存されます。

(5) 動作確認テスト

Web トランザクションが正しく計測できるか確認する手順を次に示します。

1. Windows **の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択し，** PFM - Agent for ServiceResponse **を起動（または再起動）する。**
2. **インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥probedata¥webtrans **フォルダの各** HTML **ファイルをテキストエディタで表示し，セッションの切断や不正な操作を示すメッセージが出力されていないことを確認する。**
メッセージの表示例を示します。

```
<tr class="v50pr-err-contents">
  <td>Message</td>
  <td class="v50pr-space-normal">
すでにログアウト済みのセッションで表示されたウィンドウが操作されました。<br/>ウィンドウを閉じて，再度ウィンドウを開き直してください。
  <td>
</tr>
```

2 インストールとセットアップ

この章では，PFM - Agent for Service Response のインストールおよびセットアップ方法について説明します。Performance Management システム全体のインストールおよびセットアップ方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

2.1 **インストールとセットアップ**

2.2 **アンインストールとアンセットアップ**

2.3 PFM - Agent for Service Response **のシステム構成の変更**

2.4 PFM - Agent for Service Response **の運用方式の変更**

2.5 **コマンドプロンプトの起動方法**

2.6 **バックアップとリストア**

2.7 Web **ブラウザでマニュアルを参照するための設定**

2.1 インストールとセットアップ

ここでは，PFM - Agent for Service Response をインストールおよびセットアップする手順を示します。

2.1.1 インストールとセットアップの前に

PFM - Agent for Service Response をインストールおよびセットアップする前に確認しておくことを説明します。

(1) 前提 OS

PFM - Agent for Service Response が動作する OS を次に示します。

- Windows Server 2003
- Windows Server 2008

(2) ネットワークの環境設定

Performance Management が動作するためのネットワーク環境について説明します。

(a) IP アドレスの設定

PFM - Agent for Service Response のホストは，ホスト名で IP アドレスが解決できる環境を設定してください。IP アドレスが解決できない環境では，PFM - Agent for Service Response は起動できません。

監視ホスト名（Performance Management システムのホスト名として使用する名前）には，実ホスト名またはエイリアス名を使用できます。

- 監視ホスト名に実ホスト名を使用している場合
  Windows では hostname コマンド，UNIX では uname -n コマンドを実行して確認したホスト名で，IP アドレスを解決できるように環境を設定してください。なお，UNIX では，hostname コマンドで取得するホスト名を使用することもできます。詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- 監視ホスト名にエイリアス名を使用している場合
  設定しているエイリアス名で IP アドレスが解決できるように環境設定してください。

監視ホスト名の設定については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

ホスト名と IP アドレスは，次のどれかの方法で設定してください。

- Performance Management のホスト情報設定ファイル（jpchosts ファイル）
- hosts ファイル

- DNS（Domain Name System）

注意事項

- Performance Management は，DNS 環境でも運用できますが，FQDN（Fully Qualified Domain Name）形式のホスト名には対応していません。このため，監視ホスト名は，ドメイン名を除いて指定してください。
- 複数の LAN 環境で使用する場合は，jpchosts ファイルで IP アドレスを設定してください。詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- Performance Management は，DHCP による動的な IP アドレスが割り振られているホスト上では運用できません。Performance Management を導入するすべてのホストに，固定の IP アドレスを設定してください。

(b) ポート番号の設定

Performance Management プログラムのサービスは，デフォルトで次の表に示すポート番号が割り当てられています。これ以外のサービスまたはプログラムに対しては，サービスを起動するたびに，そのときシステムで使用されていないポート番号が自動的に割り当てられます。また，ファイアウォール環境で，Performance Management を使用するときは，ポート番号を固定してください。ポート番号の固定の手順は，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

表 2-1 デフォルトのポート番号と Performance Management プログラムのサービス

サービス説明	サービス名	パラメーター	ポート番号	備考
サービス構成情報管理機能	Name Server	jp1pcnsvr	22285	PFM - Manager の Name Server サービスで使用されるポート番号。Performance Management のすべてのホストで設定される。
NNM 連携機能	NNM Object Manager	jp1pcovsvr	22292	PFM - Manager および PFM - Base の NNM 連携機能で，マップマネージャーとオブジェクトマネージャーの間の通信で使用されるポート番号。PFM - Manager および PFM - Base がインストールされているホストで設定される。
サービス状態管理機能	Status Server	jp1pcstatsvr	22350	PFM - Manager および PFM - Base の Status Server サービスで使用されるポート番号。 PFM - Manager および PFM - Base がインストールされているホストで設定される。

これらの PFM - Agent for Service Response が使用するポート番号で通信できるように，

ネットワークを設定してください。

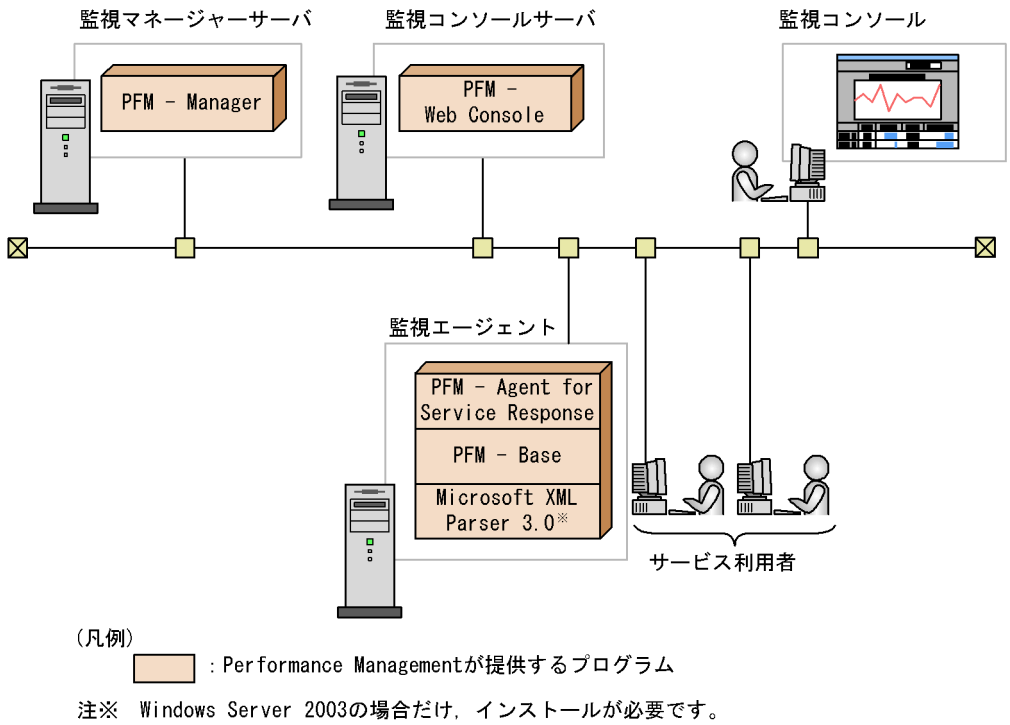
(3) インストールに必要な OS ユーザー権限について

PFM - Agent for Service Response をインストールするときは，必ず，Administrators 権限を持つアカウントで実行してください。

(4) 前提プログラム

ここでは，PFM - Agent for Service Response をインストールする場合に必要な前提プログラムを説明します。プログラムの構成図を次に示します。

図 2-1 プログラムの構成



監視エージェントには，PFM - Agent，PFM - Base，および Microsoft XML Parser 3.0 をインストールします。PFM - Base および Microsoft XML Parser 3.0 は，PFM - Agent の前提プログラムです。同一ホストに複数の PFM - Agent をインストールする場合でも，PFM - Base は一つだけでかまいません。

ただし，PFM - Manager と PFM - Agent を同一ホストにインストールする場合，PFM - Base は不要です。

また，PFM - Agent for Service Response を使ってインターネットサービスの計測および

監視を行うためには，PFM - Manager および PFM - Web Console が必要です。

PFM - Agent for Service Response が計測する応答情報は，PFM - Agent for Service Response をインストールしたマシンから監視対象のサービスにアクセスした場合の応答時間です。サービス利用者の端末に近い位置に PFM - Agent for Service Response を配置すると，サービス利用者が体感している応答時間により近いデータを計測できます。

また，IE Recorder，および IE プローブの前提プログラムとして，同一マシン上に次のプログラムが必要です。

- Microsoft .NET Framework 2.0
- Microsoft Internet Explorer 6.0，Windows Internet Explorer 7，または Windows Internet Explorer 8

(5) クラスタシステムでのインストールとセットアップについて

クラスタシステムでのインストールとセットアップは，前提となるネットワーク環境やプログラム構成が，通常の構成のセットアップとは異なります。また，実行系ノードと待機系ノードでの作業が必要になります。詳細については，「5. クラスタシステムでの運用」を参照してください。

(6) 注意事項

ここでは，Performance Management をインストールおよびセットアップするときの注意事項を説明します。

(a) レジストリに関する注意事項

PFM - Agent for Service Response は，OS が提供する標準的な方法で設定された環境での動作だけサポートしています。Microsoft のサポート技術情報で公開されている情報であっても，レジストリエディターでレジストリ情報を直接編集するなど，OS の環境をカスタマイズしている場合，パフォーマンスデータが正しく収集できなくなることがあります。

(b) 環境変数に関する注意事項

Performance Management では JPC_HOSTNAME を環境変数として使用しているため，ユーザー独自に環境変数として設定しないでください。設定した場合は，Performance Management が正しく動作しません。

(c) 同一ホストに Performance Management プログラムを複数インストール，セットアップするときの注意事項

Performance Management は，同一ホストに PFM - Manager，PFM - Web Console，および PFM - Agent をインストールすることもできます。その場合の注意事項を次に示します。

- PFM - Manager と PFM - Agent を同一ホストにインストールする場合，PFM - Base

は不要です。この場合，PFM - Agent の前提プログラムは PFM - Manager になるため，PFM - Manager をインストールしてから PFM - Agent をインストールしてください。

- PFM - Base と PFM - Manager は同一ホストにインストールできません。PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールする場合は，PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールした後に PFM - Manager，PFM - Agent の順でインストールしてください。また，PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Base をインストールする場合も同様に，PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールした後に PFM - Base，PFM - Agent の順でインストールしてください。
- PFM - Manager がインストールされているホストに PFM - Agent for Service Response をインストールすると，接続先 PFM - Manager はローカルホストの PFM - Manager となります。この場合，接続先 PFM - Manager をリモートホストの PFM - Manager に変更できません。リモートホストの PFM - Manager に接続したい場合は，インストールするホストに PFM - Manager がインストールされていないことを確認してください。
- PFM - Agent for Service Response がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールすると，PFM - Agent for Service Response の接続先 PFM - Manager は自ホスト名に設定し直されます。共通メッセージログに設定結果が出力されています。結果を確認してください。
- PFM - Web Console がインストールされているホストに，PFM - Agent for Service Response をインストールする場合は，ブラウザーの画面をすべて閉じてからインストールを実施してください。
- Performance Management プログラムを新規にインストールした場合は，ステータス管理機能がデフォルトで有効になります。ステータス管理機能の設定を変更する場合は，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

ポイント

システムの性能や信頼性を向上させるため，PFM - Manager，PFM - Web Console，および PFM - Agent はそれぞれ別のホストで運用することをお勧めします。

(d) バージョンアップの注意事項

古いバージョンの PFM - Agent からバージョンアップする場合の注意事項を次に示します。

- Performance Management のプログラムをインストールするときは，ローカルホストの Performance Management のプログラムおよびサービスをすべて停止しておいてください。サービスの停止方法については，マニュアル「JP1/Performance

Management 運用ガイド」の，Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

- すでに Performance Management プログラムがインストールされているホストに PFM - Agent をインストールする場合，PFM - Agent のインストールパスは，すでにインストールされている PFM - Web Console 以外の Performance Management プログラムのインストールパスと同じになります。インストールパスを変更したい場合は，インストール済みの PFM - Web Console 以外の Performance Management プログラムをすべて削除し，インストールし直す必要があります。
- PFM - Base と PFM - Manager は同一ホストにインストールできません。PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Manager をインストールする場合は，PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールした後に PFM - Manager，PFM - Agent の順でインストールしてください。また，PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストに PFM - Base をインストールする場合も同様に，PFM - Web Console 以外のすべての Performance Management プログラムをアンインストールした後に PFM - Base，PFM - Agent の順でインストールしてください。
- バージョンアップインストール時，既存の Store データベースが自動的にバージョンアップされるため，一時的に Store データベースのディスク占有量が 2 倍になります。バージョンアップインストールを行う前に，Store データベースの格納先のディスクに十分な空き容量があるかどうか確認してください。
- IE Recorder および IE プローブが起動していると，バージョンアップインストールできません。バージョンアップインストールする場合は，IE Recorder および IE プローブを終了してください。

(e) その他の注意事項

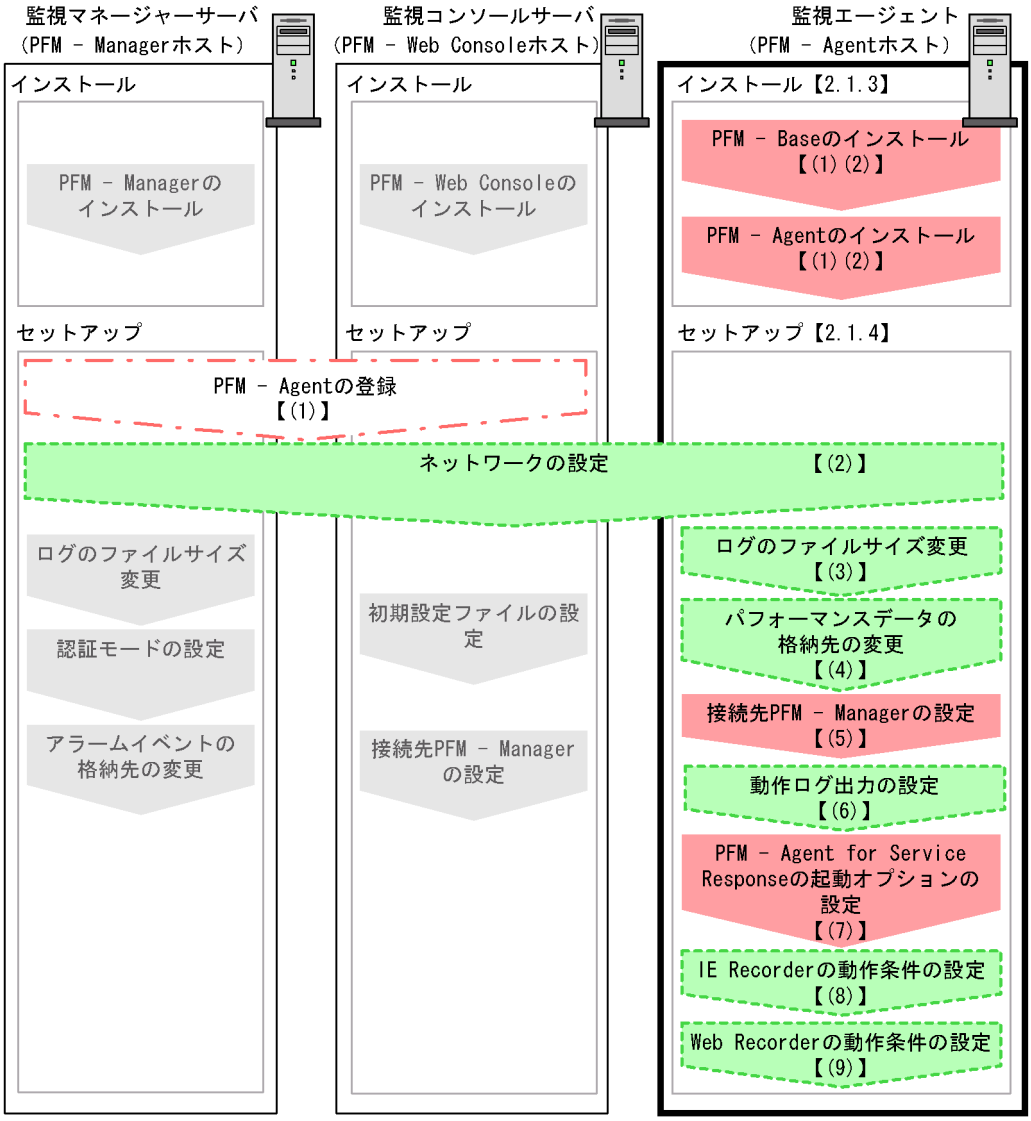
- Performance Management のプログラムが一つもインストールされていない環境に新規インストールする場合は，インストール先フォルダにファイルやフォルダがないことを確認してください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや，Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままインストールした場合，システムの再起動を促すメッセージが表示されることがあります。この場合は，メッセージに従ってシステムを再起動し，インストールを完了させてください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや，Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば，Windows のイベントビューアなど）を起動したままの状態，ディスク容量が不足している状態，またはフォルダ権限がない状態でインストールした場合，ファイルの展開に失敗することがあります。Performance Management のプログラムおよびサービスや，Performance Management のファイルを参照するような他プログラムが起動している場合は，すべてを停止してからインストールし直してください。ディスク容量不足やフォルダ権限不足が問題である場合は，問題を解決した後でインストールし直してください。

- Performance Management のプログラムをインストールする場合，次に示すセキュリティ関連プログラムがインストールされていないかどうか確認してください。インストールされている場合，次の説明に従って対処してください。
  - セキュリティ監視プログラム
    セキュリティ監視プログラムを停止するか，または設定を変更して，Performance Management のプログラムのインストールを妨げないようにしてください。
  - ウィルス検出プログラム
    ウィルス検出プログラムを停止してから Performance Management のプログラムをインストールすることを推奨します。
    Performance Management のプログラムのインストール中にウィルス検出プログラムが稼働している場合，インストールの速度が低下する，インストールが実行できない，正しくインストールできないなどの問題が発生することがあります。
  - プロセス監視プログラム
    プロセス監視プログラムを停止するかまたは設定を変更して，Performance Management のサービスまたはプロセス，および共通コンポーネントのサービスまたはプロセスを監視しないようにしてください。
    Performance Management のプログラムのインストール中に，プロセス監視プログラムによって，これらのサービスまたはプロセスが起動されたり停止されたりすると，インストールに失敗することがあります。
- IE Recorder および IE プローブが起動しているとインストールできません。インストールする場合は，IE Recorder および IE プローブを終了してください。

2.1.2 インストールとセットアップの流れ

PFM - Agent for Service Response をインストールおよびセットアップする流れを説明します。

図 2-2　インストールとセットアップの流れ



（凡例）

：必須セットアップ項目

：場合によって必須となるセットアップ項目

：オプションのセットアップ項目

：マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」または
マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」手順が記載されている項目

【　】　：参照先

PFM - Manager および PFM - Web Console のインストールおよびセットアップの手順

は，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

2.1.3　インストール手順

ここでは，PFM - Agent for Service Response のプログラムをインストールする順序とCD-ROM の提供媒体からプログラムをインストールする手順を説明します。

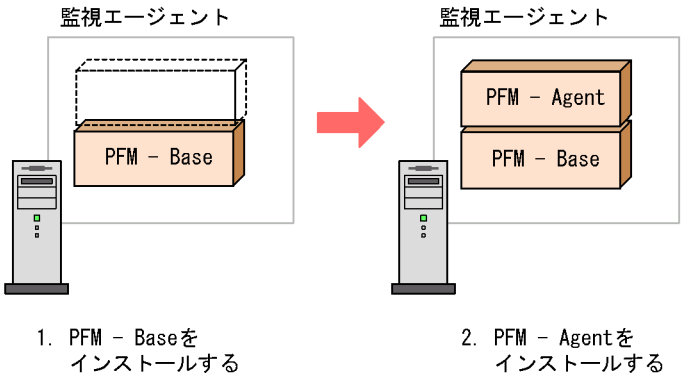
(1) プログラムのインストール順序

まず，PFM - Base をインストールし，次に PFM - Agent for Service Response をインストールします。PFM - Base がインストールされていないホストに PFM - Agent をインストールすることはできません。

なお，PFM - Manager と同一ホストに PFM - Agent をインストールする場合は，PFM - Manager，PFM - Agent の順でインストールしてください。また，Store データベースのバージョン 1.0 からバージョン 2.0 にバージョンアップする場合，PFM - Agent と PFM - Manager または PFM - Base のインストール順序によって，セットアップ方法が異なります。Store バージョン 2.0 のセットアップ方法については，「2.4.2　Store バージョン 2.0 への移行」を参照してください。

同一ホストに複数の PFM - Agent をインストールする場合，PFM - Agent 相互のインストール順序は問いません。

図 2-3　プログラムのインストール順序



(2) プログラムのインストール方法

Windows ホストに Performance Management プログラムをインストールするには，CD-ROM の提供媒体を使用する方法と，JP1/NETM/DM を使用してリモートインストールする方法があります。JP1/NETM/DM を使用する方法については，マニュアル「JP1/NETM/DM 運用ガイド 1（Windows(R) 用)」を参照してください。

OS 共通の注意事項

インストールを行うホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は，すべて停止してください。なお，停止するサービスは物理ホスト上および論理ホスト上のすべてのサービスです。サービスの停止方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

Windows Server 2008 の環境でインストールする場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能（UAC）を有効にしている場合は，インストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示される場合があります。ダイアログが表示された場合は，［続行］ボタンをクリックしてインストールを続行してください。［キャンセル］ボタンをクリックした場合は，インストールが中止されます。

CD-ROM の提供媒体を使用する場合のインストール手順を次に示します。

1. Performance Management **プログラムをインストールするホストに，**Administrators **権限でログオンする。**
2. Performance Management **のプログラムおよびサービスを停止する。**
   Performance Management のプログラム，IE Recorder，IE Probe Daemon およびサービスが起動している場合は，すべて停止してください。
3. **提供媒体を** CD-ROM **ドライブに入れる。**
   起動したインストーラーの指示に従ってインストールを進めます。
   インストール時に定義する情報を次に示します。
   - **ユーザー情報**
     ユーザー名などを入力します。
   - **インストール先フォルダ**
     Performance Management プログラムをインストールするフォルダを指定します。
     インストール先フォルダは，［ディレクトリの選択］ダイアログボックスで設定して［OK］ボタンをクリックした時点で作成されます。誤ったフォルダを作成した場合はインストール後にフォルダを削除してください。
   - **プログラムフォルダ**
     Windows の［スタート］－［すべてのプログラム］メニューに登録されるプログラムメニュー名を指定します。
     デフォルトでは，［Performance Management］が登録されます。

参考

PFM - Web Console を除く Performance Management プログラムのインストール先フォルダおよびプログラムフォルダは，そのホストに初めて Performance Management プログラムがインストールされるときだけ指定できます。2 回目以降のインストールでは，初回のインストール時に指定したフォルダにインストールまたは登録されます。

2.1.4 PFM - Agent for Service Response のセットアップ手順

ここでは，PFM - Agent for Service Response を運用するための，セットアップについて説明します。

〈オプション〉は使用する環境によって必要になるセットアップ項目，またはデフォルトの設定を変更する場合のオプションのセットアップ項目を示します。

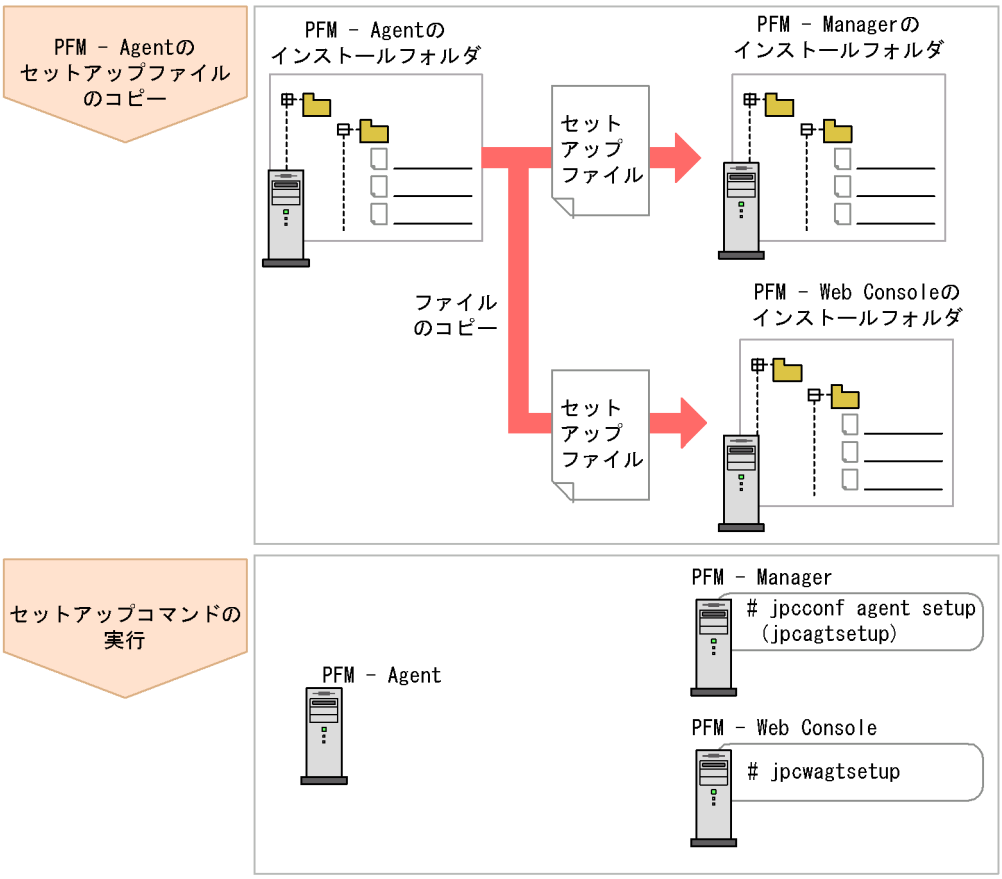
(1) PFM - Agent for Service Response の登録

PFM - Manager および PFM - Web Console を使って PFM - Agent を一元管理するために，PFM - Manager および PFM - Web Console に PFM - Agent for Service Response を登録する必要があります。

PFM - Manager のバージョンが 08-50 以降の場合，PFM - Agent の登録は自動で行われるため，ここで説明する手順は不要です。ただし，PFM - Manager のリリースノートに記載されていないデータモデルバージョンの PFM - Agent は手動で登録する必要があります。なお，PFM - Agent for Service Response のデータモデルのバージョンについては，「付録 H　バージョン互換」を参照してください。

PFM - Agent for Service Response の登録の流れを次に示します。

図 2-4　PFM - Agent for Service Response の登録の流れ



注意事項

- すでに PFM - Agent for Service Response の情報が登録されている Performance Management システムに，新たに同じバージョンの PFM - Agent for Service Response を追加した場合，PFM - Agent の登録は必要ありません。
- バージョンが異なる PFM - Agent for Service Response を，異なるホストにインストールする場合，古いバージョン，新しいバージョンの順でセットアップしてください。
- PFM - Manager と同じホストに PFM - Agent をインストールした場合，`jpcconf agent setup(jpcagtsetup)` コマンドが自動的に実行されます。共通メッセージログに「KAVE05908-I エージェント追加セットアップは正常に終了しました」と出力されるので，結果を確認してください。コマンドが正しく実行されていない場合は，コマンドを実行し直してください。コマンドの実行方法については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」のコマンドの章を参照してください。

(a) PFM - Agent for Service Response のセットアップファイルをコピーする

PFM - Agent for Service Response をインストールしたホストにあるセットアップファイ

ルを PFM - Manager および PFM - Web Console をインストールしたホストにコピーします。手順を次に示します。

1. PFM - Web Console **が起動されている場合は，停止する。**
2. PFM - Agent for Service Response **のセットアップファイルをバイナリーモードでコピーする。**
   ファイルが格納されている場所およびファイルをコピーする場所を次の表に示します。

表 2-2 コピーするセットアップファイル

コピー先			PFM - Agent for Service Response のセットアップファイル
PFM プログラム名	OS	コピー先フォルダ	
PFM - Manager	Windows	PFM - Manager のインストール先フォルダ ¥setup	インストール先フォルダ ¥setup¥jpcagtvw.EXE
	UNIX	/opt/jp1pc/setup/	インストール先フォルダ ¥setup¥jpcagtvu.Z
PFM - Web Console	Windows	PFM - Web Console のインストール先フォルダ ¥setup	インストール先フォルダ ¥setup¥jpcagtvw.EXE
	UNIX	/opt/jp1pcwebcon/setup/	インストール先フォルダ ¥setup¥jpcagtvu.Z

(b) PFM - Manager ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Manager で PFM - Agent for Service Response をセットアップするための次のコマンドを実行します。

```
jpcconf agent setup -key SR(jpcagtsetup agtv)
```

注意事項

コマンドを実行するローカルホストの Performance Management のプログラムおよびサービスが完全に停止していない状態で jpcconf agent setup(jpcagtsetup) コマンドを実行した場合，エラーが発生することがあります。その場合は，Performance Management のプログラムおよびサービスが完全に停止したことを確認したあと，再度 jpcconf agent setup(jpcagtsetup) コマンドを実行してください。

PFM - Manager ホストにある PFM - Agent for Service Response のセットアップファイルは，この作業が終了したあと，削除してもかまいません。

(c) PFM - Web Console ホストでセットアップコマンドを実行する

PFM - Web Console で PFM - Agent for Service Response をセットアップするための次のコマンドを実行します。

```
jpcwagtsetup
```

PFM - Web Console ホストにある PFM - Agent のセットアップファイルは，この作業が終了したあと削除してもかまいません。

(2) ネットワークの設定 〈オプション〉

Performance Management を使用するネットワーク構成に応じて，変更する場合にだけ必要な設定です。

ネットワークの設定では次の二つの項目を設定できます。

● IP アドレスを設定する

Performance Management を複数の LAN に接続されたネットワークで使用するときに設定します。複数の IP アドレスを設定するには，jpchosts ファイルにホスト名と IP アドレスを定義します。設定した jpchosts ファイルは Performance Management システム全体で統一させてください。

詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

● ポート番号を設定する

Performance Management が使用するポート番号を設定できます。運用での混乱を避けるため，ポート番号とサービス名は，Performance Management システム全体で統一させてください。

ポート番号の設定の詳細についてはマニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(3) ログのファイルサイズ変更 〈オプション〉

Performance Management の稼働状況を，Performance Management 独自のログファイルに出力します。このログファイルを「**共通メッセージログ**」と呼びます。共通メッセージログは，デフォルトで 2,048 キロバイトのファイルが 2 ファイル使用されます。このファイルサイズを変更したい場合にだけ，必要な設定です。

詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(4) パフォーマンスデータの格納先の変更 〈オプション〉

PFM - Agent for Service Response で管理されるパフォーマンスデータを格納するデータベースの保存先，バックアップ先またはエクスポート先のフォルダを変更したい場合にだけ，必要な設定です。

パフォーマンスデータは，デフォルトで，次の場所に保存されます。

- 保存先：**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥
- バックアップ先：**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥backup¥
- 部分バックアップ先：**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥partial¥
- エクスポート先：**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥dump¥
- インポート先：**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥import¥

詳細については，「2.4.1　パフォーマンスデータの格納先の変更」を参照してください。

（5） PFM - Agent for Service Response の接続先 PFM - Manager の設定

PFM - Agent for Service Response がインストールされているホストで，その PFM - Agent for Service Response を管理する PFM - Manager を設定します。接続先の PFM - Manager を設定するには，jpcconf mgrhost define(jpcnshostname) コマンドを使用します。

注意事項

- 同一ホスト上に，複数の PFM - Agent がインストールされている場合でも，接続先に指定できる PFM - Manager は，一つだけです。PFM - Agent ごとに異なる PFM - Manager を接続先に設定することはできません。
- PFM - Agent for Service Response と PFM - Manager が同じホストにインストールされている場合，接続先 PFM - Manager はローカルホストの PFM - Manager となります。この場合，接続先の PFM - Manager をほかの PFM - Manager に変更できません。

手順を次に示します。

1. Performance Management **のプログラムおよびサービスを停止する。**
   セットアップを実施する前に，ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は，すべて停止してください。サービスの停止方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
   jpcconf mgrhost define(jpcnshostname) コマンド実行時に，Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は，停止を問い合わせるメッセージが表示されます。
2. **接続先の** PFM - Manager **ホストのホスト名を指定して，**jpcconf mgrhost define(jpcnshostname) **コマンドを実行する。**
   例えば，接続先の PFM - Manager がホスト host01 上にある場合，次のように指定します。
   jpcconf mgrhost define -host host01(jpcnshostname -s host01)

（6） 動作ログ出力の設定 〈オプション〉

PFM サービスの起動・停止時や，PFM - Manager との接続状態の変更時に動作ログを

出力したい場合に必要な設定です。動作ログとは，システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

設定方法については，「付録 I　動作ログの出力」を参照してください。

（7） PFM - Agent for Service Response の起動オプションの設定

PFM - Agent for Service Response がインストールされているホストで，PFM - Agent for Service Response の起動オプションを設定します。起動オプションとして，プローブの計測多重度，レポートファイルのサイズの上限値などを設定します。

PFM - Agent for Service Response の起動オプションを設定するには，Probe 動作条件定義ファイルを編集します。Probe 動作条件定義ファイルの詳細については，「7.2　Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）」を参照してください。

（8） IE Recorder の動作条件の設定 〈オプション〉

IE シナリオの定義で IE Recorder を使用する場合は，PFM - Agent for Service Response がインストールされているホストで，IE Recorder の動作条件を設定します。

IE Recorder の動作条件を定義するには，IE Recorder 動作条件定義ファイルを編集します。IE Recorder 動作条件定義ファイルの詳細については，「7.8　IE Recorder 動作条件定義ファイル（jpcvierec.conf）」を参照してください。

（9） Web Recorder の動作条件の設定 〈オプション〉

Web トランザクションの定義で Web Recorder を使用する場合は，PFM - Agent for Service Response がインストールされているホストで，Web Recorder の動作条件を設定します。

Web Recorder の動作条件を定義するには，Web Recorder 動作条件定義ファイルを編集します。Web Recorder 動作条件定義ファイルの詳細については，「7.9　Web Recorder 動作条件定義ファイル（wr.conf）」を参照してください。

2.2 アンインストールとアンセットアップ

ここでは，PFM - Agent for Service Response をアンインストールおよびアンセットアップする手順を示します。

2.2.1 アンインストールの前に

ここでは，PFM - Agent for Service Response をアンインストールおよびアンセットアップするときの注意事項を次に示します。

(1) アンインストールに必要な OS ユーザー権限に関する注意事項

PFM - Agent for Service Response をアンインストールするときは，必ず，Administrators 権限を持つアカウントで実行してください。

(2) ネットワークに関する注意事項

Performance Management プログラムをアンインストールしても，services ファイルに定義されたポート番号は削除されません。

(3) プログラムに関する注意事項

- Performance Management のプログラムおよびサービスや，Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままアンインストールした場合，ファイルやフォルダが残ることがあります。この場合は，手動でインストール先フォルダ以下をすべて削除してください。
- Performance Management のプログラムおよびサービスや，Performance Management のファイルを参照するような他プログラム（例えば Windows のイベントビューアなど）を起動したままアンインストールした場合，システムの再起動を促すメッセージが出力されることがあります。この場合，システムを再起動して，アンインストールを完了させてください。
- PFM - Base と PFM - Agent がインストールされているホストの場合，PFM - Base のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合，PFM - Agent，PFM - Base の順にアンインストールしてください。また，PFM - Manager と PFM - Agent がインストールされているホストの場合も同様に，PFM - Manager のアンインストールは PFM - Agent をアンインストールしないと実行できません。この場合，PFM - Agent，PFM - Manager の順にアンインストールしてください。

(4) サービスに関する注意事項

PFM - Agent をアンインストールしただけでは，jpctool service list(jpcctrl list) コマンドで表示できるサービスの情報は削除されません。サービス情報の削除方

法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」のインストールとセットアップの章のサービスの削除について説明している個所を参照してください。

(5) その他の注意事項

- PFM - Web Console がインストールされているホストから，Performance Management プログラムをアンインストールする場合は，ブラウザーの画面をすべて閉じてからアンインストールを実施してください。
- IE Recorder および IE プローブが起動していると，アンインストールできません。アンインストールする場合は，IE Recorder および IE プローブを終了してください。

2.2.2 アンセットアップ手順

(1) PFM - Manager での設定の削除

PFM - Web Console で PFM - Manager にログインし，アンセットアップする PFM - Agent for Service Response に関連する定義を削除してください。

手順を次に示します。

1. PFM - Web Console から，エージェントを削除する。
2. PFM - Manager のエージェント情報を削除する。
   例えば，ホスト host01 の PFM - Agent for Service Response のサービス情報を削除する場合，次のように指定してコマンドを実行します。
   `jpctool service delete -id` **サービス**ID `-host host01`（`jpcctrl delete` **サービス**ID `host=host01`）

   サービス ID には削除するエージェントのサービス ID を指定してください。
3. PFM - Manager サービスを再起動する。
   サービスの起動方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
4. PFM - Web Console を再起動する。
   サービス情報の削除を PFM - Web Console で有効にするには，PFM - Manager サービスを再起動したあと，PFM - Web Console を再起動してください。

2.2.3 アンインストール手順

PFM - Agent for Service Response をアンインストールする手順を説明します。

1. PFM - Agent for Service Response をアンインストールするホストに，Administrators 権限でログオンする。

2. **ローカルホストで** Performance Management **のプログラムおよびサービスを停止する。**

   サービス情報を表示して，サービスが起動されていないか確認してください。サービスの停止方法およびサービス情報の表示方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

   ローカルホストで Performance Management のプログラムおよびサービスが起動されている場合は，すべて停止してください。なお，停止するサービスは物理ホスト上および論理ホスト上のすべてのサービスです。

3. **アンインストールする** Performance Management **プログラムを選択する。**

   Windows の［コントロールパネル］から［プログラムの追加と削除］※を選択して，アンインストールする Performance Management プログラムを選択します。

   注※　Windows のバージョンによって名称が異なる場合があります。

4. **［削除］を選択し，［**OK**］ボタンをクリックする。**

   選択したプログラムがアンインストールされます。

Windows Server 2008 **の環境でアンインストールする場合の注意事項**

OS のユーザーアカウント制御機能（UAC）を有効にしている場合は，アンインストール中にユーザーアカウント制御のダイアログが表示される場合があります。ダイアログが表示された場合は，「続行」ボタンをクリックしてアンインストールを続行してください。「キャンセル」ボタンをクリックした場合は，アンインストールが中止されます。

2.3 PFM - Agent for Service Response のシステム構成の変更

PFM - Agent for Service Response がインストールされているホスト名の変更などに応じて，PFM - Agent for Service Response のシステム構成を変更する場合があります。ここでは，PFM - Agent for Service Response のシステム構成を変更する手順を説明します。

PFM - Agent for Service Response のシステム構成を変更する場合，PFM - Manager や PFM - Web Console の設定変更も併せて行う必要があります。Performance Management のシステム構成を変更する手順の詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。なお，物理ホスト名またはエイリアス名を変更するときに，固有の追加作業が必要な PFM - Agent もありますが，PFM - Agent for Service Response の場合，固有の追加作業は必要ありません。

2.4 PFM - Agent for Service Response の運用方式の変更

収集した稼働監視データの運用手順の変更などで，PFM - Agent for Service Response の運用方式を変更する場合があります。ここでは，PFM - Agent for Service Response の運用方式を変更する手順を説明します。Performance Management 全体の運用方式を変更する手順の詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更

PFM - Agent for Service Response で収集したパフォーマンスデータは，PFM - Agent for Service Response の Agent Store サービスの Store データベースで管理しています。ここではパフォーマンスデータの格納先の変更方法について説明します。

（1） jpcconf db define(jpcdbctrl config) コマンドを使用して設定を変更する

Store データベースで管理されるパフォーマンスデータの，次のデータ格納先フォルダを変更したい場合は，jpcconf db define(jpcdbctrl config) コマンドで設定します。Store データベースの格納先フォルダを変更する前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は，jpcconf db define(jpcdbctrl config) コマンドの -move オプションを使用してください。jpcconf db define(jpcdbctrl config) コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

- 保存先フォルダ
- バックアップ先フォルダ
- 部分バックアップ先フォルダ※
- エクスポート先フォルダ
- インポート先フォルダ※

注※　Store バージョン 2.0 使用時だけ設定できます。

jpcconf db define(jpcdbctrl config) コマンドで設定するオプション名，設定できる値の範囲などを次の表に示します。

表 2-3 パフォーマンスデータの格納先を変更するコマンドの設定項目

説明	オプション名	設定できる値（Store バージョン 1.0）※	設定できる値（Store バージョン 2.0）※	デフォルト値
パフォーマンスデータの保存先フォルダ	sd	1 ～ 127 バイトのフォルダ名	1 ～ 214 バイトのフォルダ名	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store
パフォーマンスデータのバックアップ先フォルダ	bd	1 ～ 127 バイトのフォルダ名	1 ～ 211 バイトのフォルダ名	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥backup
パフォーマンスデータの部分バックアップ先フォルダ	pbd	－	1 ～ 214 バイトのフォルダ名	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥partial
パフォーマンスデータを退避する場合の最大世代番号	bs	1 ～ 9	1 ～ 9	5
パフォーマンスデータのエクスポート先フォルダ	dd	1 ～ 127 バイトのフォルダ名	1 ～ 127 バイトのフォルダ名	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥dump
パフォーマンスデータのインポート先フォルダ	id	－	1 ～ 222 バイトのフォルダ名	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥import

（凡例）

－：設定できません。

注※

フォルダ名は，Store データベースのデフォルト格納先フォルダ（**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store）からの相対パスか，または絶対パスで指定してください。

（2）jpcsto.ini ファイルを編集して設定を変更する（Store バージョン 1.0 の場合だけ）

Store バージョン 1.0 使用時は，jpcsto.ini を直接編集して変更できます。

（a）jpcsto.ini ファイルの設定項目

jpcsto.ini ファイルで編集するラベル名，設定できる値の範囲などを次の表に示しま

す。

表 2-4 パフォーマンスデータの格納先の設定項目（jpcsto.ini の [Data Section] セクション）

説明	ラベル名	設定できる値（Store バージョン 1.0）※1	デフォルト値
パフォーマンスデータの保存先フォルダ	Store Dir ※2	1 ～ 127 バイトのフォルダ名	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store
パフォーマンスデータのバックアップ先フォルダ	Backup Dir ※2	1 ～ 127 バイトのフォルダ名	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥backup
パフォーマンスデータを退避する場合の最大世代番号	Backup Save	1 ～ 9	5
パフォーマンスデータのエクスポート先フォルダ	Dump Dir ※2	1 ～ 127 バイトのフォルダ名	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥dump

注※ 1

- フォルダ名は，Store データベースのデフォルト格納先フォルダ（**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store）からの相対パスか，または絶対パス名で指定してください。
- 指定できる文字は，次の文字を除く，半角英数字，半角記号および半角空白です。
  ; , * ? ' " < > |
- 指定値に誤りがある場合，Agent Store サービスは起動できません。

注※ 2

Store Dir，Backup Dir，および Dump Dir には，それぞれ重複したフォルダを指定できません。

(b) jpcsto.ini ファイルの編集前の準備

- Store データベースの格納先フォルダを変更する場合は，変更後の格納先フォルダを事前に作成しておいてください。
- Store データベースの格納先フォルダを変更すると，変更前に収集したパフォーマンスデータを使用できなくなります。変更前に収集したパフォーマンスデータが必要な場合は，次に示す手順でデータを引き継いでください。
  1. jpctool db backup(jpcctrl backup) コマンドで Store データベースに格納されているパフォーマンスデータのバックアップを採取する。
  2. 「(c) jpcsto.ini ファイルの編集手順」に従って Store データベースの格納先フォルダを変更する。
  3. jpctool db restore(jpcresto) コマンドで変更後のフォルダにバックアップデータをリストアする。

(c) jpcsto.ini ファイルの編集手順

手順を次に示します。

1. PFM - Agent のサービスを停止する。
   ローカルホストで PFM -Agent のプログラムおよびサービスが起動されている場合は，すべて停止してください。
2. テキストエディターなどで，jpcsto.ini ファイルを開く。
3. パフォーマンスデータの格納先フォルダなどを変更する。
   次に示す網掛け部分を，必要に応じて修正してください。

```
        :
[Data Section]
Store Dir=.
Backup Dir=.¥backup
Backup Save=5
Dump Dir=.¥dump
        :
```

注意事項

- 行頭および「=」の前後には空白文字を入力しないでください。
- 各ラベルの値の「.」は，Agent Store サービスの Store データベースのデフォルト格納先フォルダ（**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store）を示します。格納先を変更する場合，その格納先フォルダからの相対パスか，または絶対パスで記述してください。
- Store データベースの格納先を変更する場合，指定するフォルダを事前に作成してください。
- jpcsto.ini ファイルには，データベースの格納先フォルダ以外にも，定義情報が記述されています。[Data Section] セクション以外の値は変更しないようにしてください。[Data Section] セクション以外の値を変更すると，Performance Management が正常に動作しなくなることがあります。

4. jpcsto.ini ファイルを保存して閉じる。
5. Performance Management のプログラムおよびサービスを起動する。

注意

この手順で Store データベースの保存先フォルダを変更した場合，パフォーマンスデータファイルは変更前のフォルダから削除されません。これらのファイルが不要な場合は，次に示すファイルだけを削除してください。

- 拡張子が .DB であるすべてのファイル

- 拡張子が .IDX であるすべてのファイル

2.4.2 Store バージョン 2.0 への移行

Store データベースの保存形式には，バージョン 1.0 と 2.0 の 2 種類あります。Store バージョン 2.0 の詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」を参照してください。

Store バージョン 2.0 は，PFM - Base または PFM - Manager のバージョン 08-10 以降の環境に，08-10 以降の PFM - Agent for Service Response を新規インストールした場合にだけデフォルトで利用できます。それ以外の場合は，Store バージョン 1.0 形式のままとなっているため，セットアップコマンドによって Store バージョン 2.0 に移行してください。

何らかの理由によって Store バージョン 1.0 に戻す必要がある場合は，Store バージョン 2.0 のアンセットアップを行ってください。

インストール条件に対応する Store バージョン 2.0 の利用可否と利用手順を次の表に示します。

表 2-5 Store バージョン 2.0 の利用可否および利用手順

インストール条件		Store バージョン 2.0 の利用可否	Store バージョン 2.0 の利用手順
インストール済みの PFM - Base，または PFM - Manager のバージョン	PFM - Agent のインストール方法		
08-10 より前	上書きインストール	利用できない	PFM - Base，または，PFM - Manager を 08-10 にバージョンアップ後，セットアップコマンドを実行
	新規インストール		
08-10 以降	上書きインストール	セットアップ後利用できる	セットアップコマンドを実行
	新規インストール	利用できる	設定不要

（1） Store バージョン 2.0 のセットアップ

Store バージョン 2.0 へ移行する場合のセットアップ手順について説明します。

1. **システムリソース見積もりと保存期間の設計**
   Store バージョン 2.0 導入に必要なシステムリソースが，実行環境に適しているかどうかを確認してください。必要なシステムリソースを次に示します。
   - ディスク容量

- ファイル数
- 1 プロセスがオープンするファイル数

これらの値は保存期間の設定によって調節できます。実行環境の保有しているリソースを考慮して保存期間を設計してください。システムリソースの見積もりについては，「付録 A　システム見積もり」を参照してください。

2. **フォルダの設定**
   Store バージョン 2.0 に移行する場合に，Store バージョン 1.0 でのフォルダ設定では，Agent Store サービスが起動しないことがあります。このため，Agent Store サービスが使用するフォルダの設定を見直す必要があります。Agent Store サービスが使用するフォルダの設定は jpcconf db define(jpcdbctrl config) コマンドを使用して表示・変更できます。
   Store バージョン 2.0 は，Store データベースの保存先フォルダやバックアップ先フォルダの最大長が Store バージョン 1.0 と異なります。Store バージョン 1.0 でフォルダの設定を相対パスに変更している場合，絶対パスに変換した値が Store バージョン 2.0 でのフォルダ最大長の条件を満たしているか確認してください。Store バージョン 2.0 のフォルダ最大長は 214 バイトです。フォルダ最大長の条件を満たしていない場合は，Agent Store サービスが使用するフォルダの設定を変更したあと，手順 3 以降に進んでください。
3. **セットアップコマンドの実行**
   Store バージョン 2.0 に移行するため，次のコマンドを実行します。
   jpcconf db vrset -ver 2.0 -key SR(jpcdbctrl setup -key agtv)
   jpcconf db vrset（jpcdbctrl setup）コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。
4. **保存期間の設定**
   手順 1 の見積もり時に設計した保存期間を設定してください。Agent Store サービスを起動して，PFM - Web Console で設定してください。

（2） Store バージョン 2.0 のアンセットアップ

Store バージョン 2.0 は jpcconf db vrset -ver 1.0(jpcdbctrl unsetup) コマンドを使用してアンセットアップします。Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると，Store データベースのデータはすべて初期化され，Store バージョン 1.0 に戻ります。

jpcconf db vrset（jpcdbctrl unsetup）コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

（3） 注意事項

移行についての注意事項を次に示します。

(a) Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行する場合

Store データベースを Store バージョン 1.0 から Store バージョン 2.0 に移行した場合，PI レコードタイプのレコードの保存期間の設定は引き継がれますが，PD レコードタイプのレコードについては，以前の設定値（保存レコード数）に関係なくデフォルトの保存日数がレコードごとに設定され，保存日数以前に収集されたデータは削除されます。

例えば，Store バージョン 1.0 で，Collection Interval が 3,600 秒の PD レコードの保存レコード数を 1,000 に設定していた場合，PD レコードは 1 日に 24 レコード保存されることになるので，1,000 ÷ 24　約 42 日分のデータが保存されています。この Store データベースを Store バージョン 2.0 へ移行した結果，デフォルト保存日数が 10 日に設定されたとすると，11 日以上前のデータは削除されて参照できなくなります。

Store バージョン 2.0 へ移行する前に，PD レコードタイプのレコードの保存レコード数の設定を確認し，Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数以上のデータが保存される設定となっている場合は，`jpctool db dump(jpcctrl dump)` コマンドでデータベース内のデータを出力してください。Store バージョン 2.0 でのデフォルト保存日数については，「付録 A.2(3)(a)　見積もり式」を参照してください。

(b) Store バージョン 2.0 から Store バージョン 1.0 に戻す場合

Store バージョン 2.0 をアンセットアップすると，データは初期化されます。このため，Store バージョン 1.0 に変更する前に，`jpctool db dump(jpcctrl dump)` コマンドで Store バージョン 2.0 の情報を出力してください。

2.4.3　統合トレースログ機能の設定の変更

PFM - Agent for Service Response では，統合トレース機能（HNTRLib2）を使って，計測処理のログを出力しています。このログファイルは，障害発生時など，原因究明に役立ちます。

統合トレース機能を使ったログファイル出力については，次の内容でデフォルト設定されています。

表 2-6　ログファイルのデフォルト値

項目	デフォルト値
ログファイルのサイズ	256 キロバイト
ログファイルの数	4
ログファイルの出力先フォルダ	システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool

デフォルト値から内容を変更したい場合は，`hntr2util` コマンドを実行します。

`hntr2util` コマンドを実行すると，［Hitachi Network Objectplaza Trace Utility 2］ダ

イアログボックスが表示され，この表に示す項目を変更できます。

hntr2util コマンドの詳細については，「10. コマンド」の「hntr2util（統合トレースログの設定を変更する）」を参照してください。

2.4.4 欠落データ補間の設定

Agent Collector の収集間隔と Probe Daemon および IE Probe Daemon の計測間隔の設定によっては，パフォーマンスデータが部分的に格納されないで，欠落する場合があります。

ここでは，このような欠落データを直前に収集したデータによって補間するかどうかを設定する方法について説明します。どのような場合にデータの欠落が発生するかについては，「4.2.2(2) Agent Collector による収集間隔の設定で考慮が必要な事項」を参照してください。

欠落データを補間するかどうかは，Data Interpolation プロパティで設定します。設定手順を次に示します。

1. **監視コンソールのブラウザーから** PFM - Web Console **にログインする。**
   ［メイン］画面が表示されます。
2. **［メイン］画面のナビゲーションフレームで［サービス階層］タブを選択する。**
   ［サービス階層］画面が表示されます。
3. **ナビゲーションフレームからエージェントを選択する。**
   ［プロパティ］画面が表示されます。
4. **［Agent］ツリーを選択する。**
5. Data Interpolation **プロパティの値を選択する。**
   補間する場合は「Yes」を，補間しない場合は「No」を指定します。デフォルトは No が設定されています。
6. **［OK］ボタンをクリックする。**

参考

データ欠落が発生しないように，Agent Collector の収集間隔と Probe Daemon および IE Probe Daemon の計測間隔を適切に設定することを推奨します。

2.5 コマンドプロンプトの起動方法

Windows Server 2008 の環境では，OS のユーザーアカウント制御機能（UAC）を有効にしている場合，コマンドプロンプトは，次の 2 種類の特権モードで動作します。

- 管理者特権モードのコマンドプロンプト（管理者コンソール）
  Windows のすべての操作ができるコマンドプロンプトです。
- 標準特権モードのコマンドプロンプト（標準コンソール）
  ユーザー操作の権限が制限されたコマンドプロンプトです。

ユーザーアカウント制御機能（UAC）を無効にしている場合は，常に管理者コンソールが起動されます。

Performance Management が提供しているコマンドは，必ず管理者コンソールで実行してください。

管理者ユーザーごとのコマンドプロンプトの起動方法を次の表に示します。

表 2-7 管理者ユーザーごとの コマンドプロンプトの起動方法

管理者グループ	管理者ユーザー	起動方法
Administrators	Administrator	コマンドプロンプトを起動すると，管理者コンソールが起動されます。
	上記以外のユーザー	UAC が有効な場合 • コマンドプロンプトを起動すると，標準コンソールが起動されます。 • 管理者コンソールを起動する場合，ユーザーアカウント制御のダイアログが表示されます。ダイアログの［続行］ボタンをクリックすると管理者コンソールが起動されます。［キャンセル］ボタンをクリックした場合は，コマンドプロンプトは起動されません。 UAC が無効な場合 • コマンドプロンプトを起動すると，管理者コンソールが起動されます。

管理者コンソールは，OS で用意されている管理者コンソールと，PFM - Base から提供されている管理者コンソールがあります。それぞれの起動方法を説明します。

(1) OS が用意している管理者コンソールの起動方法

［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［アクセサリ］－［コマンドプロン

プト］を右クリックし，［管理者として実行］を選択します。

起動されたコマンドプロンプトが管理者コンソールであるかどうかは，タイトルバーに［管理者］が表示されているどうかで判断できます。

（2） PFM - Base が提供している管理者コンソールの起動方法

［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Performance Management］－［管理者コンソール］を選択します。

2.6 バックアップとリストア

PFM - Agent for Service Response のバックアップおよびリストアについて説明します。

障害が発生してシステムが壊れた場合に備えて，PFM - Agent for Service Response の設定情報をバックアップしてください。また，PFM - Agent for Service Response をセットアップしたときなど，システムを変更した場合にもバックアップしてください。

なお，Performance Management システム全体のバックアップおよびリストアについては，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のバックアップとリストアについて説明している章を参照してください。

2.6.1 バックアップ

バックアップはファイルをコピーするなど，任意の方法で取得してください。バックアップを取得する際は，PFM - Agent for Service Response のサービスを停止した状態で行ってください。

注意事項

PFM - Agent for Service Response のバックアップを取得する際は，取得した環境の製品バージョン番号を管理するようにしてください。製品バージョン番号の詳細については，リリースノートを参照してください。

PFM - Agent for Service Response の設定情報のバックアップ対象ファイルを次の表に示します。

表 2-8 PFM - Agent for Service Response のバックアップ対象ファイル

ファイル名	内容
インストール先フォルダ ¥agtv¥agent¥*.ini ファイル	Agent Collector サービスの設定ファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥*.ini ファイル	Agent Store サービスの設定ファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥conf 下のファイル	各設定ファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥task 下のファイル	計測条件登録ファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥passwd 下のファイル	パスワードファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥report 下のファイル	レポートファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥iescena 下のファイル	IE シナリオファイル

ファイル名	内容
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥webtrans 下のファイル	Web トランザクションファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥user 下のファイル	ユーザー定義コマンド
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥cert 下のファイル	証明書

2.6.2 リストア

PFM - Agent for Service Response の設定情報をリストアする際は，次に示す前提条件の内容を確認した上で，バックアップ対象ファイルを元の位置にコピーしてください。
バックアップした設定情報ファイルで，ホスト上の設定情報ファイルを上書きします。

前提条件

- PFM - Agent for Service Response がインストール済みであること。
- PFM - Agent for Service Response のサービスが停止していること。

注意事項

PFM - Agent for Service Response の設定情報をリストアする場合，バックアップを取得した環境とリストアする環境の製品バージョン番号が完全に一致している必要があります。製品バージョン番号の詳細については，リリースノートを参照してください。リストアの可否についての例を次に示します。

リストアできるケース

PFM - Agent for Service Response 08-50 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Service Response 08-50 にリストアする。

リストアできないケース

・PFM - Agent for Service Response 08-00 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Service Response 08-50 にリストアする。
・PFM - Agent for Service Response 08-50 でバックアップした設定情報を PFM - Agent for Service Response 08-50-01 にリストアする。

2.7 Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定

Performance Management では，PFM - Web Console がインストールされているホストに，プログラムプロダクトに標準添付されているマニュアル CD-ROM からマニュアルをコピーすることで，Web ブラウザでマニュアルを参照できるようになります。なお，PFM - Web Console をクラスタ運用している場合は，実行系，待機系それぞれの物理ホストでマニュアルをコピーしてください。

2.7.1 設定手順

（1）PFM - Web Console のヘルプからマニュアルを参照する場合

1. PFM - Web Console **のセットアップ手順に従い，**PFM - Web Console **に** PFM - Agent **を登録する（**PFM - Agent **の追加セットアップを行う）。**
2. PFM - Web Console **がインストールされているホストに，マニュアルのコピー先ディレクトリを作成する。**
   - Windows の場合：Web Console **のインストール先フォルダ** ¥doc¥ja¥ ××××
   - UNIX の場合：/opt/jp1pcwebcon/doc/ja/ ××××

   ××××には，PFM - Agent のヘルプ ID を指定してください。ヘルプ ID については，このマニュアルの付録に記載されている識別子一覧を参照してください。
3. **上記で作成したディレクトリの直下に，マニュアル** CD-ROM **から次のファイルおよびディレクトリをコピーする。**

   HTML **マニュアルの場合**

   Windows の場合：CD-ROM **ドライブ** ¥MAN¥3020¥ **資料番号**（03004A0D など）下の，すべての htm ファイルおよび FIGURE フォルダ

   UNIX の場合：/CD-ROM **のマウントポイント** /MAN/3020/ **資料番号**（03004A0D など）下の，すべての htm ファイルおよび FIGURE ディレクトリ

   PDF **マニュアルの場合**

   Windows の場合：CD-ROM **ドライブ** ¥MAN¥3020¥ **資料番号**（03004A0D など）下の PDF ファイル

   UNIX の場合：/CD-ROM **のマウントポイント** /MAN/3020/ **資料番号**（03004A0D など）下の PDF ファイル

   コピーの際，HTML マニュアルの場合は index.htm ファイルが，PDF マニュアルの場合は PDF ファイル自体が，作成したディレクトリ直下に配置されるようにしてください。マニュアルファイルのコピー方法については，マニュアル CD-ROM の readme.txt を参照してください。
4. PFM - Web Console **を再起動する。**

(2) お使いのマシンのハードディスクから参照する場合

CD-ROM の setup.exe を使ってインストールするか，または直接 htm ファイル，PDF ファイルおよび GIF ファイルを任意のディレクトリにコピーしてください。HTML マニュアルの場合，次のディレクトリ構成になるようにしてください。

```
html（htm ファイルおよび PDF ファイルを格納）
└ FIGURE（GIF ファイルを格納）
```

2.7.2 参照手順

マニュアルの参照手順を次に示します。

1. **PFM - Web Console の［メイン］画面のメニューバーフレームにある［ヘルプ］メニューをクリックし，［ヘルプ選択］画面を表示する。**
2. **マニュアル名またはマニュアル名の後ろの［PDF］をクリックする。**
   マニュアル名をクリックすると HTML 形式のマニュアルが表示されます。［PDF］をクリックすると PDF 形式のマニュアルが表示されます。

Web ブラウザでの文字の表示に関する注意事項

Windows の場合，［スタート］メニューからオンラインマニュアルを表示させると，すでに表示されている Web ブラウザの画面上に HTML マニュアルが表示されることがあります。

3 サービス計測のための定義

この章では，PFM - Agent for Service Response を使ってサービスの応答性能を計測するための定義について説明します。

3.1 定義の流れ

3.2 サービス計測の定義にあたっての注意事項

3.3 インターネットサービスを計測するための定義

3.4 IE シナリオを計測するための定義

3.5 Web トランザクションを計測するための定義

3.6 ユーザー定義サービスを計測するための定義

3.7 PFM - Web Console からの計測条件の定義

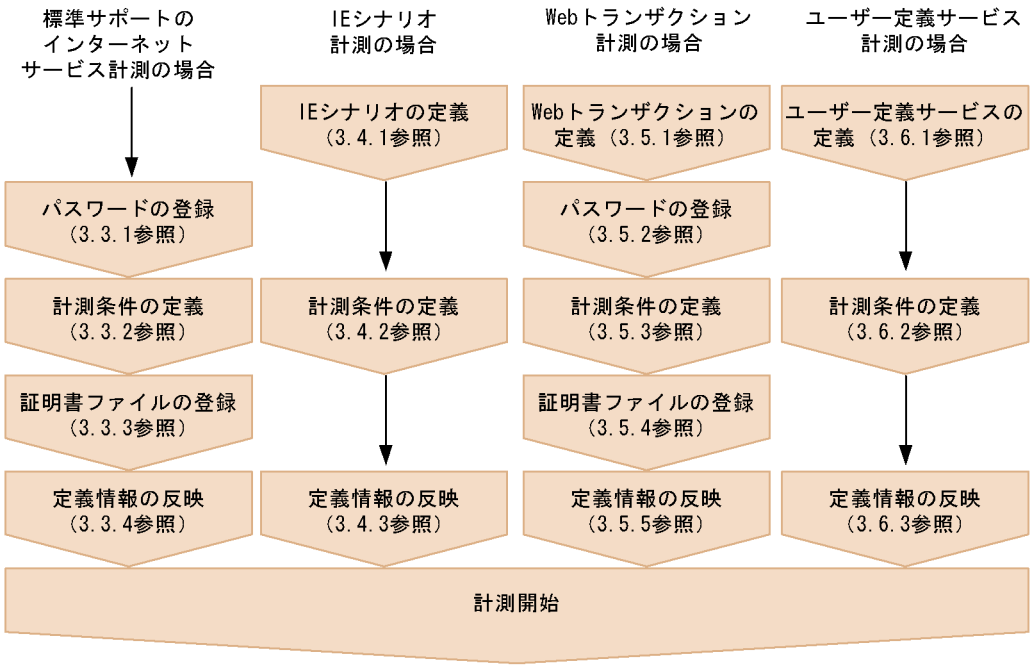
3.1　定義の流れ

PFM - Agent for Service Response を使った計測には，次の四つの形態があります。

- PFM - Agent for Service Response 標準サポートのインターネットサービスの計測
- IE シナリオの計測
- Web トランザクションの計測
- ユーザー定義サービスの計測

それぞれの形態で計測する場合の定義の流れを説明します。各項目の内容については，括弧内の個所を参照してください。

図 3-1　インターネットサービスを計測するための定義の流れ



また，計測条件を PFM - Web Console から定義することもできます。PFM - Web Console からの計測条件の定義については，「3.7　PFM - Web Console からの計測条件の定義」を参照してください。

3.2　サービス計測の定義にあたっての注意事項

PFM - Agent for Service Response では，IE Probe Daemon および Probe Daemon がインターネットサービスの応答性能を計測し，その結果を Agent Collector がパフォーマンスデータとして収集しています。このため，IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測間隔と Agent Collector の収集間隔は同じ間隔にするか，IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測間隔を Agent Collector の収集間隔より小さくしてください。また，IE Probe Daemon および Probe Daemon のタイムアウト値は Agent Collector の収集間隔より小さくしてください。

データの収集スケジュールの詳細については，「4.2.2　PFM - Agent for Service Response の機能に関する注意事項」を参照してください。

3.3 インターネットサービスを計測するための定義

PFM - Agent for Service Response が標準でサポートするインターネットサービスを計測するためには，次の設定が必要です。

- パスワードの登録
- 計測条件の定義
- 証明書ファイルの登録（任意）
- 定義情報の反映

3.3.1 パスワードの登録

次の表に示すインターネットサービスを計測する場合は，計測対象インターネットサービスにアクセスするためのパスワードを登録する必要があります。

表 3-1 パスワード登録が必要なインターネットサービス

サービス	条件	登録するパスワード
HTTP，HTTPS	認証を要求する Web ページ	Web ページのパスワード
HTTP，HTTPS	認証を要求するプロキシ利用	プロキシのパスワード
HTTPS	クライアント認証実行時	秘密鍵のパスワード
SMTP	POP3 認証（POP before SMTP）実行時	POP3 サーバのパスワード
POP3	必須	POP3 サーバのパスワード
IMAP4	必須	IMAP4 サーバのパスワード
FTP	必須	FTP サーバのパスワード

パスワードの登録には，パスワードユーティリティ（esppasswd コマンド）を使用します。登録したパスワードは，文字列変換された形式でパスワードファイル（esp.pdb）に格納されます。

パスワードファイルの格納先

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥passwd

パスワードユーティリティの使用方法については「10. コマンド」の「esppasswd（パスワードを登録・変更・削除する）」を参照してください。

3.3.2 計測条件の定義

インターネットサービスを計測するための計測条件は，PFM - Web Console を使用して，計測条件登録ファイル（esptask.xml）で定義します（直接編集することもできます）。

計測対象として指定できるインターネットサービスおよび計測項目と，計測条件登録ファイルの作成について説明します。

(1) 計測対象および計測項目

PFM - Agent for Service Response が標準でサポートするインターネットサービスと，各サービスの計測項目を次の表に示します。

表 3-2 計測対象サービスおよび計測項目一覧

計測対象サービス	計測項目
HTTP	• 総応答時間 • セットアップ時間 • HTTP 時間 • DNS 時間 • TCP 接続時間 • サーバ処理時間 • データ転送時間 • 総データ量 • リクエスト数 • 総リソースサイズ • スループット
HTTPS	HTTP 計測項目と同じ
SMTP	• 総応答時間 • セットアップ時間 • SMTP 時間 • DNS 時間 • TCP 接続時間 • 前処理時間 • データ転送時間 • 総データ量 • スループット
POP3	• 総応答時間 • セットアップ時間 • POP 時間 • DNS 時間 • TCP 接続時間 • 前処理時間 • データ転送時間 • 削除時間 • 総データ量 • 総メールサイズ • ダウンロードメール数 • スループット

計測対象サービス	計測項目
IMAP4	• 総応答時間 • セットアップ時間 • IMAP 時間 • DNS 時間 • TCP 接続時間 • 前処理時間 • データ転送時間 • 削除時間 • 総データ量 • 総メールサイズ • ダウンロードメール数 • スループット
DNS	• 総応答時間 • 総データ量
DHCP	• 総応答時間 • アドレス提示時間 • アドレス確保時間 • 総データ量
FTP	• 総応答時間 • セットアップ時間 • FTP 時間 • DNS 時間 • TCP 接続時間 • 前処理時間 • データ転送時間 • 転送ファイルサイズ • 総データ量 • スループット
TCP	• 総応答時間 • DNS 時間 • TCP 接続時間

なお，各サービスの計測項目の詳細については，「9. レコード」を参照してください。

(2) 計測条件登録ファイル（esptask.xml）の作成

計測対象となるインターネットサービスの計測条件は，計測条件登録ファイル（esptask.xml）を作成し，定義します。計測条件登録ファイルの定義は PFM - Web Console から設定できます。計測条件登録ファイルの設定項目には，各サービスに共通の項目と，サービス固有の項目とがあります。

各サービスに共通の設定項目を次に示します。

表 3-3 計測条件の項目一覧（サービス共通）

項目	説明
計測条件 ID	計測条件の識別子です。計測条件 ID 内で重複しないように設定します。

項目	説明
計測間隔	計測を実行する間隔を指定します。
タイムアウト	1 回の計測の制限時間を指定します。
サービス固有条件	計測対象となるサービスの定義を指定します。

計測条件のうち，サービス共通の項目では，計測対象サービスの計測間隔やタイムアウト時間などを設定します。計測条件は，計測条件 ID を付けて管理します。一つの計測対象サービスに対し，異なる計測条件 ID を付けることで別の計測条件として登録できます。サービス固有の設定項目，および計測条件登録ファイルの詳細については，「7.3 計測条件登録ファイル（esptask.xml)」を参照してください。

なお，作成した計測条件登録ファイルは，次のフォルダに保存します。

計測条件登録ファイルの格納先フォルダ

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥task¥esp

3.3.3 証明書ファイルの登録

HTTPS の計測で，サーバ認証やクライアント認証を適用する場合は，証明書ファイルの登録が必要になります。詳細については，「9. レコード」の「HTTPS（PI_HTPS)」を参照してください。

3.3.4 定義情報の反映

PFM - Web Console を使用して計測条件を追加，変更または削除した場合，定義情報を有効にするには，PFM - Web Console から定義情報を読み込む必要があります。PFM - Web Console から定義情報を読み込む方法については，「3.7.4 タスク情報の反映」を参照してください。

次の場合，定義情報を有効にするには，PFM - Agent for Service Response を再起動して，定義情報を読み込ませる必要があります。

- 直接，計測条件登録ファイル（esptask.xml）を編集して計測条件を追加，変更または削除した場合
- パスワードを変更・削除した場合
- 証明書ファイルを変更・削除した場合

PFM - Web Console から定義情報を読み込むと，定義情報が失われるおそれがあります。

PFM - Agent for Service Response を起動および停止する方法については，「4.1 PFM - Agent for Service Response の起動と終了」を参照してください。

定義情報を反映すると，計測が開始されます。

3.4　IE シナリオを計測するための定義

IE シナリオを計測する場合は，次の設定が必要です。

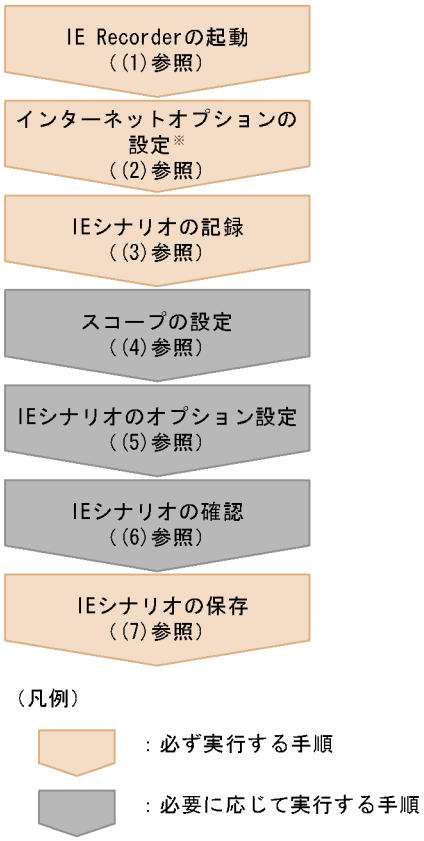
- IE シナリオの定義
- 計測条件の定義
- 定義情報の反映

3.4.1　IE シナリオの定義（IE シナリオファイルの作成）

PFM - Agent for Service Response では，IE Recorder を使用して IE シナリオを定義し，IE シナリオファイルに保存できます。IE Recorder の詳細については，「6.2　IE Recorder の画面」を参照してください。

IE シナリオの定義の流れを次に示します。各項目の内容については，括弧内の個所を参照してください。

図 3-2　IE シナリオの定義の流れ



注※　IEシナリオを新規に作成する場合だけ必要な手順です。

IE Recorder を使用して IE シナリオを定義する方法を次に示します。

参考

IE Recorder は，メニューバーのメニューコマンドと同様に，ツールバーの各アイコンからも操作ができます。［IE Recorder］（メイン）画面のツールバーのアイコンについては，「6.2.1　［IE Recorder］（メイン）画面」を参照してください。

（1） IE Recorder の起動

IE Recorder を起動する手順を次に示します。

1. **IE シナリオファイルを作成するホストに，計測用アカウントでログインする。**
2. **Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［IE Recorder］を選択す**

る。
［IE Recorder］（メイン）画面が表示されます。

（2）インターネットオプションの設定

IE シナリオを新規に作成する場合，IE シナリオを記録または計測する環境を定義するため，インターネットオプションを設定します。

インターネットオプションを設定する手順を次に示します。

1. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［ツール］－［インターネットオプション］を選択する。**
［インターネットオプション］画面が表示されます。
2. **［インターネットオプション］画面で，IE シナリオを記録または計測する環境を定義する。**
3. **［OK］ボタンをクリックする。**

（3）IE シナリオの記録

［IE Recorder］（メイン）画面の IE ウィンドウで Web ページを操作し，IE シナリオとして記録します。

IE シナリオを記録する手順を次に示します。

1. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［ファイル］－［新規作成］を選択する。**
IE シナリオファイルが新規に作成されます。
2. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［アクション］－［記録］を選択する。**
IE シナリオの記録が開始されます。
3. **［IE Recorder］（メイン）画面のアドレスバーに，記録を開始する URL を入力し，Enter キーを押す。**
IE ウィンドウに Web ページが表示されます。
4. **IE ウィンドウで，表示された Web ページを操作する。**
操作内容が IE シナリオとして記録されます。記録内容は［操作リスト］に表示されます。1 回の操作だけでなく，複数の操作から成る一連の作業も，IE シナリオとして記録できます。
5. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［アクション］－［停止］を選択する。**
IE シナリオの記録が停止されます。

（4）スコープの設定

記録した IE シナリオを，スコープ単位で部分的に計測する場合は，スコープの起点と終点を設定します。

スコープの起点と終点を，設定または削除する手順を次に示します。

(a) スコープの起点の設定

スコープの起点を設定する手順を次に示します。

1. **[IE Recorder]（メイン）画面の［操作リスト］で，スコープの起点にしたい操作を選択する。**
2. **[IE Recorder]（メイン）画面で，［スコープ］－［起点の設定］を選択する。**
   ［スコープ起点の設定］画面が表示されます。
3. **［スコープ起点の設定］画面で，起点を設定したいスコープ ID を選択する。**
4. **[OK] ボタンをクリックする。**
   ［操作リスト］で選択した操作の前に，「START［**スコープ名**］」が表示されます。

(b) スコープの終点の設定

スコープの終点を設定する手順を次に示します。

1. **[IE Recorder]（メイン）画面の［操作リスト］で，スコープの終点にしたい操作を選択する。**
2. **[IE Recorder]（メイン）画面で，［スコープ］－［終点の設定］を選択する。**
   ［スコープ終点の設定］画面が表示されます。
3. **［スコープ終点の設定］画面で，終点を設定したいスコープ ID を選択する。**
4. **[OK] ボタンをクリックする。**
   ［操作リスト］で選択した操作の後に，「END［**スコープ名**］」が表示されます。

(c) スコープの解除

スコープの設定を解除する手順を次に示します。

1. **[IE Recorder]（メイン）画面の［操作リスト］で，解除したいスコープの起点「SCOPE スコープ ID（スコープ名）の起点」または終点「SCOPE スコープ ID（スコープ名）の終点」を選択する。**
2. **[IE Recorder]（メイン）画面で，［スコープ］－［スコープの解除］を選択する。**
   設定されているスコープの起点と終点の両方が解除されます。

(5) IE シナリオのオプション設定

記録した IE シナリオのオプションを設定することで，最適な IE シナリオの再生または計測ができるようになります。

(a) タグの特定

IE シナリオを記録したあとで，画面のレイアウト変更などを行ったために，HTML ファイル中の操作対象となるタグの属性や記述位置などが変更されることがあります。そのような場合に，IE シナリオファイルを修正しなくても IE シナリオの計測または再生ができるように，操作対象となるタグの特定方法を指定できます。

操作対象となるタグの特定方法を設定する手順を次に示します。

1. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［編集］－［操作の設定］を選択する。**
   ［操作の設定］画面が表示されます。
2. **［操作の設定］画面の［操作対象］タブで，記録する Web ページに適したタグの特定方法を設定し，［OK］ボタンをクリックする。**

操作対象となるタグの特定方法を次に示します。

インナーテキスト

開始タグと終了タグに囲まれたインナーテキストから，操作対象となるタグを特定します。インナーテキストを指定すると，IE シナリオの再生時に，指定したインナーテキストを含むタグが選択され，実行されます。
HTML ファイル中のインナーテキストと画面表示の例を次に示します。

図 3-3　HTML ファイル中のインナーテキストと画面表示の例

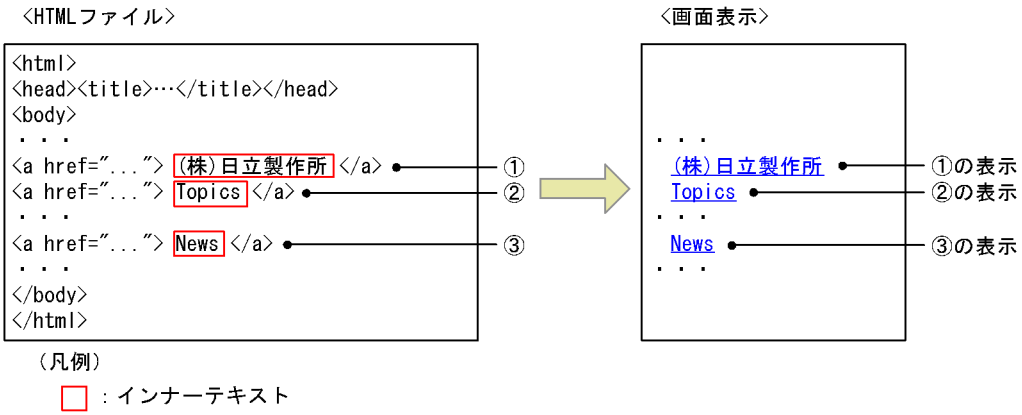
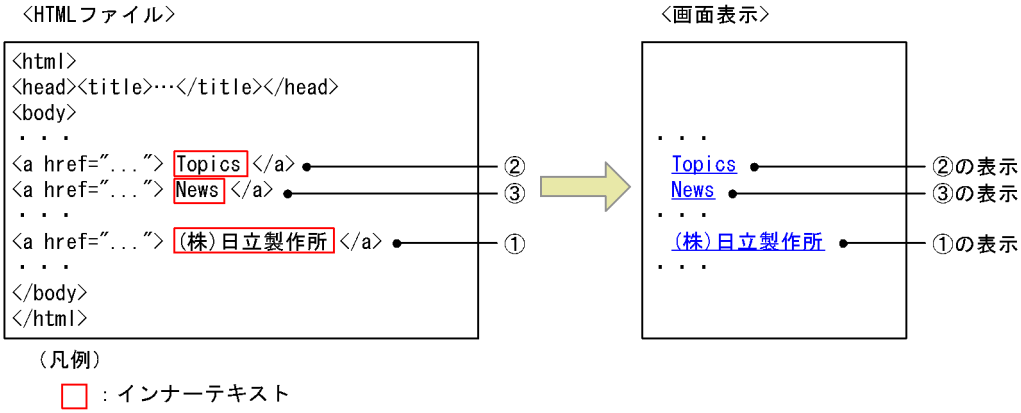


図 3-3 の HTML ファイルの場合，「a」タグのインナーテキスト「（株）日立製作所」をタグの特定条件に指定すると，IE シナリオファイル再生時に，「（株）日立製作所」を含むタグが選択され，実行されます。
HTML ファイルを変更した場合の，HTML ファイル中のインナーテキストと画面表示の例を次に示します。

図 3-4　HTML ファイル中のインナーテキストと画面表示の例（変更後）



インナーテキストを指定する方法では，図 3-4 のように「(株)日立製作所」を含むタグの位置を変更しても，「(株)日立製作所」と同じインナーテキストを持つタグを検索して再生するため，IE シナリオファイルを記録し直さないで正しく再生できます。

属性

タグに含まれる属性の値から，操作対象となるタグを特定します。
属性を指定すると，IE シナリオの再生時に，指定した属性の値を含むタグが選択され，実行されます。指定した属性の値を含むタグが複数ある場合，最初に記述されているタグが選択され，実行されます。属性の値が同じタグが複数ある場合は，最初に記述されているタグが選択され，実行されます。
HTML ファイル中の属性と画面表示の例を次に示します。

図 3-5　HTML ファイル中の属性と画面表示の例

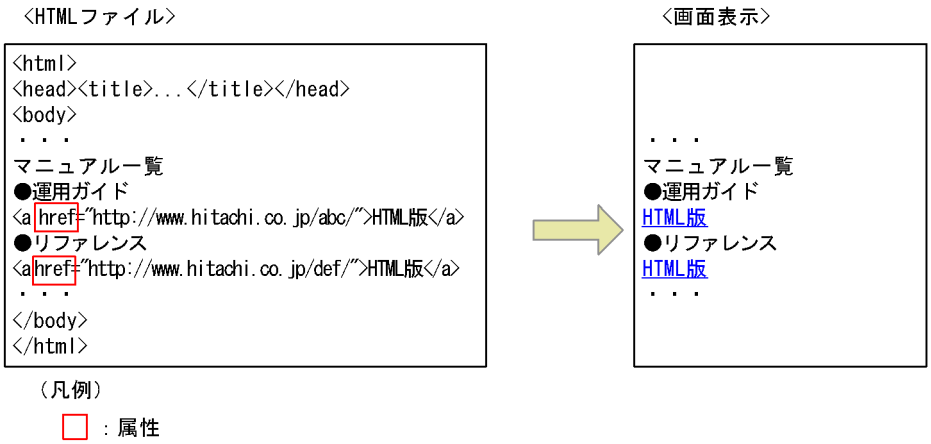


図 3-5 の HTML ファイルの場合，「a」タグのインナーテキスト「HTML 版」をタ

グの特定条件に指定すると，「HTML 版」は重複しているため，IE シナリオを正しく再生できません。「a」タグの属性「href」をタグの特定条件に指定すると，IE シナリオファイル再生時に，IE シナリオ記録時の属性「href」の値を含むタグのうち最初に記述されているタグが選択され，実行されます。

タグの位置

インナーテキストや属性の値が同じタグのうち，HTML ファイルの先頭から数えて何番目にあるかというタグの位置から，操作対象となるタグを特定します。
タグの位置を指定すると，IE シナリオの再生時に，インナーテキストや属性の値が同じタグのうち，指定した位置にあるタグが選択され，実行されます。
HTML ファイル内に同じインナーテキストや属性の値を持つタグがあって，記録した IE シナリオが再生できない場合は，タグの位置を指定すると，IE シナリオが正しく再生できるようになります。

HTML ファイル内に同じインナーテキストや属性の値があるため，タグの特定条件を絞り込みたい場合は，インナーテキスト，属性およびタグの位置から，複数の項目を指定します。複数の項目を指定すると，IE シナリオの再生時に，指定したすべての条件に一致するタグが選択され，実行されます。

タグの位置を指定するときは，条件に一致するタグが HTML ファイルの先頭から数えて何番目にあるかを指定してください。

設定項目の詳細については，「6.2.2(2) ［操作対象］タブ」を参照してください。

(b) レスポンス判定

IE シナリオの再生または計測を実行するときに，レスポンスが正当かどうかを判定できます。レスポンスの判定情報は，操作ごとに定義します。各操作に対応して受信したすべてのページに対して判定します。レスポンスの判定条件には，HTML ファイル内にある文字列を指定します。

指定した判定条件と一致する HTML ファイルが表示された場合は，正当なレスポンスと判定されて，再生または計測が続行されます。指定した判定条件と一致しない HTML ファイルが表示された場合は，不当なレスポンスと判定されて，再生または計測が中断されます。

レスポンスの判定条件を設定する手順を次に示します。

1. **［IE Recorder］（メイン）画面の［操作リスト］で，スコープの起点となる操作を選択する。**
2. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［編集］－［操作の設定］を選択する。**
   ［操作の設定］画面が表示されます。
3. **［操作の設定］画面の［レスポンス判定］タブで，記録する Web ページに適したレスポンス判定を設定し，［OK］ボタンをクリックする。**

設定項目の詳細については，「6.2.2(3) ［レスポンス判定］タブ」を参照してください。

(6) IE シナリオの確認

記録した IE シナリオを再生して，正しく計測されるかどうか確認できます。IE シナリオの確認に使用できる機能を次に示します。

- 再生
- ステップ再生
- ブレークポイントの設定
- 計測テスト

各機能について次に説明します。

(a) 再生

IE シナリオを，ブレークポイントまたは記録した操作の最後まで再生します。

［IE Recorder］（メイン）画面で，［アクション］－［再生］を選択すると，IE シナリオの再生が開始されます。

［IE Recorder］（メイン）画面で，［アクション］－［停止］を選択すると，IE シナリオの再生が停止されます。

記録した IE シナリオが正しく再生されなかった場合は，次のとおり対処してください。

- ［IE Recorder］（メイン）画面で，［編集］－［操作の設定］を選択し，［操作の設定］画面の［操作対象］タブで設定内容を変更する。
- 記録できない操作がないかどうかを確認し，記録できない操作を実行しないようにして，再度 IE シナリオを記録する。

記録できない操作については，「4.2.3(3) 記録・再生に関する注意事項」を参照してください。

(b) ステップ再生

IE シナリオの操作を一つずつ再生して，計測テストができます。

［IE Recorder］（メイン）画面で，［アクション］－［ステップ再生］を選択すると，IE シナリオの操作が一つずつ再生されます。

(c) ブレークポイントの設定

IE シナリオの再生時に，ブレークポイントに設定した位置で，一時的に再生を停止させ，操作の確認やスコープの設定ができます。

ブレークポイントを設定する手順を次に示します。

1. **［IE Recorder］（メイン）画面の［操作リスト］で，一時停止する操作を選択する。**
2. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［アクション］－［ブレークポイントの設定］を選**

択する。

ブレークポイントを解除する手順を次に示します。

1. **［IE Recorder］（メイン）画面の［操作リスト］で，設定済みのブレークポイントを選択する。**
2. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［アクション］－［ブレークポイントの解除］を選択する。**

(d) 計測テスト

IE シナリオを，記録した操作の最後まで再生します。IE シナリオの再生が終了すると，再生結果を［再生レポート］画面に表示します。［再生レポート］画面の詳細については，「6.2.8 ［再生レポート］画面」を参照してください。

［IE Recorder］（メイン）画面で，［アクション］－［計測テスト］を選択すると，IE シナリオの計測テストが開始されます。

記録した IE シナリオが正しく再生されなかった場合は，［再生レポート］画面の［操作の再生結果］に表示される情報を基に対処してください。

(7) IE シナリオの保存

記録または編集した IE シナリオを保存する手順を次に示します。

1. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［ファイル］－［名前を付けて保存］を選択する。**
   ［名前を付けて保存］画面が表示されます。
2. **［ファイル名］を指定して［保存］ボタンをクリックする。**
   IE シナリオが IE シナリオファイルに保存されます。

注

`jp1pc¥agtv¥probe¥iescena` フォルダ以外に IE シナリオファイルを保存する場合は，保存先フォルダに `iescena.dtd` をコピーしておいてください。

3.4.2 計測条件の定義

IE シナリオを PFM - Agent for Service Response で計測するには，IE シナリオファイル名，計測間隔，およびタイムアウト時間などの計測条件を，PFM - Agent for Service Response に登録する必要があります。初めて PFM - Agent for Service Response を利用する場合など，PFM - Agent for Service Response で計測を体験したいときには，IE Recorder の簡易登録機能を使用して，計測条件を簡単に登録できます。なお，計測条件を簡易登録する場合は，PFM - Agent for Service Response を停止する必要があります。

計測間隔やタイムアウト時間などの計測条件を任意に設定したい場合や，PFM - Agent for Service Response を停止したくない場合には，PFM - Web Console を使用して，計測条件を計測条件登録ファイル（`esptask.xml`）に登録してください。

ここでは，IE シナリオの計測項目および計測条件の簡易登録について説明します。

（1） 計測項目

IE シナリオの計測項目を次の表に示します。

表 3-4　IE シナリオの計測項目

計測対象サービス	計測項目
IE シナリオ （IE シナリオ全体 / スコープごと）	総再生所要時間

計測項目の詳細については，「9.　レコード」を参照してください。

（2） 計測条件登録ファイル（esptask.xml）への簡易登録

開いている IE シナリオファイルを計測対象とする計測条件を，計測条件登録ファイル（esptask.xml）に簡易登録できます。

注意事項

計測条件を簡易登録する前に，必ず PFM - Agent for Service Response を停止してください。

IE シナリオの計測条件を計測条件登録ファイルに簡易登録する手順を次に示します。

1. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［ツール］ － ［計測条件の簡易登録］を選択する。**
   IE シナリオの計測条件が，計測条件登録ファイルに登録されます。
2. **［IE Recorder］（メイン）画面で，［ツール］ － ［計測条件登録ファイルの編集］を選択する。**
   計測条件登録ファイルに登録した内容を確認または編集できます。ただし，［IE Recorder］（メイン）画面で計測条件登録ファイルを編集するときは，PFM - Agent for Service Response を停止する必要があるので，PFM - Web Console から編集することを推奨します。

PFM - Web Console から計測条件登録ファイルを編集する手順については，「3.7.3　タスク情報の設定」を参照してください。

計測条件登録ファイルの詳細については，「7.3　計測条件登録ファイル（esptask.xml）」を参照してください。

3.4.3　定義情報の反映

PFM - Web Console を使用して計測条件を追加，変更または削除した場合，定義情報を有効にするには，PFM - Web Console から定義情報を読み込む必要があります。PFM -

Web Console から定義情報を読み込む方法については,「3.7.4　タスク情報の反映」を参照してください。

次の場合，定義情報を有効にするには，PFM - Agent for Service Response を再起動して，定義情報を読み込ませる必要があります。

- 直接，計測条件登録ファイル（esptask.xml）を編集して計測条件を追加，変更または削除した場合
- IE シナリオ定義を変更・削除した場合

PFM - Web Console から定義情報を読み込むと，定義情報が失われるおそれがあります。

PFM - Agent for Service Response を起動および停止する方法については,「4.1　PFM - Agent for Service Response の起動と終了」を参照してください。

定義情報を反映すると，計測が開始されます。

3.5　Web トランザクションを計測するための定義

Web トランザクションを計測する場合は，次の設定が必要です。

- Web トランザクションの定義
- パスワードの登録
- 計測条件の定義
- 証明書ファイルの登録（任意）
- 定義情報の反映
- 動的セッション管理対応のための定義（任意）

3.5.1　Web トランザクションの定義（Web トランザクションファイルの作成）

Web トランザクションファイルを作成し，一連のトランザクションでアクセスする Web ページのフレームごとに，URL や Web 認証，プロキシ利用などの情報を定義します。

Web トランザクションファイルを作成するには，次の二つの方法があります。

- Web Recorder を使用する
  Web トランザクションの定義量が多い場合，Web Recorder を使用して Web トランザクションファイルを作成します。
- 直接 Web トランザクションファイルを編集する
  Web トランザクションの定義量が少ない場合は，直接 Web トランザクションファイルを編集することもできます。
  Web トランザクションファイルは，次のフォルダに格納しておく必要があります。
  ファイル名は任意，拡張子は .xml です。なお，このフォルダの配下にある拡張子が xml のファイルは，すべて Web トランザクションファイルとして扱われます。

  Web トランザクションファイル格納先フォルダ
  インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥webtrans
  Web トランザクションファイルの書式については，「7.5　Web トランザクションファイル」を参照してください。

ここでは，Web Recorder を使用した Web トランザクションファイルの作成方法について説明します。

(1) Web トランザクションファイル作成の流れ

Web Recorder には，次の二つのモードがあります。

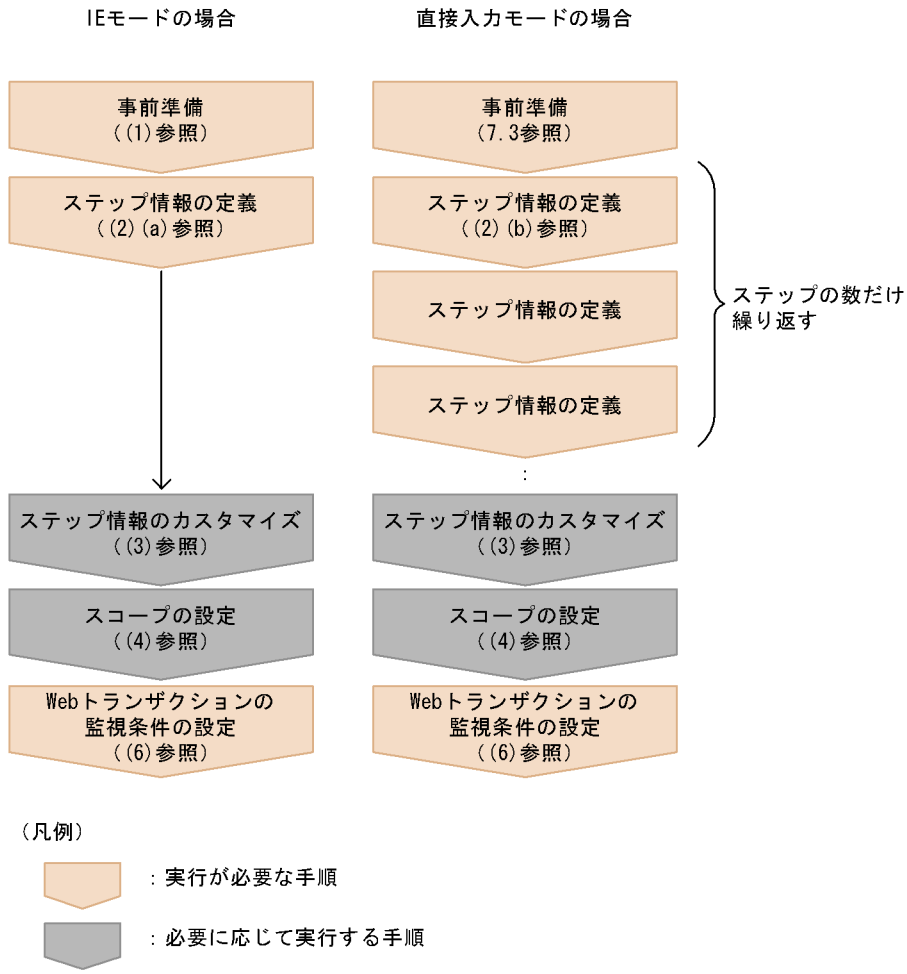
- IE モード
  Web Recorder から IE の画面をウィンドウに呼び出し，そのウィンドウ上で実行する

ブラウザー操作を記録することによって Web トランザクションを定義するモードです。最初にアクセスする URL を入力することで IE 画面を表示できます。

- 直接入力モード
  IE の画面を使用しないで，直接 URL を入力することで Web トランザクションを定義するモードです。

それぞれのモードでの，Web トランザクション定義の流れを次に示します。各項目の内容については，括弧内の個所を参照してください。

図 3-6　Web トランザクション定義の流れ



Web Recorder を使って Web トランザクションを定義する手順を説明します。

Web トランザクション定義の事前準備

Web トランザクションの定義を開始する前に，Web トランザクションとして定義する一連の処理を決定しておいてください。また，IE モードで定義する場合は最初に

アクセスするURLを，直接入力モードで定義する場合はアクセスするすべてのURLを控えておいてください。

(2) ステップ情報の定義

Webトランザクションでアクセスするページの情報をステップ情報として定義します。Web Recorderには，IEモードと直接入力モードの二つの定義モードがあり，それぞれのモードによってステップ情報の定義方法は異なります。

- IEモードの場合
  ［Web Recorder］（メイン）画面の［IEウィンドウ］でブラウザー操作を行うことによってステップ情報を自動記録します。
- 直接入力モードの場合
  アクセスするページのステップ情報の一つ一つを手入力で定義していきます。

ステップ情報の項目一覧と，IEモードの場合に自動記録される項目および直接入力モードの場合に設定が必要な項目を次の表に示します。

表3-5 ステップ情報の項目一覧と必須項目

項目		IEモード	直接入力モード
URL		自動記録	設定必須
タイトル		自動記録	－
フレーム名		自動記録	－
文字セット		－	－
リクエスト情報の文字セット		－	－
メソッド		自動記録	設定必須
Content-Type		自動記録	＿※6
メッセージボディ		自動記録	＿※6
Cookie		－	－
Web認証	Web認証を行う	－	－
	Web認証ユーザー名	＿※1	＿※7
	パスワードユーティリティを使用	－	－
	Web認証パスワード	＿※2	＿※8
プロキシ	プロキシ設定	－	－
	プロキシホスト名	＿※3	＿※9
	プロキシポート番号	＿※3	＿※9
	プロキシ認証を行う	－	－
	プロキシユーザー名	＿※4	＿※10

項目		IE モード	直接入力モード
	パスワードユーティリティを使用	―	―
	プロキシパスワード	＿※5	＿※11
レスポンス判定条件		―	―
可変文字列		―	―

（凡例）

―：自動記録されない，または設定が必須でない項目。

注※ 1

Web 認証をする場合は直接入力が必要。

注※ 2

Web 認証をする場合で，かつパスワードユーティリティを使用しない場合は直接入力が必要。

注※ 3

プロキシの設定で［このプロパティの値を使用］を選択した場合は直接入力が必要。

注※ 4

プロキシ認証をする場合は直接入力が必要。

注※ 5

プロキシ認証をする場合で，かつパスワードユーティリティを使用しない場合は直接入力が必要。

注※ 6

POST メソッドを使用する場合は必須項目。

注※ 7

Web 認証をする場合は必須項目。

注※ 8

Web 認証をする場合で，かつパスワードユーティリティを使用しない場合は必須項目。

注※ 9

プロキシの設定で［このプロパティの値を使用］を選択した場合は必須項目。

注※ 10

プロキシ認証をする場合は必須項目。

注※ 11

プロキシ認証をする場合で，かつパスワードユーティリティを使用しない場合は必須項目。

各モードの定義方法について説明します。

(a) IE モードの場合

IE モードでステップ情報を記録する手順を次に示します。

1. **Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［Web Recorder］を選択する。**

［Web Recorder］（メイン）画面が表示されます。

2. **［トランザクション］－［新規作成］を選択する。**
［Web トランザクションの作成］画面が表示されます。

3. **［Web トランザクションファイル名］に保存先の Web トランザクションファイル名を，［Web トランザクション名］に定義する Web トランザクションの名前を指定し，［OK］ボタンをクリックする。**

注意事項

Web トランザクション名は，同じ Web トランザクションファイルの中で一意の名称を指定してください。また，半角の「|（ストローク）」は使用しないでください。

4. **［Web Recorder］（メイン）画面の［アドレス］に，最初にアクセスするページの URL を入力し，［移動］ボタンをクリックする。**
［IE ウィンドウ］に入力した URL のページが表示されます。

5. **［IE ウィンドウ］でブラウザー操作を行う。**
アクセスした URL に関するステップ情報が自動記録され，［URL リスト］にアクセス先 URL が追加されます。

6. **必要に応じてステップ情報のカスタマイズ，スコープの設定を行う。**
ステップ情報のカスタマイズは「(3)　ステップ情報のカスタマイズ」を，スコープの設定は「(4)　スコープの設定」を参照してください。

7. **必要に応じて計測条件を設定する。**
計測条件の設定については，「(6)　トランザクションの設定」を参照してください。

8. **［トランザクション］－［上書き保存］を選択する。**
Web トランザクションファイルは，次のフォルダに格納されます。
インストール先フォルダ `¥agtv¥probe¥webtrans`

注意事項

IE モードでの定義の際は，次の点に注意してください。

- ［IE ウィンドウ］の動作は，PFM - Agent for Service Response がインストールされているマシンの IE の設定などに依存します。したがって，Web トランザクションを定義する際，IE の動作に影響を与えるようなアプリケーションが動作している環境下では，Web Recorder は IE が受ける影響と同じ影響を受けることになります。
- ［IE ウィンドウ］内に表示されるページで，ウィンドウのリサイズなど，ウィンドウ自体を制御するスクリプトを実行した場合，正常に動作しないことがあります。なお，新規にウィンドウを起動してページを表示するようなスクリプトは実行できます。ただし，この場合のウィンドウは［IE ウィンドウ］と同じ形式で表示され，通常 IE にあるようなメニューなどは表示されません。［IE ウィンドウ］から起動した新規のウィンドウでも，そのウィンドウを使用してステップ情報の

記録を続けることはできます。

(b) 直接入力モードの場合

直接入力モードでステップ情報を定義する場合の手順を次に示します。

1. Windows **の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［**Performance Management**］－［**Agent Option for Service Response**］－［**Web Recorder**］を選択する。**
［Web Recorder］（メイン）画面が表示されます。

2. **［トランザクション］－［新規作成］を選択する。**
［Web トランザクションの作成］画面が表示されます。

3. **［**Web **トランザクションファイル名］に保存先の** Web **トランザクションファイル名を，［**Web **トランザクション名］に定義する** Web **トランザクションの名前を指定し，［**OK**］ボタンをクリックする。**

   注意事項

   Web トランザクション名は，同じ Web トランザクションファイルの中で一意の名称を指定してください。また，半角の「|（ストローク）」は使用しないでください。

4. **［**Web Recorder**］（メイン）画面で［編集］－［最後に追加］を選択する。**
［プロパティ］画面が表示されます。

5. **［**URL**］にアクセスするページの** URL **を入力し，必要に応じて各項目を設定する。**
［プロパティ］画面では，ステップごとの計測条件を設定します。設定項目の詳細については，「6.3.7 ［プロパティ］画面」を参照してください。

6. **［**OK**］ボタンをクリックする。**
設定したステップ情報の URL が［URL リスト］の最後に追加されます。

7. **ステップの数だけ，手順** 4 **～** 6 **を繰り返し，**Web **トランザクションでアクセスするすべてのページの情報を設定する。**

8. **必要に応じてステップ情報のカスタマイズ，スコープの設定を行う。**
ステップ情報のカスタマイズは「(3) ステップ情報のカスタマイズ」を，スコープの設定は「(4) スコープの設定」を参照してください。

9. **必要に応じて計測条件を設定する。**
計測条件の設定については，「(6) トランザクションの設定」を参照してください。

10. **［トランザクション］－［上書き保存］を選択する。**
Web トランザクションファイルは，次のフォルダに格納されます。
インストール先フォルダ `¥agtv¥probe¥webtrans`

(3) ステップ情報のカスタマイズ

IE モードで記録したステップ情報や直接入力モードで定義したステップ情報をカスタマ

イズ（ステップ情報の挿入，追加，変更，削除）する手順を次に示します。

(a) ステップ情報の挿入

ステップ情報を挿入する手順を次に示します。

1. **［Web Recorder］（メイン）画面の［URL リスト］でステップ情報を挿入したい行を選択し，［編集］－［挿入］を選択する。**
   ［プロパティ］画面が表示されます。
2. **［URL］にアクセスするページの URL を入力し，必要に応じて各項目を設定する。**
   ［プロパティ］画面では，ステップごとの計測条件を設定します。設定項目の詳細については，「6.3.7 ［プロパティ］画面」を参照してください。
3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［URL リスト］で指定した場所に，設定したステップ情報の URL が挿入されます。

(b) ステップ情報の追加

ステップ情報を追加する手順を次に示します。

1. **［Web Recorder］（メイン）画面で［編集］－［最後に追加］を選択する。**
   ［プロパティ］画面が表示されます。
2. **［URL］にアクセスするページの URL を入力し，必要に応じて各項目を設定する。**
   ［プロパティ］画面では，ステップごとの計測条件を設定します。設定項目の詳細については，「6.3.7 ［プロパティ］画面」を参照してください。
3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   設定したステップ情報の URL が［URL リスト］の最後に追加されます。

(c) ステップ情報の変更

ステップ情報の設定内容を変更する手順を次に示します。

1. **［Web Recorder］（メイン）画面の［URL リスト］で編集したいステップの URL を選択し，［編集］－［プロパティ］を選択する。**
   ［プロパティ］画面が表示されます。
2. **設定を変更する。**
   ［プロパティ］画面の設定項目については，「6.3.7 ［プロパティ］画面」を参照してください。
3. **［OK］ボタンをクリックする。**
   URL を変更した場合は，［URL リスト］に表示されていた URL が変更されます。

(d) ステップ情報の削除

ステップ情報を削除する手順を次に示します。

1. **［Web Recorder］（メイン）画面の［URL リスト］で削除したステップの URL を選択し，［編集］－［削除］を選択する。**

［URL リスト］で選択していたステップ情報の URL が削除されます。

(4) スコープの設定

任意のページ遷移について監視する場合は，ページ遷移の範囲にスコープの起点と終点を設定します。スコープの起点と終点を設定，または削除する手順を次に示します。

(a) スコープの起点の設定

1. **［Web Recorder］（メイン）画面の［URL リスト］で，スコープの起点にしたい URL を選択する。**
2. **［スコープ起点］ボタンをクリックする。**
   ［スコープの選択］画面が表示されます。［スコープの選択］画面の［スコープ一覧］には，起点が設定されていないスコープ名（スコープ 1 ～スコープ 8）が表示されます。
3. **［スコープ一覧］から起点を設定したいスコープ名を選択する。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［URL リスト］で選択した URL の前に，「START **スコープ名**」が表示されます。

(b) スコープの終点の設定

1. **［Web Recorder］（メイン）画面の［URL リスト］で，スコープの終点にしたい URL を選択する。**
2. **［スコープ終点］ボタンをクリックする。**
   ［スコープの選択］画面が表示されます。［スコープの選択］画面の［スコープ一覧］には，起点が設定されていて，かつ終点が設定されていないスコープ名（スコープ 1 ～スコープ 8）が表示されます。
3. **［スコープ一覧］から終点を設定したいスコープ名を選択する。**
4. **［OK］ボタンをクリックする。**
   ［URL リスト］で選択した URL の前に，「END **スコープ名**」が表示されます。

(c) スコープの削除

1. **［Web Recorder］（メイン）画面の［URL リスト］で，削除したいスコープの起点（START スコープ名）または終点（END スコープ名）を選択する。**
2. **［スコープ］－［スコープ削除］を選択する。**
   起点を選択している場合は対応する終点を，終点を選択している場合は対応する起点を削除するかどうか選択するダイアログボックスが表示されます。
3. **選択している起点または終点に対応する終点または起点も削除する場合は［はい］ボタンを，選択している起点または終点だけを削除する場合は［いいえ］ボタンをクリックする。**
   ［はい］ボタンをクリックした場合は，選択したスコープの起点または終点と，それに対応する終点または起点の両方が削除されます。［いいえ］ボタンをクリックした

場合は，選択したスコープの起点または終点だけが削除されます。

(5) 既存の Web トランザクション定義を表示・編集する

既存の Web トランザクション定義を表示・編集する場合は，次の手順で既存の Web トランザクション情報を読み込みます。

1. **Windows の［スタート］メニューから［すべてのプログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［Web Recorder］を選択する。**
［Web Recorder］（メイン）画面が表示されます。

2. **［トランザクション］－［開く］を選択する。**
［Web トランザクションの選択］画面が表示されます。

3. **［Web トランザクションファイル一覧］および［Web トランザクション一覧］で表示・編集したい Web トランザクションファイル名および Web トランザクション名を選択し，［OK］ボタンをクリックする。**
［Web Recorder］（メイン）画面の各項目に，定義済みのステップ情報が表示されます。表示されたステップ情報を編集する場合は，「(3)　ステップ情報のカスタマイズ」の各手順を参照してください。

4. **編集した Web トランザクション定義を上書き保存する場合は［トランザクション］－［上書き保存］を，別の Web トランザクション定義として保存する，または別ファイルに保存する場合は［トランザクション］－［名前を付けて保存］を選択する。**
［名前を付けて保存］を選択した場合は，［Web トランザクションファイル名］および［Web トランザクション名］を指定します。
Web トランザクションファイルは，次のフォルダに格納されます。
インストール先フォルダ `¥agtv¥probe¥webtrans`

注意事項

Web トランザクション名は，同じ Web トランザクションファイルの中で一意の名称を指定してください。また，半角の「|（ストローク）」は使用しないでください。

(6) トランザクションの設定

Web トランザクション全体に対する計測条件を設定します。Web トランザクションの計測条件を設定する手順を次に示します。

1. **［Web Recorder］（メイン）画面で，［トランザクション］－［トランザクションの設定］を選択する。**
［トランザクションの設定］画面が表示されます。

2. **必要な項目について設定する。**
［トランザクションの設定］画面には，次の四つのタブがあります。

- ［トランザクション］タブ
- ［リクエスト情報］タブ
- ［デフォルトプロキシ］タブ
- ［SSL 認証］タブ

［トランザクションの設定］画面の詳細については，「6.3.6 ［トランザクションの設定］画面」を参照してください。

3. **［OK］ボタンをクリックする。**

補足事項

［デフォルトプロキシ］タブの設定は，［プロパティ］画面の［プロキシ］タブで設定する各ステップ情報のプロキシ設定のデフォルトになります。各ステップのステップ情報の定義でプロキシに関する設定を省略した場合は，［トランザクションの設定］画面の［デフォルトプロキシ］タブで設定した値が使われます。また，各ステップで設定した場合は，ステップごとの設定が優先されます。

3.5.2 パスワードの登録

Web トランザクションでアクセスする Web ページのうち，認証を要求する Web ページで使用するパスワードやプロキシのパスワードを登録します。

表 3-6 パスワード登録が必要なインターネットサービス

サービス	条件	登録するパスワード
Web トランザクション	認証を要求する Web ページ	Web ページのパスワード
	認証を要求するプロキシ利用	プロキシのパスワード
	クライアント認証実行時	秘密鍵のパスワード

パスワードの登録には，パスワードユーティリティ（esppasswd コマンド）を使用します。登録したパスワードは，文字列変換された形式でパスワードファイル（esp.pdb）に格納されます。

パスワードファイルの格納先

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥passwd

パスワードユーティリティの使用方法については「10. コマンド」の「esppasswd（パスワードを登録・変更・削除する）」を参照してください。

3.5.3 計測条件の定義

計測する Web トランザクションファイル名，計測間隔およびタイムアウト時間などは，PFM - Web Console を使用して，計測条件登録ファイル（esptask.xml）で定義します（直接編集することもできます）。Web トランザクションの計測項目と計測条件登録ファイルに定義する項目について説明します。

（1） 計測項目

Web トランザクションの計測項目を次の表に示します。

表 3-7 Web トランザクションの計測項目一覧

計測対象サービス	計測項目
Web トランザクション （Web トランザクション全体 / スコープごと）	• 総応答時間 • セットアップ時間 • HTTP 時間 • DNS 時間 • TCP 接続時間 • サーバ処理時間 • データ転送時間 • 総データ量 • リクエスト数 • 総リソースサイズ • スループット

計測項目の詳細については，「9. レコード」を参照してください。

（2） 計測条件登録ファイル（esptask.xml）の作成

Web トランザクションの計測条件は，計測条件登録ファイル（esptask.xml）を作成し，定義します。計測条件は，計測条件 ID を付けて管理します。Web トランザクションの計測条件として，計測条件登録ファイルに定義する項目を次の表に示します。

表 3-8 Web トランザクション計測で指定できる項目

項目	説明
計測条件 ID	計測条件の識別子です。計測条件 ID 内で重複しないように設定します。
計測間隔	計測を実行する間隔を指定します。
タイムアウト	1 回の計測の制限時間を指定します。
サービス固有条件	Web トランザクションファイル名および Web トランザクション名を指定します。

計測条件登録ファイルの詳細については，「7.3 計測条件登録ファイル（esptask.xml）」を参照してください。

3.5.4 証明書ファイルの登録

Web トランザクションの計測で，サーバ認証やクライアント認証を適用する場合は，証明書ファイルの登録が必要になります。登録方法は，HTTPS プローブでの計測の場合と同じです。詳細については，「9. レコード」の「HTTPS（PI_HTPS）」を参照してください。

3.5.5 定義情報の反映

PFM - Web Console を使用して計測条件を追加，変更または削除した場合，定義情報を有効にするには，PFM - Web Console から定義情報を読み込む必要があります。PFM - Web Console から定義情報を読み込む方法については，「3.7.4　タスク情報の反映」を参照してください。

次の場合，定義情報を有効にするには，PFM - Agent for Service Response を再起動して，定義情報を読み込ませる必要があります。

- 直接，計測条件登録ファイル（esptask.xml）を編集して計測条件を追加，変更または削除した場合
- Web トランザクション定義を変更・削除した場合
- パスワードを変更・削除した場合
- 証明書ファイルを変更・削除した場合

PFM - Web Console から定義情報を読み込むと，定義情報が失われるおそれがあります。

PFM - Agent for Service Response を起動および停止する方法については，「4.1　PFM - Agent for Service Response の起動と終了」を参照してください。

定義情報を反映すると，計測が開始されます。

3.5.6 動的セッション管理対応のための定義

動的セッション管理に対応するため，可変文字列と代替文字列を指定します。これによって，計測時に可変文字列が代替文字列に置き換えられてリクエストが発行されます。ただし，可変文字列に Cookie を指定する場合は，次の点に注意する必要があります。

- 可変文字列に Cookie を指定し，代替文字列への置き換えを実施したリクエストの応答でリダイレクトが指示された場合，リダイレクト後のリクエストで Cookie 情報は置き換えられません。
- 可変文字列に Cookie を指定した場合，代替文字列に改行コードを含めないでください。改行コードが含まれた場合，動作は保障されません。

可変文字列と代替文字列の指定について，次に説明します。

(1) 可変文字列の指定

可変文字列には，そのステップに定義された URL，メッセージボディまたは Cookie に指定された文字列内で，動的に変化する部分を指定します。

Web Recorder を使用して Web トランザクションファイルを作成した場合，動的セッション管理の対象となっているサイトの記録を行うと，記録時に使用したセッション ID が Web トランザクションファイルに定義されます。

可変文字列には，次のどちらかを定義します。

- 記録時に使用したセッション ID を明示的に「$VAR1$」などに書き換えてから，可変文字列に「$VAR1$」を指定する（推奨）。
- 記録時に使用したセッション ID を可変文字列に指定する。

(2) 代替文字列の指定

代替文字列とは，リクエスト発行時に可変文字列に代えてリクエスト内に含める文字列です。代替文字列は，次のどれかの方法で取得できます。

- 該当するステップより前のステップで取得した HTML ファイルから取得する
- 該当するステップより前のステップで取得した HTTP ヘッダーから取得する
- 任意のコマンドの実行結果を使用する
  代替文字列を取得するために実行するコマンドを代替文字列生成コマンドといいます。

取得方法によって，代替文字列の定義内容は次のように異なります。

(a) HTML ファイルから取得する場合

代替文字列の定義には，次のすべての情報が必要です。

1. 代替文字列が含まれる HTML を取得するステップのステップ識別子
2. 代替文字列が含まれる要素を特定する情報（要素名，属性，内容の一部など）
3. 代替文字列が 2. で指定した要素のどこに存在するか（属性か，内容か）

注意事項

代替文字列を HTML ファイルから取得する場合の注意事項を次に示します。

- 指定した要素が空要素（< 要素名 ・・・/>）ではない場合，その要素の範囲は，次に現れる同じ要素の開始タグ（< 要素名 >），またはその要素の閉じタグ（</ 要素名 >）のどちらかが現れるまでです。なお，開始タグと閉じタグのどちらも現れなかった場合は，HTML ファイルの終端までです。
- 代替文字列が含まれる HTML が見つからなかった場合（上記の 1. で指定したステップで HTML 以外を指定した場合）は，可変文字列はそのままでリクエストが発行されます。
- 代替文字列が含まれる要素が見つからなかった場合は，可変文字列が空文字に置き換えられてリクエストが発行されます。
- 圧縮して送信された HTML は，代替文字列の取得対象となりません。

(b) HTTP ヘッダーから取得する場合

代替文字列の定義には，次のすべての情報が必要です。

1. 代替文字列が含まれる HTTP ヘッダーを取得するステップのステップ識別子
2. 代替文字列が含まれる HTTP ヘッダーを特定する情報（ヘッダー名，値の一部）

注意事項

代替文字列を HTTP ヘッダーから取得する場合の注意事項を次に示します。

- 指定した HTTP ヘッダーを特定する情報に該当するヘッダーが複数存在する場合は，先に受信したヘッダーが優先されます。
- 代替文字列が含まれる HTTP ヘッダーが見つからなかった場合は，可変文字列は空文字に置き換えられてリクエストが発行されます。

(c) 代替文字列生成コマンドから取得する場合

代替文字列の定義には，次のすべての情報が必要です。

1. 代替文字列生成コマンドの名称
2. 代替文字列生成コマンドに追加する引数

注意事項

代替文字列を代替文字列生成コマンドから取得する場合の注意事項を次に示します。

- 代替文字列生成コマンドへの入力について
  代替文字列生成コマンドに値を指定するインターフェースとして，引数を指定できます。引数が固定値であれば 1. の情報として指定できます。引数が動的に変化する場合は，このステップより前に定義されたステップで取得した HTML や HTTP ヘッダーの内容から切り出せます。
  2. で指定した引数は，ダブルクォーテーション (") で囲み，指定した順番で上記の 1. の情報に追加します。
  なお，代替文字列生成コマンドの標準入力に値を入力するインターフェースはありません。
- 代替文字列生成コマンドの出力について
  代替文字列生成コマンドは，標準出力に代替文字列として必要な文字列を出力する必要があります。なお，10,000 バイトを超える文字列は出力しないでください。コマンドの実行が終了しない場合があります。出力された文字列の末尾にある一つ以上の改行コードを取り除いた文字列が代替文字列になります。
- 代替文字列生成コマンドの戻り値について
  代替文字列生成コマンドの戻り値（終了ステータス）が 0 以外の場合，代替文字列生成コマンドの実行が失敗したと判断され，可変文字列が空文字に置き換えられてリクエストが発行されます。代替文字列を標準出力に正しく出力できた場合は，戻り値を 0 にする必要があります。
- 代替文字列生成コマンドは，代替文字列が必要となるたびに実行されます。
- 実行される代替文字列生成コマンドは，「Extensible Service Probe」サービスと同じ権限で実行されます。
- 代替文字列生成コマンドの実行でエラーが発生した場合は，可変文字列が空文字に置き換えられてリクエストが発行されます。

3.6 ユーザー定義サービスを計測するための定義

ユーザー定義サービスを計測する場合は，次の設定が必要です。

- ユーザー定義サービスの定義
  （ユーザー定義コマンドの作成，ユーザー定義コマンドの登録）
- 計測条件の定義

ユーザー定義サービスの定義，および計測条件の登録について説明します。

3.6.1 ユーザー定義サービスの定義

計測対象サービスの応答時間などを計測するプログラムを作成し，ユーザー定義コマンドとして登録します。

(1) ユーザー定義コマンドの作成

ユーザー定義コマンドはコマンドラインから実行するプログラムとして作成します。ユーザー定義コマンドが計測する項目は一つだけです。複数の項目について計測したい場合は，必要な数だけユーザー定義コマンドを作成してください。なお，ユーザー定義コマンドは PFM - Agent for Service Response から呼び出されるため，Administrators 権限で実行します。

(a) 入力

PFM - Agent for Service Response では，ユーザー定義コマンドに対して入力用の値を引き渡すインターフェースは提供しません。サービス固有の計測条件については，ユーザー定義コマンドの引数，ファイル読み込みなどの方法で，計測実行に必要な情報を取得させる必要があります。

(b) 出力

ユーザー定義コマンドの標準出力を計測結果とするように設定した場合，ユーザー定義コマンドは次の値を標準出力に出力する必要があります。PFM - Agent for Service Response は，標準出力に出力された値を応答性能情報として扱います。なお，ユーザー定義コマンドの実行（起動してから終了するまで）に掛かった時間を計測結果とするように設定した場合は，ユーザー定義コマンドの標準出力には何も出力しないでください。

表 3-9 ユーザー定義コマンドの出力

値	説明
応答性能情報	総応答時間，スループットなど任意の計測項目の値（倍精度実数）を文字列で出力します。

補足事項

ユーザー定義コマンドが計測した情報はレポートファイルに出力されます。ユーザー定義コマンドの実行に掛かった時間を出力する場合は，秒単位でミリ秒までの精度で出力します。なお，ユーザー定義コマンドが出力した値が範囲以外の値であったり，規定されたフォーマット以外で出力されたりした場合はエラーとして扱われ，計測を停止します。

(c) 戻り値

ユーザー定義コマンド終了時の戻り値は，計測結果を表します。次の表に示す値を戻り値として返すように作成してください。

表 3-10 ユーザー定義コマンドの戻り値

戻り値	意味
0	正常終了。 計測が正常に終了し，応答性能情報を取得。
0 以外	異常終了。 計測は失敗し，応答性能情報の値は無効。

作成したユーザー定義コマンドは，次に示す PFM - Agent for Service Response のユーザー定義コマンド格納フォルダに格納します。

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥user

なお，ユーザー定義コマンド格納フォルダ以外のフォルダに格納したコマンドを呼び出したい場合は，コマンドを呼び出すバッチファイルを作成してユーザー定義コマンド格納フォルダに格納します。

注意事項

ユーザー定義コマンドの実行は，計測条件で指定したタイムアウト時間経過後に終了します。これは，ユーザー定義コマンドの内部処理が長時間終了しない場合に，ほかのインターネットサービスの計測開始（計測用リクエストの発行）が遅延するおそれがあるためです。したがって，ユーザー定義コマンドは，計測条件に指定したタイムアウト時間内に終了させるように作成してください。

(2) ユーザー定義コマンドの登録

作成したユーザー定義コマンドをコマンド登録ファイル（espcommand.xml）に登録します。コマンド登録ファイルには，計測対象サービスの識別子となるユーザー定義サービス ID や，その他サービス固有の計測条件を定義します。コマンド登録ファイルについては，「7.6 コマンド登録ファイル（espcommand.xml）」を参照してください。

3.6.2 計測条件の定義

コマンド登録ファイル（espcommand.xml）で定義した以外の計測条件については，PFM - Web Console を使用して，計測条件登録ファイル（esptask.xml）で定義します（直接編集することもできます）。ユーザー定義サービスの計測条件として，計測条件登

録ファイルに定義する項目を次の表に示します。

表 3-11 計測条件として指定できる項目

項目	説明
計測条件 ID	計測条件の識別子です。計測条件 ID 内で重複しないように設定します。
計測間隔	計測を実行する間隔を指定します。
タイムアウト	1 回の計測の制限時間を指定します。
サービス固有条件	ユーザー定義サービス ID を指定します。

計測条件登録ファイルについては,「7.3 計測条件登録ファイル（esptask.xml)」を参照してください。

3.6.3 定義情報の反映

PFM - Web Console を使用して計測条件を追加，変更または削除した場合，定義情報を有効にするには，PFM - Web Console から定義情報を読み込む必要があります。PFM - Web Console から定義情報を読み込む方法については,「3.7.4 タスク情報の反映」を参照してください。

次の場合，定義情報を有効にするには，PFM - Agent for Service Response を再起動して，定義情報を読み込ませる必要があります。

- 直接，計測条件登録ファイル（esptask.xml）を編集して計測条件を追加，変更または削除した場合
- ユーザー定義サービスの定義を変更・削除した場合

PFM - Web Console から定義情報を読み込むと，定義情報が失われるおそれがあります。

PFM - Agent for Service Response を起動および停止する方法については,「4.1 PFM - Agent for Service Response の起動と終了」を参照してください。

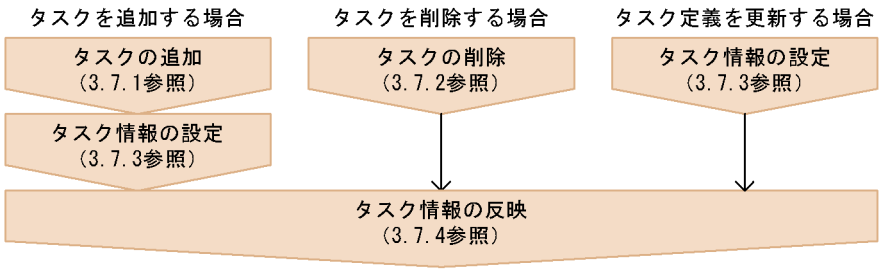
定義情報を反映すると，計測が開始されます。

3.7　PFM - Web Console からの計測条件の定義

PFM - Agent for Service Response では，IE Probe Daemon および Probe Daemon のタスク定義を XML 形式の計測条件登録ファイル（esptask.xml）に記述します。この計測条件登録ファイルは PFM - Web Console からも定義できます。

この節では，PFM - Web Console を使用して IE Probe Daemon および Probe Daemon のタスク定義を追加，削除，更新する方法について説明します。

タスク定義を追加，削除，更新する流れを次に示します。各項目の内容については，括弧内の個所を参照してください。



定義したタスクは，複数のエージェントに一括配布できます。一括配布の詳細については，「3.7.5　タスク情報の一括配布」を参照してください。

タスクの定義は，IE Probe Daemon および Probe Daemon が起動した際に計測条件登録ファイルから読み込まれますが，定義内容が正しくないと IE Probe Daemon および Probe Daemon は停止状態になり，計測を開始しません。この事象は，Web トランザクションのタスク定義で記述した Web トランザクションファイル名が存在しない場合などが該当します。PFM - Web Console からタスクを定義した際には入力値が妥当かを検証しますが，実際に計測できるかは検証しません。IE Probe Daemon および Probe Daemon の起動に失敗し，停止状態になったときは，計測条件が妥当か見直してください。

注意事項

計測条件登録ファイル（esptask.xml）を直接編集する運用と PFM - Web Console から定義する運用を併用する場合，次の点に注意してください。計測条件登録ファイルを直接編集する方法については，「7.3　計測条件登録ファイル（esptask.xml）」を参照してください。

- 計測条件登録ファイルに XML 構文エラーがあるときや不正なタスク ID のタスクが定義されているときは，PFM - Web Console から計測条件を定義できません。Agent Collector サービスおよび IE プローブ※を停止して，計測条件登録ファイル（esptask.xml）を修正し，Agent Collector サービスおよび IE プローブ※を起動してください。

注※

IE プローブを Windows サービスから起動する機能を使用している場合は，IE プローブの起動は不要です。

- PFM - Web Console に表示されるタスクは 500 個までです。計測条件登録ファイルに 501 個以上のタスクが定義されている場合，500 個目までが表示され，残りのタスクは表示されません。また，共通メッセージログに KAVF16023-W メッセージが出力されます。
  501 個以上のタスクが定義されている場合，PFM - Web Console からタスクを削除して GUI 上に表示されない状態にすると，501 個目以降のタスクが表示されるようになります。
- 追加後のタスクが 500 個を超えるタスクは PFM - Web Console から追加できません。500 個以上のタスクが表示された状態で PFM - Web Console からタスクを追加しようとすると，共通メッセージログに KAVF16023-W メッセージが表示されて追加できません。この場合，計測条件登録ファイルには登録されないで，タスクは生成されません。
- PFM - Web Console からタスクを定義すると，計測条件登録ファイルのインデントやコメントなどを整形して出力します。

参考

タスクは，サービスタイプ ID の昇順に，サービスタイプ ID が同じ場合は計測条件 ID の昇順に表示されます。サービスタイプ ID については，「9.　レコード」の「共通フィールド」を参照してください。

3.7.1　タスクの追加

PFM - Web Console を使用して IE Probe Daemon および Probe Daemon のタスク定義を追加する手順を次に示します。

1. **監視コンソールのブラウザーから PFM - Web Console にログインする。**
   ［メイン］画面が表示されます。
2. **［メイン］画面のナビゲーションフレームで［サービス階層］タブを選択する。**
   ［サービス階層］画面が表示されます。
3. **ナビゲーションフレームからエージェントを選択する。**
   ［プロパティ］画面が表示されます。

4. **[Probe]ツリーを展開し，[ADD OR DELETE A TASK]ツリーを選択する。**

5. **インフォメーションフレームの下部でプロパティを設定する。**
   次のプロパティを設定してください。デフォルトでは何も設定されていません。

プロパティ名	設定値
New Task ID	新規作成するタスクのタスク ID を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定します。タスク ID は，ユニークである必要があります。 タスクの新規作成時は必ず設定してください。
New Task Protocol	新規作成するタスクのプロトコルをセレクトリストから選択します。HTTP，HTTPS，SMTP，POP3，IMAP4，DNS，DHCP，FTP，TCP，WEBTRANS，IESCENA，USERSERV のどれかを選択できます。 タスクの新規作成時は必ず設定してください。

参考

Delete A Task はタスクの削除時に使用します（追加と同時に定義済みのタスクを削除することもできます）。Reserved はシステムが使用するプロパティであり，設定できません。

6. **インフォメーションフレームの下部の［OK］ボタンをクリックする。**
   追加に成功した場合，［Task List］ツリーの下位に，「プロトコル名 _ タスク ID」の形式の名前のツリーが生成されます。
   タスク追加直後はタスクのプロパティが定義されていないので，プロパティを設定してください。設定方法については，「3.7.3　タスク情報の設定」を参照してください。また，追加したタスクは IE Probe Daemon および Probe Daemon に反映する必要があります。反映する方法については，「3.7.4　タスク情報の反映」を参照してください。

3.7.2　タスクの削除

PFM - Web Console を使用して IE Probe Daemon および Probe Daemon のタスク定義を削除する手順を次に示します。

1. **監視コンソールのブラウザーから PFM - Web Console にログインする。**
   ［メイン］画面が表示されます。

2. **［メイン］画面のナビゲーションフレームで［サービス階層］タブを選択する。**
   ［サービス階層］画面が表示されます。

3. **ナビゲーションフレームからエージェントを選択する。**
   ［プロパティ］画面が表示されます。

4. **[Probe]ツリーを展開し，[ADD OR DELETE A TASK]ツリーを選択する。**

5. **インフォメーションフレームの下部でプロパティを設定する。**
   次のプロパティを設定してください。デフォルトは「None」です。

プロパティ名	設定値
Delete A Task	削除するタスクをセレクトリストから選択します。タスクの削除時は必ず設定してください。

参考

New Task ID および New Task Protocol はタスクの追加時に使用します（削除と同時に新しいタスクを追加することもできます）。Reserved はシステムが使用するプロパティであり，設定できません。

6. **インフォメーションフレームの下部の［OK］ボタンをクリックする。**
削除に成功した場合，タスクの状態が「Deleted」になります。削除されたタスクは，削除が IE Probe Daemon および Probe Daemon に反映されるまで，［Task List］ツリーの下に残ります。IE Probe Daemon および Probe Daemon に削除が反映されると，［Task List］からフォルダが削除されます。IE Probe Daemon および Probe Daemon に削除が反映されるまで同名の ID は追加できません。IE Probe Daemon および Probe Daemon への反映については，「3.7.4　タスク情報の反映」を参照してください。

3.7.3　タスク情報の設定

PFM - Web Console を使用して，IE Probe Daemon および Probe Daemon のタスク定義を変更または確認できます。定義を変更する場合は，次の点を留意してください。

- 値の前後に入力した，空白，タブおよび改行は削除されます。
- プロパティ値を入力する際に，XML 形式の記述を意識する必要はありません。
XML 構文で「&」「<」「>」「"」「'」を使用するには，それぞれ「& **エンティティ名** ;」の形に置き換えて記述する必要がありますが，PFM - Web Console から入力する場合は，置き換える必要はありません。例えば，ラベル名を「A&B」にしたければ，Task Label プロパティ値にそのまま「A&B」と入力してください。
- 計測条件登録ファイルの XML 文書構造の末端ノードに対してプロパティの変更を反映する場合，そのタグに含まれるコメントは削除されます。

手順を次に示します。

1. **監視コンソールのブラウザーから** PFM - Web Console **にログインする。**
［メイン］画面が表示されます。
2. **［メイン］画面のナビゲーションフレームで［サービス階層］タブを選択する。**
［サービス階層］画面が表示されます。
3. **ナビゲーションフレームからエージェントを選択する。**
［プロパティ］画面が表示されます。
4. **［Probe］ツリーを展開し，［Task List］ノードの下から，タスク定義を変更，確認し**

たいタスクを選択する。
タスクはそれぞれがフォルダとして表示されます。ノード名は「プロトコル名 _ タスク ID」です。例えば，Web トランザクションのタスク ID が 100，ラベル名が「Web レスポンス計測」である場合，ノード名は「WEBTRANS_100」になります（ラベル名はノード名として使用されません）。
Task List に表示されるタスクは，サービスタイプ ID の昇順に表示され，プロトコル内ではタスク ID の昇順に表示されます。Task List からタスクを選択すると，選択されたタスクのプロパティが表示されます。同じ画面でプロパティの値を編集できます。ただし，読み取り専用のプロパティは編集できません。
プロパティの詳細については，「付録 E.2　Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

5. **プロパティ編集後，［OK］ボタンをクリックする。**
入力データの正当性が検証されます。

検証の結果，問題がなかった場合
タスクの Status プロパティが「Valid」になります。また，計測条件登録ファイルに設定内容が反映されます。
PFM - Web Console で表示される要素（HTTP，HTTPS サービスの <MESSAGE_BODY> タグ以外）に改行が含まれている場合，その改行は削除されます。

不正なプロパティと判定された場合
タスクの Status プロパティが「Invalid」になります。共通メッセージログにメッセージが出力されます。
文字列型のプロパティで文字数が制限バイト長を超えている場合は，制限バイト長までの文字しか表示されません（制限バイト長にあたる文字が 2 バイト文字の 1 バイト目である場合は，その 2 バイト文字は表示されません）。整数型のプロパティに数値以外が入力された場合は，「0」が表示されます。

変更したタスクの情報は IE Probe Daemon および Probe Daemon に反映する必要があります。タスク情報を IE Probe Daemon および Probe Daemon に反映する方法については，「3.7.4　タスク情報の反映」を参照してください。

3.7.4　タスク情報の反映

PFM - Web Console を使用して設定したタスク定義を IE Probe Daemon および Probe Daemon に反映する手順を次に示します。

1. **監視コンソールのブラウザーから PFM - Web Console にログインする。**
［メイン］画面が表示されます。
2. **［メイン］画面のナビゲーションフレームで［サービス階層］タブを選択する。**
［サービス階層］画面が表示されます。
3. **ナビゲーションフレームからエージェントを選択する。**

［プロパティ］画面が表示されます。

4. **［Probe］ツリーを選択する。**

5. **Reload プロパティの値に** Yes **を選択し，［OK］ボタンをクリックする。**
IE Probe Daemon および Probe Daemon が再起動され，計測条件の変更が計測に反映されます。

注意事項

計測条件のプロパティの変更後に［OK］ボタンをクリック（3.7.3 項の手順 5）しなかった場合，設定の変更は IE Probe Daemon および Probe Daemon に反映されません。

6. IE Probe Daemon **および** Probe Daemon **の状態を確認する。**
IE Probe Daemon および Probe Daemon の状態は，PFM - Web Console から確認できます。

IE Probe Daemon **の状態**

PFM - Web Console から IE Probe の IE Probe Status プロパティとして確認できます。Unknown が表示された場合は，プロパティを再取得してみてください。

IE Probe Status **の値**	**サービスの状態**
Active	IE Probe Daemon が開始，または停止処理中。
Inactive	IE Probe Daemon が停止，または開始処理中。
Unknown	状態の取得に失敗。
Reloading	Reload 処理中。

Probe Daemon **の状態**

PFM - Web Console から Probe の Probe Status プロパティとして確認できます。Unknown が表示された場合は，プロパティを再取得してみてください。

Probe Status **の値**	**サービスの状態**
Active	Probe Daemon が開始，または停止処理中。
Inactive	Probe Daemon が停止，または開始処理中。
Unknown	状態の取得に失敗。
Reloading	Reload 処理中。

7. **各タスクの** Status **プロパティが** Applied **であることを確認する。**
Status プロパティは，タスクの編集，反映状態を表しています。Status プロパティの値と状態の意味，および各状態の対処方法を次の表に示します。

表 3-12 Status プロパティの値と状態の意味，および各状態の対処方法

状態名	状態の意味	対処方法
Applied	設定が IE Probe Daemon および Probe Daemon に反映されている状態。	対処不要。
Deleted	削除が指定されたが，IE Probe Daemon および Probe Daemon には反映されていない状態。この状態のタスクはプロパティを変更しても，すべて無効となり反映されない。IE Probe Daemon および Probe Daemon に反映されるまで，同じ ID のタスクは追加できない。	1. Reload を Yes に設定し，［OK］ボタンをクリックする。 タスクが Task List から消え，同一 ID のタスクを追加できるようになる。
Initial	タスクが新規作成されてから，初めに値を設定して［OK］ボタンがクリックされるまでの間の状態。	1. すべての入力必須プロパティに有効な値を入力し，［OK］ボタンをクリックする。 Valid 状態になる。 2. Reload を Yes に設定し，［OK］ボタンをクリックする。 IE Probe Daemon および Probe Daemon に変更が反映されれば，Applied 状態になる。
Invalid ※	不正な値が設定されたプロパティがある状態。	1. 不正なプロパティに有効な値を入力し直し，すべての必須プロパティに有効な値が入力されている状態にして［OK］ボタンをクリックする。 Valid 状態になる。 2. Reload を Yes に設定し，［OK］ボタンをクリックする。 IE Probe Daemon および Probe Daemon に変更が反映されれば，Applied 状態になる。
Valid	必要なプロパティがすべて正しく入力されているが，設定の変更を IE Probe Daemon および Probe Daemon に反映していない状態。	1. Reload を Yes に設定し，［OK］ボタンをクリックする。 IE Probe Daemon および Probe Daemon に変更が反映されれば，Applied 状態になる。

注※

Invalid 状態では，「Invalid」に続く大括弧内に，不正なプロパティの名称がコンマで区切られて表示されます。例えば，URL と Depth の二つのプロパティが不正である場合，「Invalid[URL, Depth]」のように表示されます。

なお，不正な値が入力されたプロパティは，共通メッセージログに出力されたメッセージからも確認できます。

3.7.5 タスク情報の一括配布

定義したタスクは，複数のエージェントに一括配布できます。一つのエージェントで，タスクのノードを追加，削除したり，プロパティを設定したりしたあと，そのエージェントを配布元としてプロパティの一括配布を行うことで，ツリー構造を含めたプロパティの設定を，配布元と配布先で一致させることができます。

一括配布できるのは，Agent フォルダ以下のプロパティ，および Probe フォルダの下位

の Task List フォルダ以下のプロパティです。プロパティの詳細については，「付録 E.2 Agent Collector サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

なお，タスク以外の設定項目（パスワードや Web トランザクションファイルなど）は配布されないため，各エージェントで定義しておく必要があります。

一括配布を行うには，PFM - Manager のバージョンが 08-11 以降であり PFM - Web Console のバージョンが 08-50 以降である必要があります。

一括配布の詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，エージェントの監視について説明している章を参照してください。

4 起動と終了

この章では，PFM - Agent for Service Response を起動および終了させる方法について説明します。また，PFM - Agent for Service Response の運用を開始する前に知っておきたい注意事項について説明します。

4.1 PFM - Agent for Service Response **の起動と終了**

4.2 **運用上の注意事項**

4.1 PFM - Agent for Service Response の起動と終了

(1) PFM - Agent for Service Response のサービス一覧

PFM - Agent for Service Response のサービスを次の表に示します。

表 4-1 サービス一覧

サービス名	用途
PFM - Agent for ServiceResponse	パフォーマンスデータを収集するサービスです。
PFM - Agent Store for ServiceResponse	パフォーマンスデータを管理するサービスです。
Extensible Service IE Probe	Internet Explorer の操作の応答を計測するプロセスを管理するサービスです。
Extensible Service Probe	通信プロトコルの応答性能を計測するためのサービスです。
Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2	統合トレース機能を利用するためのサービスです。

起動方法とアカウントは，それぞれ次のように設定されています。

- PFM - Agent for ServiceResponse
  起動方法：「手動」
  アカウント：「システム」
- PFM - Agent Store for ServiceResponse
  起動方法：「自動」
  アカウント：「システム」
- Extensible Service IE Probe
  起動方法：「手動」
  アカウント：「システム」※
- Extensible Service Probe
  起動方法：「手動」
  アカウント：「システム」
- Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2
  起動方法：「自動」
  アカウント：「システム」

注※

このサービスを使用する場合は，計測用のアカウントとパスワードを設定してください。

システム起動時に，PFM - Agent for Service Response のサービスを自動的に起動させた

い場合は，次の手順で設定してください。

サービス自動起動の設定手順

1. Windows の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択する。
2. PFM - Agent for ServiceResponse サービスを右クリックし，ポップアップメニューから［プロパティ］を選択する。
3. プロパティダイアログボックスの［スタートアップの種類］で［自動］を選択する。

(2) サービスの起動

ここでは，サービスを起動する手順を説明します。

(a) IE Probe Daemon のサービスを起動する場合

IE Probe Daemon のサービスを起動する手順を次に示します。

1. **次のどちらかを実行する。**
   - Windows の［スタート］－［プログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［IE Probe］を選択する。
   - Windows の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択し，PFM - Agent Store for Service Response サービス，PFM - Agent for Service Response サービスの順に［開始］ボタンをクリックする。※

   注※

   Windows のサービスから IE プローブを起動するための設定については，「(5) Windows サービスからの IE プローブの起動と終了」を参照してください。

(b) IE Probe Daemon 以外のサービスを起動する場合

IE Probe Daemon 以外のサービスを起動する手順を次に示します。

1. **Windows の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択する。**
2. **サービスの一覧から** PFM - Agent Store for ServiceResponse **サービス，**PFM - Agent for ServiceResponse **サービスの順に［開始］ボタンをクリックする。**

(3) サービスの停止

ここでは，サービスを停止する手順を説明します。

(a) IE Probe Daemon のサービスを停止する場合

IE Probe Daemon のサービスを停止する手順を次に示します。

1. **次のどちらかを実行する。**
   - タスクトレイに表示された［IE Probe］アイコンを右クリックし，ポップアップメニューから［終了］を選択する。

- Windows の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択し，PFM - Agent for Service Response サービス，PFM - Agent Store for Service Response サービスの順に［停止］ボタンをクリックする。※

注※
Windows のサービスから IE プローブを停止するための設定については，「(5) Windows サービスからの IE プローブの起動と終了」を参照してください。

(b) IE Probe Daemon 以外のサービスを停止する場合

IE Probe Daemon 以外のサービスを停止する手順を次に示します。

1. Windows の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択する。
2. サービスの一覧から PFM - Agent for ServiceResponse サービス，PFM - Agent Store for ServiceResponse サービスの順に［停止］ボタンをクリックする。

(4) コマンドによるサービスの起動と終了

コマンドによる起動と停止については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」を参照してください。

(5) Windows サービスからの IE プローブの起動と終了

ここでは IE Probe Daemon のサービスを Windows サービスから起動および終了させるために必要な設定について説明します。

(a) Probe 動作条件定義ファイルの設定

IE Probe Daemon のサービスを Windows サービスから起動および終了させるためには，Probe 動作条件定義ファイルの設定を変更します。

1. Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）の [General] セクションの ie_service_flag に「Y」を設定します。
   バージョンアップインストールした場合は，Probe 動作条件定義ファイルの [General] セクションに ie_service_flag が追加されないので，追加して設定を変更してください。
   Probe 動作条件定義ファイルの詳細については，「7.2　Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）」を参照してください。
   なお，Probe 動作条件定義ファイルの定義内容を有効にするには，PFM - Agent for Service Response を再起動する必要があります。

(b) 計測用アカウントの設定

Internet Explorer の操作を計測するアカウントを作成します。

(c) IE シナリオを計測する環境の設定

次の手順で，IE シナリオを計測する環境の設定を行ってください。

1. **計測用アカウントで** Windows **にログオンする。**
2. **［**Internet Explorer**］を起動し，メニューバーの［ツール］－［インターネットオプション］を選択し，［インターネットオプション］画面を表示する。**
3. **［インターネットオプション］画面で，**IE **シナリオを計測する環境を設定する。**
4. **［インターネットオプション］画面の［**OK**］をクリックする。**

(d) IE シナリオの記録

次の手順で，［IE Recorder］（メイン）画面の IE ウィンドウで Web ページを操作し，IE シナリオとして記録します。

1. **計測用アカウントで** Windows **にログオンする。**
2. **［**IE Recorder**］（メイン）画面で，［ファイル］－［新規作成］を選択する。**
   IE シナリオファイルが新規に作成されます。
3. **［**IE Recorder**］（メイン）画面で，［アクション］－［記録］を選択する。**
   IE シナリオの記録が開始されます。
4. **［**IE Recorder**］（メイン）画面のアドレスバーに，記録を開始する** URL **を入力し，**Enter **キーを押す。**
   IE ウィンドウに Web ページが表示されます。
5. IE **ウィンドウで，表示された** Web **ページを操作する。**
   操作内容が IE シナリオとして記録されます。記録内容は［操作リスト］に表示されます。1 回の操作だけでなく，複数の操作から成る一連の作業も，IE シナリオとして記録できます。
6. **［**IE Recorder**］（メイン）画面で，［アクション］－［停止］を選択する。**
   IE シナリオの記録が停止されます。

(e) IE Recorder **上での再生確認**

(d) で作成した IE シナリオを，IE Recorder で再生を実行して正しく動作することを確認してから計測を実施してください。

(f) サービスのログオンアカウントの設定

次の手順で，Extensible Service IE Probe サービスのログオンアカウントを設定してください。

1. Windows **の［スタート］－［管理ツール］－［サービス］を選択し，［サービス］画面を表示する。**

2. Extensible Service IE Probe を選択し，メニューバーの［操作］－［プロパティ］を選択し，［Extensible Service IE Probe のプロパティ］画面を表示する。
3. ［ログオン］タブの［アカウント］をチェックし，［参照］ボタンを有効にする。
4. ［アカウント］ボックスにサービスの実行アカウント名※を入力する。
   アカウント名は，［参照］ボタンを押して表示されるダイアログから入力できます。
   注※
   サービスの実行アカウント名は (e) の IE Recorder で再生確認した計測用アカウントにしてください。
5. ［パスワード］ボックスにパスワードを入力し，次にパスワードを確認して，［OK］ボタンをクリックする。

(g) サービスの起動

IE Probe Daemon のサービスを起動する手順を次に示します。

1. Windows の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択する。
2. サービスの一覧から PFM - Agent Store for ServiceResponse サービス，PFM - Agent for ServiceResponse サービスの順に［開始］ボタンをクリックする。
   Extensible Service IE Probe サービスが開始されます。

(h) サービスの停止

IE Probe Daemon のサービスを停止する手順を次に示します。

1. Windows の［コントロールパネル］から［管理ツール］－［サービス］を選択する。
2. サービスの一覧から PFM - Agent for ServiceResponse サービス，PFM - Agent Store for ServiceResponse サービスの順に［停止］ボタンをクリックする。
   Extensible Service IE Probe サービスが停止されます。

4.2 運用上の注意事項

PFM - Agent for Service Response の運用を開始するにあたって，事前に知っておきたい注意事項について説明します。

4.2.1 システムの運用に関する注意事項

(1) PFM - Agent for Service Response が動作するホストの時刻の変更

(a) 手動で時刻を設定する場合

時刻設定の手順を次に示します。

1. PFM - Agent for Service Response のプロセスを停止する。
   時刻を過去に戻す変更の場合は，この時点のシステムの時刻を控えます。
2. システムの時刻を変更する。
   時刻を過去に戻す変更の場合，変更後のシステムの時刻が手順 1. で控えた時刻を過ぎるまで待ちます。
3. 手順 1. で停止したプロセスを起動する。

注意事項

PFM - Agent for Service Response が動作するホストの時刻を手動で変更する場合は，PFM - Agent for Service Response を停止してから変更してください。

(b) NTP で時刻を調整する場合

通常，NTP で時刻を調整する場合は，アプリケーションの動作に影響を与えないように少しずつ時刻調整を繰り返し，長い時間をかけてシステムの時刻を調整できます。このような方法による時刻調整は，PFM - Agent for Service Response の動作中に実行できます。

(c) SNTP で時刻を調整する場合

通常，SNTP で時刻を調整する場合は，手動で設定する場合と同様に，1 回の設定でシステムの時刻を統一された時刻に変更しようとします。このため，システムの時刻が一度に大きく変更されるおそれがあります。このような場合には，PFM - Agent for Service Response の動作中に時刻調整が行われないようにしてください。SNTP を使用する場合には，手動で時刻を設定する場合と同様の手順で対応してください。

(d) 上記以外の方法で自動的に時刻を調整する場合

使用する時刻調整方法が，通常のアプリケーションの動作に影響を与えないことが保証されている場合には，NTP で時刻を調整する場合と同様に対応してください。保証されていない場合は，SNTP で時刻を調整する場合と同様の手順で対応してください。

(2) IE プローブの自動起動

IE プローブをスタートメニューから起動するには，計測用アカウントで Windows にログオンしている必要があります。マシンの定期的な自動リブート運用など，Windows を再起動したあとに手動でログオンできない場合は，IE プローブをスタートアップに登録して Windows に自動ログオンする運用を検討してください。IE プローブを Windows サービスから起動させる場合には，自動ログオンの設定を行う必要はありません。IE プローブを Windows サービスから起動させる方法は「4.1(5) Windows サービスからの IE プローブの起動と終了」を参照してください。

Windows Server 2003 で IE プローブをスタートメニューから起動する場合の設定手順を次に示します。

注意

ドメインに参加している環境では，次の手順による自動ログオンを設定できません。Windows に手動でログオンしてから IE Probe を起動してください。

1. **計測用アカウントを作成する。**
2. **自動ログオンを設定する。**
   設定方法については Windows のマニュアルを参照してください。
3. **手順 1 で作成した計測用アカウントの［スタートアップ］に，IE Probe を登録する。**

(3) IE プローブ使用時のセキュリティ管理

IE プローブをスタートメニューから起動するには，計測用アカウントで Windows にログオンしている必要があります。セキュリティを確保するために，次の運用を検討してください。

- マシンに対して，物理的およびソフト的なアクセス管理を行い，不正使用を防止する。
- スクリーンセーバーのパスワードロックを行い，不正使用を防止する。

4.2.2 PFM - Agent for Service Response の機能に関する注意事項

(1) 正常に計測を実行するために考慮が必要な事項

Probe 動作条件設定ファイル（`esp.conf`）で定義する IE プローブおよびプローブの計測多重度と，計測条件登録ファイル（`esptask.xml`）で定義する計測間隔およびタイムアウト時間を決定する際は，次の点について考慮する必要があります。

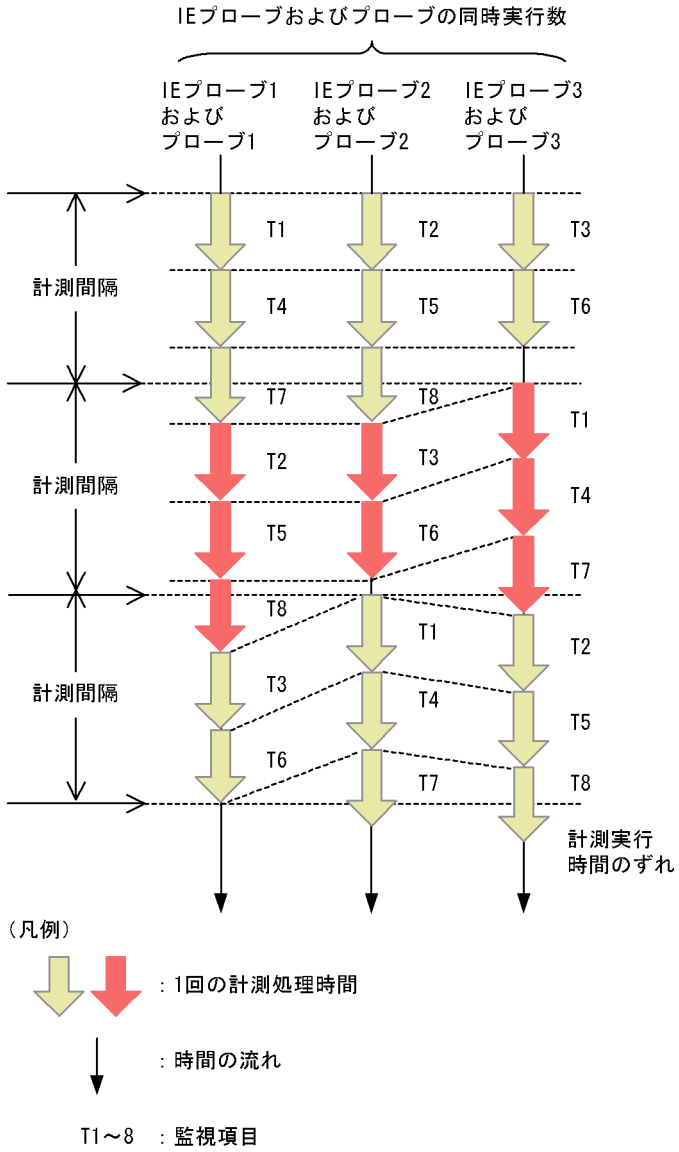
なお，設定値については，IE プローブとプローブのそれぞれに対して考慮する必要があります。

(a) IE プローブおよびプローブの計測多重度の考え方

PFM - Agent for Service Response は，複数のインターネットサービスを同時に計測できます。同時に計測できる計測条件の数は，Probe 動作条件設定ファイル（esp.conf）で IE プローブおよびプローブの計測多重度として指定しますが，同時に実行する計測条件が IE プローブおよびプローブの計測多重度より多い場合，計測多重度を超えた分の計測は逐次処理されます。

IE プローブおよびプローブの計測多重度が 3，同時に実行する計測条件の数が 8 の場合の計測例を次の図に示します。なお，計測条件はすべて同じ時間で終了するものとします。

図 4-1 同時に実行する計測条件が IE プローブおよびプローブの計測多重度より多い場合の計測例



各サービスを計測する IE プローブおよびプローブは，スレッドとして動作します。生成されるスレッドの数は，Probe 動作条件設定ファイルの IE プローブおよびプローブの計測多重度と同じです。したがって，IE プローブおよびプローブの計測多重度を指定する際は，PFM - Agent for Service Response が動作するホストの性能を考慮した上で決定してください。

(b) タイムアウト時間の考え方

タイムアウト時間は，IE シナリオの応答性能が極度に悪化した場合に，ほかのシナリオ監視に影響を与えないように監視を打ち切るために設定します。タイムアウトが発生すると，IE シナリオの応答性能の低下ではなく，異常として処理されます。タイムアウト時間は，IE シナリオごとに設定します。

1 回の計測処理時間の上限値は，計測条件で設定したタイムアウト時間になります。1 回の計測が次回の計測の開始前に終了するよう，少なくともタイムアウト時間は計測間隔よりも小さい値を設定してください。なお，タイムアウト時間に計測間隔よりも大きい値を設定した場合，タイムアウト時間と計測間隔は同じになります。

また，計測対象サービスの総応答時間は，計測対象サービスを提供するサーバに同時に到着したリクエスト数や，サーバと PFM - Agent for Service Response とを接続するネットワークの状態などによって変動します。計測がタイムアウト時間内に完了するように，正常にサービスが稼働しているときの総応答時間の最小値よりも大きい値を設定してください。

IE プローブでのタイムアウトを設定するときに推奨する手順を次に示します。

1. **運用上の最大の負荷をかけた環境で** IE Recorder **を再生し，計測時間の目安を求める。**
2. **手順** 1 **で求めた値よりも大きな値のタイムアウト値を設定して** IE **プローブで計測する。**
3. **実際の** IE **プローブでの計測結果を基に，最も大きい計測値よりも大きな値でタイムアウト値を設定する。**

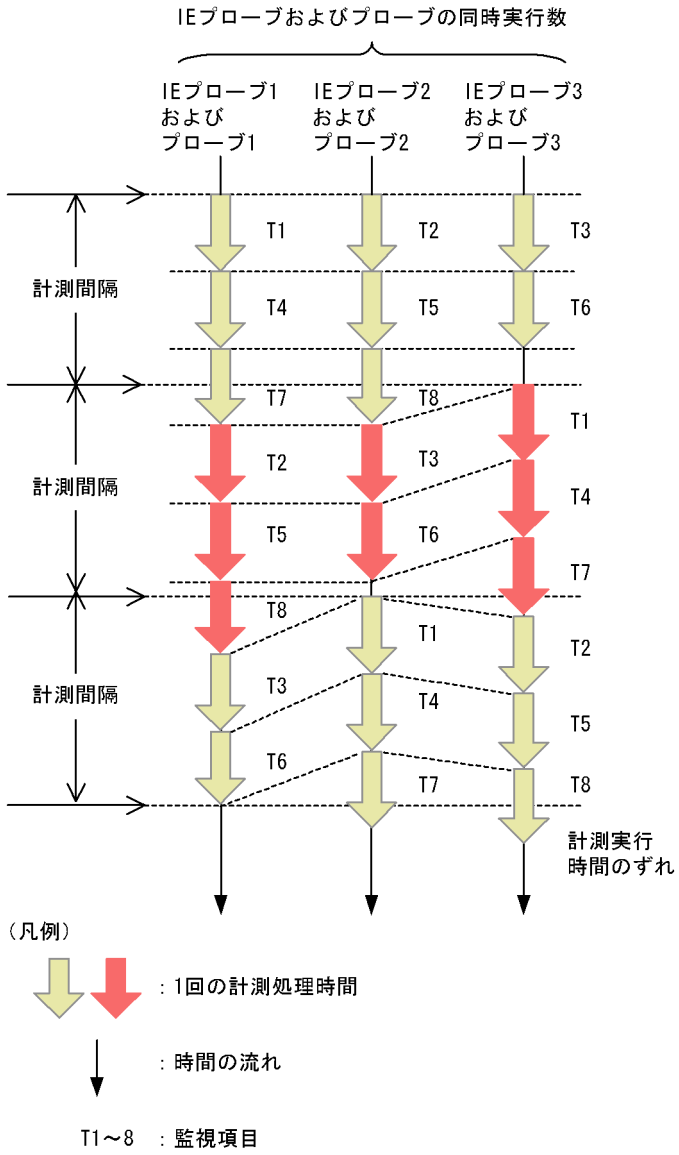
(c) 計測間隔内に計測が終了できない場合への考慮

IE プローブおよびプローブの計測多重度，タイムアウト時間，計測間隔の設定の組み合わせによっては，計測間隔内に終了できない計測処理が発生し，一定の間隔で計測を実行できなくなるおそれがあります。すべての計測条件についてタイムアウトが発生した場合でも計測間隔内に全計測条件に対する計測処理を完了し，指定された間隔で計測できるようにするには，計測条件数，IE プローブおよびプローブの計測多重度，タイムアウト時間，および計測間隔は，次の式を満たしている必要があります。

計測間隔の最小値＝
（（計測条件数＋（計測多重度－ 1））÷計測多重度）×タイムアウトの最大値
なお，除算の小数点以下は切り捨てとします。

上記の式を満たさない場合の例を次の図に示します。

図 4-2 一定の間隔で計測を実行できなくなる例



上記は，T1 から T8 までの八つの計測項目を，IE プローブおよびプローブの計測多重度が 3 の環境で計測した例になります。1 回目の T7，T8 が計測間隔内に終了しないため，2 回目の T2，T3 の計測実行時刻が遅れ，2 回目の T8 の終了ではさらに遅延が拡大します。このように，計測実行時刻のずれが計測のたびに拡大し，一定の間隔で計測を実行できなくなります。なお，このような場合は，ログファイルに警告メッセージが出力されます。IE プローブおよびプローブの計測多重度，計測間隔，タイムアウト時間の値を見直してください。

（2） Agent Collector による収集間隔の設定で考慮が必要な事項

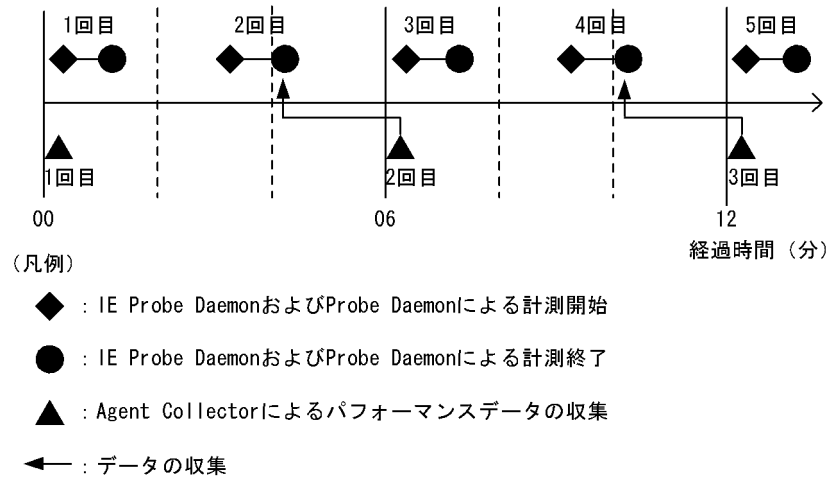
PFM - Agent for Service Response では，IE Probe Daemon および Probe Daemon が計測対象の応答時間を測定しています。計測結果はいったんレポートファイルに出力されます。Agent Collector は，レポートファイルに格納されている最新の計測結果を収集します。そのため，Agent Collector の収集間隔と IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測間隔の設定によっては，パフォーマンスデータが部分的に格納されない可能性があるので，次の点に考慮が必要です。

- Agent Collector の収集間隔と，IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測間隔の関係
  Agent Collector の収集間隔≧ IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測間隔となるように設定してください。Agent Collector の収集間隔を IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測間隔の 2 倍にすることをお勧めします。
- Agent Collector の収集間隔と，IE Probe Daemon および Probe Daemon のタイムアウト値の関係
  Agent Collector の収集間隔＞ IE Probe Daemon および Probe Daemon のタイムアウト値となるように設定してください。

＜例 1 ＞

Agent Collector の収集間隔を 360 秒（6 分），IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測間隔を 180 秒（3 分），IE Probe Daemon および Probe Daemon のタイムアウト値を 60 秒（1 分）に設定した場合の，IE Probe Daemon および Probe Daemon による計測スケジュールと Agent Collector による収集スケジュールを，次の図に示します。

図 4-3　収集スケジュールの例 1



この場合，IE Probe Daemon および Probe Daemon による 3 回目の計測結果が

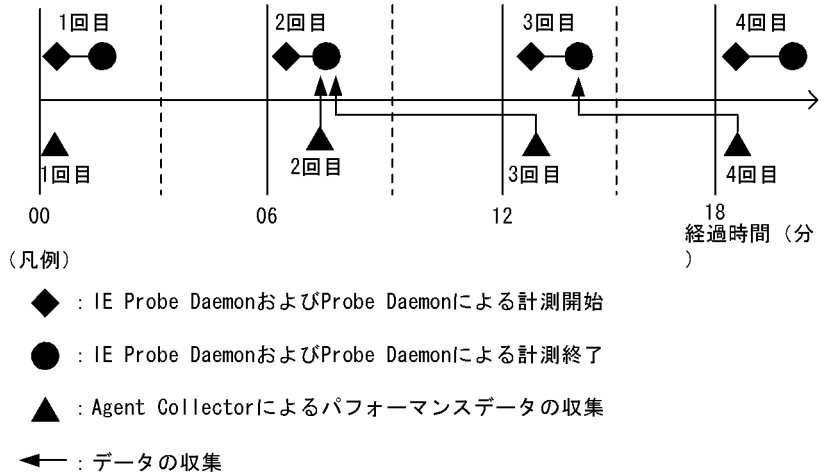
Agent Collector によって収集される前に，4 回目の計測が終了してしまうため，3 回目の計測結果は収集されません。

Agent Collector による収集間隔は，PFM - Web Console から設定します。また，IE Probe Daemon および Probe Daemon による計測間隔は，計測条件登録ファイルで設定します。Agent Collector による収集間隔の設定については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」のエージェントの監視について説明している章を参照してください。また，計測条件登録ファイルについては，「7.3　計測条件登録ファイル（esptask.xml）」を参照してください。

＜例 2＞

Agent Collector の収集間隔，IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測間隔を 360 秒（6 分），IE Probe Daemon および Probe Daemon のタイムアウト値を 60 秒（1 分）に設定した場合の，IE Probe Daemon および Probe Daemon による計測スケジュールと Agent Collector による収集スケジュールを，次の図に示します。

図 4-4　収集スケジュールの例 2



この場合，収集は次の手順で実行されます。

1. 1 回目の Agent Collector の収集時点では，IE Probe Daemon および Probe Daemon による計測が終了していないため，パフォーマンスデータは収集されません。2 回目の Agent Collector の収集から計測データが収集されます。
2. 2 回目の収集では，マシンの負荷が増加したなどの理由により，Agent Collector の収集が遅れたとします。このとき，IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測が 2 回目の Agent Collector が収集したタイミングより前に終わった場合は，Agent Collector は 2 回目の IE Probe Daemon および Probe Daemon が計測したパフォーマンスデータを収集します。
3. 3 回目の Agent Collector の収集では，2 回目の IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測結果を収集しますが，手順 2 で収集済みのために，パフォーマン

スデータの格納は行いません。
4. 4 回目の Agent Collector の収集では，3 回目の IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測結果を収集します。

この場合，3 回目に収集したパフォーマンスデータが格納されないため，2 回目から 4 回目までの 12 分に相当するデータが欠落します。このようなデータの欠落が発生した場合に，直前に収集したデータを使用して欠落データを補間することができます。
補間するかどうかの設定については，「2.4.4　欠落データ補間の設定」を参照してください。なお，データ欠落が発生しないように，Agent Collector の収集間隔，IE Probe Daemon および Probe Daemon の計測間隔を適切に設定することを推奨します。

(3) サービス監視に関する注意事項

サービス監視に関する注意事項を次に示します。

1. DHCP の計測条件で定義した IE プローブおよびプローブのポート番号がすでに使用されている場合（本製品がインストールされているマシンが，DHCP のクライアントとして動作している場合など），本製品での DHCP の監視が正しく行えないことがあります。
2. HTTP(S) および Web トランザクションの監視で，取得した HTML の meta タグで記載されている Cookie 情報は，無視されます。
3. Web トランザクション監視での埋め込みリソース取得時のエラーについて本製品では，デフォルトの設定の場合埋め込みリソースの取得で失敗しても，計測を続行します。埋め込みリソース取得時のエラーを監視失敗として扱いたい場合は，Probe 動作条件定義ファイル (esp.conf) に下記の設定を行ってください。

   セクション名：WEBTRANS Probe

   キー名：skip_emb_rsc_error

   設定する値：N
4. Web トランザクション監視での POST メソッドに対するリダイレクトは，GET メソッドで行います。
5. Web トランザクション監視で，文字セットが Shift_JIS 以外の HTML に対して，レスポンス判定を行う場合，当該ステップの文字セットを正しく指定してください。
   文字セットの指定には，Web トランザクションファイルで，
   <DEFAULT_CHARSET> タグ，または <CHARSET> タグを使用してください。
   なお，HTML の文字セットが，<DEFAULT_CHARSET> タグ，または <CHARSET> タグで指定可能な文字セット以外の場合は，レスポンス判定で使用する文字列に，多バイト文字を指定しないでください。
6. Windows ファイアウォールが有効となっている環境で FTP の監視を行う場合は，ログアウト（QUIT コマンド投入）に対する FTP サーバからの応答メッセージの受信に失敗することがあるため，Probe 動作条件定義ファイル (esp.conf) に下記の設定を

行ってください。

セクション名：FTP Probe

キー名：ignore_quit_resp_recv_error

設定する値：Y

7. Web トランザクションの監視では，発行するリクエストの URL に "#" が含まれている場合，"#" 以降の文字列をフラグメントの指定（HTML 内の特定に場所を示す）と判断し，フラグメントの部分を削除して，リクエストを発行します。定義している URL，または可変文字列に対する代替文字列に，フラグメントとの区切り以外の "#" が含まれる場合は，定義している URL の末尾に "#" を付加してください。
8. Web トランザクションの監視で，取得した HTML の文字セットが Shift_JIS 以外の場合，下記の文字がレスポンス判定情報や動的セッション管理対応の代替文字列に含まれていると計測に失敗する場合があります。
   下記の文字は，レスポンス判定情報や動的セッション管理対応の代替文字列に含まないようにしてください。

- ― ～ ‖ －
- NEC拡張文字　①②...⑳，ⅠⅡ...Ⅹ，㈱，髙﨑，ﾐﾘｷﾛ など。
- NEC選定IBM拡張文字　ⅰⅱ...ⅹ など。
- IBM拡張文字　ⅠⅡ...Ⅹ，ⅰⅱ...ⅹ，№，℡ など。

9. Web トランザクションの監視で代替文字列を含む要素を検索する場合の注意事項
   HTML から代替文字列を求める際に代替文字列が含まれる要素を検索します。
   その場合の本製品の仕様は下記のとおりとなりますのでご注意ください。
   - 指定した名前の要素に終了タグ（</ 要素名 >）が存在しない場合，開始タグ（< 要素名 >）から次に同じ名前の要素の開始タグが現れるまでを要素として扱います。同じ要素が存在しなかった場合は，HTML ファイルの終端までを要素として扱います。
   - 指定した名前の要素の終了タグ（</ 要素名 >）よりも，同じ名前の要素の開始タグ（< 要素名 >）が先に現れる場合，同じ名前の要素の開始タグまでを要素として扱います。
   - 指定した名前の要素が空要素（< 要素名 />）で，かつ属性値が引用符（「"」か「'」）で囲まれていない場合，属性値と空要素の末尾（/>）がつながっていると「/」までを属性値として扱います。
     例えば，次のような要素の場合，value 属性の値は「user01/」となります。
     <input type=hidden name=userid value=user01/>
     value 属性の値を，「user01」と扱いたい場合は，次のような記述に変更してください。
     案 1 空要素を開始タグに変更する
     <input type=hidden name=userid value=user01>
     案 2 属性値と空要素の末尾の間を半角スペースで区切る
     <input type=hidden name=userid value=user01 />
     案 3 属性値を引用符で囲む

<input type=hidden name=userid value="user01"/>

10. Web トランザクションの監視で，代替文字列に「?」，「&」および「=」などの URL 内の区切り文字として意識される文字が含まれる場合は，そのまま可変文字列と置き換え，リクエストを発行します。URL 内の区切り文字として意識される文字に対して URL エンコードを行いたい場合は，Web トランザクションファイルで <SUBSTITUTE_FORCE_URLENCODE> タグを指定してください。<SUBSTITUTE_FORCE_URLENCODE> タグの詳細については，「7.5.2　Web トランザクション計測条件定義の書式と定義内容」を参照してください。
11. POP3 の UIDL コマンドをサポートしていない POP3 サーバに対しては，計測に失敗します。一部の古いバージョンの POP3 サーバは，UIDL コマンドをサポートしていない可能性があります。
12. Web トランザクションの監視で，取得した HTML から代替文字列を検索する場合，HTML に記述されている何らかの要素の属性値に「<」や「>」が含まれていると，代替文字列の検索に失敗し，計測結果が不当になります。
13. Web トランザクションの監視で，POST メソッドを使用してファイルをアップロード（本製品から監視対象サーバへのファイル転送）するようなトランザクションは正しく監視できません。具体的には，以下の条件が重なるような定義を行った場合になります。
    - POST メソッドを使用する場合
    - メッセージボディが multipart/form-data 形式の場合
    - メッセージボディ内に Content-Disposition ヘッダーの filename 属性を指定しているパート（セパレータで区切られている部分）が存在する場合
14. 本製品と監視対象とのネットワーク接続で，JP1/Cm2/Internet Gateway Server などのプロキシ機能を経由する場合，次の項目が正しく監視できない場合があります。
    - DNS
    - DHCP
    - FTP
    - TCP

4.2.3　IE シナリオに関する注意事項

IE シナリオに関する注意事項を次に示します。

（1）IE シナリオとして記録し計測できる Internet Explorer の操作や動作

IE シナリオには，Internet Explorer を操作した Web ページの遷移，ラジオボタンの選択，チェックボックスの操作，および Web ページ上のボタンの押下など静的な画面に対する操作を記録し，この Web ページの遷移時間を計測します。

IE シナリオとして記録し，計測できる Internet Explorer の操作や動作について，IE Recorder の記録モードで操作できるかどうかを次の表に示します。

表 4-2 IE シナリオとして記録し計測できる Internet Explorer の操作や動作

分類		操作	記録	備考
マウス操作	－	－	－	マウス操作そのものは記録しないが，マウス操作によって発生するブラウザ操作などとして記録される。
	クリック	○	×	クリックは記録しないが，ボタンクリックをするとボタン操作として記録される。
	ダブルクリック	○	×	ダブルクリックは記録しないが，ボタンダブルクリックをするとボタン操作として記録される。
	副ボタンクリック	○	×	－
	ホイール上下	○	×	－
	ホイール左右	○	×	－
キーボード操作	－	－	－	キー入力そのものは記録しないが，キー入力によって発生するブラウザ操作などとして記録される。
	文字入力	○	×	入力後の値が HTML 操作などとして記録される。
	ショートカットキー入力	○	×	該当するメニュー操作として記録される。
	アクセラレートキー入力	○	×	
	その他のキー入力	○	×	－
ブラウザ操作	－	－	－	－
	ヘルプ表示 [F1]	×	×	－
	全画面－通常画面表示切り替え [F11]	×	×	[F11] のキーボード操作は無効。
	次の項目移動 [TAB]	○	×	－
	前の項目移動 [Shift]+[TAB]	○	×	－
	ホームへ移動 [Alt]+[HOME]	×	×	[Alt]+[HOME] のキーボード操作は無効。
	次のページへ移動 [Alt]+[→]	○	○	[Alt]+[→] のキーボード操作は無効。
	前のページへ移動 [Alt]+[←] [BackSpace]	○	○	[Alt]+[←] のキーボード操作は無効。
	コンテキストメニュー表示 [右クリック] [Shift]+[F10]	○	×	[Shift]+[F10] のキーボード操作は無効。

分類		操作	記録	備考
	次のフレームへ移動 [Ctrl]+[TAB] [F6]	○	×	[F6] のキーボード操作は無効。
	前のフレームへ移動 [Shift]+[Ctrl]+[TAB]	○	×	－
	上スクロール [↑]	○	×	－
	下スクロール [↓]	○	×	－
	ページ上スクロール [PageUP]	○	×	－
	ページ下スクロール [PageDown]	○	×	－
	ページ先頭へ移動 [HOME]	○	×	－
	ページ末尾へ移動 [END]	○	×	－
	ページ内検索 [Ctrl]+[F]	×	×	－
	ページ更新 [F5] [Ctrl]+[R]	○	○	[F5] および [Ctrl]+[R] のキーボード操作は無効。
	ページ強制更新 [Ctrl]+[F5]	×	×	ページのタイムスタンプが同じ場合も更新する。
	中止操作 [ESC]	×	×	[ESC] のキーボード操作は無効。
	新しいファイルを開く [Ctrl]+[O] [Ctrl]+[L]	×	×	－
	新しいウィンドウを表示 [Ctrl]+[N]	×	×	－
	現在のウィンドウを閉じる [Ctrl]+[W]	○	×	タブを閉じるで対応。
	現在のページを保存 [Ctrl]+[S]	×	×	－
	ページの印刷 [Ctrl]+[P]	×	×	－
	リンククリック操作 [Enter] [クリック]	○	○	HTML 操作のリンク操作と同じ。
	検索バー表示 [Ctrl]+[E]	×	×	－

分類		操作	記録	備考
	お気に入りバー表示 [Ctrl]+[I]	×	×	−
	履歴バー表示 [Ctrl]+[H]	×	×	−
	複数選択操作 [Ctrl]+[クリック]	○	×	−
	切り取り [Ctrl]+[X]	×	×	−
	コピー [Ctrl]+[C]	×	×	−
	貼り付け [Ctrl]+[V]	×	×	−
	すべて選択 [Ctrl]+[A]	×	×	−
ダイアログ操作	−	−	−	ダイアログ入力操作は記録しないが，入力結果を取得しておいて再生時に利用する。
	テキスト入力	○	※ 1	入力後の値を記録する。
	ボタン操作	○	※ 1	ボタン以外を操作してダイアログを閉じた場合は再生されない。※ 2
	その他の入力項目	○	※ 1	記録するが，再生時には利用しない（入力時データとしてだけ記録する）。
HTML 操作	−	−	−	入力操作，ページ遷移に関係する操作を記録する。
	リンク操作	○	○	A タグや AREA タグ等のリンク操作に対応。
	INPUT TEXT 操作（テキスト入力）	○	○	−
	INPUT PASSWORD 操作（パスワード入力）	○	○	−
	INPUT FILE 操作	○	○	−
	INPUT CHECKBOX	○	○	−
	INPUT RADIO	○	○	−
	INPUT HIDDEN	○	○	−
	INPUT SUBMIT	○	○	−
	INPUT RESET	○	○	−
	INPUT BUTTON	○	○	スクリプト呼出しにも対応。
	INPUT IMAGE	○	○	−

分類		操作	記録	備考
スクリプト操作	－	－	－	ページ遷移操作の場合は記録されるが，スクリプト処理内に閉じた操作に関係する処理（描画処理やキー入力処理，マウス入力処理など）は記録されない。
	ダイアログ操作	○	○	「ダイアログ操作」と同様。
	ページ移動操作	○	○	操作そのものは記録できない場合があるが，ページ遷移は記録する。
	入力操作（ダイアログ以外）	○	△	例えばマウス操作に連携して非同期通信しているようなスクリプトの場合，再生時にはマウスイベントが発生しないため，非同期通信を行わない。このため，非同期通信時間は計測されない場合もある。※3
ActiveX コントロール操作	－	－	－	ページ内に埋め込まれる ActiveX コントロールの中の操作記録には対応しない。ただし，ページが遷移する場合は記録される。
	Flash/Flex	○	△	※3
	Shockwave	○	△	※3
	QuickTime	○	△	※3
	Windows Media Player	○	△	※3
	Java アプレット	○	△	※3

（凡例）

「操作」欄　○：IE Recorder の記録モードで操作できる，×：IE Recorder の記録モードで操作できない

「記録」欄　○：記録対象，△：記録しないが代替手段あり，×：記録しない

注※ 1

ダイアログによっては正しく再生できない場合があります。必ず，記録後に再生を行い，正しく再生できるかどうかを確認してください。再生確認で，ダイアログが開いたまま停止するなど，正しく再生が進まないダイアログには対応できません。

注※ 2

ダイアログ中の操作は記録しませんが，最後にクリックしたボタンは記録して再生されます。

注※ 3

コンテンツ内の操作は記録しませんが，その操作によって発生したページ遷移は記録されて再生できます。再生時，コンテンツそのもののダウンロード時間の計測時間は画面表示操作に含まれ，画面表示後に発生したコンテンツ内の通信の計測時間は画面表示以降のそのときの再生中の操作に含まれます。

なお，IE Recorder はダイアログ表示による認証（テキスト入力がユーザー ID とパス

ワード以外のもの），および ActiveX コントロール内での認証には対応していません。また，IE Recorder は ftp プロトコルをサポートしていません。

(2) 再生時間の計測範囲

IE プローブでの計測，および IE Recorder の計測テスト機能で計測できる再生時間について説明します。再生時間は，次に示す表の項番順に操作を記録し，計測した場合を例として説明します。

表 4-3 再生時間の計測範囲

項番	操作	計測時の動作の流れ	計測	Tn	説明
1	アドレス入力	テキスト入力	×	−	テキスト入力操作時間は計測しない。
		ページ遷移開始	○	T1	直前のテキスト入力完了後，ページ遷移開始からページ遷移完了までの時間を再生時間として計測する。
		ページ遷移完了※1	○		
2	ポップアップダイアログ	ダイアログ表示	×	−	ダイアログに対する操作は再生時間に含まない。
		ダイアログ応答	×	−	
3	スコープ A 起点	スコープ A 開始	×	−	−
4	HTML 操作（ページ遷移を含む）	再生待ち時間※2	○	T2	リンククリック，submit ボタンクリックなど，ページ遷移が発生する HTML 操作の動き。再生待ち時間が経過してから操作を実行し，ページ遷移開始からページ遷移完了までの時間を再生時間として計測する。
		操作実行	○		
		ページ遷移開始	○		
		ページ遷移完了※1	○		
5	HTML 操作（ページ遷移を含まない）※3	再生待ち時間※2	○	T3	テキスト入力，チェックボックス選択など，ページ遷移が発生しない HTML 操作の動き。再生待ち時間が経過してから操作を実行し，操作が完了までの時間を再生時間として計測する。
		操作実行	○		
		操作完了	○		
6	ナビゲーション	再生待ち時間※2	○	T4	再生待ち時間が経過してからナビゲーションを実行し，ページ遷移開始からページ遷移完了までの時間を再生時間として計測する。
		ナビゲーション実行	○		
		ページ遷移開始	○		
		ページ遷移完了※1	○		
7	スコープ A 終点	スコープ A 終了	×	−	−
8	ブラウザ操作	再生待ち時間※2	○	T5	再生待ち時間が経過してからブラウザ操作を実行し，ページ遷移開始からページ遷移完了までの時間を再生時間として計測する。
		ブラウザ操作実行	○		
		ページ遷移開始	○		
		ページ遷移完了※1	○		

（凡例）
○：計測時間に含む
×：計測時間に含まない

注※ 1
一つの操作を契機に複数のページ遷移が発生する場合は，すべてのページ遷移が完了した時点でページ遷移完了と判断します。
例えば，リンククリックの延長で三つのフレームを持つページに遷移する場合，親フレーム一つと，子フレーム三つに対してページ遷移が発生するため，すべてのページ遷移完了（全フレームの表示完了）を待って，ページ遷移完了と判断します。

注※ 2
IE Recorder の［操作の設定］画面で［この操作の再生を待つ］チェックボックスをオンにした場合，再生待ち時間とは［待ち時間］に指定した時間だけ操作の実行を待つ処理のことです。ただし，［自動的にページ遷移が発生した場合すぐに次の操作に移る］チェックボックスをオンにしている場合は，再生待ち時間が経過する前にページ遷移が発生すると，その時点で次の処理実行に移ります。つまり，再生時の状況に応じて，再生待ち時間で待つ時間が変動することになります。

注※ 3
HTML 操作（ページ遷移含まない）では，例えばテキスト入力に要した時間（ユーザーの入力操作にかかった時間）までは再生しません。したがって，操作の実行時間は限りなく 0 に近い値となります。

再生時間について，表の項番 1 ～ 8 の順に操作を記録し，計測した場合を例として IE シナリオを再生した場合，次に示す再生時間を計測できます。

- 総再生時間
  T1 + T2 + T3 + T4 + T5
- スコープ A の再生時間
  T2 + T3 + T4
- 各操作の再生時間
  T1，T2，T3，T4，T5

(3) 記録・再生に関する注意事項

IE シナリオの記録・再生に関する注意事項を次に示します。なお，記録できない操作があった IE シナリオを再生すると，記録できなかった操作の次の操作を再生しようとしたタイミングで，操作対象が見つからないなどの要因によって，再生に失敗します。

操作した Web ページが注意事項に該当するかどうかは，Web ページ製作者に問い合わせください。

1. IFRAME タグ内に表示されているページに対する操作は記録できません。なお，IFRAME タグが含まれるページでも，IFRAME タグ内に表示されているページ以外に対する操作であれば，記録・再生できます。
   上記ページに対する操作を記録したときに，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
   - IFRAME タグ内に対する操作が再生されない。

- IFRAME タグ内に対する操作が行われていることを前提とした操作が再生できない（スクリプトエラー・再生停止など）。
- IFRAME タグ内に対する操作の結果，新しいタブが開く操作を記録し再生すると，再生が停止する。

IFRAME タグ内に表示されているページに対する操作かどうかの確認方法を次に示します。

確認方法	結果	判定
ソースを表示し，操作するタグが <IFRAME> ～ </IFRAME> に囲われていないかを確認する。	<IFRAME> ～ </IFRAME> に囲われている。	IFRAME に対する操作である。
IE Recorder で確認したい操作を行うページを表示し，操作対象の部分でコンテキストメニューを表示する。	IE Recorder のコンテキストメニュー以外が表示される。	IFRAME に対する操作のおそれがある。
記録時に，操作対象の部分でクリック，テキスト入力などの操作をする。	ナビゲーションだけ記録される。	IFRAME に対する操作のおそれがある。

2. HTML 操作によって発生するイベント（マウスでのクリックイベントなど）の発生を抑止しているページに対する操作は記録できません。例えば，JavaScript で setCapture() によってマウスクリックイベントの発生を制御しているサイトは，操作を記録できないおそれがあります。
   上記ページに対する操作を記録したときに，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
   - イベントを抑止している Web ページに対する操作の再生が行われない。
3. フレーム構成のページで，各フレームに NAME 属性の指定がなく，かつ URL が動的に変化する場合は，正しく再生できません。各フレームの NAME 属性を指定するか，または各フレームの URL を固定することによって正しく監視できます。
   上記ページに対する操作を記録したときに，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
   - FRAME タグが示すフレーム内に対する操作が再生されない。
   - IFRAME タグ内に対する操作が行われていることを前提とした操作が再生できない（スクリプトエラー・再生停止など）。
4. IE Recorder，IE プローブでは，インターネットオプションの設定によって［スクリプトエラーごとに通知を表示する］のチェックボックスをオフにしていても，スクリプトエラーダイアログが表示されます。
5. スクリプトエラーダイアログは，記録・再生できません。スクリプトエラーが発生しないよう，スクリプトを見直してください。
   なお，IE プローブではウィンドウを表示しないことの影響によって，IE Recorder の

再生時に発生しないスクリプトエラーが，IE プローブで計測中に発生することがあります。
上記ページに対する操作を記録したときに，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
- エラーダイアログが表示されたあと，再生が継続されない。

6. IE Recorder では，Referer ヘッダーの有無が，Internet Explorer と異なる場合があります。

   (例)

   Web ページのリンクを，［shift］キーを押しながらクリックして，新規ウィンドウで開く操作を再生した場合

   このため，Referer ヘッダーの有無によって動作が変わるサイトは，正しく記録・再生できないおそれがあります。
   上記ページに対する操作を記録したときに，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
   - IE Recorder，IE プローブが Referer を送らないことによるエラー通知が Web サーバから返される。

7. 監視対象ページ内の ActiveX コントロール（Flash/Flex，Shockwave，QuickTime，Windows Media Player など）や，Java アプレットに対する操作は，その操作の延長で発生するページ遷移だけ記録・再生ができます。ただし，遷移先の URL を記録するため，URL が動的に変化する（記録時と異なる）場合は，正しく再生できません。
   上記ページに対する操作を記録したときに，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
   - ActiveX コントロールや Java アプレットに対する操作が再生されない。
   - ActiveX コントロールや Java アプレットに対する操作が行われていることを前提とした操作が再生できない（スクリプトエラー・再生停止など）。
   - ActiveX コントロールや Java アプレットに対する操作の結果，新しいタブが開く操作を記録し再生すると，再生が停止する。

8. 再生時の起点となるページが，再生ごとに変化するサイトは正しく再生できません。例えば，ログオフ時に開いていたページを記憶しておき，次回ログオン時に，前回ログオフ時のページから表示するようなサイトでは，再生時の起点となるページが記録時と異なるため正しく再生できません。再生時の起点となるページが，記録時と同じページになるような操作を記録しておくことで，正しく再生できるようになります。
   上記ページに対する操作を記録したときに，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
   - ページに対する操作が正常に再生されない（スクリプトエラー・再生停止など）。

9. 記録時に「.doc」「.xls」「.pdf」など HTML ドキュメント以外で構成されたページを表示する操作は行わないでください。上記操作を行って作成した IE シナリオで，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
   - HTML ドキュメント以外の操作再生に依存した，後続の操作が再生できない。

- 再生中に IE Recorder，IE プローブで表示されている HTML ドキュメント以外のアプリケーションと同一のアプリケーションを起動できない，または起動したアプリケーションを操作できない。

10. Internet Explorer でセキュリティ警告ダイアログに［いいえ］で応答する操作は，記録・再生できません。このような操作を記録し，再生した場合，次に示す動作が発生するおそれがあります。
    - セキュリティ警告ダイアログが出現する契機となった操作から，再生が進まない。
11. タイトルが「IE Recorder」という名称のダイアログ操作は，記録・再生の対象外です。なお，大文字と小文字は区別されます。
12. ユーザーの入力操作が契機で動作するスクリプトで，ユーザーの入力を変更するようなページは，記録・再生できないことがあります。
    ユーザーの入力を変更するスクリプトの例と，そのようなページを記録・再生した場合に発生するおそれがある現象を次に示します。

ユーザー操作の内容	ユーザーの入力結果を変更するスクリプトの例	現象例
リスト，チェックボックスからの選択	ユーザーがクリックした項目とは別の項目を選択する。	**記録時** スクリプト実行後に選択状態になっている項目を選択する操作が記録される。 **再生時** ユーザーが選択した項目とは異なる項目が選択される。その結果，以降の操作実行時に KAVK38752-E などのエラーが発生する。
	選択した項目の属性値として記述されているページに遷移後，デフォルトの項目を選択状態にする。	**記録時** 選択操作が記録されないで，KAVK38605-E のエラーになる。 **再生時** 選択操作が再生できないため，ページ遷移ができなくなり，以降の操作実行時に KAVK38752-E などのエラーが発生する。
テキスト入力	ユーザーが入力した文字を変更する。	**記録時** ユーザーが入力した文字と異なる文字が記録される。 **再生時** ユーザーが入力した文字と異なる文字が入力されるため，以降の操作実行時に KAVK38752-E などのエラーが発生する。

上記に該当するかどうかの確認方法を次に示します。

確認方法	結果	判定
IE Recorder で再生し，テキスト入力，チェックなどの入力操作で記録時と同じ入力（選択）が行われているか確認する。	記録時に入力（選択）した値と異なる値が記録されている。	該当する。

上記の確認方法では記録されている項目がわかりにくい場合，IE Recorder の操作リ

ストから記録されている値を確認できます。

操作	入力（選択）値表示場所	備考
テキスト入力	操作名横の［ ］内	－
チェック	value 属性値	ソースも参照して確認する。
option タグ	インナーテキスト値	value 属性とソースからも確認できる。

13.監視対象の Web サイトを表示する過程で出現するダイアログは，すべて記録できていないと，再生したときにメッセージ「IE シナリオにないポップアップダイアログが出現しました」（KAVK38756，Logged Message for IE Scenario（PL_IESM）レコードを収集している場合は，IE Scenario Result Code フィールドに 89504）が出力されて，再生がエラーになります。
しかし，ダイアログには，条件付きで１回しか出現しないものがあるため注意が必要です。
例えば，アプリケーションを起動するたびに１回出現するもの（「セキュリティの警告」ダイアログなど）や，セッション単位に１回出現するもの（認証ダイアログなど）などがあります。
IE Recorder では，記録操作の開始時にセッションを切断しているため，セッション単位に１回出現するダイアログには対応していますが，これ以外のアプリケーション単位などで１回出現するようなダイアログには対応できていません。このため，このようなダイアログの出現が確認される場合は，IE シナリオを記録する前に一度 IE Recorder を再起動する必要があります。

14.<INPUT TYPE=IMAGE> タグに対する操作では，クリック操作だけが記録・再生できます。マウスによって入力された座標データは記録・再生できないため，入力した座標によって動作が変わるページは，正しく再生できません。

15.IE シナリオの再生が止まる場合があります。このときの対処方法は IE シナリオの再生が停止した操作分類および種類によって異なります。操作分類および種類と対処方法の対応を次の表に示します。

表 4-4　IE シナリオの再生が止まった場合の対処方法

操作分類	操作種類	対処方法
ブラウザ操作	ナビゲーション	操作を削除する。（詳細については「4.2.4 ナビゲーションに関する注意事項」を参照してください。）
	上記以外	IE シナリオを作成し直す。
HTML 操作	すべての種類	IE シナリオを作成し直す。

注意事項

IE シナリオの再生が止まった場合，Web サーバからの応答が遅いなどの原因で表示が遅れているだけの場合があります。この場合は，特に対処の必要はありません。

16.ページ遷移しないでページが更新される場合，ページに対する操作を正しく記録・再生できません。次に，この注意事項に該当するページ例と，発生する現象を示します。

該当ページ例	現象例
［入力欄追加］などのボタンを押すことによって，入力欄が追加される（ページの一部分だけが更新される）ページ。	追加された入力欄に対する操作を記録できない。
プルダウンメニュー（SELECT タグ）から項目を選択すると，ページの一部分だけが，選択項目に応じた情報に更新されるページ。	変更された部分に対する操作を記録できない。
ツリー表示で，親ノードをクリックすると，ツリーが展開されるページ。	ツリーに対する操作を記録できない。
onload イベントを契機に実行されるスクリプトで，ページを作成している。例えば，プルダウンメニューの項目を設定するなど。	onload イベントのスクリプトで変更された部分に対する操作を記録できない。

17.ユーザーの操作が契機で実行されるスクリプトで，ユーザーが操作したタグの情報が変更されるような場合，ページに対する操作を正しく記録・再生できません。次に，この注意事項に該当するページ例と，発生する現象を示します。

該当ページ例	現象例
ツリー表示で，ツリーが閉じた状態のインナーテキスト [+] をクリックすると，ツリーが展開され，インナーテキストが [-] に変更されるページ。	記録された操作対象のタグ情報のインナーテキストが，ユーザーがクリックした後の [-] 状態で記録されている。再生時「KAVK38752」エラーが発生する。

18.HTML タグの onblur，onkeyup 属性に対応したスクリプトによって，ページの状態が変わるページは，正しく再生できません。例えば，次のようなページが該当します。

該当ページ例
テキストエリアに文字が入力された時点で，ページ内のボタンやチェックボックスの活性／非活性を切り替えるページ。

19.HTML 操作やブラウザ操作によって，新規にウィンドウを開くページでは，ブランクタブ（タイトルが空白で，IE ウィンドウに何も表示されない）が表示される場合があります。ブランクタブは記録・再生動作には影響を及ぼさないため，そのまま操作を続けても問題ありません。

20.次のようなフォームの入力内容をリセットする操作をした場合，リセットしたページでの操作が記録できないことがあります。

フォームの入力をリセットする操作の例
<input type=“ reset ” …> で作成された取消しボタンを押す。
ユーザー操作の延長で，Javascript の document.forms.reset() が実行される。

このような操作を行った場合，次のような動作が発生する可能性があります。

現象例
リセット後のページで，クリック等の Web ページに対する操作が記録できない。

21.JavaScript の location.reload() によって更新を実行した後のページでは，HTML 操作を記録できません。上記ページに対する操作を記録した場合，記録時に次のような現象が発生します。

記録時の現象例
クリック等の Web ページに対する操作が記録できない。

また，操作が記録できなかったシナリオを再生すると，次のような現象が発生することがあります。

操作が記録できなかったシナリオ再生時の現象例
更新後の Web ページに対する操作の再生が行われない。
更新の契機となる操作の次の操作を再生したときに，次に示すエラーメッセージが表示される。 KAVK38752-E 指定した位置に操作対象になるタグがありません。 KAVK38753-E 操作対象となるタグがありません。 KAVK38754-E 操作対象となるフレームページがありません。 KAVK38755-E 操作対象となるタブがありません。 KAVK38756-E IE シナリオにないポップアップダイアログが出現しました。

22.JavaScript の click() のように onclick イベントを発生させるようなスクリプトが動作する操作を記録・再生すると次のような現象が発生することがあります。

現象例
1 回のクリックで，複数のタグでのクリック操作が記録される。
チェックボックスのリストを ” 全チェック ” するようなボタンをクリックすると，ボタンクリックの結果，自動的にチェック状態になった input タグに対する ” チェック ” 操作が記録される。
「1 回のクリックで，複数のタグでのクリック操作が記録される。」ような状態で作成された操作を再生した場合，次のようなエラーメッセージが表示され，再生できない。 KAVK38752-E 指定した位置に操作対象になるタグがありません。 KAVK38753-E 操作対象となるタグがありません。 KAVK38754-E 操作対象となるフレームページがありません。 KAVK38755-E 操作対象となるタブがありません。 KAVK38756-E IE シナリオにないポップアップダイアログが出現しました。

このような場合，複数記録された操作のうち，ユーザーが操作していない操作を削除することで，再生できる場合があります。対処方法の詳細は，次の注意事項（23.）を参照してください。

23.1 回のクリック操作で，複数のタグに対する操作が記録される場合の対処方法を次に示します。

1.IE シナリオファイルをバックアップする。
2. 操作リストから，1 回の操作で複数記録された HTML 操作のうち，ユーザーが直接操作した HTML タグに対する操作以外の HTML 操作を削除する。※
3. 再生できるか確認する。

注※

スクリプトの動作などによって，複数記録された HTML 操作のうち，ユーザー操作がどこに記録されるかは不明です（同時に記録された操作の，先頭の場合もあれば，途中，最後の場合もあります)。したがって，2. で操作を削除しても正しく再生できない場合，それとは別の操作を削除すると，正しく再生できるようになることがあります。

注意事項

<SELECT> タグに対する選択操作は，選択操作と <OPTION> タグが同時に記録されることで，正しく再生できるようになります。したがって，<OPTION> タグの記録は <SELECT> タグに対する選択操作の延長で，複数の操作（選択操作と <OPTION> タグ）が同時に記録されても，操作リストを編集する必要はありません。

24.Adobe Reader の機能を使用する Web ページへの，IE Recorder によるアクセスまたは IE プローブでの計測はできません。
例えば，PDF（Adobe Reader）をプラグインとして内部で使用するように設定した HTML ドキュメントで構成されたページを表示する操作は行わないでください。

（4） IE Recorder の操作に関する注意事項

1. Internet Explorer のショートカットキーは使用しないでください（動作しないようにしていますが，一部のショートカットキーは動作することがあります)。Internet Explorer のショートカットキーの操作は記録されないため，正しく再生できない場合があります。Internet Explorer のショートカットキーについては，Internet Explorer のヘルプで確認してください。
2. 表示した HTML ページに対する操作は，キーボードではなくマウスから行ってください。例えば，アンケートの送信ボタンなどをキーボードによって操作した場合は，ボタン操作が記録されないことがあります。
   また，テキスト入力時は，次に示す操作を行うまでテキスト入力の記録が行われません。
   - テキスト入力のフォーカスをほかに移す。
   - ボタンを押下する操作を行う。

   上記ページに対する操作を記録したときに，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
   - 送信ボタンの押下が再生されない。
   - テキスト入力を含むフォームの場合，一部のテキスト入力が再生されない。
3. マウスの移動操作は記録されません。例えば，マウスを移動するだけで（クリックしないで）サブメニューを表示し，サブメニューのどれかをクリックした場合は，サブ

メニューを開く操作が記録できないため，正しく再生できません。
上記ページに対する操作を記録したときに，IE Recorder，IE プローブで再生する場合，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。

- 次に示す条件にすべて一致するページの場合，正常に再生できない（スクリプトエラー・再生停止など）。
  (1) タグにマウスカーソルが載せられたことを JavaScript で記録する
  (2) JavaScript でマウスクリックイベントを捕らえ，(1) の記録に基づいて動作する
- マウスカーソルの移動によって変化する視覚効果やサブメニュー操作を再生できない。

4. IE Recorder では，HTML ページを表示する文字コードを指定・変更できません。表示が不正になった場合（文字化けした場合）は，表示対象 HTML ページ内に指定されている文字コードが正しいかどうかを見直してください。
5. IE Recorder では，ソース表示を禁止しているページのソースも表示できます。
6. IE Recorder の［ソース］メニューでは，ソースを UTF-8 にエンコードして表示します。
7. IE シナリオファイルは，デフォルトのフォルダ（**インストール先フォルダ**`¥agtv¥probe¥iescena`）に保存してください。`iescena.dtd` ファイルがないフォルダに IE シナリオファイルを保存しようとするとエラーになります。デフォルトのフォルダに保存しない場合は，あらかじめ保存先のフォルダに，`iescena.dtd` をコピーしておいてください。
8. IE Recorder でテスト再生したとき，Navigate 操作で再生が停止することや，または記録と異なる Web サイトが表示される場合は，Navigate 操作を削除すると正しく再生できるようになることがあります。
   Navigate 操作を削除すると正しく再生できるようになる例を次に示します。

   （例）

   次の HTML の画面に対してタグをクリックすると，IE Recorder は Navigate 操作（画面遷移）・クリック操作の順で発生したイベントを捕捉し記録するため，記録される操作の順序が実際の手順（クリック操作だけ）と異なります。そのまま再生しても正常に再生できないため，Navigate 操作を削除する必要があります。

   ```
   function func1() {
       画面遷移が発生する処理
   }
   <a onclick=”return javascript:func1()"href="#">
   ```

9. IE Recorder で，新規作成，記録開始，または再生開始したときに，ブラウザのセッションを切断しているため，認証ダイアログなどがある場合は，毎回応答する必要があります。
10. テキスト入力は文字をタイプして入力してください。例えば，スクリプトによる入力補助機能を利用してテキストを入力した場合，テキスト入力が正しく記録されませ

ん。ただし，テキスト入力を行わないオートコンプリート機能については，正しく記録されます。

11. Internet Explorer からの操作であることをチェックしているページに対して，IE Recorder で操作した場合，「Internet Explorer からの操作ではない」と判断される場合があります。Internet Explorer 以外からの操作をエラーなどにするページに対しては，IE Recorder でのページの操作はできません。ただし，スクリプトの navigator.appName を参照している場合は，Internet Explorer として識別されます。このため，この注意事項には該当しません。
12. スクリプトによってウィンドウをクローズするページに対して，IE Recorder から操作した場合，IE Recorder 画面内のタブが（空白状態のまま）閉じないで残る場合があります。閉じられなかった空白のタブが前面（アクティブ）に出たままとなる場合，IE Recorder のタブ操作で本来前面に表示されるタブを選択してください。なお，残ったタブが IE Recorder の動作に影響を与えることはありません。また，残ったタブを選択すると（IE Recorder によって）自動的にタブが削除されます。
13. IE シナリオ計測中の新規ウィンドウの生成時間は，新規ウィンドウ生成契機となった操作から Navigate 操作の手前までにある各操作の再生時間に含まれます。
14. IE シナリオの再生，ステップ再生，または計測テスト中に，ブラウザ操作，および Internet Explorer ウィンドウ内のタグに対して操作しないでください。操作すると，次に示す誤動作が発生するおそれがあります。
    - 次操作の再生で，操作対象がみつからない（KAVK38752-E）などによって，再生がエラーで停止する。

（5）IE プローブを Windows サービスから起動および終了させる場合の注意事項

1. Probe 動作条件定義ファイルの [General] セクションの ie_service_flag に「Y」を設定していない場合は，Windows サービスから起動できません。Windows の［スタート］－［プログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［IE Probe］を選択して起動してください。
2. Probe 動作条件定義ファイルの [General] セクションの ie_service_flag に「Y」を設定している場合は，Windows の［スタート］－［プログラム］－［Performance Management］－［Agent Option for Service Response］－［IE Probe］を選択して起動することはできません。
3. IE シナリオを計測する場合は，Extensible Service IE Probe サービスのログオンアカウントに指定したアカウントで IE シナリオを記録し，IE Recorder から再生を実行して正しく動作することを確認してから計測を実施してください。
   計測アカウントと Extensible Service IE Probe サービスのログオンアカウントが異なる場合にシナリオを再生すると，KAVK38756-E などのエラーが発生することがあります。
4. バージョンアップ前に作成していた IE シナリオを使用して計測する場合は，Extensible Service IE Probe サービスのログオンアカウントに指定したアカウントで

IE Recorder から再生を実行して正しく動作することを確認してから計測を実施してください。

(6) 運用に関する注意事項

1. IE Recorder，IE プローブの起動中は，Internet Explorer を使用しないでください。Internet Explorer が起動した状態では，IE Recorder，IE プローブが正しく動作できなくなる場合があります。また，HTML ページを操作することによって，すでに開いている Internet Explorer にフォーカスを当てる制御を行っているページなどは，正しく動作しなくなります。Internet Explorer を使用する場合は，IE Recorder，IE プローブを停止した状態で使用してください。
2. 複数の PFM - Web Console から，同時に PL_IESM レコードをリアルタイムレポートで参照した場合，前回表示からの差分すべてが表示されません。PL_IESM レコードは，履歴レポートで参照してください。
3. IE プローブで計測を実施している場合，IE シナリオを計測することによって表示されるダイアログは，実際の画面（ディスプレイ）にも表示されます。ただし，記録された操作を IE プローブが自動で実行するため，ダイアログはすぐに閉じます。なお，表示されたダイアログを手動で操作しないためにも，IE シナリオの計測中は，該当マシンでの画面上の作業（操作）を控えることをお勧めします。
4. 記録中，または再生中にナビゲーションエラーが発生すると，記録または再生が中断されます。しかし，Internet Explorer を使用して操作していると，内部でナビゲーションエラーが発生していても無視してサービスを継続するような，隠れたナビゲーションエラーが存在する Web サイトもあるため，Web サイトの監視計画前に確認してナビゲーションエラーが発生しないようにしておく必要があります（Web サーバなどのログから http ステータスコードにエラーが出ていないかを確認してください）。
5. Cookie や Web サーバ内などに接続したときの情報を保持しているような Web サイトへの接続後，正しく切断しないで終了（このときセッションは切断されます）したあとに再接続すると，記録したときとは異なる状態（例えば，記録時とは異なる Web ページが表示されるなど）で接続される，または切断されることがあります。このような Web サイトを監視すると，例えばタイムアウトによって計測が中断されたときに，それ以降の計測がすべて計測エラーになることがあるため，計測が失敗しているときは Web サイトの操作仕様に従った回復操作を行って原因を取り除いてください。
6. Internet Explorer のキャッシュの状態に左右されたくないなど，計測の精度を上げたい場合は，［ツール］－［インターネットオプション］画面の「インターネット一時ファイル」の設定で以下を選択してください。
   - Internet Explorer 6.0 の場合
     ［ページを表示するごとに確認する］
   - Internet Explorer 7 および Internet Explorer 8 の場合
     ［Web サイトを表示するたびに確認する］
7. IE シナリオによって，同一ユーザーで同時ログインできない Web システムを計測対象として計測し，計測タイムアウトが発生した場合には，Web システムからのログアウトが行われないで，ログイン状態が保持される可能性があります。この場合，以後

の計測タイミングで計測に失敗します。この現象が発生した場合は，Web システムへのログインができる状態にしてから計測を行ってください。また，計測条件登録ファイル（esptask.xml）に登録されているタイムアウトの値を適切に設定してください。

4.2.4 ナビゲーションに関する注意事項

「ナビゲーション」とは，IE Recorder の操作によって記録されるページ遷移のことです。操作されない状態か，または操作と関連づけられないタイミングでページ遷移が発生した場合に記録されます。

ここでは，ナビゲーションの記録状態と再生方法，およびエラーが発生したときの対処方法について説明します。

（1） ナビゲーションの記録状態と対処方法

ナビゲーションの記録状態と対処方法を次の表に示します。

表に示した対処方法を試みると解決できる場合もありますが，Web サイトすべてに対応できるわけではありません。また，記録状態は，複数重なって発生することもあり，状況に応じて対処方法を組み合わせることで解決できる場合もあります。

なお，必ず IE シナリオのバックアップを取得してから操作リストを編集してください。IE シナリオのバックアップを取得する方法については，「2.6.1 バックアップ」を参照してください。

表 4-5 ナビゲーションの記録状態と対処方法

項番	操作後の記録状態	記録時の状況	対処内容※1	参考個所
1	入力操作が記録されないで，ナビゲーションだけが記録される。	Flash などの ActiveX コントロールや，Java アプレット内の操作，またはスクリプト独自のウィンドウからの操作（createPopup で生成した画面からの入力操作など）は，記録できない。 しかし，これらの操作によってページ遷移が発生した場合にナビゲーションだけが記録される※2。	操作待ち時間設定	(a)
		ページ遷移途中に，タイミングによって入力操作を行ったことを IE Recorder が捕捉できないときがある。 しかし，ページ遷移は記録されるため，ナビゲーションだけが記録される。	再度記録	(b)
		タイマーを指定するなどの方法で自動的にページ遷移する Web サイトを記録すると，入力操作を行わないでページ遷移するため，ナビゲーションだけが記録される。	操作待ち時間設定	(c)
2	入力操作が記録されたあとにナビゲーションが記録される。	Web ページの表示完了後に一部のフレームページを表示させている場合など，ページ遷移が複数回発生する場合に，2 回目以降のページ遷移がナビゲーションとして記録される。	操作の削除	(d)
		複数回ページ遷移が発生するとき，目的のページを表示するページ遷移より前に発生したページ遷移がそれぞれのページ遷移の完了を待たないで中断して，次のページ遷移が開始されるような場合に，2 回目以降のページ遷移がナビゲーションとして記録される。		(e)
		クリック操作したフレームページとほかのフレームページが並行にページ遷移するなど，フレーム間で並行にページ遷移する場合，正しくページ遷移の完了を検知できないでナビゲーションが記録された。	・操作の削除 ・次の操作に待ち時間設定	(f)

項番	操作後の記録状態	記録時の状況	対処内容※1	参考個所
3	ナビゲーションが記録されたあとに入力操作が記録される。	Web ページ内のスクリプトが IE Recorder よりも先に入力操作を捕捉して，すぐにページ遷移を発生させるような場合に，入力操作の直前にナビゲーションが記録される。	操作の削除	(g)

注※ 1

対処方法の詳細については表 4-6 を参照してください。

注※ 2

通常，ActiveX コントロールや，Java アプレット内の操作，スクリプト独自のウィンドウに対する操作は，ページ遷移が発生することによってナビゲーションだけが記録されます。対処方法は，そのナビゲーションを正しく再生するための方法で，操作の記録自体を行うための対処ではありません。

表 4-6　ナビゲーションの操作の対処方法

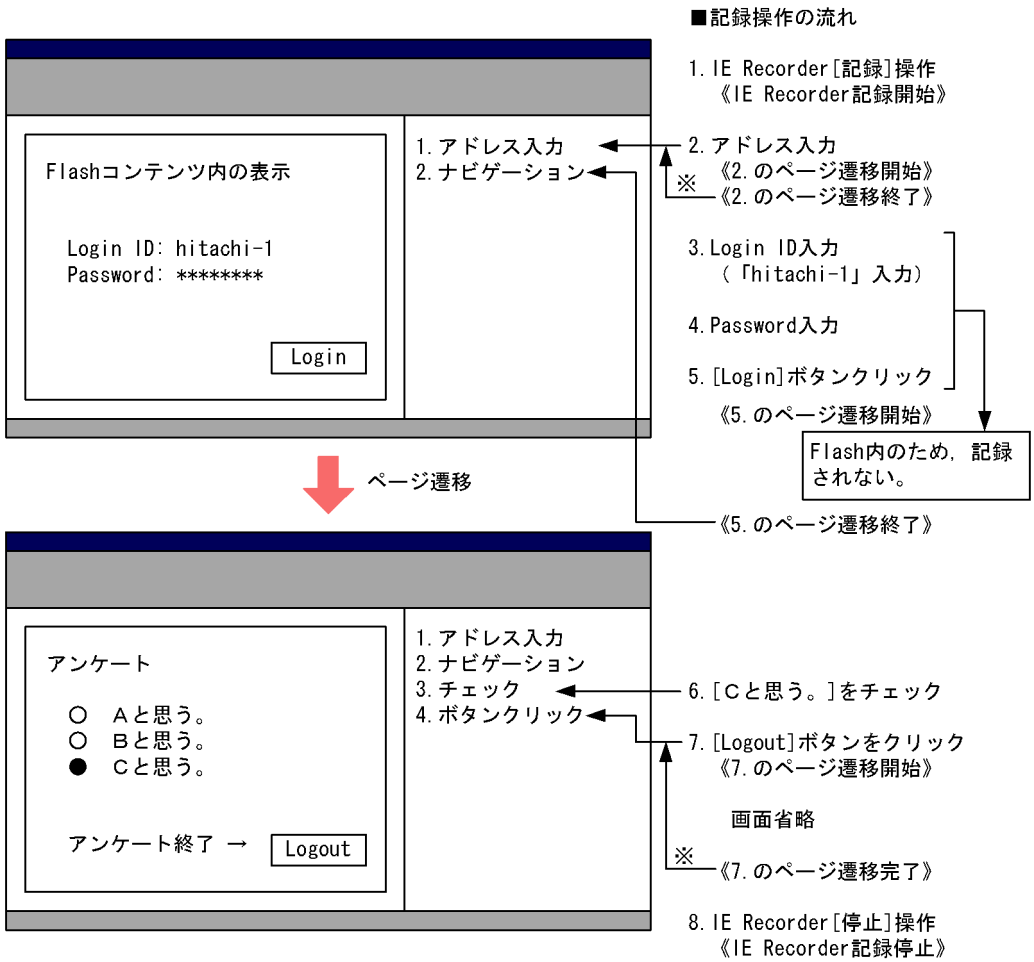
対処方法の種類	対処方法
操作待ち時間設定	ナビゲーションの［操作の設定］から，操作の待ち時間を必要に応じて変更して，ページ遷移するまでの時間を調整します※。 そのまま再生できる場合もありますが，ある一定時間単位に最新情報に更新するようなページには，待ち時間が合わないで強制的にページ遷移が発生してナビゲーションエラーなどが発生し，再生が中断されるような場合があります。このような場合は，待ち時間を大きめに設定するなどの調整を行うことで再生できるようになる場合があります。
再度記録	問題のあったナビゲーションとそれ以降の操作を削除して，再度記録し直します。
操作の削除	再生したときにナビゲーションで止まる，または再生エラーになる場合は，ナビゲーション操作を削除します。
次の操作に待ち時間設定	ナビゲーションを再生したあとに次の操作で再生エラーになる場合，ナビゲーションの次の操作の［操作の設定］で待ち時間を設定してページ遷移のタイミングを合わせると，正しく再生できるようになる場合があります※。

注※

［操作の設定］画面で［この操作の再生を待つ］チェックボックスをオンにしている場合で，待ち時間に指定した時間だけ経過しないと処理が進まない状態を指します。待ち時間に指定した時間経過すると，強制的にナビゲーションが実行され，以降の再生で，再生エラーが発生することがあります。エラーの内容は，IE シナリオの内容と監視対象のページによって異なります。例えば，タグがありません，シナリオにないポップアップダイアログが出現した（KAVK38753-E，KAVK38756-E，KAVK38752-E など）などのエラーが発生します。

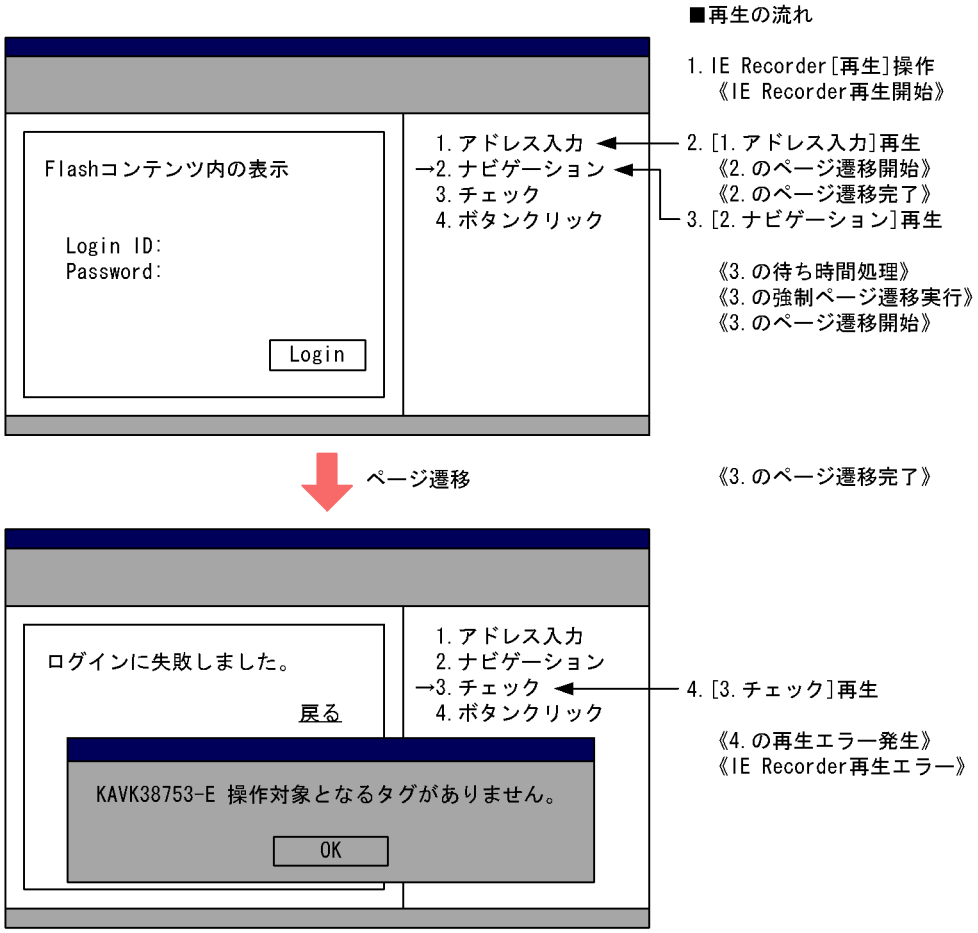
(a) Flash 内部の操作は記録されないで，ナビゲーションだけが記録されるケース（対処できないケース）

図 4-5　Flash を使用したページの記録例



注※　直前の操作によるページ遷移であるとIE Recorderが認識した場合は，ナビゲーションは記録されない。

図 4-6　Flash を使用したページの再生例



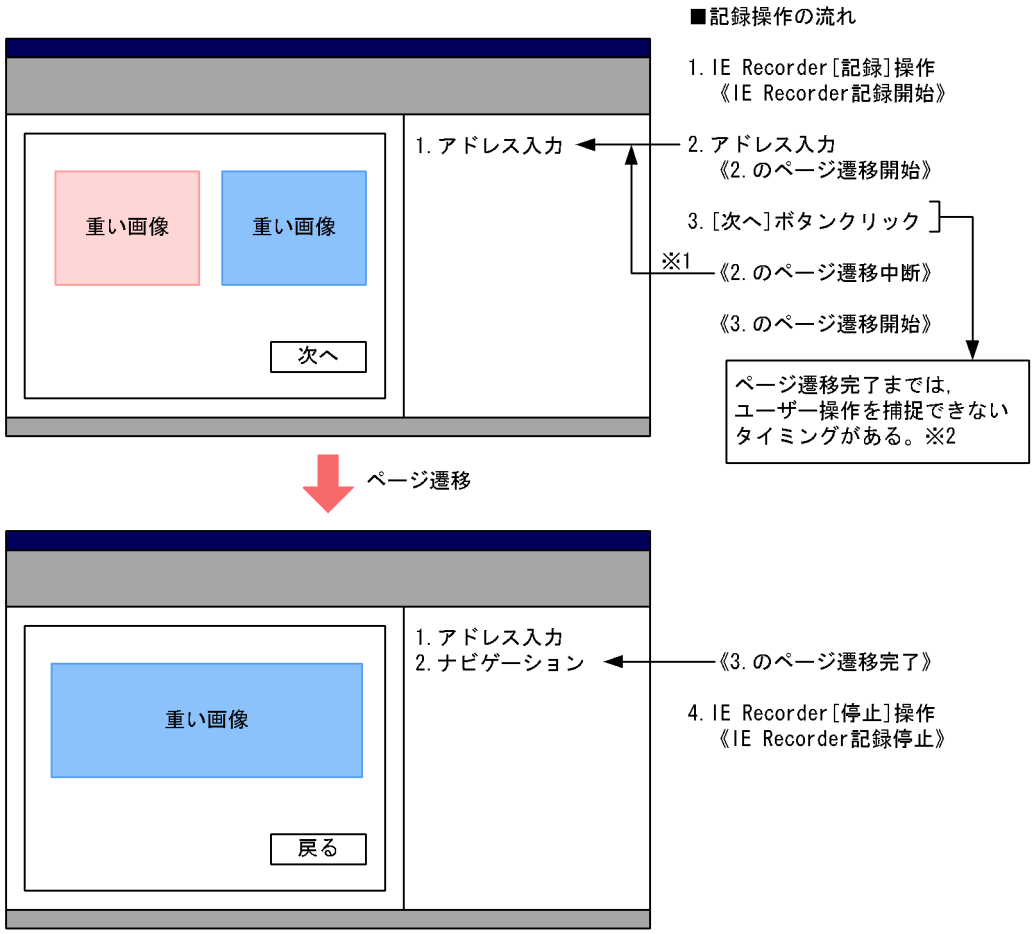
解説

［2. ナビゲーション］は，Flash 内の操作を記録しているわけではなく，何らかのユーザー操作と結びつかないページ遷移を検知して記録したものです。

《4. の再生エラー発生》は，［2. ナビゲーション］を記録したときの URL が動的に変わる場合によく発生します。

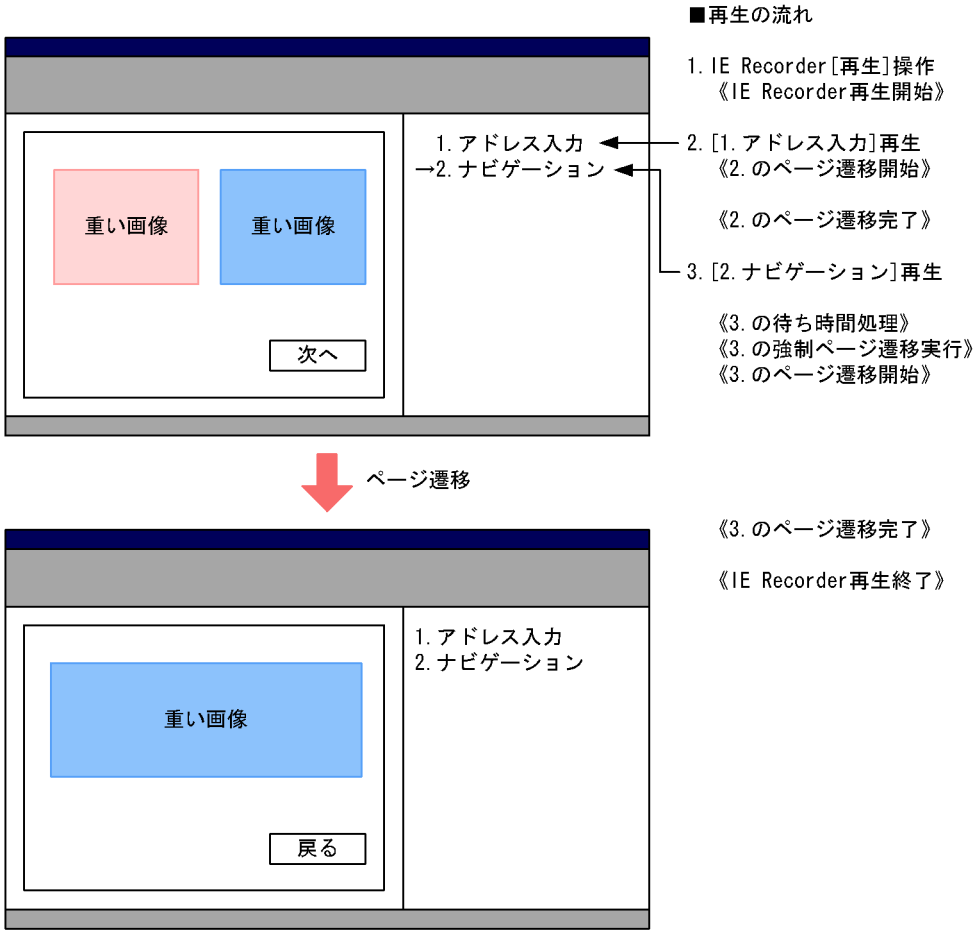
(b) ページ遷移中にクリック操作したが，クリックは記録されないで，ナビゲーションだけが記録されるケース

図 4-7　表示に時間のかかるページの記録例



注※１　直前の操作によるページ遷移であるとIE Recorderが認識した場合は，ナビゲーションは記録されない。
注※２　ページ遷移中は，マウス入力とキー入力を抑止しているが，まれに発生することがある。

図 4-8　表示に時間のかかるページの再生例

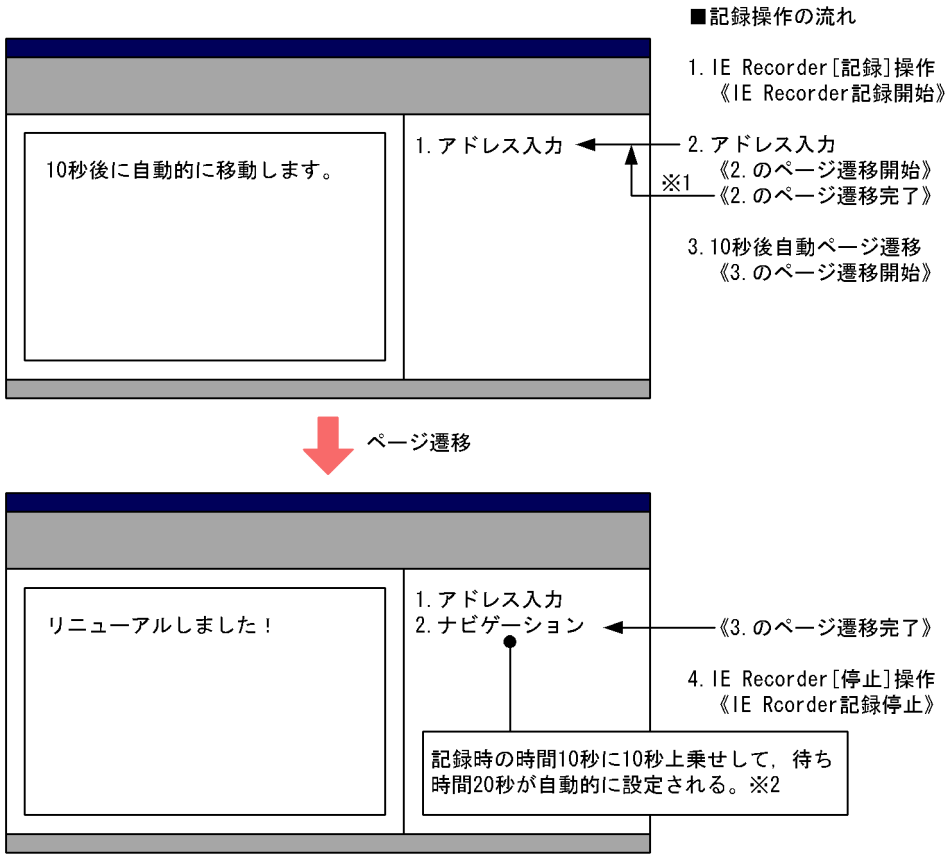


解説

非常に重い画像を多数表示したり，複数のフレームを時間をかけて同時に表示したりする場合に，タイミングによってはユーザー操作を捕捉できないでナビゲーションだけが記録される場合があります。
このケースの［2. ナビゲーション］は，このようなタイミングで記録されたケースを想定したものです。
再生時は，［2. ナビゲーション］で設定された時間だけ待ったあと（《3. の待ち時間処理》），記録時の URL に強制的にページ遷移（《3. の強制ページ遷移実行》）したものですが，このケースは静的 URL へページ遷移した場合を想定しています。
このため，クリック操作は記録されていませんが，目的のページは表示されます。
しかし，正しい記録内容にするためには，［2. ナビゲーション］を削除したあと，追加記録操作を行って正しいボタンクリック操作を IE シナリオに記録してください。

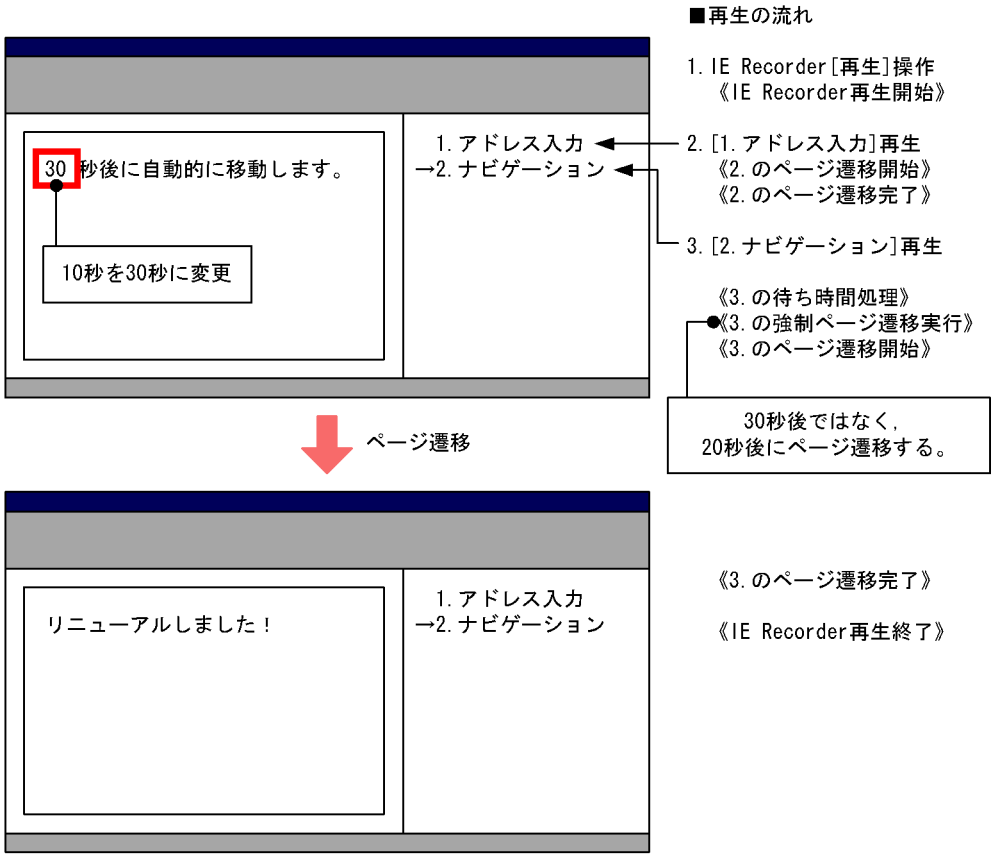
(c) 記録のときは 10 秒後に自動的にページ遷移する Web ページを，再生のときには 30 秒後にページ遷移するように変更されたケース

図 4-9　一定時間後にページ遷移する場合の記録例



注※１　直前の操作によるページ遷移であるとIE Recorderが認識した場合は，ナビゲーションは記録されない。
注※２　IE Recorderでは，記録した時間に固定値10秒を上乗せして自動設定する。

図 4-10　一定時間後にページ遷移する場合の再生例



解説

HTML の META タグの REFRESH などで一定時間が経過したあとに自動的に目的のページへページ遷移するような場合を記録すると，自動発生したページ遷移がナビゲーションとして記録されます（[2. ナビゲーション]（記録時に待ち時間 20 秒が設定されている））。

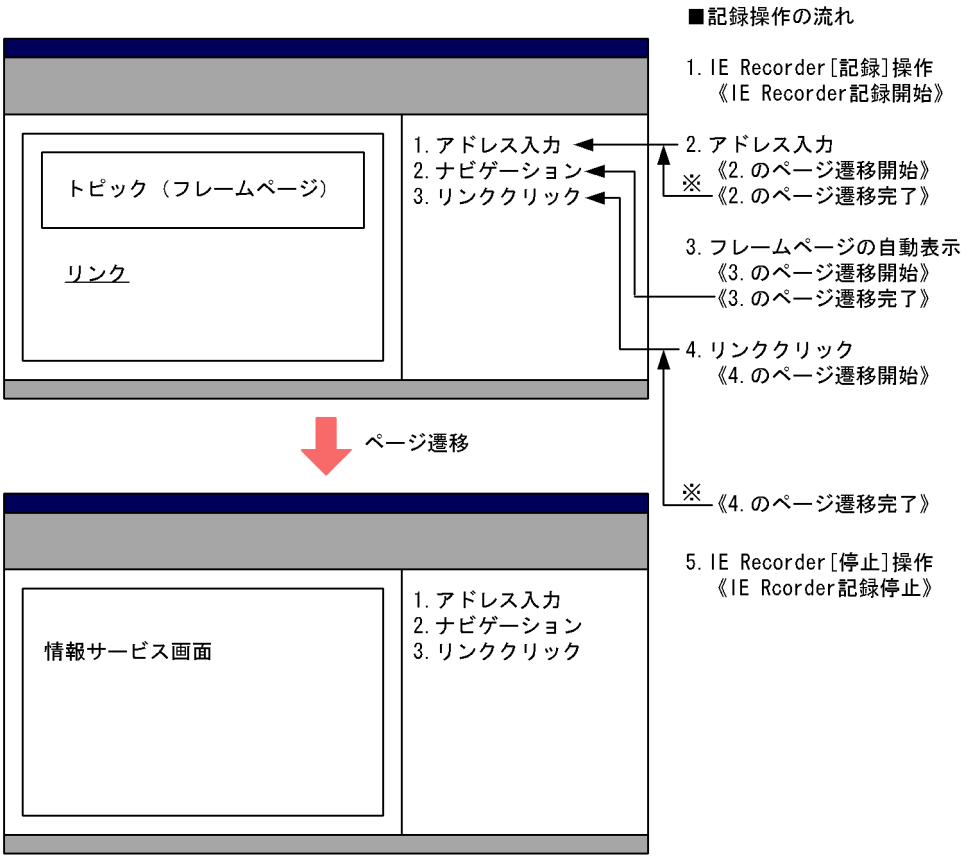
経過時間の設定に変更がない場合は問題なく再生できますが，記録したときよりも長い時間（10 秒を 30 秒）に変更した場合は，「3. [2. ナビゲーション] 再生」のあとの《3. の待ち時間処理》で 20 秒が経過してもページ遷移が発生しないため，記録時の URL へ強制的にページ遷移させます（《3. の強制ページ遷移実行》）。

このため，Web ページに設定したとおりの経過時間を待たないでページ遷移してしまい，想定していた計測時間にずれが生じることがあります。

一定時間が経過してページ遷移するときに記録されるナビゲーションは，IE Recorder の「操作の設定」で待ち時間を 30 秒より大きい値（例えば 40 秒）に設定することで，期待した計測時間を得られるようになります。

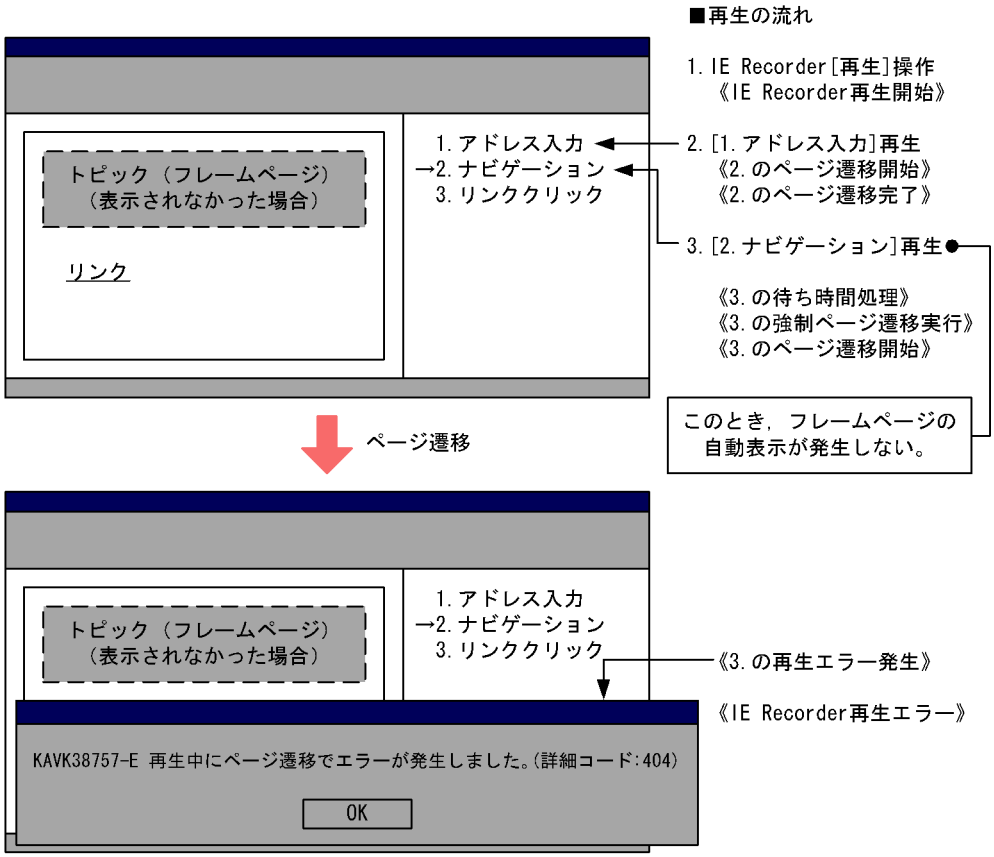
(d) 記録したときには表示されたフレームページが，再生したときには表示されなかったケース

図 4-11　一定時間後にページ遷移する場合の記録例



注※　直前の操作によるページ遷移であるとIE Recorderが認識した場合は，ナビゲーションは記録されない。

図 4-12　一定時間後にページ遷移する場合の再生例



解説

フレームページの表示は，Web ページのページ遷移完了後に発生するような場合があります。フレームページの表示もページ遷移として検知されますが，Web ページのページ遷移とは分かれて発生するため，ナビゲーションとして記録されます（[2. ナビゲーション]）。

このケースは，フレームページが状況に応じて表示しないような場合があることを想定しています。

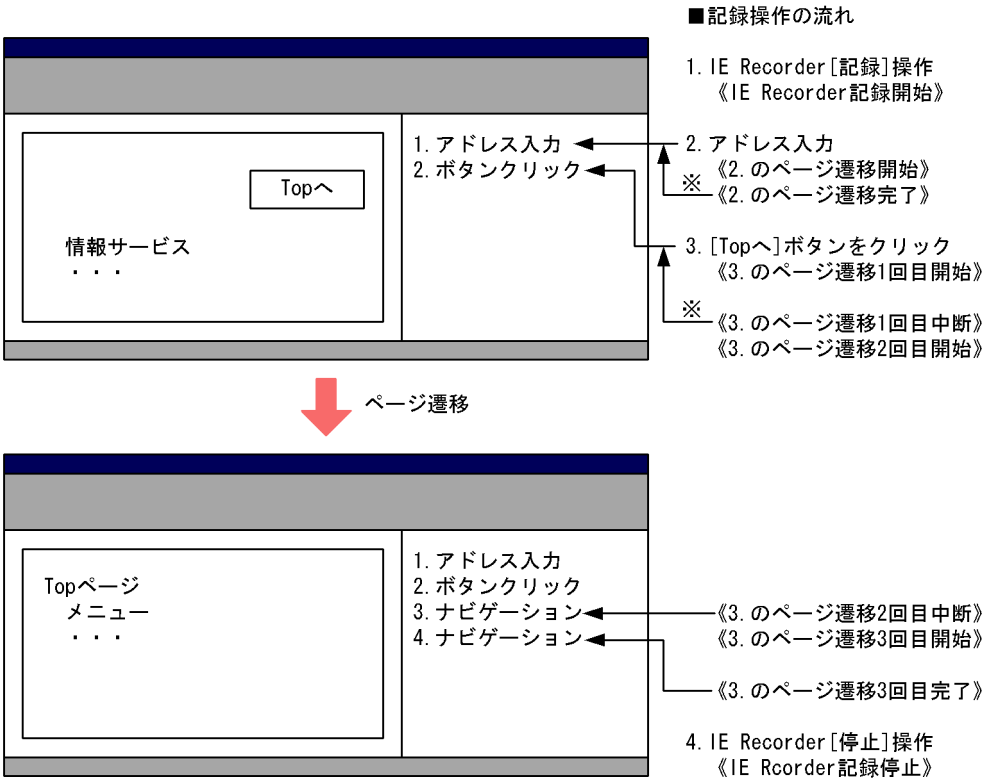
実際にフレームページが表示されないときに再生すると，ナビゲーション再生時にページ遷移が発生しないため，記録時の URL へ強制的に遷移します（《3. の強制ページ遷移実行》）。

この例は，URL が動的に変化するものを想定していて，ナビゲーションエラーが発生するケースです。

もし，フレームページ内を操作しない場合は，フレームページの表示を待たないで次の操作へ進んでも問題ないため，このようなケースの場合は，[2. ナビゲーション] を削除することでフレームページの表示有無に関係なく再生できるようになります。

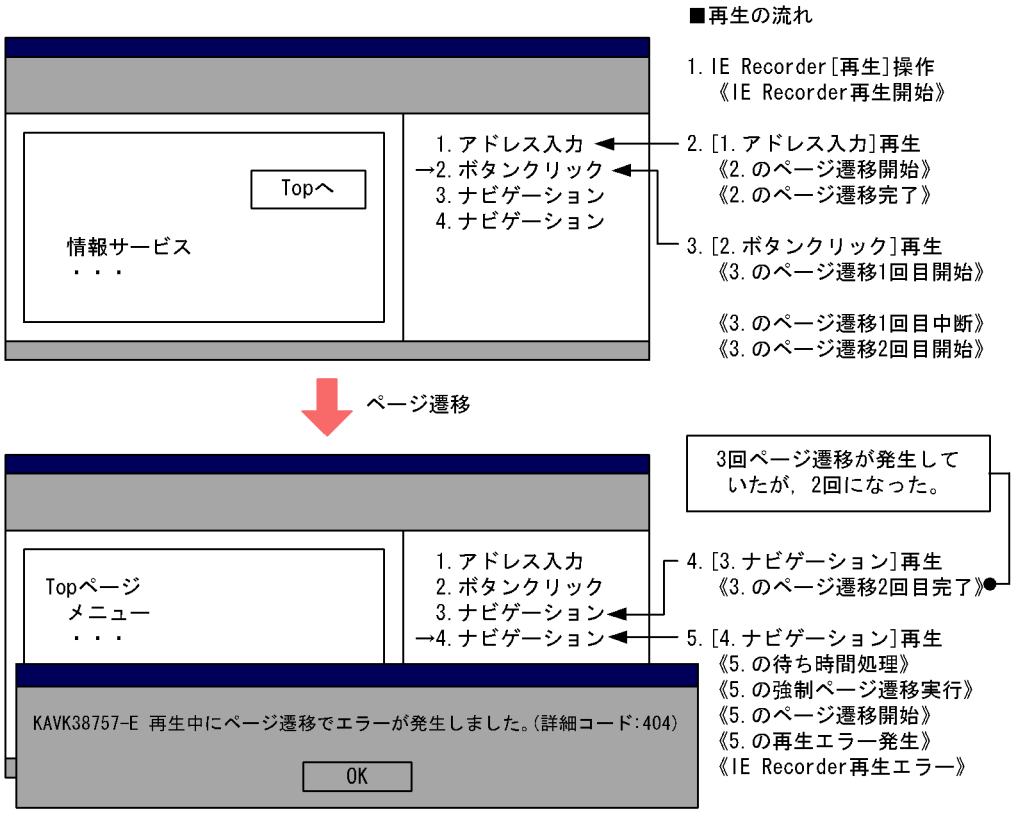
(e) 記録のときはクリック後にページ遷移を途中で 2 回中断したあと目的のページを表示していたが，Web システムの変更によって，ページ遷移の途中の中断回数が 1 回に変更された場合

図 4-13　ページ遷移が途中で中断される場合の記録例



注※　直前の操作によるページ遷移であるとIE Recorderが認識した場合は，
ナビゲーションは記録されない。

図 4-14　ページ遷移が途中で中断される場合の再生例



解説

［2. ボタンクリック］後，ページ遷移を 2 回中断させたあとに 3 回目で目的の Web ページを表示させていた場合，ページ遷移を途中で中断しても，そこまでのページ遷移を切り出してナビゲーションとして扱います。初回ページ遷移は，［2. ボタンクリック］に関係付けられて記録されませんが，2 回目以降はナビゲーションとして記録されます。

このケースは，Web システムのメンテナンスなどによって，ページ遷移途中での中断回数が 1 回減った場合を想定しています。

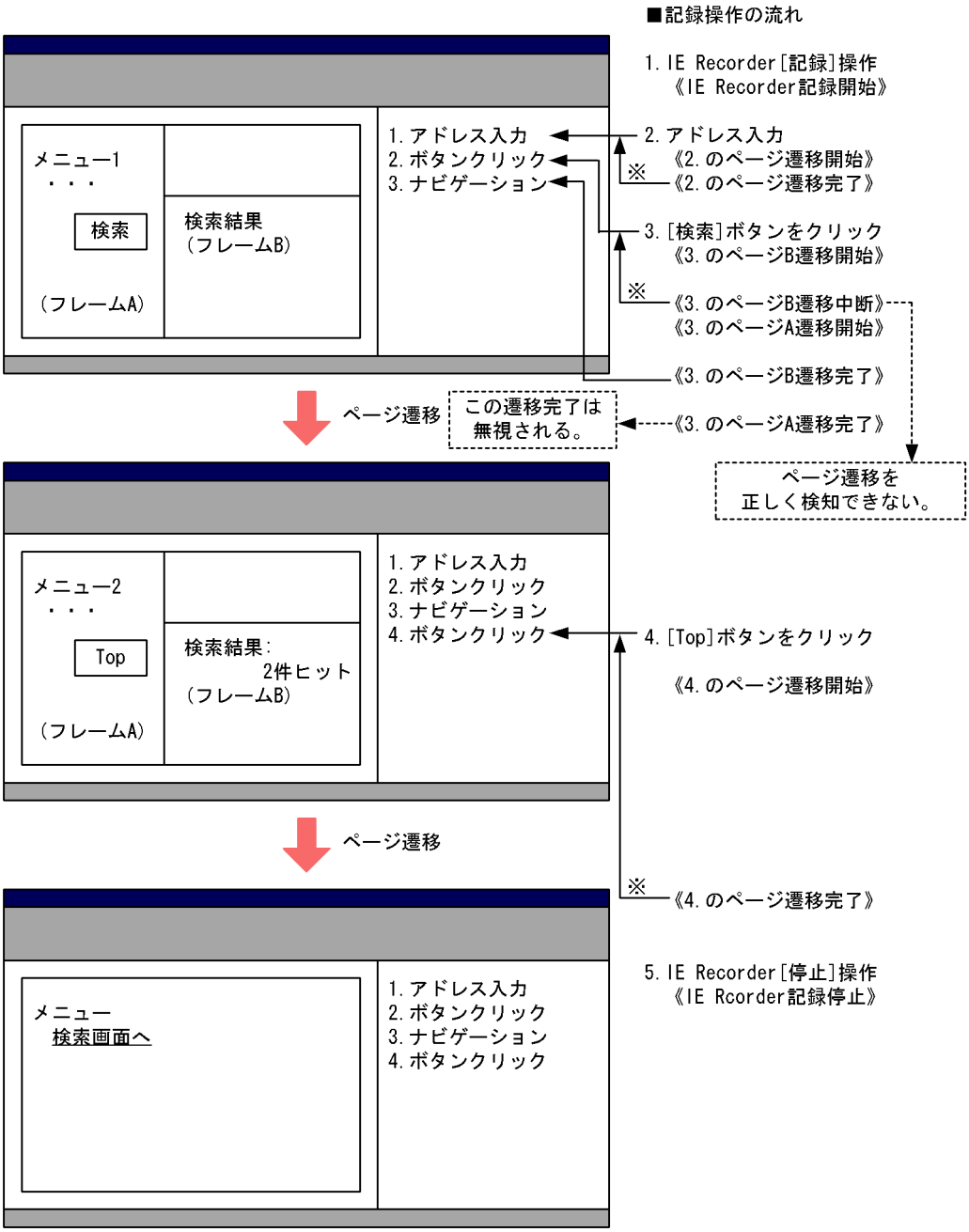
再生では，「5.［4. ナビゲーション］再生」に対応するページ遷移が発生しないため，記録時の URL へ強制的に遷移します（《5. の強制ページ遷移実行》）。

この例は，URL が動的に変化するタイプを想定していて，ナビゲーションエラーが発生するケースです。

Web システムの都合で，発生していたページ遷移の回数が減った場合などは，［3. ナビゲーション］または［4. ナビゲーション］のどちらかを削除することで再生できるようになる場合があります（IE シナリオを記録し直さなくても，対応できる場合があります）。

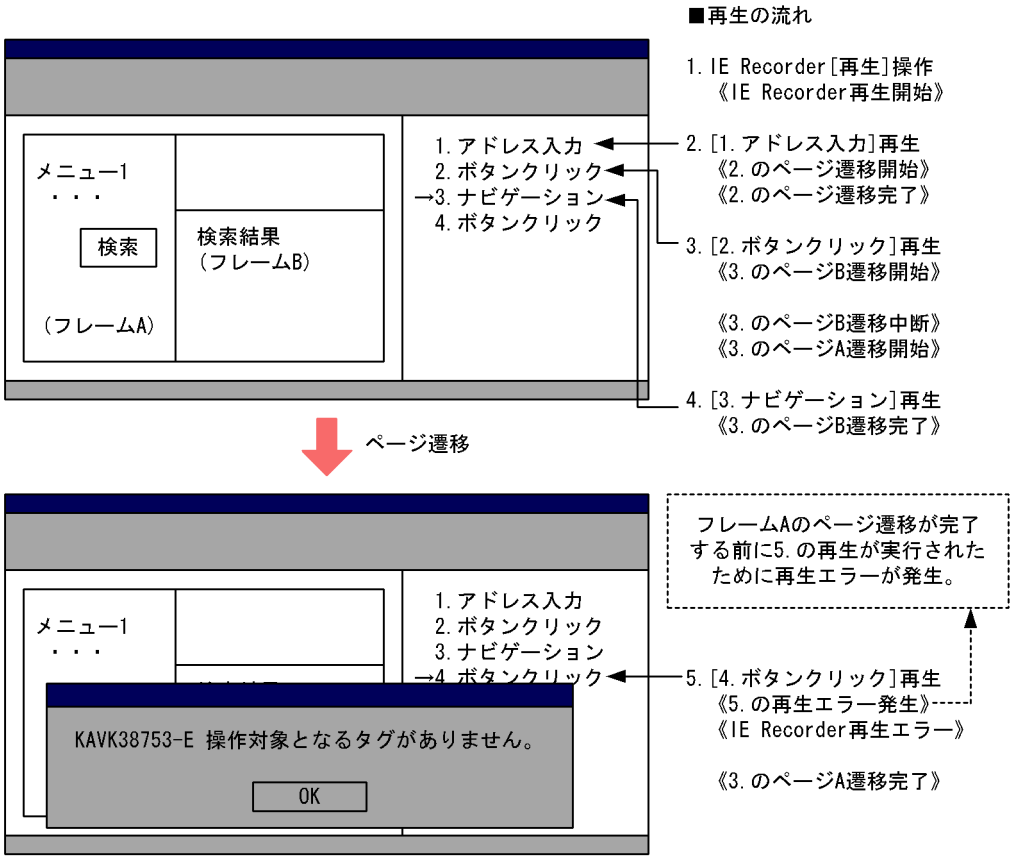
(f)　メニューフレームと結果フレームが並行に画面遷移する Web ページを記録して再生すると「操作対象となるタグがありません」が表示されて再生が中止されるケース

図 4-15　二つのフレームページが並行にページ遷移する場合の記録例



注※　直前の操作によるページ遷移であるとIE Recorderが認識した場合は，
ナビゲーションは記録されない。

図 4-16　二つのフレームページが並行にページ遷移する場合の再生例



解説

［2. ボタンクリック］によって検索結果フレーム（フレーム B）とメニューフレーム（フレーム A）が並行して画面遷移すると，それぞれのページ遷移を正しく検知できません。このケースの場合は，フレーム A のページ遷移完了を正しく検知できない場合を示しています。

（3.［2. ボタンクリック］再生後）最初にフレーム B のページ遷移が開始されたあと（《3. のページ B 遷移開始》），次にフレーム A のページが開始されますが（《3. のページ A 遷移開始》），IE Recorder は個々のフレームを区別できないため，フレーム B のページ遷移が中断されたと誤認して（《3. のページ B 遷移中断》），ここでページ遷移が終わったものとして処理します。

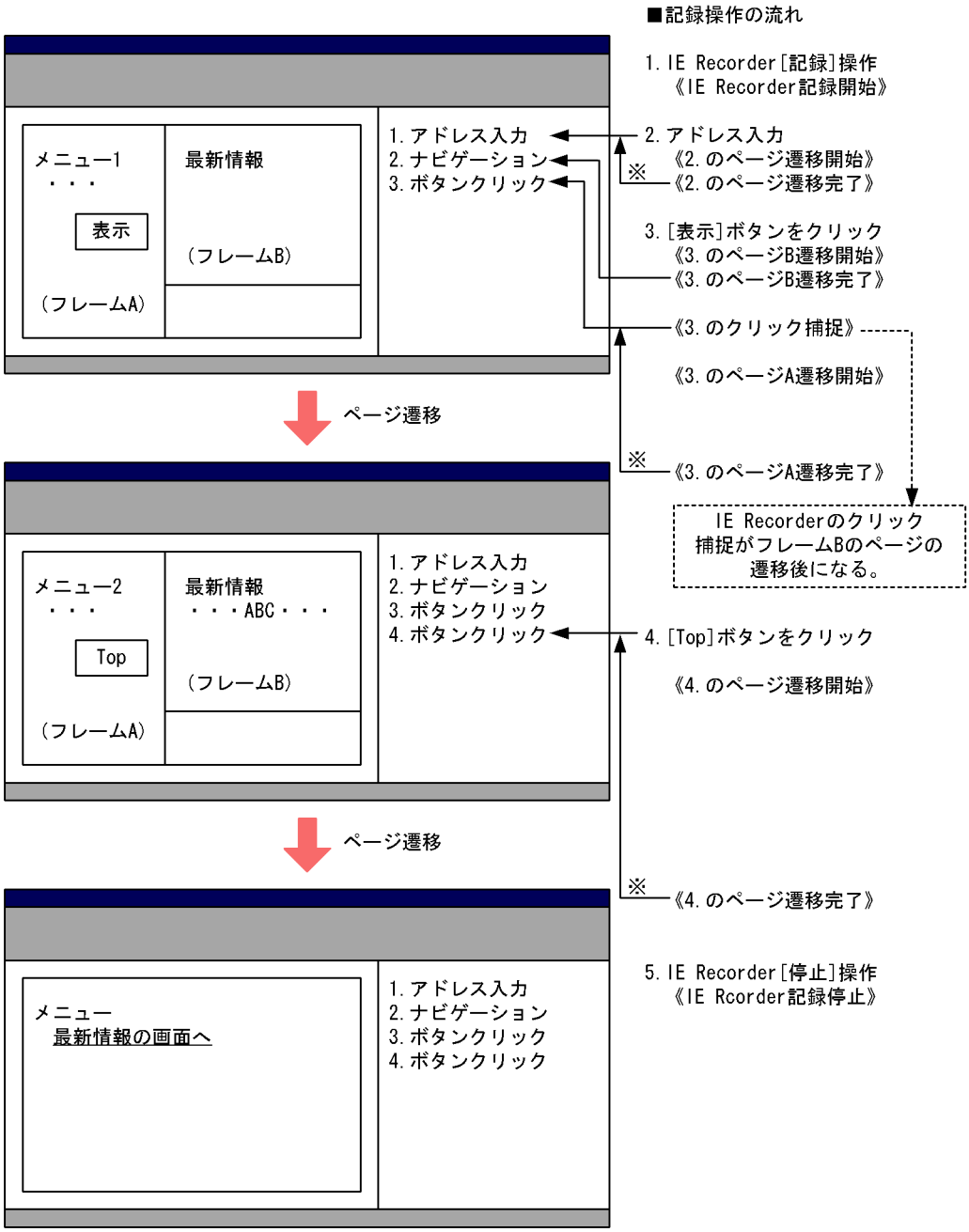
この結果，フレーム A のページ遷移の完了を待たないでページ遷移がすべて完了したものと判断して（《3. のページ B 遷移完了》）次の操作の再生を行いますが（5.［4. ボタンクリック］再生），フレーム A のページ遷移が完了していないため，再生エラーとなります（《5. の再生エラー発生》）。

この場合，［3. ナビゲーション］を削除しても再生できるようにはなりません。もし，フレーム A のページ遷移時間がある程度わかる場合は，［3. ナビゲーション］

の次の操作である［4. ボタンクリック］に対して［操作の設定］－［待ち時間］を設定する（フレーム A がページ遷移完了するまで次の操作を待たせておく）ことで，この IE シナリオは再生できるようになります。

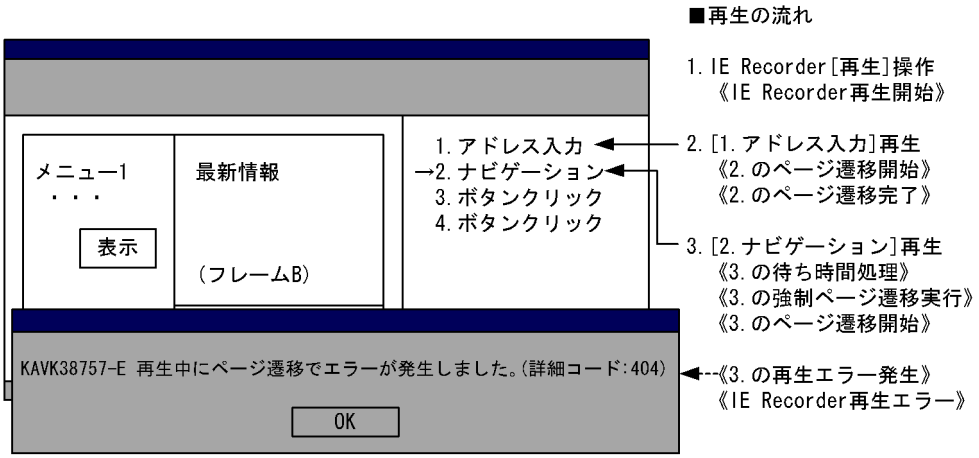
(g) クリック後，IE Recorder がクリックを捕捉する前に，Web ページ内のスクリプト処理が先に捕捉して強制的にページ遷移させるケース

図 4-17　クリックよりも先にページ遷移が発生する場合の記録例



注※　直前の操作によるページ遷移であるとIE Recorderが認識した場合は，
ナビゲーションは記録されない。

図 4-18 クリックよりも先にページ遷移が発生する場合の再生例



解説

Web ページ内でクリック操作を捕捉してすぐにページ遷移させている場合，このページ遷移が操作と関連性を持たないページ遷移と認識してナビゲーションが記録されます。その後，遅れて IE Recorder はクリックを記録しますが，先に記録したナビゲーションとの関連性を識別できないため，別々に記録されます。このため，この IE シナリオを再生すると，3.［2. ナビゲーション］再生のところで，記録時同様にクリックしているわけではないためページ遷移が発生しないで，記録したときの URL へ強制的にページ遷移が発生します（《3. の強制ページ遷移実行》）。

この例は，URL が動的に変化するタイプを想定していて，ナビゲーションエラーが発生するケースです。

このケースでは，［2. ナビゲーション］を削除することで，再生できるようになります。

(2) ナビゲーションエラー発生時の動作

ナビゲーションエラーは，Web ページが見つからないなどの理由で監視対象のサーバがエラーを返したとき，または監視対象のサーバが起動していないなどの理由で Web ページを表示できなかった場合に発生します。

ナビゲーションエラーが発生したときの IE Recorder および IE プローブの動作を次の表に示します。

表 4-7 ナビゲーションエラーが発生したときの IE Recorder および IE プローブの動作

ナビゲーションエラー発生時の状態		ナビゲーションエラー発生時の動作	ナビゲーションエラー発生後のモード
IE Recorder	編集モード	Internet Explorer と同様に，エラーページを表示する。	編集モード
	記録モード	記録を中止し，メッセージダイアログ（KAVK38760）を表示する。ナビゲーションエラー発生までに記録した IE シナリオは保持する。	
	テスト再生	再生を中止し，メッセージダイアログ（KAVK38757）を表示する。	
	ステップ再生		
	レポート再生	再生を中止し，再生レポート（KAVK38757）を表示する。	
IE プローブ	計測中	再生を中止し，レポートを出力する。また，PL レコード（Result Code 89102）を出力する。	IE Probe Daemon は，IE Master Daemon からの，次の計測要求を待つ状態

(3) ナビゲーションエラー発生時のユーザー操作の確認方法

IE Recorder で IE シナリオを作成中または再生中にナビゲーションエラーが発生した場合，ユーザーの操作が Web ページを正しく表示できる操作であるかを確認する必要があります。確認方法を次に示します。

1. Internet Explorer で操作してエラーにならないことを画面上で確認する。
2. 画面上で異常を確認できない場合は，Internet Explorer での操作中の次のどれかのログを取得し，HTTP プロトコルのステータスコードがエラーを示していないことを確認する。
   - Internet Explorer － Web サーバ間の通信トレース
   - Web サーバのログ

(4) ページを変更していないのに「操作対象が見つかりません」エラーになる場合の対処方法

監視対象のページを変更していないのに「KAVK38752-E 指定した位置に操作対象になるタグがありません。」や「KAVK38753-E 操作対象となるタグがありません。」などのエラーが発生した場合，次に示す手順で対処を試みてください。

1. IE シナリオファイルをバックアップする。
2. エラーが発生した操作の［操作の設定］画面で，［待ち時間］を設定し，再生確認する。

操作の待ち時間は，「複数の子フレームを同時に遷移させるような動作の契機となる操作のあと，ページ遷移が完了するまでの時間」を目安にしてください。設定後，計測テス

トを実施し，再生できれば問題ありません。計測できなかった場合，待ち時間を延長してみてください。

なお，ここで設定した操作の待ち時間は，IE プローブ，計測テストで計測した際の IE シナリオの再生時間に含まれます。

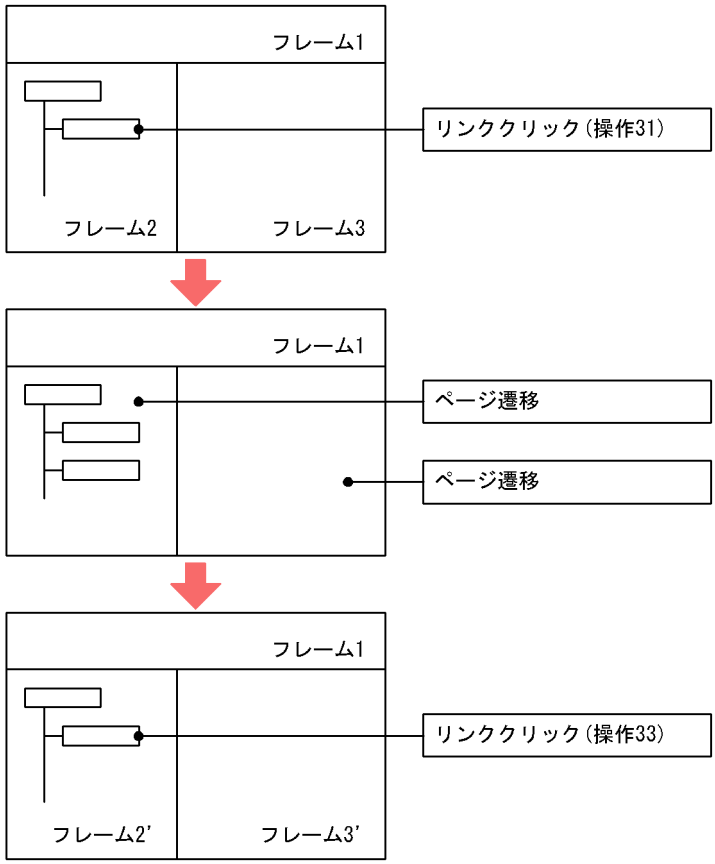
補足事項

IE Recorder の再生では問題なく再生できたが，計測テストでは上記のようなエラーが発生する場合は，この方法で回避できることがあります。

ページを変更していないのに「操作対象が見つかりません」エラーになるという現象が発生する操作の例を次に示します。

（例）複数の子フレームを同時に遷移させるような操作のあとに，遷移したページに対する HTML 操作を記録した場合

図 4-19　複数の子フレームを同時にページ遷移させる操作を含むシナリオの例



操作 31

リンククリック（この操作を契機としてフレーム 2 とフレーム 3 に同時にページ遷移が発生）

操作 32

ナビゲーション

操作 33

リンククリック（ページ遷移したフレーム 2' での操作）→ KAVK38752-E 発生

5 クラスタシステムでの運用

この章では，クラスタシステムで PFM - Agent for Service Response を運用する場合のインストール，セットアップ，アンインストール，アンセットアップ，およびクラスタシステムで PFM - Agent for Service Response を運用しているときの処理の流れについて説明します。

5.1 **クラスタシステムの概要**

5.2 **フェールオーバー時の処理**

5.3 **インストールとセットアップ**

5.4 **アンインストールとアンセットアップ**

5.5 PFM - Agent for Service Response **の運用方式の変更**

5.6 **クラスタシステムで運用する場合の注意事項**

5.1 クラスタシステムの概要

クラスタシステムとは，複数のサーバシステムを連携して一つのシステムとして運用するシステムです。PFM - Agent for Service Response は，次のクラスタシステムで運用できます。

- HA（High Availability）クラスタシステム

ここでは，クラスタシステムで PFM - Agent for Service Response を運用する場合の構成について説明します。クラスタシステムの概要，および Performance Management システムをクラスタシステムで運用する場合のシステム構成については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

なお，この章で，単に「クラスタシステム」と記述している場合は，HA クラスタシステムのことを指します。

5.1.1 HA クラスタシステム

（1）HA クラスタシステムでの PFM - Agent for Service Response の構成

PFM - Agent for Service Response は，HA クラスタシステムで運用できます。HA クラスタシステムで PFM - Agent for Service Response を運用する場合は，次の図のような構成で運用します。

図 5-1　HA クラスタシステムでの PFM - Agent for Service Response の構成例

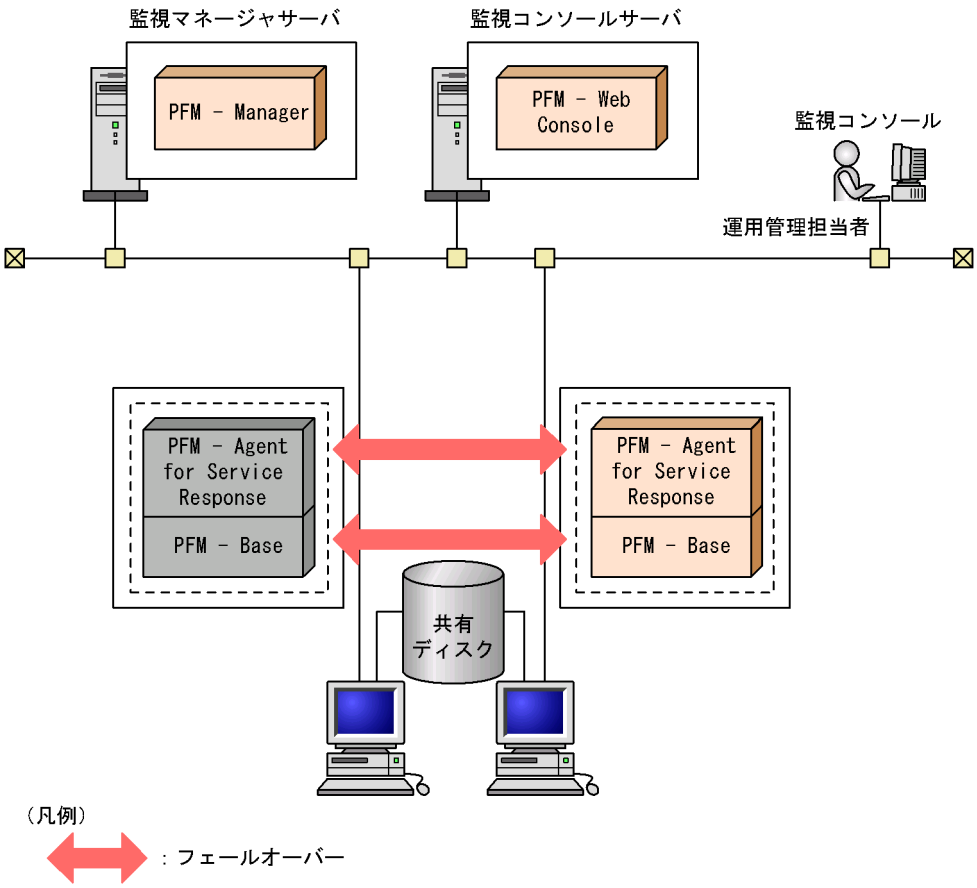


図 5-1 に示すように，PFM - Agent for Service Response は，共有ディスクに定義情報，パフォーマンス情報などを格納し，フェールオーバー時に引き継ぎます。一つの論理ホストに複数の Performance Management シリーズプログラムがある場合は，それぞれが同じ共有フォルダを使います。

5.2　フェールオーバー時の処理

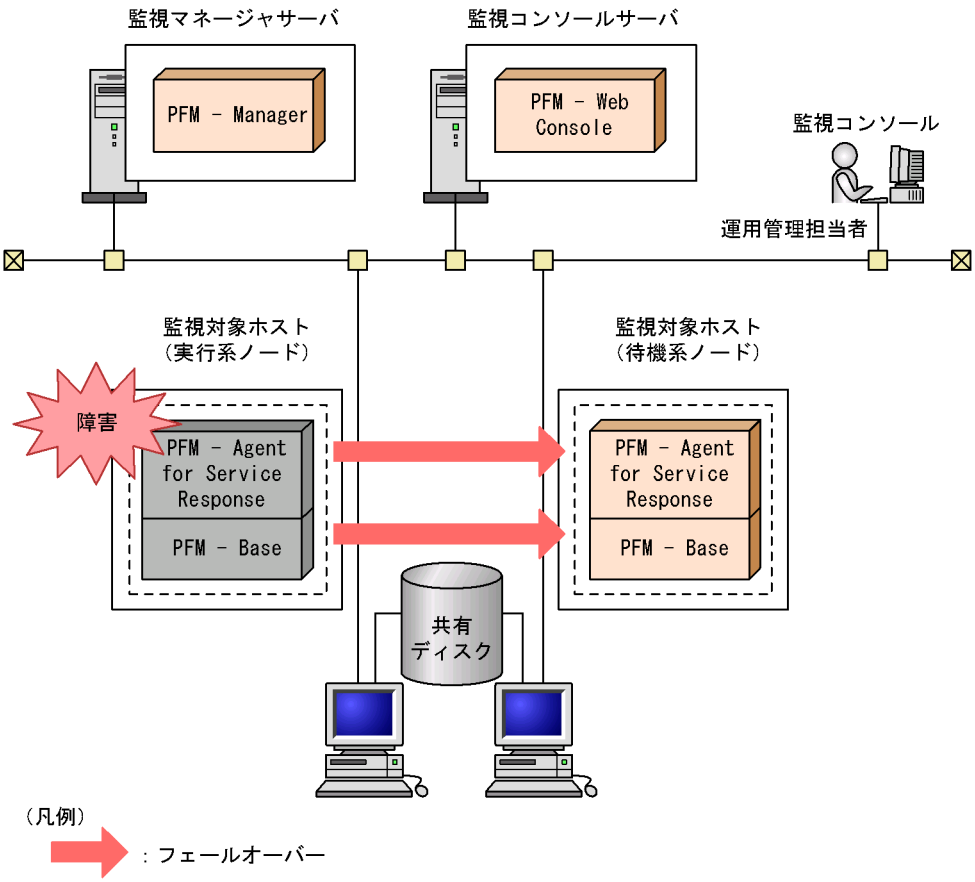
実行系ホストに障害が発生すると，処理が待機系ホストに移ります。

ここでは，PFM - Agent for Service Response に障害が発生した場合のフェールオーバー時の処理について説明します。また，PFM - Manager に障害が発生した場合の，PFM - Agent for Service Response への影響について説明します。

5.2.1　障害が発生した場合のフェールオーバー

PFM - Agent for Service Response を実行しているホストでフェールオーバーが発生した場合の処理を次の図に示します。

図 5-2　フェールオーバーが発生した場合の処理



PFM - Agent for Service Response のフェールオーバー中に，PFM - Web Console で操作すると，「`There was no answer(-6)`」というメッセージが表示されます。この場合は，フェールオーバーが完了するまで待ってから操作してください。

PFM - Agent for Service Response のフェールオーバー後に，PFM - Web Console で操作すると，フェールオーバー先のノードで起動した PFM - Agent for Service Response に接続されて，操作できます。

5.2.2 PFM - Manager が停止した場合の影響

PFM - Manager が停止すると，Performance Management システム全体に影響があります。

PFM - Manager は，各ノードで動作している PFM - Agent for Service Response のエージェント情報を一括管理しています。また，PFM - Agent for Service Response がパフォーマンス監視中にしきい値を超えた場合のアラームイベントの通知や，アラームイベントを契機としたアクションの実行を制御しています。このため，PFM - Manager が停止すると，Performance Management システムに次の表に示す影響があります。

表 5-1 PFM - Manager が停止した場合の PFM - Agent for Service Response への影響

プログラム名	影響	対処
PFM - Agent for Service Response	PFM - Agent for Service Response の動作中に，PFM - Manager が停止した場合，次のように動作する。 • パフォーマンスデータは継続して収集される。 • 発生したアラームイベントを PFM - Manager に通知できないため，アラーム定義ごとにアラームイベントが保持され，PFM - Manager が起動するまで通知をリトライする。保持しているアラームイベントが三つを超えると，古いアラームイベントは上書きされる。また，PFM - Agent for Service Response を停止すると，保持しているアラームイベントは削除される。 • PFM - Manager に通知済みのアラームステータスは，PFM - Manager が再起動したときに一度リセットされる。その後，PFM - Manager が PFM - Agent for Service Response の状態を確認したあと，アラームステータスは最新の状態となる。 • PFM - Agent for Service Response を停止しようとした場合，PFM - Manager に停止することを通知できないため，停止に時間が掛かる。	PFM - Manager を起動する。動作中の PFM - Agent for Service Response はそのまま運用できる。ただし，アラームが期待したとおり通知されない場合があるため，PFM - Manager 復旧後に，PFM - Agent の共通メッセージログに出力されているメッセージ KAVE00024-I を確認すること。

PFM - Manager が停止した場合の影響を考慮の上，運用方法を検討してください。なお，トラブル以外にも，構成変更やメンテナンスの作業などで PFM - Manager の停止が必要になる場合もあります。運用への影響が少ないときに，メンテナンスをすることをお勧めします。

5.3 インストールとセットアップ

ここでは，クラスタシステムでの PFM - Agent for Service Response の環境構築と設定の手順について説明します。

なお，PFM - Manager の環境構築と設定の手順については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

5.3.1 インストールを始める前に

インストールおよびセットアップを開始する前に前提条件，必要な情報，および注意事項について説明します。

(1) 前提条件

PFM - Agent for Service Response をクラスタシステムで使用する場合，次に示す前提条件があります。

(a) クラスタシステム

次の条件が整っていることを確認してください。

- クラスタシステムがクラスタソフトによって制御されていること。
- クラスタソフトが論理ホスト運用する PFM - Agent for Service Response の起動や停止などを制御するように設定されていること。

注意

- ワトソン博士でアプリケーションエラーのメッセージボックスが表示されると，フェールオーバーできないおそれがあるため，メッセージボックスによるエラーの通知を抑止する必要があります。抑止手順については，OS のマニュアルを参照してください。なお，エラーの通知を抑止すると，アプリケーションエラーが発生した際の情報取得に影響が出る場合があるため注意してください。
- Windows Server 2003 および Windows Server 2008 では，アプリケーションエラーが発生すると，Microsoft へエラーを報告するダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスが表示されるとフェールオーバーできないおそれがあるため，エラー報告を抑止する必要があります。抑止手順については，OS のマニュアルを参照してください。
- クラスタシステムの運用中に PFM - Agent for Service Response 08-00 をバージョンアップする場合，共有ディスク上に計測条件登録ファイルをコピーしておく必要があります。詳細については，「5.3.4　セットアップ」を参照してください。

(b) 共有ディスク

次の条件が整っていることを確認してください。

- 論理ホストごとに共有ディスクがあり，実行系ノードから待機系ノードへ引き継げること。
- 共有ディスクが，各ノードに物理的に Fibre Channel や SCSI で接続されていること。Performance Management では，ネットワークドライブや，ネットワーク経由でレプリケーションしたディスクを共有ディスクとして使う構成はサポートされていません。
- フェールオーバーの際に，何らかの問題によって共有ディスクを使用中のプロセスが残った場合でも，クラスタソフトなどの制御によって強制的に共有ディスクをオフラインにしてフェールオーバーできること。
- 一つの論理ホストで複数の PFM 製品を運用する場合，共有ディスクのフォルダ名が同じであること。
  なお，Store データベースについては格納先を変更して，共有ディスク上のほかのフォルダに格納できます。

(c) 論理ホスト名，論理 IP アドレス

次の条件が整っていることを確認してください。

- 論理ホストごとに論理ホスト名，および論理ホスト名と対応する論理 IP アドレスがあり，実行系ノードから待機系ノードに引き継げること。
- 論理ホスト名と論理 IP アドレスが，hosts ファイルやネームサーバに設定されていること。
- DNS 運用している場合は，FQDN 名ではなく，ドメイン名を除いたホスト名を論理ホスト名として使用していること。
- 物理ホスト名と論理ホスト名は，システムの中でユニークであること。

注意

- 論理ホスト名に，物理ホスト名（hostname コマンドで表示されるホスト名）を指定しないでください。正常に通信処理がされなくなる可能性があります。
- 論理ホスト名に使用できる文字は，1 ～ 32 バイトの半角英数字です。次の記号および空白文字は指定できません。
  / ¥ : ; * ? ' " < > | & = , .
- 論理ホスト名には，"localhost"，IP アドレス，"-" から始まるホスト名を指定できません。

(2) 論理ホスト運用する PFM - Agent for Service Response のセットアップに必要な情報

論理ホスト運用する PFM - Agent for Service Response をセットアップするには，通常の PFM - Agent for Service Response のセットアップで必要になる環境情報に加えて，次の表の情報が必要です。

表 5-2 論理ホスト運用の PFM - Agent for Service Response のセットアップに必要な情報

項目	例
論理ホスト名	jp1-halsr
論理 IP アドレス	172.16.92.100
共有ディスク	S:¥jp1

なお，一つの論理ホストで論理ホスト運用する Performance Management シリーズプログラムが複数ある場合も，同じ共有ディスクのフォルダを使用します。

共有ディスクに必要な容量については，「付録 A　システム見積もり」を参照してください。

(3) PFM - Agent for Service Response で論理ホストをフェールオーバーさせる場合の注意事項

PFM - Agent for Service Response を論理ホスト運用するシステム構成の場合，PFM - Agent for Service Response の障害によって論理ホスト全体をフェールオーバーさせるかどうかを検討してください。

PFM - Agent for Service Response の障害で論理ホスト全体をフェールオーバーさせると，同じ論理ホストで運用する業務アプリケーションもフェールオーバーすることになり，業務に影響を与える可能性があります。

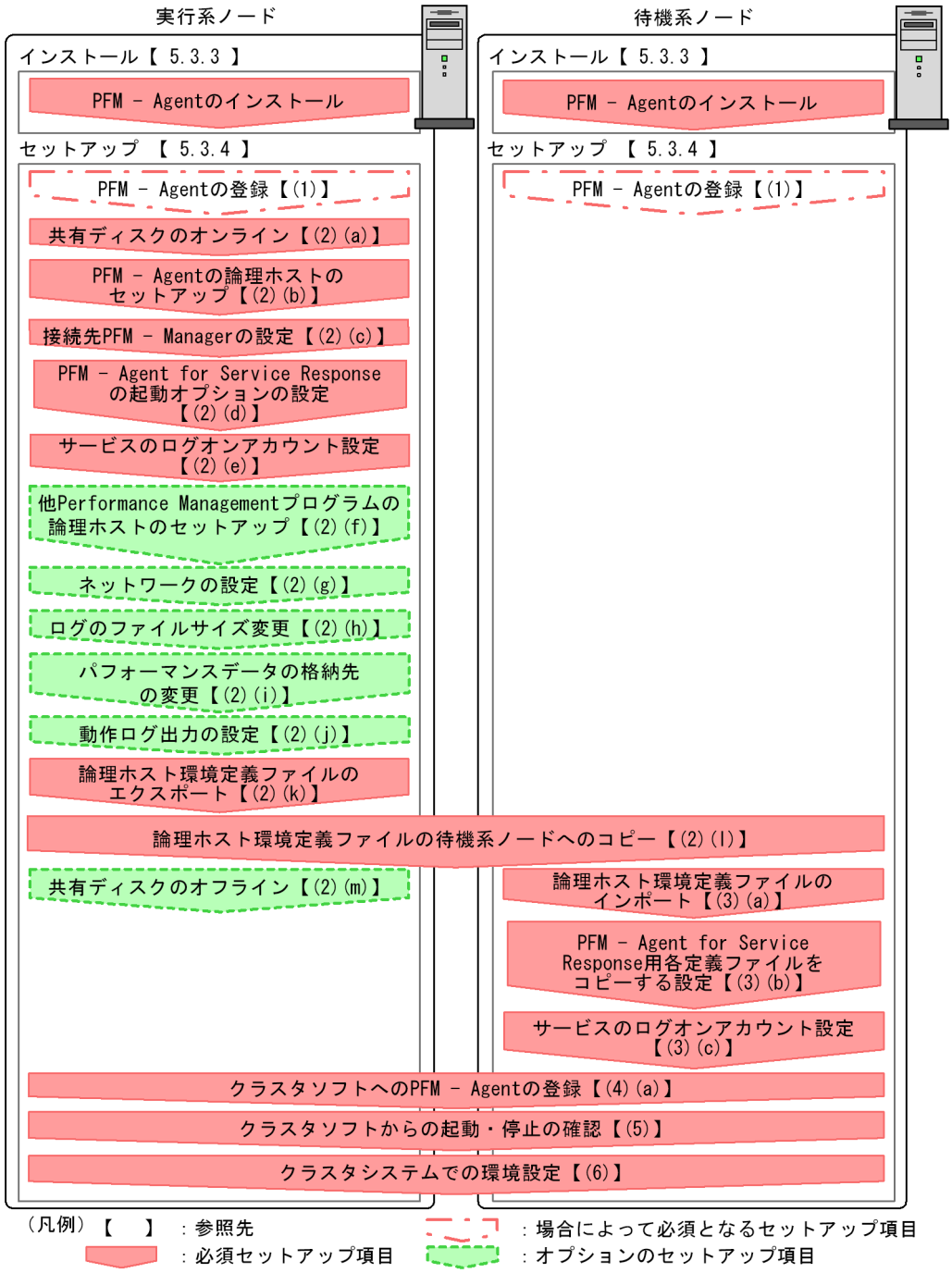
通常は，PFM - Agent for Service Response に異常が発生しても，同じ論理ホストで運用しているシステムの動作に影響がないように，次のどちらかのようにクラスタソフトで設定することをお勧めします。

- PFM - Agent for Service Response の動作監視をしない
- PFM - Agent for Service Response の異常を検知してもフェールオーバーしない

5.3.2 インストールから運用開始までの流れ

クラスタシステムで，論理ホスト運用する PFM - Agent for Service Response のインストールおよびセットアップの流れを次の図に示します。

図 5-3　クラスタシステムで論理ホスト運用する PFM - Agent for Service Response のインストールおよびセットアップの流れ



注意

- 論理ホスト環境の PFM - Agent をセットアップしても，物理ホスト環境の PFM - Agent の定義内容は引き継がれません。論理ホスト環境をセットアップした時点で，新規に環境が作成されます。
- 論理ホスト環境の PFM - Agent for Service Response をセットアップした場合，物理ホスト環境の PFM - Agent for Service Response は動作させないでください。論理ホスト環境を作成後，物理ホスト環境の PFM - Agent for Service Response のサービスの起動方法が「自動」になっている場合には，「手動」に変更してください。

5.3.3 インストール

実行系ノードおよび待機系ノードに PFM - Base および PFM - Agent for Service Response をインストールします。

インストール先はローカルディスクです。共有ディスクにはインストールしないでください。

インストール手順は非クラスタシステムの場合と同じです。インストール手順については，「2.1.3　インストール手順」を参照してください。

5.3.4 セットアップ

ここでは，クラスタシステムで Performance Management を運用するための，セットアップについて説明します。

(1) PFM - Agent for Service Response を登録する

Performance Management システムに，PFM - Agent for Service Response を追加する場合には，PFM - Agent for Service Response を登録するためのセットアップが必要です。

PFM - Agent for Service Response の登録は，PFM - Manager および PFM - Web Console で実施します。PFM - Manager のバージョンが 08-50 以降の場合は，PFM - Agent は自動的に登録されるため，登録作業は不要です。ただし，PFM - Manager のリリースノートに記載されていないデータモデルバージョンの PFM - Agent は，手動で登録する必要があります。PFM - Agent for Service Response のデータモデルのバージョンについては，「付録 H　バージョン互換」を参照してください。

PFM - Agent for Service Response を登録する手順は非クラスタシステムの場合と同じです。登録手順については，「2.1.4　PFM - Agent for Service Response のセットアップ手順」を参照してください。

(2) 実行系ノードの論理ホスト環境をセットアップする

実行系ノードで，PFM - Agent for Service Response の論理ホスト環境をセットアップし

ます。

注意

セットアップを実施する前に，Performance Management システム全体で，Performance Management シリーズプログラムのサービスをすべて停止してください。サービスの停止方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

(a) 共有ディスクをオンラインにする

共有ディスクがオンラインになっていることを確認します。共有ディスクがオンラインになっていない場合は，クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャーの操作などで，共有ディスクをオンラインにしてください。

(b) PFM - Agent for Service Response の論理ホスト環境をセットアップする

jpcconf ha setup(jpchasetup create) コマンドを実行して論理ホスト環境を作成します。コマンドを実行すると，共有ディスクに必要なデータがコピーされ，論理ホスト用の定義を設定されて，論理ホスト環境が作成されます。

手順を次に示します。

1. jpcconf ha setup(jpchasetup create) コマンドを実行して，PFM - Agent for Service Response の論理ホスト環境を作成する。
   次のようにコマンドを実行します。
   ```
   jpcconf ha setup -key SR -lhost jp1-halsr -d S:¥jp1(jpchasetup
   create agtv -lhost jp1-halsr -d S:¥jp1)
   ```
   論理ホスト名は，-lhost で指定します。ここでは，論理ホスト名を jp1-halsr としています。DNS 運用をしている場合はドメイン名を省略した論理ホスト名を指定してください。
   共有ディスクのフォルダ名は，-d の環境フォルダ名に指定します。例えば -d S:¥jp1 と指定すると S:¥jp1¥jp1pc が作成されて，論理ホスト環境のファイルが作成されます。
2. jpcconf ha list(jpchasetup list) コマンドを実行して，論理ホストの設定を確認する。
   次のようにコマンドを実行します。
   ```
   jpcconf ha list all(jpchasetup list all)
   ```
   作成した論理ホスト環境が正しいことを確認してください。

(c) 接続先 PFM - Manager を設定する

jpcconf mgrhost define(jpcnshostname) コマンドを実行して，PFM - Agent for Service Response を管理する PFM - Manager を設定します。なお，PFM - Manager の

バージョンが 08-50 以降の場合は自動的に登録されるため，登録作業は不要です。

1. jpcconf mgrhost define(jpcnshostname) **コマンドを実行して，接続先** PFM - Manager **を設定する。**
   次のようにコマンドを実行します。

   ```
   jpcconf mgrhost define -host jp1-hal -lhost
   jp1-halsr(jpcnshostname -s jp1-hal -lhost jp1-halsr)
   ```

   接続先 PFM - Manager のホスト名は，-host オプションで指定します。接続先 PFM - Manager が論理ホスト運用されている場合は，-host オプションに接続先 PFM - Manager の論理ホスト名を指定します。ここでは，PFM - Manager の論理ホスト名を jp1-hal としています。
   また，PFM - Agent for Service Response の論理ホスト名は，-lhost で指定します。ここでは，PFM - Agent for Service Response の論理ホスト名を jp1-halsr としています。

(d) PFM - Agent for Service Response の起動オプションの設定

クラスタ運用をする場合の起動オプションとして，Probe 動作条件定義ファイルの設定を変更します。

1. Probe **動作条件定義ファイルの［**Cluster**］セクションの** shared_directory **に共有フォルダを設定する。**
   PFM - Agent for Service Response では，実行系・待機系の切り替え時に情報を共有するため，共有ディスク上のフォルダ配下に，次の表に示すファイルを作成します。共有ファイルの格納先フォルダを次の表に示します。

表 5-3 共有ファイルの格納先フォルダ

共有ファイルの種別	共有ファイルの格納先フォルダ
レポートファイル	**共有ディスク上のフォルダ** ¥jp1pc¥agtv¥probe¥report
レポート一時ファイル	**共有ディスク上のフォルダ** ¥jp1pc¥agtv¥probe¥tmp
計測条件登録ファイル	**共有ディスク上のフォルダ** ¥jp1pc¥agtv¥probe¥task¥esp

共有ファイルの格納先フォルダに関する留意事項は次のとおりです。

- 共有ディスク上のフォルダ配下に必要なフォルダは，あらかじめ作成しておく必要があります。
- 計測条件登録ファイルに関連する，**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥task¥esp 配下のファイル（esptask.dtd，esptask.xml）は，あらかじめ共有ディスク上にコピーしておく必要があります。

注意

- 計測条件登録ファイルに関連するファイル（esptask.dtd，esptask.xml）は，論理環境作成後に，共有ディスク上にコピーしてもかまいません。
- 次のどれかの操作を行った場合，共有ディスク上の計測条件登録ファイルが設定さ

れます。
・PFM - Web Console から計測条件を設定する。
・IE Recorder から IE シナリオを簡易登録する。

- 計測条件登録ファイルを直接編集する運用の場合，物理ホスト上で編集したあと共有ディスク上にコピーするか，または共有ディスク上の計測条件登録ファイルを直接編集してください。

Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）の [Cluster] セクションに，次の両方の設定が必要です。

- shared_directory に，表 5-3 の「共有ファイルの格納先フォルダ」にあたるパスを指定する。
- cluster_flag に「Y」を指定する。

共有ディスク上のフォルダ配下の構成例を次に示します。この例の場合，Probe 動作条件定義ファイルの [Cluster] セクションの shared_directory には，「T:¥shdsk」を指定する必要があります。

（例）共有ディスク上のフォルダとして「T:¥shdsk」を指定する場合
T:¥shdsk¥jp1pc¥agtv¥probe¥report
T:¥shdsk¥jp1pc¥agtv¥probe¥tmp
T:¥shdsk¥jp1pc¥agtv¥probe¥task¥esp

2. **Probe 動作条件定義ファイルの［General］セクションの** ie_service_flag **に「Y」を設定する。**
IE シナリオを計測する場合は，設定する必要があります。

注意
バージョンアップインストールした場合は，Probe 動作条件定義ファイルの［General］セクションに ie_service_flag が追加されないので，追加して設定を変更してください。

これ以外の起動オプションの設定については，「2.1.4　PFM - Agent for Service Response のセットアップ手順」を参照してください。また，Probe 動作条件定義ファイルの詳細については，「7.2　Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）」を参照してください。

IE シナリオの定義で IE Recorder を使用する場合は，IE Recorder 動作条件定義ファイルを編集します。IE Recorder 動作条件定義ファイルの詳細については，「7.8　IE Recorder 動作条件定義ファイル（jpcvierec.conf）」を参照してください。

Web トランザクションの定義で Web Recorder を使用する場合は，Web Recorder 動作条件定義ファイルを編集します。Web Recorder 動作条件定義ファイルの詳細については，「7.9　Web Recorder 動作条件定義ファイル（wr.conf）」を参照してください。

ユーザー定義コマンドを使用する場合は，コマンド登録ファイル（espcommand.xml）を編集します。コマンド登録ファイルの詳細については，「7.6　コマンド登録ファイル

（espcommand.xml）」を参照してください。

(e) サービスのログオンアカウントの設定

次の手順で，論理ホストの Extensible Service IE Probe サービスのログオンアカウントを設定してください。

1. Windows の［スタート］－［管理ツール］－［サービス］を選択し，［サービス］画面を表示する。
2. Extensible Service IE Probe を選択し，メニューバーの［操作］－［プロパティ］を選択し，[Extensible Service IE Probe のプロパティ］画面を表示する。
3. ［ログオン］タブの［アカウント］をチェックし，［参照］ボタンを有効にする。
4. ［アカウント］ボックスにサービスの実行アカウント名※を入力する。
   アカウント名は，［参照］ボタンを押して表示されるダイアログから入力できます。
   注※
   サービスの実行アカウント名は計測用アカウントにしてください。
5. ［パスワード］ボックスにパスワードを入力し，パスワードを確認して［OK］ボタンを選択する。

(f) その他の Performance Management シリーズプログラムの論理ホスト環境をセットアップする

PFM - Agent for Service Response のほかに，同じ論理ホストにセットアップする PFM - Manager や PFM - Agent がある場合は，この段階でセットアップしてください。

セットアップ手順については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」，または各 PFM - Agent マニュアルの，クラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(g) ネットワークの設定をする

ファイアウォールがあるネットワーク環境で Performance Management シリーズプログラムを運用する場合だけに必要な設定です。ファイアウォール経由で Performance Management シリーズプログラム間の通信をする場合には，`jpcconf port`（`jpcnsconfig port`）コマンドを使用してポート番号を設定します。

ポート番号の設定方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章，およびクラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

また，複数の LAN に接続されたネットワーク環境で Performance Management を運用するときに使用する IP アドレスを指定したい場合は，IP アドレスの設定をします。IP アドレスを設定したい場合は，`jpchosts` ファイルの内容を直接編集します。

IP アドレスの設定方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・

構築ガイド」の Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

注意

jpchosts ファイルを編集した場合は，jpchosts ファイルを実行系ノードから待機系ノードにコピーしてください。

(h) ログのファイルサイズ変更をする

Performance Management の稼働状況を，Performance Management 独自のログファイルに出力します。このログファイルを「共通メッセージログ」と呼びます。共通メッセージログは，デフォルトで 2,048 キロバイトのファイルが 2 個使用されます。このファイルサイズを変更したい場合にだけ，必要な設定です。

詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

(i) パフォーマンスデータの格納先を変更する

PFM - Agent で管理されるパフォーマンスデータを格納するデータベースの保存先，バックアップ先，エクスポート先，またはインポート先のフォルダを変更したい場合にだけ必要な設定です。設定方法については，「2.4.1 パフォーマンスデータの格納先の変更」を参照してください。

(j) 動作ログ出力を設定する

アラーム発生時に動作ログを出力したい場合に必要な設定です。動作ログとは，システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

設定方法については，「付録 I 動作ログの出力」を参照してください。

(k) 論理ホスト環境定義をエクスポートする

PFM - Agent for Service Response の論理ホスト環境が作成できたら，環境定義をファイルにエクスポートします。エクスポートでは，その論理ホストにセットアップされている Performance Management シリーズプログラムの定義情報を一括してファイル出力します。同じ論理ホストにほかの Performance Management シリーズプログラムをセットアップする場合は，セットアップが一とおり済んだあとにエクスポートしてください。

論理ホスト環境定義をエクスポートする手順を次に示します。

1. jpcconf ha export(jpchasetup export) **コマンドを実行して，論理ホスト環境定義をエクスポートする。**
   これまでの手順で作成した論理ホスト環境の定義情報を，エクスポートファイルに出力します。エクスポートファイル名は任意です。
   例えば，lhostexp.txt ファイルに論理ホスト環境定義をエクスポートする場合，

次のようにコマンドを実行します。

```
jpcconf ha export -f lhostexp.txt(jpchasetup export -f
lhostexp.txt)
```

(l) 論理ホスト環境定義ファイルを待機系ノードにコピーする

「(k) 論理ホスト環境定義をエクスポートする」でエクスポートした論理ホスト環境定義ファイルを，実行系ノードから待機系ノードにコピーします。

(m) 共有ディスクをオフラインにする

クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャーの操作などで，共有ディスクをオフラインにして，作業を終了します。なお，その共有ディスクを続けて使用する場合は，オフラインにする必要はありません。

(3) 待機系の論理ホスト環境をセットアップする

待機系ノードで，PFM - Agent for Service Response の論理ホスト環境をセットアップします。

(a) 論理ホスト環境定義をインポートする

実行系ノードからコピーしたエクスポートファイルを，待機系ノードにインポートします。

実行系ノードで作成した論理ホストの Performance Management シリーズプログラムを，待機系ノードで実行するための設定には，`jpcconf ha import(jpchasetup import)` コマンドを使用します。一つの論理ホストに複数の Performance Management シリーズプログラムがセットアップされている場合は，一括してインポートされます。

なお，このコマンドを実行するときには，共有ディスクをオンラインにしておく必要はありません。

1. **`jpcconf ha import(jpchasetup import)` コマンドを実行して，論理ホスト環境定義をインポートする。**
   次のようにコマンドを実行します。

   ```
   jpcconf ha import -f lhostexp.txt(jpchasetup import -f
   lhostexp.txt)
   ```

   コマンドを実行すると，待機系ノードの環境を，エクスポートファイルの内容と同じ環境になるように設定変更します。これによって，論理ホストの PFM - Agent for Service Response を起動するための設定が実施されます。
   また，セットアップ時に `jpcconf port(jpcnsconfig port)` で固定のポート番号を設定している場合も，同様に設定されます。
2. **`jpcconf ha list(jpchasetup list)` コマンドを実行して，論理ホスト設定を確認する。**
   次のようにコマンドを実行します。

jpcconf ha list all(jpchasetup list all)

実行系ノードで jpcconf ha list(jpchasetup list) を実行した時と同じ内容が表示されることを確認してください。

(b) PFM - Agent for Service Response 用各定義ファイルをコピーする

「(2)(d) PFM - Agent for Service Response の起動オプションの設定」で作成した各定義ファイルを，実行系ノードから待機系ノードにコピーします。

1. **Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）を，実行系ノードから待機系ノードにコピーする。**
   インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥conf

2. **IE シナリオを定義した場合，IE Recorder 動作条件定義ファイル（jpcvierec.conf）および IE シナリオファイルを，実行系ノードから待機系ノードにコピーする。**
   インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥conf
   インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥iescena配下のファイル

3. **Web トランザクションを定義した場合，Web Recorder 動作条件定義ファイル（wr.conf）および Web トランザクションファイルを，実行系ノードから待機系ノードにコピーする。**
   インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥conf
   インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥webtrans配下のファイル

4. **ユーザー定義コマンドを使用する場合は，コマンド登録ファイル（espcommand.xml）およびユーザー定義コマンドを，実行系ノードから待機系ノードにコピーする。**
   インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥conf
   インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥user配下のファイル

5. **パスワードを登録した場合，パスワードファイル（esp.pdb）を，実行系ノードから待機系ノードにコピーする。**
   インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥passwd

6. **HTTPS の計測で，サーバ認証やクライアント認証を適用する場合，待機系ノードにも証明書ファイルをコピーする。**

(c) サービスのログオンアカウントの設定

待機系ノードで，「(2)(e) サービスのログオンアカウントの設定」を実行します。

(4) クラスタソフトへ登録する

Performance Management シリーズプログラムを論理ホスト環境で運用する場合は，ク

ラスタソフトに登録して，クラスタソフトからの制御で Performance Management シリーズプログラムを起動したり停止したりするように環境設定します。

ここでは，PFM - Agent for Service Response をクラスタソフトに登録するときに設定する内容を説明します。

(a) クラスタソフトへ PFM - Agent for Service Response を登録する

PFM - Agent for Service Response をクラスタソフトに登録するときの設定内容を説明します。

PFM - Agent for Service Response の場合，次の表のサービスをクラスタに登録します。

表 5-4 クラスタソフトに登録する PFM - Agent for Service Response のサービス

項番	名前	サービス名	依存関係
1	PFM - Agent Store for ServiceResponse [LHOST]	JP1PCAGT_VS [LHOST]	IP アドレスリソース 物理ディスクリソース
2	PFM - Agent for ServiceResponse [LHOST]	JP1PCAGT_VA [LHOST]	#1 のクラスタリソース
3	PFM - Action Handler [LHOST]	JP1PCMGR_PH [LHOST]	IP アドレスリソース 物理ディスクリソース

[LHOST] の部分は，論理ホスト名に置き換えてください。論理ホスト名が jp1-halsr の場合，サービスの名前は「PFM - Agent Store for Service Response [jp1-halsr]」，サービス名は「JP1PCAGT_VS [jp1-halsr]」のようになります。

MSCS の場合は，これらのサービスを MSCS のリソースとして登録します。各リソースの設定は次のようにします。下記の［ ］は，MSCS の設定項目です。

- ［リソースの種類］は「汎用サービス」として登録する。
- ［名前］，［依存関係］，および［サービス名］を表 5-4 のとおりに設定する。
  なお，名前はサービスを表示するときの名称で，サービス名は MSCS から制御するサービスを指定するときの名称です。
- ［起動パラメータ］および［レジストリ複製］は設定しない。
- プロパティの［詳細設定］タブは，Performance Management シリーズプログラムの障害時にフェールオーバーするかしないかの運用に合わせて設定する。
  例えば，PFM - Agent for Service Response の障害時に，フェールオーバーするように設定するには，次のように設定します。
  ［再開する］：チェックする
  ［グループに適用する］：チェックする
  再起動試行回数の［しきい値］：3※

注※

再起動試行回数の［しきい値］は 3 回を目安に設定してください。

注意

クラスタに登録するサービスは，クラスタから起動および停止を制御しますので，OS 起動時に自動起動しないよう［スタートアップの種類］を［手動］に設定してください。なお，`jpcconf ha setup`(`jpchasetup create`) コマンドでセットアップした直後のサービスは［手動］に設定されています。

(5) 起動・停止の確認

クラスタソフトからの操作で，Performance Management シリーズプログラムの起動および停止を各ノードで実行し，正常に動作することを確認してください。

(6) クラスタシステムでの環境を設定する

Performance Management シリーズプログラムのセットアップ終了後，PFM - Web Console から，運用に合わせて監視対象の稼働状況についてのレポートを表示できるようにしたり，監視対象で問題が発生したときにユーザーに通知できるようにしたりするために，Performance Management シリーズプログラムの環境を設定します。

Performance Management プログラムの環境の設定方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

5.4 アンインストールとアンセットアップ

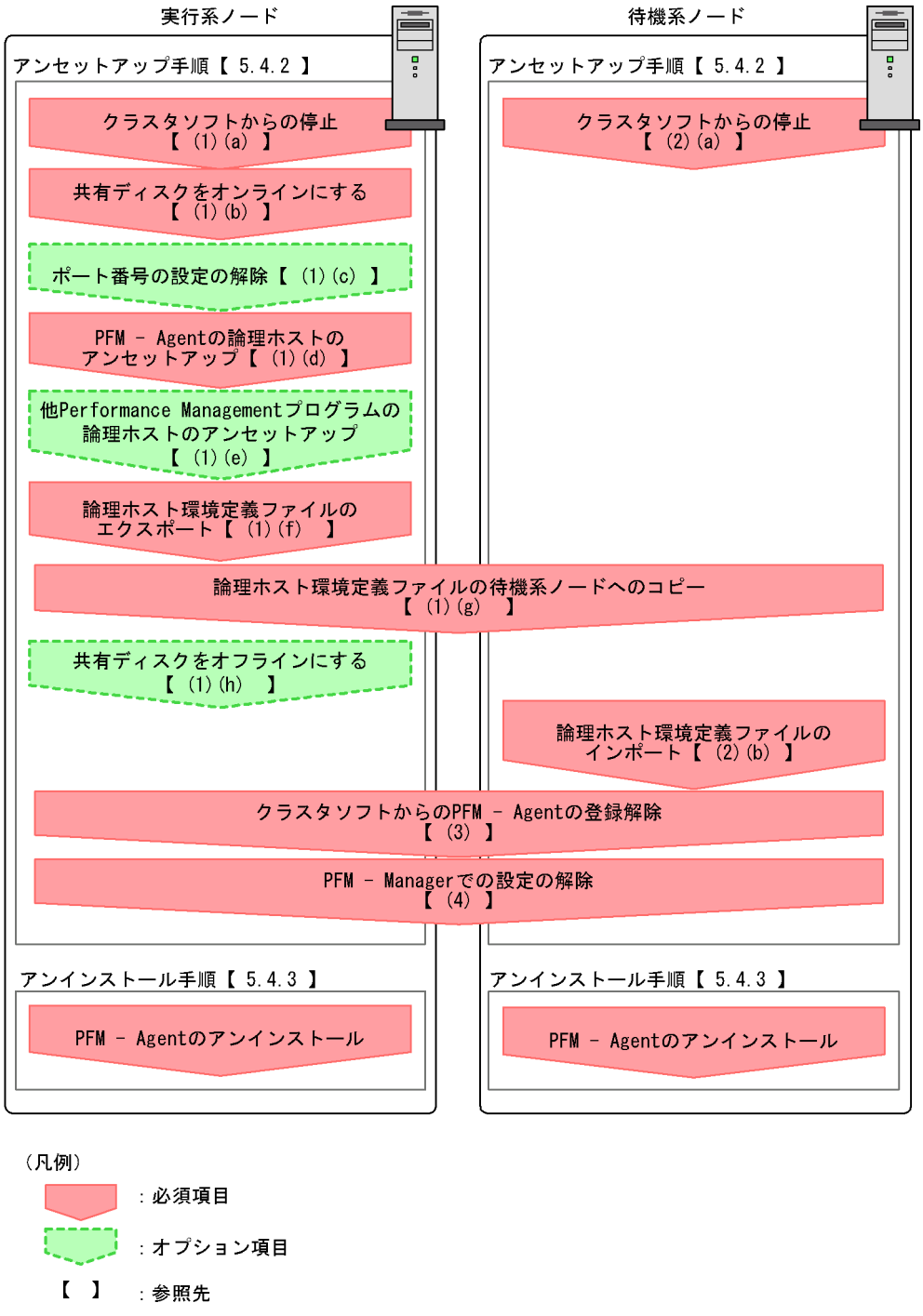
ここでは，クラスタシステムで運用していた PFM - Agent for Service Response を，アンインストールする方法とアンセットアップする方法について説明します。

なお，PFM - Manager のアンインストールとアンセットアップについては，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

5.4.1 PFM - Agent for Service Response のアンインストールとアンセットアップの流れ

クラスタシステムで運用していた PFM - Agent for Service Response のアンインストールおよびアンセットアップの流れを次の図に示します。

図 5-4 クラスタシステムで論理ホスト運用する PFM - Agent for Service Response のアンインストールおよびアンセットアップの流れ



（凡例）

：必須項目

：オプション項目

【 】 ：参照先

5.4.2 PFM - Agent for Service Response のアンセットアップ

論理ホスト環境をアンセットアップします。アンセットアップ手順には，実行系ノードの手順と，待機系ノードの手順があります。実行系ノード，待機系ノードの順にアンセットアップしてください。

PFM - Agent for Service Response のアンセットアップ手順について説明します。

注意

アンセットアップする実行系ノードおよび待機系ノードで動作している，Performance Management シリーズプログラムのすべてのサービスを停止してください。サービスの停止方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

(1) 実行系ノードの論理ホスト環境をアンセットアップする

実行系ノードで，PFM - Agent for Service Response の論理ホストの環境をアンセットアップします。

(a) クラスタソフトからの停止

クラスタソフトからの操作で，実行系ノードで起動している Performance Management のプログラムおよびサービスを停止してください。停止する方法については，クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

(b) 共有ディスクをオンラインにする

共有ディスクがオンラインになっていることを確認します。共有ディスクがオンラインになっていない場合は，クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャーの操作などで，共有ディスクをオンラインにしてください。

(c) ポート番号の設定を解除する

この手順は，ファイアウォールを使用する環境で，セットアップ時に `jpcconf port`（`jpcnsconfig port`）コマンドでポート番号を設定した場合だけに必要な手順です。

ポート番号の解除方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Windows 用のインストールとセットアップについて説明している章，およびクラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(d) 論理ホスト環境の PFM - Agent for Service Response をアンセットアップする

手順を次に示します。

注意

共有ディスクがオフラインの状態で論理ホスト環境を削除した場合は，物理ホスト上に存在する論理ホストの設定が削除され，共有ディスク上のフォルダやファイル

は削除されません。この場合，共有ディスクをオンラインにして，環境フォルダ以下の jp1pc フォルダを手動で削除する必要があります。

1. jpcconf ha list(jpchasetup list) **コマンドを実行して，論理ホスト設定を確認する。**
   次のようにコマンドを実行します。
   ```
   jpcconf ha list all -lhost jp1-halsr(jpchasetup list all -lhost jp1-halsr)
   ```
   論理ホスト環境をアンセットアップする前に，現在の設定を確認します。論理ホスト名や共有ディスクのパスなどを確認してください。

2. jpcconf ha list(jpchasetup list) **コマンドを実行して，**PFM - Agent for Service Response **の論理ホスト環境を削除する。**
   次のようにコマンドを実行します。
   ```
   jpcconf ha list all -lhost jp1-halsr(jpchasetup list all -lhost jp1-halsr)
   ```
   jpcconf ha list(jpchasetup list) コマンドを実行すると，論理ホストの PFM - Agent for Service Response を起動するための設定が削除されます。また，共有ディスク上の論理ホスト用のファイルが削除されます。

3. jpcconf ha list(jpchasetup list) **コマンドで，論理ホスト設定を確認する。**
   次のようにコマンドを実行します。
   ```
   jpcconf ha list all(jpchasetup list all)
   ```
   論理ホスト環境から PFM - Agent for Service Response が削除されていることを確認してください。

(e) その他の Performance Management シリーズプログラムの論理ホスト環境をアンセットアップする

PFM - Agent for Service Response のほかに，同じ論理ホストからアンセットアップする PFM - Agent がある場合は，この段階でアンセットアップしてください。

アンセットアップ手順については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，クラスタシステムでの運用について説明している章，または各 PFM -Agent マニュアルの，クラスタシステムでの運用について説明している章を参照してください。

(f) 論理ホスト環境定義をエクスポートする

論理ホストの PFM - Agent for Service Response を削除したら，環境定義をファイルにエクスポートします。

Performance Management では，環境定義のエクスポートおよびインポートによって実行系と待機系の環境を合わせる方式を採っています。

実行系ノードでエクスポートした環境定義（Performance Management の定義が削除されている）を，待機系ノードにインポートすると，待機系ノードの既存の環境定義

（Performance Management の定義が削除前のままの状態で定義が残っている）と比較して差分（実行系ノードで削除された部分）を確認して Performance Management の環境定義を削除します。

手順を次に示します。

1. jpcconf ha export（jpchasetup export）**コマンドを実行して，論理ホスト環境定義をエクスポートする。**
   Performance Management の論理ホスト環境の定義情報を，エクスポートファイルに出力します。エクスポートファイル名は任意です。
   例えば，lhostexp.txt ファイルに論理ホスト環境定義をエクスポートする場合，次のようにコマンドを実行します。
   jpcconf ha export（jpchasetup export） -f lhostexp.txt

(g) 論理ホスト環境定義ファイルを待機系ノードにコピーする

「(f) 論理ホスト環境定義をエクスポートする」でエクスポートしたファイルを，実行系ノードから待機系ノードにコピーします。

(h) 共有ディスクをオフラインにする

クラスタソフトからの操作やボリュームマネージャーの操作などで，共有ディスクをオフラインにして，作業を終了します。なお，その共有ディスクを続けて使用する場合は，オフラインにする必要はありません。

(2) 待機系ノードの論理ホスト環境をアンセットアップする

実行系ノードでエクスポートしたファイルを待機系ノードにコピーし，待機系ノードで，論理ホスト環境をアンセットアップします。なお，待機系ノードでは，アンセットアップの時に共有ディスクをオンラインにする必要はありません。

手順を次に示します。

(a) クラスタソフトからの停止

クラスタソフトからの操作で，待機系ノードで起動している Performance Management のプログラムおよびサービスを停止してください。停止する方法については，クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

(b) 論理ホスト環境定義ファイルのインポート

実行系ノードからコピーしたエクスポートファイルを，待機系ノードに反映させるためにインポートします。なお，待機系ノードでは，インポート時に共有ディスクをオフラインにする必要はありません。

手順を次に示します。

1. jpcconf ha import（jpchasetup import）**コマンドを実行して，論理ホスト環境定義をインポートする。**
   次のようにコマンドを実行します。

```
jpcconf ha import(jpchasetup import) -f lhostexp.txt
```

コマンドを実行すると，待機系ノードの環境を，エクスポートファイルの内容と同じ環境になるように設定変更します。これによって，論理ホストの PFM - Agent for Service Response を起動するための設定が削除されます。ほかの論理ホストの Performance Management シリーズプログラムをアンセットアップしている場合は，それらの設定も削除されます。
また，セットアップ時に `jpcconf port(jpcnsconfig port)` コマンドで固定のポート番号を設定している場合も，解除されます。

2. `jpcconf ha list(jpchasetup list)` **コマンドを実行して，論理ホスト設定を確認する。**
次のようにコマンドを実行します。
`jpcconf ha list all(jpchasetup list all)`
実行系ノードで `jpcconf ha list(jpchasetup list)` コマンドを実行したときと同じ内容が表示されることを確認してください。

（3）クラスタソフトの登録を解除する

クラスタソフトから，論理ホストの PFM - Agent for Service Response に関する設定を削除してください。

設定を削除する方法は，クラスタソフトのマニュアルを参照してください。

（4）PFM - Manager での設定の削除

PFM - Web Console で PFM - Manager にログインし，アンセットアップする PFM - Agent for Service Response に関連する定義を削除してください。

手順を次に示します。

1. PFM - Web Console **から，エージェントを削除する。**

2. PFM - Manager **のエージェント情報を削除する。**
例えば，PFM - Manager が論理ホスト jp1-hal 上で動作し，PFM - Agent for Service Response が論理ホスト jp1-halsr 上で動作している場合，次のように指定してコマンドを実行します。
```
jpctool service delete -id サービスID -host jp1-halsr -lhost
jp1-hal(jpcctrl delete サービスID host=jp1-halsr lhost=jp1-hal)
```
サービス ID には削除するエージェントのサービス ID を指定してください。

3. PFM - Manager **サービスを再起動する。**
サービスの起動方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。

4. PFM - Web Console サービスを再起動する。
   サービス情報の削除を PFM - Web Console で有効にするには，PFM - Manager サービスを再起動したあと，PFM - Web Console を再起動してください。

5.4.3 アンインストール

PFM - Base および PFM - Agent for Service Response をアンインストールしてください。

アンインストール手順は，非クラスタシステムの場合と同じです。詳細は，「2.2.3 アンインストール手順」を参照してください。

注意

- PFM - Agent for Service Response をアンインストールする場合は，PFM - Agent for Service Response をアンインストールするノードの Performance Management シリーズプログラムのサービスをすべて停止してください。
- 論理ホスト環境を削除しないで PFM - Agent for Service Response をアンインストールした場合，環境フォルダが残ることがあります。その場合は，環境フォルダを削除してください。

5.5 PFM - Agent for Service Response の運用方式の変更

ここでは，クラスタシステムで PFM - Agent for Service Response の運用方式を変更する手順を説明します。Performance Management 全体の運用方式を変更する手順の詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，クラスタシステムでの構築と運用について説明している章を参照してください。

5.5.1 論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポート

論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポートは，次の操作を実行した場合だけ実施します。

- 論理ホストのセットアップ時に，論理ホスト上のノード構成を変更した。
  PFM - Agent の論理ホストのセットアップ方法については，「5.3.4(2) 実行系ノードの論理ホスト環境をセットアップする」を参照してください。
- 他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ時に，論理ホスト環境定義ファイルのエクスポートが必要な操作を実行した。
  他 Performance Management プログラムの論理ホストのセットアップ方法については，「5.3.4(2)(f) その他の Performance Management シリーズプログラムの論理ホスト環境をセットアップする」を参照してください。
- ネットワークの設定時に，ポート番号を設定した。
  ネットワークの設定方法については，「5.3.4(2)(g) ネットワークの設定をする」を参照してください。

論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポートの手順については，「5.3.4(2)(k)　論理ホスト環境定義をエクスポートする」～「5.3.4(3)　待機系の論理ホスト環境をセットアップする」を参照してください。

5.5.2 PFM - Agent for Service Response 用定義ファイルの変更

実行系ノードの論理ホスト上で，「5.3.4(2)(d)　PFM - Agent for Service Response の起動オプションの設定」にある定義ファイルを変更した場合は，変更後のファイルを待機系の論理ホストにコピーしてください。

5.6 クラスタシステムで運用する場合の注意事項

ここでは，PFM - Agent for Service Response をクラスタシステムで運用する場合の注意事項について説明します。

5.6.1 IE シナリオを使用する場合の注意事項

IE シナリオを使用する場合，次に示す項目については，実行系および待機系のそれぞれの物理ホストで同じ設定をしてください。

(1) Probe 動作条件定義ファイルの設定

Probe 動作条件定義ファイルで，IE Probe Daemon を Windows サービスから起動および終了させる設定を行ってください。Probe 動作条件定義ファイルの設定を変更します。

Probe 動作条件定義ファイルの詳細については，「4.1(5)(a)　Probe 動作条件定義ファイルの設定」を参照してください。

(2) 計測用アカウントの設定

Internet Explorer の操作を計測するアカウントを作成します。

(3) IE シナリオを計測する環境の設定

IE シナリオを計測する場合は，計測用アカウントで Windows にログオンして環境の設定を行ってください。設定手順については，「4.1(5)(c)　IE シナリオを計測する環境の設定」を参照してください。

(4) IE シナリオの記録

IE シナリオを計測する場合は，計測用アカウントで Windows にログオンして IE シナリオの記録を行ってください。設定手順については，「4.1(5)(d)　IE シナリオの記録」を参照してください。

(5) IE Recorder 上での再生確認

IE シナリオを計測する場合は，計測用アカウントで Windows にログオンして IE Recorder から再生を実行して正しく動作することを確認してから計測を実施してください。

(6) サービスアカウントの設定

Extensible Service IE Probe サービスのログオンアカウントを設定してください。設定手順については，「4.1(5)(f)　サービスのログオンアカウントの設定」を参照してくださ

い。

計測アカウントと Extensible Service IE Probe サービスのログオンアカウントが異なる場合，シナリオを再生すると KAVK38756-E などのエラーが発生することがあります。

6 画面

この章では，IE Recorder および Web Recorder の表示項目，設定項目について説明します。

6.1 画面の基本操作と画面遷移
6.2 IE Recorder の画面
6.3 Web Recorder の画面

6.1 画面の基本操作と画面遷移

IE Recorder および Web Recorder の画面の基本操作，画面遷移について説明します。

6.1.1 画面の基本操作

IE Recorder および Web Recorder の画面の基本操作について説明します。

［OK］ボタン
　設定内容を反映して画面を閉じます。

［キャンセル］ボタン
　設定内容を反映しないで画面を閉じます。

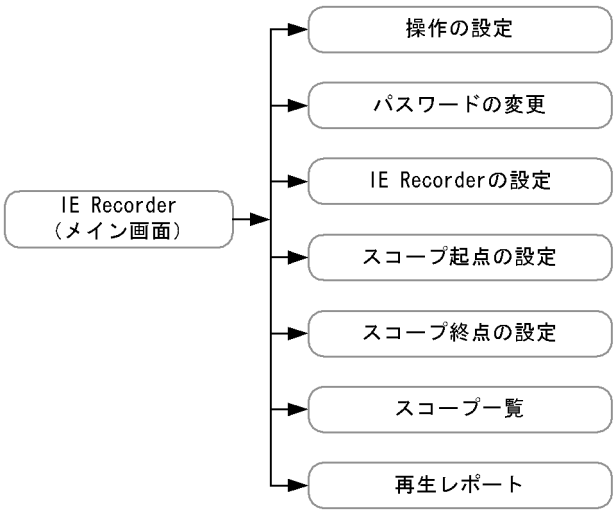
［適用］ボタン
　画面を表示したまま，設定を反映します。

［ヘルプ］－［バージョン］
　バージョン情報を表示します。

6.1.2 画面遷移

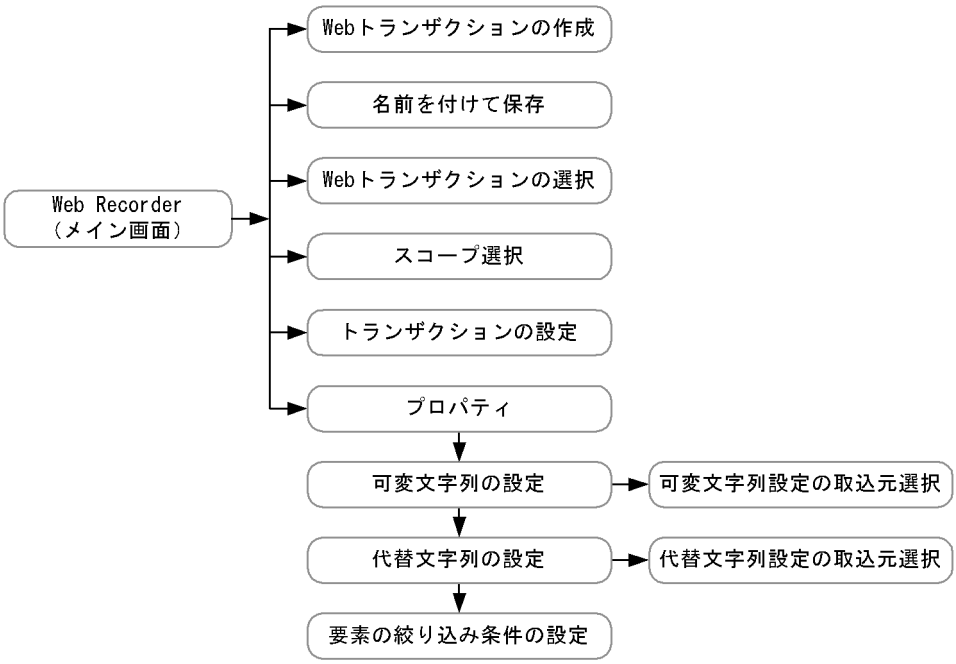
IE Recorder の画面遷移を次の図に示します。

図 6-1　IE Recorder の画面遷移



Web Recorder の画面遷移を次の図に示します。

図 6-2　Web Recorder の画面遷移



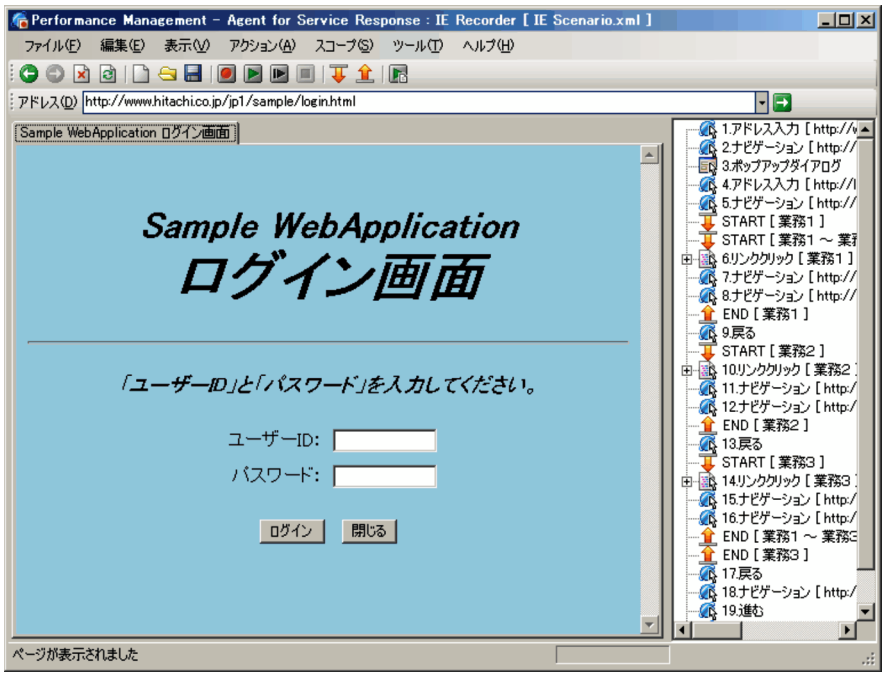
6.2 IE Recorder の画面

IE Recorder は，IE シナリオとして監視する Internet Explorer を使用した Web アクセス操作と，それに伴う情報を定義する画面です。この節では，IE Recorder の各画面について説明します。

6.2.1 [IE Recorder]（メイン）画面

IE シナリオを定義する画面です。[IE Recorder]（メイン）画面には，画面上で行った Internet Explorer の操作を IE シナリオとして記録する記録モード，IE シナリオを編集する編集モード，IE シナリオを再生して応答時間を計測する再生モードの三つのモードがあります。

図 6-3 [IE Recorder]（メイン）画面



表示項目について説明します。

タイトルバー

IE Recorder のタイトルと IE Recorder に表示されている IE シナリオファイル名が表示されます。

ツールバー

[IE Recorder]（メイン）画面でよく使う機能がボタンとして表示されます。

［前に戻る］ボタン

URL 履歴の一つ前のページを IE ウィンドウに表示します。

［次に進む］ボタン

URL 履歴の一つあとのページを IE ウィンドウに表示します。

［中止］ボタン

IE ウィンドウへのページの表示を中止します。

［更新］ボタン

IE ウィンドウに表示されているページを更新します。

［新規作成］ボタン

IE シナリオを新規に作成します。

［開く］ボタン

既存の IE シナリオファイルを開いて，IE シナリオを表示します。

［保存］ボタン

記録，編集した IE シナリオを上書きして保存します。

［記録］ボタン

IE シナリオを記録します。

［再生］ボタン

IE シナリオを再生します。

［ステップ再生］ボタン

IE シナリオの操作を一つずつ再生します。

［記録 / 再生の停止］ボタン

IE シナリオの記録または再生を停止します。

［スコープ起点の設定］ボタン

［スコープ起点の設定］画面を表示し，起点を設定したいスコープを選択します。起点として選択したスコープは，操作リストで選択している操作の前に追加されます。

［スコープ終点の設定］ボタン

［スコープ終点の設定］画面を表示し，終点を設定したいスコープを選択します。終点として選択したスコープは，操作リストで選択している操作のあとに追加されます。

［計測テスト］ボタン

記録した IE シナリオを再生して，計測をテストします。

アドレスバー

IE ウィンドウで行われたナビゲーションの内容（URL）が表示されます。ナビゲーションの履歴は保持しないため，ドロップダウンリストには IE Recorder 動作条件定義ファイルに定義されている URL が表示されます。

また，URL を入力して をクリックするか，Enter キーを押すと，IE ウィンドウの部分に URL のページが表示されます。

［移動］ボタン

［アドレス］に入力された URL のページを IE ウィンドウの部分に表示します。

IE ウィンドウ

［アドレス］に入力した URL のページが表示されます。IE ウィンドウでは，Internet Explorer と同様の操作ができます。なお，IE ウィンドウをキーボードで操作すると，正しく記録されないことがあるため，マウスで操作してください。タブには，表示されたページのタイトルが表示されます。IE ウィンドウ操作時に新規にウィンドウが表示されると，ウィンドウを表示するためのタブが追加されます。IE ウィンドウ内でスクリプトを用いてウィンドウを閉じるとタブが閉じます。ただし，タブが一つしかないときにはタブを閉じることはできません。
開かれているタブと操作の結果について次の表に示します。

表 6-1　開かれているタブの数と操作結果

項番	IE ウィンドウ内のタブ数	操作	操作結果
1	1 個※1	ウィンドウを開く※2	新規ウィンドウの内容を新規タブで開きます。
2		ウィンドウを閉じる※3	開いているタブを閉じ，直後に空白ページを表示した新しいタブを一つ作成します。
3	2 個以上	ウィンドウを開く※2	新規ウィンドウの内容を新規タブで開きます。
4		ウィンドウを閉じる※3	タブを閉じます。閉じるタブは，スクリプトの内容に依存します。
5		タブを閉じる	タブを閉じます。 メニューからタブを閉じた場合はアクティブなタブを，コンテキストメニューからタブを閉じた場合はクリックしたタブを閉じます。

注 1

これらの操作によって IE Recorder のモードは変更されません。

注 2

新しいタブをメニューから開くことはできません。

注※ 1

タブが一つしかないときにはタブを閉じることはできません。

注※ 2

IE ウィンドウ内での「ウィンドウを開く」操作とは，次の操作を表します。
・［Shift］を押しながらリンクをクリックする。
・HTML ソースに target=_blank が設定されているリンクをクリックする。
・スクリプトで新しいウィンドウを開く。

注※ 3
IE ウィンドウ内での「ウィンドウを閉じる」操作とは，次の操作を表します。
・スクリプトでウィンドウを閉じる。

注意事項

IE シナリオを定義する際は，次の点に注意してください。

- IE ウィンドウの動作は，PFM - Agent for Service Response がインストールされているマシンの Internet Explorer の設定などに依存します。したがって，IE シナリオを定義する際，Internet Explorer の動作に影響を与えるようなアプリケーションが動作している環境では，IE Recorder も同じ影響を受けることになります。
- IE ウィンドウ内に表示されるページで，ウィンドウのリサイズなど，ウィンドウ自体を制御するスクリプトを実行した場合，正常に動作しないことがあります。なお，新規にウィンドウを起動してページを表示するようなスクリプトは実行できます。

操作リスト

記録した操作情報や，スコープの起点および終点がツリー状に表示されます。
操作リストの表示形式を次に示します。

操作情報

```
+--タグ情報
|     +--タグ名:タグ名
|     +--属性
|     |    +--属性名=属性値
|     |    ...
|     +--インナーテキスト:インナーテキストの内容
|     +--タグ位置
|     |    +--同一タグ:同一タグ中の順序
|     |    +--同一インナーテキスト:同一インナーテキスト中の順序
|     +--同一タグ数:同一タグ数
|     +--同一インナーテキスト数:同一インナーテキスト数
|     +--画面遷移:「あり」または「なし」
```

操作リストには設定したスコープ情報が表示されます。スコープ情報の表示形式を次に示します。

+ **操作情報** 1
+ **起点スコープ情報**
+ **操作情報** 2
+ **終点スコープ情報**
+ **操作情報** 3

操作情報

各操作の情報が次の形式で表示されます。

操作アイコン 操作番号 操作名 値

操作番号は，操作リスト内で操作に付けられる番号です。操作番号は 1 から始まり，先頭の操作から昇順に表示されます。操作が削除された場合は，先頭の操作から操作番号が採番されます。なお，スコープは採番の対象になりません。操作リストに表示される操作情報のうち，操作アイコン，操作名，および値について次の表に示します。

表 6-2　操作リストに表示される操作情報

操作アイコン	操作名	値	説明
	リンククリック	インナーテキストの値	IE ウィンドウに表示されるページのリンクをクリックする操作です。
	テキスト入力	テキストフィールドに入力された値（パスワードは表示されません）	IE ウィンドウに表示されるページのテキストフィールドへの入力操作です。
	チェック	インナーテキストの値	IE ウィンドウに表示されるページのチェックボックスまたはラジオボタンをチェックする操作です。
	選択	インナーテキストの値	IE ウィンドウに表示されるページのドロップダウンメニューを選択する操作です。
	ボタンクリック	インナーテキストの値	IE ウィンドウに表示されるページのボタンをクリックする操作です。
	アドレス入力	アクセスしたページの URL	IE ウィンドウのアドレスバーに URL を入力し， をクリックまたは Enter キーを押す操作です。
	進む	―	IE ウィンドウのメニュー項目から［次に進む］を選択する操作，または をクリックする操作です。
	戻る	―	IE ウィンドウのメニュー項目から［前に戻る］を選択する操作，または をクリックする操作です。
	更新	―	IE ウィンドウのメニュー項目から［更新］を選択する操作，または をクリックする操作です。

操作アイコン	操作名	値	説明
	ナビゲーション	アクセスしたページの URL	URL アクセスを表す操作です。ただし，リンククリック（操作に依存するもの）ではなく，アドレスバーに URL を入力するなどの操作に依存しない URL にアクセスする操作です。
	タブを閉じる	タブに表示されたページのタイトル	IE ウィンドウに開かれているタブを閉じる操作です。
	ポップアップダイアログ	－	IE ウィンドウ操作時に表示されるポップアップダイアログへの操作です。
	タグ名タグ	－	IE Recorder を使用して標準で記録するタグの中で，「リンククリック」，「テキスト入力」などの具体的な操作名を持たないタグへの操作です。
	ユーザー定義操作名	－	ユーザーによって定義された操作を表します。なお，操作名のユーザー定義は，動作条件計測ファイル（jpcvierec.conf）に登録することで可能です。

（凡例）

－：表示されません。

タグ情報

タグ情報には，操作を記録したときの情報が表示されます。操作リストに表示されるタグ情報の内容について次の表に示します。

表 6-3　操作リストに表示されるタグ情報

表示される情報		説明
タグ名		記録した操作のタグ名が表示されます。
属性		タグに含まれる属性が表示されます。属性を複数持っている場合は，すべての属性が表示されます。 また，HTML ファイルに定義されていない属性であってもデフォルト値がある属性は表示されます。
インナーテキスト		開始タグと終了タグに囲まれたインナーテキストが表示されます。
タグ位置	同一タグ	HTML ファイル中に存在する同一のタグの中で，先頭から数えて何番目に位置しているのかが表示されます。
	同一インナーテキスト	HTML ファイル中に存在する同一のインナーテキストを持つタグの中で，先頭から数えて何番目に位置しているのかが表示されます。
同一タグ数		記録時に HTML ファイル中に存在するタグのうち，［タグ名］に表示されるタグと同一のタグの個数が表示されます。同一タグ数には，操作したタグ自体も含まれます。

表示される情報	説明
同一インナーテキスト数	記録時に HTML ファイル中に記録されるタグのうち，同じインナーテキストを持つタグの個数が表示されます。同一インナーテキスト数には，操作自体も含まれます。
画面遷移	画面遷移が発生したかどうかが，「あり」または「なし」で表示されます。※1

注※1

常に「なし」が表示されます。

［ステータスバー］

IE ウィンドウでの操作状況，ページ処理状況，および IE Recorder のモードが表示されます。

操作状況

Internet Explorer を操作したときと同様の情報が表示されます。例えば，ページを表示したときは「ページが表示されました」というメッセージが表示され，リンクをポイントしたときは，リンク先のページの URL が表示されます。

ページ処理状況

IE ウィンドウに表示中のページの処理状況がプログレスバーで表示されます。

IE Recorder のモード

モードによって次の情報が表示されます。

- 編集モード
  ステータスバーには何も表示されません。
- 記録モード
  ステータスバーに「記録モード」と表示されます。
- 再生モード
  ステータスバーに「再生モード」と表示されます。

［IE Recorder］（メイン）画面のメニュー項目を次の表に示します。

表 6-4 ［IE Recorder］（メイン）画面のメニュー項目

メニューバー	メニューコマンド	機能
ファイル	新規作成	IE シナリオを新規に作成します。
	開く	既存の IE シナリオファイルを開いて，IE シナリオを表示します。
	上書き保存	記録，編集した IE シナリオを上書きして保存します。
	名前を付けて保存	記録，編集した IE シナリオをファイル名を指定して保存します。
	終了	［IE Recorder］（メイン）画面を終了します。
編集	操作の削除	操作リストから選択した操作を一つ削除します。

メニューバー	メニューコマンド	機能	
	選択された操作以降をすべて削除	操作リストから選択した操作以降の操作を一括して削除します。	
	操作の設定	［操作の設定］画面を表示し，操作ごとの設定項目を表示，編集できます。対象の HTML ファイルが記録後に変更される場合や，記録時の意図どおりに再生できない場合に設定します。	
	パスワードの変更	［パスワードの変更］画面を表示し，IE シナリオを記録したときのパスワードを変更できます。変更できるパスワードの種類については，「6.2.3 ［パスワードの変更］画面」を参照してください。	
	IE Recorder の設定	［IE Recorder の設定］画面を表示し，IE シナリオの記録および再生に関して設定します。	
表示	移動	前に戻る	URL 履歴の一つ前のページを IE ウィンドウに表示します。
		次に進む	URL 履歴の一つあとのページを IE ウィンドウに表示します。
		ホームページ	ホームページとして設定したページを IE ウィンドウに表示します。
	中止	IE ウィンドウへのページの表示を中止します。	
	更新	IE ウィンドウに表示されているページを更新します。	
	ソース	IE ウィンドウに表示されているページの HTML ソースコードを表示します。なお，HTML が存在しないページは表示できません。 ソース表示を禁止されているページのソースコードも表示できます。	
	タブを閉じる	IE ウィンドウのタブを閉じます。	
アクション	記録	IE シナリオを記録します。 操作が一つ以上記録されている場合，追加記録します。	
	再生	IE シナリオを再生します。記録した IE シナリオが正しく再生できることを確認するために使用します。	
	ステップ再生	IE シナリオの操作を一つずつ再生します。1 ステップごとに再生されるため，再生されたページを確認し，次に操作するリンクを確認することができます。	
	停止	IE シナリオの記録および再生を停止します。	
	ブレークポイントの設定	指定した操作をブレークポイントとして設定します。ブレークポイントは複数設定することができます。IE シナリオを確認するために，再生を途中で停止するときに使用します。	
	ブレークポイントの解除	ブレークポイントを解除します。ステップ再生で一時停止していた操作をこの操作で解除しても，再生は再開されません。	

メニューバー	メニューコマンド	機能
	計測テスト	記録した IE シナリオを再生して，計測をテストします。しきい値の目安，タイムアウト値，再生失敗時の要因の確認をするために使用します。
スコープ	起点の設定	［スコープ起点の設定］画面を表示し，起点を設定したいスコープを選択します。選択したスコープの起点が，操作リストで選択している操作の前に追加されます。
	終点の設定	［スコープ終点の設定］画面を表示し，終点を設定したいスコープを選択します。選択したスコープの終点が，操作リストで選択している操作のあとに追加されます。
	スコープの解除	IE シナリオに設定したスコープの起点と終点を解除します。
	スコープ名の変更	操作リストで選択しているスコープの名称を変更します。
	スコープ一覧	スコープ一覧を表示します。
ツール	計測条件の簡易登録	表示している IE シナリオの情報を基に，計測条件登録ファイルに計測条件を簡易的に登録します。計測条件の簡易登録を実行するときは，必ず PFM - Agent for Service Response を停止させてください。 IE シナリオファイルが存在する場合，計測条件登録ファイルに次の計測条件を新規登録します。 TASKID：若い番号から未使用のタスク ID を付加 TASKLABEL：「IE Scenario-<TaskID>」（<TaskID> には，TASKID で取得した値が入ります） INTERVAL：「180」 TIMEOUT：「30」 IESCENA_FILE：IE シナリオファイル名
	計測条件登録ファイルの編集	テキストエディタで計測条件登録ファイルを開き，編集します。計測条件登録ファイルを編集するときは，必ず PFM - Agent for Service Response を停止させてください。
	インターネットオプション	Windows の［インターネットのプロパティ］ダイアログを表示します。
ヘルプ	バージョン情報	PFM - Agent for Service Response のバージョン情報を表示します。

注

計測条件登録ファイルの編集を PFM - Web Console で行う場合は，PFM - Agent for Service Response を事前に停止する必要がありません。そのため，計測条件登録ファイルは，PFM - Web Console で編集することを推奨します。

IE シナリオ再生時の動作

記録した IE シナリオを再生すると操作する個所に色が付きます。

- 再生時
  記録した操作を一つ再生するたびに次に操作する対象個所に色が付きます。
- ステップ再生時
  ステップ再生するたびに次の操作対象に色が付いた状態で停止します。
- ブレークポイントまでの再生時

停止後で最初の操作対象に色が付いた状態で停止します。

- 再生途中に［操作の設定］画面で［操作対象］の絞込み条件またはタグの位置を変更した場合
  色を付ける位置を変更します。変更後に操作対象が見つからない場合は色が消えます。

Internet Explorer のウィンドウがアクティブな状態のときに使用できない IE レコーダのアクセラレータキーについて

Internet Explorer のウィンドウがアクティブな状態にあるときは，Internet Explorer のショートカットキーを動作させない設定が優先されて，IE レコーダのメニューバーに設定されているアクセラレータキーの一部が動作しません。Internet Explorer のショートカットキーを動作させない設定が優先されたときに影響を受けるアクセラレータキーを次の表に示します。Internet Explorer のショートカットキーについては，Internet Explorer のヘルプで確認してください。

表 6-5 Internet Explorer のショートカットキーを動作させない設定で影響を受ける IE レコーダのアクセラレータキー

影響を受けるアクセラレータキー	Internet Explorer 6 ～ 8 での IE レコーダ操作
ファイル (&F)	○
編集 (&E)	○
表示 (&V)	×
アクション (&A)	○
スコープ (&S)	×
ツール (&T)	×
ヘルプ (&H)	○

（凡例）

○：IE レコーダのアクセラレータキーを使用できる。

×：IE レコーダのアクセラレータキーを使用できない。

&A ～ &V：IE のショートカットキーを示す。例えば，「&A」の場合，［Alt］キーと［A］キーを同時に押すことを示す。

注意事項

次の場合に IE レコーダのアクセラレータキーの有効・無効の状態が上の表と比べて変わる場合があります。

- Internet Explorer の ServicePack や ServiceRelease，Windows Update などによって，変わる場合があります。
- HTML ドキュメントやスクリプトの作りによっては，変わる場合があります。
- アドオン（ActiveX コンポーネント，BHO(Browser Helper Object) など）によって，変わる場合があります。

6.2.2 ［操作の設定］画面

記録した操作に関する設定を行う画面です。タイトルバーには，画面のタイトルと現在編集している操作名が表示されます。［IE Recorder］（メイン）画面で［編集］－［操作の設定］を選択すると表示されます。［操作の設定］画面には，次の三つのタブがあります。

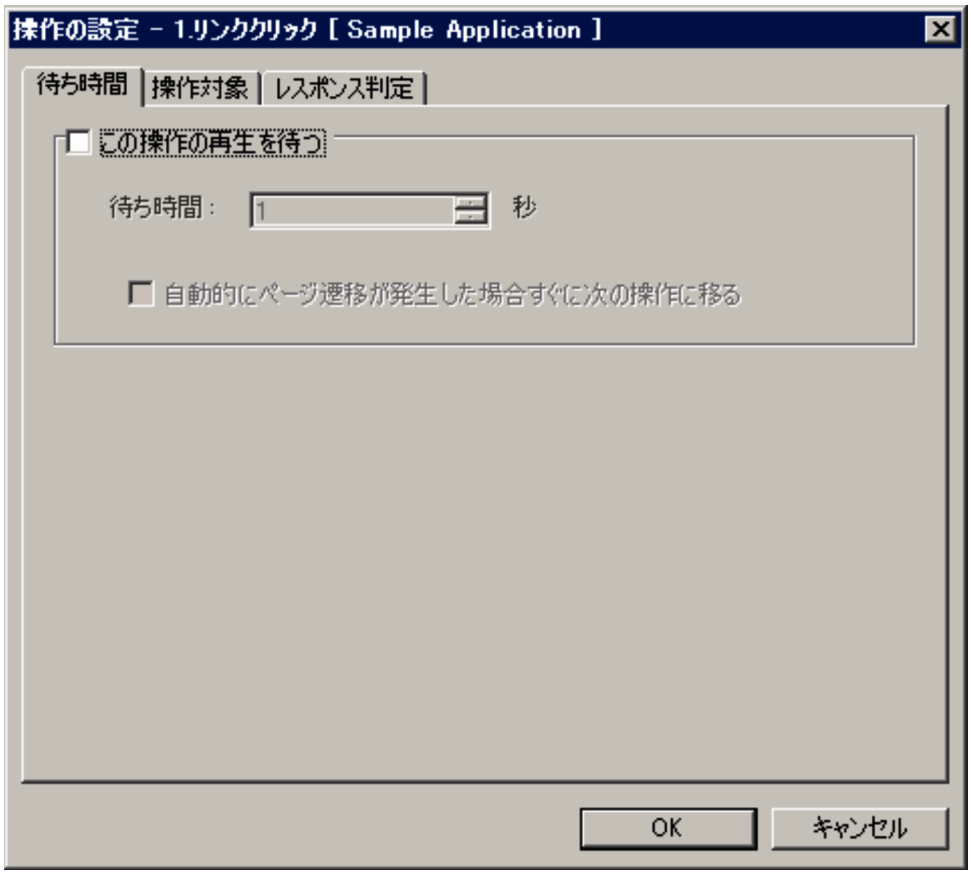
- ［待ち時間］タブ
- ［操作対象］タブ
- ［レスポンス判定］タブ

それぞれのタブごとに，表示項目について説明します。

(1) ［待ち時間］タブ

操作が再生されるまでの待ち時間を設定する画面です。

図 6-4 ［操作の設定］画面（［待ち時間］タブ）



表示項目について説明します。

［この操作の再生を待つ］チェックボックス

操作が再生されるまでの待ち時間を設定する場合にチェックします。デフォルトはチェックされていません。

［待ち時間］

待ち時間を 1 ～ 600 秒の範囲で指定します。

［この操作の再生を待つ］がチェックされていない場合は，0 秒に設定されます。なお，小数を指定した場合は，小数点以下が切り捨てられます。未入力の場合は，前回の入力値に戻します。

［待ち時間］は，前の操作完了から，この操作の再生を実行するまでの時間を指定したい場合に設定します。待ち時間を設定することで，ページ遷移が完了しないページや，完了を検出できないページを監視できることがあります。

例えば，IE Recorder の計測テストや IE プローブの再生のデフォルトでは，ページの表示が完了した直後に次の操作を実行します。しかし，実際の操作では，ページ表示完了から次の動作までにタイムラグがあるため，ユーザーが IE シナリオを操作した時間と，計測テストや IE プローブの再生に掛かる時間との間に大きな差があります。この場合，クリック操作などに［待ち時間］を設定することで，より実際のユーザー操作時間に近い計測ができるようになります。

デフォルトの［待ち時間］タブの各項目の状態を次の表に示します。

表 6-6　デフォルトの［待ち時間］タブの各項目の状態

項番	操作	項目	状態
1	HTML 操作	この操作の再生を待つ	－
		待ち時間※	T1
		自動的にページ遷移が発生した場合すぐに次の操作に移る	－

項番	操作		項目	状態
2	ブラウザ操作	アドレス入力	この操作の再生を待つ	―
3			待ち時間※	T1
4			自動的にページ遷移が発生した場合すぐに次の操作に移る	―
5		進む / 戻る	この操作の再生を待つ	―
6			待ち時間※	T1
7			自動的にページ遷移が発生した場合すぐに次の操作に移る	―
8		更新	この操作の再生を待つ	―
9			待ち時間※	T1
10			自動的にページ遷移が発生した場合すぐに次の操作に移る	―
11		ナビゲーション	この操作の再生を待つ	○
12			待ち時間※	T1+10
13			自動的にページ遷移が発生した場合すぐに次の操作に移る	○
14		タブを閉じる	この操作の再生を待つ	―
15			待ち時間※	T1
16			自動的にページ遷移が発生した場合すぐに次の操作に移る	―
17	ダイアログ操作	ポップアップダイアログ	この操作の再生を待つ	非活性
18			待ち時間※	非活性
19			自動的にページ遷移が発生した場合すぐに次の操作に移る	非活性

（凡例）

○：デフォルトで選択されている

―：デフォルトでは選択されていない

T1：記録時に操作の実行にかかった時間

注※

［この操作の再生を待つ］を活性状態にしたとき初期の状態。［この操作の再生を待つ］が非活性の場合は，設定値は無効です。

［自動的にページ遷移が発生した場合すぐに次の操作に移る］チェックボックス

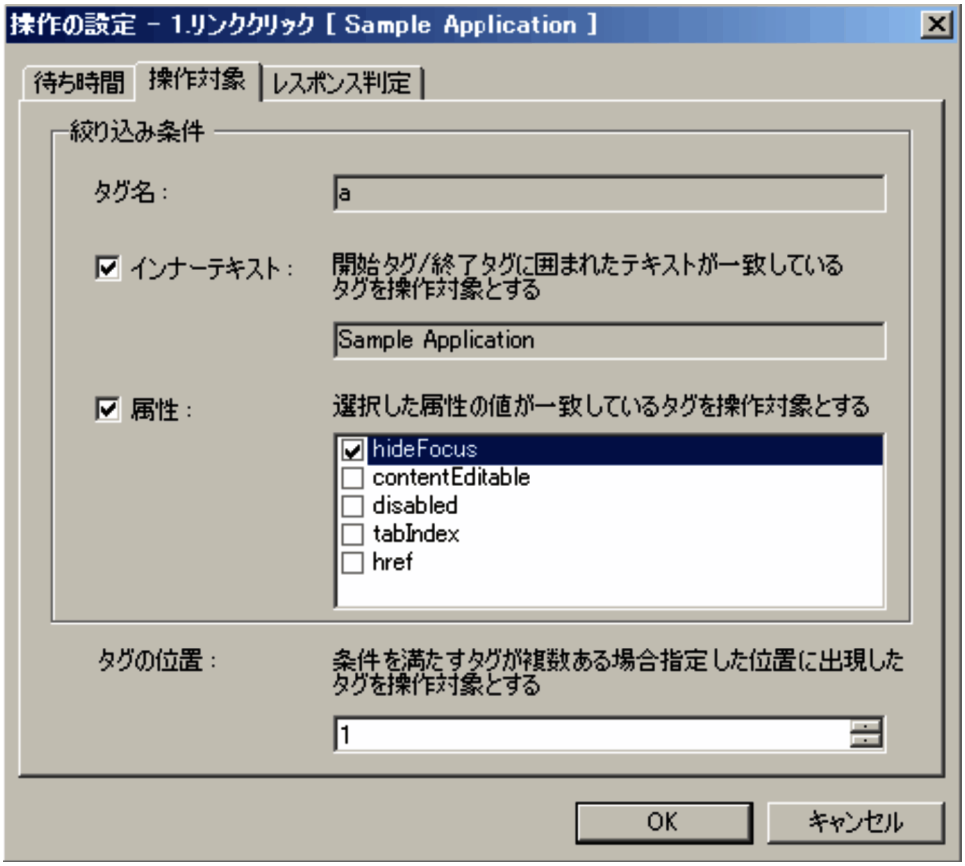
再生されるまでの待ち時間にページ遷移が発生した場合，その時点で待ち時間の設定を解除するときにチェックします。ナビゲーション以外の操作では非活

性です。

(2) ［操作対象］タブ

操作対象となるタグの特定方法を設定する画面です。IE シナリオを記録したあとで，計測対象サイトの画面のレイアウト変更などを行ったために，HTML ファイル中の操作対象となるタグの属性や記述位置などが変更されることがあります。そのような場合に，IE シナリオを記録し直さないで変更に対応できるようにします。また，デフォルトの特定方法ではタグの特定ができないために，意図どおりの再生ができない場合にも使用します。なお，HTML 操作以外の操作については，このタブの各項目は非活性になります。

図 6-5 ［操作の設定］画面（［操作対象］タブ）



表示項目について説明します。

[絞り込み条件]

記録した操作を再生するときの操作対象になるタグの絞り込み条件を指定します。［インナーテキスト］と［属性］のどちらか一方を指定した場合は，指定した条件を満たす操作を再生します。［インナーテキスト］と［属性］の両方を指定した場合

は，指定した条件の両方を満たす操作を再生します。

［タグ名］

選択した操作のタグ名が表示されます。編集できません。

［インナーテキスト］チェックボックス

開始タグと終了タグに囲まれたテキストが一致しているタグを操作対象とする場合にチェックします。タグ名が「a」の場合は，デフォルトで［インナーテキスト］がチェックされています。

［属性］チェックボックス

操作対象とするタグに含まれる属性を選択する場合にチェックします。デフォルトはチェックされていません。リストには，操作を記録したときのタグに含まれている属性が表示されます。属性の値が一致するタグを操作対象とします。複数の属性を選択した場合は，すべての属性の値が一致するタグを操作対象とします。また，HTML ファイルに定義されていない属性であってもデフォルト値がある属性については表示されることがあります。

［タグの位置］

タグの位置を 1 ～ 2,147,483,647 の範囲で指定します。HTML ファイル内で指定した位置に出現したタグを操作対象とします。デフォルトは，操作を記録したときのタグの位置が設定されています。最大値より大きい値を入力した場合は最大値が，最小値より小さい値を入力した場合は最小値が設定されます。なお，小数が入力された場合は，小数点以下を切り捨てます。未入力の場合は，前回の入力値に戻します。

デフォルトの値は，［タグ名］が「a」の場合とそれ以外の場合で異なります。

- ［タグ名］が「a」の場合
  操作したタグと同じインナーテキストを持つタグの中から，HTML ファイルの先頭から数えた位置となります。
- ［タグ名］が「a」以外の場合
  操作したタグと同じ名前のタグの中から，HTML ファイルの先頭から数えた位置となります。

また，［絞り込み条件］の設定によって操作対象とするタグが異なります。

- ［絞り込み条件］が選択されていない場合
  ［タグ名］に表示されているタグの中から［タグの位置］に指定した位置に出現したものを操作対象とします。
- ［絞り込み条件］で［インナーテキスト］が選択されている場合
  記録した操作のタグ名と名前が同じで，同じインナーテキストを持つタグの中から［タグの位置］に指定した位置に出現したものを操作対象とします。
- ［絞り込み条件］で［属性］が選択されている場合
  記録した操作のタグと名前が同じで，同じ属性の値を持つタグの中から，［タグの位置］に指定した位置に出現したタグを操作対象とします。
- ［絞り込み条件］で［インナーテキスト］と［属性］の両方が選択されている場合
  記録した操作のタグと名前が同じで，同じインナーテキストと属性の値を持つタグの中から，［タグの位置］に指定した位置に出現したタグを操作対象とします。

タグの特定方法の組み合わせによる動作を次の表に示します。

表 6-7　タグの特定方法の組み合わせによる動作

指定できる組み合わせ			動作	適用ケース
インナーテキスト	属性値	タグの位置		
○	○	○	インナーテキストと属性値が一致する同一タグの中での相対位置が，「タグの位置」番目のタグを操作対象とする。	下記のどの組み合わせでも，操作対象を特定できない場合に有効。
×	○	○	属性値が一致する同一タグの中での相対位置が，「タグの位置」番目のタグを操作対象とする。	操作対象がインナーテキストを持たず，かつ属性値が一意に識別できるページの場合に有効。同じ属性値を持つタグが多く，かつそれらの個数が変動するようなページでは，操作対象タグを特定できなくなるおそれがある。
○	×	○	インナーテキストが一致する同一タグの中での相対位置が，「タグの位置」番目のタグを操作対象とする。	<A> タグを記録した場合のデフォルト設定。操作対象のインナーテキストが一意に識別できるページの場合に有効。同じインナーテキストを持つタグが多く，かつそれらの個数が変動するようなページでは，操作対象タグを特定できなくなるおそれがある。
×	×	○	同一タグの中での相対位置が，「タグの位置」番目のタグを操作対象とする。	<A> タグ以外のタグを記録した場合のデフォルト設定。内容が変化しないページを監視する場合に有効。同一タグの個数が変動するようなページでは，操作対象タグを特定できなくなるおそれがある。

（凡例）

○：特定方法として指定する。

×：特定方法として指定しない。

［タグの位置］は，必ずタグの特定方法として使用されます（使用しない設定はできません）。

なお，［タグの位置］は，［インナーテキスト］および［属性値］の指定によって特定されるタグの中での相対位置となります。したがって，タグの特定方法の組み合わせを変更すると，［インナーテキスト］および［属性値］が一致するタグの個数が変化するため，併せて「タグの位置」も見直す必要があります。具体例を次に示します。

図 6-6　記録時のページ

<画面表示>

```
   :
製品情報更新はこちら
メンテナンス情報更新はこちら
   :
```

<HTMLソース>

```
   :
製品情報更新は<a href="prod.html">こちら</a>
メンテナンス情報更新は<a href="maint.html">こちら</a>
   :
```

図 6-6 のように，同一のインナーテキストが複数存在しているページに対して，メンテナンス情報更新の「こちら」のリンクをクリックした場合，次に示す情報が記録されます。

図 6-7　記録される情報

```
タグ：A
インナーテキスト：こちら
タグの位置：2
```

しかし，このページが次に示す図のように変更された場合，メンテナンス情報更新の「こちら」は，タグ位置が 3 番目となってしまうため，そのままでは再生に失敗します。

図 6-8　再生時のページ

<画面表示>

```
   :
製品情報更新はこちら
サポート情報更新はこちら
メンテナンス情報更新はこちら
   :
```

<HTMLソース>

```
   :
製品情報更新は<a href="prod.html">こちら</a>
サポート情報更新は<a href="support.html">こちら</a>
メンテナンス情報更新は<a href="maint.html">こちら</a>
   :
```

このようなケースでは，次に示すどれかの対応によって正しく再生できるようになります。なお，(2)(3) の対応方法は，記録済み操作の情報を修正することになるため，HTML ソースを解析できる程度の知識が必要です。HTML ソースを解析できない場合は，(1) の IE シナリオを記録し直すか，または監視対象サイト（ページ）の管理者から設定に必要な情報を取得する必要があります。

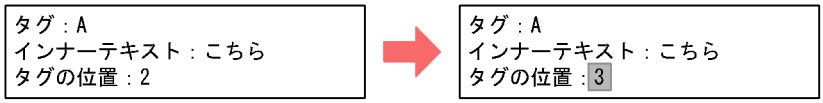
(1) IE シナリオを記録し直す

変更後のページに対する操作を，すべて記録し直します。操作ごとに変化する情報を意識する必要なく対応できます。

(2) タグの位置を変更する

タグの種類とインナーテキストに変更がないため，記録した操作のタグの位置を変更することによって対応します。

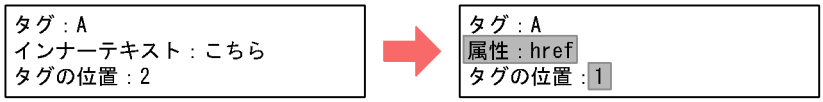
図 6-9　タグの位置を変更する場合の変更個所



(3) 特定方法とタグの位置を修正する

記録した操作に対するタグの特定方法を，インナーテキストでの特定から，属性値による特定に変更して対応します。図 6-6 および図 6-8 で示した例では，ページ変更前後で href 属性が変化しないため，この情報を使用してタグを特定できます。この方法は，今後 href 属性の値（URL）が一意に識別できる同じインナーテキストが増えることが予想されるページに対しては，次回以降変更する必要がなくなるため，特に有効です。ただし，その場合，タグの位置で示される相対位置の基準となる特定条件を変更しているため，タグの位置も合わせて変更する必要があります。

図 6-10　特定方法とタグの位置を修正する場合の変更個所



操作の特定方法

絞り込み条件を変更したときの操作対象を確認する方法を次に示します。

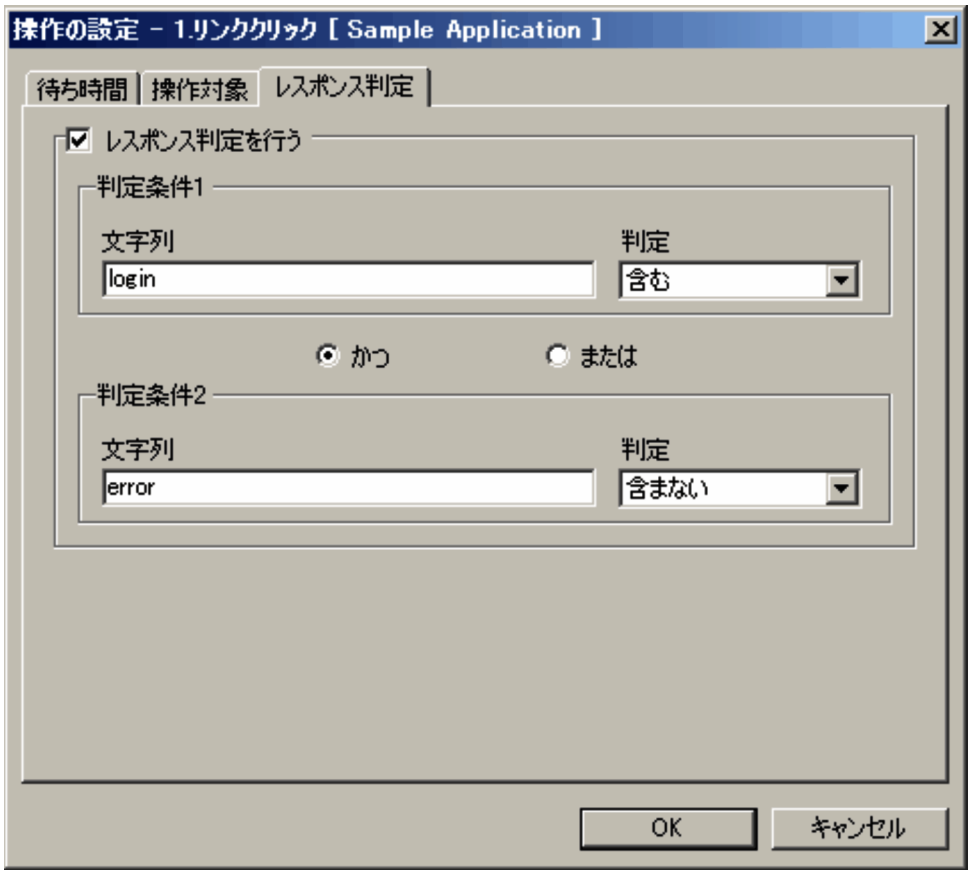
1. **絞り込み条件を確認する操作にブレークポイントを設定し，再生する。**
2. **絞り込み条件を確認する操作までステップ再生する。**
   次に再生される操作対象に色がついた状態となります。
3. **次に再生される操作を選択し，［操作の設定］画面－［操作対象］タブを開く。**
4. **[操作対象] タブで [絞り込み条件] や [タグの位置] を変更する。**
5. **変更を完了した後 [OK] をクリックする。**
   変更した絞り込み条件が反映された後の操作対象に色がつきます。

これにより，絞り込み条件を変更したときの操作対象を確認することができます。

(3)［レスポンス判定］タブ

IE シナリオ監視の際に，正当なレスポンスかどうかを判定するための条件を設定する画面です。レスポンスの判定情報は，操作ごとに定義します。各操作に対応して受信したすべてのページに対して判定します。レスポンス判定の対象は，HTML テキストに限ります。

図 6-11 ［操作の設定］画面（［レスポンス判定］タブ）



表示項目について説明します。

［レスポンス判定を行う］チェックボックス

レスポンス判定を行う場合にチェックします。デフォルトはチェックされていません。「判定条件 1」および「判定条件 2」の二つの判定条件を設定できます。

かつ

「判定条件 1」および「判定条件 2」の両方を満たす場合を，正当なレスポンスと判定させるときにチェックします。「判定条件 1」および「判定条件 2」のどちらか一方を満たさない場合には，計測が終了します。

または

「判定条件 1」および「判定条件 2」のどちらか一方を満たす場合を，正当なレスポンスと判定させるときにチェックします。「判定条件 1」および「判定条件 2」のどちらも満たさない場合には，計測が終了します。

［文字列］

判定対象となる文字列を 1,024 文字以内で指定します。設定できる文字の種類に制限はありません。何も設定しない場合は，判定条件は設定されません。

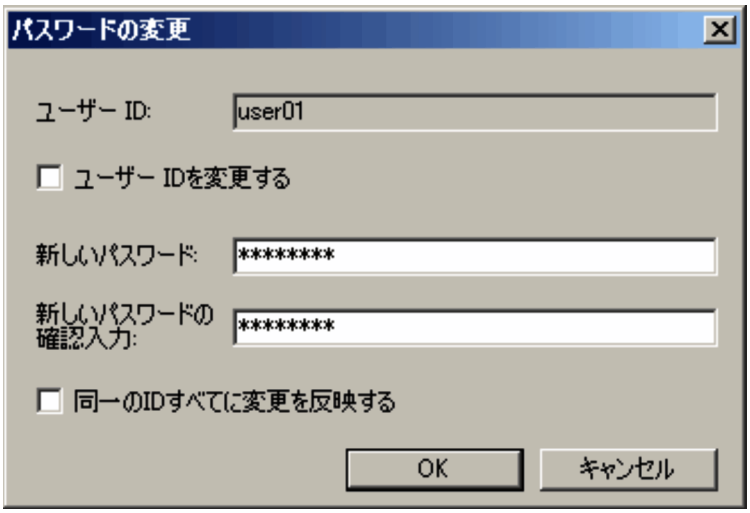
[判定]

［文字列］で指定した文字列について「含む」または「含まない」のどちらかを設定します。デフォルトは「含む」が選択されています。

6.2.3 ［パスワードの変更］画面

IE シナリオを記録するときに入力した ID およびパスワードを変更する画面です。［IE Recorder］（メイン）画面で［編集］－［パスワードの変更］を選択すると表示されます。［パスワードの変更］は，Windows の標準的なパスワード入力フィールドを持つポップアップダイアログ操作と，HTML ドキュメント中の <INPUT TYPE=PASSWORD> タグへの入力操作に対して実行できます。

図 6-12 ［パスワードの変更］画面



表示項目について説明します。

[ユーザー ID]

操作を記録したときに入力した ID が表示されます。ID が入力されない場合は，何も表示されません。ユーザー ID は 1,024 文字以内で指定します。デフォルトは変更できません。

HTML ドキュメント中の <INPUT TYPE=PASSWORD> タグへの入力操作に対しては，何も表示されません。

[ユーザー ID を変更する] チェックボックス

ユーザー ID を変更する場合にチェックします。［ユーザー ID を変更する］をチェックすると，［ユーザー ID］を変更できます。デフォルトはチェックされていません。

HTML ドキュメント中の <INPUT TYPE=PASSWORD> タグへの入力操作に対しては，チェックできません（非活性）。

[新しいパスワード]

新しいパスワードを 1,024 文字以内で指定します。

[新しいパスワードの確認入力]

［新しいパスワード］に入力したパスワードを入力します。異なる値を入力した場合は，エラーメッセージが表示されます。

[同一の ID すべてに変更を反映する］チェックボックス

記録されているほかの操作で，記録時に現在の［ユーザー ID］と同じ ID が入力された IE シナリオファイル内のすべての操作に変更を反映させる場合にチェックします。デフォルトはチェックされていません。

HTML ドキュメント中の <INPUT TYPE=PASSWORD> タグへの入力操作に対しては，チェックできません（非活性）。

6.2.4 ［IE Recorder の設定］画面

IE シナリオの再生に関する設定を行う画面です。［IE Recorder］（メイン）画面で［編集］－［IE Recorder の設定］を選択すると表示されます。この画面での変更は，IE Recorder 動作条件定義ファイル（jpcvierec.conf）には反映されません。

図 6-13 ［IE Recorder の設定］画面

表示項目について説明します。

[再生速度]

IE シナリオを再生する速度を設定します。この項目を設定すると再生時に指定秒数の待ちが発生するため，遷移状況の確認がしやすくなります。

[操作再生ごとの待ち時間]

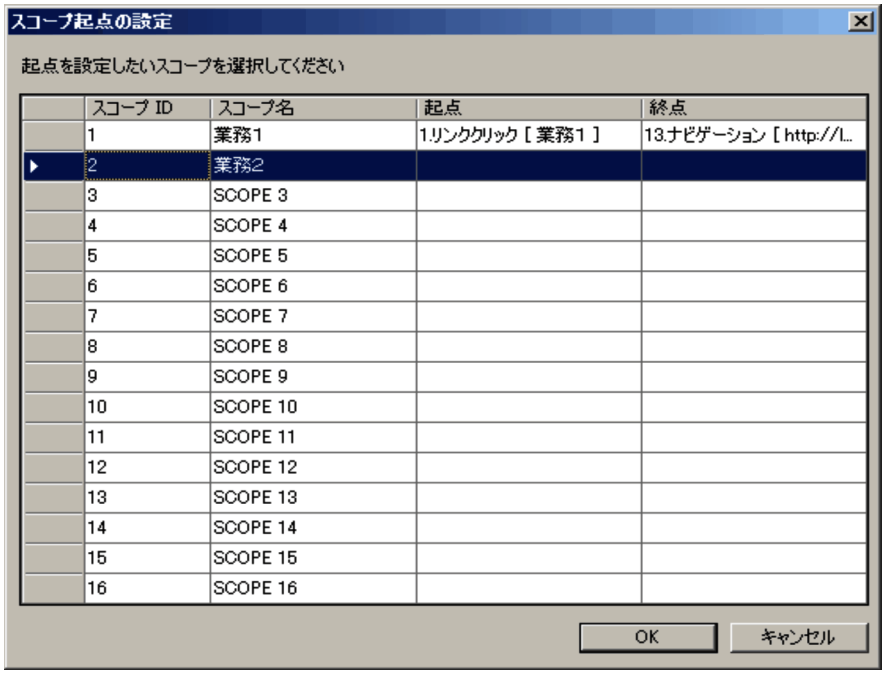
待ち時間を 0 ～ 99 秒の範囲で指定します。デフォルトは 1 秒で設定されています。この値は，各操作の直前，操作対象をマーキングした直後に発生する待ち時間を意味しています。設定した値は，IE レコーダの「再生」時だけ有効です。小数を指定した場合は，小数点以下が切り捨てられます。未入力の場合は，前回の入力値に戻します。また，この値は，「ステップ再生」，「計測テスト」および「IE プローブでの計測」時には無視されるため，再生時間には含まれませ

ん。

6.2.5 ［スコープ起点の設定］画面

任意の操作の範囲にスコープを設定する際，起点を設定するスコープを選択する画面です。［IE Recorder］（メイン）画面で［スコープ］－［起点の設定］を選択すると表示されます。

図 6-14 ［スコープ起点の設定］画面



表示項目について説明します。

［スコープ ID］

スコープの ID が昇順に表示されます。スコープ ID は編集できません。

［スコープ名］

スコープに付ける名前を 127 バイト以内で指定します。デフォルトは，「SCOPE スコープ ID」と表示されます。セルをダブルクリックすると，編集できる状態になります。

スコープ名には「,（コンマ）」，「”（ダブルクォーテーション）」は使用できません。また，スコープ名を空白にはできません。

［起点］

スコープの起点となる操作が表示されます。スコープの起点が設定されていない場合は何も表示されません。起点は編集できません。

［終点］

スコープの終点となる操作が表示されます。スコープの終点が設定されていない場合は何も表示されません。終点は編集できません。

6.2.6 ［スコープ終点の設定］画面

任意の操作の範囲にスコープを設定する際，終点を設定するスコープを選択する画面です。［IE Recorder］（メイン）画面で［スコープ］－［終点の設定］を選択すると表示されます。

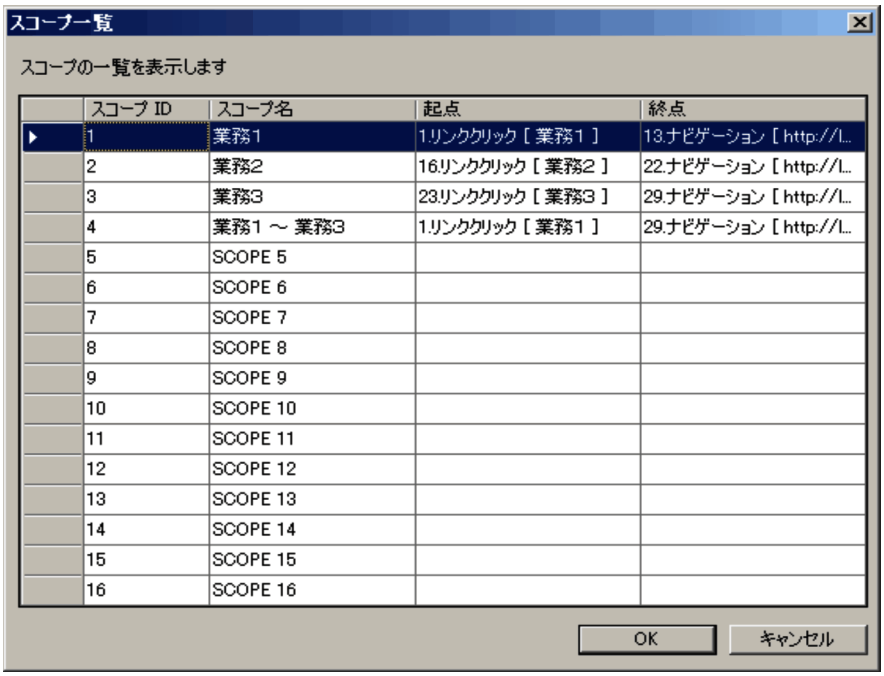
図 6-15 ［スコープ終点の設定］画面

表示項目については，「6.2.5 ［スコープ起点の設定］画面」を参照してください。

6.2.7 ［スコープ一覧］画面

スコープの一覧を参照する画面です。［IE Recorder］（メイン）画面で［スコープ］－［スコープ一覧］を選択すると表示されます。

図 6-16 ［スコープ一覧］画面



表示項目については，「6.2.5 ［スコープ起点の設定］画面」を参照してください。

6.2.8 ［再生レポート］画面

［計測テスト］を行ったときに，IE シナリオの再生結果を表示する画面です。IE シナリオの再生が終了すると表示されます。

図 6-17 ［再生レポート］画面

表示項目について説明します。

［操作の再生結果］

IE シナリオの再生結果として次の情報が表示されます。

- 再生ステータス
  再生結果（「成功」または「失敗」），ファイル名，開始時間，終了時間が表示されます。
- 再生レポートサマリ
  総再生時間が表示されます。総再生時間は小数点 3 桁まで表示されます。
- スコープサマリ
  再生したスコープ（スコープ ID およびスコープ名），スコープの総再生時間が表示されます。
- 再生レポート詳細
  再生した操作（操作番号および操作名），操作の再生時間※ 1，スコープ起点（スコープ ID およびスコープ名※ 2），スコープ終点（スコープ ID およびスコープ名

※2)，［操作の設定］画面の［操作対象］タブの［絞り込み条件］と一致するタグの個数が表示されます。ただし，［操作の設定］画面の［操作対象］タブの［絞り込み条件］と一致するタグの個数は，HTML 操作だけを表示します。

注※ 1

再生時間は小数点 3 桁まで表示されます。

注※ 2

一つの操作に対して複数のスコープが設定されている場合は，スコープ名だけが表示されます。

- メッセージ情報
  再生時にエラーが発生した操作（操作番号および操作名），エラーメッセージ情報が表示されます。

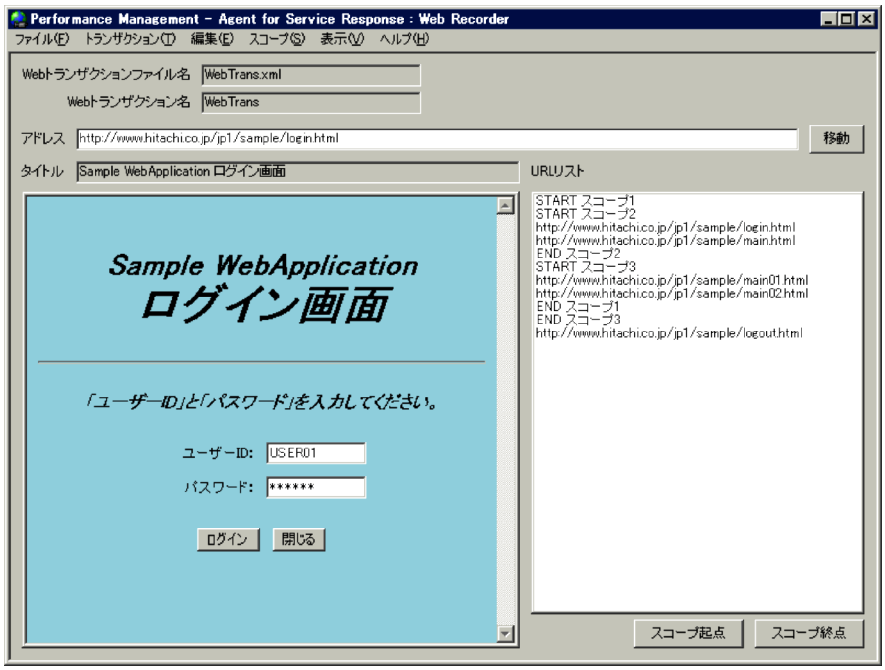
6.3 Web Recorder の画面

Web Recorder は，Web トランザクションとして監視する一連の Web アクセス操作と，それに伴う情報を定義する画面です。この節では，Web Recorder の各画面について説明します。

6.3.1 [Web Recorder]（メイン）画面

Web トランザクションを定義する画面です。[Web Recorder]（メイン）画面には，IE のウィンドウを表示し，画面上で行ったブラウザー操作を記録し，Web トランザクションとして定義する IE モードと，Web トランザクションの構成要素であるステップ情報を編集する直接入力モードの二つのモードがあります。

図 6-18 [Web Recorder]（メイン）画面



表示項目について説明します。

[Web トランザクションファイル名]

編集中の Web トランザクションが保存されている Web トランザクションファイル名が表示されます。

[Web トランザクション名]

編集中の Web トランザクション名が表示されます。

［アドレス］

URL を入力します。URL を入力して［移動］ボタンをクリックするか，Enter キーを押すと，IE ウィンドウの部分に URL のページが表示されます。

［移動］ボタン

［アドレス］に入力された URL のページを IE ウィンドウの部分に表示します。

IE ウィンドウ

［アドレス］に入力した URL のページが表示されます。IE ウィンドウでは，通常のブラウザーと同様の操作ができます。

注意事項

IE モードでの定義の際は，次の点に注意してください。

- ［IE ウィンドウ］の動作は，PFM - Agent for Service Response がインストールされているマシンの IE の設定などに依存します。したがって，Web トランザクションを定義する際，IE の動作に影響を与えるようなアプリケーションが動作している環境下では，Web Recorder は IE が受ける影響と同じ影響を受けることになります。
- ［IE ウィンドウ］内に表示されるページで，ウィンドウのリサイズなど，ウィンドウ自体を制御するスクリプトを実行した場合，正常に動作しないことがあります。なお，新規にウィンドウを起動してページを表示するようなスクリプトは実行できます。ただし，この場合のウィンドウは［IE ウィンドウ］と同じ形式で表示され，通常 IE にあるようなメニューなどは表示されません。［IE ウィンドウ］から起動した新規のウィンドウでも，そのウィンドウを使用してステップ情報の記録を続けることはできます。

［タイトル］

IE ウィンドウに表示されているページのタイトルが表示されます。

［URL リスト］

記録したステップ情報の URL や，スコープの起点および終点が一覧表示されます。ステップ情報を挿入・編集・削除したり，スコープの起点および終点を追加・削除したりする場合は，この一覧から対象を選択します。

［スコープ起点］ボタンおよび**［スコープ終点］ボタン**

スコープに起点または終点を追加したい場合に使用します。［スコープ起点］ボタンまたは［スコープ終点］ボタンをクリックすると，［スコープ選択］画面が表示されます。［スコープ選択］画面については，「6.3.5 ［スコープ選択］画面」を参照してください。

［Web Recorder］（メイン）画面のメニュー項目を次の表に示します。

表 6-8 ［Web Recorder］（メイン）画面のメニュー項目

メニューバー	メニューコマンド	機能
ファイル	終了	［Web Recorder］（メイン）画面を終了します。

メニューバー	メニューコマンド	機能
トランザクション	新規作成	［Web トランザクションの作成］画面を表示し，新規に Web トランザクション情報の記録を開始します。Web トランザクション名，保存先ファイル名を指定します。
	開く	［Web トランザクションの選択］画面を表示し，表示，編集したい Web トランザクションを選択できます。
	上書き保存	記録，編集した Web トランザクション情報を上書き保存します。
	名前を付けて保存	［名前を付けて保存］画面を表示し，記録，編集した Web トランザクション情報を，Web トランザクション名と保存先ファイル名を指定して保存します。
	トランザクションの削除※	Web トランザクション情報を保存先ファイルから削除します。
	トランザクションの設定	［トランザクションの設定］画面を表示し，Web トランザクションごとの設定項目を表示，編集できます。
編集	挿入	［プロパティ］画面を表示し，URL リストで選択されている URL に関するステップ情報の前に新たなステップ情報を挿入します。
	最後に追加	［プロパティ］画面を表示し，URL リストの最後に新たなステップ情報を追加します。
	削除	URL リストで選択している URL に関するステップ情報を削除します。
	プロパティ	［プロパティ］画面を表示し，URL リストで選択している URL に関するステップ情報を表示，編集できます。
スコープ	スコープ起点	［スコープ選択］画面を表示し，起点を設定したいスコープ情報を選択します。起点として選択したスコープ情報は，URL リストで選択している URL の前に追加されます。
	スコープ終点	［スコープ選択］画面を表示し，終点を設定したいスコープ情報を選択します。終点として選択したスコープ情報は，URL リストで選択している URL のあとに追加されます。
	スコープ削除	URL リストで選択しているスコープの起点または終点を削除します。削除する起点に対応する終点，または削除する終点に対応する起点を削除するかどうか選択します。
	スコープチェック	スコープの起点と終点が対応しているかどうかチェックします。
表示	移動	［アドレス］に表示された URL のページを IE ウィンドウに表示します。
ヘルプ	バージョン情報	PFM - Agent for Service Response のバージョン情報を表示します。

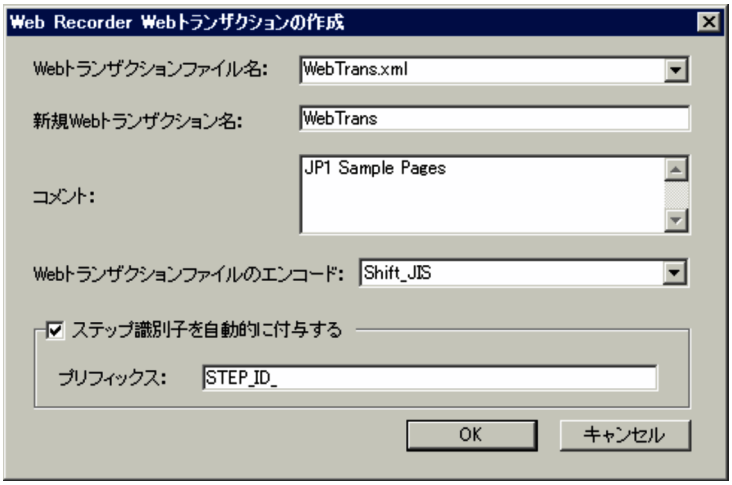
注※

［トランザクション］－［トランザクションの削除］を実行して Web トランザクションをすべて削除しても，Web トランザクションファイル自体は削除されません。Web トランザクションファイルを削除したい場合は，ファイル自体を直接削除してください。

6.3.2 ［Web トランザクションの作成］画面

Web トランザクションを新規作成する際に，保存先の Web トランザクションファイルと，Web トランザクションの名称を設定する画面です。［Web Recorder］（メイン）画面で［トランザクション］－［新規作成］を選択すると表示されます。

図 6-19 ［Web トランザクションの作成］画面



表示項目について説明します。

[Web トランザクションファイル名]

保存先の Web トランザクションファイル名を 255 バイト以内で指定します。既存の Web トランザクションファイルに保存する場合は，プルダウンメニューから選択することもできます。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。なお，一つの PFM - Agent for Service Response で計測する Web トランザクションは，一つの Web トランザクションファイルに保存することをお勧めします。異なる PFM - Agent for Service Response で計測する Web トランザクションは，必ず異なる Web トランザクションファイルに保存してください。

Web トランザクションファイルは，次のフォルダに格納されます。

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥webtrans 配下

[新規 Web トランザクション名]

新たに作成する Web トランザクション名を 255 バイト以内で指定します。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。また，Web トランザクション名には，半角の「|（ストローク）」は使用できません。なお，Web トランザクション名は，同じ Web トランザクションファイルの中で一意の名称になるように指定してください。

[コメント]

コメントを 255 バイト以内で設定します。入力した文字列の前後に空白，タブ，お

よび改行がある場合は，削除されます。この項目は省略できます。

[Web トランザクションファイルのエンコード]

Web トランザクションファイルのエンコードを指定します。プルダウンメニューから，「Shift_JIS」，「EUC-JP」，「ISO-2022-JP」，「UTF-8」，「US-ASCII」のどれかを選択してください。デフォルトは「Shift_JIS」です。

ここで指定したエンコードは，Web トランザクションファイル 1 行目の XML 宣言文に反映されます。

注意事項

Web Recorder で自動記録されるメッセージボディは，送受信データがそのまま記録されます。

また，URL やタイトルなどのページ情報は Shift_JIS で記録されるため，この項目で指定した文字セットと一致しない場合があります。

その場合は，Web トランザクションファイルが，この項目で指定した文字セットで記載されるよう修正してください。

[ステップ識別子を自動的に付与する] チェックボックス

新規に作成する Web トランザクションで記録されるステップに，自動的にステップ識別子を付与する場合にチェックします。デフォルトはチェックされています。

自動的に付与されるステップ ID は，[プリフィックス] で指定した文字列のあとに，5 桁の半角数字（前 0 埋め）のシーケンス番号を付加した文字列になります。

例えば，[プリフィックス] に「STEPID_」を指定した場合，自動付与されるステップ識別子は次のようになります。

```
STEPID_00001, STEPID_00002, …, STEPID_99999
```

[プリフィックス]

ステップ識別子のプリフィックスを，1 ～ 250 バイトの英数字およびハイフン，アンダースコア，半角スペースで指定します。[ステップ識別子を自動的に付与する] をチェックした場合は，必ず指定してください。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

注意事項

ステップ識別子を自動的に付与する場合，次の点に注意してください。

- [ステップ識別子を自動的に付与する] の設定が有効になるのは，新規に作成したトランザクションで，かつ自動的に記録されたステップ（ステップ識別子がないステップ）に対してだけです。手動で挿入したステップには自動付与されません。既存のファイルを開いた場合も自動付与されません。
- シーケンス番号が最大値（99999）に達した場合は，その後のステップから自動付与されません。

6.3.3 ［名前を付けて保存］画面

定義，編集した Web トランザクション情報を，名前を付けて保存する画面です。［Web Recorder］（メイン）画面で［トランザクション］－［名前を付けて保存］を選択すると表示されます。

図 6-20 ［名前を付けて保存］画面

表示項目について説明します。

［Web トランザクションファイル名］

保存先の Web トランザクションファイル名を 255 バイト以内で指定します。既存の Web トランザクションファイルに保存する場合は，プルダウンメニューから選択することもできます。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。なお，一つの PFM - Agent for Service Response で計測する Web トランザクションは，一つの Web トランザクションファイルに保存することをお勧めします。異なる PFM - Agent for Service Response で計測する Web トランザクションは，必ず異なる Web トランザクションファイルに保存してください。

Web トランザクションファイルは，次のフォルダに格納されます。

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥webtrans 配下

［Web トランザクション名］

Web トランザクション名を 255 バイト以内で指定します。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。また，Web トランザクション名には，半角の「|（ストローク）」は使用できません。なお，Web トランザクション名は，同じ Web トランザクションファイルの中で一意の名称になるように指定してください。

［コメント］

コメントを 255 バイト以内で設定します。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。この項目は省略できます。

［Web トランザクションファイルのエンコード］

Web トランザクションファイルのエンコードを指定します。プルダウンメニューから，「Shift_JIS」，「EUC-JP」，「ISO-2022-JP」，「UTF-8」，「US-ASCII」のどれかを選択してください。
［名前を付けて保存］画面の表示時のデフォルトを次に示します。

Web トランザクションを新規に作成している場合
　［Web トランザクションの作成］画面で指定したエンコード

ファイルを開いている場合
　ファイルの XML 宣言文での設定値

ここで指定したエンコードは，Web トランザクションファイル 1 行目の XML 宣言文に反映されます。

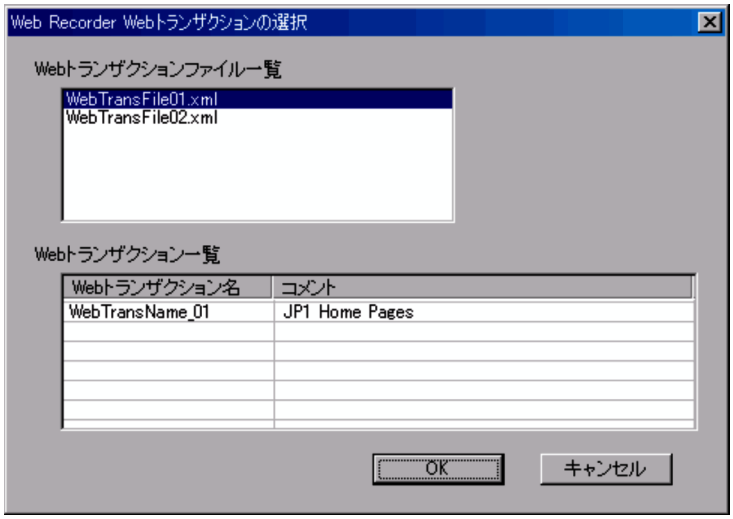
注意事項

Web Recorder で自動記録されるメッセージボディは，送受信データがそのまま記録されます。
また，URL やタイトルなどのページ情報は Shift_JIS で記録されるため，この項目で指定した文字セットと一致しない場合があります。
その場合は，Web トランザクションファイルが，この項目で指定した文字セットで記載されるよう修正してください。

6.3.4 ［Web トランザクションの選択］画面

［Web Recorder］（メイン）画面で表示または編集したい Web トランザクションを選択する画面です。［Web Recorder］（メイン）画面で［トランザクション］－［開く］を選択すると表示されます。

図 6-21 ［Web トランザクションの選択］画面



表示項目について説明します。

[Web トランザクションファイル一覧]

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥webtrans 配下に格納されている Web トランザクションファイル名が一覧表示されます。[Web Recorder]（メイン）画面で表示または編集したい Web トランザクション情報が保存されている Web トランザクションファイル名を選択します。

[Web トランザクション一覧]

Web トランザクションファイル一覧で選択されている Web トランザクションファイルに保存されている Web トランザクション名およびコメントが一覧表示されます。[Web Recorder]（メイン）画面で表示または編集したい Web トランザクションを選択します。

6.3.5 ［スコープ選択］画面

任意のページ遷移の範囲にスコープを設定する際，起点および終点として設定するスコープを選択する画面です。[Web Recorder]（メイン）画面で［スコープ］－［スコープ起点］または［スコープ終点］を選択すると表示されます。［スコープ選択］画面を次の図に示します。

図 6-22 ［スコープ選択］画面

［スコープ起点一覧］または**［スコープ終点一覧］**

- ［スコープ］－［スコープ起点］を選択した場合
  起点が設定されていないスコープ名が一覧表示されます。
- ［スコープ］－［スコープ終点］を選択した場合
  起点が設定されていて，終点が設定されていないスコープ名が一覧表示されます。

6.3.6 ［トランザクションの設定］画面

Web トランザクションごとに，トランザクションを識別するための情報やプロキシ設定，SSL 認証，Web トランザクションのリクエスト全体に関する情報などを設定する画面で

す。［Web Recorder］（メイン）画面で［トランザクション］－［トランザクションの設定］を選択すると表示されます。なお，この画面には次の四つのタブがあります。

- ［トランザクション］タブ
- ［リクエスト情報］タブ
- ［デフォルトプロキシ］タブ
- ［SSL 認証］タブ

それぞれのタブごとに，表示項目について説明します。

(1) ［トランザクション］タブ

Web トランザクションの識別情報が表示されます。この画面の各項目には，Web トランザクション作成時に指定した内容が表示されます。

図 6-23 ［トランザクションの設定］画面（［トランザクション］タブ）

表示項目について説明します。

［Web トランザクション名］

選択または編集している Web トランザクションの名称が表示されます。変更はできません。

［保存先ファイル名］

選択または編集している Web トランザクション情報の保存先 Web トランザクションファイル名が表示されます。変更はできません。

［コメント］

選択または編集している Web トランザクションに設定されているコメントが表示されます。また，255 バイト以内で編集できます。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

［文字セット］

Web トランザクション内で取得する HTML ファイルの，デフォルト文字セットを設定します。トランザクション内に文字セットの指定がないステップがある場合，そのステップで取得した HTML に対して，ここで指定した文字セットが設定されます。
プルダウンメニューから，「Shift_JIS」，「EUC-JP」，「ISO-2022-JP」，「UTF-8」，「指定しない」のどれかを選択してください。デフォルトは「指定しない」です。なお，「指定しない」は「Shift_JIS」と同じです。

注意事項

文字セットを誤って指定すると，レスポンス判定の条件を設定している場合や，可変文字列を設定している場合に，Web トランザクションの監視に失敗するおそれがあります。

参考

［文字セット］の設定に関係なく，Web トランザクションファイルは Shift_JIS で出力されます。

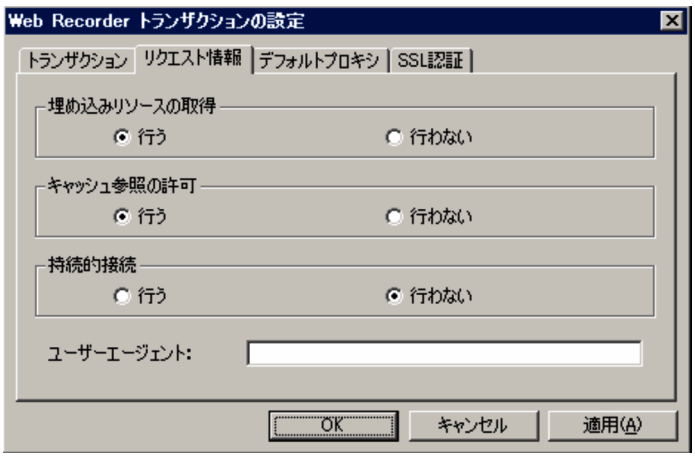
［取得した HTML および HTTP ヘッダーをファイルに出力する］チェックボックス

当該トランザクションで取得した HTML および HTTP ヘッダーを，ファイルに出力する場合にチェックします。デフォルトではチェックされていません。

(2) ［リクエスト情報］タブ

Web トランザクションのリクエスト全体に関する情報を設定する画面です。

図 6-24 ［トランザクションの設定］画面（［リクエスト情報］タブ）



表示項目について説明します。

［埋め込みリソースの取得］

ページに埋め込まれている画像などのリソースを取得するかどうかを指定します。デフォルトは「行う」です。

[キャッシュ参照の許可]

キャッシュの参照を許可するかどうかを指定します。デフォルトは「行う」です。

[持続的接続]

持続的接続を行うかどうかを指定します。デフォルトは「行わない」です。

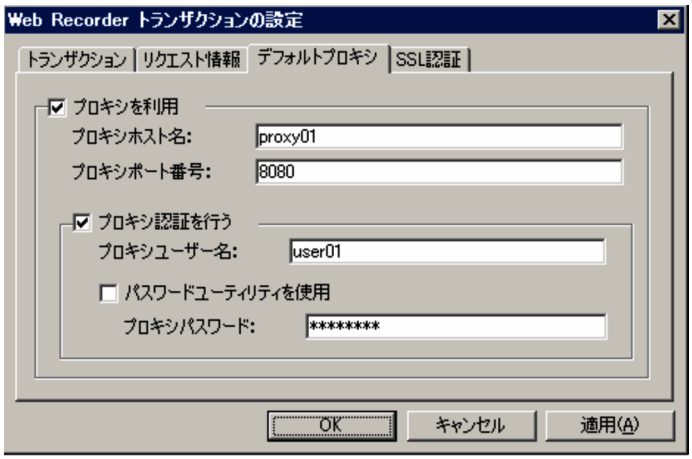
[ユーザーエージェント]

Web トランザクション監視の際に使用する User-Agent ヘッダーの値を 255 バイト以内で指定します。デフォルトは「PFM - Agent for Service Response (Windows)」です。特に指定がなければ，デフォルト値を使用します。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

(3) [デフォルトプロキシ] タブ

プロキシの利用に関する情報を設定する画面です。この画面で設定する情報は，その Web トランザクションのすべてのステップで共通に使用されるプロキシ設定のデフォルトになります。

図 6-25 [トランザクションの設定] 画面 ([デフォルトプロキシ] タブ)



表示項目について説明します。

[プロキシを利用] チェックボックス

プロキシを利用する場合にチェックします。デフォルトはチェックされていません。

[プロキシホスト名]

ホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内で指定します。[プロキシを利用] をチェックした場合は，必ず指定してください。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

[プロキシポート番号]

プロキシサーバのポート番号を 1 ～ 65535 の範囲で指定します。［プロキシを利用］をチェックした場合は，必ず指定してください。

［プロキシ認証を行う］チェックボックス

プロキシ認証をする場合にチェックします。デフォルトはチェックされていません。

［プロキシユーザー名］

ユーザー名を 64 バイト以内で指定します。［プロキシ認証を行う］をチェックした場合は，必ず指定してください。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

［パスワードユーティリティを使用］チェックボックス

プロキシパスワードを，パスワードユーティリティを使用して登録する場合にチェックします。デフォルトはチェックされています。なお，この項目をチェックする場合は，パスワードユーティリティでパスワードが登録されている必要があります。パスワードユーティリティを使用しない場合は［プロキシパスワード］を設定します。

［プロキシパスワード］

［パスワードユーティリティを使用］をチェックしない場合は，プロキシ認証に使用するパスワードを 64 バイト以内で指定します。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

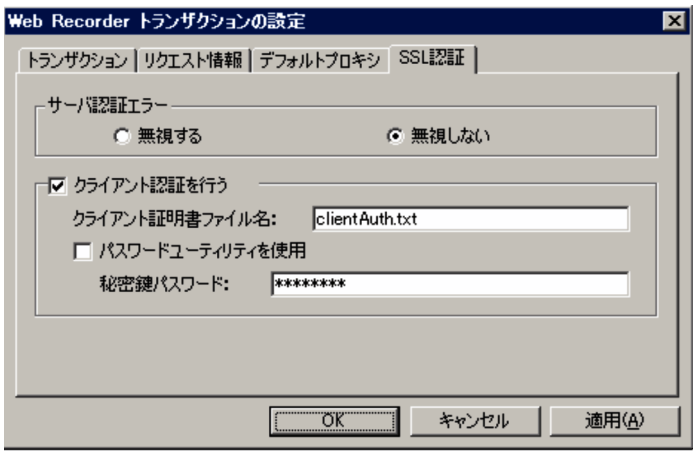
注意事項

［プロキシパスワード］は平文で Web トランザクションファイルに出力されるため，パスワードユーティリティを使用することをお勧めします。

(4) ［SSL 認証］タブ

SSL 認証に関する情報を設定する画面です。

図 6-26 ［トランザクションの設定］画面（［SSL 認証］タブ）



表示項目について説明します。

[サーバ認証エラー]

サーバ認証時に発生したエラーを無視するかどうかを指定します。デフォルトは「無視しない」です。

[クライアント認証を行う] チェックボックス

クライアント認証をする場合にチェックします。デフォルトはチェックされていません。

[クライアント認証書ファイル名]

クライアント証明書のファイル名を 255 バイト以内で指定します。[クライアント認証を行う] をチェックした場合は，必ず指定してください。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

[パスワードユーティリティを使用] チェックボックス

パスワードユーティリティを使用する場合に指定します。デフォルトはチェックされています。この項目をチェックする場合は，パスワードユーティリティでパスワードが登録されている必要があります。パスワードユーティリティを使用しない場合は [秘密鍵パスワード] を設定します。

[秘密鍵パスワード]

[パスワードユーティリティを使用] をチェックしない場合は，秘密鍵パスワードを 1,023 バイト以内で指定します。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

注意事項

[秘密鍵パスワード] は平文で Web トランザクションファイルに出力されるため，パスワードユーティリティを使用することをお勧めします。

6.3.7 [プロパティ] 画面

Web トランザクションの各ステップ情報を表示，追加，編集する画面です。[Web Recorder]（メイン）画面で [編集] − [プロパティ] を選択すると表示されます。[プロパティ] 画面には，次の六つのタブがあります。

- [ページ情報] タブ
- [リクエスト情報] タブ
- [Web 認証] タブ
- [プロキシ] タブ
- [レスポンス判定] タブ
- [可変文字列] タブ

それぞれのタブごとに，表示項目について説明します。なお，[プロパティ] 画面の各項目で，IE モードでの新規作成の場合に自動記録される項目，および直接入力モードでの新規作成，ステップ情報の挿入，追加の場合に設定が必須である項目については，「3.5.1(2) ステップ情報の定義」を参照してください。

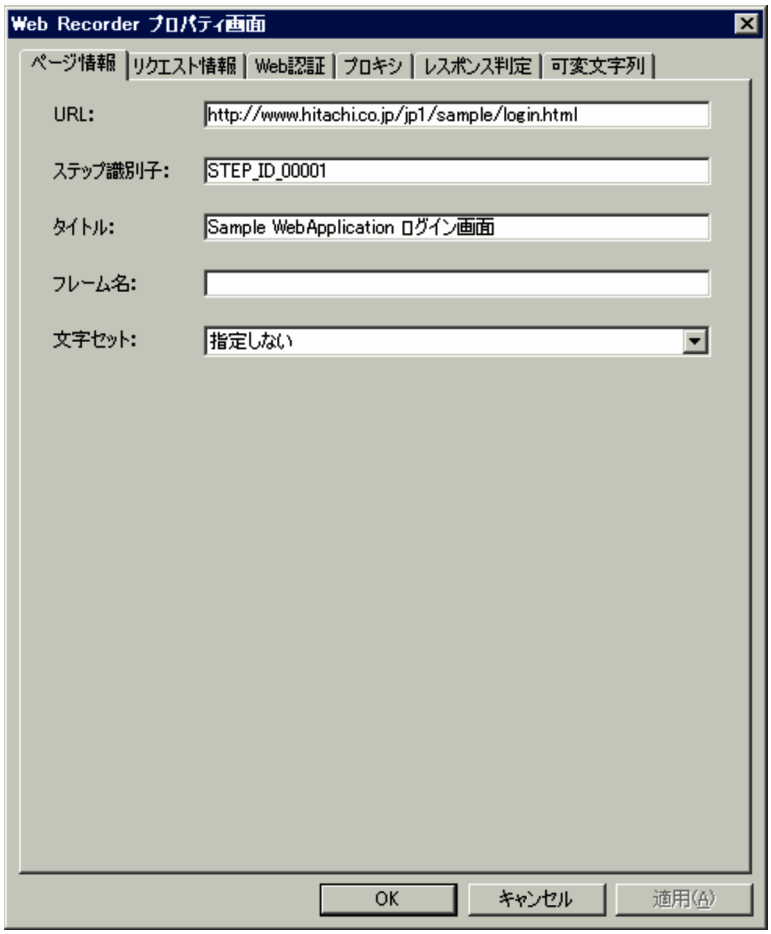
注意事項

Web Recorder で自動記録されるメッセージボディは，送受信データがそのまま記録されますが，Web Recorder 上では Shift_JIS で表示されるため，画面上での表示が不正になる場合があります。

(1) ［ページ情報］タブ

アクセス先の URL，ステップ識別子，ページタイトル，フレーム名，文字セットのページ情報を設定する画面です。IE モードで定義している場合，この画面の項目は自動記録されます。

図 6-27 ［プロパティ］画面（[ページ情報］タブ）



表示項目について説明します。

[URL]

アクセス先の URL を 2,083 バイト以内で指定します。入力した文字列の前後に空

白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。この項目は，必ず指定してください。なお，IE モードで記録した場合は，自動的にアクセス先の URL が設定されます。

[ステップ識別子]

ステップを一意に識別するためのステップ識別子を定義します。次のどちらかの場合，必ず設定してください。

- このステップの HTML 内に，以降のステップの可変文字列に対する代替文字列が含まれている場合
- このステップで取得する HTML をファイル出力の対象にしたい場合

255 バイト以下の英数字およびハイフン，アンダースコア，半角スペースで指定します。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

[タイトル]

アクセス先の URL のページタイトルを 1,023 バイト以内で入力します。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。この項目は省略できます。IE モードで記録した場合は，自動的にアクセス先 URL のページタイトルが表示されます。

[フレーム名]

アクセス先の URL がフレームの場合，フレーム名を 1,023 バイト以内で入力します。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。この項目は省略できます。IE モードで記録した場合は，自動的にアクセス先 URL のフレーム名が表示されます。

[文字セット]

取得する HTML ファイルの文字セットを指定します。プルダウンメニューから，「Shift_JIS」，「EUC-JP」，「ISO-2022-JP」，「UTF-8」，「指定しない」のどれかを選択してください。デフォルトは「指定しない」です。「指定しない」を選択した場合，［トランザクションの設定］画面で指定された文字セットが使用されます。

! 注意事項

文字セットを誤って指定すると，レスポンス判定の条件を設定している場合や，可変文字列を設定している場合に，Web トランザクションの監視に失敗するおそれがあります。

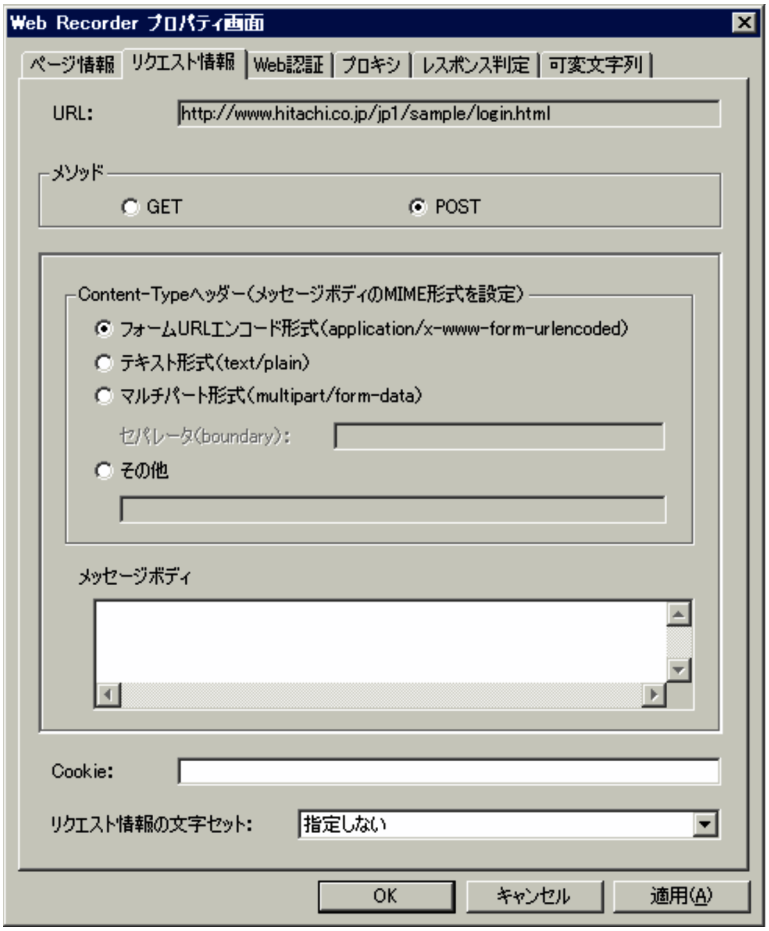
参考

［文字セット］の設定に関係なく，Web トランザクションファイルは Shift_JIS で出力されます。

(2) ［リクエスト情報］タブ

ステップ情報のリクエストに関する情報を設定する画面です。IE モードで記録した場合は，［Cookie］を除く情報が自動的に記録されています。

図 6-28 ［プロパティ］画面（[リクエスト情報］タブ）



表示項目について説明します。

[URL]

アクセス先 Web ページの URL が表示されます。変更したい場合は，［ページ情報］タブの［URL］の情報を変更します。

[メソッド]

リクエストメソッドを指定します。デフォルトは「GET」です。

[Content-Type ヘッダー]

メッセージボディの MIME 形式を次の中から選択します。［メソッド］で［POST］メソッドを選択した場合は，必ず指定してください。

- ［フォーム URL エンコード形式］
- ［テキスト形式］
- ［マルチパート形式］
- ［その他］

［マルチパート形式］を選択した場合は，［セパレータ］にメッセージボディで使用する区切り文字を 255 バイト以内で必ず指定してください。［その他］を選択した場合は，メッセージボディの MIME タイプを示す Content-Type ヘッダー値を 255 バイト以内で必ず指定してください。
なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

［メッセージボディ］

POST メソッドのメッセージボディに入れる値を 512,000 バイト以内で指定します。［マルチパート形式］を選択した場合，［Content-Type ヘッダー］の［セパレータ］で指定した文字列でそれぞれのパートを区切ります。［フォーム URL エンコード形式］を選択してもフォーム URL エンコード形式で入力する必要はなく，テキスト形式で入力します。［メソッド］で［POST］メソッドを選択した場合は，512,000 バイト以内で必ず指定してください。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

注意事項

メッセージボディには，パスワードなどの重要な情報が含まれている場合があります。ただし，画面上ではそのまま平文で表示されるため，編集の際には注意が必要です。また，Web トランザクションファイルにも平文で出力されるため，Web トランザクションファイルの取り扱いについても十分注意してください。

［Cookie］

リクエストの Cookie ヘッダーの値を指定します。PFM - Agent for Service Response では，必要に応じて監視時に取得した Cookie を使用するため，通常設定する必要はありません。特に指定したい場合だけ指定します。
なお，指定する場合は「変数名＝値」の形式で指定し，複数指定する場合は「;（セミコロン）」で区切ります。「変数名＝値」は 8 個まで指定できます。一つの「変更名＝値」は，1,023 バイト以内で指定します。入力した「変数名＝値」の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

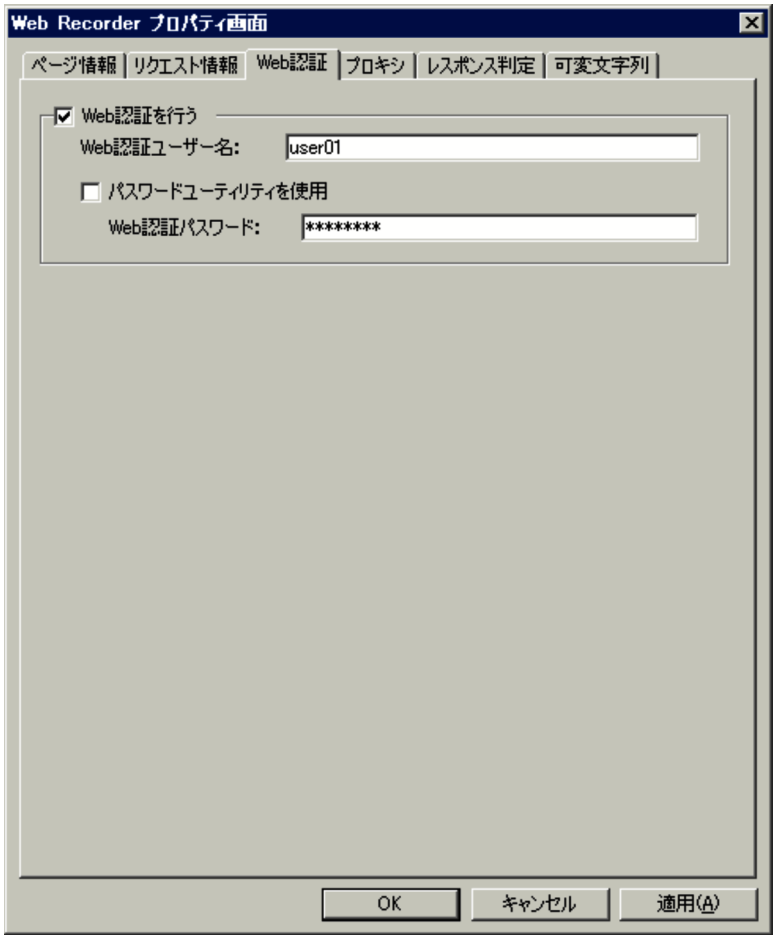
［リクエスト情報の文字セット］

当該ステップで送信するリクエスト情報（URL，メッセージボディ，および Cookie）の文字セットを指定します。「Shift_JIS」，「EUC-JP」，「ISO-2022-JP」，「UTF-8」，「指定しない」のどれかを選択してください。デフォルトは「指定しない」です。
なお，「指定しない」は「Shift_JIS」と同じです。

(3) [Web 認証] タブ

Web 認証に必要な情報を設定します。リクエストを送信する際に Web 認証が必要な場合に指定します。この画面の項目は，IE モードで定義した場合も自動記録されないため，設定が必要な場合はこの画面で直接入力します。

図 6-29 [プロパティ] 画面（[Web 認証] タブ）



表示項目について説明します。

[Web 認証を行う] チェックボックス

Web 認証をする場合にチェックします。デフォルトはチェックされていません。

[Web 認証ユーザー名]

Web 認証に使用するユーザー名を 64 バイト以内で指定します。[Web 認証を行う] をチェックした場合は，必ず指定してください。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

[パスワードユーティリティを使用] チェックボックス

パスワードユーティリティを使用する場合にチェックします。デフォルトはチェックされています。パスワードユーティリティを使用しない場合は［Web 認証パスワード］を設定します。

［Web 認証パスワード］

［パスワードユーティリティを使用］をチェックしない場合，Web 認証に使用するパスワードを 64 バイト以内で指定します。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

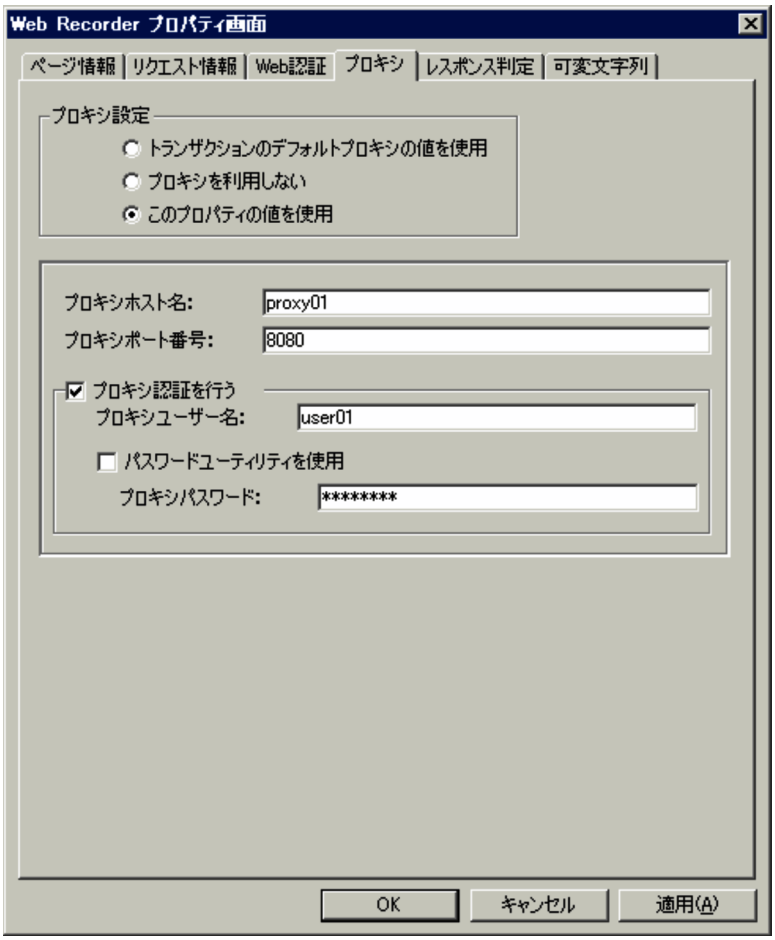
注意事項

［Web 認証パスワード］は平文で Web トランザクションファイルに出力されるため，パスワードユーティリティを使用することをお勧めします。

(4)［プロキシ］タブ

この画面の各項目には，［トランザクションの設定］画面で Web トランザクションに設定したプロキシ利用に関する情報がデフォルトとして設定されています。ステップごとに設定内容を変更する場合は，手入力で必要項目を設定します。この画面の項目は，IE モードで定義した場合も自動設定されないため，設定が必要な場合はこの画面で直接入力します。

図 6-30 ［プロパティ］画面（［プロキシ］タブ）



表示項目について説明します。

［プロキシ設定］

次の三つから選択します。デフォルトは「トランザクションのデフォルトプロキシの値を使用」です。

- ［トランザクションのデフォルトプロキシの値を使用］
  プロキシの設定には［トランザクションの設定］画面で指定された値を使用します。
- ［プロキシを利用しない］
  プロキシ利用はしません。
- ［このプロパティの値を使用］
  ［プロキシ］タブで設定する値を使用します。

［プロキシホスト名］

接続先プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内で指定します。［プロキシ設定］で［このプロパティの値を使用］を選択した場合は，必ず指定

してください。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

[プロキシポート番号]

接続先プロキシサーバのポート番号を指定します。[プロキシ設定]で[このプロパティの値を使用]を選択した場合は，必ず指定してください。

[プロキシ認証を行う]チェックボックス

プロキシ認証をする場合にチェックします。デフォルトはチェックされていません。

[プロキシユーザー名]

プロキシ認証に使用するユーザー名を 64 バイト以内で指定します。[プロキシ認証を行う]をチェックしている場合は，必ず指定してください。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

[パスワードユーティリティを使用]チェックボックス

パスワードユーティリティを使用する場合にチェックします。デフォルトはチェックされています。パスワードユーティリティを使用しない場合は[プロキシパスワード]を設定します。

[プロキシパスワード]

[パスワードユーティリティを使用]をチェックしない場合，プロキシ認証に使用するパスワードを 64 バイト以内で指定します。なお，入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

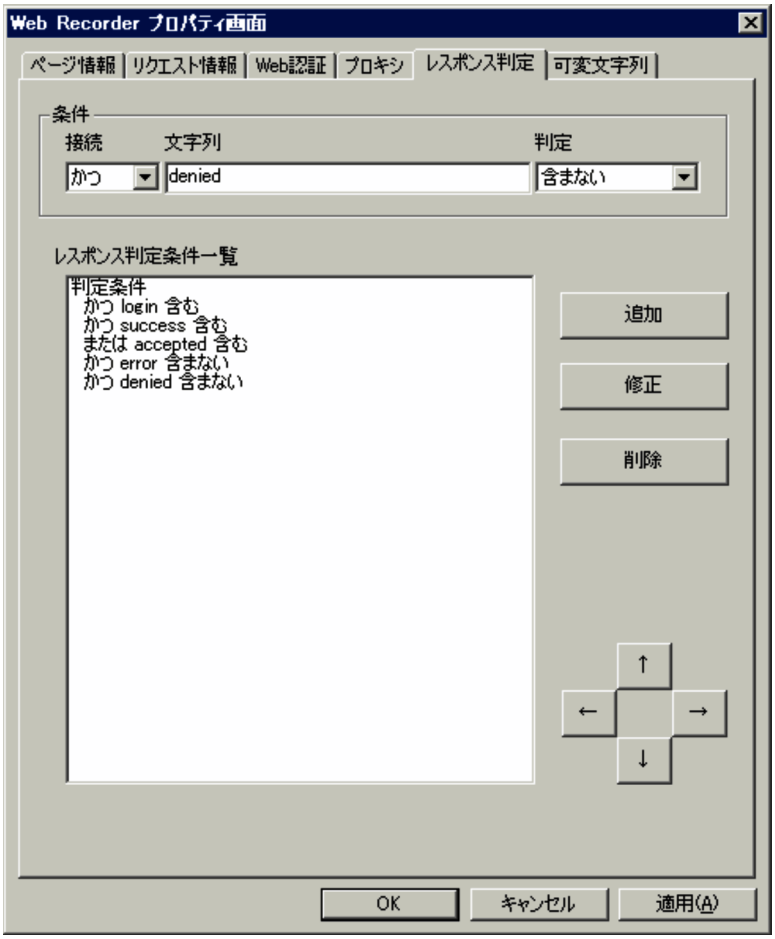
注意事項

[プロキシパスワード]は平文で Web トランザクションファイルに出力されるため，パスワードユーティリティを使用することをお勧めします。

(5) [レスポンス判定]タブ

Web トランザクション監視の際に，正当なレスポンスかどうかを判定するための条件を指定します。この画面の項目は，IE モードで定義した場合も自動記録されないため，設定が必要な場合はこの画面で直接入力します。なお，レスポンス判定の対象は，HTML テキストに限ります。

図 6-31 ［プロパティ］画面（［レスポンス判定］タブ）



表示項目について説明します。

［条件］

レスポンス判定の条件を指定します。

［接続］

条件と条件の接続方式を設定します。［かつ］または［または］のうちのどちらかを選択します。

［文字列］

条件設定の対象となる文字列を設定します。文字列内に「{}（波括弧）」は使用できません。

［判定］

［文字列］で指定した文字列を［含む］条件なのか，［含まない］条件なのかを選択します。

［レスポンス判定条件一覧］

設定したレスポンス判定の条件一覧が階層表示されます。なお，一覧の 1 行目には［判定条件］が常に表示されます。最上位に条件を追加したい場合は，［判定条件］を選択して［追加］ボタンをクリックしてください。

［追加］ボタン

［条件］で指定されている条件を［レスポンス判定条件一覧］に追加します。［レスポンス判定条件一覧］で選択されている条件の，一つ下の階層の最後に追加されます。

［修正］ボタン

［レスポンス判定条件一覧］で選択されている条件を，［条件］に指定されている内容に修正します。

［削除］ボタン

［レスポンス判定条件一覧］で選択されている条件を削除します。

移動ボタン（上下左右ボタン）

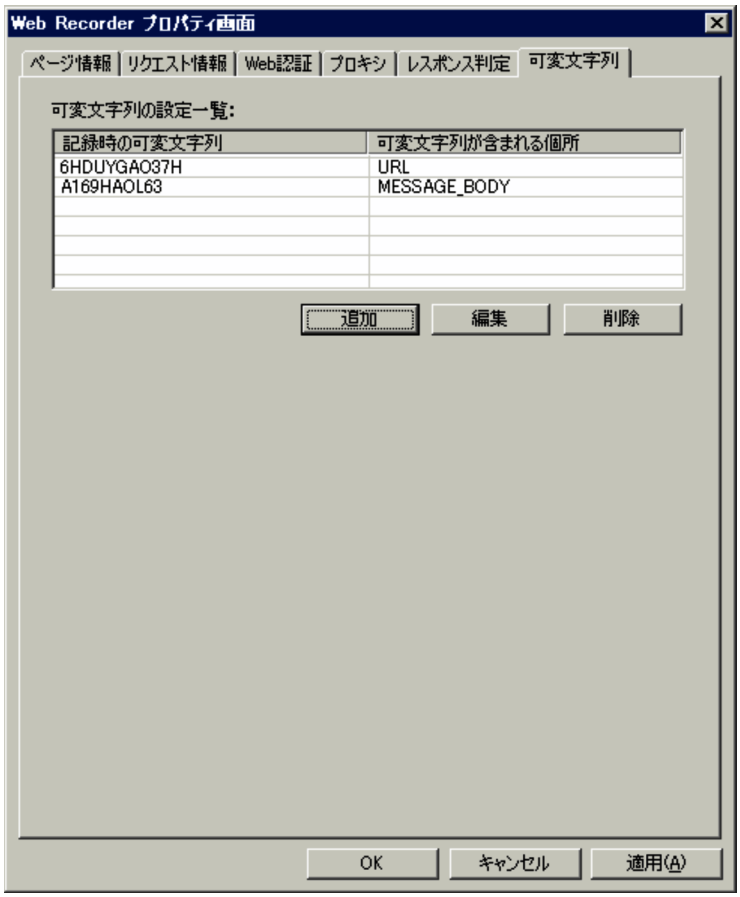
［レスポンス判定条件一覧］に設定されている条件に階層を設定するためのボタンです。

- ［←］ボタン（左）
  ［レスポンス判定条件一覧］で選択している条件，およびその下位の条件をすべて一つずつ左に移動し，階層を繰り上げます。
- ［→］ボタン（右）
  ［レスポンス判定条件一覧］で選択している条件，およびその下位の条件をすべて一つずつ右に移動し，階層を繰り下げます。
- ［↑］ボタン（上）
  ［レスポンス判定条件一覧］で選択している条件，およびその下位の条件を，選択している条件と同じ階層で，かつ選択している条件より上の行に設定されている条件と入れ替えます。
- ［↓］ボタン（下）
  ［レスポンス判定条件一覧］で選択している条件，およびその下位の条件を，選択している条件と同じ階層で，かつ選択している条件より下の行に設定されている条件と入れ替えます。

（6）［可変文字列］タブ

動的セッション管理に対応するための，可変文字列の設定が一覧表示されます。

図 6-32 ［プロパティ］画面（［可変文字列］タブ）



表示項目について説明します。

［可変文字列の設定一覧］

設定されている可変文字列の設定一覧が表示されます。可変文字列の設定は，「記録時の可変文字列」と「可変文字列が含まれる個所」の組み合わせを一つの設定として 1 行に表示されます。

なお，画面表示時には何も選択されていません。

［追加］ボタン

可変文字列の設定を新しく追加します。クリックすると［可変文字列の設定］画面が表示されます。

［編集］ボタン

［可変文字列の設定一覧］で選択した可変文字列の設定を編集します。クリックすると［可変文字列の設定］画面が表示されます。［可変文字列の設定一覧］で可変文字列の設定を選択していない場合は，エラーメッセージが表示されます。

［削除］ボタン

［可変文字列の設定一覧］で選択されている可変文字列の設定を削除します。

［可変文字列の設定一覧］で可変文字列の設定を選択していない場合は，エラーメッセージが表示されます。

6.3.8 ［可変文字列の設定］画面

動的セッション管理に対応するための，可変文字列と代替文字列を設定する画面です。［プロパティ］画面の［可変文字列］タブで［追加］ボタンまたは［編集］ボタンを選択すると表示されます。［可変文字列の設定］画面には，次の二つのタブがあります。

- ［可変文字列］タブ
- ［代替文字列］タブ

また，［可変文字列の設定］画面には，次のボタンが表示されています。

［取込］ボタン

設定済みの可変文字列および代替文字列の設定を取り込みます。ほかのステップで設定した可変文字列および代替文字列の設定も取り込むことができます。クリックすると［可変文字列設定の取込元選択］画面が表示されます。可変文字列の設定を取り込むと，それに対応する代替文字列の設定も取り込まれます。

［可変文字列］タブ，［代替文字列］タブのそれぞれの表示項目について説明します。

(1) ［可変文字列］タブ

記録した URL やメッセージボディ，Cookie の中で可変である文字列を設定する画面です。

図 6-33 ［可変文字列の設定］画面（［可変文字列］タブ）

表示項目について説明します。

［可変文字列の設定］

可変文字列が含まれる個所と，記録時の可変文字列の組み合わせを設定します。

可変文字列が含まれる個所

可変文字列が含まれる個所を「URL」,「メッセージボディ」,「Cookie」の中から選択します。デフォルトでは「URL」が選択されています。

［記録時の可変文字列］

可変文字列部分の，記録した時点での文字列を，1 ～ 4,095 バイトで指定します。必ず入力してください。

「URL」,「メッセージボディ」,「Cookie」で設定した個所内に，［記録時の可変文字列］で設定した文字列が複数存在する場合，先頭から検索して初めに一致した文字列に対して設定が有効になります。複数の文字列を同様に置き換えたい場合は，記録されている URL やメッセージボディ，Cookie の可変文字列部分を「$VAR1$」,「$VAR2$」などに変更することを推奨します。URL やメッセージボディ，Cookie の可変文字列部分の修正は，修正対象ステップのプロパ

ティ画面から操作してください。

[記録時の情報]

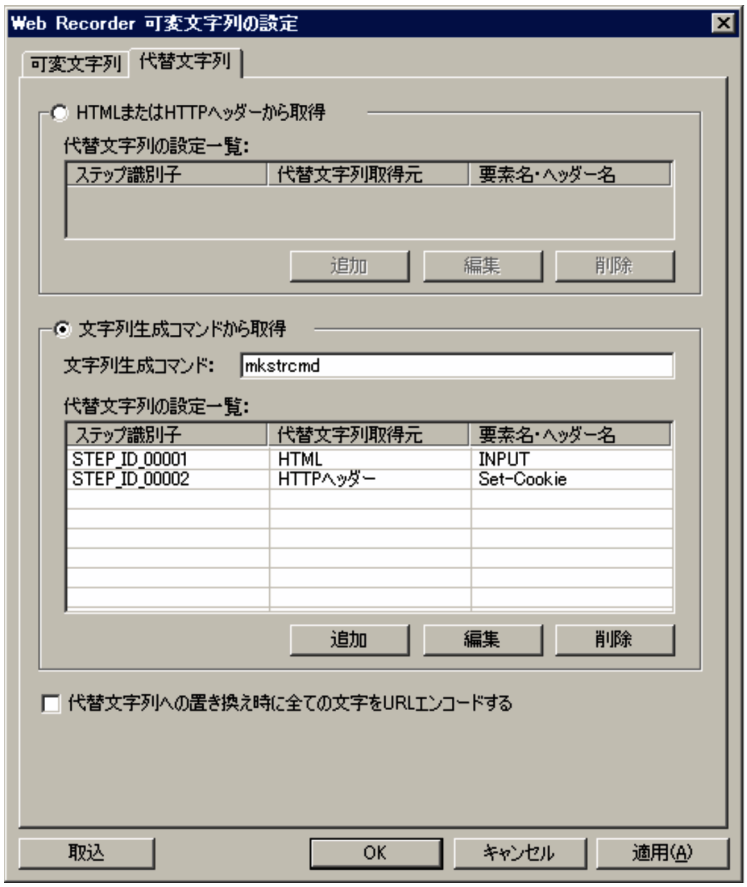
記録時の情報が表示されます。

記録時の URL，メッセージボディ，Cookie が，それぞれの欄に表示されます。入力はできません。

(2) ［代替文字列］タブ

［可変文字列］タブで設定した可変文字列を置き換える文字列を設定する画面です。

図 6-34 ［可変文字列の設定］画面（[代替文字列］タブ）



表示項目について説明します。

[HTML または HTTP ヘッダーから取得]

このステップより前のステップで取得した HTML ファイル，または HTTP ヘッダーから代替文字列を取得する場合に選択します。

[代替文字列の設定一覧]

設定されている代替文字列の一覧が表示されます。画面表示時には何も選択さ

れていません。
なお，［文字列生成コマンドから取得］を選択している場合，それぞれの代替文字列の設定は，［文字列生成コマンド］で設定したコマンドの引数として上から順に渡されます。

［追加］ボタン
代替文字列の設定を新しく追加します。クリックすると［代替文字列の設定］画面が表示されます。
なお，［HTML または HTTP ヘッダーから取得］を選択していて，すでに代替文字列が設定されている場合，［追加］ボタンは非活性です。

［編集］ボタン
［代替文字列の設定一覧］で選択した代替文字列の設定を編集します。クリックすると［代替文字列の設定］画面が表示されます。［代替文字列の設定一覧］で代替文字列の設定を選択していない場合，エラーメッセージが表示されます。

［削除］ボタン
［代替文字列の設定一覧］で選択した代替文字列の設定を削除します。［代替文字列の設定一覧］で代替文字列の設定を選択していない場合，エラーメッセージが表示されます。

［文字列生成コマンドから取得］
コマンドを使用して代替文字列を取得する場合に選択します。

［文字列生成コマンド］
コマンドの絶対パスと，動的に変化しない引数を，1 ～ 4,095 バイトで指定します。［文字列生成コマンドから取得］を選択した場合，必ず入力してください。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

注意事項
実行コマンドのパスは，「"（ダブルクォーテーション）」で囲むことをお勧めします。
実行コマンドのパスを「"(ダブルクォーテーション)」で囲まないで，かつ実行コマンドのパスに空白が含まれていると，コマンドが正しく実行されないことがあります。

［代替文字列の設定一覧］
設定されている代替文字列の一覧が表示されます。画面表示時には何も選択されていません。
なお，［文字列生成コマンドから取得］を選択している場合，それぞれの代替文字列の設定は，［文字列生成コマンド］で設定したコマンドの引数として上から順に渡されます。

［追加］ボタン
代替文字列の設定を新しく追加します。クリックすると［代替文字列の設定］画面が表示されます。
なお，［HTML または HTTP ヘッダーから取得］を選択していて，すでに代替

文字列が設定されている場合，［追加］ボタンは非活性です。

［編集］ボタン

［代替文字列の設定一覧］で選択した代替文字列の設定を編集します。クリックすると［代替文字列の設定］画面が表示されます。［代替文字列の設定一覧］で代替文字列の設定を選択していない場合，エラーメッセージが表示されます。

［削除］ボタン

［代替文字列の設定一覧］で選択した代替文字列の設定を削除します。［代替文字列の設定一覧］で代替文字列の設定を選択していない場合，エラーメッセージが表示されます。

［代替文字列への置き換え時に全ての文字を URL エンコードする］チェックボックス

代替文字列を可変文字列と置き換える場合に，すべての文字に対して URL エンコードが必要な場合にチェックします。チェックしない場合，URL エンコードしない設定になります。デフォルトはチェックされていません。

URL エンコードする場合，次のように変換されます。

代替文字列	変換処理
英数字	変換されません。
次の記号文字 * - . @ _	変換されません。
半角スペース	「+」に変換されます。
上記以外の文字	1 バイトごとに「%xy」の 3 文字の文字列に変換されます（x，y はそれぞれ 4 ビットを 16 進数で表現した値）。

注意事項

代替文字列の設定は，［HTML または HTTP ヘッダーから取得］を選択した場合は一つだけを，［文字列生成コマンド］を選択した場合は複数を設定できます。

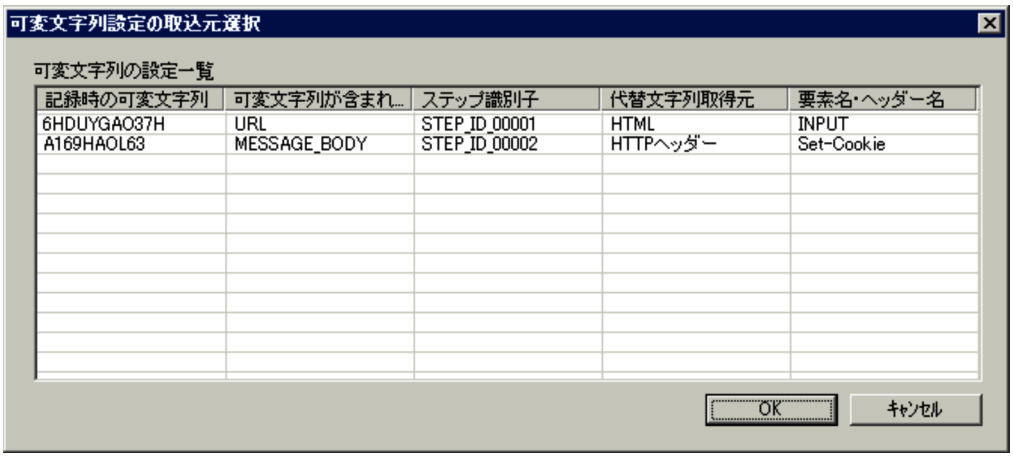
参考

デフォルトでは，［HTML または HTTP ヘッダーから取得］が選択されています。

6.3.9 ［可変文字列設定の取込元選択］画面

設定済みの可変文字列設定を取り込む場合の取込元を選択する画面です。［可変文字列の設定］画面で［取込］ボタンを選択すると表示されます。

図 6-35 ［可変文字列設定の取込元選択］画面



表示項目について説明します。

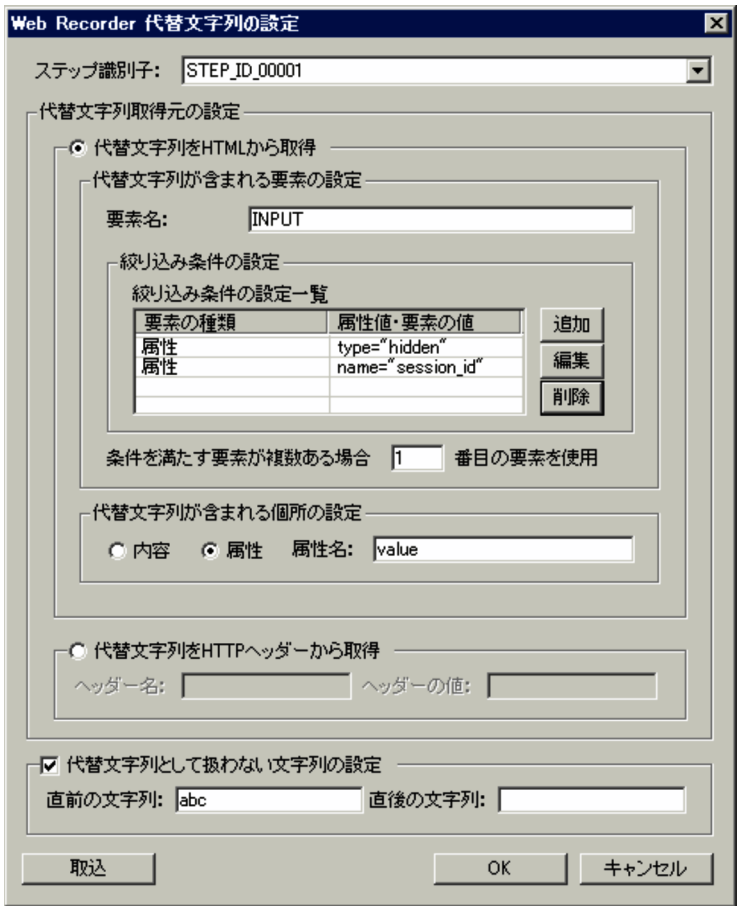
［可変文字列の設定一覧］

すでに設定されている可変文字列の設定と，それに対応する代替文字列の設定一覧が表示されます。ほかのステップで設定した可変文字列の設定も表示されます。
画面表示時には何も選択されていません。
可変文字列の設定を選択して［OK］ボタンをクリックすると，選択した可変文字列の設定内容が反映された状態の［可変文字列の設定］画面が表示されます。

6.3.10 ［代替文字列の設定］画面

代替文字列を特定するための設定を行う画面です。［可変文字列の設定］画面の［代替文字列］タブで［追加］ボタンまたは［編集］ボタンを選択すると表示されます。

図 6-36 ［代替文字列の設定］画面



表示項目について説明します。

［ステップ識別子］

ステップ識別子を選択します。プルダウンメニューには，記録済みのステップで設定されているステップ識別子が設定されています。デフォルトでは何も選択されていません。必ず選択してください。

［代替文字列取得元の設定］

代替文字列の取得元を選択します。

代替文字列を HTML から取得する場合

［代替文字列を HTML から取得］を選択してください。設定項目の詳細については，「(1)　代替文字列を HTML から取得する場合の設定項目」を参照してください。

代替文字列を HTTP ヘッダーから取得する場合

［代替文字列を HTTP ヘッダーから取得］を選択してください。設定項目の詳細については，「(2)　代替文字列を HTTP ヘッダーから取得する場合の設定項

目」を参照してください。
デフォルトでは［代替文字列を HTML から取得］が選択されています。

［代替文字列として扱わない文字列の設定］チェックボックス

取得した代替文字列の中で，代替文字列として扱いたくない部分がある場合にチェックします。デフォルトではチェックされていません。
チェックした場合は，［直前の文字列］または［直後の文字列］のどちらか，または両方を設定する必要があります。

［直前の文字列］

代替文字列の直前（代替文字列は含まない）の文字列を代替文字列として扱わない場合に設定します。設定した文字列と同じ文字列が複数存在する場合，文字列の先頭から検索して初めに現れた文字列を設定したことになります。
1 ～ 255 バイトで設定してください。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。
［代替文字列が含まれる個所の設定］で［属性］を選択した場合は，属性値の範囲を示す「"」や「'」は設定できません。

［直後の文字列］

代替文字列の直後（代替文字列は含まない）の文字列を代替文字列として扱わない場合に設定します。設定した文字列と同じ文字列が複数存在する場合，文字列の終わりから検索して初めに現れた文字列を設定したことになります。
1 ～ 255 バイトで設定してください。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。
［代替文字列が含まれる個所の設定］で［属性］を選択した場合は，属性値の範囲を示す「"」や「'」は設定できません。

［取込］ボタン

設定済みの代替文字列の設定を取り込みます。ほかのステップで設定した代替文字列の設定も取り込むことができます。クリックすると［代替文字列設定の取込元選択］画面が表示されます。

（1）代替文字列を HTML から取得する場合の設定項目

［代替文字列取得元の設定］で［代替文字列を HTML から取得］を選択した場合の設定項目について説明します。

［代替文字列を HTML から取得］

代替文字列を HTML から取得する場合に選択します。選択した場合，代替文字列が含まれる要素の要素名や，絞り込み条件，条件を満たす要素が複数ある場合に使用する要素を設定します。

［要素名］

代替文字列が含まれる要素の要素名を，1 ～ 1,023 バイトで設定します。［代替文字列を HTML から取得］を選択した場合，必ず設定してください。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

[絞り込み条件の設定]

要素名だけでは要素を特定できない場合に，要素を絞り込むための条件を設定します。［追加］ボタン，［編集］ボタン，［削除］ボタンを操作し，必要な条件を設定してください。［絞り込み条件の設定一覧］には，設定されている，要素を絞り込むための条件が表示されます。

- ［追加］ボタン
  要素の絞り込み条件の設定を新しく追加します。クリックすると［要素の絞り込み条件の設定］画面が表示されます。
- ［編集］ボタン
  ［絞り込み条件の設定一覧］で選択されている要素の絞り込み条件の設定を編集します。クリックすると［要素の絞り込み条件の設定］画面が表示されます。［絞り込み条件の設定一覧］で要素の絞り込み条件の設定が選択されていない場合はエラーメッセージが表示されます。
- ［削除］ボタン
  ［絞り込み条件の設定一覧］で選択されている要素の絞り込み条件の設定を削除します。［絞り込み条件の設定一覧］で要素の絞り込み条件の設定が選択されていない場合はエラーメッセージが表示されます。

[条件を満たす要素が複数ある場合 n 番目の要素を使用]

［要素名］と［絞り込み条件の設定］を満たす要素が複数存在する場合，先頭から数えて何番目の要素に代替文字列が含まれるかを，1 ～ 1,023 の整数で指定します。デフォルトは「1」です。設定しなかった場合は，先頭の要素から代替文字列を取得します。

[代替文字列が含まれる個所の設定]

代替文字列を含む個所として，［内容］または［属性］を選択します。デフォルトでは［属性］が選択されています。

[内容]

代替文字列が要素の内容に含まれる場合に選択します。

[属性]

代替文字列が要素の属性値に含まれる場合に選択します。選択した場合，［属性名］を必ず指定します。

［属性名］には，属性名を 1 ～ 1,023 バイトで指定します。

［属性名］に「=」は指定できません。設定した属性名の大文字・小文字は区別されません。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

(2) 代替文字列を HTTP ヘッダーから取得する場合の設定項目

［代替文字列取得元の設定］で［代替文字列を HTTP ヘッダーから取得］を選択した場合の設定項目について説明します。

[ヘッダー名]

HTTP ヘッダーのヘッダー名を，1 ～ 1,023 バイトで設定します。

［ヘッダーの値］

HTTP ヘッダーの値を，1 ～ 4,095 バイトで設定します。

6.3.11 ［代替文字列設定の取込元選択］画面

設定済みの代替文字列設定を取り込む場合の取込元を選択する画面です。［代替文字列の設定］画面で［取込］ボタンを選択すると表示されます。

図 6-37 ［代替文字列設定の取込元選択］画面

表示項目について説明します。

［代替文字列の設定一覧］

すでに設定されている代替文字列の設定一覧が表示されます。ほかのステップで設定した代替文字列の設定も表示されます。

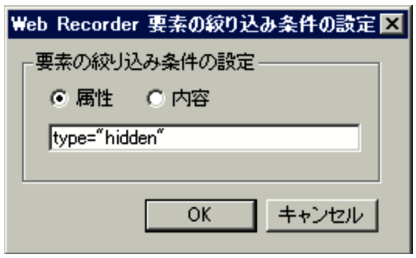
画面表示時には何も選択されていません。

代替文字列の設定を選択して［OK］ボタンをクリックすると，選択した代替文字列の設定内容が反映された状態の［代替文字列の設定］画面が表示されます。

6.3.12 ［要素の絞り込み条件の設定］画面

代替文字列が含まれる要素を絞り込む条件を設定する画面です。［代替文字列の設定］画面の［要素の絞り込み条件の設定］で［追加］ボタンまたは［編集］ボタンをクリックすると表示されます。

図 6-38 ［要素の絞り込み条件の設定］画面



表示項目について説明します。

［要素の絞り込み条件の設定］

要素の絞り込み条件として，［属性］または［内容］を選択します。

［属性］を選択した場合

代替文字列が含まれる要素の属性を，「**属性名**＝**属性値**」の形式で指定します。1 ～ 1,023 バイトで指定してください。

属性名の個所では，大文字・小文字が区別されません。**属性値**の個所では，大文字・小文字が区別されます。

動的に変化する属性は指定しないでください。なお，設定された属性名および属性値の妥当性は検証されません。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

［内容］を選択した場合

代替文字列が含まれる要素の内容に含まれる文字列を，1 ～ 1,023 バイトで指定します。入力した文字列の前後に空白，タブ，および改行がある場合は，削除されます。

7 定義ファイル

この章では，PFM - Agent for Service Response で使用する定義ファイルについて説明します。

7.1 **定義ファイル一覧**

7.2 Probe **動作条件定義ファイル**（esp.conf）

7.3 **計測条件登録ファイル**（esptask.xml）

7.4 IE **シナリオファイル**

7.5 Web **トランザクションファイル**

7.6 **コマンド登録ファイル**（espcommand.xml）

7.7 **計測条件ラベル定義ファイル**（esptasklabel.conf）

7.8 IE Recorder **動作条件定義ファイル**（jpcvierec.conf）

7.9 Web Recorder **動作条件定義ファイル**（wr.conf）

7.1 定義ファイル一覧

PFM - Agent for Service Response の環境設定や計測条件登録で使用するファイルを，次の表に示します。

表 7-1 環境設定で使用する定義ファイル

定義ファイル	ファイル名	定義内容	参照先
Probe 動作条件定義ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥conf¥esp.conf	IE Probe Daemon および Probe Daemon の起動オプションを設定します。	7.2
計測条件登録ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥task¥esp¥esptask.xml	各インターネットサービスの計測条件を定義します。計測条件は，共通部分とサービス固有条件部分で構成されます。	7.3
		• 共通部分	7.3.2
		• サービス固有条件部分	7.3.3
		（HTTP）	7.3.3(1)
		（HTTPS）	7.3.3(2)
		（SMTP）	7.3.3(3)
		（POP3）	7.3.3(4)
		（IMAP4）	7.3.3(5)
		（DNS）	7.3.3(6)
		（DHCP）	7.3.3(7)
		（FTP）	7.3.3(8)
		（TCP）	7.3.3(9)
		（WEBTRANS）	7.3.3(10)
		（IESCENA）	7.3.3(11)
		（USERSERV）	7.3.3(12)
IE シナリオファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥iescena¥ 配下の，拡張子が xml の任意のファイル名。	一連の Internet Explorer の操作を IE シナリオとして定義します。	7.4
Web トランザクションファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥webtrans¥配下の，拡張子が xml の任意のファイル名。	一連の Web のアクセス操作を Web トランザクションとして定義します。	7.5
コマンド登録ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥conf¥espcommand.xml	作成したユーザー定義コマンドを登録します。	7.6

定義ファイル	ファイル名	定義内容	参照先
計測条件ラベル定義ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥conf¥esptasklabel.conf	計測条件に任意のラベル名を定義します。	7.7
IE Recorder 動作条件定義ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥conf¥jpcvierec.conf	IE Recorder の動作条件を定義します。	7.8
Web Recorder 動作条件定義ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥conf¥wr.conf	Web Recorder の動作条件を定義します。	7.9

(1) XML 形式の記述について

計測条件登録ファイル，コマンド登録ファイル，および Web トランザクションファイルは，XML 形式で作成します。XML 形式で定義ファイルを作成する際の注意事項を説明します。

開始タグと終了タグ

XML のタグは，必ず二つのタグ（開始タグと終了タグ）が対になる形式で，記述します。開始タグに対応する終了タグがない場合，および終了タグに対応する開始タグがない場合はエラーになります。なお，「<」と「>」で囲まれたタグ内には，空白，タブ，改行など，タグ名以外は入力しないでください。

要素

開始タグと終了タグに囲まれた部分を要素といいます。

```
<SAMPLE_TAG>・・要素・・</SAMPLE_TAG>
```

開始タグは，対応する終了タグと一致している必要があります。上記の例の場合，<SAMPLE_TAG> に対応する </SAMPLE_TAG> がなければエラーになります。なお，要素がない場合は，開始タグと終了タグを一つにまとめて，次のように記述できます。

```
<SAMPLE_TAG/>
```

大文字・小文字の区別

XML では，大文字と小文字を区別します。各定義ファイルの書式に示されたとおりに，入力してください。

空白，タブ，改行の削除

要素の前後に入力された空白，タブ，および改行は削除され，要素として認識されません。

置き換えが必要な文字

次に示す文字は，XML 構文で使用するため，要素の設定でこれらの文字の入力が必要な場合は，次の表に示す文字に置き換えてください。

表 7-2 置き換えが必要な文字

使用したい文字	置き換えて使用する文字列
&	&
<	<
>	>
"	"
'	'

コメントの記述

コメントは，次の形式で記述します。

<!--コメント内容-->

なお，コメント中に「--」は記述できません。

改行コード

内容の途中に入力された改行コードは LF(0x0a) として扱われます。改行コードを CRLF(0x0d0a) として扱いたい場合は，改行コードの代わりに「
」と入力してください。

7.2 Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）

Probe 動作条件定義ファイルは，IE Probe Daemon または Probe Daemon の起動オプションを設定するファイルです。IE Probe Daemon または Probe Daemon の起動時に読み込まれます。

なお，Probe 動作条件定義ファイルの定義内容を有効にするには，PFM - Agent for Service Response を再起動する必要があります。

（1） 書式

```
[General]
mode=ESP
number_of_probes=プローブの計測多重度
max_reportfile_size=レポートファイルのサイズの上限値
ie_number_of_probes=IEプローブの計測多重度
ie_max_reportfile_size=IEプローブが出力するレポートファイルのサイズの上限値
ie_service_flag={Y｜N}
disable_ssl_protocol={NONE｜TLSV11}

[System Log]
printlog_flag={Y｜N}

[Cluster]
cluster_flag={Y｜N}
shared_directory=クラスタ運用で使用する共有ディスク上のフォルダ名

[WEBTRANS Probe]
max_keep_alive_session=持続的接続時の最大セッション数
skip_emb_rsc_error={Y｜N}
post_redirect_method={GET｜POST}

[FTP Probe]
ignore_quit_resp_recv_error={Y｜N}

[IE Probe]
html_log_flag={Y｜N}
max_number_of_html_log=IEシナリオの計測時に取得したHTMLファイルを保存する最大件数
```

注意事項

Probe 動作条件定義ファイルを記述するときの注意事項を次に示します。

- キー名称と値は「=（イコール）」でつないで記述すること。
- キー名称と値は 1 行で記述すること。
- 行頭は 1 カラム目から記述すること。

なお，先頭が「#（シャープ）」の行は，コメント行とみなされます。

（2） 定義内容

定義内容を説明します。なお，オプションの項目は，必要でない場合は省略できます。必要でないオプション項目の記述を省略する場合は，キー名ごと（またはセクションご

と）記述を省略します。

General セクション

PFM - Agent for Service Response の IE プローブおよびプローブの計測多重度，レポートファイルのサイズの上限値を指定します。

表 7-3 General セクションの定義内容

キー名	必須	指定する値
mode	○※	「ESP」固定です。プローブ使用時に有効となります。
number_of_probes ((1 ～ 100))《10》	―	プローブの計測多重度を指定します。プローブ使用時に有効となります。
max_reportfile_size ((1 ～ 32))(メガバイト) 《4》	―	レポートファイルのサイズの上限値を指定します。プローブ使用時に有効となります。
ie_number_of_probes ((1 ～ 20))《5》	―	IE プローブの計測多重度を指定します。IE プローブ使用時に有効となります。
ie_max_reportfile_size ((1 ～ 32))(メガバイト) 《1》または， ((128K ～ 32768K))(キロバイト)	―	IE レポートファイルのサイズの上限値を指定します。IE プローブ使用時に有効となります。
ie_service_flag ((Y または N))《N》	―	Windows サービスから IE プローブを起動・終了する機能を使用するかどうかを指定します。使用する場合は「Y」を，使用しない場合は「N」を指定します。 スタートメニューから IE プローブを手動で起動・終了する場合は「N」を指定します。クラスタ環境で運用する場合は，「Y」を指定します。
disable_ssl_protocol ((NONE または TLSV11))《NONE》	―	HTTPS の監視（HTTPS を使用する Web トランザクションの監視も含む）で，プローブと Web サーバ間で行われる SSL の通信のプロトコルのうち，使用しないプロトコルを指定します。PFM - Agent for Service Response では次に示す SSL のプロトコルをサポートしています。 • SSLv2 • SSLv3 • TLSv1 • TLSv1.1 監視対象が TLSv1.1 をサポートしない Web サーバである場合，監視によって収集できたレコードのリザルトコード（RESULT_CODE）フィールドが 3 になり，計測エラーとなる場合があります。この場合，このオプションに TLSV11 を指定することで回避できる場合があります。使用しないプロトコルを指定しない場合は「NONE」を，TLSv1.1 を使用しない場合は「TLSV11」を指定します。

（凡例）
○：必須項目
－：オプション項目

注※
プローブを使用する場合は必須項目

System Log セクション

ログの出力に関する設定をします。

表 7-4 System Log セクションの定義内容

キー名	必須	指定する値
printlog_flag ((Y または N))《N》	－	Probe Daemon および IE Probe Daemon のイベントログを出力するかどうかを指定します。出力する場合は「Y」を，出力しない場合は「N」を指定します。

（凡例）
－：オプション項目

Cluster セクション

クラスタ運用に関する設定をします。

表 7-5 Cluster セクションの定義内容

キー名	必須	指定する値
cluster_flag ((Y または N))《N》	－	PFM - Agent for Service Response をクラスタ環境で運用する場合は「Y」を，しない場合は「N」指定します。
shared_directory ((255 バイト以内))	＿※	クラスタ環境で運用する場合，レポートファイル，計測条件登録ファイルを出力するための，共有ディスク上のフォルダ名を指定します。 cluster_flag に Y を指定した場合は，設定が必要です。N を指定した場合は，この項目を設定しても無視されます。空白を含んだパスを指定する場合でも，「"（ダブルクォーテーション）」で囲まないでください。

（凡例）
－：オプション項目

注※
cluster_flag に Y を指定した場合は必須項目

WEBTRANS Probe セクション

Web トランザクションの計測に関する設定をします。プローブ使用時に有効になるセクションです。

表 7-6 WEBTRANS Probe セクションの定義内容

キー名	必須	指定する値
max_keep_alive_session ((1 ～ 20))《10》	―	Web トランザクション計測で持続的接続をする場合の最大セッション数を指定します。一つの Web トランザクション計測で使用する最大セッションとなります。
skip_emb_rsc_error ((Y または N))《Y》	―	Web トランザクション計測で埋め込みリソースの取得でエラーとなった場合に計測を続行するかどうかを指定します。計測を続行する場合は「Y」を，続行しない場合は「N」を指定します。
post_redirect_method ((GET または POST)) 《GET》	―	Web トランザクション計測で POST リクエストのリダイレクト時に使用するメソッドを指定します。GET メソッドを使用する場合は「GET」を，POST メソッドを使用する場合は「POST」を指定します。通常はこの値を変更しないでください。

（凡例）
―：オプション項目

FTP Probe セクション

FTP の計測に関する設定をします。プローブ使用時に有効になるセクションです。

表 7-7 FTP Probe セクションの定義内容

キー名	必須	指定する値
ignore_quit_resp_recv_error ((Y または N))《N》	―	FTP の計測で，ログアウト（QUIT コマンド投入）に対する FTP サーバからの応答メッセージの受信でエラーとなった場合に監視を続行するかどうかを指定します。計測を続行する場合は「Y」を，続行しない場合は「N」を指定します。Windows ファイアウォールが有効となっている環境で，FTP を監視する場合は，「Y」を指定してください。

（凡例）
―：オプション項目

IE Probe セクション

IE Probe の計測に関する設定をします。IE プローブ使用時に有効になるセクションです。

表 7-8 IE Probe セクションの定義内容

キー名	必須	指定する値
html_log_flag ((Y または N))《Y》	―	IE シナリオの計測時に取得した Web ページを，HTML ファイルに出力するかどうかを指定します。計測異常発生時に HTML の内容を確認したい場合などに使用します。出力したファイルは，1 回の IE シナリオ再生で取得したファイルごとに一つのフォルダに格納されます。出力ファイルの文字コードは，UTF-8 になります。データの出力先，ファイル名は次のとおりです。 データの出力先 **インストール先フォルダ**¥agtv¥probe¥probedata¥iescena¥ieprobed_ 計測条件 ID¥IE **シナリオの計測開始時刻**※1 ファイル名 **出力番号 _ 操作番号 _ フレーム番号** .html※2
max_number_of_html_log ((1 ～ 500))(個)《20》	―	IE シナリオの計測時に取得した HTML ファイルを保存する最大件数を指定します。IE シナリオを 1 回計測した際に取得したすべての HTML ファイルを 1 件と数え，計測条件ごとに最大件数まで保存します。最大件数を超えた場合は，最も古い HTML ファイルが削除されます。 html_log_flag に N を指定した場合は，この項目を設定しても無視されます。

（凡例）

－：オプション項目

注※ 1

IE シナリオの計測開始時刻は YYYYMMDD_hhmmss 形式（YYYY：西暦年，MM：月，DD：日，hh：時，mm：分，ss：秒）

注※ 2

出力番号は 1 から始まる番号。操作番号については，「6.2.1 ［IE Recorder］（メイン）画面」を参照してください。

（3） 記述例

Probe 動作条件定義ファイルの記述例を次に示します。

```
[General]
mode=ESP
number_of_probes=10
max_reportfile_size=1
ie_number_of_probes=5
ie_max_reportfile_size=128K
ie_service_flag=N
disable_ssl_protocol=NONE

[System Log]
printlog_flag=Y

[Cluster]
```

```
cluster_flag=N
shared_directory=

[WEBTRANS Probe]
max_keep_alive_session=10
skip_emb_rsc_error=Y
post_redirect_method=GET

[FTP Probe]
ignore_quit_resp_recv_error=N

[IE Probe]
html_log_flag=Y
max_number_of_html_log=10
```

7.3 計測条件登録ファイル（esptask.xml）

計測条件登録ファイルは，IE シナリオまたは各インターネットサービスの計測条件を登録するファイルです。Agent Collector，IE Probe Daemon，および Probe Daemon の起動時に読み込まれます。このファイルは，XML 形式です。

計測条件登録ファイルで定義する内容は，PFM - Web Console から設定できます。PFM - Web Console を使用して定義すると，PFM - Agent for Service Response を再起動する必要がありません。また，IE Probe Daemon および Probe Daemon への反映も PFM - Web Console から行えます。このため，通常は PFM - Web Console から計測条件を定義してください。

IE シナリオの計測条件を定義する場合，［IE Recorder］（メイン）画面で，定義した内容を計測条件登録ファイルに登録したり，計測条件登録ファイルを編集したりできます。ただし，［IE Recorder］（メイン）画面で計測条件登録ファイルを編集するときは，PFM - Agent for Service Response を停止する必要があるので，計測条件登録ファイルは，PFM - Web Console で編集することを推奨します。

PFM - Web Console を使用しない場合，計測条件登録ファイルの定義内容を有効にするには，PFM - Agent for Service Response を再起動する必要があります。

ただし，<HTTP> タグ配下または <HTTPS> タグ配下の <POST> タグは，PFM - Web Console から設定できません。計測条件登録ファイルを直接編集して定義してください。

計測条件登録ファイルを直接編集する場合の注意事項

- 計測条件登録ファイルを直接編集する場合，事前に必ず PFM - Agent for Service Response を停止させてください。
- 計測条件登録ファイルを直接編集した場合，マルチバイト文字の指定が許可されていないプロパティの値に，マルチバイト文字が含まれる場合があります。この状態で計測条件登録ファイルを読み込むと，マルチバイト文字を含む値が PFM - Web Console に表示され，Status も Valid になります。しかし，そのまま［OK］ボタンをクリックすると，PFM - Web Console から半角文字しか指定できないフィールドに全角文字が入力されたことを表すエラーメッセージ（KAVJS2602-E）が出力されるので，注意してください。
- 計測条件登録ファイルを直接編集している最中に，［IE Recorder］（メイン）画面で，［ツール］－［計測条件の簡易登録］を選択しないでください。

7.3.1 計測条件登録ファイル全体の書式と定義内容

（1）書式

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" standalone="no"?>
<!DOCTYPE TASKLIST SYSTEM "esptask.dtd">
<TASKLIST>
   <TASK>
```

```
      <GEN_PARAM>
        <!--GEN_PARAM -->
      </GEN_PARAM>
      <SERV_PARAM>
        <!--SERV_PARAM はサービスタイプ固有-->
      </SERV_PARAM>
    </TASK>
   ・・・
</TASKLIST>
```

(2) 定義内容

(a) XML 宣言，文書型宣言

1 行目には XML 宣言を，2，3 行目には文書型宣言を記述します。次に示すとおりに記述してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" standalone="no"?>
<!DOCTYPE TASKLIST SYSTEM "esptask.dtd" [
]>
```

なお，2，3 行目の文書型宣言は，次のように記述してもかまいません。

```
<!DOCTYPE TASKLIST SYSTEM "esptask.dtd">
```

(b) XML 定義内容

表 7-9 XML 定義内容

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TASKLIST>・・・</TASKLIST>	○	計測条件の一覧を示すタグです。一つまたは複数の <TASK> タグを含みます。</TASK> タグの直後に，別の <TASK> タグを開始できます。
<TASK>・・・</TASK>	○	一つの計測条件を示すタグです。一組の <GEN_PARAM> タグと <SERV_PARAM> タグを含みます。
<GEN_PARAM>・・・</GEN_PARAM>	○	計測条件のうち，計測対象のサービスに依存しないパラメーターを含むタグである <TASKID> タグ，<TASKLABEL> タグ，<INTERVAL> タグ，および <TIMEOUT> タグを含みます。詳細については，「7.3.2 計測条件（共通部分）の書式と定義内容」を参照してください。
<SERV_PARAM>・・・</SERV_PARAM>	○	計測条件のうち，計測対象のサービスに依存するパラメーターを含むタグです。<HTTP> タグ，<HTTPS> タグ，<SMTP> タグ，<POP3> タグ，<IMAP4> タグ，<DNS> タグ，<DHCP> タグ，<FTP> タグ，<TCP> タグ，<WEBTRANS> タグ，<IESCENA> タグ，および <USERSERV> タグのうちのどれかを含みます。詳細については，「7.3.3 計測条件（サービス固有条件部分）の書式と定義内容」を参照してください。

（凡例）
○：必須項目

7.3.2 計測条件（共通部分）の書式と定義内容

計測対象の共通部分の書式と定義内容を説明します。

（1） 書式

```
<GEN_PARAM>
    <TASKID>計測条件ID</TASKID>
    <TASKLABEL>計測条件ラベル</TASKLABEL>
    <INTERVAL>計測間隔</INTERVAL>
    <TIMEOUT>タイムアウト時間</TIMEOUT>
</GEN_PARAM>
```

（2） <GEN_PARAM> の定義内容

表 7-10 <GEN_PARAM> の定義内容

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TASKID>・・・</TASKID> ((1 ～ 65535))	○	計測条件を識別する ID を指定します。
<TASKLABEL>・・・</TASKLABEL> ((63 バイト以内の文字列))	―	タスクに任意のラベル名を付与する場合に指定します。ほかの計測条件と重複しない一意の名前にすることを推奨します。 計測条件ラベル定義ファイル（esptasklabel.conf）で定義する計測条件ラベルと同一の設定項目です。ここでの設定値は計測条件ラベル定義ファイルでの設定より優先されます。 ラベル名には「,（コンマ）」,「"（ダブルクォーテーション）」は使用できません。「=（イコール）」は使用できます。
<INTERVAL>・・・</INTERVAL> ((60 ～ 86400))(秒)	○	繰り返し計測をする場合の計測間隔を指定します。 <TIMEOUT> タグで指定する値（タイムアウト時間）より大きい値を指定してください。
<TIMEOUT>・・・</TIMEOUT> ((1 ～ 3600))(秒)《30》	―	タイムアウト時間（1 計測が計測終了するまでの最大時間）を指定します。<INTERVAL> タグで指定した値（計測間隔）より小さい値を指定してください。<INTERVAL> タグの値より大きい値を指定した場合は，<INTERVAL> タグの値をタイムアウト時間とします。

（凡例）
○：必須項目
―：オプション項目

7.3.3 計測条件（サービス固有条件部分）の書式と定義内容

計測対象のインターネットサービスごとに書式と定義内容を説明します。

次の 12 種類の SERVICE_ID について説明します。

(1) HTTP

HTTP サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <HTTP>
     <URL>URL</URL>
     <POST>
       <MESSAGE_BODY>メッセージボディ</MESSAGE_BODY>
     </POST>
     <DEPTH>深さ</DEPTH>
     <WEB_AUTH>
       <WEB_USERNAME>Web認証ユーザー名</WEB_USERNAME>
     </WEB_AUTH>
     <PROXY>
       <PROXY_HOSTNAME>プロキシのホスト名またはIPアドレス</
PROXY_HOSTNAME>
       <PROXY_PORT>プロキシポート番号</PROXY_PORT>
       <PROXY_USERNAME>プロキシユーザー名</PROXY_USERNAME>
     </PROXY>
   </HTTP>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（HTTP）

表 7-11 <SERV_PARAM> の定義内容（HTTP）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<HTTP>・・・</HTTP>	○	HTTP サービス固有のパラメーターを含むタグです。
<URL>・・・</URL> ((255 バイト以内の文字列))	○	計測対象の Web ページの URL を指定します。プロトコル識別子（http://）は含めません。ポート番号は省略できます。ポート番号を省略した場合は，80 番ポートを使用します。
<POST>・・・</POST>	―	POST メソッドを計測するよう指定するタグです。<MESSAGE_BODY> タグを使用して設定します。省略する場合は，<POST> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。省略した場合は，GET メソッドを使用します。
<MESSAGE_BODY>・・・</MESSAGE_BODY> ((1 ～ 1,023 バイトの文字列))	_※1	POST メソッドの送信の場合にメッセージのボディとして送信される文字列を指定します。POST メソッドを使用する場合，この項目は省略できません。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<DEPTH>・・・</DEPTH> ((1 ～ 100))《2》	―	埋め込みリソース・フレームを取得する深さを指定します。深さとは，計測対象の Web ページ中に含まれるリソースとフレームのうち，ダウンロードするリソースとフレームの Web ページ中の深さを表します。次に例を示します。 DEPTH=1 と指定する場合 Web ページ本体だけをダウンロードします。 DEPTH=2 と指定する場合 Web ページ本体に加えて，そのページに埋め込まれているリソースやフレームをダウンロードします。 DEPTH=3 以上を指定する場合 Web ページ本体，そのページに埋め込まれているリソースやフレーム，そのフレームに埋め込まれているリソースやフレーム・・・のように，取得したフレームの中に埋め込まれている情報の取得を，指定した数に対応するだけ繰り返しダウンロードします。フレームの中に何も埋め込まれていなければ，それ以上の取得は繰り返しません。 埋め込まれているリソースやフレームの詳細については，「9. レコード」の「HTTP」を参照してください。
<WEB_AUTH>・・・</ WEB_AUTH>	―	Web 認証をする場合に指定します。 <WEB_USERNAME> タグを使用し，Web 認証に関する設定をします。省略する場合は， <WEB_AUTH> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。
<WEB_USERNAME>・・・</ WEB_USERNAME> ((64 バイト以内の文字列))	―※2	Web 認証に使用するユーザー名を指定します。 Web 認証実行時だけ有効です。
<PROXY>・・・</PROXY>	―	プロキシを利用する場合に指定します。 <PROXY_HOSTNAME> タグ， <PROXY_PORT> タグ，および <PROXY_USERNAME> タグを使用し，プロキシに関する設定をします。省略する場合は， <PROXY> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。
<PROXY_HOSTNAME>・・・</ PROXY_HOSTNAME> ((255 バイト以内の文字列))	―※3	プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。プロキシ利用時だけ有効です。
<PROXY_PORT>・・・</ PROXY_PORT> ((1 ～ 65535))	―※3	プロキシサーバのポート番号を指定します。プロキシ利用時だけ有効です。
<PROXY_USERNAME>・・・</ PROXY_USERNAME> ((64 バイト以内の文字列))	―※4	プロキシ認証をする場合に使用するユーザー名を指定します。プロキシ認証をしない場合は，タグの記述を省略します。

（凡例）
○：必須項目
－：オプション項目

注※ 1
<POST> タグがある場合は必須項目

注※ 2
<WEB_AUTH> タグがある場合は必須項目

注※ 3
<PROXY> タグがある場合は必須項目

注※ 4
<PROXY> タグがあり，プロキシ認証をする場合は必須項目

(2) HTTPS

HTTPS サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <HTTPS>
     <URL>URL</URL>
     <POST>
       <MESSAGE_BODY>メッセージボディ</MESSAGE_BODY>
     </POST>
     <DEPTH>深さ</DEPTH>
     <WEB_AUTH>
       <WEB_USERNAME>Web認証ユーザー名</WEB_USERNAME>
     </WEB_AUTH>
     <PROXY>
       <PROXY_HOSTNAME>プロキシのホスト名またはIPアドレス</
PROXY_HOSTNAME>
       <PROXY_PORT>プロキシポート番号</PROXY_PORT>
       <PROXY_USERNAME>プロキシユーザー名</PROXY_USERNAME>
     </PROXY>
     <SSL_AUTH_IGNORE></SSL_AUTH_IGNORE>
     <CLIENT_AUTH>
      <CLIENT_CERT_FILE>クライアント証明書ファイル名</CLIENT_CERT_FILE>
     </CLIENT_AUTH>
   </HTTPS>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（HTTPS）

表 7-12 <SERV_PARAM> の定義内容（HTTPS）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<HTTPS>・・・</HTTPS>	○	HTTPS サービス固有のパラメーターを含むタグです。
<URL>・・・</URL> ((255 バイト以内の文字列))	○	計測対象の Web ページの URL を指定します。プロトコル識別子（https://）は含みません。ポート番号は省略できます。ポート番号を省略した場合は，443 番ポートを使用します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<POST>・・・</POST>	―	POST メソッドを計測するよう指定するタグです。<MESSAGE_BODY> タグを使用して設定します。省略する場合は，<POST> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。省略した場合は，GET メソッドを使用します。
<MESSAGE_BODY>・・・</MESSAGE_BODY> ((1 ～ 1,023 バイトの文字列))	_※1	POST メソッドの送信の場合にメッセージのボディとして送信される文字列を指定します。
<DEPTH>・・・</DEPTH> ((1 ～ 100))《2》	―	埋め込みリソース・フレームを取得する深さを指定します。深さとは，監視対象の Web ページ中に含まれるリソースとフレームのうち，ダウンロードするリソースとフレームの Web ページ中の深さを表します。次に例を示します。 DEPTH=1 と指定する場合 Web ページ本体だけをダウンロードします。 DEPTH=2 と指定する場合 Web ページ本体に加えて，そのページに埋め込まれているリソースやフレームをダウンロードします。 DEPTH=3 以上を指定する場合 Web ページ本体，そのページに埋め込まれているリソースやフレーム，そのフレームに埋め込まれているリソースやフレーム・・・のように，取得したフレームの中に埋め込まれている情報の取得を，指定した数に対応するだけ繰り返しダウンロードします。フレームの中に何も埋め込まれていなければ，それ以上の取得は繰り返しません。 埋め込まれているリソースやフレームの詳細については，「9. レコード」の「HTTPS」を参照してください。
<WEB_AUTH>・・・</WEB_AUTH>	―	Web 認証に関する設定を行うタグです。Web 認証をする場合にだけ指定します。Web 認証をしない場合は，<WEB_AUTH> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。
<WEB_USERNAME>・・・</WEB_USERNAME> ((64 バイト以内の文字列))	_※2	Web 認証に使用するユーザー名を指定します。Web 認証実行時だけ有効です。
<PROXY>・・・</PROXY>	―	プロキシを利用する場合に指定します。<PROXY_HOSTNAME> タグ，<PROXY_PORT> タグ，および <PROXY_USERNAME> タグを使用し，プロキシに関する設定をします。省略する場合は，<PROXY> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<PROXY_HOSTNAME>・・・</PROXY_HOSTNAME> ((255 バイト以内の文字列))	―※3	プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。プロキシ利用時だけ有効です。
<PROXY_PORT>・・・</PROXY_PORT> ((1 ～ 65535))	―※3	プロキシサーバのポート番号を指定します。プロキシ利用時だけ有効です。
<PROXY_USERNAME>・・・</PROXY_USERNAME> ((64 バイト以内の文字列))	―※4	プロキシ認証をする場合に使用するユーザー名を指定します。プロキシ認証をしない場合は，タグの記述を省略します。
<SSL_AUTH_IGNORE> </SSL_AUTH_IGNORE>	―	SSL のサーバ認証で失敗しても，そのまま計測を続行する場合に指定します。SSL のサーバ認証で失敗した場合に計測を終了させる場合は，このタグを省略します。省略する場合は，タグの記述自体を省略します。
<CLIENT_AUTH>・・・</CLIENT_AUTH>	―	クライアント認証をする場合に指定します。<CLIENT_CERT_FILE> タグを使用し，クライアント認証に関する設定をします。クライアント認証をしない場合は，<CLIENT_AUTH> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。
<CLIENT_CERT_FILE>・・・</CLIENT_CERT_FILE> ((255 バイト以内の文字列))	―※5	クライアント証明書と秘密鍵を格納したファイルを 255 バイト以内で指定します。**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥cert 配下に格納したファイルのファイル名を指定します。パスは含めません。ファイルは，Base64 エンコードの X.506 形式に変換しておく必要があります。

（凡例）

○：必須項目

―：オプション項目

注※ 1

<POST> タグがある場合は必須項目

注※ 2

<WEB_AUTH> タグがある場合は必須項目

注※ 3

<PROXY> タグがある場合は必須項目

注※ 4

<PROXY> タグがあり，プロキシ認証をする場合は必須項目

注※ 5

<CLIENT_AUTH> タグがある場合は必須項目

（3） SMTP

SMTP サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <SMTP>
     <HOSTNAME>ホスト名またはIPアドレス</HOSTNAME>
     <PORT>ポート番号</PORT>
     <MSG_SIZE>メッセージサイズ</MSG_SIZE>
     <DST_MAIL_ADDR>宛先メールアドレス</DST_MAIL_ADDR>
     <SRC_MAIL_ADDR>発信元メールアドレス</SRC_MAIL_ADDR>
     <POP3_AUTH>
       <POP3_HOSTNAME>POP3ホスト名またはIPアドレス</POP3_HOSTNAME>
       <POP3_PORT>POP3ポート番号</POP3_PORT>
       <POP3_USERNAME>POP3ユーザー名</POP3_USERNAME>
     </POP3_AUTH>
   </SMTP>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（SMTP）

表 7-13 <SERV_PARAM> の定義内容（SMTP）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<SMTP>・・・</SMTP>	○	SMTP サービス固有のパラメーターを含むタグです。
<HOSTNAME>・・・</HOSTNAME> ((255 バイト以内の文字列))	○	SMTP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
<PORT>・・・</PORT> ((1 ～ 65535))《25》	－	SMTP サーバのポート番号を指定します。
<MSG_SIZE>・・・</MSG_SIZE> ((0 ～ 10000))(バイト)	○	計測用メールの本文のサイズを指定します。
<DST_MAIL_ADDR>・・・</DST_MAIL_ADDR> ((256 バイト以内の文字列))	○	計測用メールの宛先メールアドレスを一つだけ指定します。
<SRC_MAIL_ADDR>・・・</SRC_MAIL_ADDR> ((256 バイト以内の文字列))	－	計測用メールの発信元メールアドレスを指定します。
<POP3_AUTH>・・・</POP3_AUTH>	－	POP3 認証（POP before SMTP）をする場合に指定します。<POP3_HOSTNAME> タグ，<POP3_PORT> タグ，および <POP3_USERNAME> タグを使用し，POP3 認証に関する設定をします。省略する場合は，<POP3_AUTH> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。
<POP3_HOSTNAME>・・・</POP3_HOSTNAME> ((255 バイト以内の文字列))	_※	POP3 サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。POP3 認証実行時だけ有効です。
<POP3_PORT>・・・</POP3_PORT> ((1 ～ 65535))《110》	_※	POP3 サーバのポート番号を指定します。POP3 認証実行時だけ有効です。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<POP3_USERNAME>・・・</POP3_USERNAME> ((40 バイト以内の文字列))	―※	POP3 認証に使用するユーザー名を指定します。 POP3 認証実行時だけ有効です。

（凡例）
○：必須項目
―：オプション項目

注※
<POP3_AUTH> タグがある場合は必須項目

(4) POP3

POP3 サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <POP3>
     <HOSTNAME>ホスト名またはIPアドレス</HOSTNAME>
     <PORT>ポート番号</PORT>
     <USERNAME>ユーザー名</USERNAME>
     <NON_DELETE_MAIL></NON_DELETE_MAIL>
   </POP3>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（POP3）

表 7-14 <SERV_PARAM> の定義内容（POP3）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<POP3>・・・</POP3>	○	POP3 サービス固有のパラメーターを含むタグです。
<HOSTNAME>・・・</HOSTNAME> ((255 バイト以内の文字列))	○	POP3 サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
<PORT>・・・</PORT> ((1 ～ 65535))《110》	―	POP3 サーバのポート番号を指定します。
<USERNAME>・・・</USERNAME> ((40 バイト以内の文字列))	○	POP3 サービスで用いるユーザー名を指定します。
<NON_DELETE_MAIL></NON_DELETE_MAIL>	―	読み込んだメールを削除しない場合に指定するタグです。読み込んだメールを削除する場合は，タグの記述自体を省略します。

（凡例）
○：必須項目
―：オプション項目

(5) IMAP4

IMAP4 サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <IMAP4>
     <HOSTNAME>ホスト名またはIPアドレス</HOSTNAME>
     <PORT>ポート番号</PORT>
     <USERNAME>ユーザー名</USERNAME>
     <DELETE_MAIL></DELETE_MAIL>
   </IMAP4>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（IMAP4）

表 7-15 <SERV_PARAM> の定義内容（IMAP4）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<IMAP4>・・・</IMAP4>	○	IMAP4 サービス固有のパラメーターを含むタグです。
<HOSTNAME>・・・</HOSTNAME> ((255 バイト以内の文字列))	○	IMAP4 サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
<PORT>・・・</PORT> ((1 ～ 65535))《143》	－	IMAP4 サーバのポート番号を指定します。
<USERNAME>・・・</USERNAME> ((64 バイト以内の文字列))	○	IMAP4 サービスで用いるユーザー名を指定します。
<DELETE_MAIL></DELETE_MAIL>	－	読み込んだメールを削除する場合に指定するタグです。読み込んだメールを削除しない場合は，タグの記述自体を省略します。

（凡例）
○：必須項目
－：オプション項目

(6) DNS

DNS サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <DNS>
     <IPADDRESS>IPアドレス</IPADDRESS>
     <PORT>ポート番号</PORT>
     <QUERY>検索対象ホスト名</QUERY>
     <RETRY>リトライ回数</RETRY>
```

```
    </DNS>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（DNS）

表 7-16 <SERV_PARAM> の定義内容（DNS）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<DNS>・・・</DNS>	○	DNS サービス固有のパラメーターを含むタグです。
<IPADDRESS>・・・</IPADDRESS>	○	DNS サーバの IP アドレスを指定します。IP アドレスだけを受け付け，DNS 名は受け付けません。
<PORT>・・・</PORT> ((1 ～ 65535))《53》	－	DNS サーバのポート番号を指定します。
<QUERY>・・・</QUERY> ((255 バイト以内の文字列))	○	検索対象のホスト名を指定します。
<RETRY>・・・</RETRY> ((1 ～ 5))《1》	－	リトライ回数を指定します。ここで指定したリトライ回数と，<GEN_PARAM> タグの <TIME_OUT> タグで指定したタイムアウト時間から，リトライタイムアウト時間が計算され，自動的に設定されます。計算式を次に示します。 リトライタイムアウト時間＝ タイムアウト時間÷（リトライ回数 +1）

（凡例）
○：必須項目
－：オプション項目

(7) DHCP

DHCP サーバ固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <DHCP>
     <HOSTNAME>ホスト名またはIPアドレス</HOSTNAME>
     <PORT>ポート番号</PORT>
     <PROBE_PORT>プローブのポート番号</PROBE_PORT>
     <NON_ACCEPT_OFFER></NON_ACCEPT_OFFER>
   </DHCP>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（DHCP）

表 7-17 <SERV_PARAM> の定義内容（DHCP）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<DHCP>・・・</DHCP>	○	DHCP サーバ固有のパラメーターを含むタグです。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<HOSTNAME>・・・</HOSTNAME> ((255 バイト以内の文字列))	○	DHCP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
<PORT>・・・</PORT> ((1 ～ 65535))《67》	―	DHCP サーバのポート番号を指定します。
<PROBE_PORT>・・・</PROBE_PORT> ((1 ～ 65535))《68》	―	計測条件の計測で使用する DHCP クライアントとなるプローブのポート番号を指定します。
<NON_ACCEPT_OFFER> </NON_ACCEPT_OFFER>	―	DHCP サーバから割り当てられた IP アドレスを受理しない場合に指定するタグです。DHCP サーバから割り当てられた IP アドレスを受理する場合は，タグの記述自体を省略します。

（凡例）
○：必須項目
―：オプション項目

(8) FTP

FTP サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <FTP>
      <HOSTNAME>ホスト名またはIPアドレス</HOSTNAME>
      <PORT>ポート番号</PORT>
      <USERNAME>ユーザー名</USERNAME>
      <TRANS_DIRECTION>転送方向</TRANS_DIRECTION>
      <FILE_NAME>転送ファイル名</FILE_NAME>
      <PASSIVE></PASSIVE>
   </FTP>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（FTP）

表 7-18 <SERV_PARAM> の定義内容（FTP）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<FTP>・・・</FTP>	○	FTP サービス固有のパラメーターを含むタグです。
<HOSTNAME>・・・</HOSTNAME> ((255 バイト以内の文字列))	○	FTP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
<PORT>・・・</PORT> ((1 ～ 65535))《21》	―	FTP サーバのポート番号を指定します。
<USERNAME>・・・</USERNAME> ((64 バイト以内の文字列))	○	FTP サービスで使用するユーザー名を指定します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TRANS_DIRECTION>・・・</TRANS_DIRECTION> ((UPLOAD または DOWNLOAD))	○	ファイルを転送する方向を指定します※1。サーバへファイルを転送する場合は「UPLOAD」を，サーバからファイルを転送する場合は「DOWNLOAD」を指定します。
<FILE_NAME>・・・</FILE_NAME> ((32 バイト以内の文字列))	○	転送するファイル名を指定します。
<PASSIVE></PASSIVE>	－	接続モードを指定します※2。PASSIVE モードによって，データ用コネクションを確立する場合に指定するタグです。省略する場合は，タグの記述自体を省略します。省略した場合は，ACTIVE モードでデータ転送用コネクションを確立します。

（凡例）

○：必須項目

－：オプション項目

注※ 1

計測用の転送ファイルはあらかじめ次のフォルダに格納しておきます。

UPLOAD の場合：インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥probedata¥ftp

DOWNLOAD の場合：指定したアカウントのホームディレクトリ下

注※ 2

接続モードに対応したコネクション確立方法を次に示します。

ACTIVE モードの場合：

FTP サーバから，ファイル転送用のコネクション要求を行います。

PASSIVE モードの場合：

FTP プローブから，ファイル転送用のコネクション要求を行います。

(9) TCP

TCP サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <TCP>
     <HOSTNAME>ホスト名またはIPアドレス</HOSTNAME>
     <PORT>ポート番号</PORT>
   </TCP>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（TCP）

表 7-19 <SERV_PARAM> の定義内容（TCP）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TCP>・・・</TCP>	○	TCP サービス固有のパラメーターを含むタグです。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<HOSTNAME>・・・</HOSTNAME> ((255 バイト以内の文字列))	○	TCP サーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
<PORT>・・・</PORT> ((1 ～ 65535))	○	TCP サーバのポート番号を指定します。

（凡例）
○：必須項目

（10）WEBTRANS

WEBTRANS サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

（a） 書式

```
<SERV_PARAM>
   <WEBTRANS>
     <TRANSACTION_FILE>Webトランザクションファイル名</TRANSACTION_FILE>
      <TRANSACTION_NAME>Webトランザクション名</TRANSACTION_NAME>
   </WEBTRANS>
</SERV_PARAM>
```

（b） <SERV_PARAM> 定義内容（WEBTRANS）

表 7-20 <SERV_PARAM> の定義内容（WEBTRANS）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<WEBTRANS>・・・</WEBTRANS>	○	WEBTRANS サービス固有のパラメーターを含むタグです。
<TRANSACTION_FILE>・・・</TRANSACTION_FILE> ((255 バイト以内の文字列))	○	Web トランザクションファイル名を指定します。**インストール先フォルダ**¥agtv¥probe¥webtrans に格納されている，拡張子が .xml のファイルを指定します。パスは含めません。大文字・小文字は区別されません。
<TRANSACTION_NAME>・・・</TRANSACTION_NAME> ((255 バイト以内の文字列))	○	Web トランザクション名を指定します。なお，「| （ストローク）」は使用できません。

（凡例）
○：必須項目

（11）IESCENA

IE シナリオ固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <IESCENA>
     <IESCENA_FILE>IEシナリオファイル名</IESCENA_FILE>
   </IESCENA>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（IESCENA）

表 7-21 <SERV_PARAM> の定義内容（IESCENA）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<IESCENA>・・・</IESCENA>	○	IE シナリオ固有のパラメーターを含むタグです。
<IESCENA_FILE>・・・</IESCENA_FILE> ((255 バイト以内の文字列))	○	IE シナリオファイル名を指定します。**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥iescena 配下に格納されている，拡張子が .xml のファイルを指定します。パスは含めません。大文字・小文字は区別されません。

（凡例）
○：必須項目

(12) USERSERV

ユーザー定義サービス固有の設定項目を表すタグについて説明します。

(a) 書式

```
<SERV_PARAM>
   <USERSERV>
     <USER_SERVICE_ID>ユーザー定義サービスID</USER_SERVICE_ID>
   </USERSERV>
</SERV_PARAM>
```

(b) <SERV_PARAM> 定義内容（USERSERV）

表 7-22 <SERV_PARAM> の定義内容（USERSERV）

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<USERSERV>・・・</USERSERV>	○	ユーザー定義サービス固有のパラメーターを含むタグです。
<USER_SERVICE_ID>・・・</USER_SERVICE_ID> ((1 ～ 100))	○	コマンド登録ファイルに登録した，ユーザー定義サービス ID を指定します。

（凡例）
○：必須項目

7.3.4 記述例

IE シナリオを計測する場合の計測条件登録ファイルの記述例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" standalone="no"?>
<!DOCTYPE TASKLIST SYSTEM "esptask.dtd">
<TASKLIST>
   <TASK>
     <GEN_PARAM>
       <TASKID>103</TASKID>
       <TASKLABEL>Internet Explorerサイトの監視</TASKLABEL>
       <INTERVAL>120</INTERVAL>
       <TIMEOUT>30</TIMEOUT>
     </GEN_PARAM>
     <SERV_PARAM>
       <IESCENA>
         <IESCENA_FILE>IESCENA1.xml</IESCENA_FILE>
       </IESCENA>
     </SERV_PARAM>
   </TASK>
</TASKLIST>
```

IE シナリオ以外を計測する場合の計測条件登録ファイルの記述例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" standalone="no"?>
<!DOCTYPE TASKLIST SYSTEM "esptask.dtd">
<TASKLIST>
   <TASK>
     <GEN_PARAM>
       <TASKID>100</TASKID>
       <TASKLABEL>トップページの取得時間</TASKLABEL>
       <INTERVAL>120</INTERVAL>
       <TIMEOUT>30</TIMEOUT>
     </GEN_PARAM>
     <SERV_PARAM>
       <HTTP>
         <URL>www.hitachi.co.jp:80/index.htm</URL>
         <DEPTH>1</DEPTH>
       </HTTP>
     </SERV_PARAM>
   </TASK>
   <TASK>
     <GEN_PARAM>
       <TASKID>101</TASKID>
       <TASKLABEL>pfmuserへのメール送信時間</TASKLABEL>
       <INTERVAL>120</INTERVAL>
       <TIMEOUT>30</TIMEOUT>
     </GEN_PARAM>
     <SERV_PARAM>
       <SMTP>
         <HOSTNAME>smtp.hitachi.co.jp</HOSTNAME>
         <MSG_SIZE>3000</MSG_SIZE>
         <DST_MAIL_ADDR>pfmuser</DST_MAIL_ADDR>
       </SMTP>
     </SERV_PARAM>
   </TASK>
   <TASK>
     <GEN_PARAM>
       <TASKID>102</TASKID>
       <TASKLABEL>pfmuserのメール受信時間</TASKLABEL>
       <INTERVAL>120</INTERVAL>
       <TIMEOUT>30</TIMEOUT>
     </GEN_PARAM>
```

```
      <SERV_PARAM>
        <POP3>
          <HOSTNAME>pop3.hitachi.co.jp</HOSTNAME>
          <USERNAME>pfmuser</USERNAME>
        </POP3>
      </SERV_PARAM>
    </TASK>
    <TASK>
      <GEN_PARAM>
        <TASKID>103</TASKID>
        <TASKLABEL>portalサイトの監視</TASKLABEL>
        <INTERVAL>120</INTERVAL>
        <TIMEOUT>30</TIMEOUT>
      </GEN_PARAM>
      <SERV_PARAM>
        <WEBTRANS>
          <TRANSACTION_FILE>hitachi.xml</TRANSACTION_FILE>
          <TRANSACTION_NAME>portal</TRANSACTION_NAME>
        </WEBTRANS>
      </SERV_PARAM>
    </TASK>
</TASKLIST>
```

7.4 IE シナリオファイル

IE シナリオファイルは，Internet Explorer を使用した一連の操作情報を記録しておく定義ファイルです。一つの IE シナリオファイルには，IE シナリオを一つだけ定義できます。IE シナリオファイルは，IE Recorder を使用して作成し，任意のファイル名（拡張子は .xml）で**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥iescena 配下に格納します。IE シナリオファイルは直接テキストエディターなどで編集しないで，必ず IE Recorder で作成してください。IE シナリオファイルを IE Recorder で作成する方法については，「3.4.1　IE シナリオの定義（IE シナリオファイルの作成）」を参照してください。また，IE シナリオファイルの定義内容を有効にする方法については，「3.7.4　タスク情報の反映」を参照してください。

7.5 Web トランザクションファイル

Web トランザクションファイルは，一連の Web アクセス情報を定義するファイルです。一つの Web トランザクションファイルに複数の Web トランザクションを定義できます。次の書式に従って，直接テキストエディターなどで作成し，任意のファイル名（拡張子は .xml）で**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥webtrans 配下に格納します。

Web トランザクションファイルの定義内容を有効にするには，PFM - Agent for Service Response を再起動する必要があります。

なお，Web トランザクションファイルを Web Recorder で作成することもできます。Web トランザクションファイルを Web Recorder で作成する方法については，「3.5.1 Web トランザクションの定義（Web トランザクションファイルの作成）」を参照してください。

7.5.1 Web トランザクションファイル全体の書式と定義内容

(1) 書式

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" standalone="no"?>
<!DOCTYPE TRANSACTION_LIST SYSTEM "espwebtrans.dtd">
<TRANSACTION_LIST>
  <TRANSACTION>
    <TRANSACTION_PARAM>
      <!-- TRANSACTION_PARAM -->
    </TRANSACTION_PARAM>

    <STEP>
      <!-- STEP -->
    </STEP>
      ・・・
  </TRANSACTION>
  ・・・
</TRANSACTION_LIST>
```

(2) 定義内容

(a) XML 宣言，文書型宣言

1 行目には XML 宣言を，2 行目には文書型宣言を記述します。次に示すとおりに記述してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="エンコード種類" standalone="no"?>
<!DOCTYPE TRANSACTION_LIST SYSTEM "espwebtrans.dtd">
```

エンコード種類には，Shift_JIS，EUC-JP，ISO-2022-JP，UTF-8 または US-ASCII のどれかを指定し，指定したエンコード種類で Web トランザクションファイルを記述してください。

(b) XML 定義内容

表 7-23 XML 定義内容

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TRANSACTION_LIST>・・・</TRANSACTION_LIST>	○	トランザクションの一覧を示すタグです。一つ以上の <TRANSACTION> タグを含みます。</TRANSACTION> タグの直後に，別の <TRANSACTION> タグを開始できます。
<TRANSACTION>・・・</TRANSACTION>	○	一つのトランザクション情報を示すタグです。一つの <TRANSACTION_PARAM> タグと，一つ以上の <STEP> タグを含みます。
<TRANSACTION_PARAM>・・・</TRANSACTION_PARAM>	○	トランザクションの計測条件に依存するパラメーターを含むタグです。<TRANSACTION_NAME> タグ，<TRANSACTION_COMMENT> タグ，<DEFAULT_CHARSET> タグ，<HTML_OUT> タグ，<IGNORE_EMBEDDED_RESOURCE> タグ，<NO_CACHE> タグ，<KEEP_ALIVE> タグ，<DEFAULT_PROXY> タグ，<SSL_AUTH_IGNORE> タグ，<CLIENT_AUTH> タグ，および <USER_AGENT> タグを含みます。省略できるタグもあります。詳細については，「7.5.2(1) <TRANSACTION_PARAM> タグ」を参照してください。
<STEP>・・・</STEP>	○	一つのステップ情報を示すタグです。<STEP_ID> タグ，<TITLE> タグ，<FRAME_NAME> タグ，<CHARSET> タグ，<REQUEST> タグ，<WEB_AUTH> タグ，<PROXY> タグ，<RESPONSE_PATTERN> タグ，<VARIABLE> タグ，<START_SCOPE> タグ，および <END_SCOPE> タグを含みます。詳細については，「7.5.2(2) <STEP> タグ」を参照してください。

（凡例）
○：必須項目

7.5.2 Web トランザクション計測条件定義の書式と定義内容

(1) <TRANSACTION_PARAM> タグ

<TRANSACTION_PARAM> タグでは，Web トランザクションの計測条件に関する設定をします。

(a) 書式

```
<TRANSACTION_PARAM>
  <TRANSACTION_NAME>Webトランザクション名</TRANSACTION_NAME>
  <TRANSACTION_COMMENT>コメント</TRANSACTION_COMMENT>
  <DEFAULT_CHARSET>文字セット</DEFAULT_CHARSET>
  <HTML_OUT></HTML_OUT>
  <IGNORE_EMBEDDED_RESOURCE></IGNORE_EMBEDDED_RESOURCE>
  <NO_CACHE></NO_CACHE>
```

```
  <KEEP_ALIVE></KEEP_ALIVE>
  <DEFAULT_PROXY>
    <PROXY_HOSTNAME>接続先プロキシのホスト名またはIPアドレス</
PROXY_HOSTNAME>
    <PROXY_PORT>接続先プロキシのポート番号</PROXY_PORT>
    <PROXY_USERNAME>プロキシ認証に使用するユーザー名</PROXY_USERNAME>
    <PROXY_PASSWORD>プロキシ認証に使用するパスワード</PROXY_PASSWORD>
  </DEFAULT_PROXY>
  <SSL_AUTH_IGNORE></SSL_AUTH_IGNORE>
  <CLIENT_AUTH>
    <CLIENT_CERT_FILE>クライアント証明書ファイル名</CLIENT_CERT_FILE>
    <CLIENT_CERT_PASSWORD>秘密鍵パスワード</CLIENT_CERT_PASSWORD>
  </CLIENT_AUTH>
  <USER_AGENT>ユーザーエージェント名</USER_AGENT>
</TRANSACTION_PARAM>
```

(b) 定義内容

表 7-24 <TRANSACTION_PARAM> の定義内容

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TRANSACTION_NAME>・・・</TRANSACTION_NAME> ((1 ～ 255 バイトの文字列))	○	Web トランザクション名を指定します。一つの Web トランザクションファイルの中で一意の名称を指定します。 なお，Web トランザクション名には，「|（ストローク）」は使用できません。
<TRANSACTION_COMMENT>・・・</TRANSACTION_COMMENT> ((0 ～ 255 バイトの文字列))	―	トランザクションにコメントを指定します。
<DEFAULT_CHARSET>・・・</DEFAULT_CHARSET> ((Shift_JIS|EUC-JP|ISO-2022-JP|UTF-8)) 《Shift_JIS》	―	トランザクションで取得する HTML ファイルのデフォルト文字セットを指定します。"Shift_JIS"，"EUC-JP"，"ISO-2022-JP"，"UTF-8" のどれかを指定します。トランザクションで <CHARSET> タグを指定していないステップで取得した HTML の文字セットは，<DEFAULT_CHARSET> タグで指定した文字セットとなります。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<HTML_OUT></HTML_OUT>	―	トランザクションで取得した HTML および HTTP ヘッダーをファイルに出力する場合に指定します。出力データは，レスポンス判定や可変文字列の定義を行う場合の参考として利用できます。 <STEP> タグ内で <STEP_ID> タグを指定しているステップで取得したデータだけが出力されます。 <STEP_ID> タグを指定していないステップで取得したデータは出力されません。また，取得したファイルの属性が HTML 以外の場合も出力されません。 データの出力先，ファイル名は次のとおりです。 データの出力先 **インストール先フォルダ**¥agtv¥probe¥probedata¥webtrans ファイル名（HTML の場合） ステップ識別子 .html ファイル名（HTTP ヘッダーの場合） ステップ識別子 .hdr 同一の名前のファイルが存在する場合は，無条件に上書きされます。 なお，出力データには個人情報が含まれることがあるので，<HTML_OUT> タグを指定する場合は，出力データの取り扱いに注意してください。
<IGNORE_EMBEDDED_RESOURCE></IGNORE_EMBEDDED_RESOURCE>	―	取得したページに埋め込まれているリソースを取得しない場合だけ指定するタグです。
<NO_CACHE></NO_CACHE>	―	HTTP(S) のリクエストで，キャッシュを参照しない場合だけ指定します。
<KEEP_ALIVE></KEEP_ALIVE>	―	HTTP(S) のリクエストで，持続的接続を行う場合だけ指定します。
<DEFAULT_PROXY>・・・</DEFAULT_PROXY>	―	プロキシを利用する場合に指定するタグです。 <PROXY_HOSTNAME> タグ，<PROXY_PORT> タグ，<PROXY_USERNAME> タグ，および <PROXY_PASSWORD> タグを含みます。トランザクション全体のデフォルトのプロキシ設定を行う場合に指定します。省略する場合は，<DEFAULT_PROXY> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。
<PROXY_HOSTNAME>・・・</PROXY_HOSTNAME>((1 ～ 255 バイトの文字列))	_※1	デフォルトのプロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
<PROXY_PORT>・・・</PROXY_PORT>((1 ～ 65535))	_※1	デフォルトのプロキシサーバのポート番号を指定します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<PROXY_USERNAME>・・・</PROXY_USERNAME>((1 ～ 64 バイトの文字列))	―※ 2	デフォルトのプロキシサーバでプロキシ認証をする場合のユーザー名を指定します。 省略した場合は，プロキシ認証をしないことを示します。
<PROXY_PASSWORD>・・・</PROXY_PASSWORD>((0 ～ 64 バイトの文字列))	―※ 3	デフォルトのプロキシサーバでプロキシ認証をする場合のパスワードを指定します。 0 バイトの文字列を指定した場合は，空白文字列をパスワードとして使用することを意味します。タグ自体を省略した場合は，パスワードユーティリティで設定したパスワードを使用することを意味します。
<SSL_AUTH_IGNORE></SSL_AUTH_IGNORE>	―	HTTPS のリクエスト発行時に SSL のサーバ認証で失敗しても，そのまま計測を続行する場合に指定します。SSL のサーバ認証で失敗した場合に計測を終了させる場合は，このタグを省略します。省略する場合は，タグの記述自体を省略します。
<CLIENT_AUTH>・・・</CLIENT_AUTH>	―	HTTPS のリクエスト発行時にクライアント認証をする場合に指定します。<CLIENT_CERT_FILE> タグ，および <CLIENT_CERT_PASSWORD> タグを使用し，クライアント認証に関する設定をします。省略する場合は，<CLIENT_AUTH> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。
<CLIENT_CERT_FILE>・・・</CLIENT_CERT_FILE>((1 ～ 255 バイトの文字列))	―※ 4	クライアント証明書と秘密鍵を格納したファイルを指定します。**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥cert 配下に格納したファイルのファイル名を指定します。パスは含めません。ファイルは，Base64 エンコードの X.506 形式に変換しておく必要があります。
<CLIENT_CERT_PASSWORD>・・・</CLIENT_CERT_PASSWORD>((0 ～ 1,023 バイトの文字列))	―※ 5	クライアント認証をする場合の，クライアント証明書の秘密鍵のパスワードを指定します。この項目を指定する場合は，パスワードユーティリティでパスワードを登録しておくことを推奨します。 なお，0 バイトの文字列を指定した場合は，空白文字列をパスワードとして使用することを意味します。タグ自体を省略した場合は，パスワードユーティリティで設定したパスワードを使用することを意味します。
<USER_AGENT>・・・</USER_AGENT>((1 ～ 255 バイトの文字列))《PFM - Agent for Service Response (Windows)》	―	ユーザーエージェント名を指定します。アクセスできるユーザーエージェント名が限定されているような場合に指定します。

（凡例）

○：必須項目

―：オプション項目

注※ 1

プロキシを利用する場合は必須項目

注※ 2

プロキシでプロキシ認証をする場合は必須項目

注※ 3

プロキシ認証をする場合で，かつパスワードユーティリティでパスワードを登録していない場合は必須項目

注※ 4

クライアント認証をする場合は必須項目

注※ 5

クライアント認証をする場合で，かつパスワードユーティリティでパスワードを登録していない場合は必須項目

(2) <STEP> タグ

<STEP> タグでは，Web トランザクションのステップ情報を設定します。

(a) 書式

```
<STEP>
  <STEP_ID>ステップ識別子</STEP_ID>
  <TITLE>ページのタイトル</TITLE>
  <FRAME_NAME>フレーム名</FRAME_NAME>
  <CHARSET>文字セット</CHARSET>
  <REQUEST>
    <REQUEST_CHARSET>文字セット</REQUEST_CHARSET>
    <URL>アクセス先URL</URL>
    <POST>
      <CONTENT_TYPE>

      メッセージボディをapplication/x-www-form-urlencodedとして通知する場合
        <FORM_URLENCODED></FORM_URLENCODED>

      メッセージボディをtext/plainとして通知する場合
        <TEXT_PLAIN></TEXT_PLAIN>

      メッセージボディをmultipart/form-dataとして通知する場合
        <MULTIPART_FORM_DATA>
          <BOUNDARY>メッセージボディのセパレータ</BOUNDARY>
        </MULTIPART_FORM_DATA>

      メッセージボディを上記以外として通知する場合
        <OTHER>Content-Type</OTHER>

      </CONTENT_TYPE>
      <MESSAGE_BODY>メッセージボディ</MESSAGE_BODY>
    </POST>
    <COOKIE>Cookieヘッダー</COOKIE>
  </REQUEST>
  <WEB_AUTH>
    <WEB_USERNAME>Web認証で用いるユーザー名</WEB_USERNAME>
    <WEB_PASSWORD>Web認証で用いるパスワード</WEB_PASSWORD>
  </WEB_AUTH>
  <PROXY>

  プロキシを使用しない場合
    <PROXY_NOUSE></PROXY_NOUSE>

  デフォルトプロキシ以外のプロキシを使用する場合
```

```
    <PROXY_HOSTNAME>接続先プロキシのホスト名またはIPアドレス</
PROXY_HOSTNAME>
    <PROXY_PORT>接続先プロキシのポート番号</PROXY_PORT>
    <PROXY_USERNAME>プロキシ認証に用いられるユーザー名</PROXY_USERNAME>
    <PROXY_PASSWORD>プロキシ認証に用いられるパスワード</PROXY_PASSWORD>

  </PROXY>
  <RESPONSE_PATTERN>レスポンス判定に用いる条件</RESPONSE_PATTERN>
  <VARIABLE>
    <!--VARIABLE -->
  </VARIABLE>
  <START_SCOPE>起点のスコープ名</START_SCOPE>
  ・・・
  <END_SCOPE>終点のスコープ名</END_SCOPE>
  ・・・
</STEP>
```

(b) 定義内容

表 7-25 <STEP> の定義内容

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<STEP_ID>・・・</STEP_ID> ((1 ～ 255 バイトの英数字およびハイフン・アンダースコア・半角スペース))	―	ステップを一意に識別するためのステップ識別子を定義します。ステップで取得する HTML 内に，以降のステップの URL やメッセージボディの可変文字列に対する代替文字列が含まれている場合，または HTML をファイルに出力する場合に本ステップで取得する HTML を出力対象にしたい場合は，指定する必要があります。なお，HTML をファイルに出力する場合，出力するファイル名に使用するため，定義されているすべてのトランザクションで一意となるように指定してください。
<TITLE>・・・</TITLE> ((0 ～ 1,023 バイトの文字列))	―	そのステップで取得したページのタイトルを定義します。
<FRAME_NAME>・・・</FRAME_NAME> ((0 ～ 1,023 バイトの文字列))	―	そのステップで取得したページのフレーム名を定義します。
<CHARSET>・・・</CHARSET> ((Shift_JIS|EUC-JP|ISO-2022-JP|UTF-8))	―	そのステップで取得する HTML ファイルの文字セットを指定します。"Shift_JIS"，"EUC-JP"，"ISO-2022-JP"，"UTF-8" のどれかを指定します。省略した場合，トランザクションのデフォルトの文字セットが適用されます。文字セットが正しく指定されていない場合，代替文字列の検索やレスポンス判定に失敗する場合があります。
<REQUEST>・・・</REQUEST>	○	そのステップのリクエストに関する設定をします。<REQUEST_CHARSET> タグ，<URL> タグ，<POST> タグ，および <COOKIE> タグを使用して設定します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<REQUEST_CHARSET>・・・</REQUEST_CHARSET> ((Shift_JIS|EUC-JP|ISO-2022-JP|UTF-8)) <<Shift_JIS>>	―	そのステップで送信するリクエスト情報（URL，メッセージボディ，Cookie）の文字セットを指定します。"Shift_JIS"，"EUC-JP"，"ISO-2022-JP"，"UTF-8" のどれかを指定します。 リクエスト情報は，XML 宣言文で指定する Web トランザクションファイルのエンコード種類とは関係なく，このタグで指定した文字セットにエンコードされて送信されます。リクエスト情報がすべて ASCII コードで定義されていれば，指定は不要です。タグ自体を省略した場合は，リクエスト情報が Shift_JIS にエンコードされて送信されます。 ただし，ISO-2022-JP を指定した場合，この <STEP> タグ内の <URL> タグにマルチバイト文字を含めないでください。また，可変文字列は定義できません。
<URL>・・・</URL> ((1 ～ 2,083 バイトの文字列))	○	そのステップで取得する URL を指定します。プロトコル識別子（http://，https://）も含めて指定します。
<POST>・・・</POST>	―	POST メソッドを使用する場合に指定するタグです。 <CONTENT_TYPE> タグ，および <MESSAGE_BODY> タグを使用し，POST メソッドを使用する場合の設定をします。省略した場合は，GET メソッドを使用します。
<CONTENT_TYPE>・・・</CONTENT_TYPE>	―※ 1	POST メソッドを使用する場合の Content-Type を指定します。要素には，<FORM_URLENCODED> タグ，<TEXT_PLAIN> タグ，<MULTIPART_FORM_DATA> タグ，および <OTHER> タグのうちのどれかを指定します。
<FORM_URLENCODED></FORM_URLENCODED>	―※ 2	POST メソッドを使用する際，メッセージボディを「application/x-www-form-urlencoded」として通知する場合に指定します。
<TEXT_PLAIN></TEXT_PLAIN>	―※ 2	POST メソッドを使用する際，メッセージボディを「text/plain」として通知する場合に指定します。
<MULTIPART_FORM_DATA>・・・</MULTIPART_FORM_DATA>	―※ 2	POST メソッドを使用する際，メッセージボディを「multipart/form-data」として通知する場合に指定します。指定した場合は，<BOUNDARY> タグを使用してメッセージボディのセパレータを指定する必要があります。
<BOUNDARY>・・・</BOUNDARY> ((1 ～ 255 バイトの文字列))	―※ 3	「multipart/form-data」として通知するメッセージボディのセパレータを指定します。
<OTHER>・・・</OTHER> ((1 ～ 255 バイトの文字列))	―※ 2	POST メソッドで通知するメッセージボディの Content-Type が「application/x-www-form-urlencoded」，「text/plain」，「multipart/form-data」以外の場合に，任意の Content-Type を指定します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<MESSAGE_BODY>・・・</MESSAGE_BODY>((0 ～ 512,000 バイトの文字列))	―※1	POST メソッドで通知するメッセージボディを指定します。
<COOKIE>・・・</COOKIE>((0 ～ 1,023 バイトの文字列))	―	そのステップのリクエストに特定の Cookie を設定したい場合に指定します。通常は，指定する必要はありません。 「変数名 = 値」の形式で指定します。なお，複数の Cookie を定義する場合は，<COOKIE> タグを複数指定します。最大 8 個定義できます。
<WEB_AUTH>・・・</WEB_AUTH>	―	そのステップの取得で Web 認証をする場合に指定します。<WEB_USERNAME> タグ，および <WEB_PASSWORD> タグを使用し，Web 認証に関する設定をします。省略する場合は，<WEB_AUTH> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。
<WEB_USERNAME>・・・</WEB_USERNAME>((1 ～ 64 バイトの文字列))	―※4	Web 認証をする場合のユーザー名を指定します。
<WEB_PASSWORD>・・・</WEB_PASSWORD>((0 ～ 64 バイトの文字列))	―※5	Web 認証をする場合のパスワードを指定します。 0 バイトの文字列を指定した場合は，空白文字列をパスワードとして使用することを意味します。タグ自体を省略した場合は，パスワードユーティリティで設定したパスワードを使用することを意味します。
<PROXY>・・・</PROXY>	―	そのステップで使用するプロキシ設定をする場合に指定します。<PROXY_NOUSE> タグで構成される場合と，<PROXY_HOSTNAME> タグ，<PROXY_PORT> タグ，<PROXY_USERNAME> タグ，および <PROXY_PASSWORD> タグで構成される場合の二とおりがあります。省略した場合は，トランザクションのデフォルトのプロキシ定義を使用します。省略する場合は，<PROXY> タグとそれに含まれるタグの記述を省略します。
<PROXY_NOUSE></PROXY_NOUSE>	―	そのステップの計測で，プロキシを利用しない場合だけ指定します。
<PROXY_HOSTNAME>・・・</PROXY_HOSTNAME>((1 ～ 255 バイトの文字列))	―※6, ※7	そのステップの計測で，デフォルトのプロキシ以外のプロキシを使用する場合は，プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを指定します。
<PROXY_PORT>・・・</PROXY_PORT>((1 ～ 65535))	―※6, ※7	そのステップの計測で使用するプロキシサーバのポート番号を指定します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<PROXY_USERNAME>・・・</PROXY_USERNAME>((1 ～ 64 バイトの文字列))	―※8	そのステップの計測で使用するプロキシサーバでプロキシ認証をする場合のユーザー名を指定します。 省略した場合は，プロキシ認証をしないことを示します。
<PROXY_PASSWORD>・・・</PROXY_PASSWORD>((0 ～ 64 バイトの文字列))	―※9	そのステップの計測で使用するプロキシサーバでプロキシ認証をする場合のパスワードを指定します。パスワードユーティリティで事前にパスワードを登録している場合，指定する必要はありません。 0 バイトの文字列を指定した場合は，空白文字列をパスワードとして使用することを意味します。タグ自体を省略した場合は，パスワードユーティリティで設定したパスワードを使用することを意味します。

<RESPONSE_PATTERN>・・・</RESPONSE_PATTERN>((0 ～ 1,023 バイトの文字列))	―	そのステップのレスポンス判定に使用する条件を，次の規則に従って指定します。
		• 演算子には「*（AND)」「+（OR)」を使用できる。
		• 含んでもよい文字列は「{」と「}」で囲む。
		• 含んではいけない文字列は「!{」と「}」で囲む。
		• 「（ ）（丸括弧)」で囲み，優先順位を明示できる。
		• 「*（AND)」と「+（OR)」では，「*（AND)」が優先される。
		• 優先順位を明示する「（ ）（丸括弧)」内には，演算子を一つ以上含める必要がある。
		• 優先順位を明示する「(」は続けて指定できない。
		• 優先順位を明示する「（ ）（丸括弧)」内の条件を満たさない条件を定義する場合は，次のように定義する。
		例 1：({aaa}*{bbb}) を満たさない条件の場合
		`(!{aaa}+!{bbb})`
		例 2：({aaa}+{bbb}) を満たさない条件の場合
		`(!{aaa}*!{bbb})`
		記述例：
		「Success」を含みかつ「Error」を含まない場合
		`{Success}*!{Error}`

<VARIABLE>・・・</VARIABLE>	―	そのステップに可変文字列を設定する場合，可変文字列に関する設定をします。次に示すタグを使用して指定します。 • <VARIABLE_TARGET> タグ • <SUBSTITUTE_TARGET> タグまたは <SUBSTITUTE_COMMAND> タグ • <SUBSTITUTE_FORCE_URLENCODE> タグ 複数の可変文字列を定義する場合，複数の <VARIABLE> タグで指定します。省略する場合は，<VARIABLE> タグおよび配下のタグの記述を省略します。省略した場合は，このステップに可変文字列は設定されません。 <VARIABLE> タグの詳細については，「(3) <STEP> タグ内の <VARIABLE> タグ」を参照してください。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<START_SCOPE>・・・</START_SCOPE>	―	起点となるスコープ名を指定します。スコープ名には，「SCOPE1」，「SCOPE2」，「SCOPE3」，「SCOPE4」，「SCOPE5」，「SCOPE6」，「SCOPE7」，「SCOPE8」のうちのどれかを指定します。起点となるスコープを複数指定する場合は，<START_SCOPE> タグを複数記述します。
<END_SCOPE>・・・</END_SCOPE>	―	終点となるスコープ名を指定します。スコープ名には，「SCOPE1」，「SCOPE2」，「SCOPE3」，「SCOPE4」，「SCOPE5」，「SCOPE6」，「SCOPE7」，および「SCOPE8」のうちのどれかを指定します。終点となるスコープを複数指定する場合は，<END_SCOPE> タグを複数記述します。

（凡例）

○：必須項目

―：オプション項目

注※ 1

POST メソッドを使用する場合は必須項目

注※ 2

POST メソッドを使用する場合は，<FORM_URLENCODED> タグ，<TEXT_PLAIN> タグ，<MULTIPART_FORM_DATA> タグ，および <OTHER> タグのうちのどれか指定します。

注※ 3

<MULTIPART_FORM_DATA> タグを指定した場合は必須項目

注※ 4

Web 認証をする場合は必須項目

注※ 5

Web 認証をする場合で，かつパスワードユーティリティでパスワードを登録していない場合は必須項目

注※ 6

<PROXY_NOUSE> タグを指定した場合は指定できません。

注※ 7

デフォルトのプロキシは使用しないで，特定のプロキシを使用する場合は必須項目

注※ 8

デフォルトのプロキシを使用しないで，プロキシ認証をする場合は必須項目

注※ 9

デフォルトのプロキシを使用しないでプロキシ認証をする場合で，かつパスワードユーティリティでパスワードを登録していない場合は必須項目

（3） <STEP> タグ内の <VARIABLE> タグ

<VARIABLE> タグは，Web トランザクションのステップ情報で可変文字列および代替文字列を設定します。代替文字列は，<VARIABLE> タグ内の

<SUBSTITUTE_TARGET> タグで指定します。

(a) 書式

<VARIABLE> タグの書式

```
<VARIABLE>
  <VARIABLE_TARGET>
    <VARIABLE_TYPE>可変文字列が含まれる個所</VARIABLE_TYPE>
    <VARIABLE_PART>可変文字列となる部分</VARIABLE_PART>
  </VARIABLE_TARGET>

受信したデータに代替文字列が含まれる場合
  <SUBSTITUTE_TARGET>
    <!-- SUBSTITUTE_TARGET -->
  </SUBSTITUTE_TARGET>

コマンドを実行して代替文字列を取得する場合
  <SUBSTITUTE_COMMAND>
    <TARGET_COMMAND_LINE>実行するコマンドライン</TARGET_COMMAND_LINE>
    <TARGET_COMMAND_ARG>
      <SUBSTITUTE_TARGET>
        <!-- SUBSTITUTE_TARGET -->
      </SUBSTITUTE_TARGET>
    </TARGET_COMMAND_ARG>
    …
  </SUBSTITUTE_COMMAND>

  <SUBSTITUTE_FORCE_URLENCODE></SUBSTITUTE_FORCE_URLENCODE>

</VARIABLE>
```

<SUBSTITUTE_TARGET> タグの書式

```
<SUBSTITUTE_TARGET>
  <TARGET_STEP_ID>ステップの指定</TARGET_STEP_ID>

取得したHTMLに代替文字列が含まれている場合
  <TARGET_ELEMENT>
    <TARGET_ELEMENT_NAME>
      代替文字列を含む要素の要素名
    </TARGET_ELEMENT_NAME>
    <TARGET_ELEMENT_ATTRIBUTE>
      代替文字列を含む要素の属性
    </TARGET_ELEMENT_ATTRIBUTE>
    …
    <TARGET_ELEMENT_CONTENT>
   代替文字列を含む要素の内容に含まれる文字列
    </TARGET_ELEMENT_CONTENT>
    …
    <TARGET_ELEMENT_POSITION>
   上記の条件に合致する要素が複数ある場合，先頭から数えて何番目の要素か
    </TARGET_ELEMENT_POSITION>
  </TARGET_ELEMENT>

  <SUBSTITUTE_TYPE>

  代替文字列が要素の内容に含まれている場合
    <TYPE_CONTENT></TYPE_CONTENT>

  代替文字列が要素の属性値に含まれている場合
    <TYPE_ATTRIBUTE>代替文字列が含まれる属性の属性名</TYPE_ATTRIBUTE>
```

```
  </SUBSTITUTE_TYPE>
```

代替文字列が取得したHTTPヘッダーに含まれている場合

```
  <TARGET_HEADER>
    <TARGET_HEADER_NAME>
   代替文字列を含むヘッダーの名称
    </TARGET_HEADER_NAME>
    <TARGET_HEADER_VALUE>
   代替文字列を含むヘッダーの値
    </TARGET_HEADER_VALUE>
  </TARGET_HEADER>
  <SUBSTITUTE_RANGE>
    <BEFORE_RANGE>代替文字列の直前の文字列</BEFORE_RANGE>
    <AFTER_RANGE>代替文字列の直後の文字列</AFTER_RANGE>
  </SUBSTITUTE_RANGE>
</SUBSTITUTE_TARGET>
```

(b) 定義内容

表 7-26 <VARIABLE> の定義内容

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<VARIABLE_TARGET>・・・</VARIABLE_TARGET>	○	可変文字列を指定するタグです。<VARIABLE_TYPE> タグ，<VARIABLE_PART> タグを含みます。 このタグで指定する可変文字列は，そのステップで定義されているほかの <VARIABLE> タグに含まれる <VARIABLE_TARGET> タグで指定する可変文字列と一部でも重複できません。
<VARIABLE_TYPE>・・・</VARIABLE_TYPE> ((URL | MESSAGE_BODY | COOKIE))	○	可変文字列が含まれる個所を "URL"，"MESSAGE_BODY" または "COOKIE" のどれかで指定します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<VARIABLE_PART>・・・</VARIABLE_PART> ((1 ～ 4095 バイトの文字列))	○	可変文字列となる部分を指定します。<VARIABLE_TYPE> タグで指定した個所内の，記録時の可変文字列を指定します。指定した文字列が複数存在する場合，先頭から検索して初めに一致した文字列だけを記録時の可変文字列として指定したことになります。 例えば，動的セッション管理を行っており，記録時のセッション ID（可変文字列）が「0123456789」で，記録した URL が，「http://www.jp1.hitachi.co.jp/sample.cgi?id=0000&sessionid=0123456789」となるとき，<VARIABLE_PART> タグには「0123456789」を指定します。 次の場合は，記録されている URL やメッセージボディの可変文字列部分を「$VAR1$」，「$VAR2$」などに変更し，可変文字列として定義することをお勧めします。 • 複数の文字列を同様に置き換えたい場合 • 可変文字列がマルチバイト文字の場合 • 同じ <STEP> タグ内で，<REQUEST_CHARSET> タグに Shift_JIS 以外を定義する場合 この場合，<VARIABLE_PART> タグにマルチバイト文字を指定すると，可変文字列が正しく認識されないことがあります。
<SUBSTITUTE_TARGET>・・・</SUBSTITUTE_TARGET>	_※ 1	代替文字列を指定するタグです。<TARGET_STEP_ID> タグ，<TARGET_ELEMENT> タグ，<SUBSTITUTE_TYPE> タグ，<TARGET_HEADER> タグおよび <SUBSTITUTE_RANGE> タグを含みます。詳細については，「表 7-27」を参照してください。
<SUBSTITUTE_COMMAND>・・・</SUBSTITUTE_COMMAND>	_※ 1	コマンドを実行して代替文字列を取得する場合に指定するタグです。<TARGET_COMMAND_LINE> タグ，<TARGET_COMMAND_ARG> タグを含みます。
<TARGET_COMMAND_LINE>・・・</TARGET_COMMAND_LINE> ((1 バイト以上の文字列))	_※ 2	代替文字列を取得するために実行するコマンドラインを指定するタグです。実行するコマンド，および動的に変化しない引数を指定できます。 コマンドの実行に成功した場合の戻り値（終了コード）は 0 である必要があります。戻り値（終了コード）が 0 以外の場合は，コマンドが異常終了したと判断されます。コマンドが異常終了した場合，またはコマンドの実行に失敗した場合は，<VARIABLE_PART> タグで指定した可変文字列は空文字に置き換えられます。 実行するコマンドのパスは，「"」で囲むことをお勧めします。実行するコマンドのパスを「"」で囲まないで，かつ，実行するコマンドに空白が含まれていると，コマンドが正しく実行されないことがあります。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TARGET_COMMAND_ARG>・・・</TARGET_COMMAND_ARG>	―	<TARGET_COMMAND_LINE> タグで指定したコマンドラインに，引数を追加する場合に指定するタグです。 <SUBSTITUTE_TARGET> タグを含みます。 追加する引数は，<SUBSTITUTE_TARGET> タグを使用し，受信したデータから切り出したものを使用します。切り出した文字列は，ダブルクォーテーション（"）で囲まれ，引数としてコマンドラインに追加されます。 引数を複数追加する場合は，<TARGET_COMMAND_ARG> タグを複数指定してください。
<SUBSTITUTE_FORCE_URLENCODE></SUBSTITUTE_FORCE_URLENCODE>	―	代替文字列を可変文字列と置き換える場合で，URL で区切り文字として扱われる文字を含めたすべての文字に対して，URL エンコードするときに指定します。このタグを指定した場合，次のように URL エンコードされます。 英数字，「*」，「-」，「.」，「@」，「_」 　変換されません。 半角スペース 　「+」に変換されます。 上記以外の文字列 　1 バイトごとに「%xy」の 3 文字の文字列に変換されます（x，y はそれぞれ 4 ビットを 16 進数で表現した値）。

（凡例）

○：<VARIABLE> タグを指定した場合の必須項目

－：<VARIABLE> タグを指定した場合のオプション項目

注※ 1

<SUBSTITUTE_TARGET> タグまたは <SUBSTITUTE_COMMAND> タグのどちらか一つを指定します。

注※ 2

<SUBSTITUTE_COMMAND> タグを指定した場合，必ず指定します。

表 7-27　<SUBSTITUTE_TARGET> の定義内容

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TARGET_STEP_ID>・・・</TARGET_STEP_ID>((1 ～ 255 バイトの英数字およびハイフン・アンダースコア・半角スペース))	○	代替文字列が含まれる HTML ファイルを取得するステップのステップ識別子を指定します。本ステップより前のステップで定義されているステップ識別子を指定する必要があります。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TARGET_ELEMENT>・・・</TARGET_ELEMENT>	―※1	<TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップが取得する HTML ファイル内の，代替文字列が含まれる要素を特定します。<TARGET_ELEMENT_NAME> タグ，<TARGET_ELEMENT_ATTRIBUTE> タグ，<TARGET_ELEMENT_CONTENT> タグ，<TARGET_ELEMENT_POSITION> タグを含みます。 <TARGET_ELEMENT_NAME> タグで要素を特定できない場合，<TARGET_ELEMENT_ATTRIBUTE> タグ，<TARGET_ELEMENT_CONTENT> タグ，<TARGET_ELEMENT_POSITION> タグのすべて，または一部を指定して，代替文字列が含まれる要素を特定できるように指定する必要があります。
<TARGET_ELEMENT_NAME>・・・</TARGET_ELEMENT_NAME> ((1 ～ 1023 バイトの文字列))	―※2	代替文字列が含まれる要素の要素名を指定します。大文字・小文字は区別されません。なお，指定された要素名の HTML の要素としての妥当性は検証しません。指定された文字列を要素名として扱います。 例えば，INPUT 要素（<INPUT … />）を指定する場合，<TARGET_ELEMENT_NAME> タグには「INPUT」を指定します。
<TARGET_ELEMENT_ATTRIBUTE>・・・</TARGET_ELEMENT_ATTRIBUTE> ((1 ～ 1023 バイトの文字列))	―	代替文字列が含まれる要素の属性を一つ指定します。 <TARGET_ELEMENT_NAME> タグで指定した要素が複数存在する場合など，<TARGET_ELEMENT_NAME> タグの指定だけでは要素を特定できない場合，要素の属性を指定することで要素の特定または絞り込みができるときに指定します。動的に変化する属性は指定しないでください。なお，指定された属性名および属性値の妥当性は検証しません。 「属性名＝属性値」の形式で指定します。「属性名」の部分については，大文字・小文字は区別しません。「属性値」の部分は，大文字・小文字を区別します。複数の属性を指定する場合は，<TARGET_ELEMENT_ATTRIBUTE> タグを複数指定してください。
<TARGET_ELEMENT_CONTENT>・・・</TARGET_ELEMENT_CONTENT> ((1 ～ 1023 バイトの文字列))	―	代替文字列が含まれる要素の内容に含まれる文字列を指定します。 <TARGET_ELEMENT_NAME> タグで指定した要素が複数存在する場合など，<TARGET_ELEMENT_NAME> タグの指定だけでは要素を特定できない場合，要素の内容を指定することで要素の特定または絞り込みができるときに指定します。動的に変化する要素の内容は指定しないでください。 要素の内容に含まれる文字列を複数指定する場合は，<TARGET_ELEMENT_CONTENT> タグを複数指定してください。
<TARGET_ELEMENT_POSITION>・・・</TARGET_ELEMENT_POSITION> ((1 ～ 1023)) <<1>>	―	<TARGET_ELEMENT_NAME> タグ，<TARGET_ELEMENT_ATTRIBUTE> タグ，<TARGET_ELEMENT_CONTENT> タグのすべて，または一部で指定した条件を満たす要素が複数存在する場合，先頭から数えて何番目の要素に代替文字列が含まれるかを指定します。
<SUBSTITUTE_TYPE>・・・</SUBSTITUTE_TYPE>	―※2	代替文字列が含まれる個所を指定します。 <TYPE_CONTENT> タグまたは <TYPE_ATTRIBUTE> タグのどちらかを指定します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<TYPE_CONTENT></TYPE_CONTENT>	―※3	代替文字列が要素の内容に含まれる場合に指定します。
<TYPE_ATTRIBUTE>・・・</TYPE_ATTRIBUTE> ((1 ～ 1023 バイトの文字列))	―※3	代替文字列が要素の属性値に含まれる場合にその属性名を指定します。"=" は指定できません。また，指定した属性名の大文字・小文字は区別しません。
<TARGET_HEADER>・・・</TARGET_HEADER>	―※1	<TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップで応答された HTTP ヘッダー内の，代替文字列が含まれる要素を特定するためのタグです。<TARGET_HEADER_NAME> タグおよび <TARGET_HEADER_VALUE> タグを含みます。 <TARGET_HEADER_NAME> タグでヘッダーを特定できない場合，<TARGET_HEADER_VALUE> タグを指定して，代替文字列が含まれるヘッダーを特定できるように指定してください。 <TARGET_HEADER_NAME> タグと <TARGET_HEADER_VALUE> タグを指定しても，ヘッダーが特定できなかった場合は，そのうちの最初に受信したヘッダーが指定されたヘッダーとして扱われます。
<TARGET_HEADER_NAME>・・・</TARGET_HEADER_NAME> ((1 バイト以上の文字列))	―※4	代替文字列が含まれるヘッダー名を指定するタグです。大文字・小文字は区別しません。なお，指定されたヘッダー名の HTTP ヘッダーとしての妥当性は検証しません。指定された文字列はヘッダー名として扱われます。指定されたヘッダー名と完全に一致するヘッダーが，受信した HTTP ヘッダーから検索されます。 例えば，Set-Cookie ヘッダー（Set-Cookie:・・・）を指定する場合，<TARGET_HEADER_NAME> タグには「Set-Cookie」を指定します。
<TARGET_HEADER_VALUE>・・・</TARGET_HEADER_VALUE> ((1 バイト以上の文字列))	―	代替文字列が含まれるヘッダーの値に部分一致する文字列を指定します。 <TARGET_HEADER_NAME> タグで指定したヘッダーが複数存在する場合など，<TARGET_HEADER_NAME> タグの指定だけではヘッダーを特定できない場合，ヘッダーの値を指定することでヘッダーの特定または絞り込みができるときに指定します。動的に変化するヘッダーの値は指定しないでください。
<SUBSTITUTE_RANGE>・・・</SUBSTITUTE_RANGE>	―	<SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した個所の一部だけ代替文字列として扱う場合に指定します。<BEFORE_RANGE> タグ，<AFTER_RANGE> タグを含みます。省略する場合は，<SUBSTITUTE_RANGE> タグと配下のタグの記述を省略します。省略した場合は，<SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した個所のすべてを指定したことになります。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<BEFORE_RANGE>・・・</BEFORE_RANGE> ((1 ～ 255 バイトの文字列))	―※ 5	<SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した個所内の先頭部分を代替文字列として扱わない場合に指定します。代替文字列の直前（代替文字列は含まない）の文字列を指定します。なお， <SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した個所内に指定した文字列と同じ文字列が複数存在する場合，先頭から検索して初めに現れた文字列を指定したことになります。省略した場合，または指定した文字列が存在しなかった場合は， <SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した個所の先頭から代替文字列として扱います。 <SUBSTITUTE_TYPE> タグで <TYPE_ATTRIBUTE> タグを指定した場合は，属性値の範囲を示す「"」や「'」は指定できません。
<AFTER_RANGE>・・・</AFTER_RANGE> ((1 ～ 255 バイトの文字列))	―※ 5	<SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した個所内の末尾部分を代替文字列として扱わない場合に指定します。代替文字列の直後（代替文字列は含まない）の文字列を指定します。なお， <SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した個所内に指定する文字列と同じ文字列が複数存在する場合，<BEFORE_RANGE> タグで指定した文字列の終わりから検索して初めに現れた文字列を指定したことになります。省略した場合，または指定した文字列が存在しなかった場合は，<SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した個所の末尾までを代替文字列として扱います。 <SUBSTITUTE_TYPE> タグで <TYPE_ATTRIBUTE> タグを指定した場合は，属性値の範囲を示す「"」や「'」は指定できません。

（凡例）

○：<SUBSTITUTE_TARGET> タグを指定した場合の必須項目

－：<SUBSTITUTE_TARGET> タグを指定した場合のオプション項目

注※ 1

<TARGET_ELEMENT> タグまたは <TARGET_HEADER> タグのどちらか一つを指定します。

注※ 2

<TARGET_ELEMENT> タグを指定した場合，必ず指定します。

注※ 3

<TYPE_CONTENT> タグまたは <TYPE_ATTRIBUTE> タグのどちらかを指定します。

注※ 4

<TARGET_HEADER> タグを指定した場合，必ず指定します。

注※ 5

<SUBSTITUTE_RANGE> タグを指定した場合，どちらかまたは両方を指定する必要があります。

（4） 記述例

Web トランザクションファイルの記述例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" standalone="no"?>
<!DOCTYPE TRANSACTION_LIST SYSTEM "espwebtrans.dtd">
```

```
<TRANSACTION_LIST>
<TRANSACTION>
  <TRANSACTION_PARAM>
    <TRANSACTION_NAME>メールシステムのトランザクション
    </TRANSACTION_NAME>
    <IGNORE_EMBEDDED_RESOURCE></IGNORE_EMBEDDED_RESOURCE>
    <NO_CACHE></NO_CACHE>
    <KEEP_ALIVE></KEEP_ALIVE>
  </TRANSACTION_PARAM>

  <STEP>
    <TITLE>ログイン画面</TITLE>
    <REQUEST>
      <URL>http://www.xxx.co.jp/login.jsp</URL>
    </REQUEST>
    <START_SCOPE>SCOPE1</START_SCOPE>
  </STEP>

  <STEP>
    <FRAME_NAME>subframe</FRAME_NAME>
    <REQUEST>
      <URL>http://www.xxx.co.jp/subframe.html</URL>
    </REQUEST>
    <END_SCOPE>SCOPE1</END_SCOPE>
  </STEP>

  <STEP>
    <TITLE>ログイン成功画面</TITLE>
    <REQUEST>
      <URL>http://www.xxx.co.jp/login_exec.jsp</URL>
      <POST>
        <CONTENT_TYPE>
          <FORM_URLENCODED></FORM_URLENCODED>
        </CONTENT_TYPE>
        <MESSAGE_BODY>login_name=hoge&amp;password=hogehoge
        </MESSAGE_BODY>
      </POST>
    </REQUEST>
    <RESPONSE_PATTERN>{ログイン成功}*(!{失敗}*!{エラー})
    </RESPONSE_PATTERN>
  </STEP>

</TRANSACTION>
</TRANSACTION_LIST>
```

7.6 コマンド登録ファイル（espcommand.xml）

コマンド登録ファイルは，作成したユーザー定義コマンドを登録するためのファイルです。Probe Daemon の起動時に読み込まれます。

なお，コマンド登録ファイルの定義内容を有効にするには，PFM - Agent for Service Response を再起動する必要があります。

（1）書式

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" standalone="no"?>
<!DOCTYPE COMMAND_LIST SYSTEM "espcommand.dtd">
<COMMAND_LIST>
   <ESP_NAME/>
   <COMMAND>
      <USER_COMMAND_ID>ユーザー定義サービスID</USER_COMMAND_ID>
      <USER_COMMAND>ユーザー定義コマンド</USER_COMMAND>
      <EXECUTION_TIME></EXECUTION_TIME>
   </COMMAND>
・・・
</COMMAND_LIST>
```

（2）定義内容

（a）XML 宣言，文書型宣言

1 行目には，XML 宣言を，2 行目には，文書型宣言を記述します。次に示すとおりに記述してください。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" standalone="no"?>
<!DOCTYPE COMMAND_LIST SYSTEM "espcommand.dtd">
```

（b）XML 定義内容

表 7-28　XML 定義内容

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<COMMAND_LIST>・・・</COMMAND_LIST>	○	ユーザー定義コマンドの一覧を示すタグです。一つ以上の <COMMAND> タグを含みます。</COMMAND> タグの直後に，別の <COMMAND> タグを開始できます。
<ESP_NAME/>	○	必ず定義してください。
<COMMAND>・・・</COMMAND>	○	ユーザー定義コマンドを設定するタグです。 <USER_COMMAND_ID> タグ， <USER_COMMAND> タグ，および <EXECUTION_TIME> タグを含みます。
<USER_COMMAND_ID>・・・</USER_COMMAND_ID> ((1 ～ 100))	○	ユーザー定義コマンドを識別するためのユーザー定義 ID を指定します。

XML タグ	必須	タグの役割，指定する値
<USER_COMMAND>・・・</USER_COMMAND> ((512 バイト以内の文字列))	○	ユーザー定義コマンドを指定します。オプションが必要なコマンドはオプションも含めて 1 行で記述します。
<EXECUTION_TIME>・・・</EXECUTION_TIME>	―	このタグを指定した場合は，ユーザー定義コマンドの実行に掛かった時間（起動してから終了するまで）を応答性能情報とする場合に指定します。指定しない場合は，ユーザー定義コマンドが標準出力に出力した値を応答性能情報とします。

（凡例）

○：必須項目

―：オプション項目

(3) 記述例

コマンド登録ファイルの記述例を次に示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS" standalone="no"?>
<!DOCTYPE COMMAND_LIST SYSTEM "espcommand.dtd">
<COMMAND_LIST>
   <ESP_NAME/>
   <COMMAND>
      <USER_COMMAND_ID>1</USER_COMMAND_ID>
      <USER_COMMAND>command1.exe</USER_COMMAND>
   </COMMAND>
   <COMMAND>
      <USER_COMMAND_ID>2</USER_COMMAND_ID>
      <USER_COMMAND>command2.exe</USER_COMMAND>
      <EXECUTION_TIME></EXECUTION_TIME>
   </COMMAND>
</COMMAND_LIST>
```

7.7 計測条件ラベル定義ファイル（esptasklabel.conf）

計測条件に任意のラベル名を定義するファイルです。

注意事項

同一タスク ID のタスクについて，計測条件登録ファイル（esptask.xml）でラベル名が定義されている場合，計測条件登録ファイルでの設定が優先されます。
なお，計測条件登録ファイルで定義したラベル名は，PFM - Web Console 上で Task Label プロパティとして確認，変更できます。計測条件ラベル定義ファイルで定義したラベル名を PFM - Web Console から確認したり変更したりすることはできません。

（1）書式

```
[label definition]
task_id=計測条件ID
task_label=計測条件ラベル名
```

注意事項

計測条件ラベル定義ファイルを記述するときの注意事項を次に示します。

- キー名称と値は「=（イコール）」でつないで記述すること。
- キー名称と値は 1 行で記述すること。
- 行頭は 1 カラム目から記述すること。

なお，先頭が「#（シャープ）」の行は，コメント行とみなされます。

（2）定義内容

label definition セクション

計測条件の ID と任意のラベル名とを組み合わせて定義します。計測条件ラベルを，定義する計測条件の数だけ記述します。ID とラベル名のどちらかの定義が正しくない場合，その組み合わせの定義は反映されません。

表 7-29 label definition セクションの定義内容

キー名	必須	指定する値
task_id	○	ラベルを定義する計測条件の ID を指定します。
task_label ((63 バイト以内の文字列※))	○	計測条件に対する任意の名称を指定します。ほかの計測条件と重複しない一意の名称を指定する必要があります。

（凡例）
○：必須項目

注※
「,（コンマ）」,「"（ダブルクォーテーション）」,「=（イコール）」は指定できません。

(3) 記述例

計測条件ラベル定義ファイルの記述例を次に示します。

```
[label definition]
task_id=1
task_label=HTTP A Server
task_id=2
task_label=HTTPS Shopping Server
task_id=3
task_label=POP3 Mail Server
```

7.8 IE Recorder 動作条件定義ファイル (jpcvierec.conf)

IE Recorder の動作条件定義ファイルは，IE Recorder の動作条件を定義するファイルです。IE Recorder の起動時に読み込まれます。

(1) 書式

```
[IE Recorder]
replay_wait=再生待ち時間
operation_name=操作名,記録対象タグ,属性名=属性値
address_bar=アドレスバーの初期URL
```

注意事項

IE Recorder 動作条件定義ファイルを記述するときの注意事項を次に示します。

- キー名称と値は「=（イコール）」でつないで記述すること。
- キー名称と値は 1 行で記述すること。
- 行頭は 1 カラム目から記述すること。

なお，先頭が「#（シャープ）」の行は，コメント行とみなされます。

(2) 定義内容

IE Recorder セクション

IE Recorder に関する項目を定義します。

表 7-30 IE Recorder セクションの定義内容

キー名	必須	指定する値
replay_wait ((0 ～ 99))(秒)《1》	—	各操作を再生するときの待ち時間を秒単位で指定します。省略した場合は ,1(秒) となります。再生速度を遅くしたい場合に指定します。
operation_name ((操作名 , 記録対象タグ [, 属性 ,...]))	—	操作リストに表示される操作名，標準で記録するタグ名，および属性※を指定します。指定されたタグおよび属性の妥当性は検証されません。
address_bar ((URL))	—	アドレスバーのプルダウンリストに表示する URL を指定します。URL の先頭が「http://」または「https://」以外の場合は，先頭に「http://」が付加された形でプルダウンリストに表示されます。 よく使用する URL を記載することで，ブックマークのような使い方ができます。

(凡例)

—：オプション項目

((　))：キー値の範囲

《　》：デフォルト値

注※

属性は，「**属性名** = **属性値**」で指定します。属性は省略したり，複数指定したりできます。

・属性を省略した場合

指定した記録対象タグ名に関する操作が，指定した操作名で操作リストに表示されます。

・属性を複数指定した場合

指定した記録対象タグ名でかつ，指定した属性がすべて含まれるタグに関する操作が，指定した操作名で操作リストに表示されます。なお，該当する記録対象タグおよび属性が複数定義されている場合，先に定義されているものが有効となるため，あとに定義されているものは無視されます。

(3) 記述例

IE Recorder 動作条件定義ファイルの記述例を次に示します。

```
[IE Recorder]
replay_wait=0
operation_name=リンククリック,a
operation_name=ボタンクリック,button
operation_name=チェック,input,type=radio
operation_name=チェック,input,type=checkbox
operation_name=テキスト入力,input,type=text
operation_name=テキスト入力,input,type=password
operation_name=テキスト入力,input,type=file
operation_name=ボタンクリック,input,type=submit
operation_name=ボタンクリック,input,type=reset
operation_name=ボタンクリック,input,type=button
operation_name=ボタンクリック,input,type=image
operation_name=選択,select
operation_name=テキスト入力,textarea
address_bar=
```

7.9 Web Recorder 動作条件定義ファイル（wr.conf）

Web Recorder の動作条件を定義するファイルです。Web Recorder の起動時に読み込まれます。

（1） 書式

```
[Web Recorder]
IE_flag=Internet Explorerの起動の要否
```

注意事項

Web Recorder 動作条件定義ファイルを記述するときの注意事項を次に示します。

- キー名称と値は「=（イコール）」でつないで記述すること。
- キー名称と値は 1 行で記述すること。
- 行頭は 1 カラム目から記述すること。

なお，先頭が「#（シャープ）」の行は，コメント行とみなされます。

（2） 定義内容

Web Recorder セクション

Web Recorder に関する項目を定義します。

表 7-31 Web Recorder セクションの定義内容

キー名	必須	指定する値
IE_flag ((Y または N))《Y》	―	Internet Explorer を起動するかどうかを指定します。起動する場合は「Y」を，起動しない場合は「N」を指定します。

（凡例）

―：オプション項目

（3） 記述例

```
[Web Recorder]
IE_flag=Y
```

8 監視テンプレート

この章では，PFM - Agent for Service Response の監視テンプレートについて説明します。

監視テンプレートの概要

アラームの記載形式

アラーム一覧

レポートの記載形式

レポートのフォルダ構成

レポート一覧

監視テンプレートの概要

Performance Management では，次の方法でアラームとレポートを定義できます。

● PFM - Agent で定義されているアラームやレポートをそのまま使用する

● PFM - Agent で定義されているアラームやレポートをコピーしてカスタマイズする

● ウィザードを使用して新規に定義する

PFM - Agent で用意されているアラームやレポートを「監視テンプレート」と呼びます。監視テンプレートのレポートとアラームは，必要な情報があらかじめ定義されているので，コピーしてそのまま使用したり，ユーザーの環境に合わせてカスタマイズしたりできます。そのため，ウィザードを使用して新規に定義をしなくても，監視対象の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。

この章では，PFM - Agent for Service Response で定義されている監視テンプレートのアラームとレポートの設定内容について説明します。

監視テンプレートの使用方法の詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働分析のためのレポートの作成またはアラームによる稼働監視について説明している章を参照してください。

アラームの記載形式

ここでは，アラームの記載形式を示します。アラームは，アルファベット順に記載しています。

アラーム名

監視テンプレートのアラーム名を示します。

概要

このアラームで監視できる監視対象の概要について説明します。

主な設定

このアラームの主な設定値を表で説明します。この表では，アラームの設定値と，PFM - Web Console のアラーム階層の［プロパティの表示］で表示される［プロパティ］画面の設定項目との対応を示しています。各アラームの設定の詳細については，PFM - Web Console のアラーム階層の［プロパティ］画面で確認してください。

設定値の「ー」は，設定が常に無効であることを示します。

なお，条件式で異常条件と警告条件が同じ場合は，アラームイベントは異常のものだけが発行されます。

関連レポート

このアラームに関連する，監視テンプレートのレポートを示します。

アラーム一覧

PFM - Agent for Service Response の監視テンプレートで定義されているアラームは，「PFM SR Template Alarms 09.00」というアラームテーブルにまとめられています。「09.00」は，監視テンプレートのアラームテーブルのバージョンを示します。

監視テンプレートとして提供するアラームには 2 種類あります。目的に応じて使い分けたり併用したりして，運用に必要なアラームが発行されるように設定してください。

アラームの種類と使用目的を次の表に示します。

表 8-1　アラームの種類と使用目的

アラームの種類	使用目的
< **サービス名** > Response Time< **サービス名** > Replay Time	計測値の異常を検知するためのアラーム。計測結果が特定の範囲を超えたことを検知するためのアラームを発行したい場合に使用する。計測自体がエラー (タイムアウトを含む) になる場合，このアラームだけでは計測エラーを検知できないため，< **サービス名** > Failure と併用する。
< **サービス名** > Failure	計測エラーを検知するためのアラーム。計測値に依存しないで，計測がエラー (タイムアウトを含む) になったかどうかだけで判断する。

このアラームテーブルは，PFM - Web Console のアラーム階層に表示される「Service Response」フォルダに格納されています。監視テンプレートで定義されているアラームを次の表に示します。

表 8-2　アラーム一覧

アラーム名	監視対象
FTP Failure	FTP サービスの計測が失敗したかどうか。
FTP Response Time	FTP サービスの総応答時間。
IES Failure	IE シナリオの計測が失敗したかどうか。
IES Replay Time	IE シナリオの総再生時間。
IMAP4 Failure	IMAP4 サービスの計測が失敗したかどうか。
IMAP4 Response Time	IMAP4 サービスの総応答時間。
POP3 Failure	POP3 サービスの計測が失敗したかどうか。
POP3 Response Time	POP3 サービスの総応答時間。
SMTP Failure	SMTP サービスの計測が失敗したかどうか。
SMTP Response Time	SMTP サービスの総応答時間。

アラーム名	監視対象
TCP Failure	TCP サービスの計測が失敗したかどうか。
TCP Response Time	TCP サービスの総応答時間。
WT Failure	Web トランザクションサービスの計測が失敗したかどうか。
WT Response Time	Web トランザクションの総応答時間。

FTP Failure

概要

FTP Failure アラームは FTP サービスの計測が失敗したかどうかを監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	FTP（PI_FTP）
	フィールド	Result Strings
	異常条件	< > SUCCESS
	警告条件	< > SUCCESS

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/FTP Response Time Summary

FTP Response Time

概要

FTP Response Time アラームは FTP サービスの総応答時間を監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	FTP（PI_FTP）
	フィールド	Total Response Time
	異常条件	Total Response Time > 30
	警告条件	Total Response Time > 15

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/FTP Response Time Summary

IES Failure

概要

IES Failure アラームは IE シナリオの計測が失敗したかどうかを監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	IE Scenario（PI_IES）
	フィールド	Result Strings
	異常条件	< > SUCCESS
	警告条件	< > SUCCESS

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/IE Scenario Replay Time Summary

IES Replay Time

概要

IES Replay Time アラームは IE シナリオの総再生時間を監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	IE Scenario（PI_IES）
	フィールド	Total Replay Time
	異常条件	Total Replay Time > 30
	警告条件	Total Replay Time > 15

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/IE Scenario Replay Time Summary

IMAP4 Failure

概要

IMAP4 Failure アラームは IMAP4 サービスの計測が失敗したかどうかを監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	IMAP4（PI_IMP4）
	フィールド	Result Strings
	異常条件	< > SUCCESS
	警告条件	< > SUCCESS

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/IMAP4 Response Time Summary

IMAP4 Response Time

概要

IMAP4 Response Time アラームは IMAP4 サービスの総応答時間を監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	IMAP4（PI_IMP4）
	フィールド	Total Response Time
	異常条件	Total Response Time > 30
	警告条件	Total Response Time > 15

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/IMAP4 Response Time Summary

POP3 Failure

概要

POP3 Failure アラームは POP3 サービスの計測が失敗したかどうかを監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	POP3（PI_POP3）
	フィールド	Result Strings
	異常条件	< > SUCCESS
	警告条件	< > SUCCESS

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/POP3 Response Time Summary

POP3 Response Time

概要

POP3 Response Time アラームは POP3 サービスの総応答時間を監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	POP3（PI_POP3）
	フィールド	Total Response Time
	異常条件	Total Response Time > 30
	警告条件	Total Response Time > 15

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/POP3 Response Time Summary

SMTP Failure

概要

SMTP Failure アラームは SMTP サービスの計測が失敗したかどうかを監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	SMTP（PI_SMTP）
	フィールド	Result Strings
	異常条件	< > SUCCESS
	警告条件	< > SUCCESS

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/SMTP Response Time Summary

SMTP Response Time

概要

SMTP Response Time アラームは SMTP サービスの総応答時間を監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	SMTP（PI_SMTP）
	フィールド	Total Response Time
	異常条件	Total Response Time > 30
	警告条件	Total Response Time > 15

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/SMTP Response Time Summary

TCP Failure

概要

TCP Failure アラームは TCP サービスの計測が失敗したかどうかを監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		
項目	詳細項目	設定値
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	TCP（PI_TCP）
	フィールド	Result Strings
	異常条件	< > SUCCESS
	警告条件	< > SUCCESS

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/TCP Response Time Summary

TCP Response Time

概要

TCP Response Time アラームは TCP サービスの総応答時間を監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	TCP（PI_TCP）
	フィールド	Total Response Time
	異常条件	Total Response Time > 30
	警告条件	Total Response Time > 15

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/TCP Response Time Summary

WT Failure

概要

WT Failure アラームは Web トランザクションサービスの計測が失敗したかどうかを監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	Web Transaction（PI_WT）
	フィールド	Result Strings
	異常条件	< > SUCCESS
	警告条件	< > SUCCESS

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/Web Transaction Response Time Summary

WT Response Time

概要

WT Response Time アラームは Web トランザクションの総応答時間を監視します。

主な設定

PFM - Web Console のアラームのプロパティ		設定値
項目	詳細項目	
基本情報	発生頻度を満たした時にアラーム通知する	しない
	インターバル中	－
	回しきい値超過	－
アクション	SNMP	異常，警告，正常
条件式	レコード	Web Transaction（PI_WT）
	フィールド	Total Response Time
	異常条件	Total Response Time > 30
	警告条件	Total Response Time > 15

関連レポート

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past/Web Transaction Response Time Summary

レポートの記載形式

ここでは，レポートの記載形式を示します。レポートは，アルファベット順に記載しています。

レポート名

監視テンプレートのレポート名を示します。

概要

このレポートで表示できる情報の概要について説明します。

表示形式

このレポートの表示の形式を示します。

格納先

このレポートの格納先を示します。

レコード

このレポートで使用するパフォーマンスデータが，格納されているレコードを示します。履歴レポートを表示するためには，この欄に示すレコードを収集するように，あらかじめ設定しておく必要があります。レポートを表示する前に，PFM - Web Console のサービス階層の［プロパティ］画面で，このレコードが「Log = Yes」に設定されているか確認してください。リアルタイムレポートの場合，設定する必要はありません。

フィールド

このレポートで使用するレコードのフィールドについて，表で説明します。

ドリルダウンレポート（レポートレベル）

このレポートに関連づけられた，監視テンプレートのレポートを表で説明します。このドリルダウンレポートを表示するには，PFM - Web Console のレポート画面のドリルダウンレポートプルダウンメニューから，該当するドリルダウンレポート名を選択し，［レポートの表示］をクリックしてください。なお，レポートによってドリルダウンレポートを持つものと持たないものがあります。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

このレポートのフィールドに関連づけられた，監視テンプレートのレポートを表で説明します。このドリルダウンレポートを表示するには，PFM - Web Console のレポートウィンドウのグラフ，一覧，または表をクリックしてください。履歴レポートの場合，時間項目からドリルダウンレポートを表示することで，より詳細な時間間隔でレポートを表示できます。なお，レポートによってドリルダウンレポートを持つものと持たない

ものがあります。

ドリルダウンレポートについての詳細は，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働分析のためのレポートの作成について説明している章を参照してください。

レポートのフォルダ構成

PFM - Agent for Service Response のレポートのフォルダ構成を次に示します。< >内は，フォルダ名を示します。

```
<Service Response>
  +-- <Monthly Trend>
  |       +-- DHCP Response Time Trend
  |       +-- DNS Response Time Trend
  |       +-- FTP Response Time Trend
  |       +-- HTTP Response Time Trend
  |       +-- HTTPS Response Time Trend
  |       +-- IE Scenario Replay Time Trend
  |       +-- IMAP4 Response Time Trend
  |       +-- POP3 Response Time Trend
  |       +-- SMTP Response Time Trend
  |       +-- TCP Response Time Trend
  |       +-- User Defined Service Response Time Trend
  |       +-- Web Transaction Response Time Trend
  +-- <Status Reporting>
  |       +-- <Daily Trend>
  |       |       +-- DHCP Response Time Status
  |       |       +-- DNS Response Time Status
  |       |       +-- FTP Response Time Status
  |       |       +-- HTTP Response Time Status
  |       |       +-- HTTPS Response Time Status
  |       |       +-- IE Scenario Replay Time Status
  |       |       +-- IMAP4 Response Time Status
  |       |       +-- POP3 Response Time Status
  |       |       +-- SMTP Response Time Status
  |       |       +-- TCP Response Time Status
  |       |       +-- User Defined Service Response Time Status
  |       |       +-- Web Transaction Response Time Status
  |       +-- <Real-Time>
  |               +-- DHCP Response Time Status
  |               +-- DNS Response Time Status
  |               +-- FTP Response Time Status
  |               +-- HTTP Response Time Status
  |               +-- HTTPS Response Time Status
  |               +-- IE Scenario Replay Time Status
  |               +-- IMAP4 Response Time Status
  |               +-- POP3 Response Time Status
  |               +-- SMTP Response Time Status
  |               +-- TCP Response Time Status
  |               +-- User Defined Service Response Time Status
  |               +-- Web Transaction Response Time Status
  +-- <Troubleshooting>
          +-- <Real-Time>
          |       +-- FTP Top 10
          |       +-- HTTP Top 10
          |       +-- HTTPS Top 10
          |       +-- IE Scenario Scope Detail
          |       +-- IE Scenario Scope Rate
          |       +-- IE Scenario Top 10
          |       +-- IMAP4 Top 10
          |       +-- POP3 Top 10
          |       +-- SMTP Top 10
          |       +-- Web Transaction Scope Detail
          |       +-- Web Transaction Scope Rate
          |       +-- Web Transaction Top 10
          |       +-- <Drilldown Only>
          |               +-- FTP Rate
```

```
|           +-- HTTP Rate
|           +-- HTTPS Rate
|           +-- IE Scenario Detail
|           +-- IMAP4 Rate
|           +-- POP3 Rate
|           +-- Scope Detail
|           +-- SMTP Rate
|           +-- Transaction Detail
+-- <Recent Past>
      +-- DHCP Response Time Summary
      +-- DNS Response Time Summary
      +-- FTP Response Time Summary
      +-- HTTP Response Time Summary
      +-- HTTPS Response Time Summary
      +-- IE Scenario Logged Message
      +-- IE Scenario Replay Time Summary
      +-- IMAP4 Response Time Summary
      +-- POP3 Response Time Summary
      +-- SMTP Response Time Summary
      +-- TCP Response Time Summary
      +-- User Defined Service Response Time Summary
      +-- Web Transaction Response Time Summary
```

各フォルダの説明を次に示します。

「Monthly Trend」フォルダ

最近 1 か月間の 1 日ごとに集計された情報を表示する履歴レポートが格納されています。1 か月のシステムの傾向を分析するために使用します。

「Status Reporting」フォルダ

日，または週ごとに集計された情報を表示するレポートが格納されています。システムの総合的な状態を見るために使用します。

「Daily Trend」フォルダ

最近 24 時間の 1 時間ごとに集計された情報を表示する履歴レポートが格納されています。1 日ごとにシステムの状態を確認するために使用します。

「Real-Time」フォルダ

システムの状態を確認するためのリアルタイムレポートが格納されています。

「Troubleshooting」フォルダ

トラブルを解決するのに役立つ情報を表示するレポートが格納されています。システムに問題が発生した場合，問題の原因を調査するために使用します。

「Real-Time」フォルダ

現在のシステムの状態を確認するためのリアルタイムレポートが格納されています。

さらに，このフォルダの下位には，次のフォルダがある場合があります。

- **「Drilldown Only」フォルダ**

  ドリルダウンレポート（フィールドレベル）として表示されるレポートが格納されています。そのレポートのフィールドに関連する詳細な情報を表示するために使用します。

「Recent Past」フォルダ

最近 1 時間の分単位に集計された情報を表示する履歴レポートが格納されています。

レポート一覧

監視テンプレートで定義されているレポートをアルファベット順に次の表に示します。

表 8-3 レポート一覧

レポート名	表示する情報	格納先
DHCP Response Time Status	最近 24 時間の DHCP に関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
DHCP Response Time Status（リアルタイムレポート）	DHCP に関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
DHCP Response Time Summary	最近 1 時間の DHCP に関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Recent Past
DHCP Response Time Trend	最近 1 か月間の DHCP に関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
DNS Response Time Status	最近 24 時間の DNS に関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
DNS Response Time Status（リアルタイムレポート）	DNS に関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
DNS Response Time Summary	最近 1 時間の DNS に関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Recent Past
DNS Response Time Trend	最近 1 か月間の DNS に関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
FTP Rate	FTP の各詳細時間が占める割合。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only
FTP Response Time Status	最近 24 時間の FTP に関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
FTP Response Time Status（リアルタイムレポート）	FTP に関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
FTP Response Time Summary	最近 1 時間の FTP に関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Recent Past
FTP Response Time Trend	最近 1 か月間の FTP に関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
FTP Top 10	各 FTP サービスの総応答時間が長い上位 10 個。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time
HTTP Rate	HTTP の各詳細時間が占める割合。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

レポート名	表示する情報	格納先
HTTP Response Time Status	最近 24 時間の HTTP に関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
HTTP Response Time Status（リアルタイムレポート）	HTTP に関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
HTTP Response Time Summary	最近 1 時間の HTTP に関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Recent Past
HTTP Response Time Trend	最近 1 か月間の HTTP に関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
HTTP Top 10	各 HTTP サービスの総応答時間が長い上位 10 個。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time
HTTPS Rate	HTTPS の各詳細時間が占める割合。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only
HTTPS Response Time Status	最近 24 時間の HTTPS に関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
HTTPS Response Time Status（リアルタイムレポート）	HTTPS に関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
HTTPS Response Time Summary	最近 1 時間の HTTPS に関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Recent Past
HTTPS Response Time Trend	最近 1 か月間の HTTPS に関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
HTTPS Top 10	各 HTTPS サービスの総応答時間が長い上位 10 個。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time
IE Scenario Detail	IE シナリオの各スコープの総再生時間。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only
IE Scenario Logged Message	最近 1 時間のイベントログやログファイルに書き込まれたメッセージについての履歴情報。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Recent Past
IE Scenario Replay Time Status	最近 24 時間の IE シナリオに関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
IE Scenario Replay Time Status（リアルタイムレポート）	IE シナリオに関する再生時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レポート名	表示する情報	格納先
IE Scenario Replay Time Summary	最近 1 時間の IE シナリオに関する再生時間（分単位）。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past
IE Scenario Replay Time Trend	最近 1 か月間の IE シナリオに関する再生時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
IE Scenario Scope Detail	各 IE シナリオ中の各スコープの再生時間。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time
IE Scenario Scope Rate	各 IE シナリオ中の各スコープが占める割合。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time
IE Scenario Top 10	各 IE シナリオの総再生時間が長い上位 10 個。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time
IMAP4 Rate	IMAP4 の各詳細時間が占める割合。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only
IMAP4 Response Time Status	最近 24 時間の IMAP4 に関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
IMAP4 Response Time Status（リアルタイムレポート）	IMAP4 に関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
IMAP4 Response Time Summary	最近 1 時間の IMAP4 に関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past
IMAP4 Response Time Trend	最近 1 か月間の IMAP4 に関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
IMAP4 Top 10	各 IMAP4 サービスの総応答時間が長い上位 10 個。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time
POP3 Rate	POP3 の各詳細時間が占める割合。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only
POP3 Response Time Status	最近 24 時間の POP3 に関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
POP3 Response Time Status（リアルタイムレポート）	POP3 に関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
POP3 Response Time Summary	最近 1 時間の POP3 に関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past
POP3 Response Time Trend	最近 1 か月間の POP3 に関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend

レポート名	表示する情報	格納先
POP3 Top 10	各 POP3 サービスの総応答時間が長い上位 10 個。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time
Scope Detail	Web トランザクションのスコープの詳細。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only
SMTP Rate	SMTP の各詳細時間が占める割合。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only
SMTP Response Time Status	最近 24 時間の SMTP に関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
SMTP Response Time Status（リアルタイムレポート）	SMTP に関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
SMTP Response Time Summary	最近 1 時間の SMTP に関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past
SMTP Response Time Trend	最近 1 か月間の SMTP に関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
SMTP Top 10	各 SMTP サービスの総応答時間が長い上位 10 個。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time
TCP Response Time Status	最近 24 時間の TCP に関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
TCP Response Time Status（リアルタイムレポート）	TCP に関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
TCP Response Time Summary	最近 1 時間の TCP に関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past
TCP Response Time Trend	最近 1 か月間の TCP に関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
Transaction Detail	Web トランザクションのトランザクションの各スコープの総応答時間。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only
User Defined Service Response Time Status	最近 24 時間のユーザー定義サービスに関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
User Defined Service Response Time Status（リアルタイムレポート）	ユーザー定義サービスに関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
User Defined Service Response Time Summary	最近 1 時間のユーザー定義サービスに関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レポート名	表示する情報	格納先
User Defined Service Response Time Trend	最近 1 か月間のユーザー定義サービスに関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
Web Transaction Response Time Status	最近 24 時間の Web トランザクションに関する応答時間（時単位）。	Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend
Web Transaction Response Time Status（リアルタイムレポート）	Web トランザクションに関する応答時間。	Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time
Web Transaction Response Time Summary	最近 1 時間の Web トランザクションに関する応答時間（分単位）。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Recent Past
Web Transaction Response Time Trend	最近 1 か月間の Web トランザクションに関する応答時間（日単位）。	Reports/Service Response/Monthly Trend
Web Transaction Scope Detail	各 Web トランザクション中の各スコープの応答時間。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time
Web Transaction Scope Rate	各 Web トランザクション中の各スコープが占める割合。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time
Web Transaction Top 10	各 Web トランザクションの総応答時間が長い上位 10 個。	Reports/Service Response/ Troubleshooting/Real-Time

DHCP Response Time Status

概要

DHCP Response Time Status レポートは，最近 24 時間の DHCP に関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

DHCP (PI_DHCP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象の DHCP サーバを検索し，IP アドレスを動的に取得するまでに掛かった時間。

DHCP Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

DHCP Response Time Status レポートは，DHCP に関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

DHCP (PI_DHCP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象の DHCP サーバを検索し，IP アドレスを動的に取得するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

DHCP Response Time Summary

概要

DHCP Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の DHCP に関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

DHCP (PI_DHCP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象から IP アドレスを動的に取得するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

DHCP Response Time Trend

概要

DHCP Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の複数エージェントの DHCP に関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

DHCP (PI_DHCP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象から IP アドレスを動的に取得するまでに掛かった時間。

DNS Response Time Status

概要

DNS Response Time Status レポートは，最近 24 時間の DNS に関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

DNS (PI_DNS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定された検索対象ホスト名に対する IP アドレスを DNS サーバに問い合わせ，応答を受信するまでに掛かった時間。

DNS Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

DNS Response Time Status レポートは，DNS に関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

DNS (PI_DNS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定された検索対象ホスト名に対する IP アドレスを DNS サーバに問い合わせ，応答を受信するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

DNS Response Time Summary

概要

DNS Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の DNS に関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

DNS (PI_DNS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定された検索対象ホスト名に対する IP アドレスを DNS サーバに問い合わせ，応答を受信するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

DNS Response Time Trend

概要

DNS Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の DNS に関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

DNS (PI_DNS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定された検索対象ホスト名に対する IP アドレスを DNS サーバに問い合わせ，応答を受信するまでに掛かった時間。

FTP Rate

概要

FTP Rate レポートは，FTP の各詳細時間の割合をリアルタイムで表示します。このレポートは，ドリルダウンレポートです。

表示形式

一覧および円グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

レコード

FTP (PI_FTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
DNS Time	DNS 時間。
TCP Connection Time	TCP 接続時間。
Preprocessing Time	前処理時間。
Data Transfer Time	データ転送時間。

FTP Response Time Status

概要

FTP Response Time Status レポートは，最近 24 時間の FTP に関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

FTP (PI_FTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象の FTP サーバに対して，FTP サーバ上の計測用ファイルを取得するか，あらかじめ用意した計測用ファイルを転送し，転送に掛かった時間。

FTP Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

FTP Response Time Status レポートは，FTP に関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

FTP (PI_FTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象の FTP サーバに対して，FTP サーバ上の計測用ファイルを取得するか，あらかじめ用意した計測用ファイルを転送し，転送に掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

FTP Response Time Summary

概要

FTP Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の FTP に関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

FTP (PI_FTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象の FTP サーバに対して，FTP サーバ上の計測用ファイルを取得するか，あらかじめ用意した計測用ファイルを転送し，転送に掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

FTP Response Time Trend

概要

FTP Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の FTP に関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

FTP (PI_FTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象の FTP サーバに対して，FTP サーバ上の計測用ファイルを取得するか，あらかじめ用意した計測用ファイルを転送し，転送に掛かった時間。

FTP Top 10

概要

FTP Top 10 レポートは，各 FTP サービスの総応答時間が長い上位 10 個を表示します。

表示形式

集合横棒グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

FTP (PI_FTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象の FTP サーバに対して，FTP サーバ上の計測用ファイルを取得するか，あらかじめ用意した計測用ファイルを転送し，転送に掛かった時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
FTP Rate	FTP の各詳細時間が占める割合。

HTTP Rate

概要

HTTP Rate レポートは，HTTP の各詳細時間の割合をリアルタイムで表示します。このレポートは，ドリルダウンレポートです。

表示形式

一覧および円グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

レコード

HTTP (PI_HTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
DNS Time	DNS 時間。
TCP Connection Time	TCP 接続時間。
Server Processing Time	サーバ処理時間。
Data Transfer Time	データ転送時間。

HTTP Response Time Status

概要

HTTP Response Time Status レポートは，最近 24 時間の HTTP に関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

HTTP (PI_HTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定した URL に対して HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。

HTTP Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

HTTP Response Time Status レポートは，HTTP に関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

HTTP (PI_HTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定した URL に対して HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

HTTP Response Time Summary

概要

HTTP Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の HTTP に関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

HTTP (PI_HTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定した URL に対して HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

HTTP Response Time Trend

概要

HTTP Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の HTTP に関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

HTTP (PI_HTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定した URL に対して HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。

HTTP Top 10

概要

HTTP Top 10 レポートは，各 HTTP サービスの総応答時間が長い上位 10 個を表示します。

表示形式

集合横棒グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

HTTP (PI_HTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定した URL に対して HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
HTTP Rate	HTTP の各詳細時間が占める割合。

HTTPS Rate

概要

HTTPS Rate レポートは，HTTPS の各詳細時間の割合をリアルタイムで表示します。このレポートは，ドリルダウンレポートです。

表示形式

一覧および円グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

レコード

HTTPS (PI_HTPS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
DNS Time	DNS 時間。
TCP Connection Time	TCP 接続時間。
Server Processing Time	サーバ処理時間。
Data Transfer Time	データ転送時間。

HTTPS Response Time Status

概要

HTTPS Response Time Status レポートは，最近 24 時間の HTTPS に関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

HTTPS (PI_HTPS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバとの間に SSL によって保護されたコネクションを確立し，そのコネクション上で指定した URL に対して HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。

HTTPS Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

HTTPS Response Time Status レポートは，HTTPS に関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

HTTPS (PI_HTPS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバとの間に SSL によって保護されたコネクションを確立し，そのコネクション上で指定した URL に対して HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

HTTPS Response Time Summary

概要

HTTPS Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の HTTPS に関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

HTTPS (PI_HTPS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバとの間に SSL によって保護されたコネクションを確立し，そのコネクション上で指定した URL に対して HTTPS リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

HTTPS Response Time Trend

概要

HTTPS Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の HTTPS に関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

HTTPS (PI_HTPS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバとの間に SSL によって保護されたコネクションを確立し，そのコネクション上で指定した URL に対して HTTPS リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。

HTTPS Top 10

概要

HTTPS Top 10 レポートは，各 HTTPS サービスの総応答時間が長い上位 10 個を表示します。

表示形式

集合横棒グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

HTTPS (PI_HTPS)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバとの間に SSL によって保護されたコネクションを確立し，そのコネクション上で指定した URL に対して HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録に掛かった時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
HTTPS Rate	HTTPS の各詳細時間が占める割合。

IE Scenario Detail

概要

IE Scenario Detail レポートは，IE シナリオのスコープごとの総再生時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

集合縦棒グラフ

グラフのプロパティのデータラベル 1
　Measurement Condition Name

グラフのプロパティのデータラベル 2
　Scope Name

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

フィルタ条件式

Total Replay Time <> "0"

AND Scope ID <> "0"

レコード

IE Scenario(PI_IES)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Total Replay Time	一連の IE シナリオの総再生所要時間（スコープごとの時間）。

IE Scenario Logged Message

概要

IE Scenario Logged Message レポートは，最近 1 時間のイベントログやログファイルに書き込まれたメッセージについての履歴情報を表示します。

表示形式

表および一覧

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

Logged Message for IE Scenario(PL_IESM)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Sequence Number	メッセージ出力時に再生していた操作の操作番号。
IE Scenario Result Code	操作の再生結果のコード。
IE Scenario Result Message	操作の再生結果のメッセージテキスト。
IE Scenario Result Detail	操作の再生結果の詳細テキスト。

IE Scenario Replay Time Status

概要

IE Scenario Replay Time Status レポートは，最近 24 時間の IE シナリオに関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

グラフのプロパティの Y 軸
　Total Replay Time

グラフのプロパティのデータラベル 1
　Measurement Condition Name

グラフのプロパティのデータラベル 2
　Scope Name

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

フィルタ条件式

Total Replay Time > "0"

レコード

IE Scenario (PI_IES)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。

IE Scenario Replay Time Status（リアルタイムレポート）

概要

IE Scenario Replay Time Status レポートは，IE シナリオに関する再生時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

グラフのプロパティの Y 軸
　Total Replay Time

グラフのプロパティのデータラベル 1
　Measurement Condition Name

グラフのプロパティのデータラベル 2
　Scope Name

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

フィルタ条件式

Total Replay Time > "0"

レコード

IE Scenario (PI_IES)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Total Replay Time	一連の IE シナリオの総再生所要時間（IE シナリオ全体の時間）。
Result Strings	計測結果。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
IE Scenario Detail	IE Scenario のスコープの詳細情報。

レポート名	説明
IE Scenario Scope Rate	各 IE Scenario 中の各スコープの割合情報。
IE Scenario Top 10	IE Scenario の総再生時間が長い上位レポート情報。

IE Scenario Replay Time Summary

概要

IE Scenario Replay Time Summary レポートは，最近 1 時間の IE シナリオに関する再生時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

グラフのプロパティの Y 軸
　Total Replay Time

グラフのプロパティのデータラベル 1
　Measurement Condition Name

グラフのプロパティのデータラベル 2
　Scope Name

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

フィルタ条件式

Total Replay Time > "0"

レコード

IE Scenario (PI_IES)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Total Replay Time	一連の IE シナリオの総再生所要時間（IE シナリオ全体の時間）。
Result Strings	計測結果。

IE Scenario Replay Time Trend

概要

IE Scenario Replay Time Trend レポートは，最近 1 か月間の IE シナリオに関する再生時間を日単位で表示します。

フィルタ条件式

Total Replay Time > "0"

表示形式

表および折れ線グラフ

グラフのプロパティの Y 軸
　Total Replay Time

グラフのプロパティのデータラベル 1
　Measurement Condition Name

グラフのプロパティのデータラベル 2
　Scope Name

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

IE Scenario (PI_IES)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Total Replay Time	一連の IE シナリオの総再生所要時間（IE シナリオ全体の時間）。

IE Scenario Scope Detail

概要

IE Scenario Scope Detail レポートは，IE シナリオ中の各スコープの再生時間を表示します。

表示形式

積み上げ縦棒グラフ

グラフのプロパティの Y 軸
　Total Replay Time

グラフのプロパティのデータラベル 1
　Measurement Condition Name

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

IE Scenario Overview (PI_IESO)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Replay Time 1	スコープ 1 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 2	スコープ 2 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 3	スコープ 3 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 4	スコープ 4 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 5	スコープ 5 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 6	スコープ 6 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 7	スコープ 7 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 8	スコープ 8 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 9	スコープ 9 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 10	スコープ 10 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 11	スコープ 11 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 12	スコープ 12 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 13	スコープ 13 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。

フィールド名	説明
Total Replay Time 14	スコープ 14 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 15	スコープ 15 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 16	スコープ 16 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
IE Scenario Detail	IE Scenario のスコープの詳細情報。

IE Scenario Scope Rate

概要

IE Scenario Scope Rate レポートは，IE シナリオ中の各スコープがどれくらいの割合を占めているのかを表示します。

表示形式

円グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

IE Scenario Overview (PI_IESO)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Replay Time 1	スコープ 1 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 2	スコープ 2 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 3	スコープ 3 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 4	スコープ 4 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 5	スコープ 5 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 6	スコープ 6 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 7	スコープ 7 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 8	スコープ 8 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 9	スコープ 9 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 10	スコープ 10 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 11	スコープ 11 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 12	スコープ 12 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 13	スコープ 13 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 14	スコープ 14 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 15	スコープ 15 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。
Total Replay Time 16	スコープ 16 で指定された一連の IE シナリオの総再生所要時間。

IE Scenario Top 10

概要

IE Scenario Top 10 レポートは，IE シナリオの総再生時間が長い上位 10 個を表示します。

表示設定の降順チェックボックス

要チェック

表示形式

集合横棒グラフ

グラフのプロパティの Y 軸
　Total Replay Time

グラフのプロパティのデータラベル 1
　Measurement Condition Name

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

IE Scenario Overview (PI_IESO)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Replay Time	一連の IE シナリオの総再生所要時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
IE Scenario Detail	IE Scenario の詳細情報。

ドリルダウン条件式

レポート名	条件式
IE Scenario Detail	(Total Replay Time <> "0" AND Measurement Condition ID = metric("Measurement Condition ID"))AND Scope Id <> "0"

IMAP4 Rate

概要

IMAP4 Rate レポートは，IMAP4 の各詳細時間の割合をリアルタイムで表示します。このレポートは，ドリルダウンレポートです。

表示形式

一覧および円グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

レコード

IMAP4 (PI_IMP4)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
DNS Time	DNS 時間。
TCP Connection Time	TCP 接続時間。
Preprocessing Time	前処理時間。
Data Transfer Time	データ転送時間。
Deletion Time	削除時間。

IMAP4 Response Time Status

概要

IMAP4 Response Time Status レポートは，最近 24 時間の IMAP4 に関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

IMAP4 (PI_IMP4)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いた INBOX にある新着メールの受信が完了するまでに掛かった時間。

IMAP4 Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

IMAP4 Response Time Status レポートは，IMAP4 に関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

IMAP4 (PI_IMP4)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いた INBOX にある新着メールの受信が完了するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

IMAP4 Response Time Summary

概要

IMAP4 Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の IMAP4 に関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

IMAP4 (PI_IMP4)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いた INBOX にある新着メールの受信が完了するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

IMAP4 Response Time Trend

概要

IMAP4 Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の IMAP4 に関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

IMAP4 (PI_IMP4)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いた INBOX にある新着メールの受信が完了するまでに掛かった時間。

IMAP4 Top 10

概要

IMAP4 Top 10 レポートは，各 IMAP4 サービスの総応答時間が長い上位 10 個を表示します。

表示形式

集合横棒グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

IMAP4 (PI_IMP4)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いた INBOX にある新着メールの受信が完了するまでに掛かった時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
IMAP4 Rate	IMAP4 の各詳細時間が占める割合。

POP3 Rate

概要

POP3 Rate レポートは，POP3 の各詳細時間の割合をリアルタイムで表示します。このレポートは，ドリルダウンレポートです。

表示形式

一覧および円グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

レコード

POP3 (PI_POP3)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
DNS Time	DNS 時間。
TCP Connection Time	TCP 接続時間。
Preprocessing Time	前処理時間。
Data Transfer Time	データ転送時間。
Deletion Time	削除時間。

POP3 Response Time Status

概要

POP3 Response Time Status レポートは，最近 24 時間の POP3 に関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

POP3 (PI_POP3)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いたメールの受信が完了するまでに掛かった時間。

POP3 Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

POP3 Response Time Status レポートは，POP3 に関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

POP3 (PI_POP3)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いたメールの受信が完了するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

POP3 Response Time Summary

概要

POP3 Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の POP3 に関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

POP3 (PI_POP3)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いたメールの受信が完了するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

POP3 Response Time Trend

概要

POP3 Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の POP3 に関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

POP3 (PI_POP3)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いたメールの受信が完了するまでに掛かった時間。

POP3 Top 10

概要

POP3 Top 10 レポートは，各 POP3 サービスの総応答時間が長い上位 10 個を表示します。

表示形式

集合横棒グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

POP3 (PI_POP3)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定されたユーザー宛てに届いたメールの受信が完了するまでに掛かった時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
POP3 Rate	POP3 の各詳細時間が占める割合。

Scope Detail

概要

Scope Detail レポートは，Web トランザクションの各スコープの詳細をリアルタイムで表示します。このレポートは，ドリルダウンレポートです。

表示形式

一覧

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

レコード

Web Transaction (PI_WT)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Measurement Start Time	計測のリザルトコードに対応した文字列。
Total Response Time	複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間（スコープごとの時間）。
Setup Time	セットアップ時間。
HTTP Time	HTTP 時間。
DNS Time	DNS 時間。
TCP Connection Time	TCP 接続時間。
Server Processing Time	サーバ処理時間。
Data Transfer Time	データ転送時間。
Total Amount of Data	総データ量。
Total Resource Size	総リソースサイズ。
Throughput	スループット。
Result Strings	計測開始時間。

SMTP Rate

概要

SMTP Rate レポートは，SMTP の各詳細時間の割合をリアルタイムで表示します。このレポートは，ドリルダウンレポートです。

表示形式

一覧および円グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

レコード

SMTP (PI_SMTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
DNS Time	DNS 時間。
TCP Connection Time	TCP 接続時間。
Preprocessing Time	前処理時間。
Data Transfer Time	データ転送時間。

SMTP Response Time Status

概要

SMTP Response Time Status レポートは，最近 24 時間の SMTP に関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

SMTP (PI_SMTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバへのメール送信が完了するまでに掛かった時間，指定したメッセージサイズの本文を生成し，宛先アドレスに対してメッセージ送信が完了するまでに掛かった時間。

SMTP Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

SMTP Response Time Status レポートは，SMTP に関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

SMTP (PI_SMTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバへのメール送信が完了するまでに掛かった時間，指定したメッセージサイズの本文を生成し，宛先アドレスに対してメッセージ送信が完了するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

SMTP Response Time Summary

概要

SMTP Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の SMTP に関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

SMTP (PI_SMTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	指定したメッセージサイズの本文を生成し，宛先アドレスに対してメッセージ送信が完了するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

SMTP Response Time Trend

概要

SMTP Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の SMTP に関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

SMTP (PI_SMTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバへのメール送信が完了するまでに掛かった時間，指定したメッセージサイズの本文を生成し，宛先アドレスに対してメッセージ送信が完了するまでに掛かった時間。

SMTP Top 10

概要

SMTP Top 10 レポートは，各 SMTP サービスの総応答時間が長い上位 10 個を表示します。

表示形式

集合横棒グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

SMTP (PI_SMTP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバへのメール送信が完了するまでに掛かった時間，指定したメッセージサイズの本文を生成し，宛先アドレスに対してメッセージ送信が完了するまでに掛かった時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
SMTP Rate	SMTP の各詳細時間が占める割合。

TCP Response Time Status

概要

TCP Response Time Status レポートは，最近 24 時間の TCP に関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

TCP (PI_TCP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバとのコネクションを確立するまでに掛かった時間。

TCP Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

TCP Response Time Status レポートは，TCP に関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

TCP (PI_TCP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバとのコネクションを確立するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

TCP Response Time Summary

概要

TCP Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の TCP に関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

TCP (PI_TCP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバとのコネクションを確立するまでに掛かった時間。
Result Strings	計測結果。

TCP Response Time Trend

概要

TCP Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の TCP に関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

TCP (PI_TCP)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	計測対象サーバとのコネクションを確立するまでに掛かった時間。

Transaction Detail

概要

Transaction Detail レポートは，Web トランザクションの各トランザクションのスコープごとの総応答時間をリアルタイムで表示します。このレポートは，ドリルダウンレポートです。

表示形式

集合縦棒グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time/Drilldown Only

レコード

Web Transaction (PI_WT)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Total Response Time	複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間（スコープごとの時間）。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
Scope Detail	スコープの詳細情報。

User Defined Service Response Time Status

概要

User Defined Service Response Time Status レポートは，最近 24 時間のユーザー定義サービスに関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

User Defined Service (PI_UDEF)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	ユーザーが定義した応答時間などを計測するプログラムの計測結果。

User Defined Service Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

User Defined Service Response Time Status レポートは，ユーザー定義サービスに関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

User Defined Service (PI_UDEF)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	ユーザーが定義した応答時間などを計測するプログラムの計測結果。
Result Strings	計測結果。

User Defined Service Response Time Summary

概要

User Defined Service Response Time Summary レポートは，最近 1 時間のユーザー定義サービスに関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

User Defined Service (PI_UDEF)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	ユーザーが定義した応答時間などを計測するプログラムの計測結果。
Result Strings	計測結果。

User Defined Service Response Time Trend

概要

User Defined Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間のユーザー定義サービスに関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

User Defined Service (PI_UDEF)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	ユーザーが定義した応答時間などを計測するプログラムの計測結果。

Web Transaction Response Time Status

概要

Web Transaction Response Time Status レポートは，最近 24 時間の Web トランザクションに関する応答時間を 1 時間ごとに集計して表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Daily Trend

レコード

Web Transaction (PI_WT)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Total Response Time	複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間（トランザクション全体の時間）。

Web Transaction Response Time Status（リアルタイムレポート）

概要

Web Transaction Response Time Status レポートは，Web トランザクションに関する応答時間をリアルタイムで表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Status Reporting/Real-Time

レコード

Web Transaction (PI_WT)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Total Response Time	複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間（トランザクション全体の時間）。
Result Strings	計測結果。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
Web Transaction Scope Detail	各 Web トランザクション中の各スコープの応答時間を表示する。
Web Transaction Rate	各 Web トランザクション中の各スコープがどれくらいの割合を占めているのかを表示する。
Web Transaction Top 10	各 Web トランザクションの総応答時間が長い上位 10 個を表示する。

Web Transaction Response Time Summary

概要

Web Transaction Response Time Summary レポートは，最近 1 時間の Web トランザクションに関する応答時間を分単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Recent Past

レコード

Web Transaction (PI_WT)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Total Response Time	複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間（トランザクション全体の時間）。
Result Strings	計測結果。

Web Transaction Response Time Trend

概要

Web Transaction Response Time Trend レポートは，最近 1 か月間の Web トランザクションに関する応答時間を日単位で表示します。

表示形式

表および折れ線グラフ

格納先

Reports/Service Response/Monthly Trend

レコード

Web Transaction (PI_WT)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Scope Name	スコープ名。
Total Response Time	複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間（トランザクション全体の時間）。

Web Transaction Scope Detail

概要

Web Transaction Scope Detail レポートは，各 Web トランザクション中の各スコープの応答時間を表示します。

表示形式

積み上げ棒グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

Web Transaction Overview (PI_WTO)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time 1	スコープ 1 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 2	スコープ 2 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 3	スコープ 3 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 4	スコープ 4 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 5	スコープ 5 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 6	スコープ 6 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 7	スコープ 7 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 8	スコープ 8 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
Scope Detail	スコープの詳細情報。

Web Transaction Scope Rate

概要

Web Transaction Scope Rate レポートは，各 Web トランザクション中の各スコープがどれくらいの割合を占めているのかを表示します。

表示形式

円グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

Web Transaction Overview (PI_WTO)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time 1	スコープ 1 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 2	スコープ 2 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 3	スコープ 3 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 4	スコープ 4 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 5	スコープ 5 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 6	スコープ 6 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 7	スコープ 7 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。
Total Response Time 8	スコープ 8 で指定された複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
Scope Detail	スコープの詳細情報。

Web Transaction Top 10

概要

Web Transaction Top 10 レポートは，各 Web トランザクションの総応答時間が長い上位 10 個を表示します。

表示形式

集合横棒グラフ

格納先

Reports/Service Response/Troubleshooting/Real-Time

レコード

Web Transaction Overview (PI_WTO)

フィールド

フィールド名	説明
Measurement Condition Name	計測条件 ID に対応したラベル。
Total Response Time	複数の HTTP または HTTPS のリクエスト・レスポンスから成る一連の遷移に掛かった時間。

ドリルダウンレポート（フィールドレベル）

レポート名	説明
Transaction Detail	スコープごとの総応答時間情報。

9 レコード

この章では，PFM - Agent for Service Response のレコードについて説明します。各レコードのパフォーマンスデータの収集方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の Performance Management の機能，または「JP1/Performance Management 運用ガイド」の稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

データモデルについて

レコードの記載形式

ODBC **キーフィールド一覧**

要約ルール

データ型一覧

フィールドの値

Store **データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド**

共通フィールド

レコード一覧

データモデルについて

各 PFM - Agent が持つレコードおよびフィールドの総称を「データモデル」と呼びます。各 PFM - Agent と，その PFM - Agent が持つデータモデルには，それぞれ固有のバージョン番号が付与されています。PFM - Agent for Service Response のデータモデルのバージョンについては，「付録 H　バージョン互換」を参照してください。

各 PFM - Agent のデータモデルのバージョンは，PFM - Web Console のアラームの監視テンプレート，レポートおよびアラームを定義する画面などに表示されます。

データモデルについては，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

レコードの記載形式

この章では，PFM - Agent for Service Response のレコードをアルファベット順に記載しています。各レコードの説明は，次の項目から構成されています。

機能

各レコードに格納されるパフォーマンスデータの概要および注意事項について説明します。

デフォルト値および変更できる値

各レコードに設定されているパフォーマンスデータの収集条件のデフォルト値およびユーザーが変更できる値を表で示します。「デフォルト値および変更できる値」に記載している項目とその意味を次の表に示します。この表で示す各項目については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

表 9-1　デフォルト値および変更できる値

項目	意味	変更可否
Collection Interval	パフォーマンスデータの収集間隔（秒単位）。	○：変更できる ×：変更できない
Collection Offset	パフォーマンスデータの収集を開始するオフセット値（秒単位）。オフセット値については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。 また，パフォーマンスデータの収集開始時刻については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management の機能について説明している章を参照のこと。	
Log	収集したパフォーマンスデータを Store データベースに記録するかどうか。 Yes：記録する。ただし，「Collection Interval=0」の場合，記録しない。 No：記録しない。	
LOGIF	収集したパフォーマンスデータを Store データベースに記録するかどうかの条件。	

ODBC キーフィールド

PFM - Manager で，SQL を使用して Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合に必要な ODBC キーフィールドを示します。ODBC キーフィールドには，各レコード共通のものと各レコード固有のものとがあります。ここで示すのは，各レコード固有の ODBC キーフィールドです。複数インスタンスレコードだけが，固有の ODBC キーフィールドを持っています。

各レコード共通の ODBC キーフィールドについては，この章の「ODBC キーフィールド一覧」を参照してください。ODBC キーフィールドの使用方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，ODBC 準拠のアプリケーションプログラムと連携した稼働分析について説明している章を参照してください。

ライフタイム

各レコードに収集されるパフォーマンスデータの一貫性が保証される期間を示します。ライフタイムについては，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

レコードサイズ

1 回の収集で各レコードに格納されるパフォーマンスデータの容量を示します。

フィールド

各レコードのフィールドについて表で説明します。表の各項目について次に説明します。

● View 名（Manager 名）

- View 名
  PFM - Web Console で表示されるフィールド名（PFM - View 名）を示します。
- Manager 名
  PFM - Manager で，SQL を使用して Store データベースに格納されているフィールドのデータを利用する場合，SQL 文で記述するフィールド名（PFM - Manager 名）を示します。
  SQL 文では，先頭に各レコードのレコード ID を付加した形式で記述します。例えば，DNS（PI_DNS）レコードの Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）フィールドの場合，「PI_DNS_TOTAL_RESP_TIME」と記述します。

● 説明
各フィールドに格納されるパフォーマンスデータについて説明します。

● 要約
Agent Store がデータを要約するときの方法（要約ルール）を示します。要約ルールについては，この章の「要約ルール」を参照してください。

● 形式
char 型や float 型など，各フィールドの値のデータ型を示します。データ型については，この章の「データ型一覧」を参照してください。

● デルタ
累積値として収集するデータに対し，変化量でデータを表すことを「デルタ」と呼びます。デルタについては，この章の「フィールドの値」を参照してください。

● データソース

該当するフィールドの値の計算方法または取得先を示します。フィールドの値については，この章の「フィールドの値」を参照してください。

ODBC キーフィールド一覧

ODBC キーフィールドには，各レコード共通のものと各レコード固有のものとがあります。ここで示すのは，各レコード共通の ODBC キーフィールドです。PFM - Manager で，SQL を使用して Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合，ODBC キーフィールドが必要です。

各レコード共通の ODBC キーフィールド一覧を次の表に示します。各レコード固有の ODBC キーフィールドについては，各レコードの説明を参照してください。

表 9-2　各レコード共通の ODBC キーフィールド一覧

ODBC キーフィールド	ODBC フォーマット	データ	説明
レコード ID_DATE	SQL_INTEGER	内部	レコードが生成された日付を表すレコードのキー。
レコード ID_DATETIME	SQL_INTEGER	内部	**レコード** ID_DATE フィールドと**レコード** ID_TIME フィールドの組み合わせ。
レコード ID_DEVICEID	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent が動作しているホスト名。
レコード ID_DRAWER_TYPE	SQL_VARCHAR	内部	区分。有効な値を次に示す。 m：分 H：時 D：日 W：週 M：月 Y：年
レコード ID_PROD_INST	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent のインスタンス名。
レコード ID_PRODID	SQL_VARCHAR	内部	PFM - Agent のプロダクト ID。
レコード ID_RECORD_TYPE	SQL_VARCHAR	内部	レコードタイプを表す識別子（4 バイト）。
レコード ID_TIME	SQL_INTEGER	内部	レコードが生成された時刻（グリニッジ標準時）。

要約ルール

PI レコードタイプのレコードでは，Collection Interval に設定された間隔で収集されるデータと，あらかじめ定義されたルールに基づき一定の期間（分，時，日，週，月，または年単位）ごとに要約されたデータが，Store データベースに格納されます。要約の種類はフィールドごとに定義されています。この定義を「要約ルール」と呼びます。

要約ルールによっては，要約期間中の中間データを保持する必要のあるものがあります。この場合，中間データを保持するためのフィールドが Store データベース内のレコードに追加されます。このフィールドを「追加フィールド」と呼びます。追加フィールドの一部は，PFM - Web Console でレコードのフィールドとして表示されます。PFM - Web Console に表示される追加フィールドは，履歴レポートに表示するフィールドとして使用できます。

なお，要約によって追加される「追加フィールド」と区別するために，ここでは，この章の各レコードの説明に記載されているフィールドを「固有フィールド」と呼びます。

追加フィールドのフィールド名は次のようになります。

- Store データベースに格納される追加フィールド名
  固有フィールドの Manager 名にサフィックスが付加されたフィールド名になります。
- PFM - Web Console で表示される追加フィールド名
  固有フィールドの View 名にサフィックスが付加されたフィールド名になります。

Manager 名に付加されるサフィックスと，それに対応する View 名に付加されるサフィックス，およびフィールドに格納されるデータを次の表に示します。

表 9-3　追加フィールドのサフィックス一覧

Manager 名	View 名	格納データ
_TOTAL	(Total)	要約期間内のレコードのフィールドの値の総和
_COUNT	－	要約期間内の収集レコード数
_HI	(Max)	要約期間内のレコードのフィールド値の最大値
_LO	(Min)	要約期間内のレコードのフィールド値の最小値

（凡例）
　－：追加フィールドがないことを示します。

要約ルールの一覧を次の表に示します。

表 9-4　要約ルール一覧

要約ルール名	要約ルール
COPY	要約期間内の最新のレコードのフィールド値がそのまま格納される。

要約ルール名	要約ルール
AVG	要約期間内のフィールド値の平均値が格納される。 次に計算式を示す。 (フィールド値の総和) / (収集レコード数) 追加フィールド（Store データベース） • _TOTAL • _COUNT 追加フィールド（PFM - Web Console） • (Total)
－	要約されないことを示す。

データ型一覧

各フィールドの値のデータ型と，対応する C および C++ のデータ型の一覧を次の表に示します。この表で示す「データ型」の「フィールド」の値は，各レコードのフィールドの表にある「形式」の列に示されています。

表 9-5　データ型一覧

データ型		サイズ（バイト）	説明
フィールド	C および C++		
char(n)	char( )	( ) 内の数	n バイトの長さを持つ文字データ。
double	double	8	数値（1.7E ± 308（15 桁））。
float	float	4	数値（3.4E ± 38（7 桁））。
long	long	4	数値（-2,147,483,648 ～ 2,147,483,647）。
short	short	2	数値（-32,768 ～ 32,767）。
string(n)	char[ ]	( ) 内の数	n バイトの長さを持つ文字列。最後の文字は，「null」。
time_t	unsigned long	4	数値（0 ～ 4,294,967,295）。
timeval	構造体	8	数値（最初の 4 バイトは秒，次の 4 バイトはマイクロ秒を表す）。
ulong	unsigned long	4	数値（0 ～ 4,294,967,295）。
utime	構造体	8	数値（最初の 4 バイトは秒，次の 4 バイトはマイクロ秒を表す）。
word	unsigned short	2	数値（0 ～ 65,535）。
（該当なし）	unsigned char	1	数値（0 ～ 255）。

フィールドの値

ここでは，各フィールドに格納される値について説明します。

データソース

各フィールドには，Performance Management や監視対象プログラムから取得した値や，これらの値をある計算式に基づいて計算した値が格納されます。各フィールド値の取得先または計算方法は，フィールドの表の「データソース」列で示します。

PFM - Agent for Service Response の場合，各フィールドの値は IE Probe Daemon および Probe Daemon によって計測された結果となっています。

デルタ

累積値として収集するデータに対し，変化量でデータを表すことを「デルタ」と呼びます。例えば，1 回目に収集されたパフォーマンスデータが「3」，2 回目に収集されたパフォーマンスデータが「4」とすると，累積値の場合は「7」，変化量の場合は「1」が格納されます。各フィールドの値がデルタかどうかは，フィールドの表の「デルタ」列で示します。

PFM - Agent for Service Response で収集されるパフォーマンスデータは，次の表のように異なります。

表 9-6　PFM - Agent for Service Response で収集されるパフォーマンスデータ

レコードタイプ	デルタ	データ種別	［デルタ値で表示］のチェック※	レコードの値
PI レコードタイプ	Yes	—	—	—
	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		・履歴データ ・アラームの監視データ	—	収集時点の値が表示される。
PD レコードタイプ	Yes	—	—	—
		・履歴データ ・アラームの監視データ	—	累積値が表示される。
	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		・履歴データ ・アラームの監視データ	—	収集時点の値が表示される。

レコードタイプ	デルタ	データ種別	［デルタ値で表示］のチェック※	レコードの値
PL レコードタイプ	No	リアルタイムデータ	あり	収集時点の値が表示される。
			なし	収集時点の値が表示される。
		・履歴データ ・アラームの監視データ	―	収集時点の値が表示される。

（凡例）

―：該当しません。

注※

次に示す PFM - Web Console の項目がチェックされているかどうかを示します。

- レポートウィザードの［新規レポート > 表示設定（リアルタイムレポート）］画面の［デルタ値で表示］
- レポートウィンドウの［Properties］タブの［表示設定（リアルタイムレポート）］の［デルタ値で表示］

Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド

Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールドを次の表に示します。

表 9-7 Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド

View 名（Manager 名）	説明	形式	デルタ	サポートバージョン	データソース
Agent Host（DEVICEID）	PFM - Agent が動作しているホスト名。	string(256)	No	すべて	－
Agent Instance（PROD_INST）	PFM - Agent が動作しているホスト名。	string(256)	No	すべて	－
Agent Type（PRODID）	PFM - Agent のプロダクト ID。1 バイトの識別子で表される。	char	No	すべて	－
Date（DATE）	レコードが作成された日。グリニッジ標準時※1,※2。	char(3)	No	すべて	－
Date and Time（DATETIME）	Date（DATE）フィールドと Time（TIME）フィールドの組み合わせ※2。	char(6)	No	すべて	－
Drawer Type（DRAWER_TYPE）	PI レコードタイプのレコードの場合，データが要約される区分。PFM - Web Console のレポートで表示する場合と ODBC ドライバを使用して表示する場合とで，区分の表示が異なる※3。	char	No	すべて	－
GMT Offset（GMT_ADJUST）	グリニッジ標準時とローカル時間の差。秒単位。	long	No	すべて	－
Time（TIME）	レコードが作成された時刻。グリニッジ標準時※1,※2。	char(3)	No	すべて	－

（凡例）

－：取得したパフォーマンスデータを加工してフィールドの値を設定していないことを意味します。

注※1

PI レコードタイプのレコードでは，データが要約されるため，要約される際の基準となる時刻が設定されます。レコード区分ごとの設定値を次の表に示します。

表 9-8 レコード区分ごとの設定値

区分	レコード区分ごとの設定値
分	レコードが作成された時刻の 0 秒
時	レコードが作成された時刻の 0 分 0 秒
日	レコードが作成された日の 0 時 0 分 0 秒
週	レコードが作成された週の月曜日の 0 時 0 分 0 秒
月	レコードが作成された月の 1 日の 0 時 0 分 0 秒
年	レコードが作成された年の 1 月 1 日の 0 時 0 分 0 秒

注※ 2

レポートや ODBC ドライバによるデータ表示の場合，次の形式で表示されます。

- "Date" フィールドの場合：YYYYMMDD 形式
- "Date and Time" フィールドの場合：YYYYMMDD hh:mm:ss 形式
- "Time" フィールドの場合：hh:mm:ss 形式

注※ 3

PFM - Web Console のレポートで表示する場合と ODBC ドライバを使用して表示する場合の違いを次の表に示します。

表 9-9 表示方法によるデータ要約区分の違い

区分	PFM - Web Console	ODBC ドライバ
分	Minute	m
時	Hour	H
日	Day	D
週	Week	W
月	Month	M
年	Year	Y

共通フィールド

PFM - Agent for Service Response の各レコードに共通のフィールドを次の表に示します。

PFM - Agent for Service Response のレコードは，各レコードが持っているフィールド以外に，レコード共通フィールドとして，次の表に示すフィールドを持ちます。

表 9-10　共通フィールド一覧（PD レコード，PI レコード，PL レコード共通）

View 名（Manager 名）	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Interval（INTERVAL）	レコード収集間隔。	ADD	ulong	Yes	Agent Collector
Record Time（RECORD_TIME）	レコードが作成された時刻。	COPY	time_t	No	Agent Collector
Record Type（INPUT_RECORD_TYPE）	「表 9-14」に示すレコード ID（PD（I，L）_XXXX）の XXXX 部分が設定される。	COPY	string(8)	No	Agent Collector

PI レコードにだけ共通のフィールドを次の表に示します。

表 9-11　共通フィールド（PI レコードだけ）

View 名（Manager 名）	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Measurement Start Time（MSR_START_TIME）	計測開始時刻。	COPY	time_t	No	Probe Daemon および IE Probe Daemon ※1
Measurement Condition ID（MSR_COND_ID）	計測条件 ID。	COPY	long	No	Probe Daemon および IE Probe Daemon ※1

View 名（Manager 名）	説明	要約	形式	デルタ	データソース
Measurement Condition Name（MSR_COND_NAME）	計測条件に対応したラベル（任意の名称）。次の順にラベルを検索し，先に見つかった定義が格納される。 1. 計測条件登録ファイルに定義されたラベル 2. 計測条件ラベル定義ファイルに定義されたラベル どちらにも定義されていない場合は，「サービスタイプ名 _ 計測条件 ID」が格納される。	COPY	string（63 バイト以内）	No	Probe Daemon および IE Probe Daemon ※1
Result Code（RESULT_CODE）	計測のリザルトコード※2。	COPY	short	No	Probe Daemon および IE Probe Daemon ※1
Result Strings（RESULT_STR）	計測のリザルトコードに対応した文字列※2。	COPY	string（31 バイト以内）	No	Probe Daemon および IE Probe Daemon ※1
Service Type ID（SERV_TYPE_ID）	サービスタイプ ID ※3。	COPY	short	No	Probe Daemon および IE Probe Daemon ※1
Service Type Name（SERV_TYPE_NAME）	サービスタイプ名。	COPY	string（31 バイト以内）	No	Probe Daemon および IE Probe Daemon ※1

注※ 1

IE Scenario(PI_IE) レコード，IE Scenario Overview(PI_IEO) レコード，および Logged Message for IE Scenario(PL_IESM) レコードの場合は「IE Probe Daemon」となります。上記以外の場合は「Probe Daemon」となります。

注※ 2

リザルトコードおよびリザルトコードに対応する文字列を次の表に示します。
エラー内容の詳細については，統合トレースログを参照してください。

表 9-12　リザルトコード

値	コード	文字列	説明
0	成功	SUCCESS	計測が正常に終了した。

値	コード	文字列	説明
1	ネットワークエラー	NETWORK ERROR	ネットワークまたはサーバの障害などによって，通信処理でエラーが発生した。 (例) • DNS で名前解決に失敗した • TCP のコネクションに失敗した • TCP のクローズ処理に失敗した • Web サーバが停止していた
2	タイムアウト	TIME OUT	指定されたタイムアウト時間以内に処理が完了できない。
3	サービスエラー	SERVICE ERROR	サーバは正しく動作していても，要求したページやファイルが取得できない。 (例) • ユーザー名またはパスワードが誤っている
4	ユーザー定義コマンドエラー	USER_DEF_COMMAND ERROR	ユーザー定義コマンドが実行できないプログラムなど，ユーザー定義コマンドによってエラーが発生した。
5	応答内容不整合	UNMATCHED CONTENT	IE シナリオおよび Web トランザクションで取得したページが指定された条件（レスポンス判定情報）に一致していない。
6	IE シナリオ再生エラー	IE SCENARIO REPLAY ERROR	IE シナリオ再生時にエラーが発生した。 (例) • 記録時に操作したタグが見つからない • フレームが見つからない • 記録されていないダイアログが出現した 詳細については，「4.2.3(3)　記録・再生に関する注意事項」を参照してください。
7	IE シナリオナビゲーションエラー	IE SCENARIO NAVIGATE ERROR	IE シナリオの再生でナビゲーションエラーが発生した。 詳細については，「4.2.4　ナビゲーションに関する注意事項」を参照してください。
99	その他	OTHER ERROR	上記以外のエラー (例) • 計測時にメモリー不足が発生した • 予期しないエラーが発生した

注※ 3

サービスタイプ ID を次の表に示します。

表 9-13 サービスタイプ ID

サービス	サービスタイプ名	サービスタイプ ID
HTTP	HTTP	101
HTTPS	HTTPS	102
SMTP	SMTP	103
POP3	POP3	104
IMAP4	IMAP4	105
DNS	DNS	106
DHCP	DHCP	107
FTP	FTP	108
TCP	TCP	109
Web トランザクション	WEBTRANS	110
IE シナリオ	IESCENA	111
ユーザー定義サービス	USERSERV	199

レコード一覧

PFM - Agent for Service Response で収集できるレコードおよびそのレコードに格納される情報を，レコード名（View 名）順で次の表に示します。

表 9-14　PFM - Agent for Service Response のレコード一覧（レコード名順）

レコード名 (View 名)	レコード ID (Manager 名)	格納される情報
DHCP	PI_DHCP	DHCP サービスに関する応答時間の情報。
DNS	PI_DNS	DNS サービスに関する応答時間の情報。
FTP	PI_FTP	FTP サービスに関する応答時間の情報。
HTTP	PI_HTP	HTTP サービスに関する応答時間の情報。
HTTPS	PI_HTPS	HTTPS サービスに関する応答時間の情報。
IE Scenario	PI_IES	IE シナリオに関する各スコープの再生時間の情報。
IE Scenario Overview	PI_IESO	IE シナリオ全体で各スコープの再生時間をまとめた情報。
IMAP4	PI_IMP4	IMAP4 サービスに関する応答時間の情報。
Logged Message for IE Scenario	PL_IESM	イベントログやログファイルに書き込まれたメッセージ情報。
POP3	PI_POP3	POP3 サービスに関する応答時間の情報。
Service Summary Interval	PI_PI	各サービスに関する応答時間の情報。
SMTP	PI_SMTP	SMTP サービスに関する応答時間の情報。
TCP	PI_TCP	TCP サービスに関する応答時間の情報。
User Defined Service	PI_UDEF	ユーザー定義サービスに関する応答時間の情報。
Web Transaction	PI_WT	Web トランザクションサービスに関するスコープごとの応答時間の情報。
Web Transaction Overview	PI_WTO	Web トランザクションのトランザクション単位で各スコープの応答時間をまとめた情報。
Product Detail	PD_PD	予約レコードのため使用できない。

DHCP（PI_DHCP）

機能

DHCP（PI_DHCP）レコードには，DHCP サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_DHCP_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：220 バイト

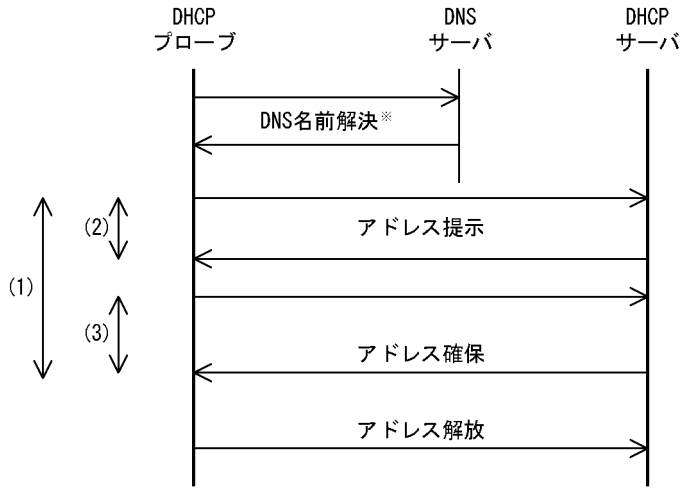
フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Address Assignment Time（ADDR_ASSIGN_TIME）	アドレス提示時間（秒）。図 9-1 の（2）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Address Reservation Time（ADDR_RESERV_TIME）	アドレス確保時間（秒）。図 9-1 の（3）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	DHCP プローブと監視対象サーバが UDP 上でやり取りした総データ量（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。図 9-1 の（1）。	AVG	double	No	Probe Daemon

DHCP シーケンスを次の図に示します。

図 9-1　DHCP シーケンス



注※　計測条件のDHCPサーバホスト名を，IPアドレスで指定した場合，
DNSによる名前解決は行いません。

DHCP の動作環境および注意事項

DHCP プローブは，計測対象の DHCP サーバを検索し，IP アドレスを動的に取得するまでの時間を計測します。

DHCP の動作環境および注意事項について，次に説明します。

IP アドレスの確保

DHCP プローブは，アドレス提示要求をブロードキャストし，DHCP サーバからアドレス提示を受けます。提示された IP アドレスを受け入れる場合は，図 9-1 のアドレス確保を行います。受け入れない場合はアドレス確保を行いません。

なお，アドレス提示要求，アドレス確保要求，およびそれらの応答はブロードキャストで送信されます。

IP アドレスの解放

IP アドレス確保に成功した場合は，図 9-1 のアドレス解放を行います。提示された IP アドレスを受け入れない場合や，確保に失敗した場合にはアドレス解放を行いません。このアドレス解放のための処理時間は，総応答時間には含まれません。

プローブのポート番号

監視対象の DHCP サーバ側で定義されている DHCP クライアントのポート番号を指定してください。また，プローブのポート番号が同一の計測項目は，複数定義しないでください。

準拠する RFC

- RFC2131：Dynamic Host Configuration Protocol
- RFC2132：DHCP Options and BOOTP Vendor Extensions

RFC に準拠していない機能や制限事項については，前述の注意事項を参照してください。

DNS（PI_DNS）

機能

DNS（PI_DNS）レコードには，DNS サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_DNS_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

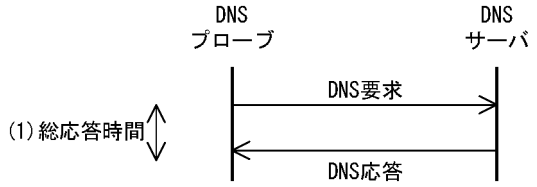
- 固定部：681 バイト
- 可変部：180 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	DNS プローブと計測対象サーバが UDP 上でやり取りした総データ量（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。図 9-2 の（1）。	AVG	double	No	Probe Daemon

DNS シーケンスを次の図に示します。

図 9-2　DNS シーケンス



DNS の動作環境および注意事項

DNS プローブは，指定された検索対象ホスト名に対する IP アドレスを DNS サーバに問い合わせ，応答を受信するまでに掛かった時間を計測します。

DNS の動作環境および注意事項について，次に説明します。

リトライタイムアウト時間

リトライタイムアウト時間は，次の式で自動的に計算されます。

リトライタイムアウト時間＝タイムアウト時間÷（リトライ回数 +1）

検索対象ホスト名の名前解決

検索対象ホスト名の名前解決に失敗し，IP アドレスを求められない場合は，計測が失敗します。

準拠する RFC

- RFC1034：DOMAIN NAMES - CONCEPTS AND FACILITIES
- RFC1035：DOMAIN NAMES - IMPLEMENTATION AND SPECIFICATION

RFC に準拠していない機能や制限事項については，前述の注意事項を参照してください。

FTP（PI_FTP）

機能

FTP（PI_FTP）レコードには，FTP サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_FTP_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：340 バイト

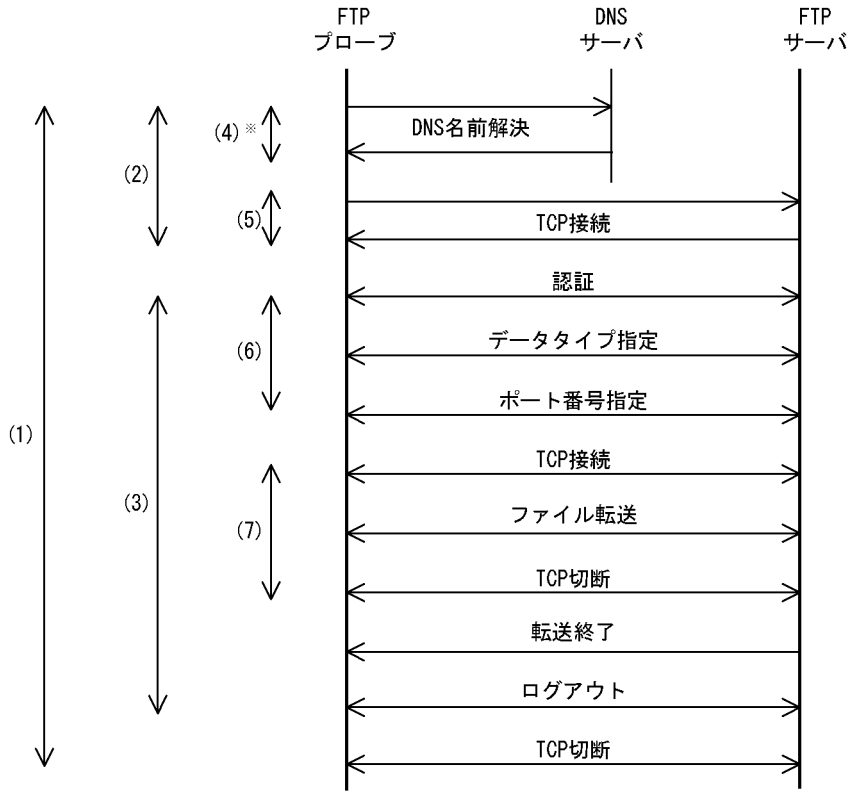
フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Data Transfer Time（DATA_TRANS_TIME）	データ転送時間（秒）。図 9-3 の（7）。	AVG	double	No	Probe Daemon
DNS Time（DNS_TIME）	DNS 時間（秒）。図 9-3 の（4）。	AVG	double	No	Probe Daemon
FTP Time（FTP_TIME）	FTP 時間（秒）。図 9-3 の（3）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Preprocessing Time（PRE_PROCESS_TIME）	前処理時間（秒）。図 9-3 の（6）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Setup Time（SETUP_TIME）	セットアップ時間（秒）。図 9-3 の（2）。	AVG	double	No	Probe Daemon

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
TCP Connection Time（TCP_CON_TIME）	TCP 接続時間（秒）。図 9-3 の（5）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Throughput（THROUGHPUT）	スループット（ビット / 秒）。転送ファイルサイズおよびデータ転送時間によって決まる。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	FTP プローブと計測対象サーバが TCP コネクション上でやり取りした総データ量（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。図 9-3 の（1）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Transfer File Size（TRANS_FILE_SIZE）	転送したファイルサイズ。	AVG	double	No	Probe Daemon

FTP シーケンスを次の図に示します。

図 9-3　FTP **シーケンス**



注※　計測条件のFTPサーバホスト名を，IPアドレスで指定した場合，
DNSによる名前解決は行いません。

FTP の動作環境および注意事項

FTP プローブは，計測対象の FTP サーバに対して，FTP サーバ上の計測用ファイルを取得するか，あらかじめ用意した計測用ファイルを転送し，転送に掛かった時間を測定します。なお，計測用の転送ファイルは，あらかじめ次のフォルダに格納しておきます。

- FTP サーバへの転送
  インストール先フォルダ ¥agtv¥probedata¥ftp
- FTP サーバからの転送
  計測条件で指定したユーザーのホームディレクトリ下

FTP の動作環境および注意事項について，次に説明します。

転送したファイルの扱い

転送したファイルは，転送方向によってそれぞれ次のように扱われます。

UPLOAD

転送先となる FTP サーバのユーザーごとのホームディレクトリ上に置かれたファイルと同じファイル名を転送しようとした場合，常に上書きされます。このため，転送先の計測用ファイルの総データサイズが増加し続けることはありません。

DOWNLOAD

取得したファイルのデータは，1 回の計測が完了するたびに破棄されます。

転送時データタイプ

FTP プローブは，転送時に，ASCII データタイプによる転送だけをサポートします。

準拠する RFC

- RFC959：FILE TRANSFER PROTOCOL（FTP）

RFC に準拠していない機能や制限事項については，前述の注意事項を参照してください。

HTTP（PI_HTP）

機能

HTTP（PI_HTP）レコードには，HTTP サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_HTP_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：360 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
DNS Time（DNS_TIME）	DNS 時間（秒）。図 9-4 の（4）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Data Transfer Time（DATA_TRANS_TIME）	データ転送時間（秒）。図 9-4 の（7）。	AVG	double	No	Probe Daemon
HTTP Time（HTTP_TIME）	HTTP 時間（秒）。図 9-4 の（3）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Request Count（REQ_COUNT）	発行したリクエスト数（回）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Server Processing Time（SERV_PROCESS_TIME）	サーバ処理時間（秒）。図 9-4 の（6）。	AVG	double	No	Probe Daemon

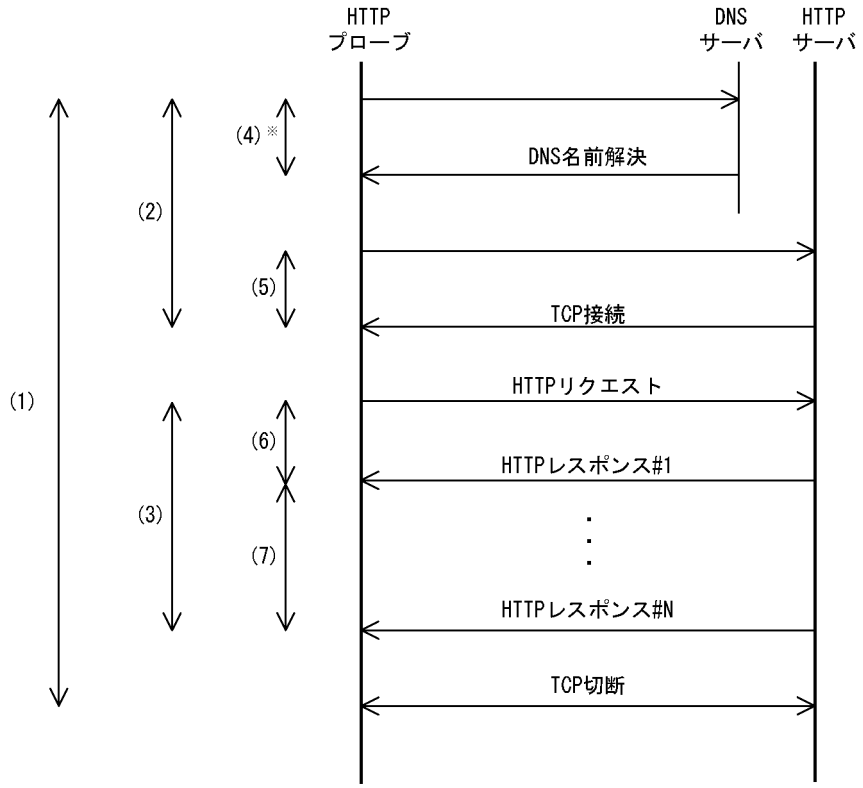
View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Setup Time（SETUP_TIME）	セットアップ時間（秒）。図 9-4 の（2）。	AVG	double	No	Probe Daemon
TCP Connection Time（TCP_CON_TIME）	TCP 接続時間（秒）。図 9-4 の（5）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Throughput（THROUGHPUT）	リソースの転送スループット（ビット / 秒）。総リソースサイズおよびデータ転送時間によって決まる。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	HTTP プローブと計測対象サーバが TCP コネクション上でやり取りした総データ量（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Resource Size（TOTAL_RES_SIZE）	取得した総リソースサイズ（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。図 9-4 の（1）。	AVG	double	No	Probe Daemon

注

計測対象ページに，埋め込みイメージやフレームがあり，計測条件の深さが 2 以上の場合は，計測が複数回実行されます。この時，スループットを除く項目の値は，複数回の計測結果の和になります。

HTTP シーケンスを次の図に示します。

図 9-4　HTTP シーケンス



注※　計測条件のHTTPサーバホスト名を，IPアドレスで指定した場合，
DNSによる名前解決は行いません。

HTTP の動作環境および注意事項

HTTP プローブは，指定された URL に対して HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録を行い，応答時間を計測します。

HTTP の動作環境および注意事項について，次に説明します。

Web 認証

認証方式は基本認証（Basic Authentication）です。

Cookie

Netscape Communication 社の仕様に基づいた Cookie を受け入れます。Cookie として HTTP サーバから送信された情報は計測条件単位で作成する Cookie ファイルに記録されます。Cookie ファイルは計測終了後も削除されないで残るため，同一の計測条件 ID で

計測条件の内容を変更したときに計測が正しく実行できないような場合は，その計測条件 ID に対応する Cookie ファイルを削除してください。Cookie ファイルの命名規則を次に示します。

cookies_< **計測条件** ID>

Cookie ファイルは，次のフォルダに格納されます。

インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥probedata¥http

プログラム実行

プラグイン，JavaScript および Applet はダウンロードされるだけで実行されません。

深さ

例えば，深さに 2 を指定した場合，指定した URL のページの埋め込みリソースやフレームに表示されるページを取得します。ただし，リンクされているページは取得しません。指定した数に対応する分だけ，取得したページまたはフレームに埋め込まれているリソースやフレームの取得を繰り返します。

取得する埋め込みリソースやフレームについては，取得した HTML を解析し，次の表に示すタグおよび属性名の値に指定されているリソースやフレームを取得します。

表 9-15　埋め込みリソースやフレームの取得対象

タグ名	属性名
applet	code
frame	src
iframe	src
img	src
script	src

なお，gzip や compress などで圧縮や変形して応答された HTML に対しては，リソースやフレームは取得されません。

プロキシ利用

指定された URL の Web ページ本体，埋め込みリソース，およびフレームの取得で，プロキシ利用するものとしないものが混在している場合，計測できません。

HTTP **バージョン**

HTTP/1.0 を使用します。

準拠する RFC

- RFC1866 Hypertext Markup Language - 2.0
- RFC2616 Hypertext Transfer Protocol - HTTP/1.1

- RFC2396 Uniform Resource Identifiers (URI): Generic Syntax

RFC に準拠していない機能や制限事項については，前述の注意事項を参照してください。

HTTPS（PI_HTPS）

機能

HTTPS（PI_HTPS）レコードには，HTTPS サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_HTPS_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：360 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Data Transfer Time（DATA_TRANS_TIME）	データ転送時間（秒）。図 9-5 の（7）。	AVG	double	No	Probe Daemon
DNS Time（DNS_TIME）	DNS 時間（秒）。図 9-5 の（4）。	AVG	double	No	Probe Daemon
HTTP Time（HTTP_TIME）	HTTP 時間（秒）。図 9-5 の（3）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Request Count（REQ_COUNT）	発行したリクエスト数（回）	AVG	double	No	Probe Daemon
Server Processing Time（SERV_PROCESS_TIME）	サーバ処理時間（秒）。図 9-5 の（6）。	AVG	double	No	Probe Daemon

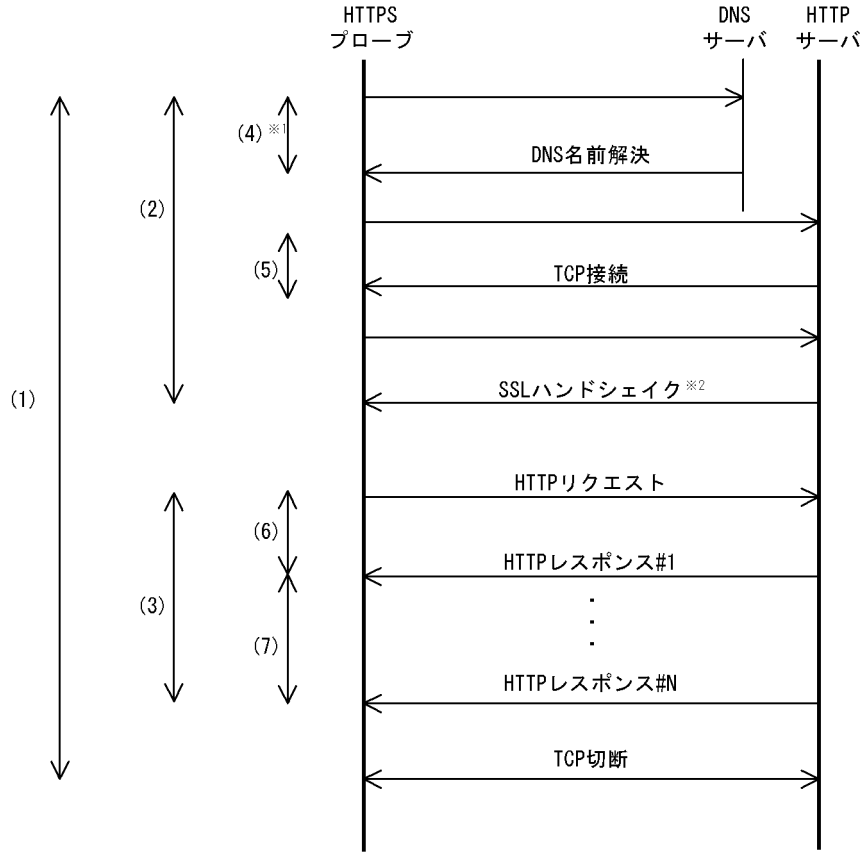
View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Setup Time（SETUP_TIME）	セットアップ時間（秒）。図 9-5 の（2）。	AVG	double	No	Probe Daemon
TCP Connection Time（TCP_CON_TIME）	TCP 接続時間（秒）。SSL コネクション確立の時間も含まれる。図 9-5 の（5）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Throughput（THROUGHPUT）	リソースの転送スループット（ビット / 秒）。総リソースサイズおよびデータ転送時間によって決まる。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	HTTPS プローブと計測対象サーバが TCP コネクション上でやり取りした総データ量（バイト）。SSL で保護されたコネクション上でやり取りした場合は，平文での総データ量で計測される。SSL コネクション確立時のサーバ認証に伴うデータ量は含まない。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Resource Size（TOTAL_RES_SIZE）	取得したリソースサイズ（バイト）	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。図 9-5 の（1）。	AVG	double	No	Probe Daemon

注

計測対象ページに，埋め込みイメージやフレームがあり，計測条件の深さが 2 以上の場合は，計測が複数回実行されます。この時，スループットを除く項目の値は，複数回の計測結果の和になります。

HTTPS シーケンスを次の図に示します。

図 9-5　HTTPS シーケンス



注※1　計測条件のHTTPサーバホスト名を，IPアドレスで指定した場合，
DNSによる名前解決は行いません。

注※2　HTTPの埋め込みリソースやフレームを取得する場合は，実行されません。

HTTPS の動作環境および注意事項

HTTPS プローブは，計測対象サービスを提供するサーバとの間に，SSL によって保護されたコネクションを確立します。そのコネクション上で指定された URL に対して，HTTP リクエストを発行し，GET メソッドによるページの取得または POST メソッドによるデータの登録を行い，応答時間を計測します。なお，SSL コネクション確立時にはサーバ認証を行い，接続先が信頼できる HTTP サーバであるかを確認します。

HTTPS の動作環境および注意事項について，次に説明します。

Web 認証

認証方式は基本認証（Basic Authentication）です。

Cookie

Netscape Communication 社の仕様に基づいた Cookie を受け入れます。Cookie として HTTP サーバから送信された情報は計測条件単位で作成する Cookie ファイルに記録されます。Cookie ファイルは監視終了後も削除されないで残るため，同一の計測条件 ID で計測条件の内容を変更したときに監視が正しく実行できないような場合は，その計測条件 ID に対応する Cookie ファイルを削除してください。Cookie ファイルの命名規則を次に示します。

cookies_<**計測条件** ID>

Cookie ファイルは，次のフォルダに格納されます。

インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥probedata¥http

プログラム実行

プラグイン，JavaScript および Applet はダウンロードされるだけで，実行されません。

深さ

例えば，深さに 2 を指定した場合，指定した URL のページの埋め込みリソースやフレームに表示されるページを取得します。ただし，リンクされているページは取得しません。指定した数に対応する分だけ，取得したページまたはフレームに埋め込まれているリソースやフレームの取得を繰り返します。

取得する埋め込みリソースやフレームについては，取得した HTML を解析し，次の表に示すタグおよび属性名の値に指定されているリソースやフレームを取得します。

表 9-16　埋め込みリソースやフレームの取得対象

タグ名	属性名
applet	code
frame	src
iframe	src
img	src
script	src

プロキシ利用

指定された URL の Web ページ本体，埋め込みリソース，およびフレームの取得で，プロキシ利用するものとしないものが混在している場合，計測できません。

暗号の強度

HTTPS プローブがサポートする暗号を次の表に示します。サポート外の強度の暗号によって保護されたページへはアクセスできません。

表 9-17　サポートする暗号

暗号アルゴリズム	鍵長
Triple-DES	168
RC4	128
RC2	128
RC4-56	56
DES	56
RC4-40	40
RC2-40	40

サーバ認証

サーバ認証では，HTTP サーバから送付されたサーバ証明書を検証し，有効期限や権威ある認証局から発行されたものであるか確認します。サーバ証明書を検証するためには，サーバ証明書を発行した認証局のルート証明書，またはその認証局の上位認証局のルート証明書が必要です。なお，ルート証明書には，有効期限があるため，有効期限が切れる前に再インストールする必要があります。ルート証明書がない場合や，サーバ証明書の有効期限が切れている場合には，サーバ認証に失敗します。

ルート証明書は，次の手順に従ってインストールします。

ルート証明書の取得

Web ブラウザーなどから，PEM 形式のルート証明書をエクスポートします。
Internet Explorer 6.0 を利用する場合の例を，次に示します。

1. ［ツール］－［インターネットオプション］を選択し，［コンテンツ］タブを開く。
2. ［証明書］ボタンをクリックし，［信頼されたルート証明機関］タブを開く。
3. 一覧から，サーバ証明書を発行した認証局のルート証明書を選択する。
   サーバ証明書を発行した認証局は，監視対象ページを Internet Explorer で開いたときに，ステータスバーに表示される鍵のアイコンをクリックし，［詳細］タブを参照すると確認できます。
4. ［エクスポート］ボタンをクリックして，証明書のエクスポートウィザードを起動する。
   エクスポートウィザードに従って，設定してください。
   エクスポートするファイルの形式は［Base64 encoded X.509(.CER)］を選択します。
   ファイル名は「c:¥cacert.cer」を指定します。拡張子「.cer」は自動的に追加されます。

ルート証明書のインストール

エクスポートしたルート証明書（cacert.cer）の拡張子を「.pem」に変更して，次のフォルダにコピーします。

インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥cert

なお，cacert.pem には，複数のルート証明書を格納できます。作成済みの cacert.pem にルート証明書を追加するには，テキストエディターを使用し，エクスポートしたルート証明書の内容（「-----BEGIN CERTIFICATE-----」から「-----END CERTIFICATE-----」まで）をコピーして cacert.pem に追加してください。

クライアント認証

HTTP サーバにクライアント証明書を送付し，HTTP サーバで有効期限や権威ある認証局から発行されたものであるかどうかの確認を受けます。クライアント証明書と秘密鍵は，次のどちらかの方法で入手します。

- 証明書認証機関から入手する
- 監視対象の Web サイトへのアクセスに使用した Internet Explorer からエクスポートする

クライアント証明書と秘密鍵の情報を含めたファイルは，**インストール先フォルダ**¥agtv¥probe¥cert 配下に格納してください。格納するファイルは，Base64 エンコードの X.509 形式である必要があります。用意したクライアント証明書が Base64 エンコードの X.509 形式以外の場合は，任意のツールで X.509 形式に変換してください。

Internet Explorer 6.0 を使用して，クライアント証明書と秘密鍵をエクスポートする手順を次に示します。なお，エクスポートするクライアント証明書は，Internet Explorer へのインポート時に秘密鍵をエクスポートできる状態にしておいたものである必要があります。

1. Internet Explorer **を起動し，［ツール］－［インターネットオプション］を選択する。**
   ［インターネットオプション］ダイアログが表示されます。
2. **［コンテンツ］タブを選択し，［証明書］をクリックする。**
   ［証明書］ダイアログが表示されます。
3. **［個人］タブを選択する。**
   ［個人］タブが表示されます。
4. **エクスポートするクライアント証明書を選択し，［エクスポート］をクリックする。**
   証明書のエクスポートウィザードが開始します。ウィザードに従ってエクスポートしてください。
   ［秘密キーのエクスポート］は［はい，秘密キーをエクスポートします］を選択します。
   エクスポートファイルの形式は［Personal Information Exchange-PKCS#12(PFX)］を選択します。
   ［強力な保護を有効にする］のチェックは外します。
   パスワードとファイル名は任意の値を入力します。
5. **証明書の形式を** PKCS#12 **から** Base64 **エンコードの** X.509 **に変換する。**

変換には任意のツールを利用してください。

6. **エクスポートされたファイルをインストール先フォルダ** `¥agtv¥probe¥cert` **配下に格納する。**

準拠する RFC

- RFC1866 Hypertext Markup Language - 2.0
- RFC2616 Hypertext Transfer Protocol - HTTP/1.1
- RFC2396 Uniform Resource Identifiers (URI)：Generic Syntax
- RFC2818 HTTP over TLS

RFC に準拠していない機能や制限事項については，前述の注意事項を参照してください。

IE Scenario（PI_IES）

機能

IE Scenario（PI_IES）レコードには，IE シナリオに関する再生時間の情報が格納されます。このレコードは，複数インスタンスレコードです。各スコープがインスタンスとなります。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_IES_MSR_COND_ID，PI_IES_SCOPE_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：312 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Scope ID（SCOPE_ID）	スコープ番号。0 ～ 16 の値が格納される。IE シナリオ全体の場合は 0 が格納されている。	COPY	long	No	IE Probe Daemon
Scope Name（SCOPE_NAME）	スコープ名。IE シナリオ全体の場合は ALL が格納されている。スコープ名は任意。	COPY	string（127 バイト以内）	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time（TOTAL_BUSY_TIME）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon

View 名 （Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Total Replay Time（TOTAL_RPLY_TIME）	総再生所要時間（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon

IE Scenario Overview（PI_IESO）

機能

IE Scenario Overview（PI_IESO）レコードには，IE シナリオ全体で各スコープの再生時間をまとめた情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。各 IE シナリオがインスタンスとなります。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_IESO_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：820 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Total Busy Time（TOTAL_BUSY_TIME）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 1（TOTAL_BUSY_TIME_1）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 2（TOTAL_BUSY_TIME_2）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 3（TOTAL_BUSY_TIME_3）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon

View 名 （Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Total Busy Time 4 （TOTAL_BUSY_TIME_4）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 5 （TOTAL_BUSY_TIME_5）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 6 （TOTAL_BUSY_TIME_6）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 7 （TOTAL_BUSY_TIME_7）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 8 （TOTAL_BUSY_TIME_8）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 9 （TOTAL_BUSY_TIME_9）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 10 （TOTAL_BUSY_TIME_10）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 11 （TOTAL_BUSY_TIME_11）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 12 （TOTAL_BUSY_TIME_12）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 13 （TOTAL_BUSY_TIME_13）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 14 （TOTAL_BUSY_TIME_14）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 15 （TOTAL_BUSY_TIME_15）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Busy Time 16 （TOTAL_BUSY_TIME_16）	予約フィールドのため，使用できない。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time （TOTAL_RPLY_TIME）	総再生所要時間（IE シナリオ全体）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Total Replay Time 1（TOTAL_RPLY_TIME_1）	総再生所要時間（スコープ ID 1）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 2（TOTAL_RPLY_TIME_2）	総再生所要時間（スコープ ID 2）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 3（TOTAL_RPLY_TIME_3）	総再生所要時間（スコープ ID 3）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 4（TOTAL_RPLY_TIME_4）	総再生所要時間（スコープ ID 4）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 5（TOTAL_RPLY_TIME_5）	総再生所要時間（スコープ ID 5）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 6（TOTAL_RPLY_TIME_6）	総再生所要時間（スコープ ID 6）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 7（TOTAL_RPLY_TIME_7）	総再生所要時間（スコープ ID 7）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 8（TOTAL_RPLY_TIME_8）	総再生所要時間（スコープ ID 8）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 9（TOTAL_RPLY_TIME_9）	総再生所要時間（スコープ ID 9）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 10（TOTAL_RPLY_TIME_10）	総再生所要時間（スコープ ID 10）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 11（TOTAL_RPLY_TIME_11）	総再生所要時間（スコープ ID 11）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 12（TOTAL_RPLY_TIME_12）	総再生所要時間（スコープ ID 12）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 13（TOTAL_RPLY_TIME_13）	総再生所要時間（スコープ ID 13）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 14（TOTAL_RPLY_TIME_14）	総再生所要時間（スコープ ID 14）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon

View 名 （Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Total Replay Time 15（TOTAL_RPLY_TIME_15）	総再生所要時間（スコープ ID 15）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon
Total Replay Time 16（TOTAL_RPLY_TIME_16）	総再生所要時間（スコープ ID 16）（秒）。	AVG	double	No	IE Probe Daemon

IMAP4（PI_IMP4）

機能

IMAP4（PI_IMP4）レコードには，IMAP4 サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_IMP4_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：380 バイト

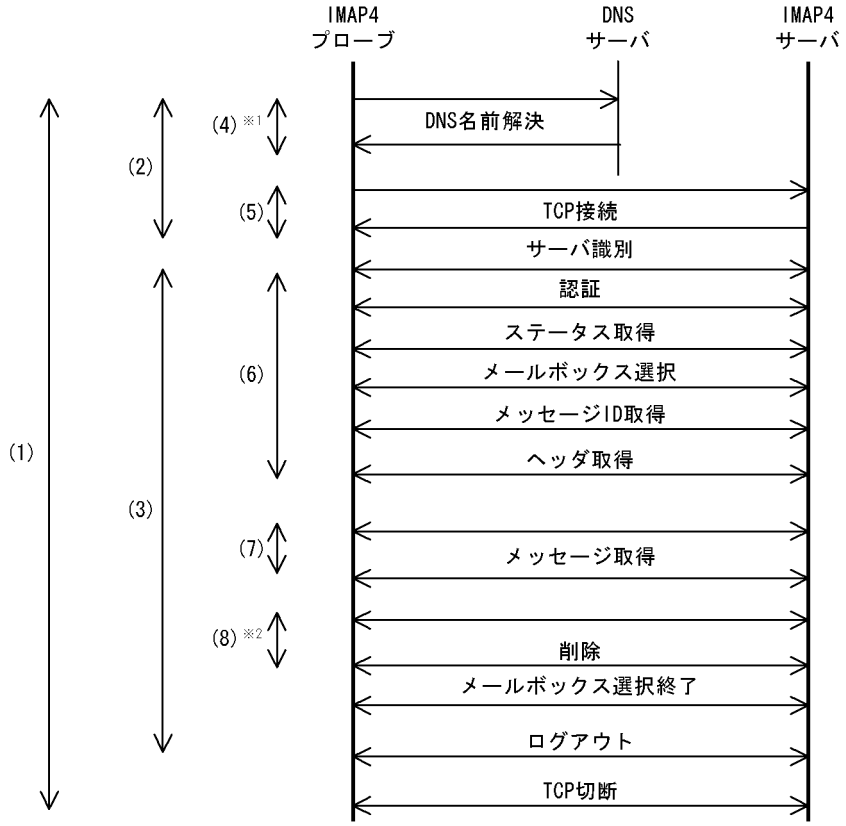
フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Data Transfer Time（DATA_TRANS_TIME）	データ転送時間（秒）。図 9-6 の（7）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Deletion Time（DELETION_TIME）	削除時間（秒）。図 9-6 の（8）。	AVG	double	No	Probe Daemon
DNS Time（DNS_TIME）	DNS 時間（秒）。図 9-6 の（4）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Download Count（DOWNLOAD_COUNT）	取得したメール数（通）。	AVG	double	No	Probe Daemon
IMAP Time（IMAP4_TIME）	IMAP4 時間（秒）。図 9-6 の（3）。	AVG	double	No	Probe Daemon

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Preprocessing Time（PRE_PROCESS_TIME）	前処理時間（秒）。図 9-6 の（6）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Setup Time（SETUP_TIME）	セットアップ時間（秒）。図 9-6 の（2）。	AVG	double	No	Probe Daemon
TCP Connection Time（TCP_CON_TIME）	TCP 接続時間（秒）。図 9-6 の（5）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Throughput（THROUGHPUT）	メール取得のスループット（ビット / 秒）。総メールサイズおよびデータ転送時間によって決まる。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	IMAP4 プローブと計測対象サーバが TCP コネクション上でやり取りした総データ量（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。図 9-6 の（1）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Size of Email（TOTAL_EMAIL_SIZE）	取得したメールサイズの合計（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon

IMAP4 シーケンスを次の図に示します。

図 9-6　IMAP4 **シーケンス**



注※1　計測条件のIMAP4サーバホスト名を，IPアドレスで指定した場合，
　　DNSによる名前解決は行いません。
注※2　IMAP4サーバ上のメールを削除しない場合，削除時間は発生しません。

IMAP4 の動作環境および注意事項

IMAP4 プローブは，指定されたユーザーあてに届いたメールの受信が完了するまでに掛かった時間を計測します。

IMAP4 の動作環境および注意事項について，次に説明します。

メールサイズ

IMAP4 プローブでのメールサイズは，受信するヘッダーと本文を合わせたメール全体のサイズです。取得するメールサイズの上限値は特に制限しません。

メールの削除

IMAP4 プローブは，INBOX にある新着メールを取得します。削除実行を指定すると，

INBOX にあるメールはすべて削除されます。次回計測時には計測メール数が 0 に対する計測をすることになるため，次回計測の前に再度，計測用メールを送信してください。

削除方式

IMAP4 でのメールの削除方式には，論理的な削除と物理的な削除の 2 種類があります。このうち，IMAP4 プローブでのメール削除は，物理的な削除を行います。これは，SMTP プローブなどが定期的に送信するメールを IMAP4 プローブで受信する場合に，メールが蓄積しないようにするためです。

準拠する RFC

- RFC1733：DISTRIBUTED ELECTRONIC MAIL MODELS IN IMAP4
- RFC2060：INTERNET MESSAGE ACCESS PROTOCOL - VERSION 4rev1
- RFC2683：IMAP4 Implementation Recommendations
- RFC2822：Internet Message Format

RFC に準拠していない機能や制限事項については，前述の注意事項を参照してください。

Logged Message for IE Scenario（PL_IESM）

機能

Logged Message for IE Scenario（PL_IESM）レコードには，イベントログやログファイルに書き込まれたメッセージ情報が格納されます。ログに書き込まれたメッセージ 1 行に対して 1 件のレコードが作成されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PL_IESM_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：664 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
IE Scenario Result Code（IESCENA_RESULT_CODE）	操作の再生結果のコード。	—	string（7 バイト以内）	No	IE Probe Daemon
IE Scenario Result Detail（IESCENA_RESULT_DETAIL）	操作の再生結果の詳細テキスト。このフィールドを表示すると，空欄が表示される。	—	string（255 バイト以内）	No	IE Probe Daemon

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
IE Scenario Result Message（IESCENA_RESULT_MESS）	操作の再生結果のメッセージテキスト。	—	string（255 バイト以内）	No	IE Probe Daemon
Measurement Condition ID（MSR_COND_ID）	計測条件 ID。	—	Long	No	IE Probe Daemon
Measurement Condition Name（MSR_COND_NAME）	計測条件に対応したラベル（任意の名称）。次の順にラベルを検索し，先に見つかった定義が格納される。 1. 計測条件登録ファイルに定義されたラベル 2. 計測条件ラベル定義ファイルに定義されたラベル どちらにも定義されていない場合は，「サービスタイプ名 _ 計測条件 ID」が格納される。	—	string（63 バイト以内）	No	IE Probe Daemon
Measurement Start Time（MSR_START_TIME）	計測開始時刻。	—	Time_t	No	IE Probe Daemon
Sequence Number（SEQ_NUM）	メッセージ出力時に再生していた操作の操作番号。操作に関連しないメッセージの場合は「0」が出力される。	—	Long	No	IE Probe Daemon

出力内容例

IE Scenario Result Code	IE Scenario Result Message
89101	レスポンス判定条件を満たしていませんでした (操作番号 =10)。
89102	再生中にページ遷移でエラーが発生しました (操作番号 =10,CODE=404,URL=http://host:20358/PFMWebConsole/login.do)。
89103	操作対象となるフレームページがありません (操作番号 =10,URL=http://host:20358/PFMWebConsole/login.do)。
89109	再生中にエラーが発生しました (操作番号 =10)。
89110	再生中に計測タイムアウトが発生しました (操作番号 =10)。

IE Scenario Result Code	IE Scenario Result Message
89504	IE シナリオにないポップアップダイアログが出現しました (操作番号 =10)。

POP3（PI_POP3）

機能

POP3（PI_POP3）レコードには，POP3 サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_POP3_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：380 バイト

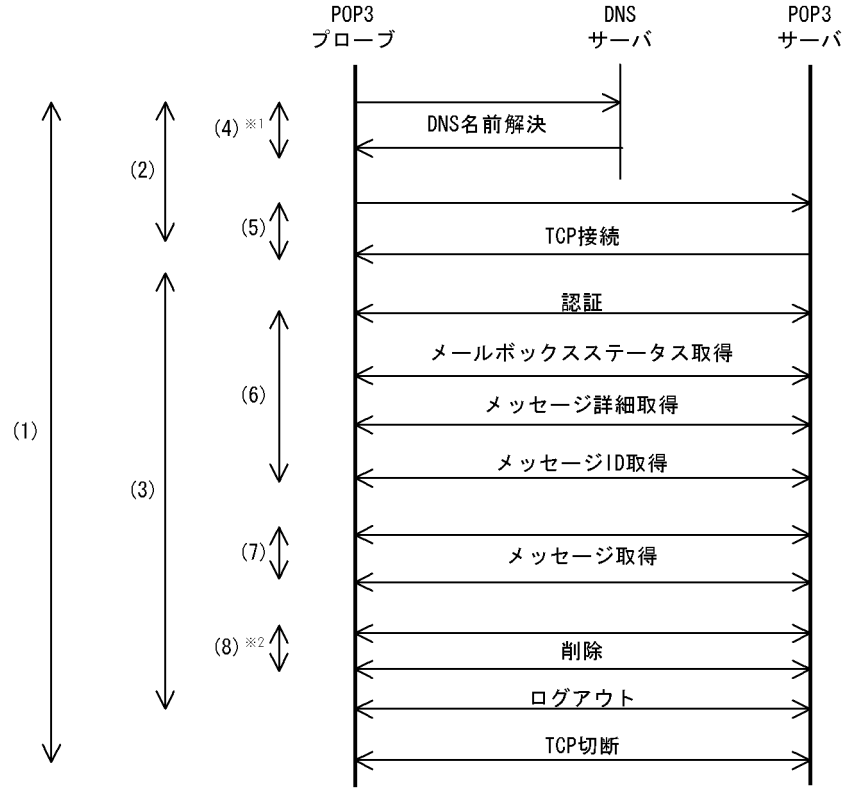
フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Data Transfer Time（DATA_TRANS_TIME）	データ転送時間（秒）。図 9-7 の（7）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Deletion Time（DELETION_TIME）	削除時間（秒）。図 9-7 の（8）。	AVG	double	No	Probe Daemon
DNS Time（DNS_TIME）	DNS 時間（秒）。図 9-7 の（4）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Download Count（DOWNLOAD_COUNT）	取得したメール数（通）。	AVG	double	No	Probe Daemon
POP3 Time（POP3_TIME）	POP 時間（秒）。図 9-7 の（3）。	AVG	double	No	Probe Daemon

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Preprocessing Time（PRE_PROCESS_TIME）	前処理時間（秒）。図 9-7 の（6）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Setup Time（SETUP_TIME）	セットアップ時間（秒）。図 9-7 の（2）。	AVG	double	No	Probe Daemon
TCP Connection Time（TCP_CON_TIME）	TCP 接続時間（秒）。図 9-7 の（5）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Throughput（THROUGHPUT）	スループット（ビット / 秒）。総メールサイズの合計およびデータ転送時間によって決まる。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	POP3 プローブと計測対象サーバが TCP コネクション上でやり取りした総データ量（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。図 9-7 の（1）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Size of Email（TOTAL_EMAIL_SIZE）	取得したメールサイズの合計（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon

POP3 シーケンスを次の図に示します。

図 9-7　POP3 シーケンス



注※1　計測条件のPOP3サーバホスト名を，IPアドレスで指定した場合，
　　DNSによる名前解決は行いません。
注※2　POP3サーバ上のメールを削除しない場合，削除時間は発生しません。

POP3 の動作環境および注意事項

POP3 プローブは，指定されたユーザーあてに届いたメールの受信が完了するまでに掛かった時間を計測します。

POP3 の動作環境および注意事項について，次に説明します。

メールサイズ

POP3 プローブでのメールサイズは，受信するヘッダーと本文を合わせたメール全体のサイズです。取得するメールサイズの上限値は特に制限しません。

メールの削除

削除実行を指定すると，すべてのメールが削除されます。次回計測時には計測メール数が 0 に対する計測をすることになるため，次回計測の前に再度，計測用メールを送信してください。

準拠する RFC

- RFC1939：Post Office Protocol - Version 3
- RFC2822：Internet Message Format

RFC に準拠していない機能や制限事項については，前述の注意事項を参照してください。

Service Summary Interval（PI_PI）

機能

Service Summary Interval（PI_PI）レコードには，各サービスの応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	Yes	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：160 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon

SMTP（PI_SMTP）

機能

SMTP（PI_SMTP）レコードには，SMTP サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_SMTP_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：320 バイト

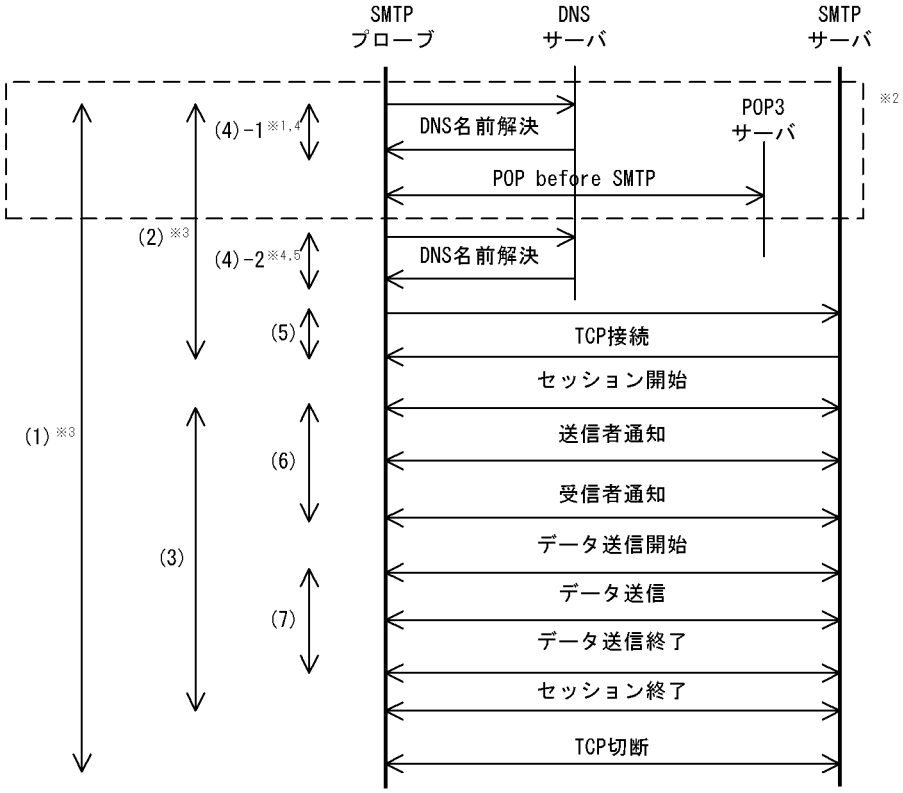
フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Data Transfer Time（DATA_TRANS_TIME）	データ転送時間（秒）。図 9-8 の（7）。	AVG	double	No	Probe Daemon
DNS Time（DNS_TIME）	DNS 時間（秒）。図 9-8 の（4）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Preprocessing Time（PRE_PROCESS_TIME）	前処理時間（秒）。図 9-8 の（6）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Setup Time（SETUP_TIME）	セットアップ時間（秒）。図 9-8 の（2）。	AVG	double	No	Probe Daemon
SMTP Time（SMTP_TIME）	SMTP 時間（秒）。図 9-8 の（3）。	AVG	double	No	Probe Daemon

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
TCP Connection Time（TCP_CON_TIME）	TCP 接続時間（秒）。図 9-8 の（5）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Throughput（THROUGHPUT）	スループット（ビット / 秒）。送信したメールサイズおよびデータ転送時間によって決まる。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	SMTP プローブと計測対象サーバが TCP コネクション上でやり取りした総データ量（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。図 9-8 の（1）。	AVG	double	No	Probe Daemon

SMTP シーケンスを次の図に示します。

図 9-8　SMTP シーケンス



注※1　計測条件のPOP3サーバホスト名を，IPアドレスで指定した場合，DNSによる名前解決は行いません。
注※2　POP before SMTP実行時の処理です。
注※3　POP3認証をしない場合，総応答時間（(1)）とセットアップ時間（(2)）には，POP3サーバのDNS名前解決時間と，POP before SMTPの時間は含まれません。
注※4　POP3認証をしない場合，DNS時間（(4)-1と(4)-2の合計）には，POP3サーバのDNS名前解決時間は含まれません。
注※5　計測条件のSMTPサーバホスト名をIPアドレスで指定した場合，DNSによる名前解決（(4)-2）は行いません。

SMTP の動作環境および注意事項

SMTP プローブは，指定されたメッセージサイズの本文を生成し，宛先アドレスに対してメッセージ送信が完了するまでに掛かった時間を計測します。

SMTP の動作環境および注意事項について，次に説明します。

Subject

計測用メールヘッダーの Subject は，"Test mail from PFM - Agent for Service Response." とします。

本文

計測用メールの本文は，文字「o」で構成される文字列になります。

添付ファイル

SMTP プローブは，ヘッダーと本文だけを送信し，計測用メールには添付ファイルを付けません。

送信した計測用メールの扱い

SMTP プローブは計測用メールを計測対象サーバに対して送信したあと，プローブ自身がメール削除をすることはありません。したがって，長期的な計測をする場合は送信された計測用メールが膨大に蓄積されるため，送信先のメールサーバのディスクが圧迫されることがあります。これを避けるため，次のどちらかの方法で送信先のメールサーバから定期的にメールを削除する必要があります。

- 計測条件の登録によるメール削除
  メール削除指定を有効にした POP3 または IMAP4 の計測条件を登録し，それらの計測によってメールを削除します。
- ユーザーによるメール削除方法
  SMTP プローブが送信した計測用メールをユーザーが定期的に削除してください。

準拠する RFC

- RFC1939：Post Office Protocol - Version 3
- RFC2821：Simple Mail Transfer Protocol
- RFC2822：Internet Message Format

RFC に準拠していない機能や制限事項については，前述の注意事項を参照してください。

TCP（PI_TCP）

機能

TCP（PI_TCP）レコードには，TCP サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_TCP_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

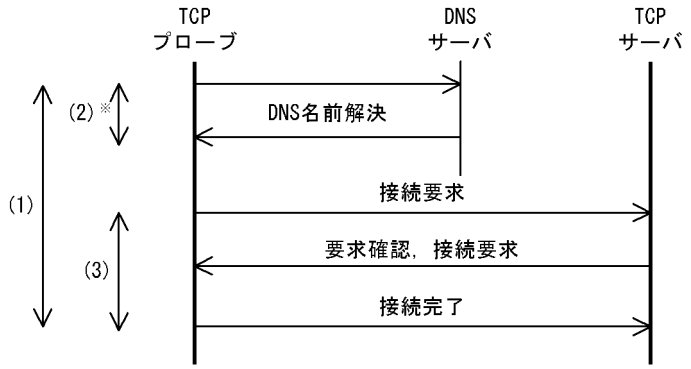
- 固定部：681 バイト
- 可変部：200 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
DNS Time（DNS_TIME）	DNS 時間（秒）。図 9-9 の（2）。	AVG	double	No	Probe Daemon
TCP Connection Time（TCP_CON_TIME）	TCP 接続時間（秒）。図 9-9 の（3）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。図 9-9 の（1）。	AVG	double	No	Probe Daemon

TCP シーケンスを次の図に示します。

図 9-9　TCP シーケンス



注※　計測条件のTCPサーバホスト名を，IPアドレスで指定した場合，
DNSによる名前解決は行いません。

TCP の動作環境および注意事項

TCP プローブは，TCP サービスを提供するサーバとのコネクションを確立するまでの時間を計測します。

TCP の動作環境および注意事項について，次に説明します。

準拠する RFC

- RFC793：TRANSMISSION CONTROL PROTOCOL

User Defined Service（PI_UDEF）

機能

User Defined Service（PI_UDEF）レコードには，ユーザー定義サービスに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_UDEF_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：160 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon

Web Transaction（PI_WT）

機能

Web Transaction（PI_WT）レコードには，Web トランザクションに関する応答時間の情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。各スコープがインスタンスとなります。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_WT_MSR_COND_ID，PI_WT_SCOPE_NAME

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：392 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Data Transfer Time（DATA_TRANS_TIME）	データ転送時間（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
DNS Time（DNS_TIME）	DNS 時間（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
HTTP Time（HTTP_TIME）	HTTP 時間（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Request Count（REQ_COUNT）	リクエスト数（回）。	AVG	double	No	Probe Daemon

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Scope Name（SCOPE_NAME）	スコープ名。トランザクション全体の場合は ALL が格納されている。スコープ名には，scope N が格納される（N は 1 ～ 8）。	COPY	string（31 バイト以内）	No	Probe Daemon
Server Processing Time（SERV_PROCESS_TIME）	サーバ処理時間（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Setup Time（SETUP_TIME）	セットアップ時間（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
TCP Connection Time（TCP_CON_TIME）	TCP 接続時間（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Throughput（THROUGHPUT）	スループット（ビット / 秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	総データ量（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Resource Size（TOTAL_RES_SIZE）	総リソースサイズ（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon

Web トランザクションの動作環境および注意事項

Web トランザクションプローブは，1 回のリクエスト・レスポンスの計測だけでなく，複数の HTTP(S) のリクエスト・レスポンスから成る一連の作業を一つの Web トランザクションとして計測します。

なお，Web トランザクションの計測結果には，Web トランザクションを再生した全体の結果が出力されます。また，指定したスコープ（任意のページ遷移）の計測結果についても同様に出力されます。

Web トランザクションプローブは，Web トランザクションファイルで定義した内容を，計測条件に基づいて再生します。指定した URL のレスポンスに対し，Web トランザクションファイルで定義したレスポンス判定情報に従ってチェックし，条件に一致していない場合は計測失敗となります。レスポンス判定情報に従ってチェックするのは，指定した URL から取得したレスポンスが HTML 形式（Content-Type が text/html）の場合に限ります。ただし，受信したデータが圧縮されて送信されていた場合は，指定した文字列が含まれていない場合と同じ結果となります。埋め込みリソースの取得の場合はチェックされません。

Web トランザクションの動作環境および注意事項について，次に説明します。

- HTML のフレーム単位に取得します。
- プラグイン，JavaScript などは，ダウンロードするだけで実行はされません。
- 埋め込みリソースの取得については，Web トランザクションの定義で埋め込みリソースを取得するように定義している場合は，計測時に自動的に埋め込みリソースを取得します。計測時に取得した HTML（受信したデータが圧縮されていない場合だけ）を解析し，次の表に示すタグおよび属性名の値に指定されているリソースを取得します。なお，タグ名および属性名は，大文字・小文字を区別しません。

表 9-18　埋め込みリソースやフレームの取得対象

タグ名	属性名
applet	code
body	background
embed	src
img	src
object	data
script	src

- JavaScript などを使用して動的に作成されたページの埋め込みリソースは，取得されません。
- Web トランザクションの計測中に発生（受信）した Cookie については，それに従って計測します。したがって，特に必要がない場合は，Web トランザクションファイルで Cookie を指定する必要はありません。Web トランザクションファイルで指定された Cookie については，計測中に発生（受信）した Cookie と合わせて送信します。
- HTTP(S) リクエスト発行時に指定するユーザーエージェントには，デフォルトで「PFM - Agent for Service Response △(Windows)」（△は半角スペース）を使用します。
- 同じユーザー名でログインする Web トランザクションを複数の計測条件に定義して計測に監視すると，同一ユーザー名の多重ログインが許可されていない場合は計測に失敗することがあります。したがって，同一ユーザー名の多重ログインが許可されていない場合には，計測条件ごとに計測用のユーザーを設けるなどの対応が必要です。
- 同じ内容の Web トランザクションを複数の計測条件に定義できます。
- Web 認証の認証方式は，基本認証（Basic Authentication）です。
- Cookie は，Netscape Communication 社の仕様に基づいた Cookie を受け入れます。
- 指定された URL の Web ページ本体，および埋め込みリソースの取得でプロキシ利用するものとしないものが混在している場合は計測できません。
- Web トランザクションで HTTPS を計測する場合，サポートする暗号は，HTTPS プローブの場合と同じです。サポート外の強度の暗号によって保護されたページへはアクセスできません。詳細については，「HTTPS」を参照してください。
- サーバ認証やクライアント認証を適用する場合は，証明書ファイルの登録が必要になります。登録方法は，HTTPS プローブでの監視の場合と同じです。詳細については，

「HTTPS」を参照してください。

HTTP バージョン

HTTP/1.0 を使用します。

Referer ヘッダー

Web トランザクションプローブでは，発行するリクエストに Referer ヘッダーは付加しません。

準拠する RFC

- RFC1866 Hypertext Markup Language - 2.0
- RFC2616 Hypertext Transfer Protocol - HTTP/1.1
- RFC2396 Uniform Resource Identifiers (URI) : Generic Syntax
- RFC2818 HTTP over TLS

RFC に準拠していない機能や制限事項については，前述の注意事項を参照してください。

Web Transaction Overview（PI_WTO）

機能

Web Transaction Overview（PI_WTO）レコードには，Web トランザクションのトランザクション単位で各スコープの応答時間をまとめた情報が格納されます。このレコードは複数インスタンスレコードです。各トランザクションがインスタンスとなります。

デフォルト値および変更できる値

項目	デフォルト値	変更可否
Collection Interval	360	○
Collection Offset	0	○
Log	No	○
LOGIF	空白	○

ODBC キーフィールド

PI_WTO_MSR_COND_ID

ライフタイム

なし

レコードサイズ

- 固定部：681 バイト
- 可変部：520 バイト

フィールド

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Data Transfer Time（DATA_TRANS_TIME）	データ転送時間（トランザクション全体）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
DNS Time（DNS_TIME）	DNS 時間（トランザクション全体）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
HTTP Time（HTTP_TIME）	HTTP 時間（トランザクション全体）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Request Count（REQ_COUNT）	リクエスト数（トランザクション全体）（回）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Server Processing Time（SERV_PROCESS_TIME）	サーバ処理時間（トランザクション全体）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon

View 名（Manager 名）	説明	要約ルール	形式	デルタ	データソース
Setup Time（SETUP_TIME）	セットアップ時間（トランザクション全体）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
TCP Connection Time（TCP_CON_TIME）	TCP 接続時間（トランザクション全体）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Throughput（THROUGHPUT）	スループット（トランザクション全体）（ビット / 秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Amount of Data（TOTAL_DATA_SIZE）	総データ量（トランザクション全体）（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Resource Size（TOTAL_RES_SIZE）	総リソースサイズ（トランザクション全体）（バイト）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time（TOTAL_RESP_TIME）	総応答時間（トランザクション全体）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time 1（TOTAL_RESP_TIME_1）	総応答時間（スコープ 1）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time 2（TOTAL_RESP_TIME_2）	総応答時間（スコープ 2）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time 3（TOTAL_RESP_TIME_3）	総応答時間（スコープ 3）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time 4（TOTAL_RESP_TIME_4）	総応答時間（スコープ 4）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time 5（TOTAL_RESP_TIME_5）	総応答時間（スコープ 5）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time 6（TOTAL_RESP_TIME_6）	総応答時間（スコープ 6）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time 7（TOTAL_RESP_TIME_7）	総応答時間（スコープ 7）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon
Total Response Time 8（TOTAL_RESP_TIME_8）	総応答時間（スコープ 8）（秒）。	AVG	double	No	Probe Daemon

10 コマンド

この章では，PFM - Agent for Service Response で使用できるコマンドの文法について説明します。

コマンド一覧

コマンドの詳細

コマンド一覧

PFM - Agent for Service Response で使用できるコマンドを次の表に示します。

表 10-1 PFM - Agent for Service Response で使用できるコマンド

機能	コマンド名
パスワードを登録・変更・削除する	esppasswd
統合トレースログの設定を変更する	hntr2util

コマンドの詳細

ここでは，コマンド格納フォルダ，コマンドの説明順序について説明します。

コマンド格納フォルダ

コマンド格納フォルダは，次のとおりです。

PFM - Agent for Service Response **のコマンド格納フォルダ**

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥bin

統合トレースログのコマンド格納フォルダ

システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥bin

コマンドの説明順序

各コマンドの文法詳細は，コマンドのアルファベット順で説明しています。

esppasswd（パスワードを登録・変更・削除する）

形式

esppasswd {{-a | -c | -d }-s **パスワード識別名** -o **認証対象** -u **ユーザー名** | -l [-f **ファイル名**]}

機能

- esppasswd コマンドは，Web トランザクション測定時に使用するコマンドです。
- パスワードファイルに対してパスワードの追加，変更および削除をします（パスワードユーティリティ）。
- パスワードキーのリストを標準出力で出力します。または指定ファイルに出力します。

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥bin

引数

-a

パスワードを追加します。

-c

パスワードを変更します。

-d

パスワードを削除します。

-s **パスワード識別名**

パスワードが必要な処理の識別名を指定します。

-o **認証対象**

認証が必要な対象を指定します。

-u **ユーザー名**

パスワードが必要なユーザーを指定します。

-l

キーリストを出力します。

-f ファイル名

キーリストを，指定したファイルに出力する場合に指定します。-l オプションを指定していて，このオプションを指定しない場合，キーリストは標準出力にだけ出力します。

パスワード識別名，認証対象およびユーザー名に指定する値を，次の表に示します。

表 10-2 引数に指定する値

サービスの種類	パスワード識別名（指定する値）	認証対象	ユーザー名
HTTP(S)Web 認証	HTTP-W	URL	ユーザー名
HTTP(S)Proxy 認証	HTTP-P	プロキシサーバホスト名	ユーザー名
HTTPS クライアント認証	HTTPS-C	クライアント証明書ファイル名※	指定は不要です。指定しても無視されます。
SMTP，POP3	POP3	POP3 サーバホスト名	ユーザー名
IMAP4	IMAP4	IMAP4 サーバホスト名	ユーザー名
FTP	FTP	FTP サーバホスト名	ユーザー名

注※

インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥cert 配下
配下のファイル名（パスは含めない）を指定する。

注意事項

- パスワード追加時にすでに同一のキーがある場合，パスワードは追加できません。
- パスワード削除時に指定したキーがない場合，パスワードは削除できません。
- パスワード変更時に指定したキーがない場合，パスワードの変更および追加はできません。
- 認証対象に指定するもののうち，次については大文字・小文字を区別しません。
  - ホスト名（URL 中に含まれるホスト名を含む）
  - クライアント証明書ファイル名

戻り値

0	正常終了。
1	パスワード追加時に同一のキーが存在した。
2	パスワード変更時またはパスワード削除時に指定したキーが存在しない。
0，1，2 以外	異常終了。

使用例

- URL が「www.hitachi.co.jp/index.html」の Web 認証ユーザー名「hitachi」の Web 認証パスワードを追加する場合

```
esppasswd -a -s HTTP-W -o www.hitachi.co.jp/index.html -u hitachi
```

- POP3 サーバ名が「pop3.hitachi.co.jp」のユーザー名「hitachi」の POP3 パスワードを変更する場合

```
esppasswd -c -s POP3 -o pop3.hitachi.co.jp -u hitachi
```

- POP3 サーバ名が「pop3.hitachi.co.jp」のユーザー名「hitachi」の POP3 パスワードを削除する場合

```
esppasswd -d -s POP3 -o pop3.hitachi.co.jp -u hitachi
```

- キーリストを標準出力に出力する場合

```
esppasswd -l
```

出力例

```
項番,パスワード識別名,認証対象,ユーザー名
1,HTTP-W,www.hitachi.co.jp/index.html,hitachi
2,HTTP-P,proxy.hitachi.co.jp,hitachi
3,POP3,pop3.hitachi.co.jp,hitachi
4,IMAP4,imap4.hitachi.co.jp,hitachi
5,FTP,ftp.hitachi.co.jp,hitachi
6,FTP,192.168.1.21,hitachi
7,HTTPS-C,clientcert.pem,
```

- キーリストを pwdkey というファイルに出力する場合

```
esppasswd -l -f pwdkey
```

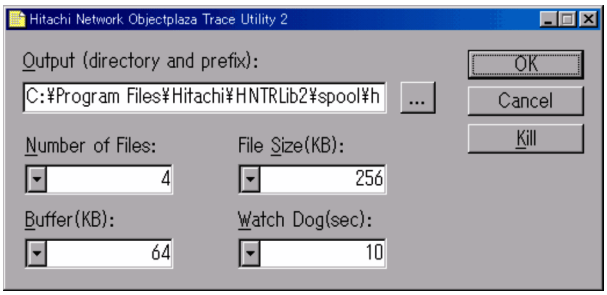
hntr2util（統合トレースログの設定を変更する）

形式

```
hntr2util
```

機能

総合トレース（HNTRLib2）が出力する統合トレースログのサイズ，数，および出力先を変更します。実行すると次に示すダイアログボックスが表示され，統合トレースログの設定を変更できます。



設定項目

ダイアログボックスの各項目について説明します。

Output（directory and prefix）：

ログファイルの出力先およびログファイル名のプリフィックスを指定します。デフォルトでは，

システムドライブ¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hntr2[n].log

になっています。

Number of Files:

ログファイル数を指定します。Output で指定した出力先に，指定した値分のログファイルを作成します。デフォルトでは 4 が設定されています。

File Size（キロバイト）：

ログファイルのサイズを指定します。デフォルトでは 256 キロバイトに設定されています。

Buffer（キロバイト）：および Watch Dog（秒）：

変更しないでください。

［Kill］ボタン

実行中のモニタープロセスを終了します。総合トレースサービス（サービス名：

Hitachi Network Objectplaza Trace Monitor 2）を停止できますが，通常は Windows の［コントロールパネル］の［サービス］ダイアログボックスで操作し，このボタンは利用しないでください。

実行権限

Administrators 権限

格納先フォルダ

システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥bin

11 メッセージ

この章では，PFM - Agent for Service Response のメッセージ形式，出力先一覧，Windows イベントログの一覧，およびメッセージ一覧について説明します。

11.1 メッセージの形式

11.2 メッセージの出力先一覧

11.3 Windows イベントログの一覧

11.4 メッセージ一覧

11.1 メッセージの形式

PFM - Agent for Service Response が出力するメッセージの形式と，マニュアルでの記載形式を示します。

11.1.1 メッセージの出力形式

PFM - Agent for Service Response が出力するメッセージの形式を説明します。メッセージは，メッセージ ID とそれに続くメッセージテキストで構成されます。形式を次に示します。

KAVXnnnnn-Y**メッセージテキスト**

メッセージ ID は，次の内容を示しています。

K
　システム識別子を示します。

AVX
　PFM - Agent のメッセージであることを示します。X には，F または K が出力されます。

nnnnn
　メッセージの通し番号を示します。

Y
　メッセージの種類を示します。
- E：エラー
  処理は中断されます。
- W：警告
  メッセージ出力後，処理は続けられます。
- I：情報
  ユーザーに情報を知らせます。

メッセージの種類と Windows イベントログの種類との対応を次に示します。

-E
- レベル：エラー
- 意味：エラーメッセージ。

-W
- レベル：警告
- 意味：警告メッセージ。

-I
- レベル：情報
- 意味：付加情報メッセージ。

11.1.2 メッセージの記載形式

このマニュアルでのメッセージの記載形式を示します。メッセージテキストで太字になっている部分は，メッセージが表示される状況によって表示内容が変わることを示しています。また，メッセージをメッセージ ID 順に記載しています。記載形式の例を次に示します。

メッセージ ID

英語メッセージテキスト
日本語メッセージテキスト

メッセージの説明文

(S)
　システムの処置を示します。

(O)
　メッセージが表示されたときに，オペレーターがとる処置を示します。

参考

システム管理者がオペレーターから連絡を受けた場合は，「12. トラブルへの対処方法」を参照してログ情報を採取し，初期調査をしてください。
トラブル要因の初期調査をする場合は，OS のログ情報（Windows イベントログ）や，PFM - Agent for Service Response が出力する各種ログ情報を参照してください。これらのログ情報でトラブル発生時間帯の内容を参照して，トラブルを回避したり，トラブルに対処したりしてください。また，トラブルが発生するまでの操作方法などを記録してください。同時に，できるだけ再現性の有無を確認するようにしてください。

11.2 メッセージの出力先一覧

ここでは，PFM - Agent for Service Response が出力する各メッセージの出力先を一覧で示します。

表中では，出力先を凡例のように表記しています。

（凡例）
○：出力する
－：出力しない

表 11-1 PFM - Agent for Service Response のメッセージの出力先一覧

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVF16000-I	○	－	－	－	○	－
KAVF16001-E	○	－	－	－	○	－
KAVF16002-I	○	－	－	－	○	－
KAVF16003-E	○	－	－	－	○	－
KAVF16004-I	－	－	－	－	○	－
KAVF16005-E	－	－	－	－	○	－
KAVF16006-I	○	－	－	－	○	－
KAVF16007-E	－	－	－	－	○	－
KAVF16008-E	－	－	－	－	○	－
KAVF16009-W	－	－	－	－	○	－
KAVF16010-E	○	－	－	－	○	－
KAVF16011-E	○	－	－	－	○	－
KAVF16012-E	○	－	－	－	○	－
KAVF16013-E	○	－	－	－	○	－
KAVF16014-E	○	－	－	－	○	－
KAVF16015-I	－	－	－	－	○	－
KAVF16017-W	－	－	－	－	○	－
KAVF16018-W	－	－	－	－	○	－
KAVF16020-W	－	－	－	－	○	－
KAVF16021-W	－	－	－	－	○	－
KAVF16022-W	－	－	－	－	○	－
KAVF16023-W	－	－	－	－	○	－
KAVF16024-W	－	－	－	－	○	－
KAVF16025-I	○	－	－	－	○	－
KAVF16026-E	○	－	－	－	○	－
KAVF16027-I	○	－	－	－	○	－
KAVF16028-E	○	－	－	－	○	－
KAVF16029-I	－	－	－	－	○	－
KAVF16030-E	－	－	－	－	○	－
KAVF16031-I	－	－	－	－	○	－

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVF16032-E	―	―	―	―	○	―
KAVF16033-W	―	―	―	―	○	―
KAVK04000-E	―	―	―	○	―	―
KAVK04002-E	―	―	―	○	―	―
KAVK04003-E	―	―	―	○	―	―
KAVK04004-E	―	―	―	○	―	―
KAVK04005-E	―	―	―	○	―	―
KAVK04006-E	―	―	―	○	―	―
KAVK04007-I	―	―	○	―	―	―
KAVK04008-I	―	―	○	―	―	―
KAVK07001-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07002-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07004-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07005-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07006-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07007-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07008-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07010-I	―	―	○	―	―	―
KAVK07011-E	―	―	○	―	―	―
KAVK07100-W	―	―	―	○	―	―
KAVK07101-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07102-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07103-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07104-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07105-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07106-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07107-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07108-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07109-E	―	―	―	○	―	―
KAVK07110-E	―	―	―	○	―	―
KAVK08000-I	○	○	―	―	―	―
KAVK08001-E	○	○	―	―	―	―
KAVK08002-I	○	○	―	―	―	―
KAVK08003-E	○	○	―	―	―	―
KAVK08005-E	―	○	―	―	―	―

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK08006-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08007-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08008-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08010-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08100-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08101-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08102-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08103-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08105-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08106-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08110-W	−	○	−	−	−	−
KAVK08111-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08112-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08120-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08122-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08124-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08125-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08131-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08135-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08137-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08140-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08142-W	−	○	−	−	−	−
KAVK08144-W	−	○	−	−	−	−
KAVK08160-W	−	○	−	−	−	−
KAVK08170-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08171-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08172-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08173-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08174-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08176-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08177-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08178-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08201-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08202-E	−	○	−	−	−	−
KAVK08203-E	−	○	−	−	−	−

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK08204-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08211-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08212-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08213-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08214-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08215-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08216-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08218-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08219-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08220-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08221-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08222-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08229-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08230-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08231-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08238-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08241-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08242-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08243-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08244-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08247-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08249-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08250-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08251-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08252-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08253-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08254-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08255-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08256-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08257-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08258-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08259-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08260-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08261-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08262-E	—	○	—	—	—	—

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK08263-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08264-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08265-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08266-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08267-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08268-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08269-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08270-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08271-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08273-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08275-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08276-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08277-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08278-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08279-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08280-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08281-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08300-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08301-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08302-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08303-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08304-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08305-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08310-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08311-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08312-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08313-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08314-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08315-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08316-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08317-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08318-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08319-W	—	○	—	—	—	—
KAVK08320-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08321-E	—	○	—	—	—	—

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK08500-E	—	—	—	—	—	—
KAVK08501-E	—	—	—	—	—	—
KAVK08502-E	—	—	—	—	—	—
KAVK08503-E	—	—	—	—	—	—
KAVK08504-E	—	—	—	—	—	—
KAVK08505-E	—	—	—	—	—	—
KAVK08506-E	—	—	—	—	—	—
KAVK08507-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08508-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08509-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08510-E	—	—	—	—	—	—
KAVK08511-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08512-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08513-E	—	○	—	—	—	—
KAVK08514-E	—	—	—	—	—	—
KAVK10000-I	○	○	—	—	—	—
KAVK10001-E	○	○	—	—	—	—
KAVK10002-E	○	○	—	—	—	—
KAVK10003-I	○	○	—	—	—	—
KAVK10004-E	○	○	—	—	—	—
KAVK10005-E	○	○	—	—	—	—
KAVK10006-E	○	○	—	—	—	—
KAVK10007-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10010-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10020-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10021-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10022-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10023-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10030-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10032-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10033-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10040-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10060-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10061-E	—	○	—	—	—	—
KAVK10070-E	—	○	—	—	—	—

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK10073-E	−	○	−	−	−	−
KAVK10080-E	−	○	−	−	−	−
KAVK10081-W	−	○	−	−	−	−
KAVK10082-W	−	○	−	−	−	−
KAVK10100-W	−	○	−	−	−	−
KAVK10101-E	−	○	−	−	−	−
KAVK10102-E	−	○	−	−	−	−
KAVK10103-E	−	○	−	−	−	−
KAVK10104-E	−	○	−	−	−	−
KAVK10105-E	−	○	−	−	−	−
KAVK10106-E	−	○	−	−	−	−
KAVK11001-E	−	○	−	−	−	−
KAVK11003-E	−	○	−	−	−	−
KAVK11010-I	−	○	−	−	−	−
KAVK11011-E	−	○	−	−	−	−
KAVK11020-E	−	○	−	−	−	−
KAVK11030-E	−	○	−	−	−	−
KAVK11040-E	−	○	−	−	−	−
KAVK11041-E	−	○	−	−	−	−
KAVK11042-E	−	○	−	−	−	−
KAVK37000-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37001-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37002-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37100-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37101-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37102-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37103-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37104-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37105-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37107-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37109-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37110-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37111-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37113-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37114-E	−	−	−	−	−	○

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK37115-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37116-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37117-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37118-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37120-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37124-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37125-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37127-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37130-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37131-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37132-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37133-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37134-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37135-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37137-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37138-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37139-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37140-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37141-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37142-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37143-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37144-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37145-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37200-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37201-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37202-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37203-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37204-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37205-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37206-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37207-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37208-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37209-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37210-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37211-E	―	―	―	―	―	○

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK37212-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37213-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37214-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37215-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37216-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37217-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37218-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37219-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37220-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37221-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37222-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37223-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37224-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37225-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37226-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37227-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37228-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37229-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37230-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37231-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37232-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37233-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37234-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37235-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37236-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37237-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37238-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37239-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37240-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37241-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37242-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37243-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37244-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37300-E	−	−	−	−	−	○
KAVK37301-E	−	−	−	−	−	○

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK37302-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37303-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37304-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37305-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37306-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37400-W	—	—	—	—	—	○
KAVK37401-W	—	—	—	—	—	○
KAVK37402-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37403-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37404-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37405-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37406-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37407-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37408-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37409-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37410-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37411-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37412-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37413-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37500-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37501-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37502-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37503-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37504-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37505-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37506-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37507-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37508-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37509-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37510-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37511-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37512-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37513-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37514-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37515-E	—	—	—	—	—	○

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK37516-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37517-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37518-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37519-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37520-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37521-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37522-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37523-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37524-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37525-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37526-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37527-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37528-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37602-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37603-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37604-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37605-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37606-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37700-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37701-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37702-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37703-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37704-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37705-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37706-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37707-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37708-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37709-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37711-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37712-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37713-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37714-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37715-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37718-E	―	―	―	―	―	○
KAVK37719-E	―	―	―	―	―	○

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK37720-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37721-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37722-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37723-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37724-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37725-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37726-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37727-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37728-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37729-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37730-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37731-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37732-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37733-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37734-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37800-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37801-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37802-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37803-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37804-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37805-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37806-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37807-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37808-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37809-I	—	—	—	—	—	○
KAVK37850-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37851-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37852-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37853-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37854-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37855-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37856-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37857-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37858-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37859-E	—	—	—	—	—	○

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK37860-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37861-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37862-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37863-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37864-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37865-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37866-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37867-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37868-W	—	—	—	—	—	○
KAVK37869-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37870-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37873-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37874-E	—	—	—	—	—	○
KAVK37875-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38001-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38002-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38003-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38004-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38100-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38101-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38102-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38103-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38104-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38108-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38113-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38115-W	—	—	—	—	—	○
KAVK38116-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38117-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38118-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38119-W	—	—	—	—	—	○
KAVK38120-I	—	—	—	—	—	○
KAVK38121-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38122-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38123-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38124-E	—	—	—	—	—	○

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK38200-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38300-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38302-W	—	—	—	—	—	○
KAVK38303-W	—	—	—	—	—	○
KAVK38304-W	—	—	—	—	—	○
KAVK38400-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38500-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38501-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38502-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38504-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38505-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38506-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38507-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38508-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38601-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38602-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38603-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38604-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38605-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38700-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38752-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38753-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38754-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38755-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38756-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38757-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38758-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38759-E	—	—	—	—	—	○
KAVK38800-I	—	—	—	—	—	○
KAVK38801-I	—	—	—	—	—	○
KAVK38803-I	—	—	—	—	—	○
KAVK38804-I	—	—	—	—	—	○
KAVK38805-I	—	—	—	—	—	○
KAVK38806-I	—	—	—	—	—	○
KAVK38807-I	—	—	—	—	—	○

メッセージ ID	出力先					
	Windows イベントログ	統合トレースログ	標準出力	標準エラー出力	共通メッセージログ	ダイアログ
KAVK38808-I	－	－	－	－	－	○
KAVK38809-W	－	－	－	－	－	○
KAVK38810-I	－	－	－	－	－	○
KAVK38811-I	－	－	－	－	－	○
KAVK38812-E	－	－	－	－	－	○
KAVK38813-E	－	－	－	－	－	○
KAVK38814-I	－	－	－	－	－	○
KAVK38815-E	－	－	－	－	－	○
KAVK38816-E	－	－	－	－	－	○

11.3 Windows イベントログの一覧

ここでは，PFM - Agent for Service Response が Windows イベントログに出力するメッセージ情報の一覧を示します。

Windows イベントログは，［イベントビューア］ウィンドウのアプリケーションログに表示されます。

参考

［イベントビューア］ウィンドウは，Windows の［スタート］メニューから表示される［管理ツール］－［イベントビューア］を選択することで表示できます。

PFM - Agent for Service Response が出力するイベントの場合，［イベントビューア］ウィンドウの［ソース］に識別子「PFM-ServiceResponse」が表示されます。

PFM - Agent for Service Response が Windows イベントログに出力するメッセージ情報の一覧を次の表に示します。

表 11-2 Windows イベントログ出力メッセージ情報一覧

メッセージ ID	Windows イベントログ	
	イベント ID	種類
KAVF16000-I	16000	情報
KAVF16001-E	16001	エラー
KAVF16002-I	16002	情報
KAVF16003-E	16003	エラー
KAVF16006-I	16006	情報
KAVF16010-E	16010	エラー
KAVF16011-E	16011	エラー
KAVF16012-E	16012	エラー
KAVF16013-E	16013	エラー
KAVF16014-E	16014	エラー
KAVF16025-I	16025	情報
KAVF16026-E	16026	エラー
KAVF16027-I	16027	情報
KAVF16028-E	16028	エラー
KAVK08000-I※1	1	情報
KAVK08001-E※1	2	エラー
KAVK08002-I※1	3	情報
KAVK08003-E※1	4	エラー
KAVK10000-I※1	1	情報
KAVK10001-E※1	2	エラー
KAVK10003-I※1	4	情報
KAVK10004-E※1	5	エラー

メッセージ ID	Windows イベントログ	
	イベント ID	種類
KAVK10005-E ※1	6	エラー
KAVK10006-E ※1	7	エラー

注※1

Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）の [System Log] セクションの printlog_flag に「Y」を設定した場合に出力されます。Probe 動作条件定義ファイルの詳細については,「7.2　Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）」を参照してください。

11.4 メッセージ一覧

PFM - Agent for Service Response が出力するメッセージと対処方法について説明します。PFM - Agent for Service Response のメッセージ一覧を次に示します。

KAVF16000-I

Agent Collector has started. (host=**ホスト名** , service=**ホスト名**<SR>)
Agent Collectorが起動しました (host=**ホスト名** , service=**ホスト名**<SR>)

エージェントコレクタが起動しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を開始します。

KAVF16001-E

An attempt to start Agent Collector has failed. (host=**ホスト名** , service=**ホスト名**<SR>)
Agent Collectorの起動に失敗しました (host=**ホスト名** , service=**ホスト名**<SR>)

エージェントコレクタの起動に失敗しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を終了します。

(O)
共通メッセージログに出力されている直前のメッセージを確認し，そのメッセージの対処方法に従ってください。

KAVF16002-I

Agent Collector has stopped. (host=**ホスト名** , service=**ホスト名**<SR>)
Agent Collectorが停止しました (host=**ホスト名** , service=**ホスト名**<SR>)

エージェントコレクタが停止しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を終了します。

KAVF16003-E

Agent Collector stopped abnormally. (host=**ホスト名** , service=**ホスト名**<SR>)
Agent Collectorが異常終了しました (host=**ホスト名** , service=**ホスト名**<SR>)

エージェントコレクタが異常停止しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を終了します。

(O)
共通メッセージログに出力されている要因を確認してください。

KAVF16004-I

Probe Daemon was started.
Probe Daemonを起動しました

プローブが起動しました。

(S)
プローブデーモンの処理を開始します。

KAVF16005-E

An attempt to start Probe Daemon has failed.
Probe Daemonの起動に失敗しました

プローブの起動に失敗しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
定義ファイルが誤っている可能性があります。統合トレースログを参照し，定義ファイルを見直してください。

KAVF16006-I

Probe Daemon was stopped.
Probe Daemonを停止しました

プローブが停止しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

KAVF16007-E

An attempt to stop Probe Daemon has failed.
Probe Daemonの停止に失敗しました

プローブの停止に失敗しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
Probe Daemon の負荷が高い可能性があります。計測間隔を見直してください。

KAVF16008-E

Reception of a signal interrupted service processing. (signal=**シグナル番号**)
シグナル受信によってサービスの処理は中断されました (signal=**シグナル番号**)

シグナルを受け付けたため Agent Collector サービスを中断されました。

(S)
エージェントコレクタサービスの処理を終了します。

KAVF16009-W

Reception of a signal caused the service to stop. (signal=**シグナル番号**)
シグナル受信によってサービスは停止処理を実行します(signal=**シグナル番号**)

シグナルを受け付けたため Agent Collector サービスを停止します。

(S)
エージェントコレクタサービスの処理を終了します。

KAVF16010-E

An attempt to initialize a service failed. (rc=**保守コード**)
サービスの初期化処理に失敗しました（rc=**保守コード**）

サービスの初期化処理に失敗しました。

(S)
サービスの起動処理を中断します。

(O)
保守資料を採取したあと，システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

KAVF16011-E

You cannot start the service because it is already running.
同じサービスを二重起動することはできません

起動されたサービスは，すでに起動されているため，サービスの起動に失敗しました。

(S)
サービスを停止します。

(O)
`jpctool service list`(`jpcctrl list`) コマンドを使用し，サービスの起動状況を確認してください。

KAVF16012-E

Data could not be collected.
データの収集ができませんでした

データ収集ができませんでした。

(S)
エージェントコレクタサービスの処理を続行します。

(O)
Probe Daemon または IE Probe Daemon が起動しているかどうか確認してください。要因が判明しない場合，保守資料を採取したあと，システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

KAVF16013-E

Memory is insufficient.
メモリーが不足しています

メモリーが不足しているため，メモリーの確保に失敗しました。

(S)
- 起動中にこのエラーが発生した場合
  Agent Collector サービスを停止します。
- 起動完了後（運用中）にこのエラーが発生した場合
  Agent Collector サービスはできるかぎり処理を続行しようとします。このタイミングで取得されるはずだったパフォーマンスデータは取得されません。

(O)
使用していないアプリケーションを停止する，またはメモリーを拡張してください。

KAVF16014-E

An attempt to create a pipe has failed. (**保守コード**)
パイプの生成に失敗しました (**保守コード（GetLastError 関数値）**)

パイプの生成に失敗しました。

(S)
データ取得処理を中止します。

(O)
メッセージに出力された値を参照して対処してください。

KAVF16015-I

There is no measurement data.
計測データが存在しません

Probe Daemon または IE Probe Daemon が起動してから，計測を行っていません。

(S)
処理を続行します。

(O)
Probe Daemon または IE Probe Daemon の設定が誤っている可能性があります。設定を見直してください。

KAVF16017-W

The acquired data is incorrect.
取得したデータが正しくありません

Probe Daemon または IE Probe Daemon から取得する

データが不正になっています。

(S)

処理を続行します。
このタイミングで取得されるはずだったパフォーマンスデータは取得されません。

(O)

Probe Daemon または IE Probe Daemon の動作が不正になっている可能性があります。このメッセージが繰り返し出力される場合は，保守資料を採取したあと，システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

KAVF16018-W

Probe Daemon has already stopped.
Probe Daemonがすでに停止しています

Probe Daemon がすでに停止していました。

(S)

サービス終了処理を続行します。

(O)

このメッセージが繰り返し出力される場合は，保守資料を採取したあと，システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。
Probe Daemon のサービスを Agent Collector サービスを停止させる前に手動で停止させた場合もこのメッセージが出力されます。

KAVF16020-W

The measurement condition was not updated because an invalid property exists. (task ID =**タスク**ID, property =**プロパティ名**)
不正なプロパティがあるため計測条件を更新しませんでした(task id=**タスク**ID, property=**プロパティ名**)

不正なプロパティがあるため，計測条件を更新しませんでした。

(S)

処理を続行します。

(O)

不正なプロパティがあります。必須プロパティが入力されているか，また，入力した値が各プロパティ値の条件を満たしているかを確認し，入力し直してください。

KAVF16021-W

The measurement condition could not be created because an invalid property exists. (property =**プロパティ名**)
不正なプロパティがあるため計測条件を作成できませんでした(property=**プロパティ名**)

不正なプロパティがあるため，計測条件を作成できませんでした。

(S)

処理を続行します。

(O)

不正なプロパティがあります。不正なプロパティが New Task ID の場合は，タスク ID が 1 ～ 65535 の範囲内で，既存のタスク ID と重複していないか確認し，入力し直してください。不正なプロパティが New Task Protocol の場合は，New Task Protocol プロパティで作成したいプロトコル名を選択してください。

KAVF16022-W

A measurement condition registration file could not be read.
計測条件登録ファイルが読み込めませんでした

計測条件登録ファイルに不正な記述があるため，計測条件登録ファイルが読み込めませんでした。

(S)

監視コンソールからの計測条件登録機能が無効になります。

(O)

計測条件登録ファイルに，不正な記述があります。計測条件登録ファイルの書式に合っているか，また，計測条件登録ファイルに記述されている計測条件の ID が重複していないか確認してください。

KAVF16023-W

The number of registered measurement conditions exceeds the max. number displayable in the monitoring console.
登録されている計測条件の数が監視コンソールに表示させることができる最大数を超えています

計測条件の数が，監視コンソールに表示できる計測条件の最大数（500 個）を超えています。

(S)

501 個目以降の計測条件は監視コンソールに表示されません。また，501 個目以降の計測条件は，削除・編集・新規追加もできません。

(O)

監視コンソールに表示されていない計測条件を更新したい場合は，Agent Collector サービスを停止させ，計測条件登録ファイルを直接編集してください。

KAVF16024-W

The measurement condition registration file contains a measurement condition that has invalid properties. (task ID =**タスク**ID, property =**プロパティ名**)
計測条件登録ファイルに不正なプロパティを含む計測条件がありました　(task id=**タスク**ID, property=**プロパティ名**)

計測条件登録ファイルに不正なプロパティを持つタスクが記述されていました。

(S)
処理を続行します。

(O)
計測条件登録ファイルに不正なプロパティを含む計測条件が記述されていました。監視コンソールから必須プロパティが入力されているか，また，入力した値が各プロパティ値の条件を満たしているかを確認し，入力し直してください。

KAVF16025-I

Processing to reload the Probe daemon has ended.
Probe Daemonのリロード処理が正常に終了しました

Probe Daemon のリロード処理が正常に終了しました。

(S)
計測条件登録ファイルの定義内容に従って，Probe Daemon の処理を開始します。

KAVF16026-E

Processing to reload the Probe daemon has failed.
Probe Daemonのリロード処理が失敗しました

Probe Daemon のリロード処理が失敗しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
定義ファイルが誤っている可能性があります。統合ログを参照し，定義ファイルを見直してください。

KAVF16027-I

Processing to reload the IE Probe daemon has ended.
IE Probe Daemonのリロード処理が正常に終了しました

IE Probe Daemon のリロード処理が正常に終了しました。

(S)
計測条件登録ファイルの定義内容に従って, IE Probe Daemon の処理を開始します。

KAVF16028-E

Processing to reload the IE Probe daemon has failed.
IE Probe Daemonのリロード処理が失敗しました

IE Probe Daemon のリロード処理が失敗しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
定義ファイルが誤っている可能性があります。統合ログを参照し，定義ファイルを見直してください。

KAVF16029-I

IE Probe Daemon was started.

IE Probe Daemon を起動しました
IE プローブが起動しました。

(S)
IE プローブデーモンの処理を開始します。

KAVF16030-E

An attempt to start IE Probe Daemon has failed.

IE Probe Daemon の起動に失敗しました
IE プローブの起動に失敗しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
定義ファイルが誤っている可能性があります。統合ログを参照し，定義ファイルを見直してください。

KAVF16031-I

IE Probe Daemon was stopped.
IE Probe Daemonを停止しました

IE プローブが停止しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

KAVF16032-E

An attempt to stop IE Probe Daemon has failed.
IE Probe Daemonの停止に失敗しました

IE プローブの停止に失敗しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
IE Probe Daemon の負荷が高い可能性があります。計測間隔を見直してください。

KAVF16033-W

IE Probe Daemon has already stopped.
IE Probe Daemonがすでに停止しています

IE Probe Daemon がすでに停止していました。

(S)
サービス終了処理を続行します。

(O)
このメッセージが繰り返し出力される場合は，保守資料を採取したあと，システム管理者に連絡してください。保守資料の採取方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。
IE Probe Daemon のサービスを Agent Collector サービスを停止させる前に手動で停止させた場合もこのメッセージが出力されます。

KAVK04000-E

An invalid option exists.
コマンドのオプションが誤っています。

コマンドの引数に不正なオプションが指定されています。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
正しい引数を指定してコマンドを再実行してください。

KAVK04002-E

An internal error occurred.
内部でエラーが発生しました。

内部でエラーが発生しました。処理を継続できません。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
システム管理者に連絡してください。

KAVK04003-E

An error occurred in communication with **プロセス名**，**エラーコード**，**詳細エラーコード**
プロセス名との通信でエラーが発生しました。**エラーコード**，**詳細エラーコード**

デーモンとの通信でエラーが発生しました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。
再度実行しても回復しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK04004-E

A system call error occurred in communication with **プロセス名**，**システムコール名**，**エラー番号**，**エラーストリング**
プロセス名との通信でシステムコールエラーが発生しました。**システムコール名**，**エラー番号**，**エラーストリング**

デーモンとの通信でシステムコールエラーが発生しました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。
再度実行しても回復しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK04005-E

An attempt to connect with **プロセス名** has failed.
プロセス名との接続に失敗しました。

デーモンと接続できませんでした。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
デーモンプロセスが起動しているか確認してください。

KAVK04006-E

プロセス名 did not return a response.
プロセス名は応答を返しませんでした。

要求に対してデーモンが応答を返さなかったためタイムアウトしました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
デーモンでエラーが発生していないか確認してください。
問題が解決しない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK04007-I

プロセス名is active.
プロセス名は稼動中です。

デーモンは稼働中です。

(S)
コマンドを終了します。

KAVK04008-I

プロセス名is inactive.
プロセス名は停止中です。

デーモンは停止中です。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
対応するプロセスのエラーメッセージに従って対処してください。

KAVK07001-E

An attempt to read the password registration file has failed.
パスワードファイルの読み込みに失敗しました。

ファイルにアクセスできません。
ファイルが見つからないか，権限がなくオープンできません。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
ファイルが所定のフォルダに配置されていることを確認してください。また，ファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK07002-E

An attempt to write to the password registration file has failed.
パスワードファイルの書き込みに失敗しました。

パスワードファイルへのデータの書き込みに失敗しました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
パスワードファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK07004-E

An unexpected error occurred.
予期せぬエラーが発生しました。

予期しないエラーが発生しました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
システム管理者に連絡してください。

KAVK07005-E

An installation path could not be acquired.
インストールパスが取得できません。

製品がインストールされた場所を検出できません。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
システム管理者に連絡してください。

KAVK07006-E

An attempt to reserve memory has failed.
メモリーの確保に失敗しました。

処理中にメモリー不足が発生しました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
不要なアプリケーションを終了して再度実行してください。
メモリーを増設する，または仮想メモリーの領域を増やしてください。

KAVK07007-E

The specification of an option is invalid.
オプションの指定に誤りがあります。

コマンドのオプションが誤っています。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
オプションの書式を確認し再度実行してください。

KAVK07008-E

A running esppasswd exists.
起動中のesppasswdが存在します。

ほかに esppasswd を実行しているプロセスが存在します。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
起動中の esppasswd が終了してから再度実行してください。

KAVK07010-I

The execution of the command has succeeded.
コマンドの実行に成功しました。

コマンドの実行が成功しました。

(S)
コマンドを終了します。

KAVK07011-E

An attempt to execute the command has failed.
コマンドの実行に失敗しました。

コマンドの実行に失敗しました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK07100-W

The password is not registered.
パスワードが登録されていません。

パスワードが未登録の時にキーリストを表示しました。

(S)
コマンドを終了します。

KAVK07101-E

A password key is invalid.
パスワードキーが不正です。

パスワード追加：同一パスワードキーがすでに存在しています。
パスワード変更，削除：指定したパスワードキーが存在しません。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
登録済みのパスワードキーを確認して再度入力してください。

KAVK07102-E

The password does not match the password entered first. Check and enter the password.
一回目に入力したパスワードと異なります。パスワードを確認して入力してください。

2 度入力したパスワードが異なっています。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
パスワードを確認して入力してください。

KAVK07103-E

Enter a password within 40 characters.
パスワードは40文字以内で入力してください。

40 バイトより多いパスワードが入力されました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
40 文字以内のパスワードを入力してください。

KAVK07104-E

Enter a password within 64 characters.
パスワードは64文字以内で入力してください。

64 バイトより多いパスワードが入力されました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
64 文字以内のパスワードを入力してください。

KAVK07105-E

An attempt to delete the backup file of a password file has failed.
パスワードファイルのバックアップファイルの削除に失敗しました。

バックアップファイルの削除に失敗しました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
ファイルシステムでエラーが発生していないか確認してください。
問題が解決しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK07106-E

An attempt to rename the backup file of a password file has failed.
パスワードファイルのバックアップファイルのリネームに失敗しました。

バックアップファイルのリネームに失敗しました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)
ファイルシステムでエラーが発生していないか確認してください。
問題が解決しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK07107-E

An attempt to generate the backup file of a password file has failed.
パスワードファイルのバックアップファイルの生成に失敗しました。

バックアップファイルの生成に失敗しました。

(S)
コマンドを終了します。

(O)

ファイルシステムでエラーが発生していないか確認してください。
問題が解決しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK07108-E

An attempt to output the password key file has failed.
パスワードキーのファイル出力に失敗しました。

バックアップファイルのファイル出力に失敗しました。

(S)

コマンドを終了します。

(O)

指定されたファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK07109-E

An invalid character was used in the password.
パスワードに不正な文字が使用されました。

パスワードに不正な文字が使用されました。

(S)

コマンドを終了します。

(O)

パスワードは英数字および記号で指定してください。

KAVK07110-E

Enter a password within 1023 characters.
パスワードは1023文字以内で入力してください。

1023 バイトより多いパスワードが入力されました。

(S)

コマンドを終了します。

(O)

1023 文字以内のパスワードを入力してください。

KAVK08000-I

esprobed was started.
esprobedを起動しました。

esprobed を起動しました。

(S)

esprobed を起動しました。

KAVK08001-E

Starting of esprobed has failed.
esprobedの起動に失敗しました。

esprobed の起動に失敗しました。

(S)

esprobed の起動に失敗しました。

(O)

Probe 動作条件定義ファイルが所定のフォルダに格納されているか確認してください。それでも起動に失敗する場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK08002-I

esprobed was stopped.
esprobedを停止しました。

esprobed が正常に終了しました。

(S)

esprobed が正常に終了しました。

KAVK08003-E

esprobed abnormally ended.
esprobedが異常終了しました。

esprobed が異常終了しました。

(S)

esprobed が異常終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK08005-E

An unexpected error occurred.
予期せぬエラーが発生しました。

プログラム内部でエラーが発生しました。

(S)

esprobed を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KAVK08006-E

The installation path could not be acquired.
インストールパスが取得できません。

製品がインストールされた場所を検出できません。

(S)

esprobed を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KAVK08007-E

An attempt to reserve memory has failed.
メモリーの確保に失敗しました。

処理中にメモリーの確保に失敗しました。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
不要なアプリケーションを終了して再度実行してください。メモリーを増設する，または仮想メモリーの領域を増やしてください。

KAVK08008-E

The capacity of the disk is insufficient.
ディスクの容量が不足しています。

ディスクに必要な空き容量がありません。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
不要なファイルを削除して再度実行してください。また，ディスクを増設してください。

KAVK08010-E

The abnormal termination of SCM was detected.
SCMの異常終了を検知しました。

SCM の異常終了を検出しました。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。問題が解決できない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK08100-E

An attempt to open the Probe action condition definition file has failed.
Probe動作条件定義ファイルのオープンに失敗しました。

Probe 動作条件定義ファイルにアクセスできません。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
Probe 動作条件定義ファイルが所定のフォルダに格納されているか確認してください。また，Probe 動作条件定義ファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK08101-E

Information could not be acquired from the Probe action condition definition file.
Probe動作条件定義ファイルから情報を取得できません。

Probe 動作条件定義ファイルから設定内容を読み込めません。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
Probe 動作条件定義ファイルの記述形式に誤りがないか確認してください。

KAVK08102-E

The content of a definition in the Probe action condition definition file is invalid.**セクション：キー**
Probe動作条件定義ファイルの定義内容に誤りがあります。**セクション：キー**

Probe 動作条件定義ファイルの設定内容に誤りがあります。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
Probe 動作条件定義ファイルの設定内容を修正し，再度実行してください。

KAVK08103-E

There is not necessary directory on the shared disk in the cluster operation. Necessary directory=**必要なディレクトリ**
クラスタ運用で共有ディスク上に必要なディレクトリが存在しません。必要なディレクトリ=**必要なディレクトリ**

クラスタ構成で動作する場合に必要となるディレクトリが存在しませんでした。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
次のことを確認してください。
- Probe 動作条件定義ファイルの指定が正しいか。
- 共有ディスクが使用できる状態になっているか。
- 共有ディスク上にこの製品が必要とするディレクトリが存在するか。

KAVK08105-E

Information could not be acquired from the command registration file.
コマンド登録ファイルから情報を取得できません。

コマンド登録ファイルから定義内容を読み込めません。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
コマンド登録ファイルが壊れていないか確認してください。また，コマンド登録ファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK08106-E

The content of a definition in the command registration file is invalid. **ユーザー定義サービス**ID
コマンド登録ファイルの定義内容に誤りがあります。**ユーザー定義サービス**ID

コマンド登録ファイルの定義内容に誤りがあります。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
コマンド登録ファイルの内容を修正し，再度実行してください。

KAVK08110-W

esprobed will be ended because measuring conditions do not exist.
計測条件が存在しないため，esprobedを終了します。

計測条件登録ファイルが存在しないか，計測条件が含まれていません。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
計測条件登録ファイルがあることを確認してください。一つ以上の計測条件を登録してください。

KAVK08111-E

The content of a definition in the measuring condition registration file is invalid. ID=**計測条件**ID,TAG=**タグ名**
計測条件登録ファイルの定義内容に誤りがあります。ID=**計測条件**ID,TAG=**タグ名**

計測条件登録ファイルの定義内容に誤りがあります。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
計測条件登録ファイルの内容を修正し，再度実行してください。

KAVK08112-E

The format of a definition in the measuring condition registration file is invalid. **エラー詳細**
計測条件登録ファイルのフォーマットに誤りがあります。**エラー詳細**

計測条件登録ファイルのフォーマットに誤りがあります。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
計測条件登録ファイルの内容を修正し，再度実行してください。

KAVK08120-E

Authentication with the SCM has failed.
SCMとの認証に失敗しました。

SCM の認証に失敗しました。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。問題が解決できない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK08122-E

An attempt to initialize communication has failed.
通信の初期化に失敗しました。

通信の初期化に失敗しました。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
Probe 動作条件定義ファイルの設定内容を修正し，再度実行してください。

KAVK08124-E

A system call error occurred in communication. **システムコール名**，**エラー番号**，**エラーストリング**
通信でシステムコールエラーが発生しました。**システムコール名**，**エラー番号**，**エラーストリング**

通信でシステムコールに失敗しました。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
このメッセージが繰り返し出力される場合，ネットワーク環境に問題がないか見直してください。回復しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK08125-E

An unexpected error occurred in communication.**エラーコード**，**詳細エラーコード**
通信で予期せぬエラーが発生しました。**エラーコード**，**詳細エラーコード**

通信で予期しないエラーが発生しました。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
このメッセージが繰り返し出力される場合，ネットワーク環境に問題がないか見直してください。回復しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK08131-E

The addition of monitoring conditions has failed. ID=**計測条件**ID
計測条件の追加に失敗しました。ID=**計測条件**ID

計測条件の追加に失敗しました。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
このメッセージのあとに出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK08135-E

The monitoring measuring condition ID is invalid. ID=**計測条件**ID
計測条件IDが不正です。ID=**計測条件**ID

計測条件登録ファイルで指定された計測条件 ID が不正です。指定された範囲外の値を指定しているか，重複した値を指定している可能性があります。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
計測条件 ID を修正し，再度実行してください。

KAVK08137-E

A password has not been set up. ID=**オブジェクト**ID
パスワードが未設定です。ID=**オブジェクト**ID

指定された計測条件に必要なパスワードがパスワードファイルから取得できません。

(S)
処理を続行します。ただし，パスワードが取得できない計測条件は無視されます。

(O)
パスワードユーティリティを用いてパスワードを登録し，再度実行してください。

KAVK08140-E

The report output has failed. ID=**計測条件**ID
レポート出力に失敗しました。ID=**計測条件**ID

レポートファイルの出力に失敗しました。

(S)
処理を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- レポートファイルの格納フォルダが存在するか，およびアクセス権があるか。
- レポートファイルがほかのプロセスで使用中ではないか。
- ディスク容量が適切か。
- ネットワークの状態が正しいか。

KAVK08142-W

The file size of a report file reached the maximum report file size. ID=**計測条件**ID
レポートファイルのサイズが上限値に達しました。ID=**計測条件**ID

レポートファイルのサイズが上限値に達したため，バックアップファイルを作成しました。

(S)
処理を続行します。

(O)
次にレポートファイルのサイズが上限値に達した場合，レポートが失われるため，必要に応じてバックアップを行ってください。

KAVK08144-W

The backup file of a report file was overwritten. ID=**計測条件**ID
レポートファイルのバックアップファイルが上書きされました。ID=**計測条件**ID

すでに存在するレポートファイルのバックアップファイルを上書きしました。

(S)
処理を続行します。

(O)
次にレポートファイルのサイズが上限値に達した場合，再びレポートが失われるため，必要に応じてバックアップを行ってください。

KAVK08160-W

Measurement was started after having passed more than the measurement interval since measurement demand time. ID=**計測条件**ID
計測開始時刻から計測間隔以上経過したあとに計測が開始されました。ID=**計測条件**ID

計測開始時刻から実際に計測を開始した時刻まで計測間隔以上経過しています。

(S)
処理を続行します。

(O)
プローブの計測多重度を増やす，または計測条件数を減らす，計測間隔を長くするなどして実際の計測時刻のずれが少なくなるように設定を見直してください。

KAVK08170-E

The reading of a web transaction file has failed.
Webトランザクションファイルの読み込みに失敗しました。

Web トランザクションファイルの読み込みに失敗しました。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
Web トランザクションファイル格納ディレクトリへのアクセス権限があることを確認してください。
また，Web トランザクションファイルの定義内容が正しいか確認してください。

KAVK08171-E

There is no Web transaction. ID=**計測条件**ID , File=Web**トランザクションファイル名**, Web transaction=Web**トランザクション名**
Webトランザクションが定義されていません。ID=**計測条件**ID, ファイル名=Web**トランザクションファイル名**, Webトランザクション名=Web**トランザクション名**

計測条件に指定した Web トランザクションが存在しません。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
指定した Web トランザクションが正しいか確認してください。
また，指定した Web トランザクションが定義されているか確認してください。

KAVK08172-E

The format of a definition in the web transaction file is invalid. File=Web**トランザクションファイル名**，**エラー詳細**
Webトランザクションファイルのフォーマットに誤りがあります。ファイル名=Web**トランザクションファイル名**，**エラー詳細**

Web トランザクションファイルのフォーマットに誤りがあります。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
Web トランザクションファイルの内容を修正し，再度実行してください。

KAVK08173-E

The content of a definition in the web transaction file is invalid. File=Web**トランザクションファイル名**，TAG=**タグ名**
Webトランザクションファイルの定義内容に誤りがあります。ファイル名=Web**トランザクションファイル名**，TAG=**タグ名**

Web トランザクションファイルの定義内容に誤りがあります。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
Web トランザクションファイルの内容を修正し，再度実行してください。

KAVK08174-E

A password has not been set up. File=Web**トランザクションファイル名**，TAG=**タグ名**
パスワードが未設定です。ファイル名=Web**トランザクションファイル名**，TAG=**タグ名**

Web トランザクションの計測に必要なパスワードがパスワードファイルから取得できませんでした。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
Web トランザクションファイルにパスワードを定義するか，パスワードユーティリティを使用してパスワードを登録し，再度実行してください。

KAVK08176-E

A variable string is not included in URL, message body or Cookie. File=Web**トランザクションファイル名**，Web transaction=Web**トランザクション名**
可変文字列がURL，メッセージボディまたはCookieに含まれていません。ファイル名=Web**トランザクションファイル名**, Webトランザクション名=Web**トランザクション名**

Web トランザクションファイルで <VARIABLE_PART> タグに指定した可変文字列が URL，メッセージボディまたは Cookie に定義した文字列の中に存在しませんでした。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
可変文字列の定義が正しいか確認してください。

KAVK08177-E

There is no specified step identifier. File=Web**トランザクションファイル名**, Web transaction=Web**トランザクション名**
指定したステップ識別子が定義されていません。ファイル名=Web**トランザクションファイル名**，Webトランザクション名=Web**トランザクション名**

Web トランザクションファイルで <TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップ識別子が当該ステップより前に定義されているステップに定義されていませんでした。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
ステップ識別子の定義が正しいか確認してください。

KAVK08178-E

A variable string is duplicated. File=Web**トランザクションファイル名**, Web transaction=Web**トランザクション名**
可変文字列が重複しています。ファイル名=Web**トランザクションファイル名**，Webトランザクション名=Web**トランザクション名**

Web トランザクションファイルで <VARIABLE_PART> タグで指定した可変文字列が同じステップ内のほかの <VARIABLE_PART> タグの指定と重複しています。

(S)
esprobed を終了します。

(O)
可変文字列の定義が正しいか確認してください。

KAVK08201-E

An attempt to reserve memory has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**
メモリーの確保に失敗しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**

メモリーの確保に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
不要なアプリケーションを終了して再度実行してください。メモリーを増設する，または仮想メモリーの領域を増やしてください。

KAVK08202-E

An unexpected error occurred. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**
予期せぬエラーが発生しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**

予期しないエラーが発生しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
このメッセージが繰り返し出力される場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK08203-E

Generation of a socket has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**
ソケットの生成に失敗しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**

ソケットの生成に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
不要なアプリケーションを終了して再度実行してください。

KAVK08204-E

The DNS name resolution has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**
DNS名前解決に失敗しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**

DNS 名前解決に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
DNS サーバが正常に起動しているかどうか確認してください。

KAVK08211-E

An attempt to establish a TCP connection for measurement has failed. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**
計測処理でTCP接続に失敗しました。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**

TCP 接続に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバが正常に起動しているか，または計測対象サーバとプローブ間のネットワークの状態に問題がないかを確認してください。

KAVK08212-E

An attempt to shut down the TCP connection for measurement has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**
計測処理でTCP切断に失敗しました。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**

TCP 切断に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバが正常に起動しているか，または計測対象サーバとプローブ間のネットワークの状態に問題がないかを確認してください。

KAVK08213-E

An attempt to send data during measurement has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**
計測処理でデータの送信に失敗しました。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**

データの送信に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバが正常に起動しているか，または計測対象サーバとプローブ間のネットワークの状態に問題がないかを確認してください。

KAVK08214-E

An attempt to receive data during measurement has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**
計測処理でデータの受信に失敗しました。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**

データの受信に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバが正常に起動しているか，または計測対象サーバとプローブ間のネットワークの状態に問題がないかを確認してください。

KAVK08215-E

A measurement timeout occurred. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**
計測タイムアウトが発生しました。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**

計測タイムアウトが発生しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバが正常に起動しているか，または監計測対象サーバとプローブ間のネットワークの状態に問題がないかを確認してください。

KAVK08216-E

Since the connection is already disconnected, data transmission cannot be performed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**
すでにコネクションが切断されているためデータ転送ができません。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**

すでにコネクションが切断されているためデータ転送ができません。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバが正常に起動しているか，または計測対象サーバとプローブ間のネットワークの状態に問題がないかを確認してください。

KAVK08218-E

The specified user of the destination mail address in SMTP does not exist locally. ID=**計測条件**ID, Mail_address=**宛先メールアドレス**
SMTPの宛先メールアドレスで指定されたユーザーがローカルに存在しません。ID=**計測条件**ID, メールアドレス=**宛先メールアドレス**

指定されたユーザーがローカルに存在しません。

(S)
計測を終了します。

(O)
宛先メールアドレスが正しいか確認してください。

KAVK08219-E

The SMTP service is not available. ID=**計測条件**ID
SMTPのサービスが利用できません。ID=**計測条件**ID

SMTP のサービスが利用できません。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバでエラーが発生していないか確認してください。

KAVK08220-E

Execution of the command was stopped on the SMTP server. ID=**計測条件**ID
SMTPサーバでコマンドの実行が中止されました。ID=**計測条件**ID

SMTP サーバでコマンドの実行が中止されました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバでエラーが発生していないか確認してください。

KAVK08221-E

The specified receipt mail address for SMTP probe is invalid. ID=**計測条件**ID，Mail_address=**宛先メールアドレス**
SMTPプローブで指定された宛先メールアドレスが不正です。ID=**計測条件**ID,メールアドレス=**宛先メールアドレス**

宛先メールアドレスで指定したドメインがメールを受理しません。

(S)
計測を終了します。

(O)
宛先メールアドレスが正しいか確認してください。

KAVK08222-E

The mail transmission by SMTP has failed. ID=**計測条件**ID
SMTPによるメール送信に失敗しました。ID=**計測条件**ID

SMTP によるメール送信処理に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバでエラーが発生していないか確認してください。

KAVK08229-E

The mail receiving by POP3 has failed. ID=**計測条件**ID
POP3によるメール取得に失敗しました。ID=**計測条件**ID

POP3 によるメール取得処理に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバのメールボックス INBOX にアクセス可能か確認してください。また，計測対象サーバでエラーが発生していないか確認してください。

KAVK08230-E

The mail receiving by IMAP4 has failed. ID=**計測条件**ID
IMAP4によるメール取得に失敗しました。ID=**計測条件**ID

IMAP4 によるメール取得処理に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバのメールボックス INBOX にアクセス可能か確認してください。また，計測対象サーバでエラーが発生していないか確認してください。

KAVK08231-E

The file transmission by FTP has failed. ID=**計測条件**ID, File=**ファイル名**
FTPによるファイル転送に失敗しました。ID=**計測条件**ID，ファイル名=**ファイル名**

FTP によるファイル転送に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバでエラーが発生していないか確認してください。

KAVK08238-E

The DHCP server does not have an assignable IP address. ID=**計測条件**ID
指定されたDHCPサーバには割り当て可能なIPアドレスがありません。ID=**計測条件**ID

指定された DHCP サーバには割り当て可能な IP アドレスがありません。

(S)
計測を終了します。

(O)
DHCP サーバで管理している IP アドレスリソースが不足している可能性があります。このメッセージが繰り返し出力される場合，DHCP サーバが正しく動作しているか確認してください。

KAVK08241-E

A DNS server error occurred. ID=**計測条件**ID, Server=DNS**サーバ**IP**アドレス**
DNSサーバの障害です。ID=**計測条件**ID，サーバ=DNS**サーバ**IP**アドレス**

DNS サーバの障害です。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバでエラーが発生していないか，または，検索対象ホスト名が正しいか確認してください。

KAVK08242-E

The domain name is not registered in the DNS server. ID=**計測条件**ID，Query=**検索対象ホスト名**
指定されたホスト名はDNSサーバに登録されていません。ID=**計測条件**ID，ホスト名=**検索対象ホスト名**

指定されたホスト名は DNS サーバに登録されていません。

(S)
計測を終了します。

(O)
検索対象ホスト名が正しいか確認してください。

KAVK08243-E

The requested operation is not supported on the DNS server. ID=**計測条件**ID
DNSサーバは要求された操作をサポートしていません。ID=**計測条件**ID

DNS サーバは要求された操作をサポートしていません。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバが正しいか確認してください。

KAVK08244-E

The request was refused by the policy setup of a DNS server. ID=**計測条件**ID
DNSサーバのポリシー設定により，要求は拒否されました。ID=**計測条件**ID

DNS サーバのポリシー設定により，要求は拒否されました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバが正しいか確認してください。

KAVK08245-E

An SSL handshake has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
SSLハンドシェイクに失敗しました。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

SSL ハンドシェイクに失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
指定した URL に対して HTTPS によるアクセスが可能であることを確認してください。

KAVK08247-E

CA certificates can be used to verify the peer certificate chain is unavailable. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
サーバ証明書に署名した認証局のルート証明書がありません。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

サーバ証明書に署名した認証局のルート証明書がありません。

(S)
計測を終了します。ただし，計測条件で SSL 認証エラー無視フラグが指定されている場合は処理を続行します。

(O)
ルート証明書のインストールを行い，再度実行してください。

KAVK08249-E

The server certificate is not effective. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
サーバ証明書が有効ではありません。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

サーバ証明書は現在有効期限内ではありません。

(S)
計測を終了します。ただし，計測条件で SSL 認証エラー無視フラグが指定されている場合は処理を続行します。

(O)
HTTP サーバのサーバ証明書を確認してください。

KAVK08250-E

NotBefore(NotAfter) information could not be retrieved from the certificate. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
サーバ証明書に有効期限の記載がありません。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

サーバ証明書に有効期限の記載がありません。

(S)
計測を終了します。

(O)
HTTP サーバのサーバ証明書を確認してください。

KAVK08251-E

The public key information could not be retrieved from the certificate. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
サーバ証明書発行者の公開鍵をデコードできません。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

サーバ証明書発行者の公開鍵をデコードできません。

(S)
計測を終了します。

(O)
HTTP サーバのサーバ証明書を確認してください。

KAVK08252-E

The signature on the peer certificate could not be verified. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
サーバ証明書の署名を検証できません。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

サーバ証明書の署名を検証できません。

(S)
計測を終了します。ただし，計測条件で SSL 認証エラー無視フラグが指定されている場合は処理を続行します。

(O)
HTTP サーバのサーバ証明書を確認してください。

KAVK08253-E

A self-signed certificate was found in the chain. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
自分自身で署名した証明書があります。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

サーバ認証に必要な証明書の中に信頼性の低い自己発行の証明書があるため認証に失敗しました。

(S)
計測を終了します。ただし，計測条件で SSL 認証エラー無視フラグが指定されている場合は処理を続行します。

(O)
HTTP サーバのサーバ証明書を確認してください。

KAVK08254-E

The certificate chain exceeds the maximum verification depth. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
証明チェインが長過ぎます。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

証明チェインが長過ぎるため認証に失敗しました。

(S)
計測を終了します。ただし，計測条件で SSL 認証エラー無視フラグが指定されている場合は処理を続行します。

(O)
HTTP サーバのサーバ証明書を確認してください。

KAVK08255-E

The client certificate is invalid.ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
クライアント証明書が不正です。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

クライアント証明書が不正です。

(S)
計測を終了します。

(O)
クライアント証明書を確認してください。

KAVK08256-E

The private key information of the client certificate is invalid. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
クライアント証明書の秘密鍵が不正です。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

クライアント証明書の秘密鍵パスワードが不正です。

(S)
計測を終了します。

(O)
クライアント証明書の秘密鍵パスワードが正しいか確認してください。

KAVK08257-E

An authentication is required. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
指定されたリソースへの認証が必要です。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

指定されたリソースにアクセスするには認証が必要です。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測条件または Web トランザクションに Web 認証ユーザー名と Web 認証パスワードを登録してください。

KAVK08258-E

A proxy authentication is required. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
プロキシへの認証が必要です。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

プロキシへの認証が必要です。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測条件または Web トランザクションにプロキシ

ユーザー名とプロキシパスワードを登録してください。

KAVK08259-E

A timeout has occurred. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
HTTPタイムアウトが発生しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

HTTP サーバでタイムアウトが発生しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
HTTP サーバまたはネットワークの状態を確認してください。

KAVK08260-E

The requested method is not allowed. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
指定されたメソッドは許可されていません。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

リソースに対して指定されたメソッドは許可されていません。

(S)
計測を終了します。

(O)
URL またはメソッドが正しいか確認してください。

KAVK08261-E

The requested resource was not found. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
指定されたリソースがサーバ上にありません。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

指定されたリソースがサーバ上にありません。

(S)
計測を終了します。

(O)
URL が正しいか確認してください。

KAVK08262-E

The user does not have permission for the requested operation. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
指定されたリソースへのアクセス権がありません。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

指定されたリソースへのアクセス権がありません。

(S)
計測を終了します。

(O)
HTTP サーバの設定を確認してください。
クライアント認証を行っている場合は，クライアント証明書が正しいか確認してください。

KAVK08263-E

A requested resource is invalid. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
指定されたリソースが不正です。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

指定されたリソースは利用できない状態です。

(S)
計測を終了します。

(O)
リソースの状態を確認してください。

KAVK08264-E

The requested URL is too long. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
URLが長過ぎるためサーバでは受け付けられません。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

URL が長過ぎてサーバが受け付けられません。

(S)
計測を終了します。

(O)
指定する URL の長さを短くしてください。

KAVK08265-E

The entity is too long. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
エンティティが長過ぎるためサーバでは受け付けられません。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

エンティティが長過ぎてサーバが受け付けられません。

(S)
計測を終了します。

(O)
指定するメッセージボディの長さを短くしてください。

KAVK08266-E

An internal server error has occurred. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
HTTPサーバでエラーが発生しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

HTTP サーバでエラーが発生しました。

(S)

計測を終了します。

(O)

HTTP サーバまたはプロキシサーバの状態を確認してください。

KAVK08267-E

The reading or writing of the cookie file has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**, File=**ファイル名**
Cookieファイルの読み込みまたは書き込みに失敗しました。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**, ファイル名=**ファイル名**

Cookie ファイルの読み込みまたは書き込みに失敗しました。計測条件 ID, サービスタイプ

(S)

計測を終了します。

(O)

Cookie ファイルが存在するか，またはアクセス権があることを確認してください。

KAVK08268-E

The client certificate is not matching to the private key. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**, URL=URL
クライアント証明書と秘密鍵が一致していません。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**, URL=URL

クライアント証明書と秘密鍵が一致していません。

(S)

計測を終了します。

(O)

クライアント証明書と秘密鍵が正しいかを確認してください。

KAVK08269-E

An invalid cookie file was found. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**, File=**ファイル名**
Cookieファイルのフォーマットが不正です。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**, ファイル名=**ファイル名**

Cookie ファイルのフォーマットが不正です。

(S)

計測を終了します。

(O)

Cookie ファイルを削除してください。

KAVK08270-W

An invalid cookie header was received. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**, Cookie=**Cookieヘッダー**
不正なCookieヘッダーを受信しました。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**, Cookie=**Cookieヘッダー**

不正なフォーマットの Cookie ヘッダーを受信しました。Cookie は保存されません。

(S)

計測を続行します。

KAVK08271-E

An error occurred in the processing which set the client certificate. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**, URL=URL
クライアント証明書の登録処理でエラーが発生しました。ID=**計測条件**ID,サービスタイプ=**サービスタイプ**, URL=URL

クライアント証明書の登録時にエラーが発生しました。

(S)

計測を終了します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。問題が解決できない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK08273-E

The specified URL is invalid. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**, URL=URL
指定されたURLが不正です。ID=**計測条件**ID, サービスタイプ=**サービスタイプ**, URL=URL

指定された URL は不正なフォーマットです。

(S)

計測を終了します。

(O)

正しいフォーマットで URL を指定してください。

KAVK08275-E

The creation of the new process for the user-defined command has failed. There are too many processes. ID=**計測条件**ID, User_defined_command=**ユーザー定義コマンド名**
起動しているプロセスが多過ぎるためユーザー定義コマンドを実行できません。ID=**計測条件**ID, ユーザー定義コマンド名=**ユーザー定義コマンド名**

起動しているプロセスが多過ぎてユーザー定義コマンドを実行できません。

(S)

計測を終了します。

(O)
未使用のアプリケーションを終了してください。

KAVK08276-E

The opening of the user-defined command file has failed. ID=**計測条件**ID，User_defined_command=**ユーザー定義コマンド名**
指定されたユーザー定義コマンドの実行権限がありません。ID=**計測条件**ID,ユーザー定義コマンド名=**ユーザー定義コマンド名**

指定されたユーザー定義コマンドの実行権限がありません。

(S)
計測を終了します。

(O)
ユーザー定義コマンドが実行可能かを確認してください。

KAVK08277-E

The user-defined command file was not found. ID=**計測条件**ID，User_defined_command=**ユーザー定義コマンド名**
指定されたユーザー定義コマンドが見つかりません。ID=**計測条件**ID，ユーザー定義コマンド名=**ユーザー定義コマンド名**

指定されたユーザー定義コマンドが見つかりません。

(S)
計測を終了します。

(O)
ユーザー定義コマンドが存在するかを確認してください。

KAVK08278-E

The user-defined command execution has failed. ID=**計測条件**ID，User_defined_command=**ユーザー定義コマンド名**
指定されたユーザー定義コマンドが実行できません。ID=**計測条件**ID，ユーザー定義コマンド名=**ユーザー定義コマンド名**

指定されたユーザー定義コマンドは実行可能ではありません。

(S)
計測を終了します。

(O)
ユーザー定義コマンドが実行可能かを確認してください。

KAVK08279-E

The user-defined command has failed. ID=**計測条件**ID，User_defined_command=**ユーザー定義コマンド名**
指定されたユーザー定義コマンドは異常終了しました。ID=**計測条件**ID，ユーザー定義コマンド名=**ユーザー定義コマンド名**

指定されたユーザー定義コマンドは異常終了しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
ユーザー定義コマンドが正常動作するかを確認してください。

KAVK08280-E

The output of the user-defined command is invalid. ID=**計測条件**ID，User_defined_command=**ユーザー定義コマンド名**
指定されたユーザー定義コマンドの出力が不正です。ID=**計測条件**ID，ユーザー定義コマンド名=**ユーザー定義コマンド名**

指定されたユーザー定義コマンドの出力が不正です。

(S)
計測を終了します。

(O)
ユーザー定義コマンドの出力を確認してください。

KAVK08281-E

The DNS resolution of the target hostname has failed. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，Query=**検索対象ホスト名**
検索対象ホスト名の名前解決に失敗しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，ホスト名=**検索対象ホスト名**

指定された検索対象ホスト名はホスト名ではないため，対応する IP アドレスを取得できません。

(S)
計測を終了します。

(O)
検索対象ホスト名が正しいか確認してください。

KAVK08300-W

An attempt to set up the timer precision has failed.
タイマー精度の設定に失敗しました。

応答時間計測に用いるタイマーの精度設定に失敗しました。計測の精度が 5 ミリ秒から数 10 ミリ秒になる可能性があります。

(S)
計測を続行します。

KAVK08301-E

The authentication has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**, User=**ユーザー名**
認証に失敗しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，ユーザー名=**ユーザー名**

認証に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
入力した計測条件を見直してください。計測条件で与えられたユーザー名またはパスワードが誤っているおそれがあります。

KAVK08302-E

The server returned an unexpected response. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**，Server=**サーバ名またはIPアドレス**
サーバが予期しないレスポンスを返しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，サーバ=**サーバ名またはIPアドレス**

サーバが予期しないレスポンスを返しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
計測対象サーバが RFC 準拠のサーバでない可能性があります。計測対象サーバが RFC に準拠しているか確認してください。

KAVK08303-E

The reading or writing of the file for measurement of FTP has failed. ID=**計測条件**ID，File=**ファイル名**
FTPの計測用ファイルの読み込みまたは書き込みに失敗しました。ID=**計測条件**ID，ファイル名=**ファイル名**

FTP の計測用ファイルの読み込みまたは書き込みに失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
指定されたファイルに対するアクセス権限があるか，またはファイルが存在するか確認してください。

KAVK08304-E

The host information acquisition of a local machine has failed. ID=**計測条件**ID，Service_type=**サービスタイプ**
ローカルマシンのホスト情報取得に失敗しました。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**

ローカルマシンのホスト情報取得に失敗しました。

(S)
計測を終了します。

(O)
ローカルマシンに対して IP アドレスやホスト名の設定が正常に行われていない可能性があります。設定されていない場合は適切な IP アドレスを設定してください。

KAVK08305-E

The file for measurement of FTP is not found. ID=**計測条件**ID，File=**ファイル名**
指定されたFTPの計測用ファイルが見つかりません。ID=**計測条件**ID,ファイル名=**ファイル名**

指定された FTP の計測用ファイルが見つかりません。

(S)
計測を終了します。

(O)
指定されたファイルが存在するか確認してください。

KAVK08310-E

It was not consistent to response pattern. ID=**計測条件**ID，URL=URL
レスポンス判定情報に一致していませんでした。 ID=**計測条件**ID，URL=URL

取得した HTML ファイルの内容がレスポンス判定情報で指定した内容と一致していません。

(S)
計測を終了します。

(O)
HTTP サーバまたはネットワークの状態を確認してください。

KAVK08311-W

The measurement is continued though the acquisition of an embedded resource has failed. ID=**計測条件**ID, Service_type=**サービスタイプ**，URL=URL
埋め込みリソースの取得に失敗しましたが，計測を続行します。ID=**計測条件**ID，サービスタイプ=**サービスタイプ**，URL=URL

埋め込みリソースの取得に失敗しましたが，Probe 動作条件定義ファイル (esp.conf) の設定内容に従い，計測を続行します。

(S)
計測を続行します。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKnnnnn-Z のメッセージを参照し，適切に処理してください。
「nnnnn」はメッセージの通し番号を示します。「Z」はメッセージの種類を示します。

KAVK08312-E

The output of HTML has failed. ID=**計測条件**ID, Step_id=**ステップ識別子**
HTMLの出力に失敗しました。ID=**計測条件**ID，ステップ識別子=**ステップ識別子**

取得した HTML のファイル出力に失敗しました。

(S)
計測を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- ディスク容量が不足していないか
- HTML の出力先ディレクトリがあるか，およびアクセス権があるか
- ステップ識別子がほかの Web トランザクションと重複していないか

KAVK08313-W

The element including substitute string does not exists. ID=**計測条件**ID，Element_name=**要素名**
代替文字列を含む要素が見つかりませんでした。ID=**計測条件**ID，要素名=**要素名**

取得した HTML 内に，指定した代替文字列を含む要素が見つかりませんでした。

(S)
可変文字列を空文字に置き換えて計測を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- <TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップ識別子が正しいか
- <TARGET_ELEMENT> タグで指定した代替文字列を含む要素が正しいか
- Web トランザクションの計測で予期していない結果が応答されていないか

KAVK08314-W

The HTML including substitute string does not exists. ID=**計測条件**ID，Step_id=**ステップ識別子**
代替文字列を含むHTMLが見つかりませんでした。ID=**計測条件**ID，ステップ識別子=**ステップ識別子**

<TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップ識別子の HTML が見つかりませんでした。

(S)
可変文字列の置き換えを行わないで，計測を続行します。

(O)
<TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップ識別子のステップの応答が HTML であったかを確認してください。

KAVK08315-W

The content of element including substitute string is empty. ID=**計測条件**ID，Element_name=**要素名**
代替文字列を含む要素の内容が空でした。ID=**計測条件**ID，要素名=**要素名**

指定された代替文字列を含む要素が空要素でした。

(S)
可変文字列を空文字に置き換えて計測を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- <TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップ識別子が正しいか
- <TARGET_ELEMENT> タグで指定した代替文字列を含む要素が正しいか
- <SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した代替文字列が含まれる個所が正しいか

KAVK08316-W

The attribute of element including substitute string does not exists. ID=**計測条件**ID，Element_name=**要素名**, Attribute_name=**属性名**
代替文字列を含む要素の属性がみつかりませんでした。ID=**計測条件**ID，要素名=**要素名**，属性名=**属性名**

<TYPE_ATTRIBUTE> タグで指定した属性名が，指定された代替文字列を含む要素に見つかりませんでした。

(S)
可変文字列を空文字に置き換えて計測を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- <TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップ識別子が正しいか
- <TARGET_ELEMENT> タグで指定した代替文字列を含む要素が正しいか
- <SUBSTITUTE_TYPE> タグで指定した代替文字列が含まれる個所が正しいか

KAVK08317-W

The HTTP header including substitute string does not exists. ID=**計測条件**ID, Header_name=HTTP**ヘッダー名**
代替文字列を含むHTTPヘッダーが見つかりませんでした。ID=**計測条件**ID, ヘッダー名=HTTP**ヘッダー名**

取得した HTTP ヘッダー内に，指定した代替文字列を含むヘッダーが見つかりませんでした。

(S)
可変文字列を空文字に置き換えて計測を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- <TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップ識別子が正しいか。
- <TARGET_HEADER> タグで指定した代替文字列

を含むヘッダーが正しいか。
- Web トランザクションの監視で予期していない結果が応答されていないか。

KAVK08318-W

The content of HTTP header including substitute string is empty. ID=**計測条件**ID, Header_name=HTTP**ヘッダー名**
代替文字列を含むヘッダーの値が空でした。ID=**計測条件**ID, ヘッダー名=HTTP**ヘッダー名**

指定された代替文字列を含むヘッダーの値が空でした。

(S)
可変文字列を空文字に置き換えて計測を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- <TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップ識別子が正しいか。
- <TARGET_HEADER> タグで指定した代替文字列を含む要素が正しいか。

KAVK08319-W

Execution of the command that generates substitute string has failed. ID=**計測条件**ID, Command=**代替文字列生成コマンド名**
代替文字列生成コマンドの実行に失敗しました。ID=**計測条件**ID, コマンド名=**代替文字列生成コマンド名**

代替文字列生成コマンドの実行に失敗しました。

(S)
可変文字列を空文字に置き換えて計測を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- 指定したコマンドが存在するか。
- <TARGET_COMMAND_LINE> タグで指定したコマンドラインが正しいか。
- <TARGET_COMMAND_ARG> タグで指定した引数が正しいか。
- 指定したコマンドが標準出力に代替文字列を出力しているか。
- 指定したコマンドの戻り値（終了コード）が 0 かどうか。

KAVK08320-E

The output of HTTP header has failed. ID=**計測条件**ID, Step_id=**ステップ識別子**
HTTPヘッダーの出力に失敗しました。ID=**計測条件**ID, ステップ識別子=**ステップ識別子**

取得した HTTP ヘッダーのファイル出力に失敗しました。

(S)
計測を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- ディスク容量が不足していないか。
- HTML の出力先ディレクトリがあるか，およびアクセス権があるか。
- ステップ識別子がほかの Web トランザクションと重複していないか。

KAVK08321-E

A timeout has occurred during execution of the command that generates substitute string. ID=**計測条件**ID, Command=**代替文字列生成コマンド名**
代替文字列生成コマンドの実行中にタイムアウトが発生しました。ID=**計測条件**ID, コマンド名=**代替文字列生成コマンド名**

代替文字列生成コマンド実行中に計測がタイムアウトしました。計測がタイムアウトした際に代替文字列生成コマンドが実行されていたか，代替文字列生成コマンドが終了しないため計測がタイムアウトしました。

(S)
計測を終了します。

(O)
次のことを確認してください。
- 代替文字列生成コマンドが正しい引数で実行されているか。
- 代替文字列生成コマンドの実行内容が正しいか。
- タイムアウト時間が短くないか。

KAVK08500-E

Insufficient memory occurred.
メモリー不足が発生しました。

メモリー不足が発生しました。処理を継続できません。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
使用していないアプリケーションを停止するか，またはメモリーを拡張してください。

KAVK08501-E

An internal error occurred.
内部でエラーが発生しました。

内部でエラーが発生しました。処理を継続できません。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
システム管理者に連絡してください。

KAVK08502-E

The error occurred in communication with**プロセス名，エラーコード，詳細エラーコード**
プロセス名との通信でエラーが発生しました。**エラーコード，詳細エラーコード**

デーモンとの通信でエラーが発生しました。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。
再度実行しても回復しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK08503-E

A system call error occurred in communication with**プロセス名，システムコール名，エラー番号，エラーストリング**
プロセス名との通信でシステムコールエラーが発生しました。**システムコール名，エラー番号，エラーストリング**

デーモンとの通信でシステムコールエラーが発生しました。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。
再度実行しても回復しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK08504-E

An attempt to connect with**プロセス名** has failed.
プロセス名との接続に失敗しました。

デーモンと接続できませんでした。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
デーモンプロセスが起動しているか確認してください。

KAVK08505-E

プロセス名did not return a response.
プロセス名は応答を返しませんでした。

要求に対してデーモンが応答を返さなかったためタイムアウトしました。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
デーモンでエラーが発生していないか確認してください。
問題が解決しない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK08506-E

An internal error occurred.
内部でエラーが発生しました。

内部でエラーが発生しました。処理を継続できません。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
システム管理者に連絡してください。

KAVK08507-E

Starting of jpcviesvc has failed.
jpcviesvcの起動に失敗しました。

jpcviesvc の起動に失敗しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
Probe 動作条件定義ファイルの設定が正しいか確認してください。
IE Probe デーモンでエラーが発生していないか確認してください。
問題が解決しない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK08508-E

jpcviesvc abnormally ended.
jpcviesvcが異常終了しました。

jpcviesvc が異常終了しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
このメッセージの前に出力される KAVKxxxxx のメッセージを参照して，適切な処理を実行してください。
問題が解決しない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK08509-E

The content of a definition in the Probe action condition definition file is invalid. **キー**
Probe動作条件定義ファイルの定義内容に誤りがあります。**キー**

Probe 動作条件定義ファイルの定義内容に誤りがあります。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
Probe 動作条件定義ファイルの設定内容を修正し，再度実行してください。

KAVK08510-E

Starting of jpcviemd has failed.
jpcviemdの起動に失敗しました。

jpcviemd の起動に失敗しました。

(S)
エージェントコレクタの処理を続行します。

(O)
このメッセージの前に出力される KAVKxxxxx のメッセージを参照して，適切な処理を実行してください。
問題が解決しない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK08511-E

jpcviesvc has been already started.
jpcviesvcがすでに起動しています。

jpcviesvc がすでに起動しています。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
すでに jpcviesvc が起動しています。再起動する場合は，一度 jpcviesvc を停止してから起動してください。

KAVK08512-E

A prerequisite program is not installed.
IE Probe Daemonの前提プログラムがインストールされていません。

IE Probe Daemon が動作するための前提プログラムがインストールされていません。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
IE シナリオの計測を行う場合は，IE Probe Daemon が動作するための前提プログラム（.NET Framework 2.0）をインストールしてください。

KAVK08513-E

An internal error occurred.**エラー詳細**
内部エラーが発生しました。**エラー詳細**

プログラム内部でエラーが発生しました。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
システム管理者に連絡してください。

KAVK08514-E

Win32 API error occurred. API= **API関数名**, ERRNO=**エラーコード**
Win32 APIがエラーを返しました。API=**API関数名**, ERRNO=**エラーコード**

Win32 API がエラーを返しました。

(S)
jpcviesvc を終了します。

(O)
システム管理者に連絡してください。

KAVK10000-I

jpcviemd was started.
jpcviemdを起動しました。

jpcviemd を起動しました。

(S)
jpcviemd を起動しました。

KAVK10001-E

Starting of jpcviemd has failed.
jpcviemdの起動に失敗しました。

jpcviemd の起動に失敗しました。

(S)
jpcviemd の起動に失敗しました。

(O)
Probe 動作条件定義ファイルが所定のフォルダに格納されているか確認してください。

KAVK10002-E

jpcviemd has already started.
jpcviemdがすでに起動しています。

jpcviemd がすでに起動しています。

(S)
jpcviemd を終了します。

(O)
すでに jpcviemd が起動しています。再起動する場合は，一度 jpcviemd を停止してから起動してください。

KAVK10003-I

jpcviemd was stopped.
jpcviemdを停止しました。

jpcviemd が正常に終了しました。

(S)
jpcviemd が正常に終了しました。

KAVK10004-E

jpcviemd abnormally ended.
jpcviemdが異常終了しました。

jpcviemd が異常終了しました。

(S)
jpcviemd が異常終了しました。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK10005-E

Abnormal termination of jpcvieprobed was detected.
jpcvieprobedの異常終了を検出しました。

jpcvieprobed の異常終了を検出しました。

(S)
処理を続行します。

(O)
jpcvieprobed のメッセージを確認してください。

KAVK10006-E

A failure to start jpcvieprobed was detected.
jpcvieprobedの起動失敗を検出しました。

jpcvieprobed の起動失敗を検出しました。

(S)
処理を続行します。

(O)
jpcvieprobed のメッセージを確認してください。

KAVK10007-E

An attempt to restart jpcvieprobed failed. PID=プロセスID
jpcvieprobedの再起動に失敗しました。PID=プロセスID

jpcieprobed の再起動に失敗しました。

(S)
処理を続行します。

(O)
PID で示されるプロセスの状態を確認してください。

KAVK10010-E

A prerequisite program is not installed.
IE Probe Daemonの前提プログラムがインストールされていません。

IE Probe Daemon が動作するための前提プログラムがインストールされていません。

(S)
jpcviemd を終了します。

(O)
IE シナリオを計測する場合は，IE Probe Daemon が動作するための前提プログラム（NET Framework 2.0）をインストールしてください。

KAVK10020-E

An attempt to open the Probe action condition definition file has failed.
Probe動作条件定義ファイルのオープンに失敗しました。

Probe 動作条件定義ファイルにアクセスできません。

(S)
jpcviemd を終了します。

(O)
Probe 動作条件定義ファイルが所定のフォルダに格納されているか確認してください。また，Probe 動作条件定義ファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK10021-E

Information could not be acquired from the Probe action condition definition file.
Probe動作条件定義ファイルから情報を取得できませんでした。

Probe 動作条件定義ファイルから情報を取得できませんでした。

(S)
jpcviemd を終了します。

(O)
Probe 動作条件定義ファイルの記述形式を確認してください。

KAVK10022-E

The content of a definition in the Probe action condition definition file is invalid.**セクション：キー**
Probe動作条件定義ファイルの定義内容に誤りがあります。**セクション：キー**

Probe 動作条件定義ファイルの設定内容に誤りがあります。

(S)
jpcviemd を終了します。

(O)

Probe 動作条件定義ファイルの設定内容を修正し，再度実行してください。

KAVK10023-E

The specified directory is not on the shared disk. (directory =**指定された共有ディスク上のディレクトリ**)
指定されたディレクトリが共有ディスク上に存在しません。ディレクトリ=**指定された共有ディスク上のディレクトリ**

クラスタ構成で動作する場合に必要となる共有ディスク上のディレクトリが存在しませんでした。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

次のことを確認してください。

- Probe 動作条件定義ファイルの指定が正しいか。
- 共有ディスクが使用できる状態になっているか。
- 共有ディスク上にこの製品が必要とするディレクトリが存在するか。

KAVK10030-E

An attempt to open the measurement condition registration file has failed.
計測条件登録ファイルのオープンに失敗しました。

計測条件登録ファイルにアクセスできません。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

計測条件登録ファイルが所定のフォルダに格納されているか確認してください。また，計測条件登録ファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK10032-E

The format of a definition in the measurement condition registration file is invalid. (**エラー詳細**)
計測条件登録ファイルの書式に誤りがあります。**エラー詳細**

計測条件登録ファイルの書式に誤りがあります。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

計測条件登録ファイルの記述形式を確認してください。

KAVK10033-E

The content of a definition in the measurement condition registration file is invalid. (ID =**計測条件**ID, tag =**タグ名**)
計測条件登録ファイルの定義内容に誤りがあります。ID=**計測条件**ID,TAG=**タグ名**

計測条件登録ファイルの定義内容に誤りがあるため，設定内容を読み込めませんでした。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

計測条件登録ファイルの設定内容を修正し，再度実行してください。

KAVK10040-E

An attempt to open the IE scenario file has failed.
IEシナリオファイルのオープンに失敗しました。

IE シナリオファイルにアクセスできませんでした。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

IE シナリオファイルが所定のフォルダに格納されているか確認してください。
また，IE シナリオファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK10060-E

An attempt to reserve memory has failed.
メモリーが確保できませんでした。

処理中にメモリーの確保に失敗しました。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

不要なアプリケーションを終了して再度実行してください。メモリーを増設する，または仮想メモリーの領域を増やしてください。

KAVK10061-E

The capacity of the disk is insufficient.
ディスクの容量が不足しています。

ディスクに必要な空き容量がありません。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

不要なファイルを削除して再度実行してください。また，ディスクを増設してください。

KAVK10070-E

An internal error occurred. (**エラー詳細**)
内部エラーが発生しました。**エラー詳細**

プログラム内部でエラーが発生しました。

(S)
jpcviemd を終了します。

(O)
システム管理者に連絡してください。

KAVK10073-E

An unexpected error occurred in communication. (**エラーコード**, **詳細エラーコード**)
通信で予期しないエラーが発生しました。**エラーコード**, **詳細エラーコード**

通信で予期しないエラーが発生しました。

(S)
jpcviemd を終了します。

(O)
このメッセージが繰り返し出力される場合，ネットワーク環境に問題がないか見直してください。

KAVK10080-E

The report output has failed. (ID = **計測条件**ID)
レポート出力に失敗しました。ID=**計測条件**ID

レポートファイルの出力に失敗しました。

(S)
処理を続行します。

(O)
次のことを確認してください。
- レポートファイルの格納フォルダが存在するか，およびアクセス権があるか。
- レポートファイルがほかのプロセスで使用中ではないか。
- ディスク容量が適切か。
- ネットワークの状態が正しいか。

KAVK10081-W

The file size of a report file reached the maximum report file size. (ID = **計測条件**ID)
レポートファイルのサイズが上限値に達しました。ID=**計測条件**ID

レポートファイルのサイズが上限値に達したため，バックアップファイルを作成しました。

(S)
処理を続行します。

(O)
次にレポートファイルのサイズが上限値に達した場合，レポートが失われるため，必要に応じてバックアップを行ってください。

KAVK10082-W

The backup file of a report file was overwritten. (ID = **計測条件**ID)
レポートファイルのバックアップファイルが上書きされました。ID=**計測条件**ID

すでに存在するレポートファイルのバックアップファイルを上書きしました。

(S)
処理を続行します。

(O)
次にレポートファイルのサイズが上限値に達した場合，再びレポートが失われるため，必要に応じてバックアップを行ってください。

KAVK10100-W

Measurement started after the period from the measurement start time exceeded the measurement interval. (ID = **計測条件**ID)
計測開始時刻から計測間隔以上経過したあとに計測が開始されました。ID=**計測条件**ID

計測開始時刻から実際に計測を開始した時刻まで計測間隔以上経過しています。

(S)
処理を続行します。

(O)
プローブの計測多重度を増やす，または監視条件数を減らす，計測間隔を長くするなど，実際の計測時刻のずれが少なくなるように設定を見直してください。

KAVK10101-E

IE scenario cannot be measured because all jpcvieprobed are unavaibale.
全てのjpcvieprobedが利用できないためIEシナリオの計測ができません。

全ての jpcvieprobed が応答しない，または起動に失敗したため IE シナリオの計測ができません。

(S)
処理を続行します。

(O)
プローブを再起動してください。

KAVK10102-E

An attempt to receive the measured data has failed. ID=**計測条件**ID
計測データの受信に失敗しました。ID=**計測条件**ID

計測したデータの受信に失敗しました。

(S)

処理を続行します。

(O)

このメッセージが頻繁に出力される場合はシステムの状態を確認してください。

KAVK10103-E

Authentication with the SCM has failed.
SCMとの認証に失敗しました。

SCM との認証に失敗しました。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。問題が解決できない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK10104-E

An attempt to initialize communication has failed.
通信の初期化に失敗しました。

通信の初期化に失敗しました。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。問題が解決できない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK10105-E

A system call error occurred in communication. **システムコール名，エラー番号，エラーストリング**
通信でシステムコールエラーが発生しました。**システムコール名，エラー番号，エラーストリング**

通信でシステムコールエラーが発生しました。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

このメッセージが繰り返し出力される場合，ネットワーク環境に問題がないか見直してください。回復しない場合は，システム管理者に連絡してください。

KAVK10106-E

The abnormal termination of SCM was detected.
SCMの異常終了を検知しました。

SCM の異常終了を検出しました。

(S)

jpcviemd を終了します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。問題が解決できない場合，システム管理者に連絡してください。

KAVK11001-E

Starting of jpcvieprobed has failed.
jpcvieprobedの起動に失敗しました。

jpcvieprobed の起動に失敗しました。

(S)

jpcvieprobed の起動に失敗しました。

(O)

このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK11003-E

jpcvieprobed abnormally ended.
jpcvieprobedが異常終了しました。

jpcvieprobed が異常終了しました。

(S)

jpcvieprobed が異常終了しました。

(O)

このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK11010-I

Normal termination of jpcviemd was detected.
jpcviemdの正常終了を検出しました。

jpcviemd の正常終了を検出しました。

(S)

jpcvieprobed を終了します。

KAVK11011-E

Abnormal termination of jpcviemd was detected.
jpcviemdの異常終了を検出しました。

jpcviemd の異常終了を検出しました。

(S)

jpcvieprobed を終了します。

(O)

jpcviemd のメッセージを確認してください。

KAVK11020-E

An attempt to reserve memory has failed.
メモリーの確保に失敗しました。

処理中にメモリーの確保に失敗しました。

(S)

jpcvieprobed を終了します。

(O)

不要なアプリケーションを終了して再度実行してください。メモリーを増設する，または仮想メモリーの領域を増やしてください。

KAVK11030-E

An internal error occurred.
内部エラーが発生しました。

プログラム内部でエラーが発生しました。

(S)

jpcvieprobed を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KAVK11040-E

An attempt to initialize communication has failed.
通信の初期化に失敗しました。

通信の初期化に失敗しました。

(S)

jpcvieprobed を終了します。

(O)

このメッセージが繰り返し出力される場合，ネットワーク環境に問題がないことを確認してください。

KAVK11041-E

A system call error occurred in communication. (**システムコール名**, **エラー番号**, **エラーストリング**)
通信でシステムコールエラーが発生しました。**システムコール名**，**エラー番号**，**エラーストリング**

通信でシステムコールに失敗しました。

(S)

jpcvieprobed を終了します。

(O)

このメッセージが繰り返し出力される場合，ネットワーク環境に問題がないか見直してください。

KAVK11042-E

An unexpected error occurred in communication. (**エラーコード**, **詳細エラーコード**)
通信で予期しないエラーが発生しました。**エラーコード**，**詳細エラーコード**

通信で予期しないエラーが発生しました。

(S)

jpcvieprobed を終了します。

(O)

このメッセージが繰り返し出力される場合，ネットワーク環境に問題がないか見直してください。

KAVK37000-E

An attempt to start Web Recorder has failed.
Web Recorderの起動に失敗しました。

Web Recorder の起動に失敗しました。

(S)

Web Recorder を起動しません。

(O)

このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK37001-E

Web Recorder has ended abnormally.
Web Recorderが異常終了しました。

Web Recorder が異常に終了しました。

(S)

Web Recorder を終了します。

(O)

このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK37002-E

An attempt to initialize the logging function has failed.
統合トレース機能の起動に失敗しました。

統合トレース機能が使用できません。

(S)

Web Recorder を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KAVK37100-E

The definition of the Web Recorder action condition definition file is invalid. (**セクション名** section: **キー名**)
Web Recorder動作条件定義ファイルの内容に誤りがあります。(**セクション名** セクション： **キー名**)

Web Recorder 動作条件定義ファイルの記載に誤りがあります。

(S)

デフォルト値を使用して処理を続行します。

(O)

ファイルの記載内容に誤りがないか確認してください。また，デフォルトの値を使用して問題ないか確認してください。

KAVK37101-E

An attempt to read the Web Recorder action condition definition file has failed.
Web Recorder動作条件定義ファイルの読み込みに失敗しました。

Web Recorder 動作条件定義ファイルが見つかりません。または，アクセス権限がなく，ファイルをオープンできません。

(S)
デフォルト値を使用して処理を続行します。

(O)
Web Recorder 動作条件定義ファイルが所定のフォルダに配置されていることを確認してください。
また，Web Recorder 動作条件定義ファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK37102-E

An attempt to read the web transaction data has failed.（filename:**ファイル名**）
Webトランザクション情報の読み込みに失敗しました。（ファイル名：**ファイル名**）

Web トランザクションファイルから Web トランザクション情報を読み込めません。

(S)
Web トランザクションの読み込みを中止します。そのほかの処理は続行します。

KAVK37103-E

An irreparable error occurred while processing web transaction data. Read web transaction data is lost.
Webトランザクション情報の処理中に修復できないエラーが発生しました。Webトランザクション情報は失われます。

読み込んだ Web トランザクション情報を処理中に，修復できないエラーが発生しました。

(S)
読み込んだ Web トランザクション情報を破棄し，アプリケーションを初期状態に戻します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37104-E

The directory where web transaction file is saved does not exist.
Webトランザクションファイル格納ディレクトリが存在しません。

Web トランザクションファイル格納ディレクトリがありません。

(S)
Web トランザクションの読み込みを中止します。そのほかの処理は続行します。

(O)
Web トランザクション格納ディレクトリが所定のフォルダに配置されていることを確認してください。

KAVK37105-E

An attempt to get the list of web transactions name has failed.（filename: Web**トランザクションファイル名**）
Webトランザクション名の一覧の取得に失敗しました。（ファイル名：Web**トランザクションファイル名**）

指定したファイルの Web トランザクション名の一覧を取得するのに失敗しました。

(S)
ファイルの読み込みを中止します。そのほかの処理は続行します。

(O)
このメッセージの前に出力される KAVKxxxxx のメッセージを参考し，指定されたファイルの Web トランザクションファイルの記載内容に誤りがないか確認してください。

KAVK37107-E

An attempt to get the list of web transaction filename has failed.
Webトランザクションファイルの一覧の取得に失敗しました。

Web トランザクションファイルの一覧を取得するのに失敗しました。

(S)
Web トランザクションファイルの一覧の取得の処理を中止します。そのほかの処理は続行します。

(O)
Web トランザクション格納ディレクトリが所定のフォルダに配置されていることを確認してください。

KAVK37109-E

A system call error occurred.
システムコールによりエラーが発生しました。

システムコールでエラーが発生しました。

(S)
ファイル操作を中止します。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37110-E

You do not have access permissions in the selected directory.（directory name: **ディレクトリ名**）
指定されたディレクトリへのアクセス権限がありません。（ディレクトリ名：**ディレクトリ名**）

指定されたディレクトリへのアクセス権限がありません。

(S)
ファイルの読み込みを中止します。そのほかの処理は続行します。

(O)
指定のディレクトリのアクセス権限を確認してください。

KAVK37111-E

You do not have access permissions in the selected file.（filename: **ファイル名**）
指定されたファイルへのアクセス権限がありません。（ファイル名：**ファイル名**）

指定されたファイルへのアクセス権限がありません。

(S)
ファイルの操作を中止します。そのほかの処理は続行します。

(O)
指定したファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK37113-E

No web transaction name is selected.
Webトランザクション名が指定されていません。

Web トランザクション名が指定されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
Web トランザクション名を指定してください。

KAVK37114-E

No web transaction filename is selected.
Webトランザクションファイル名が指定されていません。

Web トランザクションファイル名が指定されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
Web トランザクションファイル名を指定してください。

KAVK37115-E

The specified file is not xml.
指定されたWebトランザクションファイルがXML形式ではありません。

指定された Web トランザクションファイルの形式が XML ではありません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
Web トランザクションファイルには，XML 形式のファイルを指定してください。

KAVK37116-E

An attempt to get web transaction filename has failed.
Webトランザクションファイル名の取得に失敗しました。

Web トランザクション格納ディレクトリにある Web トランザクションファイル名の取得に失敗しました。

(S)
そのほかの処理を続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37117-E

An attempt to get web transaction name has failed.
Webトランザクション名の取得に失敗しました。

Web トランザクションファイルから Web トランザクション名の取得に失敗しました。

(S)
そのほかの処理を続行します。

(O)
Web トランザクションファイルに，同じ Web トランザクション名を持つ Web トランザクションが定義されていないか確認してください。

KAVK37118-E

The specified file is not found.（filename: **ファイル名**）
一時書き込みファイルが見つかりません。（ファイル名：**ファイル名** ）

一時書き込みファイルが一時ファイル格納ディレクトリで見つかりません。
一時書き込みファイルに書き込み中に，一時ファイル格納ディレクトリから一時書き込みファイルがありません。

(S)
ファイルの書き込み処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

Web トランザクションファイルの書き込み中に，一時ファイル格納ディレクトリ内のファイルを操作していなかったか確認してください。

KAVK37120-E

The delete object is not found.
削除する対象が見つかりません。

削除対象の Web トランザクション定義が見つかりません。
指定の Web トランザクションファイルに削除対象の Web トランザクション定義がありません。

(S)

Web トランザクションの削除処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

削除対象の Web トランザクションが指定の Web トランザクションファイルに定義されているか確認してください。

KAVK37124-E

The disk is full.
ディスク容量が不足しています。

ディスクの容量が不足しています。
書き出すファイルの容量がディスク容量を超えています。

(S)

Web トランザクションの書き込みを中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

ディスクの空き容量を増やしてください。

KAVK37125-E

The specified web transaction data does not exist.
指定されたWebトランザクション情報がありません。

指定された Web トランザクション情報が見つかりません。
指定された Web トランザクションの定義が指定の Web トランザクションファイルにありません。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

読み込み対象の Web トランザクションが Web トランザクションファイルに定義されているか確認してください。

KAVK37127-E

An attempt to show filename has failed.
Webトランザクションファイル名の表示に失敗しました。

Web トランザクションファイル名を Web トランザクションファイル一覧に表示できませんでした。

(S)

そのほかの処理を続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37130-E

An attempt to show the list of web transaction name has failed.
Webトランザクション名の一覧の表示に失敗しました。

Web トランザクション名の一覧を Web トランザクション名一覧に表示するのに失敗しました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37131-E

An attempt to create a web transaction has failed.
Webトランザクション情報の作成に失敗しました。

新規に Web トランザクション情報を作成するのに失敗しました。

(S)

新規作成処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37132-E

The specified file does not exist.（filename: **ファイル名**）
指定されたファイル（**ファイル名**）が存在しません。

指定されたファイルがありません。
指定したディレクトリがありません。
ヘルプファイルがありません。

(S)

ファイルの読み込み，または，書き込み処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

指定したファイルが指定のディレクトリにあることを確認してください。

KAVK37133-E

An attempt to save the specified web transaction has failed.（filename: **ファイル名**）
指定されたWebトランザクションの保存に失敗しました。（ファイル名：**ファイル名**）

書き込み処理中にエラーが発生したため，Web トランザクション情報の保存に失敗しました。

(S)
Web トランザクション情報の保存処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK37134-E

An attempt to delete the specified web transaction has failed.
指定されたWebトランザクションの削除に失敗しました。

Web トランザクションファイルから Web トランザクション情報を削除するのに失敗しました。

(S)
Web トランザクション情報の削除処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。
直前にメッセージが出なかった場合は，システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37135-E

A web transaction file does not exist.
Webトランザクションファイルがありません。

Web トランザクション格納ディレクトリに Web トランザクションファイルがありません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
Web トランザクション格納ディレクトリに Web トランザクションファイルがあることを確認してください。

KAVK37137-E

An invalid character does exist in filename.
ファイル名に不正な文字が含まれています。

ファイル名にファイル名として使ってはいけない文字が入っていました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
ファイル名を指定する場合，ファイル名に使用してはいけない文字を含めないでください。

KAVK37138-E

The specified web transaction name is already used.
指定されたWebトランザクション名はすでに使用されています。

新規に Web トランザクションを作成する際に，Web トランザクション名として既存の Web トランザクション名が指定されました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
Web トランザクション名は，一つの Web トランザクション定義ファイル内で一意の名前にしてください。

KAVK37139-E

The step definition does not exist.
ステップが定義されていません。

Web トランザクションを保存しようとした際に，ステップ情報を定義していませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
ステップ情報が定義されているか確認してください。

KAVK37140-E

The scope definition is invalid.
スコープの定義が不正です。

Web トランザクションを保存しようとした際に，スコープ定義が不十分，または，誤っています。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
スコープ定義が正しいことを確認してください。

KAVK37141-E

The size of web transaction name was over **入力可能最大バイト数** bytes.
Webトランザクション名の値のサイズが **入力可能最大バイト数** バイトを超えました。

指定された Web トランザクション名が入力できる最大バ

イト数を超えました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
既定の範囲内の文字列で Web トランザクション名を指定してください。

KAVK37142-E

The size of web transaction filename was over **入力可能最大バイト数** bytes.
Webトランザクションファイル名の値のサイズが **入力可能最大バイト数** バイトを超えました。

指定された Web トランザクションファイル名が入力できる最大バイト数を超えました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
既定の範囲内の文字列で Web トランザクションファイル名を指定してください。

KAVK37143-E

An attempt to open the version dialog box has failed.
バージョンダイアログを開けません。

バージョンダイアログを開けません。バージョンダイアログを表示するのに必要なファイルが破損している可能性があります。

(S)
バージョンダイアログを表示しないで，そのほかの処理を続行します。

(O)
ファイルシステムでエラーが発生していないか確認してください。

KAVK37144-E

A valid web transaction file does not exist.
有効なWebトランザクションファイルがありません。

読み込める Web トランザクションファイルがありません。Web トランザクションファイル格納ディレクトリにある Web トランザクションファイルのすべてが不正です。

(S)
［Web トランザクションの選択］画面を開かないで，元の画面に戻ります。

(O)
Web トランザクションファイル格納ディレクトリに格納されている Web トランザクションファイルに間違いがないか確認してください。

KAVK37145-E

An invalid character does exist in web transaction name.
Webトランザクション名に不正な文字が含まれています。

Web トランザクション名に Web トランザクション名として使ってはいけない文字が入っていました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
Web トランザクション名を指定する場合，Web トランザクション名に使用してはいけない文字を含めないでください。

KAVK37200-E

The xml declaration does not exist on the first line.
一行目にXML宣言文がありません。

指定の XML ファイルの一行目に XML 宣言文がありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML ファイルの一行目には，所定の XML 宣言文を設定してください。

KAVK37201-E

The xml declaration is not closed.
XML宣言文が閉じられていません。

指定の XML ファイルの XML 宣言文が閉じられていません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML ファイルの XML 宣言文が閉じられているか確認してください。

KAVK37202-E

The version attribute does not exist in xml declaration.
XML宣言文中にversion属性がありません。

XML 宣言文の中に version 属性がありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML 宣言文中に version 属性があることを確認してください。

KAVK37203-E

Each item in xml declaration is needed separating with a space.
XML宣言文中の項目間はスペースで区切られている必要があります。

XML 宣言文の中の各項目間がスペースで区切られていません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML 宣言文の各項目間をスペースで区切ってください。

KAVK37204-E

The specified version attribute is invalid in xml declaration.
XML宣言文中のversion属性の指定が不正です。

XML 宣言文の version 属性の指定が誤っています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML 宣言文の version 属性を正しく設定してください。

KAVK37205-E

The version number is invalid in xml declaration.
XML宣言文中のversion番号が不正です。

XML 宣言文の version 番号が誤っています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML 宣言文の version 属性の番号を正しく設定してください。

KAVK37206-E

The encoding attribute does not exist in xml declaration.
XML宣言文中にencoding属性がありません。

XML 宣言文の中に encoding 属性がありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML 宣言文の中に encoding 属性があることを確認してください。

KAVK37207-E

The specified encoding attribute is invalid in xml declaration.
XML宣言文中のencoding属性の指定が不正です。

XML 宣言文の encoding 属性が誤っています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML 宣言文の encoding 属性を正しく設定してください。

KAVK37208-E

The standalone attribute does not exist in xml declaration.
XML宣言文中にstandalone属性がありません。

XML 宣言文の中に standalone 属性がありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML 宣言文の中に standalone 属性があることを確認してください。

KAVK37209-E

The specified standalone attribute is invalid in xml declaration.
XML宣言文中のstandalone属性の指定が不正です。

XML 宣言文の standalone 属性の指定が誤っています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML 宣言文の standalone 属性の指定を正しく設定してください。

KAVK37210-E

The xml document declaration does not exist on the second line.
二行目に文書型宣言文がありません。

XML ファイルの二行目に文書型宣言文がありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
XML ファイルの二行目に XML 宣言文があることを確認してください。

KAVK37211-E

The xml document declaration is not closed.
文書型宣言文が閉じられていません。

文書型宣言文が閉じられていません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
文書型宣言文が閉じられているか確認してください。

KAVK37212-E

項目 does not exist in the xml document declaration.
文書型宣言文の中に**項目**がありません。

文書型宣言文の中に定められた項目がありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
文書型宣言内に出力された項目を設定してください。

KAVK37213-E

Each item in xml document declaration is needed separating with a space.
文書型宣言文中の項目間はスペースで区切られている必要があります。

文書型宣言文の中の各項目がスペースで区切られていません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
文書型宣言文の各項目間をスペースで区切ってください。

KAVK37214-E

The start tag of transaction list（**トランザクションリスト開始タグ**）does not exist.
トランザクションリストの開始タグ（**トランザクションリスト開始タグ**）がありません。

XML ファイル内にトランザクションリストの開始タグがありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
トランザクションリストの開始タグを設定してください。

KAVK37215-E

The end tag of transaction list（**トランザクションリスト終了タグ**）does not exist.
トランザクションリストの終了タグ（**トランザクションリスト終了タグ**）がありません。

XML ファイル内にトランザクションリストの終了タグがありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
トランザクションリストの終了タグを設定してください。

KAVK37216-E

The comment is not closed.
コメントが閉じられていません。

XML ファイル内のコメントが閉じられています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
コメントを正しく閉じてください。

KAVK37217-E

The invalid string (--) exists in comment.
コメント中に不正な文字列（ -- ）があります。

XML ファイル内のコメント内にコメント内では使用してはいけない文字列（--）があります。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
コメント内では「 --」を使用しないでください。

KAVK37218-E

The invalid string（**不正な文字列**）exists.
不正な文字列（**不正な文字列**）が検出されました。

不正な文字列がありました。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
不正な文字列を修正してください。

KAVK37219-E

The content of this tag（**開始タグ**）does not exist.
このタグ（**開始タグ**）の内容が指定されていません。

内容がなければならないタグの内容が空です。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
このタグの内容を設定してください。

KAVK37220-E

The content of this tag（**開始タグ**）must be empty.
このタグ（**開始タグ**）の内容は空でないといけません。

内容が空でなければならないタグの内容に値が指定されました。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
このタグの内容を消去してください。

KAVK37221-E

The start tag（**開始タグ**）does not exist.
開始タグ（**開始タグ**）がありません。

なければならない開始タグがありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
この開始タグを正しく設定してください。

KAVK37222-E

The end tag（**終了タグ**）does not exist.
終了タグ（**終了タグ**）がありません。

なければならない終了タグがありません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
この終了タグを正しく設定してください。

KAVK37223-E

An invalid word (&) does exist in xml.
XML文書内で不正な文字（ & ）がありました。

XML 文書内のデータフィールドで「&」が不正に使われています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
不正な「&」を「&」に置き換えてください。

KAVK37224-E

An invalid word (**不正な文字**) does exist in xml.
XML文書内で不正な文字（ **不正な文字** ）がありました。

XML 文書内のデータフィールドに使用してはならない文字があります。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
「7.1(1)　XML 形式の記述について」を参照し，使用してはならない文字を指定の特殊文字列に置き換えてください。

KAVK37225-E

The size of content of this tag (**開始タグ**) was over **入力可能最大バイト数** bytes.
このタグ（ **開始タグ** ）の内容のサイズが **入力可能最大バイト数** バイトを超えました。

このタグ内の内容が指定できるバイト数を超えています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
このタグの内容は指定された文字数以内で設定してください。

KAVK37226-E

The value of content of this tag (**開始タグ**) is invalid. Specify the value between **入力可能最小バイト数**-**入力可能最大バイト数**.
このタグ（ **開始タグ** ）の内容の値が不正です。**入力可能最小バイト数** ～ **入力可能最大バイト数** の範囲で設定してください。

このタグの内容の値が指定された範囲内で設定されていません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
このタグの内容の値は指定された範囲内で設定してください。

KAVK37227-E

The value of content of this tag (**開始タグ**) is not real number.
このタグ（ **開始タグ** ）の内容に整数以外が指定されました。

このタグの内容に整数値以外が指定されました。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
このタグの内容には整数を設定してください。

KAVK37228-E

This tag (**開始タグ**) cannot be processed.
このタグ（ **開始タグ** ）を処理することはできません。

処理できない不正なタグがあります。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
このタグを消去してください。

KAVK37229-E

The specified scope name is invalid in this tag (**開始タグ**).
このタグ内（ **開始タグ** ）のスコープ名の指定が不正です。

このタグ内のスコープ名の指定が不正です。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
スコープ名を正しく設定してください。

KAVK37230-E

The specified scope number is invalid in this tag (**開始タグ**). Specify the scope number between 1-**スコープ番号の最大**.
このタグ内（ **開始タグ** ） のスコープ番号の指定が不正です。スコープ番号は 1 ～ **スコープ番号の最大値** 番までで指定してください。

このタグ内のスコープ番号の指定が不正です。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
スコープ名を正しく設定してください。また，スコープ番号は指定の範囲内で設定してください。

KAVK37231-E

The same start scope as specified scope was already existing. (scope number: **スコープ番号**)
同じスコープ起点がすでに定義されています。（スコープ番号： **スコープ番号**）

このタグ内で指定されたスコープ起点がすでに定義されています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
スコープ起点の定義を見直し，修正してください。

KAVK37232-E

The correspond start scope is not defined. (scope number: **スコープ番号**)
対応するスコープ起点が定義されていません。（スコープ番号： **スコープ番号** ）

指定したスコープ終点に対するスコープ起点が定義されていません。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
スコープの定義を見直してください。

KAVK37233-E

The same end scope as specified scope was already existing. (scope number: **スコープ番号**)
同じスコープ終点がすでに定義されています。（スコープ番号： **スコープ番号** ）

このタグ内で指定されたスコープ終点がすでに定義されています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)
スコープ終点の定義を見直し，修正してください。

KAVK37234-E

A semicolon (;) must not be used in Cookie.
Cookieに「;」を使用してはいけません。

<COOKIE> タグの内容に「;」を使用しています。

(S)
XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)

<COOKIE> タグ内で使用されている「;」を消去してください。

KAVK37235-E

The specified data of COOKIE tag is invalid.
Cookieの指定が不正です。

Cookie の指定が誤っています。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)

Cookie の指定を修正してください。

KAVK37236-E

The specified data of RESPONSE_PATTERN tag is invalid.（**エラーの内容**）
<RESPONSE_PATTERN>の内容が不正です。（**エラーの内容**）

<RESPONSE_PATTERN> タグの内容が誤っています。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)

このメッセージの括弧内を参考に，
<RESPONSE_PATTERN> タグの内容を修正してください。

KAVK37237-E

An attempt to analyze the specified xml file has failed.(ファイル名)
指定されたXMLファイルの解析に失敗しました。（ファイル名）

指定された XML ファイルの解析に失敗しました。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)

このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK37238-E

A number of cookie tag is too many.
<COOKIE>タグの数が多過ぎます。

<COOKIE> タグの数が多過ぎます。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)

<COOKIE> タグの指定を見直し，<COOKIE> タグの指定の数を減らしてください。

KAVK37239-E

The protocol identifier of url in url tag is invalid.
<URL>タグ内のURLのプロトコル識別子が不正です。

<URL> タグの内容の URL のプロトコル識別子が誤っています。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)

<URL> タグの内容の URL のプロトコル識別子を修正してください。

KAVK37240-E

The correspond end scope is not defined. (scope number: **スコープ番号**)
対応するスコープ終点が定義されていません。（スコープ番号： **スコープ番号**）

指定したスコープ起点に対するスコープ終点が定義されていません。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)

スコープの定義を見直し，修正してください。

KAVK37241-E

This empty tag(**空タグ**) must not be used.
この空タグ（**空タグ**）を指定することはできません。

内容がなければならないタグが空タグで指定されました。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。ほかの処理を続行します。

(O)

空タグを消去し，タグの内容を指定してください。

KAVK37242-E

A variable string is duplicated.
可変文字列が重複しています。

Web トランザクションファイルの <VARIABLE_PART> タグで指定した可変文字列が同じステップ内のほかの <VARIABLE_PART> タグの指定と重複しています。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。

(O)

可変文字列は，同じステップ内で重複しないよう設定してください。

KAVK37243-E

There is no specified step identifier.
指定したステップ識別子が定義されていません。

Web トランザクションファイルの <TARGET_STEP_ID> タグで指定したステップ識別子が当該ステップより前に定義されているステップに定義されていません。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。

(O)

ステップ識別子には，当該ステップより前に定義されているステップのステップ識別子を設定してください。

KAVK37244-E

A variable string is not included in URL, message body or cookie.
可変文字列がURL，メッセージボディまたはCookie内に含まれていません。

Web トランザクションファイルの <VARIABLE_PART> タグに指定した可変文字列が URL，メッセージボディまたは Cookie 内に存在しません。

(S)

XML ファイルの読み込み，または，書き込みを中断します。

(O)

可変文字列には，URL，メッセージボディまたは Cookie 内に含まれる文字列を設定してください。

KAVK37300-E

Reservation of memory has failed.
メモリー不足が発生しました。

処理中にメモリーの確保に失敗しました。

(S)

Web Recorder を終了します。

(O)

不要なアプリケーションを終了し，再度実行してください。

KAVK37301-E

An attempt to create popup menu of url list has failed.
URLリストのポップアップメニューの作成に失敗しました。

URL リストのポップアップメニューの作成に失敗しました。

(O)

URL リストのポップアップメニューがなくても問題がないか確認してください。また，システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37302-E

An attempt to create the list that show the list of the web transaction name has failed.
Webトランザクション一覧を表示するリストを作成するのに失敗しました。

Web トランザクション名一覧を表示するリストの作成に失敗しました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，［Web トランザクションの選択］画面を開かないで元の画面に戻ります。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37303-E

An attempt to show the list of available start scopes has failed.
設定できるスコープ起点の一覧表示に失敗しました。

指定したステップに設定可能なスコープ起点の一覧の表示に失敗しました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37304-E

An attempt to show the list of available end scopes has failed.
設定できるスコープ終点の一覧表示に失敗しました。

指定したステップに設定可能なスコープ終点の一覧の表示に失敗しました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37305-E

An available start scope does not exist.
設定できるスコープの起点はありません。

スコープ起点の追加で，指定したステップに設定可能なスコープ起点がありません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
スコープの定義を見直してください。
不要なスコープ起点の定義を削除してください。

KAVK37306-E

An available end scope does not exist.
設定できるスコープの終点はありません。

スコープ終点の追加で，指定したステップに設定可能なスコープ起点がありません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
スコープの定義を見直してください。
設定したいスコープ終点に対応するスコープ起点が正しく定義されているか確認してください。

KAVK37400-W

Closing IE window on main window will be cancelled because it cannot be closed.
メイン画面上のIEウィンドウが閉じられようとしましたが，キャンセルしました。メイン画面上のIEウィンドウは閉じられません。

メイン画面上の IE ウィンドウで開いたページ上で，IE ウィンドウのクローズが行われたが，キャンセルされました。

(S)
IE ウィンドウのクローズをキャンセルします。そのほかの処理を続行します。

(O)
メイン画面上の IE ウィンドウは閉じることができないので，そのまま操作を続行してください。

KAVK37401-W

Closing IE window will be cancelled. If you want to close this IE window, use close button on top right-hand corner.
IEウィンドウが閉じられようとしましたが，キャンセルしました。IEウィンドウを閉じたい場合は，右上の閉じるボタンで行ってください。

新しく開かれた IE ウィンドウで開いたページ上で，IE ウィンドウのクローズが行われたが，キャンセルされました。

(S)
IE ウィンドウのクローズをキャンセルします。そのほかの処理を続行します。

(O)
新しく開かれた IE ウィンドウを閉じる場合は，右上の閉じるボタンを使用してください。

KAVK37402-E

The data from IE window could not be acquired.
IEウィンドウからのデータの取得に失敗しました。

IE ウィンドウから自動収集されるデータの取得に失敗しました。

(S)
IE ウィンドウからのデータの取得を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK37403-E

The size of input value of url was over **入力可能最大バイト数** bytes.
入力されたURLの値のサイズが**入力可能最大バイト数**バイトを超えました。

IE ウィンドウから自動収集した URL が指定できるバイト数を超えています。

(S)
IE ウィンドウを操作中に表示された場合，IE ウィンドウからのデータの取得を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
移動先の URL, または，入力した URL を見直してください。

KAVK37404-E

An input url is invalid.
入力されたURLが不正です。

IE ウィンドウから自動収集した URL が誤っています。

(S)
IE ウィンドウからのデータの取得を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
移動先の URL を見直してください。

KAVK37405-E

The url is not input.
URLが入力されていません。

IE ウィンドウから自動収集した URL が空です。
［プロパティ］画面で URL が設定されていません。

(S)
IE ウィンドウを操作中に表示された場合，IE ウィンドウからのデータの自動収集を中断します。そのほかの処理は続行します。
［プロパティ］画面で表示された場合，メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
URL が入力されたか確認してください。

KAVK37406-E

The size of input value of frame name was over **入力可能最大バイト数** bytes.
入力されたフレーム名の値のサイズが**入力可能最大バイト数**バイトを超えました。

IE ウィンドウから自動収集したフレーム名が指定できるバイト数を超えています。

(S)
IE ウィンドウからのデータの取得を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
移動先のページのフレーム名，または，入力したフレーム名を見直してください。

KAVK37407-E

An input frame name is invalid.
入力されたフレーム名が不正です。

IE ウィンドウから自動収集したフレーム名が誤っています。

(S)
IE ウィンドウからのデータの取得を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
移動先のフレーム名を見直してください。必要に応じて，ステップ情報の編集により，フレーム名を入力してください。

KAVK37408-E

The size of input value of post data was over **入力可能最大バイト数** bytes.
入力されたメッセージボディのサイズが**入力可能最大バイト数**バイトを超えました。

IE ウィンドウから自動収集したメッセージボディが指定できるバイト数を超えています。

(S)
IE ウィンドウからのデータの処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
IE ウィンドウから送られるリクエストのメッセージボディを見直してください。

KAVK37409-E

An invalid post data was input.
不正なメッセージボディが入力されました。

IE ウィンドウから自動収集したメッセージボディが誤っています。

(S)
IE ウィンドウからのデータの処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
IE ウィンドウから送られるリクエストのメッセージボディを見直してください。

KAVK37410-E

The size of input value of content type was over **入力可能最大バイト数** bytes.
入力されたコンテントタイプの値のサイズが **入力可能最大バイト数** バイトを超えました。

IE ウィンドウから自動収集したコンテントタイプが指定できるバイト数を超えています。

(S)
IE ウィンドウからのデータの処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
IE ウィンドウから送られるリクエストの Content-Type を見直してください。

KAVK37411-E

An invalid content type was input.
不正なコンテントタイプが入力されました。

IE ウィンドウから自動収集したコンテントタイプが誤っています。

(S)
IE ウィンドウからのデータの処理を中断します。そ

のほかの処理は続行します。

(O)

IE ウィンドウから送られるリクエストの Content-Type を見直してください。

KAVK37412-E

The separator (boundary) is not input.
セパレータ（boundary）の値が入力されていません。

IE ウィンドウから自動収集したコンテントタイプがマルチパート形式で，バウンダリーが空です。

(S)

IE ウィンドウを操作中に表示された場合，IE ウィンドウからのデータの自動収集を中断します。

(O)

IE ウィンドウから送られるリクエストの Content-Type の boundary を見直してください。

KAVK37413-E

The size of input value of The separator(boundary) was over **入力可能最大バイト数** bytes.
入力されたセパレータ（boundary）の値のサイズが **入力可能最大バイト数** バイトを超えました。

IE ウィンドウから自動収集したコンテントタイプがマルチパート形式で，バウンダリーが指定できるバイト数を超えています。

(S)

IE ウィンドウを操作中に表示された場合，IE ウィンドウからのデータの自動収集を中断します。

(O)

IE ウィンドウから送られるリクエストの Content-Type の boundary を見直してください。

KAVK37500-E

An attempt to insert the step has failed.
ステップ情報の挿入に失敗しました。

ステップ情報の挿入処理に失敗しました。

(S)

ステップ情報の挿入処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37501-E

An attempt to add the step has failed.
ステップ情報の追加に失敗しました。

ステップ情報の追加処理に失敗しました。

(S)

ステップ情報の追加処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37502-E

An attempt to edit the step has failed.
ステップ情報の編集に失敗しました。

ステップ情報の編集処理に失敗しました。

(S)

ステップ情報の編集処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37503-E

An attempt to create the step has failed.
ステップ情報の作成に失敗しました。

ステップ情報の新規作成に失敗しました。

(S)

ステップ情報の挿入，または，追加処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37504-E

An irreparable error occurred in the add step processing. Active data is lost.
ステップ情報の追加処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

ステップ情報の追加処理に失敗し，URL リスト上の表示と，内部で保持している情報との間に不整合が起きました。

(S)

ステップ情報の追加処理を中断します。メイン画面上のデータ，保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37505-E

An irreparable error occurred in the delete step processing. Active data is lost.
ステップ情報の削除処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

ステップ情報の削除処理に失敗し，URL リスト上の表示と，内部で保持している情報との間に不整合が起きました。

(S)
ステップ情報の削除処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37506-E

An irreparable error occurred in the edit step processing. Active data is lost.
ステップ情報の編集処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

ステップ情報の編集処理に失敗し，URL リスト上の表示と，内部で保持している情報との間に不整合が起きました。

(S)
ステップ情報の編集処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37507-E

An attempt to add the start scope has failed.
スコープ起点情報の追加に失敗しました。

スコープ起点情報の追加に失敗しました。

(S)
スコープ起点情報の追加処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37508-E

An attempt to add the end scope has failed.
スコープ終点情報の追加に失敗しました。

スコープ終点情報の追加に失敗しました。

(S)
スコープ終点情報の追加処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37509-E

An attempt to delete the start scope has failed.
スコープ起点情報の削除に失敗しました。

スコープ起点情報の削除に失敗しました。

(S)
スコープ起点情報の削除処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37510-E

An attempt to delete the end scope has failed.
スコープ終点情報の削除に失敗しました。

スコープ終点情報の削除に失敗しました。

(S)
スコープ終点情報の削除処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37511-E

An attempt to delete the correspond scope has failed.
対応するスコープ情報の削除に失敗しました。

削除したスコープに対応するスコープ情報の削除に失敗しました。

(S)
削除したスコープに対応するスコープ情報の削除処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37512-E

An irreparable error occurred in the add start scope processing. Active data is lost.
スコープ起点情報の追加処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

スコープ起点情報の追加処理に失敗し，URL リスト上の表示と，内部で保持している情報との間に不整合が起きました。

(S)

スコープ起点情報の追加処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37513-E

An irreparable error occurred in the add end scope processing. Active data is lost.
スコープ終点情報の追加処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

スコープ終点情報の追加処理に失敗し，URL リスト上の表示と，内部で保持している情報との間に不整合が起きました。

(S)

スコープ終点情報の追加処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37514-E

An irreparable error occurred in the delete start scope processing. Active data is lost.
スコープ起点情報の削除処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

スコープ起点情報の削除処理に失敗し，URL リスト上の表示と，内部で保持している情報との間に不整合が起きました。

(S)

スコープ起点情報の削除処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37515-E

An irreparable error occurred in the delete end scope processing. Active data is lost.
スコープ終点情報の削除処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

スコープ終点情報の削除処理に失敗し，URL リスト上の表示と，内部で保持している情報との間に不整合が起きました。

(S)

スコープ終点情報の削除処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37516-E

An irreparable error occurred in the delete correspond scope processing. Active data is lost.
対応するスコープ情報の削除処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

(S)

削除したスコープに対応するスコープ情報の削除処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37517-E

Selected item of url list is a scope. A step must be selected.
URLリストでスコープが選択されています。ステップを選択してください。

ステップを処理するコマンドを実行したが，URL リスト上ではスコープを選択しています。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

URL リスト上で URL を選択しているか確認してください。

KAVK37518-E

Selected item of url list is a step. A scope must be selected.
URLリストでステップが選択されています。スコープを選択してください。

スコープを処理するコマンドを実行したが，URL リスト上ではステップを選択しています。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

URL リスト上でスコープを選択しているか確認してください。

KAVK37519-E

No item of url list is selected. A scope must be selected.
URLリストの項目が選択されていません。スコープを選択してください。

スコープを処理するコマンドを実行したが，URL リスト上では何も選択されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
URL リスト上でスコープを選択しているか確認してください。

KAVK37520-E

No item of url list is selected. A step must be selected.
URLリストの項目が選択されていません。ステップを選択してください。

ステップを処理するコマンドを実行したが，URL リスト上では何も選択されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
URL リスト上でステップを選択しているか確認してください。

KAVK37521-E

A scope of url list must be selected.
URLリストでスコープを選択してください。

スコープを処理するコマンドを実行したが，URL リスト上で不正な個所を選択しています。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
URL リスト上でスコープを選択しているか確認してください。

KAVK37522-E

A step of url list must be selected.
URLリストでステップを選択してください。

ステップを処理するコマンドを実行したが，URL リスト上で不正な個所を選択しています。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
URL リスト上でステップを選択しているか確認してください。

KAVK37523-E

The step data does not exist.
ステップ情報がありません。

［プロパティ］画面を呼び出したが，選択したステップ情報が空です。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
URL リスト上でステップを選択しているか確認してください。

KAVK37524-E

The separator(boundary) is not input.
セパレータ（boundary）が入力されていません。

［プロパティ］画面の［リクエスト情報］タブで，メソッドに［POST］，コンテントタイプにマルチパート形式を選択し，バウンダリーが入力されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
メソッド，コンテントタイプの選択項目を確認してください。
また，セパレータが入力されているか確認してください。

KAVK37525-E

The content-type is not input.
コンテントタイプが入力されていません。

［プロパティ］画面の［リクエスト情報］タブで，メソッドに［POST］を，コンテントタイプにその他を選択し，その他のエディットボックスに何も入力されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
メソッド，コンテントタイプの選択項目を確認してください。
また，その他が入力されているか確認してください。

KAVK37526-E

The message-body is not input.
メッセージボディが入力されていません。

［プロパティ］画面の［リクエスト情報］タブで，メソッドに［POST］を選択し，メッセージボディが入力されていません。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

メソッド，コンテントタイプの選択項目を確認してください。
また，メッセージボディが入力されているか確認してください。

KAVK37527-E

The web auth user name is not input.
Web認証ユーザー名が入力されていません。

［プロパティ］画面の［Web 認証］タブの［Web 認証を行う］にチェックが入っているのに，Web 認証ユーザー名が入力されていません。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

［Web 認証を行う］のチェックを確認してください。
また，Web 認証ユーザー名が入力されているか確認してください。

KAVK37528-E

The protocol identifier of url is invalid.
URLのプロトコル識別子が不正です。

［プロパティ］画面の［ページ情報］タブで，URL に入力されている URL のプロトコル識別子が誤っています。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

入力された URL のプロトコル識別子を確認してください。

KAVK37602-E

The hostname is not input.
ホスト名が入力されていません。

［トランザクションの設定］画面の［デフォルトプロキシ］タブの［プロキシを利用］にチェックが入っているのに，プロキシホスト名が入力されていません。
［プロパティ］画面の［プロキシ］タブで，［このプロパティの値を使用］が選択されているのに，プロキシホスト名が入力されていません。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

［トランザクションの設定］画面の［プロキシ］タブなら［プロキシを利用］のチェックを確認し，プロキシホスト名が入力されているか確認してください。
［プロパティ］画面の［プロキシ］タブなら，プロキシ設定の選択項目を確認し，プロキシホスト名が入力されているか確認してください。

KAVK37603-E

The port number is invalid. Specify the port number between 1-65535.
ポート番号が不正です。1～65535の整数を入力してください。

［トランザクションの設定］画面の［デフォルトプロキシ］タブで，プロキシポート番号が誤っています。
［プロパティ］画面の［プロキシ］タブで，プロキシポート番号が誤っています。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

プロキシポート番号の設定を確認してください。

KAVK37604-E

The proxy user name is not input.
プロキシユーザー名が入力されていません。

［トランザクションの設定］画面の［デフォルトプロキシ］タブ，または，［プロパティ］画面の［プロキシ］タブで，［プロキシ認証を行う］にチェックが入っているのに，プロキシユーザー名が入力されていません。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

［プロキシ認証を行う］のチェックを確認し，プロキシユーザー名が入力されているか確認してください。

KAVK37605-E

The client cert filename is not input.
クライアント証明書ファイル名が入力されていません。

［トランザクションの設定］画面の［SSL 認証］タブで，［クライアント認証を行う］にチェックが入っているのに，クライアント証明書ファイル名が入力されていません。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

［クライアント認証を行う］のチェックを確認し，クライアント証明書ファイル名が入力されているか確認してください。

KAVK37606-E

The port number is not input.
ポート番号が入力されていません。

［トランザクションの設定］画面の［デフォルトプロキシ］タブ，または，［プロパティ］画面の［プロキシ］タブで，プロキシポート番号が入力されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
［トランザクションの設定］画面の［デフォルトプロキシ］タブなら［プロキシを利用］のチェックを確認し，プロキシポート番号が入力されているか確認してください。
［プロパティ］画面の［プロキシ］タブなら，プロキシ設定の選択項目を確認し，プロキシポート番号が入力されているか確認してください。

KAVK37700-E

An attempt to parse response determination information has failed.
レスポンス判定情報の解析に失敗しました。

レスポンス判定情報の解析に失敗しました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，［レスポンス判定］タブを表示します。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK37701-E

An error occurred in the response determination information processing.
レスポンス判定情報の解析中にエラーが発生しました。

レスポンス判定情報の表示に失敗しました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，［レスポンス判定］タブを表示します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37702-E

An invalid char does exist in operator position.
演算子の位置に不正な文字があります。

レスポンス判定情報内で，演算子が来るべき位置に不正な文字があります。

(S)
レスポンス判定情報の解析処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
レスポンス判定情報の，演算子の部分を見直してください。

KAVK37703-E

A number of closed braces (}) is not enough.
閉じ括弧「}」が足りません。

レスポンス判定情報内で，「}」の数が足りないか，「{」の数が多くなっています。

(S)
レスポンス判定情報の解析処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
レスポンス判定情報で，「{,}」の設定を見直してください。

KAVK37704-E

An invalid char or an invalid white space does exist.
不正な文字，または，不正な空白があります。

レスポンス判定情報内に，不正な文字，空白があります。

(S)
レスポンス判定情報の解析処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
レスポンス判定情報内に，不正な文字，空白がないか確認してください。

KAVK37705-E

A number of closed parenthesis[ )] is too many.
閉じ括弧「)」の数が多過ぎます。

レスポンス判定情報内の，閉じ括弧「)」の数が多過ぎるか，開き括弧「(」の数が足りません。

(S)
レスポンス判定情報の解析処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
レスポンス判定情報内で，「(,)」の設定を見直してください。

KAVK37706-E

A number of closed parenthesis[ )] is not enough.
閉じ括弧「)」の数が足りません。

レスポンス判定情報内の，閉じ括弧「)」の数が足りないか，開き括弧「(」の数が多過ぎます。

(S)
レスポンス判定情報の解析処理を中断します。そのほ

かの処理は続行します。

(O)

レスポンス判定情報内で，「(,)」の設定を見直してください。

KAVK37707-E

A number of terms of logical expression is not enough.
項目が足りません。

レスポンス判定情報内の，項目の数が足りません。

(S)

レスポンス判定情報の解析処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

レスポンス判定情報を見直してください。

KAVK37708-E

An attempt to create response determination information has failed.
レスポンス判定情報の作成に失敗しました。

レスポンス判定条件一覧からのレスポンス判定情報の作成に失敗しました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK37709-E

This item can not be deleted.
その項目は削除できません。

レスポンス判定条件一覧の削除できない項目を削除しようとしました。一行目を選択し，削除ボタンが押されました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

レスポンス判定条件一覧で一行目が選択されていないことを確認してください。

KAVK37711-E

An irreparable error occurred in the delete item processing of list. All items of list are lost.
リストの項目の削除処理で修復できないエラーが発生しました。リスト上の項目はすべて失われます。

レスポンス判定条件一覧の項目の削除に失敗し，レスポンス判定条件一覧の表示が不正になりました。

(S)

レスポンス判定条件一覧の項目の削除処理を中断します。レスポンス判定条件一覧をクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37712-E

An irreparable error occurred in the change item processing of list. All items of list are lost.
リストの項目の修正処理で修復できないエラーが発生しました。リスト上の項目はすべて失われます。

レスポンス判定条件一覧の項目の修正に失敗し，レスポンス判定条件一覧の表示が不正になりました。

(S)

レスポンス判定条件一覧の項目の修正処理を中断します。レスポンス判定条件一覧をクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37713-E

An irreparable error occurred in the item processing of list. All items of list are lost.
リストの項目の操作中に修復できないエラーが発生しました。リスト上の項目はすべて失われます。

レスポンス判定条件一覧の項目の操作に失敗し，レスポンス判定条件一覧の表示が不正になりました。

(S)

レスポンス判定条件一覧の項目の操作を中断します。レスポンス判定条件一覧をクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37714-E

No item of the list is selected.
リストの項目が選択されていません。

各画面のリスト選択項目が，何も選択されていません。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

操作対象の項目を選択してください。

KAVK37715-E

This item can not be changed.
その項目は変更できません。

レスポンス判定条件一覧の変更できない項目を変更しようとしました。
1 行目を選択し，［修正］ボタン，または移動ボタンをクリックしました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
レスポンス判定条件一覧で操作対象の項目が選択されていることを確認してください。

KAVK37718-E

The rank of this item cannot be raised any more.
この項目の階層をこれ以上上げることはできません。

レスポンス判定条件一覧の，それ以上階層を上げることのできない項目の階層を上げようとしました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
レスポンス判定条件一覧で，階層を上げたい項目が選択されていることを確認してください。

KAVK37719-E

The rank of this item cannot be lowered any more.
この項目の階層をこれ以上下げることはできません。

レスポンス判定条件一覧の，それ以上階層を下げることのできない項目の階層を下げようとしました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
レスポンス判定条件一覧で，階層を下げたい項目が選択されていることを確認してください。

KAVK37720-E

The string of condition is not input.
条件の文字列が入力されていません。

追加ボタン・修正ボタンのどちらかがクリックされましたが，条件の文字列が入力されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
条件の文字列が入力されているか確認してください。

KAVK37721-E

The conjunction of a condition is not selected.
条件の接続が選択されていません。

追加ボタン・修正ボタンのどちらかがクリックされましたが，条件の接続が選択されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
条件の接続が選択されているか確認してください。

KAVK37722-E

The determine of a condition is not selected.
条件の判定が選択されていません。

追加ボタン・修正ボタンのどちらかがクリックされましたが，条件の判定が選択されていません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
条件の判定が選択されているか確認してください。

KAVK37723-E

An invalid parenthesis does exist.
不正な括弧があります。

レスポンス判定情報内で，一つの項目が括弧「(,)」で囲まれています。

(S)
レスポンス判定情報の解析処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
レスポンス判定情報内に，一つの項目を括弧「(,)」で囲んでいる部分がないか確認してください。

KAVK37724-E

An attempt to add a condition to the list has failed.
リストへの条件項目の追加に失敗しました。

レスポンス判定条件一覧の項目の追加に失敗しました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37725-E

An attempt to delete a condition of the list has failed.
リストの条件項目の削除に失敗しました。

レスポンス判定条件一覧の項目の削除に失敗しました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37726-E

An irreparable error occurred in the delete condition processing of the list. All items of list are lost.
リストの条件項目の削除処理で修復できないエラーが発生しました。リスト上の項目はすべて失われます。

レスポンス判定条件一覧の項目の削除に失敗し，レスポンス判定条件一覧の表示が不正になりました。

(S)

レスポンス判定条件一覧の項目の削除を中断します。レスポンス判定条件一覧をクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37727-E

An attempt to change a condition of the list has failed.
リストの条件項目の修正に失敗しました。

レスポンス判定条件一覧の項目の修正に失敗しました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37728-E

An attempt to process a condition of the list has failed.
リストの条件項目の操作に失敗しました。

レスポンス判定条件一覧の項目の操作に失敗しました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37729-E

An irreparable error occurred in the condition processing of the list. All items of list are lost.
リストの条件項目の操作中に修復できないエラーが発生しました。リスト上の項目はすべて失われます。

レスポンス判定条件一覧の項目の操作に失敗し，レスポンス判定条件一覧の表示が不正になりました。

(S)

レスポンス判定条件一覧の項目の操作を中断します。レスポンス判定条件一覧をクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37730-E

An irreparable error occurred in the change condition processing of the list. All items of list are lost.
リストの条件項目の修正処理で修復できないエラーが発生しました。リスト上の項目はすべて失われます。

レスポンス判定条件一覧の項目の修正に失敗し，レスポンス判定条件一覧の表示が不正になりました。

(S)

レスポンス判定条件一覧の項目の修正を中断します。レスポンス判定条件一覧をクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK37731-E

The size of input value of The response determination information was over **入力可能最大値** bytes.
レスポンス判定情報の値のサイズが **入力可能最大値** バイトを超えました。

レスポンス判定情報が指定できるバイト数を超えました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

レスポンス判定条件一覧に指定した項目を減らしてください。

KAVK37732-E

An empty string is specified.
空の文字列が指定されました。

レスポンス判定情報の条件の指定に空の文字列が指定されました。

(S)

レスポンス判定情報の解析処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

空の文字列が指定されていないか確認してください。

KAVK37733-E

This item of the list cannot be moved there.
移動できません。

レスポンス判定条件一覧の 2 行目を上に移動させようとしたか，最後の行を下に移動させようとしました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

レスポンス判定条件一覧で，上，または，下に移動させたい項目を選択しているか確認してください。

KAVK37734-E

A specified string includes a curly bracket ({,}).
文字列に「｛，｝（波括弧）」が含まれています。

条件を追加，修正しようとしたが，条件の文字列に「{,}（波括弧）」が含まれています。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

条件の文字列には「{,}（波括弧）」は使用できないので，削除してください。

KAVK37800-I

The web transaction that has the same name as specified web transaction was already existing. Would you like to overwrite this?
同じ名前のWebトランザクションがすでに定義されています。上書きしますか？

Web トランザクションファイル，Web トランザクション名を指定して保存しようとしたが，同じ名前の Web トランザクションが保存先 Web トランザクションファイルにすでに定義されていたため，上書き確認をします。

(S)

「はい」を選択すると，指定した Web トランザクションを上書きします。
「いいえ」を選択すると，上書き処理を中断します。

KAVK37801-I

A selected step will be removed. Would you like to continue?
選択中のステップ情報を削除します。よろしいですか？

選択したステップ情報を削除するかを確認します。

(S)

「はい」を選択すると，選択したステップ情報を削除します。
「いいえ」を選択すると，ステップの削除処理を中断します。

KAVK37802-I

The scope(START(END) **スコープ スコープ番号**) will be deleted.
スコープ情報（ START(END) **スコープ スコープ番号** ）を削除します。

スコープ情報が削除されることを通知します。

(S)

ダイアログを閉じると，処理を続行します。

KAVK37803-I

The scope(START(END) **スコープ スコープ番号**) will be deleted. Do you want to continue?
スコープ情報（ START(END) **スコープ スコープ番号** ）を削除します。よろしいですか？

スコープ情報を削除するかを確認します。

(S)

「はい」を選択すると，指定したスコープ情報を削除します。
「いいえ」を選択すると，スコープの削除処理を中断します。

KAVK37804-I

Would you like to remove the correspond scope?
対応するスコープ情報（ START(END) **スコープ名** ）を削除しますか？

削除したスコープ情報に対応するスコープ情報を削除するかを確認します。

(S)

「はい」を選択すると，対応するスコープ情報を削除します。
「いいえ」を選択すると，対応するスコープ情報の削除処理を中断します。

KAVK37805-I

END(START) **スコープ名** corresponding to START(END) **スコープ名** does not exist.
START(END) **スコープ名** に対応する END(START) **スコープ名** がありません。

対応するスコープがないことを通知します。

(S)

ダイアログを閉じると，処理を続行します。

KAVK37806-I

END **スコープ名** exists before START **スコープ名** and correct this.
END **スコープ名** がSTART**スコープ名** よりも前にあります。修正してください。

スコープの起点と終点が後先になっていることを通知します。

(S)
ダイアログを閉じると，処理を続行します。

KAVK37807-I

The check scope processing has ended.
スコープチェックが終了しました。

スコープチェックが終わったことを通知します。

(S)
ダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

KAVK37808-I

Web transaction data being edited now will be removed from web transaction file. Would you like to continue?
現在編集中のWebトランザクション情報をWebトランザクションファイルから削除します。よろしいですか？

Web トランザクションファイルから現在編集を行っている Web トランザクション情報を削除するかを確認します。

(S)
「はい」を選択すると，現在編集中の Web トランザクションを Web トランザクションファイルから削除します。
「いいえ」を選択すると，Web トランザクション削除処理を中断します。

KAVK37809-I

Web transaction data being edited now will be discarded. Would you like to continue?
現在編集中のWebトランザクション情報は破棄されます。よろしいですか？

処理を続行すると，現在編集を行っている Web トランザクションが破棄されるため，続行していいのか確認します。

(S)
「はい」を選択すると，処理を続行します。
「いいえ」を選択すると，処理を中断し，元の画面に戻ります。

KAVK37850-E

The variable string is not input.
記録時の可変文字列が入力されていません。

［可変文字列の設定］画面で，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックした際，もしくはタブを切り替えた際に，［記録時の可変文字列］が入力されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［記録時の可変文字列］を入力してください。

KAVK37851-E

The command is not input.
文字列生成コマンドが入力されていません。

［可変文字列の設定］画面で，［文字列生成コマンドから取得］を選択し，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックした際，もしくはタブを切り替えた際に，［文字列生成コマンド］が入力されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［文字列生成コマンド］を入力してください。

KAVK37852-E

The step ID is not input.
ステップ識別子が選択されていません。

［代替文字列の設定］画面で，［OK］ボタンをクリックした際に，［ステップ識別子］が選択されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［ステップ識別子］を選択してください。

KAVK37853-E

The element name is not input.
要素名が入力されていません。

［代替文字列の設定］画面で，［代替文字列を HTML から取得］を選択し，［OK］ボタンをクリックした際に，［要素名］が入力されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［要素名］を入力してください。

KAVK37854-E

The attribute name is not input.
属性名が入力されていません。

［代替文字列の設定］画面で，［代替文字列を HTML から

取得］を選択，および［代替文字列が含まれる個所の設定］の［属性］を選択し，［OK］ボタンをクリックした際に，［属性名］が入力されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［属性名］を入力してください。

KAVK37855-E

The HTTP header name is not input.
ヘッダー名が入力されていません。

［代替文字列の設定］画面で，［代替文字列を HTTP ヘッダーから取得］を選択し，［OK］ボタンをクリックした際に，［ヘッダー名］が入力されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［ヘッダー名］を入力してください。

KAVK37856-E

The before string and after string is not input.
直前の文字列，および直後の文字列が入力されていません。

［代替文字列の設定］画面で，［代替文字列として扱わない文字列の設定］を選択し，［OK］ボタンをクリックした際に，［直前の文字列］，または［直後の文字列］が入力されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［直前の文字列］，［直後の文字列］または両方を入力してください。

KAVK37857-E

The attribute value or element content is not input.
属性値，または要素の内容が入力されていません。

［絞り込み条件の設定］画面で，［OK］ボタンをクリックした際に，属性値，または要素の内容が入力されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
属性値，または要素の内容を入力してください。

KAVK37858-E

The substitute target not set.
代替文字列が設定されていません。

［可変文字列の設定］画面で，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックした際に，代替文字列が一つも設定されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
代替文字列を設定してください。

KAVK37859-E

A variable string is duplicated.
指定した可変文字列は既に設定されています。

［可変文字列の設定］画面で，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックした際，もしくはタブを切り替えた際に，［記録時の可変文字列］で指定した文字列がすでに設定されていました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［記録時の可変文字列］には，まだ可変文字列として設定されていない文字列を入力してください。

KAVK37860-E

A variable string is not included in URL, message body or cookie.
指定された可変文字列が，記録されたURL，メッセージボディまたはCookie内に含まれていません。

［可変文字列の設定］画面で，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックした際に，［記録時の可変文字列］で指定した文字列が，記録された URL，メッセージボディまたは Cookie 内に存在しませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［記録時の可変文字列］には，記録された URL，メッセージボディまたは Cookie 内に含まれる文字列を設定してください。

KAVK37861-E

The prifix of step_id is not input.
ステップ識別子のプリフィックスが入力されていません。

［Web トランザクションの作成］画面で，［ステップ識別子を自動的に付与する］を選択し，［OK］ボタンをクリックした際に，［プリフィックス］が入力されていませ

んでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
［プリフィックス］を入力してください。

KAVK37862-E

An invalid character does exist in step ID.
ステップ識別子に不正な文字が含まれています。

- ［プロパティ］画面の［ページ情報］タブでステップ識別子入力し，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックした際，もしくはタブを切り替えた際に，ステップ識別子に不正な文字が含まれていました。
- ［Web トランザクションの選択］画面で［OK］ボタンをクリックした際に，指定したトランザクション内のステップ識別子に不正な文字が含まれていました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
英数字，ハイフン，アンダースコア，および半角スペースの組み合わせでステップ識別子を指定してください。

KAVK37863-E

An invalid character does exist in prifix of step ID.
ステップ識別子のプリフィックスに不正な文字が含まれています。

［Web トランザクションの作成］画面で，［ステップ識別子を自動的に付与する］を選択し，［OK］ボタンをクリックした際に，［プリフィックス］に不正な文字が含まれていました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
英数字，ハイフン，アンダースコア，および半角スペースの組み合わせでステップ識別子のプリフィックスを指定してください。

KAVK37864-E

A variable string does not exist.
可変文字列の設定がありません。

［可変文字列の設定］画面で［取込］ボタンをクリックした際に，可変文字列が一つも設定されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
可変文字列を設定してください。

KAVK37865-E

A substitute string does not exist.
代替文字列の設定がありません。

［代替文字列の設定］画面で［取込］ボタンをクリックした際に，代替文字列が一つも設定されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
代替文字列を設定してください。

KAVK37866-E

A step ID does not set.
ステップ識別子が設定されていません。

［可変文字列の設定］画面の［代替文字列］タブで［追加］ボタンをクリックした際に，トランザクション内にステップ ID が一つも設定されていませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
ステップ識別子を設定してください。

KAVK37867-E

The step ID of web transaction does not exist.
代替文字列設定で指定されたステップ識別子がトランザクション内にありません。

- ［メイン］画面で，「上書き保存」または「名前を付けて保存」を選択した際に，代替文字列設定で指定されたステップ識別子がトランザクション内に存在しませんでした。
- ［Web トランザクションの選択］画面で［OK］ボタンをクリックした際に，代替文字列設定で指定されたステップ識別子がトランザクション内に存在しませんでした。

(S)
メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)
代替文字列設定で指定するステップ識別子には，トランザクション内に存在するステップ識別子を指定してください。

KAVK37868-W

[Output the acquired HTML and HTTP header in a file] is chosen, but there is no step information to be output. Would you like to continue?
取得したHTMLおよびHTTPヘッダーをファイルに出力する設定になっていますが，出力できるステップ情報がありません。よろしいですか？

［トランザクションの設定］画面で「取得した HTML および HTTP ヘッダーをファイルに出力する」を選択した状態で，［メイン］画面から「上書き保存」または「名前を付けて保存」を選択した際に，ステップ識別子がトランザクション内に一つも存在しませんでした。

(S)

「はい」を選択するとファイルに保存します。
「いいえ」を選択すると，ファイルに保存しないで元の画面に戻ります。

(O)

取得した HTML および HTTP ヘッダーをファイルに出力したいステップに，ステップ識別子を指定してください。

KAVK37869-E

A step ID is duplicated.
指定したステップIDは既に設定されています。

［プロパティ］画面の［ページ情報］タブで，ステップ ID を入力し，［OK］ボタンまたは［適用］ボタンをクリックした際，もしくはタブを切り替えた際に，ほかのステップで，同じステップ識別子が設定されていました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)

ほかのステップのステップ識別子と重複しないステップ識別子を指定してください。

KAVK37870-E

An invalid character does exist in attribute name.
属性名に不正な文字が含まれています。

- ［代替文字列の設定］画面で，［代替文字列を HTML から取得］を選択し，かつ［代替文字列が含まれる個所の設定］の［属性］を選択して，［OK］ボタンをクリックした際に，［属性名］に不正な文字が含まれていました。
- ［Web トランザクションの選択］画面で［OK］ボタンをクリックした際に，［属性名］に不正な文字が含まれていました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)

属性名には，属性名として使用できない文字を含めないでください。［属性名］に「=」は指定できません。

KAVK37873-E

The format that attribute is invalid.
属性の形式が不正です。

- ［要素の絞り込み条件の設定］画面で，［属性］を選択し，［OK］ボタンをクリックした際に，入力された属性の形式が不正でした。
- ［Web トランザクションの選択］画面で［OK］ボタンをクリックした際に，入力された属性の形式が不正でした。

(S)

メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)

属性は「属性名 = 属性値」の形式で指定してください。

KAVK37874-E

The tag which is necessary for an (**タグ名**) tag is short.
このタグ（**タグ名**）に必要なタグが不足しています。

［Web トランザクションの選択］画面で［OK］ボタンをクリックしましたが，このタグに必要なタグが指定されていませんでした。

(S)

メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)

このタグに必要なタグを指定してください。

KAVK37875-E

The value in which elements how many is used is specified is invalid. Specify the value between 1-1023.
条件を満たす要素が複数ある場合に何番目の要素を使用するかの指定が不正です。1～1023の整数を入力してください。

［代替文字列の設定］画面で［OK］ボタンをクリックしましたが，条件を満たす要素が複数ある場合に何番目の要素を使用するかの指定が誤っていました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると元の画面に戻ります。

(O)

条件を満たす要素が複数ある場合に，何番目の要素を使用するかの指定を確認してください。

KAVK38001-E

An attempt to start IE Recorder has failed.
IE Recorderの起動に失敗しました。

IE Recorder の起動に失敗しました。

(S)
IE Recorder を起動しません。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK38002-E

IE Recorder has ended abnormally.
IE Recorderが異常終了しました。

IE Recorder が異常に終了しました。

(S)
IE Recorder を終了します。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK38003-E

An attempt to initialize the logging function has failed.
統合トレース機能の起動に失敗しました。

統合トレース機能が使用できません。

(S)
IE Recorder を終了します。

(O)
システム管理者に連絡してください。

KAVK38004-E

IE Recorder is already running.
IE Recorderは起動中です。

IE Recorder は複数起動できません。

(S)
IE Recorder を起動しません。

(O)
先に起動している IE Recorder を使用してください。

KAVK38100-E

The definition of the IE Recorder action condition definition file is invalid. (section = **セクション名**, key = **キー名**)
IE Recorder動作条件定義ファイルの内容に誤りがあります。(**セクション名** セクション：**キー名**)

IE Recorder 動作条件定義ファイルの記載に誤りがあります。

(S)
デフォルト値を使用して処理を続行します。

(O)
ファイルの記載内容に誤りがないか確認してください。また，デフォルトの値を使用して問題ないか確認してください。

KAVK38101-E

An attempt to read the IE Recorder action condition definition file has failed.
IE Recorder動作条件定義ファイルの読み込みに失敗しました。

IE Recorder 動作条件定義ファイルが見つかりません。または，アクセス権限がなく，ファイルをオープンできません。

(S)
デフォルト値を使用して処理を続行します。

(O)
IE Recorder 動作条件定義ファイルが所定のフォルダに配置されていることを確認してください。
また，IE Recorder 動作条件定義ファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK38102-E

An attempt to read the IE scenario file has failed. (file name = **ファイル名**)
IEシナリオファイルの読み込みに失敗しました。(ファイル名：**ファイル名**)

IE シナリオファイルから IE シナリオ情報を読み込めません。

(S)
IE シナリオの読み込みを中止します。そのほかの処理は続行します。

(O)
IE シナリオファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK38103-E

An attempt to write the IE scenario file has failed. (file name = **ファイル名**)
IEシナリオファイルの書き込みに失敗しました。(ファイル名：**ファイル名**)

IE シナリオファイルに IE シナリオ情報を書き込めません。

(S)
IE シナリオの書き込みを中止します。そのほかの処理は続行します。

(O)

IE シナリオファイルのアクセス権限を確認してください。
また，IE シナリオファイルが読み取り専用になっていないか確認してください。

KAVK38104-E

An irreparable error occurred while processing IE scenario data. The IE scenario data was lost.
IEシナリオ情報の処理中に修復できないエラーが発生しました。IEシナリオ情報は失われます。

読み込んだ IE シナリオ情報を処理中に，修復できないエラーが発生しました。

(S)

読み込んだ IE シナリオ情報を破棄し，アプリケーションを初期状態に戻します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK38108-E

You do not have access permissions for the selected file. (file name = **ファイル名**)
指定されたファイルへのアクセス権限がありません。(ファイル名：**ファイル名**)

指定されたファイルへのアクセス権限がありません。

(S)

ファイルの操作を中止します。そのほかの処理は続行します。

(O)

指定したファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK38113-E

An attempt to save the specified IE scenario file has failed. (file name = **ファイル名**)
指定されたIEシナリオファイルの保存に失敗しました。(ファイル名：**ファイル名**)

書き込み処理中にエラーが発生したため，IE シナリオファイルの保存に失敗しました。

(S)

IE シナリオファイルの保存処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)

このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。

KAVK38115-W

The IE scenario file name must be no more than **入力できる最大文字数** characters.
IEシナリオファイル名は **入力できる最大文字数** 文字以内で指定してください。

指定された IE シナリオファイル名が入力できる最大文字数を超えました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

IE シナリオファイル名は指定された文字数以内で設定してください。

KAVK38116-E

An attempt to open the version dialog box has failed.
バージョンダイアログを開けません。

バージョンダイアログを開けません。バージョンダイアログを表示するのに必要なファイルが破損している可能性があります。

(S)

バージョンダイアログを表示しないで，そのほかの処理を続行します。

(O)

ファイルシステムでエラーが発生していないか確認してください。

KAVK38117-E

Measurement conditions could not be registered because Agent Collector is running.
Agent Collectorが実行中のため，計測条件を登録できません。

Agent Collector が実行中のため，計測条件登録ファイルに計測条件を登録できません。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

計測条件登録ファイルを操作する場合は Agent Collector を停止してください。Agent Collector が停止できない場合は Web Console から計測条件を登録してください。

KAVK38118-E

The measurement condition registration file could not be opened because Agent Collector is running.
Agent Collectorが実行中のため，計測条件登録ファイルを開けません。

Agent Collector が実行中のため，計測条件登録ファイル

を開けません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
計測条件登録ファイルを操作する場合は Agent Collector を停止してください。

KAVK38119-W

This IE scenario file will not be measured if it is saved in this folder. Do you want to continue?
このフォルダに保存すると計測対象に指定できません。よろしいですか？

iescena フォルダ以外に IE シナリオファイルにを保存すると，計測条件登録ファイルに指定しても計測対象になりません。

(S)
「はい」をクリックすると，ファイルを保存します。
「いいえ」をクリックすると，元の画面に戻ります。

(O)
IE シナリオファイルの保存先を確認してください。

KAVK38120-I

The measurement condition has been registered successfully.
計測条件が正常に登録されました。

計測条件の登録が正常に終了しました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

KAVK38121-E

Registration of measurement conditions has failed.
計測条件の登録に失敗しました。

計測条件の登録に失敗しました。

(S)
計測条件の簡易登録を中止します。

(O)
このメッセージの前に出力された KAVKxxxxx のメッセージを参照し，適切に処理してください。
「PFM **インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥tmp」フォルダに IE Recorder がアクセスできるかどうか確認してください。

KAVK38122-E

The measurement condition registration file could not be opened.
計測条件登録ファイルを開けません。

計測条件登録ファイルのオープンに失敗しました。

(S)
計測条件登録ファイルのオープンを中止します。

(O)
指定したファイルのアクセス権限を確認してください。また，notepad が使用できるかどうか確認してください。

KAVK38123-E

An attempt to load the measurement condition registration file has failed.
計測条件登録ファイルの読み込みに失敗しました。

計測条件登録ファイルの読み込みに失敗しました。

(S)
計測条件の簡易登録を中止します。

(O)
計測条件登録ファイルの定義に誤りがないかどうか確認してください。
また，計測条件登録ファイルのアクセス権限を確認してください。

KAVK38124-E

A measurement condition registration file was not found.
計測条件登録ファイルが見つかりません。

計測条件登録ファイルが見つかりません。

(S)
計測条件の簡易登録を中止します。
また，計測条件登録ファイルの編集を中止します。

(O)
計測条件登録ファイルを正しく作成してください。

KAVK38200-E

The IE scenario file is invalid.
IEシナリオファイルは不正です。

IE シナリオファイルに不正なデータが含まれています。

(S)
IE Recorder を初期化します。

(O)
IE Recorder で IE シナリオファイルを作成し直してください。

KAVK38300-E

Reservation of memory has failed.
メモリー不足が発生しました。

処理中にメモリーの確保に失敗しました。

(S)
IE Recorder を終了します。

(O)

不要なアプリケーションを終了し，再度実行してください。

KAVK38302-W

The scope name includes an invalid character. A comma or double quotation mark cannot be specified.
スコープ名に不正な文字が含まれています。
「,」「"」は使用できません。

スコープ名には「,(コンマ)」,「"(ダブルクォーテーション)」は使用できません。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
スコープ名には「,(コンマ)」,「"(ダブルクォーテーション)」は使用できないので削除してください。

KAVK38303-W

The scope name exceeded**入力できる最大値** bytes.
スコープ名の長さが **入力できる最大値** バイトを超えました。

スコープ名が指定できるバイト数を超えました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
スコープ名の文字数を減らしてください。

KAVK38304-W

The scope name is not specified.
スコープ名が入力されていません。

スコープ名に空の文字列が指定されました。

(S)
メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)
スコープ名に空の文字列が指定されていないか確認してください。

KAVK38500-E

An irreparable error while operation information was being deleted. Active data was lost.
操作情報の削除処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

シナリオ情報の削除処理に失敗しました。

(S)
シナリオ情報の削除処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK38501-E

An attempt to set the start scope has failed.
スコープ起点の設定に失敗しました。

スコープ起点の設定に失敗しました。

(S)
スコープ起点情報の設定処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK38502-E

An attempt to set the end scope has failed.
スコープ終点の設定に失敗しました。

スコープ終点の設定に失敗しました。

(S)
スコープ終点情報の設定処理を中断します。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK38504-E

An irreparable error occurred during processing to set the start scope. Active data was lost.
スコープ起点の設定処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

スコープ起点情報の設定処理に失敗しました。

(S)
スコープ起点情報の設定処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)
システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK38505-E

An irreparable error occurred during processing to set the end scope. Active data was lost.
スコープ終点の設定処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

スコープ終点情報の設定処理に失敗しました。

(S)

スコープ終点情報の設定処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK38506-E

An irreparable error occurred during processing to cancel scope settings. Active data was lost.
スコープ情報の解除処理で修復できないエラーが発生しました。作業中のデータは失われます。

スコープ情報の解除に失敗しました。

(S)

スコープ情報の解除処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK38507-E

An attempt to get operation settings data has failed. Active data was lost.
操作の設定情報の取得に失敗しました。作業中のデータは失われます。

操作の設定情報の取得に失敗しました。

(S)

操作の設定情報の取得処理を中断します。メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK38508-E

An attempt to set scope information has failed. Active data was lost.
スコープ情報の設定に失敗しました。作業中のデータは失われます。

スコープ情報の設定に失敗しました。

(S)

メイン画面および保持しているデータをクリアします。そのほかの処理は続行します。

(O)

システムのリソースが不足していないか確認してください。

KAVK38601-E

The Internet Options window of Internet Explorer could not be opened.
Internet Explorerのインターネットオプション画面を開けません。

Internet Explorer のインターネットオプション画面を開くときにエラーが発生しました。

(S)

メッセージダイアログを閉じると，元の画面に戻ります。

(O)

Internet Explorer を起動してインターネットオプション画面を開けるか確認してください。

KAVK38602-E

An error occurred while recording operations. Recording will be canceled.
操作を記録中にエラーが発生しました。記録を中止します。

操作の記録中にエラーが発生しました。

(S)

記録を中止します。

(O)

Internet Explorer を使用して IE シナリオと同じ操作を行い，正しく表示できることを確認してください。

KAVK38603-E

An error occurred while replaying operations. Replaying will be canceled.
操作を再生中にエラーが発生しました。再生を中止します。

操作の再生中にエラーが発生しました。

(S)

再生を中止します。

(O)

Internet Explorer を使用して IE シナリオと同じ操作を行い，正しく表示できることを確認してください。

KAVK38604-E

An attempt to display HTML source code has failed.
HTMLソースの表示に失敗しました。

HTML ソースの表示に失敗しました。

(S)

HTML ソースの表示処理を終了します。

(O)

「PFM **インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥tmp」フォルダがあるかどうか確認してください。または，表示中の Web ページに HTML が存在するかを確認

してください。HTML が存在しないページのソースは表示できません。

KAVK38605-E

An attempt to record select operation has failed.
選択操作が記録できませんでした。

リストから選択する操作の再生に必要な情報が記録できませんでした。

(S)
記録を中止します。

(O)
記録しようとしたページに再生できない操作が含まれていないことを確認してください。再生できない操作については，「4.2.3(3) 記録・再生に関する注意事項」を参照してください。

KAVK38700-E

The response pattern conditions were not satisfied.
レスポンス判定の条件を満たしていませんでした。

取得した HTML ファイルの内容がレスポンス判定の条件を満たしていません。

(S)
IE シナリオの再生を中止します。

(O)
HTTP サーバの状態を確認してください。また，IE Recorder で IE シナリオが再生できるか確認してください。

KAVK38752-E

There is no tag that will be target of the operation on specified position.
指定した位置に操作対象になるタグがありません。

指定した位置に，操作対象になるタグがありませんでした。

(S)
IE シナリオの再生を中止します。

(O)
計測対象のページが，IE シナリオを記録した時点と異なっていないか確認してください。
画面表示が同じでも，HTML ソース上でタグの位置が変わっているおそれがあります。HTML ソース上で，記録したタグの絞込み条件の位置に，操作対象のタグが存在するかどうかを確認してください。計測対象のページが記録時と同じ場合の対処については，「4.2.4(4) ページを変更していないのに「操作対象が見つかりません」エラーになる場合の対処方法」を参照してください。

KAVK38753-E

There is no tag that will be target of the operation.
操作対象となるタグがありません。

操作対象となるタグがありませんでした。

(S)
IE シナリオの再生を中止します。

(O)
計測対象のページが，IE シナリオを記録した時点と異なっていないか確認してください。
画面表示が同じでも，HTML ソース上でタグの位置が変わっているおそれがあります。HTML ソース上で，記録したタグの絞込み条件の位置に，操作対象のタグが存在するかどうかを確認してください。
計測対象のページが記録時と同じ場合の対処については，「4.2.4(4) ページを変更していないのに「操作対象が見つかりません」エラーになる場合の対処方法」を参照してください。

KAVK38754-E

There is no frame that will be target of the operation.
操作対象となるフレームページがありません。

操作対象となるフレームページがありませんでした。

(S)
IE シナリオの再生を中止します。

(O)
計測対象の Web ページの構造（仕様）が，IE シナリオを記録した時点と異なっていないか確認してください。

KAVK38755-E

There is no tab that will be target of the operation.
操作対象となるタブがありません。

操作対象となるタブ（ブラウザ）がありませんでした。

(S)
IE シナリオの再生を中止します。

(O)
計測対象の Web ページの構造（仕様）が，IE シナリオを記録した時点と異なっていないか確認してください。

KAVK38756-E

A dialog which is not recorded in IE scenario is poped up.
IEシナリオにないポップアップダイアログが出現しました。

IE シナリオに定義されていないダイアログが再生中に出現しました。

(S)
IE シナリオの再生を中止します。

(O)

計測対象の Web ページの構造（仕様）が，IE シナリオを記録した時点と異なっていないか確認してください。

KAVK38757-E

An error occurred while replaying of the page navigation. (detail code = **エラーコード**)
再生中にページ遷移でエラーが発生しました。(詳細コード：**エラーコード**)

再生中にページ遷移でエラーが発生しました。エラーコードが 0x で始まる 16 進数の数値の場合は内部エラーコード，3 桁の数値の場合は HTTP ステータスエラーコードです。
(S)
IE シナリオの再生を中止します。

(O)

計測対象の Web ページの構造（仕様）が，IE シナリオを記録した時点と異なっていないか確認してください。

KAVK38758-E

An error occurred while recording of the page navigation. (detail code：**エラーコード**)
記録中にページ遷移でエラーが発生しました。(詳細コード：**エラーコード**)

記録中にページ遷移でエラーが発生しました。エラーコードが 0x で始まる 16 進数の数値の場合は内部エラーコード，3 桁の数値の場合は HTTP ステータスエラーコードです。

(S)

IE シナリオの記録を中止します。

(O)

次に示す確認を実施してください。

1. 記録する操作で Web ページが正しく表示できるか確認してください。
2. 記録対象の Web ページでエラーが発生していないか確認してください（InternetExplorer で操作したときに（画面で）通知されないエラーであっても，IE Recorder はこのメッセージを出力します。IE Recorder はこのメッセージが出る操作を記録できません）。

具体的な確認方法については「4.2.4(3) ナビゲーションエラー発生時のユーザー操作の確認方法」を参照してください。

KAVK38759-E

An unexpected error occurred. (detail code = **エラーコード**)
予期せぬエラーが発生しました。(詳細コード：**エラーコード**)

予期していないエラーを検知しました。

(S)

IE シナリオの再生または記録を終了します。

(O)

システム管理者に連絡してください。

KAVK38800-I

The selected operation information will be deleted. Do you want to continue?
選択中の操作情報を削除します。よろしいですか？

選択した操作情報を削除するかについて確認します。

(S)

「はい」を選択すると，選択した操作情報を削除します。
「いいえ」を選択すると，操作の削除処理を中断します。

KAVK38801-I

Scope (**スコープ名**) settings will be canceled. Do you want to continue?
スコープ (**スコープ名**) の設定を解除します。よろしいですか？

スコープを解除するかについて確認します。

(S)

「はい」を選択すると，指定したスコープを解除します。
「いいえ」を選択すると，スコープの解除処理を中断します。

KAVK38803-I

An end scope does not exist for a start scope. Do you want to set the final operation as the end scope? (scope name = **スコープ名**)
スコープの起点に対応するスコープの終点がありません。最後の操作にスコープの終点を設定します。よろしいですか？（スコープ名：**スコープ名**）

スコープの起点に対応するスコープの終点がありません。最後の操作にスコープの終点を設定してよいか確認します。

(S)

「はい」を選択すると，最後の操作にスコープの終点を設定します。
「いいえ」を選択すると，上書き保存，または名前を付けて保存処理を中断します。

KAVK38804-I

A start scope does not exist for a end scope. Do you want to set the first operation as the start scope? (scope name =**スコープ名**)
スコープの終点に対応するスコープの起点がありません。最初の操作にスコープの起点を設定します。よろしいですか？（スコープ名：**スコープ名**）

スコープの終点に対応するスコープの起点がありません。最初の操作にスコープの起点を設定してよいか確認します。

(S)

「はい」を選択すると，最初の操作にスコープの起点を設定します。
「いいえ」を選択すると，上書き保存，または名前を付けて保存処理を中断します。

KAVK38805-I

Operation information after the selection will be deleted. Do you want to continue?
選択中の操作情報以降を削除します。よろしいですか？

選択した操作情報以降を削除するかについて確認します。

(S)

「はい」を選択すると，選択した操作情報以降をすべて削除します。
「いいえ」を選択すると，操作の削除処理を中断します。

KAVK38806-I

All tabs will close. Do you want to continue?
タブをすべて閉じます。よろしいですか？

IE シナリオ再生時に複数のタブが開かれていた場合，一つのタブを残してその他のタブをすべて閉じてもよいか確認します。

(S)

「はい」を選択すると，タブを一つ残しそれ以外のタブをすべて閉じます。
「いいえ」を選択すると，再生処理を中断します。

KAVK38807-I

The end scope is before the start scope. Do you want to switch the start scope and end scope? (scope ID =**スコープ**ID)
スコープの起点の操作よりスコープの終点の操作の方が先の操作です。
起点と終点を入れ替えて設定しますか？(スコープID：**スコープ**ID)

スコープの起点よりスコープの終点の方が先になっています。起点と終点を入れ替えてよいか確認します。

(S)

「はい」を選択すると，スコープの起点とスコープの終点の場所を入れ替えます。
「いいえ」を選択すると，スコープの起点を設定しません。

KAVK38808-I

The start scope is after the end scope. Do you want to switch the start scope and end scope? (scope ID =**スコープ**ID)
スコープの終点の操作よりスコープの起点の操作の方が後の操作です。
起点と終点を入れ替えて設定しますか？(スコープID：**スコープ**ID)

スコープの終点よりスコープの起点の方が後になっています。起点と終点を入れ替えてよいか確認します。

(S)

「はい」を選択すると，スコープの起点とスコープの終点の場所を入れ替えます。
「いいえ」を選択すると，スコープ終点を設定しません。

KAVK38809-W

Different passwords were entered. Please enter the same password in both text boxes.
パスワードが一致しません。パスワードを入力し直してください。

「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認入力」の値が一致しません。

(S)

ダイアログを閉じると，処理を続行します。

(O)

「新しいパスワード」と「新しいパスワードの確認入力」に同じ値を入力してください。

KAVK38810-I

The IE scenario file has modified. Do you want to save the file? (file name=**ファイル名**)
IE シナリオは変更されています。保存しますか？（ファイル名：**ファイル名**）

IE シナリオの変更を保存するかを確認します。

(S)

「はい」を選択すると，変更を保存します。
「いいえ」を選択すると，変更を保存しません。
「キャンセル」を選択すると，メイン画面に戻ります。

KAVK38811-I

The IE scenario will be replayed once. Do you want to continue?
IE シナリオが一度すべて再生されます。よろしいですか？

IE シナリオが一度再生されてもよいかを確認します。

(S)

「はい」を選択すると，IE シナリオの再生を開始します。
「いいえ」を選択すると，メイン画面に戻ります。

KAVK38812-E

The start scope has not been set. Please complete the scope settings. (scope name =**スコープ名**)
スコープの起点が設定されていません。スコープの設定を完了してください。（スコープ名：**スコープ名**）

スコープの起点が設定されていません。

(S)
「OK」を選択すると，計測テストを中止し，メイン画面に戻ります。

(O)
該当するスコープの起点を設定し，スコープの設定を完了してください。

KAVK38813-E

The end scope has not been set. Please complete the scope settings. (scope name =**スコープ名**)
スコープの終点が設定されていません。スコープの設定を完了してください。（スコープ名：**スコープ名**）

スコープの終点が設定されていません。

(S)
「OK」を選択すると，計測テストを中止し，メイン画面に戻ります。

(O)
該当するスコープの終点を設定し，スコープの設定を完了してください。

KAVK38814-I

The IE scenario file has modified. Do you want to save the file?
IE シナリオは変更されています。保存しますか？

IE シナリオの変更を保存するかどうか確認します。

(S)
「はい」を選択すると，変更を保存します。
「いいえ」を選択すると，変更を保存しません。
「キャンセル」を選択すると，メイン画面に戻ります。

KAVK38815-E

An attempt to get information from browser has failed.
ブラウザから情報の取得に失敗しました。

ダイアログの情報取得に失敗しました。

(S)
［OK］ボタンを押すと，メイン画面に戻ります。

(O)
作業中の一連の操作を初めからやり直してください。

KAVK38816-E

The file name is invalid.
ファイル名が不正です。

指定したファイル名が不正です。

(S)
［OK］ボタンを押すと，ファイルを保存しないで，メイン画面に戻ります。

(O)
拡張子（.xml）をファイル名に含めて指定してください。

12 トラブルへの対処方法

この章では，Performance Management の運用中にトラブルが発生した場合の対処方法などについて説明します。ここでは，主に PFM - Agent でトラブルが発生した場合の対処方法について記載しています。Performance Management システム全体のトラブルへの対処方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

12.1　対処の手順
12.2　トラブルシューティング
12.3　ログ情報
12.4　トラブル発生時に採取が必要な資料
12.5　資料の採取方法
12.6　Performance Management の障害検知
12.7　Performance Management システムの障害回復

12.1 対処の手順

Performance Management でトラブルが起きた場合の対処の手順を次に示します。

現象の確認

次の内容を確認してください。

- トラブルが発生したときの現象
- メッセージの内容（メッセージが出力されている場合）
- 共通メッセージログなどのログ情報

各メッセージの要因と対処方法については，「11. メッセージ」を参照してください。また，Performance Management が出力するログ情報については，「12.3 ログ情報」を参照してください。

資料の採取

トラブルの要因を調べるために資料の採取が必要です。「12.4 トラブル発生時に採取が必要な資料」および「12.5 資料の採取方法」を参照して，必要な資料を採取してください。

問題の調査

採取した資料を基に問題の要因を調査し，問題が発生している部分，または問題の範囲を切り分けてください。

12.2 トラブルシューティング

ここでは，Performance Management 使用時のトラブルシューティングについて記述します。Performance Management を使用しているときにトラブルが発生した場合，まず，この節で説明している現象が発生していないか確認してください。

Performance Management に発生する主なトラブルの内容を次の表に示します。

表 12-1 トラブルの内容

分類	トラブルの内容	記述個所
セットアップやサービスの起動について	• Performance Management シリーズプログラムのサービスが起動しない • サービスの起動要求をしてからサービスが起動するまで時間が掛かる • Performance Management シリーズプログラムのサービスを停止した直後に，別のプログラムがサービスを開始したとき，通信が正しく実行されない •「ディスク容量が不足しています」というメッセージが出力されたあと Master Store サービスまたは Agent Store サービスが停止する	12.2.1
コマンドの実行について	• jpctool service list(jpcctrl list) コマンドを実行すると稼働していないサービス名が出力される • jpctool db dump(jpcctrl dump) コマンドを実行すると，指定した Store データベースと異なるデータが出力される	12.2.2
レポートの定義について	• 履歴レポートに表示されない時間帯がある	12.2.3
アラームの定義について	• アクション実行で定義したプログラムが正しく動作しない • アラームイベントが表示されない • アラームしきい値を超えているのに，エージェント階層の「アラームの状態の表示」に表示されているアラームアイコンの色が緑のまま変わらない	12.2.4
パフォーマンスデータの収集と管理について	• データの保存期間を短く設定したにもかかわらず，PFM - Agent の Store データベースのサイズが小さくならない • 共通メッセージログに「Store データベースに不正なデータが検出されました」というメッセージが出力される	12.2.5

12.2.1 セットアップやサービスの起動について

セットアップやサービスの起動に関するトラブルの対処方法を次に示します。

（1） Performance Management シリーズプログラムのサービスが起動しない

考えられる要因およびその対処方法を次に示します。

- **PFM - Manager が停止している**
  PFM - Manager と PFM - Agent が同じホストにある場合，PFM - Manager が停止していると，PFM - Agent サービスは起動できません。PFM - Manager サービスが起動されているか確認してください。PFM - Manager サービスが起動されていない場合は，起動してください。サービスの起動方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
- **Performance Management シリーズプログラムの複数のサービスに対して同一のポート番号を設定している**
  Performance Management シリーズプログラムの複数のサービスに対して同一のポート番号を設定している場合，Performance Management シリーズプログラムのサービスは起動できません。デフォルトでは，ポート番号は自動的に割り当てられるため，ポート番号が重複することはありません。Performance Management のセットアップ時に Performance Management シリーズプログラムのサービスに対して固定のポート番号を設定している場合は，ポート番号の設定を確認してください。Performance Management シリーズプログラムの複数のサービスに対して同一のポート番号を設定している場合は，異なるポート番号を設定し直してください。ポート番号の設定については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- **Store データベースの格納フォルダの設定に誤りがある**
  次のフォルダを，アクセスできないフォルダまたは存在しないフォルダに設定していると，Agent Store サービスは起動できません。フォルダ名や属性の設定を見直し，誤りがあれば修正してください。
  - Store データベースの格納先フォルダ
  - Store データベースのバックアップフォルダ
  - Store データベースの部分バックアップフォルダ
  - Store データベースのエクスポート先フォルダ
  - Store データベースのインポート先フォルダ

  また，これらのフォルダを複数の Agent Store サービスに対して設定していると，Agent Store サービスは起動できません。フォルダ設定を見直し，誤りがあれば修正してください。
- **指定された方法以外の方法でマシンのホスト名を変更した**
  マシンのホスト名の変更方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。指定された方法以外の方法でホスト名を変更した場合，Performance Management シリーズプログラムのサービスが起動しないことがありま

す。

- **サービスコントロールマネージャーでエラーが発生した**
  Windows で jpcspm start(jpcstart) コマンドを実行した場合，「Windows のサービスコントロールマネージャーでエラーが発生しました」というエラーメッセージが出力され，サービスの起動に失敗することがあります。この現象が発生した場合，jpcspm start(jpcstart) コマンドを再実行してください。頻繁に同じ現象が発生する場合は，jpcspm start(jpcstart) コマンド実行時にサービス起動処理がリトライされる間隔および回数を，jpccomm.ini ファイルを編集して変更してください。リトライ間隔およびリトライ回数を変更する方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，Performance Management の起動と停止について説明している章を参照してください。
- **Probe 動作条件定義ファイルにサービス起動の設定をしていない**
  Probe 動作条件定義ファイルにサービス起動の設定をしていない場合，IE プローブサービスが起動しません。Probe 動作条件定義ファイルの設定を見直してください。
- **IE Probe Daemon の前提プログラムがインストールされていない**
  IE Probe Daemon の前提プログラムがインストールされていない場合，IE プローブサービスが起動しません。IE Probe Daemon の前提プログラムがインストールされているかどうか確認してください。

(2) サービスの起動要求をしてからサービスが起動するまで時間が掛かる

jpcspm start(jpcstart) コマンドを実行してから，または［サービス］アイコンでサービスを開始してから，実際にサービスが起動するまで時間が掛かることがあります。次の要因で時間が掛かっている場合，2 回目の起動時からはサービスの起動までに掛かる時間が短縮されます。

- スタンドアロンモードで起動する場合，サービスが起動するまでに時間が掛かることがあります。
- システム停止時にサービスを自動で停止させる設定をしないで，システムを再起動してサービスを起動すると，Store データベースのインデックスが再構築される場合があります。この場合，サービスが起動するまでに時間が掛かることがあります。
- エージェントを新規に追加したあとサービスを起動すると，初回起動時だけ Store データベースのインデックスが作成されます。そのため，サービスが起動するまでに時間が掛かることがあります。
- 電源切断などによって Store サービスが正常な終了処理を行えなかったときは，再起動時に Store データベースのインデックスが再構築されるため，Store サービスの起動に時間が掛かることがあります。

(3) Performance Management シリーズプログラムのサービスを停止した直後に，別のプログラムがサービスを開始したとき，通信が正しく実行されない

Performance Management シリーズプログラムのサービスを停止した直後に，このサービスが使用していたポート番号で，ほかのプログラムがサービスを開始した場合，通信が正しく実行されないことがあります。この現象を回避するために，次のどちらかの設定をしてください。

- Performance Management シリーズプログラムのサービスに割り当てるポート番号を固定する
  Performance Management シリーズプログラムの各サービスに対して，固定のポート番号を割り当てて運用してください。ポート番号の設定方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- TCP_TIMEWAIT 値の設定をする
  TCP_TIMEWAIT 値で接続待ち時間を設定してください。
  接続待ち時間をデフォルトの設定としてください。デフォルト値は，次のとおりです。
  - Windows Server 2003，Windows Server 2008 の場合：2 分

(4)「ディスク容量が不足しています」というメッセージが出力されたあと Master Store サービスまたは Agent Store サービスが停止する

Store データベースが使用しているディスクに十分な空き容量がない場合，Store データベースへのデータの格納が中断されます。この場合，「ディスク容量が不足しています」というメッセージが出力されたあと，Master Store サービスまたは Agent Store サービスが停止します。

このメッセージが表示された場合，次のどちらかの対処をしてください。

- 十分なディスク容量を確保する
  Store データベースのディスク占有量を見積もり，Store データベースの格納先を十分な容量があるディスクに変更してください。Store データベースのディスク占有量を見積もる方法については，「付録 A　システム見積もり」を参照してください。Store データベースの格納先を変更する方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- Store データベースの保存条件を変更する
  Store データベースの保存条件を変更し，Store データベースのデータ量の上限値を調整してください。Store データベースの保存条件を変更する方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

これらの対処を実施したあとも Master Store サービスまたは Agent Store サービスが起

動されない場合，Store データベースに回復できない論理矛盾が発生しています。この場合，バックアップデータから Store データベースをリストアしたあと，Master Store サービスまたは Agent Store サービスを起動してください。利用できるバックアップデータが存在しない場合は，Store データベースを初期化したあと，Master Store サービスまたは Agent Store サービスを起動してください。Store データベースを初期化するには，Store データベースの格納先フォルダにある次のファイルをすべて削除してください。

- 拡張子が .DB であるファイル
- 拡張子が .IDX であるファイル

Store データベースの格納先フォルダについては，「2.4.1　パフォーマンスデータの格納先の変更」を参照してください。

12.2.2　コマンドの実行について

Performance Management のコマンドの実行に関するトラブルの対処方法を次に示します。

（1）jpctool service list(jpcctrl list) コマンドを実行すると稼働していないサービス名が出力される

考えられる要因およびその対処方法を次に示します。

- **Performance Management シリーズプログラムのサービス情報を削除しないで Performance Management シリーズプログラムをアンインストールした**
  Performance Management シリーズプログラムをアンインストールしても Performance Management シリーズプログラムのサービス情報はデータベースに残っています。jpctool service delete(jpcctrl delete) コマンドを実行して，Performance Management シリーズプログラムのサービス情報を削除してください。サービス情報の削除方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。
- **Performance Management シリーズプログラムのサービス情報を削除しないでマシンのホスト名を変更した**
  Performance Management シリーズプログラムのサービス情報を削除しないでマシンのホスト名を変更した場合，以前のホスト名が付加されているサービス ID のサービス情報が，Master Manager サービスが管理しているデータベースに残っています。jpctool service delete(jpcctrl delete) コマンドを実行して，Performance Management シリーズプログラムのサービス情報を削除してください。サービス情報の削除方法およびホスト名の変更方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management のインストールとセットアップについて説明している章を参照してください。

（2） jpctool db dump(jpcctrl dump) コマンドを実行すると，指定した Store データベースと異なるデータが出力される

同じ Master Store サービスまたは Agent Store サービスに対して，同じエクスポートファイル名を指定して，複数回 jpctool db dump（jpcctrl dump）コマンドを実行すると，先に実行した出力結果があとから実行された実行結果に上書きされます。同じ Master Store サービスまたは Agent Store サービスに対して，複数回 jpctool db dump（jpcctrl dump）コマンドを実行する場合は，異なる名称のエクスポートファイルを指定してください。Store データベースのエクスポート方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。

12.2.3 レポートの定義について

Performance Management のレポートの定義に関するトラブルの要因を次に示します。

（1） 履歴レポートに表示されない時間帯がある

PFM - Agent がインストールされたマシンの現在時刻を，現在時刻よりも未来の時刻に変更した場合，変更前の時刻から変更後の時刻までの履歴情報は保存されません。

12.2.4 アラームの定義について

Performance Management のアラームの定義に関するトラブルの対処方法を次に示します。

（1） アクション実行で定義したプログラムが正しく動作しない

考えられる要因とその対処方法を次に示します。

- **PFM - Manager またはアクション実行先ホストの Action Handler サービスが起動されていない**
  PFM - Manager またはアクション実行先ホストの Action Handler サービスが停止していると，アクションが実行されません。アクションを実行する場合は，PFM - Manager およびアクション実行先ホストの Action Handler サービスを起動しておいてください。

（2） アラームイベントが表示されない

考えられる要因とその対処方法を次に示します。

- **PFM - Manager が起動されていない**
  PFM - Manager を停止すると，PFM - Agent からのアラームイベントを正しく発行できません。アラームイベントを監視する場合は，PFM - Manager を起動しておいてください。

（3） アラームしきい値を超えているのに，エージェント階層の「アラームの状態の表示」に表示されているアラームアイコンの色が緑のまま変わらない

考えられる要因とその対処方法を次に示します。

PFM - Manager ホストおよび PFM - Agent ホストの LANG 環境変数が日本語にそろっていない環境で，日本語を使用したアラームテーブルをバインドしている

このような場合，日本語を使用したアラームは正常に評価されません。PFM - Manager ホストおよび PFM - Agent ホストの LANG 環境変数を，日本語にそろえて運用してください。LANG 環境変数の設定は共通メッセージログを確認し，最新のサービス起動メッセージが日本語と英語のどちらで出力されているかで確認してください。

なお，PFM - Manager ホストが英語環境の場合，現在の設定のまま日本語環境に変更すると，既存のアラーム定義が文字化けして削除できなくなります。このため，次の作業を実施してください。

1. **定義内に日本語を使用したアラームテーブルが必要な場合は，**PFM - Web Console **からすべてエクスポートする。**
   エクスポートする際に，`jpctool alarm export`(`jpcalarm export`) コマンドは使用できません。
2. **定義内に日本語を使用したアラームテーブルをすべて削除する。**
3. PFM - Manager **を停止する。**
4. PFM - Manager **ホストの** LANG **環境変数を日本語に変更する。**
5. PFM - Manager **を起動する。**
6. **手順** 1 **でアラームテーブルをエクスポートした場合は，**PFM - Web Console **または** `jpctool alarm import`(`jpcalarm import`) **コマンドを使用して，アラームテーブルをインポートする。**

また，日本語および英語の混在環境での，その他の注意事項については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，日本語版と英語版の混在環境での注意事項について記載している章を参照してください。

12.2.5 パフォーマンスデータの収集と管理について

Performance Management のパフォーマンスデータの収集と管理に関するトラブルの対処方法を次に示します。

（1） データの保存期間を短く設定したにもかかわらず，PFM - Agent の Store データベースのサイズが小さくならない

Store バージョン 1.0 で Store データベースのファイル容量がすでに限界に達している場

合，データの保存期間を短く設定してもファイルサイズは小さくなりません。この場合，保存期間を短く設定したあと，いったん Store データベースをバックアップし，リストアし直してください。

データの保存期間の設定方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照してください。また，Store データベースのバックアップとリストアの方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，バックアップとリストアについて説明している章を参照してください。

(2) 共通メッセージログに「Store データベースに不正なデータが検出されました」というメッセージが出力される

予期しないサービスの停止またはマシンのシャットダウンによって，Store データベースに不整合なデータが発生した可能性があります。次の方法で対処してください。

- Store データベースをバックアップしてある場合は，Store データベースをリストアしてください。
- Store データベースをバックアップしていない場合は，Agent Store サービスを停止したあと，対応するデータベースファイル（*.DB ファイルおよび *.IDX ファイル）を削除し，サービスを再起動してください。

12.2.6 その他のトラブルについて

トラブルが発生したときの現象を確認してください。メッセージが出力されている場合は，メッセージの内容を確認してください。また，Performance Management が出力するログ情報については，「12.3 ログ情報」を参照してください。

「12.2.1 セットアップやサービスの起動について」～「12.2.5 パフォーマンスデータの収集と管理について」に示した対処をしても，トラブルが解決できなかった場合，または，これら以外のトラブルが発生した場合，トラブルの要因を調査するための資料を採取し，システム管理者に連絡してください。

採取が必要な資料および採取方法については，「12.4 トラブル発生時に採取が必要な資料」および「12.5 資料の採取方法」を参照してください。

12.3　ログ情報

Performance Management でトラブルが発生した場合，ログ情報を確認して対処方法を検討します。Performance Management を運用しているときに出力されるログ情報には，次の 5 種類があります。

- システムログ
- 共通メッセージログ
- 稼働状況ログ
- トレースログ
- 統合トレースログ

ここでは，5 種類のログ情報，および各ログ情報に設定できるログオプションについて説明します。

12.3.1　ログ情報の種類

(1) システムログ

システムログとは，システムの状態やトラブルを通知するログ情報のことです。このログ情報はイベントログファイルに出力されます。

出力形式については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の，ログ情報について説明している章を参照してください。

論理ホスト運用の場合の注意事項

Performance Management のシステムログのほかに，クラスタソフトによる Performance Management の制御などを確認するためにクラスタソフトのログが必要です。

(2) 共通メッセージログ

共通メッセージログとは，システムの状態やトラブルを通知するログ情報のことです。システムログよりも詳しいログ情報が出力されます。共通メッセージログの出力先ファイル名やファイルサイズについては，「12.3.2　ログファイルおよびフォルダ一覧」を参照してください。また，出力形式については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の，ログ情報について説明している章を参照してください。

論理ホスト運用の場合の注意事項

論理ホスト運用の Performance Management の場合，共通メッセージログは共有ディスクに出力されます。共有ディスク上にあるログファイルは，フェールオーバーするときにシステムとともに引き継がれますので，メッセージは同じログファイルに記録されます。

(3) 稼働状況ログ

稼働状況ログとは，PFM - Web Console が出力するログ情報のことです。稼働状況ログの出力先ファイル名やファイルサイズについては，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。また，出力形式については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の，ログ情報について説明している章を参照してください。

(4) トレースログ

トレースログとは，トラブルが発生した場合に，トラブル発生の経緯を調査したり，各処理の処理時間を測定したりするために採取するログ情報のことです。

トレースログは，Performance Management シリーズプログラムの各サービスが持つログファイルに出力されます。

論理ホスト運用の場合の注意事項

論理ホスト運用の Performance Management の場合，トレースログは共有ディスクに出力されます。共有ディスク上にあるログファイルは，フェールオーバーするときにシステムとともに引き継がれますので，メッセージは同じログファイルに記録されます。

(5) 統合トレースログ

統合トレースログとは，各プログラムが出力するトレース情報を，統合トレース機能（HNTRLib2）を通じて，一つの出力先ファイルにまとめて採取するログ情報のことです。PFM - Agent for Service Response は，統合トレース機能（HNTRLib2）を使用してログファイルを出力しています。

12.3.2 ログファイルおよびフォルダー一覧

ここでは，Performance Management から出力されるログ情報について説明します。稼働状況ログの出力先ファイル名やファイルサイズについては，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

(1) 共通メッセージログ

ここでは，Performance Management のログ情報のうち，共通メッセージログについて，ログの出力元であるサービス名または制御名，ログファイル名，およびディスク使用量を，次の表に示します。

表 12-2 共通メッセージログのファイル名

ログ情報の種類	出力元	ファイル名	ディスク使用量※1（単位：キロバイト）
共通メッセージログ	Performance Management	**インストール先フォルダ** ¥log¥jpclog{01|02}※2	2,048 (＊2)
		インストール先フォルダ ¥log¥jpclogw{01|02}※2	2,048 (＊2)
共通メッセージログ（論理ホスト運用の場合）	論理ホスト運用の Performance Management	**環境フォルダ**※3 ¥jp1pc¥log¥jpclog{01|02}※2	2,048 (＊2)
		環境フォルダ※3 ¥jp1pc¥log¥jpclogw{01|02}※2	2,048 (＊2)

注※1

（ ）内の数字は，一つのサービスに対して作成されるログファイルの数を示します。例えば，「2,048(＊2)」の場合，ディスク使用量が 2,048 キロバイトのログファイルが最大で二つ作成されることを示します。この場合，ディスク使用量は合計で 4,096 キロバイトとなります。

注※2

共通メッセージログのログファイル名には，末尾に「01」または「02」が付加されます。

シーケンシャルファイル（jpclog）方式の場合

ログ情報は，まず，末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイルのサイズが上限に達すると，ログファイル名の末尾が「01」から「02」に変更され，ファイル名の末尾が「01」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は，末尾が「01」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は，上書きされます。最新のログは常にファイル名の末尾が「01」のログファイルに出力されます。

ラップアラウンドファイル（jpclogw）方式の場合

ログ情報は，まず，末尾が「01」のログファイルに出力されます。ログファイルのサイズが上限に達すると，ファイル名の末尾が「02」のログファイルが新規作成されます。その後出力されるログ情報は，末尾が「02」のログファイルに出力されます。すでにファイル名の末尾が「02」のログファイルがある場合は，一度データをすべて削除し，先頭行からログが出力されます。そのあとログの出力ファイルが交互に入れ替わります。

ログファイルの出力方式については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

注※ 3

環境フォルダは，論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のフォルダです。

(2) トレースログ

ここでは，Performance Management のログ情報のうち，PFM - Agent のトレースログの出力元であるサービス名または制御名，および格納先フォルダ名を，次の表に示します。

表 12-3 トレースログの格納先フォルダ名

ログ情報の種類	出力元	フォルダ名
トレースログ	Action Handler サービス	**インストール先フォルダ** ¥bin¥action¥log¥
	Performance Management コマンド	**インストール先フォルダ** ¥tools¥log¥
	Agent Collector サービス	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥agent¥log¥
	Agent Store サービス	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥log¥
トレースログ（論理ホスト運用の場合）	Action Handler	**環境フォルダ**※ ¥jp1pc¥bin¥action¥log¥
	Performance Management コマンド	**環境フォルダ**※ ¥jp1pc¥tools¥log¥
	Agent Collector	**環境フォルダ**※ ¥jp1pc¥agtv¥agent¥log¥
	Agent Store	**環境フォルダ**※ ¥jp1pc¥agtv¥store¥log¥

注※

環境フォルダは，論理ホスト作成時に指定した共有ディスク上のフォルダです。

(3) 統合トレースログ

Performance Management のログ情報のうち，統合トレースログの出力ファイル名およびフォルダ名を，次の表に示します。

表 12-4 統合トレースログの格納先フォルダ名

ログ情報の種類	出力元	ファイル名	ディスク使用量（キロバイト）
統合トレースログ	Probe Daemon	HNTRLib2 **インストール先フォルダ** ¥spool¥hntr2[n※].log	256
	IE Probe Daemon	HNTRLib2 **インストール先フォルダ** ¥spool¥hntr2[n※].log	256

注※

n には 1 ～ 4 の数字が入ります。

12.4 トラブル発生時に採取が必要な資料

「12.2 トラブルシューティング」に示した対処をしてもトラブルを解決できなかった場合，トラブルの要因を調べるための資料を採取し，システム管理者に連絡する必要があります。この節では，トラブル発生時に採取が必要な資料について説明します。

Performance Management では，採取が必要な資料を一括採取するためのコマンドを用意しています。PFM - Agent の資料を採取するには，jpcras コマンドを使用します。jpcras コマンドを使用して採取できる資料については，表中に記号で示しています。

注意

jpcras コマンドで採取できる資料は，コマンド実行時に指定するオプションによって異なります。コマンドに指定するオプションと採取できる資料については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の，コマンドについて説明している章を参照してください。

論理ホスト運用の場合の注意事項

論理ホスト運用の場合の注意事項を次に示します。

- 論理ホスト運用する場合の Performance Management のログは，共有ディスクに格納されます。なお，共有ディスクがオンラインになっている場合は，jpcras コマンドで共有ディスク上のログも一括して採取することができます。
- フェールオーバー時の問題を調査するには，フェールオーバーの前後の資料が必要です。このため，実行系と待機系の両方の資料が必要になります。

論理ホスト運用の Performance Management の調査には，クラスタソフトの資料が必要です。論理ホスト運用の Performance Management は，クラスタソフトから起動や停止を制御されているので，クラスタソフトの動きと Performance Management の動きを対比して調査するためです。

12.4.1 Windows の場合

(1) OS のログ情報

OS に関する次の情報の採取が必要です。

表 12-5 OS のログ情報

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
システムログ	Windows イベントログ	−	○
プロセス情報	プロセスの一覧	−	○

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
システムファイル	hosts ファイル	**システムフォルダ** ¥system32¥drivers¥etc¥hosts	○
	services ファイル	**システムフォルダ** ¥system32¥drivers¥etc¥services	○
OS 情報	システム情報	－	○
	ネットワークステータス	－	○
	ホスト名	－	○
ダンプ情報	ワトソンログファイル※1	**システムドライブ** ¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Microsoft¥Dr Watson¥drwtsn32.log※2 **システムドライブ** ¥Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Microsoft¥Dr Watson¥user.dump※2	○

（凡例）

○：採取できる

－：該当しない

注※1

Windows Server 2008 では，「ワトソン博士」は「問題のレポートと解決策」に変更されています。

注※2

別のフォルダにログファイルが出力されるように設定している場合は，該当するフォルダから資料を採取してください。

（2）Performance Management の情報

Performance Management に関する次の情報の採取が必要です。また，ネットワーク接続でのトラブルの場合，接続先マシン上のファイルの採取も必要です。

表 12-6 Performance Management の情報

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
共通メッセージログ	Performance Management から出力されるメッセージログ（シーケンシャルファイル方式）	**インストール先フォルダ** ¥log¥jpclog{01|02} ※1	○
	Performance Management から出力されるメッセージログ（ラップアラウンドファイル方式）	**インストール先フォルダ** ¥log¥jpclogw{01|02} ※1	○
構成情報	各構成情報ファイル	－	○
	jpctool service list（jpcctrl list）コマンドの出力結果	－	○
バージョン情報	製品バージョン	－	○
	履歴情報	－	○
データベース情報	Agent Store サービス	• Store バージョン 1.0 の場合 **インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥*.DB **インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥*.IDX • Store バージョン 2.0 の場合 **インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥STPD **インストール先フォルダ** ¥agtv¥store¥STPI フォルダ下の次に示すファイル。 *.DB *.IDX	○

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
トレースログ	Performance Management シリーズプログラムの各サービスのトレース情報	_※2	○
インストールログ※3	インストール時のメッセージログ（Windows Server 2003 の場合）	%TEMP%¥pfm_inst.log	×
	インストール時のメッセージログ（Windows Server 2008 の場合）	**システムフォルダ** ¥TEMP¥HCDINST フォルダ下の次に示すファイル。 • HCDMAIN.LOG および HCDMAINn.LOG※4 • HCDINST.LOG および HCDINSTn.LOG※4 • 製品形名 .LOG	×
PFM - Agent for Service Response の情報	PFM - Agent for Service Response のログファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥log 以下の全ファイル	○
	PFM - Agent for Service Response の定義ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥conf 以下の全ファイル	○
	計測条件登録・保存ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥task 以下の全ファイル	○
	パスワードファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥passwd 以下の全ファイル	○
	レポートファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥report 以下の全ファイル	○
	ユーザー定義コマンド	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥user 以下の全ファイル	○

情報の種類	概要	デフォルトのファイル名	jpcras コマンドでの採取
	一時ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥tmp 以下の全ファイル	○
	証明書ファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥cert 以下の全ファイル	○
	IE シナリオファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥iescena 以下の全ファイル	○
	Web トランザクションファイル	**インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥webtrans 以下の全ファイル	○
	レジストリ情報	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥HITACHI¥JP1PCAGTV	○
	環境変数情報	－	○
統合トレースログ	－	**システムドライブ** ¥Program Files¥hitachi¥HNTRLib2¥spool¥hntr2[n※4].log	○

（凡例）

○：採取できる
×：採取できない
－：該当しない

注※ 1

ログファイルの出力方式については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

注※ 2

トレースログの格納先フォルダについては，「12.3.2　ログファイルおよびフォルダ一覧」を参照してください。

注※ 3

インストールに失敗した場合に採取してください。

注※ 4

n は 1 ～ 4 の数字を示します。

(3) オペレーション内容

トラブル発生時のオペレーション内容について，次に示す情報が必要です。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン，ホスト名，PFM - Manager と PFM - Agent の構成など）
- 再現性の有無
- PFM - Web Console からログインしている場合は，ログイン時の Performance Management ユーザー名

（4） 画面上のエラー情報

次に示すハードコピーを採取してください。

- アプリケーションエラーが発生した場合は，操作画面のハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー（詳細ボタンがある場合はその内容を含む）
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は，［コマンドプロンプト］ウィンドウまたは［管理者コンソール］ウィンドウのハードコピー

（5） ユーザーダンプ（Windows Server 2008 の場合）

Windows Server 2008 で Performance Management のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は，ユーザーダンプを採取してください。

（6） 問題レポートの採取（Windows Server 2008 の場合）

Windows Server 2008 で Performance Management のプロセスがアプリケーションエラーで停止した場合は，問題レポートを採取してください。

（7） その他の情報

上記以外で必要な情報を次に示します。

- Windows の［イベントビューア］ウィンドウの，［システム］および［アプリケーション］の内容
- ［アクセサリ］－［システムツール］－［システム情報］の内容
- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は，コマンドに指定した引数

12.5 資料の採取方法

トラブルが発生したときに資料を採取する方法を次に示します。

12.5.1 Windows の場合

(1) ダンプ情報を採取する (Windows Server 2008 の場合)

Windows Server 2008 の環境での，ダンプ情報の採取手順を次に示します。

1. **タスクマネージャーを開く。**
2. **プロセスのタブを選択する。**
3. **ダンプを取得するプロセス名を右クリックし，「ダンプファイルの作成」を選択する。**
   次のフォルダに，ダンプファイルが格納されます。
   システムドライブ¥Users¥**ユーザー名**¥AppData¥Local¥Temp
4. **手順 3 のフォルダからダンプファイルを採取する。**
   手順 3 と異なるフォルダにダンプファイルが出力されるように環境変数の設定を変更している場合は，変更先のフォルダからダンプファイルを採取してください。

(2) 資料採取コマンドを実行する

トラブルの要因を調べるための資料の採取には，jpcras コマンドを使用します。資料採取コマンドの実行手順を次に示します。なお，ここで説明する操作は，OS ユーザーとして Administrators 権限を持つユーザーが実行してください。

1. **資料採取するサービスがインストールされているホストにログオンする。**
2. **コマンドプロンプトで次に示すコマンドを実行して，コマンドインタープリタの「コマンド拡張機能」を有効にする。**
   ```
   cmd /E:ON
   ```
3. **採取する資料および資料の格納先フォルダを指定して，jpcras コマンドを実行する。**
   jpcras コマンドで，採取できるすべての情報を c:¥tmp¥jpc¥agt フォルダに格納する場合の，コマンドの指定例を次に示します。
   ```
   jpcras c:¥tmp¥jpc¥agt all all
   ```

jpcras コマンドを実行すると，PFM サービスの一覧取得および起動状態の確認のため，内部的に「jpctool service list -id * -host *(jpcctrl list * host=*)」コマンドが実行されます。コマンド実行ホストとほかの Performance Management システムのホストとの間にファイアウォールが設定されていたり，システム構成が大規模だったりすると，「jpctool service list -id * -host *(jpcctrl list * host=*)」コマンドの実行に時間が掛かる場合があります。そのような場合は，環境変数 JPC_COLCTRLNOHOST に 1 を設定することで「jpctool

service list -id * -host *(jpcctrl list * host=*)」コマンドの処理を抑止し，コマンドの実行時間を短縮できます。

jpcras コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の，コマンドについて説明している章を参照してください。

Windows Server 2008 の環境で実行する場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能（UAC）を有効にしている場合は，コマンド実行時にユーザーアカウント制御のダイアログが表示される場合があります。ダイアログが表示された場合は，「続行」ボタンをクリックして資料採取を続行してください。「キャンセル」ボタンをクリックした場合は，資料採取が中止されます。

（3） 資料採取コマンドを実行する（論理ホスト運用の場合）

論理ホスト運用の Performance Management の資料は共有ディスクにあり，資料は実行系と待機系の両方で採取する必要があります。

トラブルの要因を調べるための資料の採取には，jpcras コマンドを使用します。資料採取コマンドの実行手順を次に示します。なお，ここで説明する操作は，OS ユーザーとして Administrators 権限を持つユーザーが実行してください。

論理ホスト運用の場合の資料採取コマンドの実行について，手順を説明します。

1. **共有ディスクをオンラインにする。**
   論理ホストの資料は共有ディスクに格納されています。実行系ノードでは，共有ディスクがオンラインになっていることを確認して資料を採取してください。
2. **実行系と待機系の両方で，採取する資料および資料の格納先フォルダを指定して，jpcras コマンドを実行する。**
   jpcras コマンドで，採取できるすべての情報を c:¥tmp¥jpc¥agt フォルダに格納する場合の，コマンドの指定例を次に示します。

   ```
   jpcras c:¥tmp¥jpc¥agt all all
   ```

   jpcras コマンドを lhost の引数を指定しないで実行すると，そのノードの物理ホストと論理ホストの Performance Management の資料が一とおり採取されます。論理ホスト環境の Performance Management がある場合は，共有ディスク上のログファイルが取得されます。
   なお，共有ディスクがオフラインになっているノードで jpcras コマンドを実行すると，共有ディスク上のファイルを取得できませんが，エラーは発生しないで正常終了します。

   注意

   実行系ノードと待機系ノードの両方で，資料採取コマンドを実行して資料採取をしてください。フェールオーバーの前後の調査をするには，実行系と待機系の両方の資料が必要です。

   jpcras コマンドを実行すると，PFM サービスの一覧取得および起動状態の確認のため，内部的に「jpctool service list -id * -host *(jpcctrl list *

host=*)」コマンドが実行されます。コマンド実行ホストとほかの Performance Management システムのホストとの間にファイアウォールが設定されていたり，システム構成が大規模だったりすると，「jpctool service list -id * -host *(jpcctrl list * host=*)」コマンドの実行に時間が掛かる場合があります。そのような場合は，環境変数 JPC_COLCTRLNOHOST に 1 を設定することで「jpctool service list -id * -host *(jpcctrl list * host=*)」コマンドの処理を抑止し，コマンドの実行時間を短縮できます。
jpcras コマンドの詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の，コマンドについて説明している章を参照してください。

3. **クラスタソフトの資料を採取する。**
この資料は，クラスタソフトと Performance Management のどちらでトラブルが発生しているのかを調査するために必要になります。クラスタソフトから Performance Management への起動停止などの制御要求と結果を調査できる資料を採取してください。

Windows Server 2008 の環境で実行する場合の注意事項

OS のユーザーアカウント制御機能（UAC）を有効にしている場合は，コマンド実行時にユーザーアカウント制御のダイアログが表示される場合があります。ダイアログが表示された場合は，「続行」ボタンをクリックして資料採取を続行してください。「キャンセル」ボタンをクリックした場合は，資料採取が中止されます。

（4） Windows イベントログを採取する

Windows の［イベントビューア］ウィンドウで，Windows イベントログをファイルに出力してください。

（5） オペレーション内容を確認する

トラブル発生時のオペレーション内容を確認し，記録しておいてください。確認が必要な情報を次に示します。

- オペレーション内容の詳細
- トラブル発生時刻
- マシン構成（各 OS のバージョン，ホスト名，PFM - Manager と PFM - Agent の構成など）
- 再現性の有無
- PFM - Web Console からログインしている場合は，ログイン時の Performance Management ユーザー名

（6） 画面上のエラー情報を採取する

次に示すハードコピーを採取してください。

- アプリケーションエラーが発生した場合は，操作画面のハードコピー
- エラーメッセージダイアログボックスのハードコピー

詳細情報がある場合はその内容をコピーしてください。

- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は，［コマンドプロンプト］ウィンドウまたは［管理者コンソール］ウィンドウのハードコピー
  Windows Server 2003，Windows Server 2008 の場合，［コマンドプロンプト］ウィンドウまたは［管理者コンソール］ウィンドウのハードコピーを採取する際は，［" コマンドプロンプト " のプロパティ］ウィンドウについて次のように設定しておいてください。
  - ［オプション］タブの［編集オプション］
    ［簡易編集モード］がチェックされた状態にする。
  - ［レイアウト］タブ
    ［画面バッファのサイズ］の［高さ］に「500」を設定する。

（7）その他の情報を採取する

上記以外で必要な情報を採取してください。

OS 共通

- コマンド実行時にトラブルが発生した場合は，コマンドに指定した引数
- ［アクセサリ］－［システムツール］－［システム情報］の内容

Windows Server 2003 の場合

- Windows の［イベントビューア］ウィンドウの，［システム］および［アプリケーション］の内容

Windows Server 2008 の場合

- Windows の［イベントビューア］ウィンドウを開き，左ペイン［Windows ログ］の，［システム］および［アプリケーション］の内容

12.6 Performance Management の障害検知

Performance Management では，ヘルスチェック機能を利用することで Performance Management 自身の障害を検知できます。ヘルスチェック機能では，監視エージェントや監視エージェントが稼働するホストの稼働状態を監視し，監視結果を監視エージェントの稼働状態の変化として PFM - Web Console 上に表示します。

また，PFM サービス自動再起動機能を利用することで，PFM サービスが何らかの原因で異常停止した場合に自動的に PFM サービスを再起動したり，定期的に PFM サービスを再起動したりすることができます。

ヘルスチェック機能によって監視エージェントの稼働状態を監視したり，PFM サービス自動再起動機能によって PFM サービスを自動再起動したりするには，Performance Management のサービスの詳細な状態を確認するステータス管理機能を使用します。このため，対象となる監視エージェントがステータス管理機能に対応したバージョンであり，ステータス管理機能が有効になっている必要があります。ホストの稼働状態を監視する場合は前提となる条件はありません。

また，Performance Management のログファイルをシステム統合監視製品である JP1/Base で監視することによっても，Performance Management 自身の障害を検知できます。これによって，システム管理者は，トラブルが発生したときに障害を検知し，要因を特定して復旧の対処をします。

Performance Management 自身の障害検知の詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，Performance Management の障害検知について説明している章を参照してください。

12.7 Performance Management システムの障害回復

Performance Management のサーバで障害が発生したときに，バックアップファイルを基にして，障害が発生する前の正常な状態に回復する必要があります。

障害が発生する前の状態に回復する手順については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，トラブルへの対処方法について説明している章を参照してください。

付録

付録 A　システム見積もり

付録 B　識別子一覧

付録 C　プロセス一覧

付録 D　ポート番号一覧

付録 E　PFM - Agent for Service Response のプロパティ

付録 F　ファイルおよびフォルダー一覧

付録 G　移行手順と移行時の注意事項

付録 H　バージョン互換

付録 I　動作ログの出力

付録 J　IE シナリオの計測と Web トランザクションの計測の相違点

付録 K　各バージョンの変更内容

付録 L　（3020-3-R51-01）の変更内容

付録 M　用語解説

付録 A　システム見積もり

PFM - Agent for Service Response を使ったシステムを構築する前に，使用するマシンの性能が，PFM - Agent for Service Response を運用するのに十分であるか，見積もっておくことをお勧めします。

見積もり項目を次に説明します。

付録 A.1　メモリー所要量

メモリー所要量は，PFM - Agent for Service Response の設定状況や使用状況によって変化します。

(1) 見積もり式

PFM - Agent for Service Response のメモリー所要量の，おおよその見積もり式を次に示します。

(a) IE Probe Daemon で計測する場合

Windows Server 2003 の場合

IE Recorder 起動時：45(メガバイト) ※ 1

IE プローブ運用時：(41,000 + (a * 35,000 ※ 1) + (b * 25) + c)/1,024 (メガバイト)

Windows Server 2008 の場合

IE Recorder 起動時：75(メガバイト) ※ 1

IE プローブ運用時：(41,000 + (a * 35,000 ※ 1) + (b * 25) + c)/1,024 (メガバイト)

（凡例）

a：IE プローブの計測多重度

b：IE シナリオの計測条件数

c：計測対象 IE シナリオファイルの合計サイズ

注※ 1

計測対象ページの構成によって変動するため，記載値以上のメモリーが必要です。

(b) Probe Daemon で計測する場合

Windows Server 2003 の場合

Web Recorder 起動時：15(メガバイト)

運用時：(37,000 + (a * 100) + (b * 25))/1,024 (メガバイト)

Windows Server 2008 の場合

Web Recorder 起動時：15(メガバイト)

運用時：(42,000 + (a * 100) + (b * 25))/1,024 (メガバイト)

（凡例）

a：プローブの計測多重度

b：計測条件数

（2）見積もり例

Windows Server 2003 の場合の見積もり例を次に示します。「(1)　見積もり式」の変数を次の値とします。

```
a=10
b=8
```

メモリーの算出式は，次のようになります。

```
(37,000 + (10 * 100) + (8 * 25))/1,024 (メガバイト)
=(37,000 + 1,000 + 200)/1,024
=38,200/1,024
=約37（メガバイト）
```

付録 A.2　ディスク占有量

ディスク占有量は，パフォーマンスデータを収集するレコード数によって変化します。

PFM - Agent for Service Response のディスク占有量の見積もりについて説明します。

（1）システム全体のディスク占有量

システム全体のディスク占有量の見積もりを次に示します。

表 A-1　システム全体のディスク占有量

PFM - Agent for Service Response の状態	ディスク占有量（単位：メガバイト）
インストール時※1	25
運用時	190 ＋ (8*R1)+(2*R2)+(S*20)+T+W

（凡例）

R1：IE シナリオ以外の計測条件数

R2：IE シナリオの計測条件数

S：IE プローブの計測多重度

T：IE シナリオで計測した HTML ソースファイルサイズ※2

W：Store データベースで使用するディスク占有量

注※ 1

インストール時にはプログラム本体容量の 2 倍分のディスク容量が必要となります。

注※ 2

デフォルトでは，計測条件ごとに過去 20 ページ分の HTML ソースを保存します。保存される HTML ソースのサイズは，計測対象ページの構成により異なります。

Store データベースで使用するディスク占有量は，PI レコードタイプのレコードのディスク占有量と PD レコードタイプのレコードのディスク占有量の合計で計算されます。

レコードタイプごとのディスク占有量の見積もり式については，次で説明します。

(2) Store データベース（Store バージョン 1.0）のディスク占有量

Store データベース（Store バージョン 1.0）のディスク占有量について説明します。

(a) 見積もり式

Store データベースでは，各レコードは，レコードタイプごとに一つのファイルに格納されます。Store データベース（Store バージョン 1.0）のディスク占有量について，レコードタイプごとに次の表に示します。

表 A-2　レコードタイプごとの Store データベースのディスク占有量

レコードタイプ	ディスク占有量の見積もり式（単位：バイト）
PI レコードタイプ	X_1+.....+X_a+3,500 ＊ a
PD レコードタイプ	Y_1+.....+Y_b+700 ＊ b

（凡例）

X：PI レコードタイプのレコードで履歴データを収集する各レコードのディスク占有量

X の算出式を次に示します。

X={d ＊ e+(c+1,900) ＊ {(d ＊ e)/(65,250-c)+1}※1} ＊ f ＊ 1.5

Y：PD レコードタイプのレコードで履歴データを収集する各レコードのディスク占有量

Y の算出式を次に示します。

Y={d ＊ g+(c+1,900) ＊ {(d ＊ e)/(65,250-c)+1}※1 ＊ (g/e)※2} ＊ 1.5

a：PI レコードタイプのレコードで履歴データを収集するレコード数

b：PD レコードタイプのレコードで履歴データを収集するレコード数

c：履歴データを収集する各レコードの固定部のサイズ※3

d：履歴データを収集する各レコードの可変部のサイズ※3

e：履歴データを収集する各レコードのインスタンス数※4

f：履歴データを収集する各レコードの保存レコード数（インスタンス数は考慮しません）※5

g：履歴データを収集する各レコードの保存レコード数の上限値※6

注※1

{(d ＊ e)/(65,250-c)+1} の計算結果は，小数点以下を切り捨ててください。

注※ 2

(g/e) の計算結果は，小数点以下を切り捨ててください。

注※ 3

各レコードの固定部および可変部のサイズについては，「9.　レコード」を参照してください。

注※ 4

各レコードのインスタンス数を次の表に示します。

表 A-3　各レコードのインスタンス数

レコード名（レコード ID）	インスタンス数
DHCP（PI_DHCP）	DHCP サービスを計測する計測条件数
DNS（PI_DNS）	DNS サービスを計測する計測条件数
FTP（PI_FTP）	FTP サービスを計測する計測条件数
HTTP（PI_HTP）	HTTP サービスを計測する計測条件数
HTTPS（PI_HTPS）	HTTPS サービスを計測する計測条件数
IMAP4（PI_IMP4）	IMAP4 サービスを計測する計測条件数
POP3（PI_POP3）	POP3 サービスを計測する計測条件数
Service Summary Interval（PI_PI）	登録されているすべての計測条件数
SMTP（PI_SMTP）	SMTP サービスを計測する計測条件数
TCP（PI_TCP）	TCP サービスを計測する計測条件数
User Defined Service（PI_UDEF）	ユーザー定義サービスを計測する計測条件数
Web Transaction（PI_WT）	Web トランザクションを計測する計測条件数× 9
Web Transaction Overview（PI_WTO）	Web トランザクションを計測する計測条件数
IE Scenario（PI_IES）	IE シナリオを計測する計測条件数× 17
IE Scenario Overview（PI_IESO）	IE シナリオを計測する計測条件数
Logged Message for IE Scenario（PL_IESM）	IE シナリオの計測でエラーが発生した回数

注※ 5

PI レコードタイプのレコードの場合，収集したデータがある一定の区分（時，日，週，月，および年単位）に自動的に要約されるので，分，時，日，週，月，および年の部分の保存レコード数を考慮して計算する必要があります。デフォルトの保存期間と保存レコード数を次の表に示します。

表 A-4　デフォルトの保存期間と保存レコード数

データの種類	保存期間	保存レコード数 （収集間隔が 1 分の場合）
分単位	1 日	1,440
時単位	7 日	168
日単位	1 年	366
週単位	1 年	52
月単位	1 年	12
年単位	制限なし	（収集年数）＊ 1

注※ 6

保存レコード数については，「付録 E.1　Agent Store サービスのプロパティ一覧」を参照してください。

(b) 見積もり例

ここでは，次の前提条件を持つ PI レコードタイプの HTTP（PI_HTP）の見積もり例を示します。

- PI_HTP 以外の PI レコードタイプを保存設定していないこと。
- 表 A-2 の凡例に示した変数 a ～ g が，次の値であること。

```
a=1
c=681
d=360
e=2
f=2,039
```

（f の求め方）

PI_HTP の収集間隔を 1 分，年単位の収集年数を 1 年として，保存期間の設定が表 A-5 の注※ 4 のとおりである場合。

```
1,440+168+366+52+12+1=2,039レコード
g=2,039
```

この場合，表 A-2 の X の算出式は，次のとおりとなります。

```
X={d＊e+(c+1,900)＊{(d＊e)/(65,250-c)+1}}＊f＊1.5
 ={360＊2+(681+1,900)＊{(360＊2)/(65,250-681)+1}}＊2,039＊1.5
 ={720+2,581＊{720/64,569+1}}＊2,039＊1.5
 ={720+2,581＊1}＊2,039＊1.5
 =3,301＊2,039＊1.5
 =10,096,108.5（バイト）
 =約9.6（メガバイト）
```

(3) Store データベース（Store バージョン 2.0）のディスク占有量

Store データベース（Store バージョン 2.0）のディスク占有量について説明します。

(a) 見積もり式

ディスク占有量，ファイル数，およびフォルダ数の見積もりについて説明します。

● ディスク占有量

Store データベースのディスク占有量は，レコードタイプごとのディスク占有量の総和となります。PI レコードタイプについては，さらに要約区分ごとのディスク占有量の総和となります。

注意

パフォーマンスデータが Store データベースに格納される際，幾つかのフィールドが追加されます。追加されるフィールドは，ディスク占有量に含まれるため，新たに容量を見積もる必要はありません。各レコードに共通して追加されるフィールドは Store バージョン 1.0 と同じです。詳細については，「(2)　Store データベース（Store バージョン 1.0）のディスク占有量」を参照してください。

レコードタイプごとのディスク占有量 X の見積もり式（単位：バイト）

```
X={(e+2)*f+(d+60)*{((e+2)*f)/(65,250-d)+1}※1}*a/b*(c+1)*1.1
```

a：レコードタイプ，要約区分ごとに値が異なります。表 A-5 を参照してください。

b：レコードタイプ，要約区分ごとに値が異なります。表 A-5 を参照してください※2。

c：履歴データの保存期間設定値※3。レコードタイプ，要約区分ごとに指定する単位が異なります。単位については表 A-5 を参照してください。

d：履歴データを収集する各レコードの固定部のサイズ※4

e：履歴データを収集する各レコードの可変部のサイズ※4

f：履歴データを収集する各レコードのインスタンス数（単数インスタンスレコードの場合は 1）※5。インスタンス数が 2 以上の場合，4 の倍数に丸め込みます。例えばインスタンス数が 2 の場合は，f=4 となります。インスタンス数が 13 の場合は，f=16 となります。インスタンス数が 1 の場合は，f=1 となります。

表 A-5　a，b，および c に設定する値

レコードタイプ	要約区分	a	b	c
PI	分	1,440	1+(g-1)/60※2	保存期間（単位：日）
	時	24	1+(g-1)/3,600※2	保存期間（単位：日）
	日	7	1+(g-1)/86,400※2	保存期間（単位：週）
	週	1	1+(g-1)/604,800※2	保存期間（単位：週）

レコードタイプ	要約区分	a	b	c
	月	1	1+(g-1)/2,592,000 ※ 2	保存期間 (単位：月)
	年	1	1+(g-1)/31,622,400 ※ 2	保存期間 (単位：年)
PD	―	1,440	g/60	保存期間 (単位：日)
PL	―	1,440	g/60	保存期間 (単位：日)

（凡例）

g：履歴データの収集インターバル設定値（単位：秒）

―：該当しない

注※ 1

{((e+2) ＊ f)/(65,250-d)+1} の計算結果は，小数点以下を切り捨ててください。

注※ 2

PI レコードタイプの b の計算結果は，小数点以下を切り捨ててください。

注※ 3

Store バージョン 2.0 のデフォルトの保存期間を次の表に示します。

レコードタイプ	データの種類	保存期間
PI	分単位	1 日
	時単位	7 日
	日単位	54 週
	週単位	54 週
	月単位	12 か月
	年単位	制限なし
PD	―	7 日
PL	―	30 日

（凡例）

―：該当しない

注※ 4

各レコードの固定部・可変部のサイズについては，「9.　レコード」のレコードサイズを参照してください。

注※ 5

レコードごとのインスタンス数については，「(2)　Store データベース（Store バージョン 1.0）のディスク占有量」を参照してください。

● ファイル数

Store データベースで作成されるファイル数 N の見積もり式を次に示します。

```
N=20+2＊(
          (A11+A12+...+A1m+m)+
          (A21+A22+...+A2m+m)+
          (A31+A32+...+A3m+m)+
          (A41+A42+...+A4m+m)+
          (A51+A52+...+A5m+m)+
          (11＊m)+
          (B1+B2+...+Bn+n)
          (C1+C2+...+Co+o)
         )
```

m：PI レコードタイプで収集しているレコードの数

n：PD レコードタイプで収集しているレコードの数

o：PL レコードタイプで収集しているレコードの数

A11 ～ A1m：PI レコードタイプのレコードごとの分レコードの保存期間設定値（単位：日）

A21 ～ A2m：PI レコードタイプのレコードごとの時レコードの保存期間設定値（単位：日）

A31 ～ A3m：PI レコードタイプのレコードごとの日レコードの保存期間設定値（単位：週）

A41 ～ A4m：PI レコードタイプのレコードごとの週レコードの保存期間設定値（単位：週）

A51 ～ A5m：PI レコードタイプのレコードごとの月レコードの保存期間設定値（単位：月）

B1 ～ Bn：PD レコードタイプのレコードごとの保存期間設定値（単位：日）

C1 ～ Co：PL レコードタイプのレコードごとの保存期間設定値（単位：日）

● フォルダ数

Store データベースで作成されるフォルダ数 N の見積もり式を次に示します。

```
N=25+2＊((A1max)+(A2max)+(A3max)+(A4max)+(A5max)+11+(Bmax)+(Cmax))
```

A1max：PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「分」のデータの保存期間設定値の最大値（単位：日）

A2max：PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「時」のデータの保存期間設定値の最大値（単位：日）

A3max：PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「日」のデータの保存期間設定値の最大値（単位：週）

A4max：PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「週」のデータの保存期間設定値の最大値（単位：週）

A5max：PI レコードタイプで収集しているレコードの要約区分が「月」のデータの保存期間設定値の最大値（単位：月）

Bmax：PD レコードタイプのレコードごとの保存期間設定値の最大値（単位：日）

Cmax：PL レコードタイプのレコードごとの保存期間設定値の最大値（単位：日）

● Store サービスがオープンするファイル数

Store サービスがオープンするファイル数 N の見積もり式を次に示します。

```
N=20+2＊(6＊l+m+n)
```

l：PI レコードタイプで収集しているレコードの数

m：PD レコードタイプで収集しているレコードの数

n：PL レコードタイプで収集しているレコードの数

(b) 見積もり例

PFM - Agent for Service Response の Store データベース（Store バージョン 2.0）の見積もり例について説明します。

● ディスク占有量

PI_HTP レコードを収集する設定にした場合を例に挙げて説明します。「(a)　見積もり式」の見積もり式で示した変数が次の値とします。

```
d=681（バイト）
e=360（バイト）
f=4
g=60（秒）
```

次に，分レコード，時レコードなどそれぞれの計算を行います。

分レコード

変数を次の値とします。

```
a=1,440
b=1+(60-1)/60
 =1.98...
 =1（小数点以下切り捨て）
c=3（日）
```

見積もり式を次に示します。

```
X（分）={(360+2)＊4+(681+60)＊{((360+2)＊4)/(65,250-681)+1}}＊
1,440/1＊(3+1)＊1.1
      = {362＊4+741＊1}＊1,440＊4＊1.1
      = 2,189＊1,440/1＊4＊1.1
      = 13,869,504（バイト）
      = 約13（メガバイト）
```

時レコード

変数を次の値とします。

```
a=24
b=1+(60-1)/3,600
 =1.01...
 =1（小数点以下切り捨て）
c=3（日）
```

見積もり式を次に示します。

```
X（時）={(360+2)＊4+(681+60)＊{((360+2)＊4)/(65,250-681)+1}}＊24/
1＊(3+1)＊1.1
      = {362＊4+741＊1}＊24＊4＊1.1
      = 2,189＊24＊4＊1.1
      = 231,158.4（バイト）
      = 約0.2（メガバイト）
```

日レコード

変数を次の値とします。

```
a=7
b=1+(60-1)/86,400
 =1.00...
 =1（小数点以下切り捨て）
c=1（週）
```

見積もり式を次に示します。

```
X（日）={(360+2)＊4+(681+60)＊{((360+2)＊4)/(65,250-681)+1}}＊7/1
＊(1+1)＊1.1
      = {362＊4+741＊1}＊7＊2＊1.1
      = 2,189＊7＊2＊1.1
      = 33710.6（バイト）
      = 約0.03（メガバイト）
```

週レコード

変数を次の値とします。

```
a=1
b=1+(60-1)/604,800
 =1.00...
 =1（小数点以下切り捨て）
c=1（週）
```

見積もり式を次に示します。

```
X（週）={(360+2)＊4+(681+60)＊{((360+2)＊4)/(65,250-681)+1}}＊1/1
＊(1+1)＊1.1
      = {362＊4+741＊1}＊1＊2＊1.1
      = 2,189＊1＊2＊1.1
      = 4815.8（バイト）
      = 約0.005（メガバイト）
```

月レコード

変数を次の値とします。

```
a=1
b=1+(60-1)/2,592,000
 =1.00...
 =1（小数点以下切り捨て）
c=1（月）
```

見積もり式を次に示します。

```
X（月）={(360+2)＊4+(681+60)＊{((360+2)＊4)/(65,250-681)+1}}＊1/1
＊(1+1)＊1.1
      = {362＊4+741＊1}＊1＊2＊1.1
      = 2,189＊1＊2＊1.1
      = 4815.8（バイト）
      = 約0.005（メガバイト）
```

年レコード

変数を次の値とします。

```
a=1
b=1+(60-1)/31,622,400
 =1.00...
 =1（小数点以下切り捨て）
c=10（固定）
```

見積もり式を次に示します。

```
X（年）={(360+2)＊4+(681+60)＊{((360+2)＊4)/(65,250-681)+1}}＊1/1
＊(10+1)＊1.1
      = {362＊4+741＊1}＊1＊11＊1.1
      = 2,189＊1＊11＊1.1
      = 26486.9（バイト）
      = 約0.03（メガバイト）
```

以上から，PI_HTP レコードの見積もりは次のようになります。

```
X（合計）=X（分）+X（時）+X（日）+X（週）+X（月）+X（年）
         =13.27（メガバイト）
         =約13（メガバイト）
```

● ファイル数

PI_HTP および PI_HTPS レコードを収集する場合を例に挙げて説明します。「(a)　見積もり式」の見積もり式で示した変数が次の値とします。

```
m=2
n=なし
A11～A1m=3（日）
A21～A2m=3（日）
A31～A3m=1（週）
A41～A4m=1（週）
A51～A5m=1（月）
B1～Bn=不要
```

Store データベースで作成されるファイル数 N の見積もり式を次に示します。

```
N=20+2＊(
         (A11+A12+...+A1m+m)+
         (A21+A22+...+A2m+m)+
         (A31+A32+...+A3m+m)+
         (A41+A42+...+A4m+m)+
         (A51+A52+...+A5m+m)+
         (11＊m)
         )
 =20+2＊{(3+3+2)+(3+3+2)+(1+1+2)+(1+1+2)+(1+1+2)}
 =20+2＊{8+8+4+4+4}
 =20+2＊28
```

```
 =76
```

● フォルダ数

PI_HTP および PI_HTPS レコードを収集する場合を例に挙げて説明します。

「(a)　見積もり式」のフォルダ数の見積もり式で示した変数が次の値とします。

```
A1max=3（日）（考え方：PI_HTPが2日，PI_HTPSが3日の場合は3日となります）
A2max=3（日）
A3max=1（週）
A4max=1（週）
A5max=1（月）
Bmax=なし
```

Store データベースで作成されるフォルダ数 N の見積もり式を次に示します。

```
N=25+2＊((A1max)+(A2max)+(A3max)+(A4max)+(A5max)+11+(Bmax))
 =25+2＊(3+3+1+1+1+11)
 =25+2＊20
 =65
```

● Store サービスがオープンするファイル数

PI_HTP および PI_HTPS レコードを収集する場合を例に挙げて説明します。

「(a)　見積もり式」の見積もり式で示した変数が次の値とします。

```
l=2
m=0
```

Store サービスがオープンするファイル数 N の見積もり式を次に示します。

```
N=20+2＊(6＊2)
 =20+2＊12
 =44
```

付録 A.3　クラスタ運用時のディスク占有量

クラスタ運用時のディスク占有量の見積もりは，クラスタシステムで運用しない場合のディスク占有量の見積もりと同じです。ディスク占有量については，「付録 A.2　ディスク占有量」を参照してください。

付録 B　識別子一覧

PFM - Agent for Service Response を操作したり，PFM - Agent for Service Response の Store データベースからパフォーマンスデータを抽出したりする際，PFM - Agent for Service Response であることを示す識別子が必要な場合があります。PFM - Agent for Service Response の識別子を次の表に示します。

表 B-1　PFM - Agent for Service Response の識別子一覧

用途	名称	識別子	説明
コマンドなど	プロダクト ID	V	プロダクト ID とは，サービス ID の一部。サービス ID は，コマンドを使用して Performance Management のシステム構成を確認する場合や，パフォーマンスデータをバックアップする場合などに必要である。サービス ID については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management の機能について説明している章を参照のこと。
	サービスキー	agtv または SR	コマンドを使用して PFM - Agent for Service Response を起動する場合や，終了する場合などに必要である。サービスキーについては，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management の機能について説明している章を参照のこと。
ODBC	製品タイプ識別子	SERVICERESPONSE	SQL 文を使用してデータを抽出する場合に必要である。詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，ODBC 準拠のアプリケーションプログラムと連携した稼働分析について説明している章を参照のこと。
ヘルプ	ヘルプ ID	pcav	PFM - Agent for Service Response のヘルプであることを表す。

付録 C　プロセス一覧

ここでは，PFM - Agent for Service Response のプロセス一覧を記載します。

PFM - Manager，PFM - Web Console，および PFM - Base のプロセスについては，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の付録を参照してください。

PFM - Agent for Service Response のプロセス一覧を次の表に示します。なお，プロセス名の後ろに記載されている値は，同時に起動できるプロセス数です。

表 C-1　PFM - Agent for Service Response のプロセス一覧

プロセス名（プロセス数）	機能
jpcagtv.exe(1)	Agent Collector サービスプロセス。このプロセスは，PFM - Agent for Service Response ごとに一つ起動する。
jpcsto.exe(1)	Agent Store サービスプロセス。このプロセスは，PFM - Manager または PFM - Agent ごとに一つ起動する。
jpcvieprobed.exe(5) ※ 1	IE Probe Daemon デーモン。このプロセスは，PFM - Agent for Service Response ごとに五つ起動する。
esprobed.exe(1)	Probe Daemon デーモン。このプロセスは，PFM - Agent for Service Response ごとに一つ起動する。
jpcviemd.exe(1)	タスクトレイアイコンの制御，IE Probe Daemon プロセスの起動を制御する。IE シナリオの計測のスケジューリングやレポートの出力をする。
espsvc.exe(1)	Probe Daemon サービスプロセス。Probe Daemon と Windows サービスコントロールマネージャーとの通信を行う。このプロセスは，PFM - Agent for Service Response ごとに一つ起動する。
jpcviesvc.exe(1)	IE Probe Daemon サービスプロセス。IE Probe Daemon と Windows サービスコントロールマネージャーとの通信を行う。このプロセスは，PFM - Agent for Service Response ごとに一つ起動する。
stpqlpr.exe(1) ※ 2	Store データベースのバックアップまたはエクスポート実行プロセス。

注※ 1

デフォルトの値です。

注※ 2

jpcsto プロセスの子プロセスです。

付録 D　ポート番号一覧

ここでは，PFM - Agent for Service Response で使用するポート番号を記載します。

PFM - Manager ，PFM - Web Console，および PFM - Base のポート番号およびファイアウォールの通過方向については，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の付録を参照してください。

ポート番号は，ユーザー環境に合わせて任意の番号に変更することもできます。

ポート番号の変更方法については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，インストールとセットアップについて説明している章を参照してください。なお，使用するプロトコルは TCP/IP です。

注意

Performance Management は，1 対 1 のアドレス変換をする静的 NAT(Basic NAT) に対応しています。
動的 NAT や，ポート変換機能を含む NAPT（IP Masquerade，NAT+）には対応していません。

付録 D.1　PFM - Agent for Service Response のポート番号

PFM - Agent for Service Response で使用するポート番号を次の表に示します。

表 D-1　PFM - Agent for Service Response で使用するポート番号

ポート番号	サービス名	パラメーター	用途
－	Agent Store サービス	jp1pcstov	パフォーマンスデータを記録したり，履歴レポートを取得したりするときに使用する。
－	Agent Collector サービス	jp1pcagtv	アラームをバインドしたり，リアルタイムレポートを取得したりするときに使用する。

（凡例）

－：サービスが再起動されるたびにシステムで使用されていないポート番号が自動的に割り当てられます。

付録 D.2　ファイアウォールの通過方向

(1) ファイアウォールの通過方向の設定

ファイアウォールを挟んで PFM - Manager と PFM - Agent for Service Response を配置する場合は，PFM - Manager と PFM - Agent のすべてのサービスにポート番号を固定

値で設定してください。また，各ポート番号を次の表に示す方向で設定し，すべてのサービスについてファイアウォールを通過させるようにしてください。

表 D-2　ファイアウォールの通過方向（PFM - Manager と PFM - Agent 間）

サービス名	パラメーター	通過方向
Agent Store サービス	jp1pcstov	Agent ← Manager
Agent Collector サービス	jp1pcagtv	Agent ← Manager

（凡例）

Manager：PFM - Manager ホスト

Agent：PFM - Agent ホスト

←：右項から左項への通信（コネクション）を開始する方向

通信（コネクション）を開始する時は，接続を受ける側（矢印が向いている側）が，表 D-1 のポート番号を受信ポートとして使用します。接続する側は，OS によって割り当てられる空きポート番号を送信ポートとして使用します。この場合に使用するポート番号の範囲は，OS によって異なります。

上記の Agent ← Manager の場合は，Manager で一時的に使用される送信ポートが Agent の受信ポートを通過できるようにファイアウォールを設定してください。

注意

PFM - Agent のホストで jpctool db dump(jpcctrl dump) コマンドまたは jpctool service list(jpcctrl list) コマンドを実行したい場合，次のどちらかの方法でコマンドを実行してください。

- jpctool db dump(jpcctrl dump) コマンドまたは jpctool service list(jpcctrl list) コマンドの proxy オプションで，PFM - Manager を経由して通信するように指定してください。jpctool db dump(jpcctrl dump) コマンドまたは jpctool service list(jpcctrl list) コマンドの proxy オプションについては，マニュアル「JP1/Performance Management リファレンス」の，コマンドについて説明している章を参照してください。
- 各 PFM - Agent ホスト間で次の表に示す方向でポート番号を設定し，ファイアウォールを通過させるようにしてください。

表 D-3　ファイアウォールの通過方向（各 PFM - Agent ホスト間）

サービス名	パラメーター	通過方向
Agent Store サービス	jp1pcstov	Agent ←→ Agent
Agent Collector サービス	jp1pcagtv	Agent ←→ Agent

（凡例）

Agent：PFM - Agent ホスト

←→：左項から右項，および右項から左項への通信（コネクション）を開始する方向

(2) ファイアウォールの通過方向の設定（論理ホスト運用の場合）

ファイアウォールを挟んで PFM - Manager と PFM - Agent for Service Response を配置する場合は，PFM - Manager と PFM - Agent のすべてのサービスにポート番号を固定値で設定してください。また，各ポート番号を次の表に示す方向で設定し，すべてのサービスについてファイアウォールを通過させるようにしてください。

表 D-4　ファイアウォールの通過方向（PFM - Manager と PFM - Agent 間（論理ホスト運用の場合））

サービス名	パラメーター	通過方向
Agent Store サービス（論理ホスト）	jp1pcstov	Agent（論理ホスト）← Manager
Agent Collector サービス（論理ホスト）	jp1pcagtv	Agent（論理ホスト）← Manager

（凡例）

Manager：PFM - Manager ホスト

Agent（論理ホスト）：PFM - Agent ホスト

←：右項から左項への通信（コネクション）を開始する方向

通信（コネクション）を開始する時は，接続を受ける側（矢印が向いている側）が，表 D-1 のポート番号を受信ポートとして使用します。接続する側は，OS によって割り当てられる空きポート番号を送信ポートとして使用します。この場合に使用するポート番号の範囲は，OS によって異なります。

Manager から一時的に使用される送信ポートが Agent の論理ホストの受信ポートに通過できるようにファイアウォールを設定してください。

付録 D.3　ファイアウォール /NAT を挟んだ計測を行う時の注意事項

PFM - Agent for Service Response が動作するホストと監視対象の間にファイアウォール /NAT を設置する場合は，計測対象サービスに合わせた設定を行ってください。

表 D-5　ファイアウォール /NAT を通過させる通信の計測対象ごとの設定方法

計測対象	設定方法	ポート番号
• DHCP • DNS • FTP • HTTP • HTTPS • IMAP4 • POP3 • SMTP	計測対象の通信プロトコルがファイアウォール /NAT を通過するよう，ポートの設定を行ってください。	－
TCP	TCP が指定する IP アドレス，ポート番号がファイアウォール /NAT を通過するよう，ポートの設定を行ってください。	－
• Web トランザクション • IE シナリオ	計測対象ページがファイアウォール /NAT を挟んで計測を行えるようポートの設定を行ってください。	－
ユーザー定義サービス	作成したプログラムが行う通信がファイアウォール /NAT を通過するよう，ポートの設定を行ってください。	－

（凡例）

－：ポート番号は計測対象ごとに異なります。

付録 E　PFM - Agent for Service Response のプロパティ

ここでは，PFM - Web Console で表示される PFM - Agent for Service Response の Agent Store サービスのプロパティ一覧，および Agent Collector サービスのプロパティ一覧を記載します。

付録 E.1　Agent Store サービスのプロパティ一覧

PFM - Agent for Service Response の Agent Store サービスのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 E-1　PFM - Agent for Service Response の Agent Store サービスのプロパティ一覧

フォルダ名	プロパティ名	説明
—	First Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最初の日時が表示される。
	Last Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最新の日時が表示される。
General	—	ホスト名やフォルダなどの情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Directory	サービスの動作するカレントフォルダ名が表示される。
	Host Name	サービスが動作する物理ホスト名が表示される。
	Process ID	サービスのプロセス ID が表示される。
	Physical Address	サービスが動作するホストの IP アドレスおよびポート番号が表示される。
	User Name	サービスプロセスを実行したユーザー名が表示される。
	Time Zone	サービスで使用されるタイムゾーンが表示される。
System	—	サービスが起動されている OS の，OS 情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	CPU Type	CPU の種類が表示される。
	Hardware ID	ハードウェア ID が表示される。
	OS Type	OS の種類が表示される。
	OS Name	OS 名が表示される。
	OS Version	OS のバージョンが表示される。

フォルダ名		プロパティ名	説明
Network Services		—	Performance Management 通信共通ライブラリについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Build Date	Agent Store サービスの作成日が表示される。
		INI File	jpcns.ini ファイルの格納フォルダ名が表示される。
Network Services	Service	—	サービスについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Description	ホスト名が表示される。
		Local Service Name	サービス ID が表示される。
		Remote Service Name	接続先 PFM - Manager ホストの Master Manager サービスのサービス ID が表示される。
		EP Service Name	接続先 PFM - Manager ホストの Correlator サービスのサービス ID が表示される。
Retention		—	Store バージョンが 1.0 の場合にデータの保存期間を設定する。詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。
		Product Interval - Minute Drawer	分ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 • Minute • Hour • Day • 2 Days • 3 Days • 4 Days • 5 Days • 6 Days • Week • Month • Year
		Product Interval - Hour Drawer	時間ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 • Hour • Day • 2 Days • 3 Days • 4 Days • 5 Days • 6 Days • Week • Month • Year

フォルダ名		プロパティ名	説明
		Product Interval - Day Drawer	日ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 • Day • 2 Days • 3 Days • 4 Days • 5 Days • 6 Days • Week • Month • Year
		Product Interval - Week Drawer	週ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 • Week • Month • Year
		Product Interval - Month Drawer	月ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。次のリストから選択できる。 • Month • Year
		Product Interval - Year Drawer	年ごとの PI レコードタイプのレコードの保存期間。Year で固定。
		Product Detail - PD **レコードタイプのレコード** ID	各 PD レコードタイプのレコードの保存レコード数を設定する。0 ～ 2,147,483,647 の整数が指定できる。 **注意**：範囲外の数値，またはアルファベットなどの文字を指定した場合，エラーメッセージが表示される。
RetentionEx		—	Store バージョンが 2.0 の場合にデータの保存期間を設定する。詳細については，マニュアル「JP1/Performance Management 運用ガイド」の，稼働監視データの管理について説明している章を参照のこと。
RetentionEx	Product Interval - PI **レコードタイプのレコード** ID	—	PI レコードタイプのレコードの保存期間を設定する。
		Period - Minute Drawer (Day)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに，分単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（日数）を 0 ～ 366 の整数で指定できる。
		Period - Hour Drawer (Day)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに，時間単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（日数）を 0 ～ 366 の整数で指定できる。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		Period - Day Drawer (Week)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに，日単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（週の数）を 0 ～ 522 の整数で指定できる。
		Period - Week Drawer (Week)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに，週単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（週の数）を 0 ～ 522 の整数で指定できる。
		Period - Month Drawer (Month)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに，月単位のパフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（月の数）を 0 ～ 120 の整数で指定できる。
		Period - Year Drawer (Year)	PI レコードタイプのレコード ID ごとに，年単位のパフォーマンスデータの保存期間が表示される。
	Product Detail - PD **レコードタイプのレコード** ID	Period (Day)	PD レコードタイプのレコード ID ごとに，パフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（日数）を 0 ～ 366 の整数で指定できる。
	Product Log - PL **レコードタイプのレコード** ID	Period (Day)	PL レコードタイプのレコード ID ごとに，パフォーマンスデータの保存期間を設定する。保存期間（日数）を 0 ～ 366 の整数で指定できる。
Disk Usage		—	各データベースで使用されているディスク容量が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティには，プロパティを表示した時点でのディスク使用量が表示される。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Product Interval	PI レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。
		Product Detail	PD レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。
		Product Alarm	PA レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。PFM - Agent for Service Response では使用しない。
		Product Log	PL レコードタイプのレコードで使用されるディスク容量が表示される。PFM - Agent for Service Response では使用しない。
		Total Disk Usage	データベース全体で使用されるディスク容量が表示される。
Configuration		—	Agent Store サービスのプロパティが表示される。

フォルダ名	プロパティ名	説明
	Store Version	Store データベースのバージョンが表示される。 • Store バージョン 1.0 の場合 「1.0」 • Store バージョン 2.0 の場合 「2.0」

（凡例）
－：該当しない

付録 E.2　Agent Collector サービスのプロパティ一覧

PFM - Agent for Service Response の Agent Collector サービスのプロパティ一覧を次の表に示します。

表 E-2　PFM - Agent for Service Response の Agent Collector サービスのプロパティ一覧

フォルダ名	プロパティ名	説明
－	First Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最初の日時が表示される。
	Last Registration Date	サービスが PFM - Manager に認識された最新の日時が表示される。
	Data Model Version	データモデルのバージョンが表示される。
General	－	ホスト名やフォルダなどの情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	Directory	サービスの動作するカレントフォルダ名が表示される。
	Host Name	サービスが動作する物理ホスト名が表示される。
	Process ID	サービスのプロセス ID が表示される。
	Physical Address	サービスが動作するホストの IP アドレスおよびポート番号が表示される。
	User Name	サービスプロセスを実行したユーザー名が表示される。
	Time Zone	サービスで使用されるタイムゾーンが表示される。
System	－	サービスが起動されている OS の，OS 情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
	CPU Type	CPU の種類が表示される。
	Hardware ID	ハードウェア ID が表示される。
	OS Type	OS の種類が表示される。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		OS Name	OS 名が表示される。
		OS Version	OS のバージョンが表示される。
Network Services		—	Performance Management 通信共通ライブラリについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Build Date	Agent Collector サービスの作成日が表示される。
		INI File	jpcns.ini ファイルの格納フォルダ名が表示される。
Network Services	Service	—	サービスについての情報が格納されている。このフォルダに格納されているプロパティは変更できない。
		Description	ホスト名やサービス種別などサービスの追加情報が表示される。
		Local Service Name	サービス ID が表示される。
		Remote Service Name	Agent Collector サービスが接続する Agent Store サービスのサービス ID が表示される。
		AH Service Name	同一ホストにある Action Handler サービスのサービス ID が表示される。

フォルダ名		プロパティ名	説明
JP1 Event Configurations		—	JP1 イベントの発行条件を設定する。
		各サービス	Agent Collector サービス，Agent Store サービス，Action Handler サービス，および Status Server サービスのリスト項目から「Yes」または「No」を選択し，サービスごとに JP1 システムイベントを発行するかどうかを指定する。
		JP1 Event Send Host	JP1/Base の接続先イベントサーバ名を指定する。ただし，Action Handler サービスと同一マシンの論理ホストまたは物理ホストで動作しているイベントサーバだけ指定できる。指定できる値は 0 ～ 255 バイトの半角英数字および「.」「-」で，範囲外の値が指定された場合は，省略されたと仮定する。値が省略された場合は，Action Handler サービスが動作するホストをイベント発行元ホストとして使用する。「localhost」が指定された場合は，物理ホストが指定されたものと仮定する。
		Monitoring Console Host	JP1/IM - Manager のモニター起動で PFM - Web Console のブラウザーを起動する場合，起動させる PFM - Web Console ホストを指定する。指定できる値は 0 ～ 255 バイトの半角英数字および「.」「-」で，範囲外の値が指定された場合は，省略されたと仮定する。値が省略された場合は，接続先の PFM - Manager ホストを仮定する。
		Monitoring Console Port	起動する PFM - Web Console のポート番号（http リクエストポート番号）を指定する。指定できる値は 1 ～ 65535 で，範囲外の値が指定された場合は，省略されたと仮定する。値が省略された場合は，20358 が設定される。
JP1 Event Configurations	Alarm	JP1 Event Mode	アラームの状態が変化した時に，JP1 システムイベントと JP1 ユーザーイベントのどちらのイベントを発行するか設定する。 • JP1 User Event：JP1 ユーザーイベントを発行する • JP1 System Event：JP1 システムイベントを発行する
Detail Records		—	PD レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。収集されているレコードのレコード ID は，太字で表示される。
Detail Records	**レコード** ID ※ 1	—	レコードのプロパティが格納されている。
		Description	レコードの説明が表示される。このプロパティは変更できない。
		Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，レコードを Store データベースに記録するかどうかを指定する。この値が「Yes」でかつ，Collection Interval が 0 より大きい値であれば，データベースに記録される。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		Collection Interval	データの収集間隔を指定する。指定できる値は 0 ～ 2,147,483,647 秒で，1 秒単位で指定できる。なお，0 と指定した場合は 0 秒となり，データは収集されない。
		Collection Offset	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は，Collection Interval で指定した値の範囲内で，0 ～ 32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。なお，データ収集の記録時間は，Collection Offset の値によらないで，Collection Interval と同様の時間となる。
		LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。PFM - Web Console の［サービス階層］タブで表示されるサービスのプロパティ画面の，下部フレームの［LOGIF］をクリックすると表示される［ログ収集条件設定］ウィンドウで作成した条件式（文字列）が表示される。
Interval Records		—	PI レコードタイプのレコードのプロパティが格納されている。収集されているレコードのレコード ID は，太字で表示される。
Interval Records	**レコード** ID ※ 1	—	レコードのプロパティが格納されている。
		Description	レコードの説明が表示される。このプロパティは変更できない。
		Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，レコードを Store データベースに記録するかどうかを指定する。この値が「Yes」でかつ，Collection Interval が 0 より大きい値であれば，データベースに記録される。
		Collection Interval	データの収集間隔を指定する。指定できる値は 0 ～ 2,147,483,647 秒で，1 秒単位で指定できる。なお，0 と指定した場合は 0 秒となり，データは収集されない。
		Collection Offset	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は，Collection Interval で指定した値の範囲内で，0 ～ 32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。なお，データ収集の記録時間は，Collection Offset の値によらないで，Collection Interval と同様の時間となる。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。PFM - Web Console の［サービス階層］タブで表示されるサービスのプロパティ画面の，下部フレームの［LOGIF］をクリックすると表示される［ログ収集条件設定］ウィンドウで作成した条件式（文字列）が表示される。
Log Records		Description	レコードの説明が表示される。 このプロパティは変更できない。
		Log	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，レコードを Store データベースに記録するかどうかを指定する。この値が「Yes」でかつ，Collection Interval が 0 より大きい値であれば，データベースに記録される。
		Collection Interval	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は，Collection Interval で指定した値の範囲内で，0 ～ 32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。なお，データ収集の記録時間は，Collection Offset の値によらないで，Collection Interval と同様の時間となる。
		Collection Offset	データの収集を開始するオフセット値を指定する。指定できる値は，Collection Interval で指定した値の範囲内で，0 ～ 32,767 秒の 1 秒単位で指定できる。なお，データ収集の記録時間は，Collection Offset の値によらないで，Collection Interval と同様の時間となる。
		LOGIF	レコードをデータベースに記録するときの条件を指定する。条件に合ったレコードだけがデータベースに記録される。PFM - Web Console の［サービス階層］タブで表示されるサービスのプロパティ画面の，下部フレームの［LOGIF］をクリックすると表示される［ログ収集条件設定］ウィンドウで作成した条件式（文字列）が表示される。
Agent Configuration		—	データ補間やプローブの設定に関するレコードのプロパティが格納されている。
Agent Configuration	Agent	—	データ補間に関するレコードのプロパティが格納されている。
		Data Interpolation	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，パフォーマンスデータが格納されない場合に直前のデータで補間するかどうかを指定する。「Yes」を選択すると，パフォーマンスデータが格納されない場合に直前のデータで補間される。
	Probe	—	プローブに関するレコードのプロパティが格納されている。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		Use Probe	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，Agent Collector サービスの起動時に Probe Daemon を起動するかどうかを指定する。「Yes」を選択すると，Agent Collector サービスの起動時に Probe Daemon を起動する。「No」を選択すると，Agent Collector サービスの起動時に Probe Daemon を起動しない。また，「Yes」を選択したときに，Probe Daemon が停止していれば起動する。「No」を選択したときに，Probe Daemon が起動していれば停止する。
		Reload	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，計測条件登録ファイルを再読み込みするかを指定する。「Yes」を選択すると，計測条件登録ファイルが再読み込みされる。
		Probe Status	Probe Daemon の動作状態として次のどれかが表示される。 Active 　Probe Daemon が開始，または停止処理中。 Inactive 　Probe Daemon が停止，または開始処理中。 Unknown 　Unknown 状態の取得に失敗。 Reloading 　Reload 処理中。
		IE Probe Status	IE Probe Daemon の動作状態として次のどれかが表示される。 Active 　IE Probe Daemon が開始，または停止処理中。 Inactive 　IE Probe Daemon が停止，または開始処理中。 Unknown 　Unknown 状態の取得に失敗。 Reloading 　Reload 処理中。
		Initial	タスクを追加したが，プロパティが入力されていないタスクの数が表示される。
		Invalid	タスクのプロパティに不正な値が入力されているタスクの数が表示される。
		Valid	タスクのプロパティを更新したタスクの数が表示される。有効にするには計測条件登録ファイルを再読み込みする必要がある。
		Deleted	削除したタスクの数が表示される。有効にするには計測条件登録ファイルを再読み込みする必要がある。
		Applied	計測条件登録ファイルに登録されているタスクの数が表示される。
	Probe/Task List ※2	—	計測条件に関するレコードのプロパティが格納されている。

フォルダ名		プロパティ名	説明
	Probe/ADD OR DELETE A TASK ※3	—	計測条件の追加，削除を設定するレコードのプロパティが格納されている。
		New Task ID	計測条件 ID を指定する。
		New Task Protocol	次のリスト項目から選択し，新規に作成するタスクのプロトコルを指定する。 • HTTP • HTTPS • SMTP • POP3 • IMAP4 • DNS • DHCP • FTP • TCP • WEBTRANS • USERSERV
		Delete A Task	削除するタスクを指定する。削除しない場合は，「None」を選択する。
		Reserved	システム内部で使用している。ユーザーは使用できない。
Restart Configurations		—	PFM サービス自動再起動の条件を設定する。PFM - Manager または PFM - Base が 08-50 以降の場合に設定できる。PFM サービス自動再起動機能については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management の機能について説明している章を参照のこと。
		Restart when Abnormal Status	Status Server サービスが Action Handler サービス，Agent Collector サービス，および Agent Store サービスの状態を正常に取得できない場合にサービスを自動再起動するかどうかを設定する。
		Restart when Single Service Running	Agent Store サービスと Agent Collector サービスのどちらかしか起動していない場合にサービスを自動再起動するかどうかを設定する。
Restart Configurations	Action Handler	Auto Restart	Action Handler サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合，サービスの稼働状態を確認する間隔を分単位で設定する。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合，連続して再起動を試行する回数を設定する。
		Scheduled Restart	Action Handler サービスに対して，定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合，再起動間隔を設定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合，再起動間隔の単位を設定する。
		Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971 ～ 2035 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1 ～ 12 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1 ～ 31 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間（時）を 0 ～ 23 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間（分）を 0 ～ 59 の整数で指定できる。
	Agent Collector	Auto Restart	Agent Collector サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合，サービスの稼働状態を確認する間隔を分単位で設定する。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合，連続して再起動を試行する回数を設定する。
		Scheduled Restart	Agent Collector サービスに対して，定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合，再起動間隔を設定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合，再起動間隔の単位を設定する。
		Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971 ～ 2035 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1 ～ 12 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1 ～ 31 の整数で指定できる。

フォルダ名		プロパティ名	説明
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間（時）を 0 ～ 23 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間（分）を 0 ～ 59 の整数で指定できる。
	Agent Store	Auto Restart	Agent Store サービスに対して自動再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Auto Restart - Interval (Minute)	自動再起動機能を利用する場合，サービスの稼働状態を確認する間隔を分単位で設定する。
		Auto Restart - Repeat Limit	自動再起動機能を利用する場合，連続して再起動を試行する回数を設定する。
		Scheduled Restart	Agent Store サービスに対して，定期再起動機能を利用するかどうかを設定する。
		Scheduled Restart - Interval	定期再起動機能を利用する場合，再起動間隔を設定する。
		Scheduled Restart - Interval Unit	定期再起動機能を利用する場合，再起動間隔の単位を設定する。
		Scheduled Restart - Origin - Year	再起動する年を 1971 ～ 2035 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Month	再起動する月を 1 ～ 12 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Day	再起動する日を 1 ～ 31 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Hour	再起動する時間（時）を 0 ～ 23 の整数で指定できる。
		Scheduled Restart - Origin - Minute	再起動する時間（分）を 0 ～ 59 の整数で指定できる。

（凡例）

－：該当しない

注※ 1

フォルダ名には，データベース ID を除いたレコード ID が表示されます。各レコードのレコード ID については，「9.　レコード」を参照してください。

注※ 2

「Probe」フォルダの下位の Task List フォルダを示します。このフォルダに格納さ

れているプロパティの詳細については，「表 E-3　計測条件に関するプロパティ一覧」を参照してください。

注※ 3

「Probe」フォルダの下位の ADD OR DELETE A TASK フォルダを示します。このフォルダに格納されているプロパティの詳細については，「表 E-3　計測条件に関するプロパティ一覧」を参照してください。

PFM - Agent for Service Response の Agent Collector サービスのプロパティのうち，計測条件に関するプロパティは，次の「/Agent Configuration/Probe/Task List」フォルダに格納されています。

計測条件に関するプロパティの一覧を次の表に示します。

表 E-3　計測条件に関するプロパティ一覧

フォルダ名※1	プロパティ名	XML タグ※2	説明
XXX_[0-9]+	—	—	XXX は，「HTTP」，「HTTPS」，「SMTP」，「POP3」，「IMAP4」，「DNS」，「DHCP」，「FTP」，「TCP」，「WEBTRANS」，「USERSERV」のどれかの文字列が表示される。 Task ID，Status，Task Label，Interval，Timeout の各プロパティは，計測対象のサービスに依存しない共通のプロパティ※1。
	Task ID	<TASKID>	計測条件 ID が表示される。
	Status	—	タスクの状態プロパティの設定状況および Probe Daemon への反映状況として次のどれかが表示される。 Applied 設定が Probe Daemon に反映されている状態。 Deleted 削除が指定されたが，Probe Daemon には反映されていない状態。 Initial タスクが新規に作成されてから，初めに［OK］ボタンがクリックされるまでの間の状態。 Invalid 不正な値が設定されたプロパティがある状態。「Invalid」に続く大括弧内に，不正なプロパティの名称がコンマで区切られて表示される。 Valid 必要なプロパティがすべて正しく入力されているが，設定の変更を Probe Daemon に反映していない状態。

フォルダ名※1	プロパティ名	XML タグ※2	説明
	Task Label	<TASKLABEL>	タスクに任意のラベル名を付与する場合に指定する。ほかの計測条件と重複しない一意の名前にすることを推奨する。 ラベル名は，各レコードの Measurement Condition Name フィールドに格納される。ラベル名には「,（コンマ）」,「"（ダブルクォーテーション）」は使用できない。PFM - Web Console のバージョンが 08-50 以降の場合，日本語（マルチバイト文字）も使用できる。 空文字列を指定した場合，計測条件ラベル定義ファイルで指定した値がラベル名になる。なお，計測条件ラベル定義ファイルで指定したラベル名はプロパティとして確認できない。
	Interval	<INTERVAL>	繰り返し計測をする場合の計測間隔を秒単位で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 Timeout プロパティで指定する値（タイムアウト時間）より大きい値を指定する。
	Timeout	<TIMEOUT>	タイムアウト時間（1 回の計測が終了するまでの最大時間）を秒単位で指定する。Interval プロパティの値より大きい値を指定した場合は，Interval プロパティの値がタイムアウト時間になる。
HTTP_[0-9]+	—	—	HTTP サービスの計測に関するプロパティが格納されている。
	URL	<URL>	計測対象の Web ページの URL を 255 バイト以内の半角文字で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 プロトコル識別子（http://）は含めない。ポート番号は省略できる。ポート番号を省略した場合，80 番ポートが使用される。
	Method	<POST>※3	リクエストメソッドを表示する。デフォルトは GET。リクエストメソッドは PFM - Web Console からは変更できないため，POST メソッドを使用する場合，計測条件登録ファイルを直接編集するか，Web トランザクションとして定義する。 POST メソッドで送信する文字列（計測条件登録ファイルに記述した <MESSAGE_BODY> タグの値）は，PFM - Web Console から確認できない。また，計測条件登録ファイルに <MESSAGE_BODY> が指定されていても，値は検証されない。

フォルダ名※1	プロパティ名	XML タグ※2	説明
	Depth	<DEPTH>	埋め込みリソース・フレームを取得する深さを 1 ～ 100 の半角数字で指定する。深さとは，計測対象の Web ページ中に含まれるリソースとフレームのうち，ダウンロードするリソースとフレームの Web ページ中の深さを表す。次に例を示す。 1 を指定する場合 Web ページ本体だけをダウンロードする。 2 を指定する場合 Web ページ本体に加えて，そのページに埋め込まれているリソースやフレームをダウンロードする。 3 以上を指定する場合 Web ページ本体，そのページに埋め込まれているリソースやフレーム，そのフレームに埋め込まれているリソースやフレーム・・・のように，取得したフレームの中に埋め込まれている情報の取得を，指定した数に対応するだけ繰り返しダウンロードする。フレームの中に何も埋め込まれていなければ，それ以上の取得は繰り返さない。 埋め込まれているリソースやフレームの詳細については，「9.　レコード」の「HTTP」を参照。
	Web Auth	<WEB_AUTH>	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，Web 認証を行うかを指定する。
	Web Username	<WEB_USERNAME>	Web 認証に使用するユーザー名を 64 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 Web Auth プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。Web Auth プロパティが「No」の場合，無効になる。
	Proxy	<PROXY>	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，プロキシを利用するかを指定する。
	Proxy Hostname	<PROXY_HOSTNAME>	プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 Proxy プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。 Proxy プロパティが「No」の場合，無効になる。
	Proxy Port	<PROXY_PORT>	プロキシサーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 Proxy プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。 Proxy プロパティが「No」の場合，無効になる。
	Proxy Auth	—	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，プロキシ認証を行うかを指定する。 Proxy プロパティが「No」の場合，無効になる。

フォルダ名※1	プロパティ名	XML タグ※2	説明
	Proxy Username	<PROXY_USERNAME>	プロキシ認証に使用するユーザー名を 64 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 Proxy Auth プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。Proxy Auth プロパティが「No」の場合，無効になる。
HTTPS_[0-9]+	—	—	HTTPS サービスの計測に関するプロパティが格納されている。
	URL	<URL>	計測対象の Web ページの URL を 255 バイト以内の半角文字で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 プロトコル識別子（https://）は含めない。ポート番号は省略できる。ポート番号を省略した場合，80 番ポートが使用される。
	Method	<POST>※3	リクエストメソッドを表示する。デフォルトは GET。リクエストメソッドは PFM - Web Console からは変更できないため，POST メソッドを使用する場合，計測条件登録ファイルを直接編集するか，Web トランザクションとして定義する。 POST メソッドで送信する文字列は，PFM - Web Console から確認できない。
	Depth	<DEPTH>	埋め込みリソース・フレームを取得する深さを 1 ～ 100 の半角数字で指定する。深さとは，計測対象の Web ページ中に含まれるリソースとフレームのうち，ダウンロードするリソースとフレームの Web ページ中の深さを表す。次に例を示す。 1 を指定する場合 Web ページ本体だけをダウンロードする。 2 を指定する場合 Web ページ本体に加えて，そのページに埋め込まれているリソースやフレームをダウンロードする。 3 以上を指定する場合 Web ページ本体，そのページに埋め込まれているリソースやフレーム，そのフレームに埋め込まれているリソースやフレーム・・・のように，取得したフレームの中に埋め込まれている情報の取得を，指定した数に対応するだけ繰り返しダウンロードする。フレームの中に何も埋め込まれていなければ，それ以上の取得は繰り返さない。 埋め込まれているリソースやフレームの詳細については，「9.　レコード」の「HTTPS」を参照。
	Web Auth	<WEB_AUTH>	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，Web 認証を行うかを指定する。

フォルダ名※1	プロパティ名	XML タグ※2	説明
	Web Username	<WEB_USERNAME>	Web 認証に使用するユーザー名を 64 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 Web Auth プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。Web Auth プロパティが「No」の場合，無効になる。
	Proxy	<PROXY>	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，プロキシを利用するかを指定する。
	Proxy Hostname	<PROXY_HOSTNAME>	プロキシサーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 Proxy プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。 Proxy プロパティが「No」の場合，無効になる。
	Proxy Port	<PROXY_PORT>	プロキシサーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 Proxy プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。 Proxy プロパティが「No」の場合，無効になる。
	Proxy Auth	—	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，プロキシ認証を行うかを指定する。 Proxy プロパティが「No」の場合，無効になる。
	Proxy Username	<PROXY_USERNAME>	プロキシ認証に使用するユーザー名を 64 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 Proxy Auth プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。Proxy Auth プロパティが「No」の場合，無効になる。
	SSL Auth Ignore	<SSL_AUTH_IGNORE>	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，SSL のサーバ認証で失敗しても，そのまま計測を続行するかを指定する。 「Yes」を選択すると，SSL のサーバ認証失敗時も，計測は続行される。
	Client Auth	<CLIENT_AUTH>	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，クライアント認証をするかを指定する。
	Client Certification File	<CLIENT_CERT_FILE>	クライアント証明書と秘密鍵を格納したファイルを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 **インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥cert 配下に格納したファイルのファイル名を指定する。パスは含めない。ファイルは，Base64 エンコードの X.506 形式に変換しておく必要がある。PFM - Web Console のバージョンが 08-50 以降の場合，日本語（マルチバイト文字）も使用できる。
SMTP_[0-9]+	—	—	SMTP サービスの計測に関するプロパティが格納されている。

フォルダ名※1	プロパティ名	XML タグ※2	説明
	Hostname	<HOSTNAME>	SMTP サーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Port	<PORT>	SMTP サーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。
	Message Size	<MSG_SIZE>	計測用メールの本文サイズ（バイト）を 0 ～ 10,000 の半角数字で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Destination Mail Address	<DST_MAIL_ADDR>	計測用メールの宛先メールアドレスを一つだけ，256 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Source Mail Address	<SRC_MAIL_ADDR>	計測用メールの発信元メールアドレスを 256 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	POP3 Auth	<POP3_AUTH>	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，POP3 認証（POP before SMTP）を実行するかを指定する。
	POP3 Hostname	<POP3_HOSTNAME>	POP3 サーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 POP3 Auth プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。POP3 Auth プロパティが「No」の場合，無効になる。
	POP3 Port	<POP3_PORT>	POP3 サーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。 POP3 Auth プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。POP3 Auth プロパティが「No」の場合，無効になる。
	POP3 Username	<POP3_USERNAME>	POP3 認証に使用するユーザー名を 40 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 POP3 Auth プロパティが「Yes」の場合，必ず入力する。POP3 Auth プロパティが「No」の場合，無効になる。
POP3_[0-9]+	—	—	POP3 サービスの計測に関するプロパティが格納されている。
	Hostname	<HOSTNAME>	POP3 サーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Port	<PORT>	POP3 サーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。
	Username	<USERNAME>	POP3 サービスで使用するユーザー名を 40 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。

フォルダ名※1	プロパティ名	XML タグ※2	説明
	Delete Mail	<NON_DELETE_MAIL>	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，読み込んだメールを削除するかを指定する。
IMAP4_[0-9]+	—	—	IMAP4 サービスの計測に関するプロパティが格納されている。
	Hostname	<HOSTNAME>	IMAP4 サーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Port	<PORT>	IMAP4 サーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。
	Username	<USERNAME>	IMAP4 サービスで使用するユーザー名を 64 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Delete Mail	<DELETE_MAIL>	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，読み込んだメールを削除するかを指定する。
DNS_[0-9]+	—	—	DNS サービスの計測に関するプロパティが格納されている。
	IP Address	<IPADDRESS>	DNS サーバの IP アドレスを 15 バイト以内で指定する。IP アドレスだけを受け付け，DNS 名は受け付けない。デフォルトでは何も指定されていない。
	Port	<PORT>	DNS サーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。
	Query	<QUERY>	検索対象のホスト名を 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Retry	<RETRY>	リトライ回数を 1 ～ 5 の半角数字で指定する。ここで指定したリトライ回数と，共通のプロパティである Timeout プロパティで指定したタイムアウト時間から，リトライタイムアウト時間が計算され，自動的に設定される。計算式を次に示す。 リトライタイムアウト時間＝ 　　タイムアウト時間÷（リトライ回数 +1）
DHCP_[0-9]+	—	—	DHCP サーバの計測に関するプロパティが格納されている。
	Hostname	<HOSTNAME>	DHCP サーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Port	<PORT>	DHCP サーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。
	Probe Port	<PROBE_PORT>	計測条件で使用する DHCP クライアントとなるプローブのポート番号を，1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。
	Accept Offer	<NON_ACCEPT_OFFER>※4	リスト項目から「Yes」または「No」を選択し，DHCP サーバから割り当てられた IP アドレスを受理するか指定する。

フォルダ名※1	プロパティ名	XML タグ※2	説明
FTP_[0-9]+	—	—	FTP サービスの計測に関するプロパティが格納されている。
	Hostname	<HOSTNAME>	FTP サーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Port	<PORT>	FTP サーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。
	Username	<USERNAME>	FTP サービスで使用するユーザー名を 64 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Direction	<TRANS_DIRECTION>	ファイルを転送する方向を指定する。サーバへファイルを転送する場合は「UPLOAD」を，サーバからファイルを転送する場合は「DOWNLOAD」を選択する。 計測用の転送ファイルはあらかじめ次のフォルダに格納しておく必要がある。 UPLOAD の場合： **インストール先フォルダ**¥agtv¥probe¥probedata¥ftp DOWNLOAD の場合： 指定したアカウントのホームディレクトリ下
	File	<FILE_NAME>	転送するファイル名を 32 バイト以内の半角文字列で指定する。PFM - Web Console のバージョンが 08-50 以降の場合，日本語（マルチバイト文字）も使用できる。デフォルトでは何も指定されていない。
	Connection Mode	<PASSIVE>※5	リスト項目から「ACTIVE」または「PASSIVE」を選択し，接続モードを指定する。接続モードに対応したコネクション確立方法を次に示す。 ACTIVE モードの場合： FTP サーバから，ファイル転送用のコネクション要求を行う。 PASSIVE モードの場合： FTP プローブから，ファイル転送用のコネクション要求を行う。
TCP_[0-9]+	—	—	TCP サービスの計測に関するプロパティが格納されている。
	Hostname	<HOSTNAME>	TCP サーバのホスト名または IP アドレスを 255 バイト以内の半角文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
	Port	<PORT>	TCP サーバのポート番号を 1 ～ 65,535 の半角数字で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
WEBTRANS_[0-9]+	—	—	Web トランザクション計測に関するプロパティが格納されている。

フォルダ名※1	プロパティ名	XML タグ※2	説明
	Filename	<TRANSACTION_FILE>	Web トランザクションファイル名を指定する。デフォルトでは何も指定されていない。 **インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥webtrans に格納されている，拡張子が .xml のファイルを指定する。パスは含めない。大文字・小文字は区別されない。PFM - Web Console のバージョンが 08-50 以降の場合，日本語（マルチバイト文字）も使用できる。
	Transaction	<TRANSACTION_NAME>	Web トランザクション名を 255 バイト以内の文字列で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。「|（ストローク）」は使用できない。PFM - Web Console のバージョンが 08-50 以降の場合，日本語（マルチバイト文字）も使用できる。
USERSERV_[0-9]+	—	—	ユーザー定義サービスの計測に関するプロパティが格納されている。
	User Service ID	<USER_SERVICE_ID>	コマンド登録ファイルに登録した，ユーザー定義サービス ID を 1 ～ 100 の半角数字で指定する。デフォルトでは何も指定されていない。
IESCENA_[0-9]+	—	—	IE シナリオ計測に関するプロパティが格納されている。
	Filename	<IESCENA_FILE>	IE シナリオファイル名を指定する。 **インストール先フォルダ** ¥agtv¥probe¥iescena に格納されている，拡張子が .xml のファイルを指定する。パスは含めない。大文字・小文字は区別されない。PFM - Web Console のバージョンが 08-50 以降の場合，日本語（マルチバイト文字）も使用できる。

（凡例）

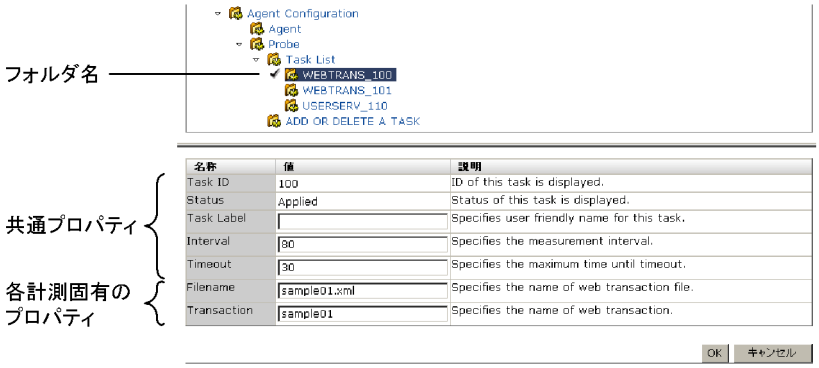
—：該当しない

注※ 1

「/Agent Configuration/Probe/Task List」フォルダ内のフォルダ名です。

「[0-9]+」はフォルダ名の該当個所に「一つ以上の数字」が入ることを指します。この数字は，タスク作成時にタスク ID として指定した数字です。

例えば，タスク ID が「100」の Web トランザクションの計測に関するプロパティは次のように表示されます。



注※ 2

計測条件登録ファイルで，プロパティの定義に使用しているタグです。

注※ 3

設定値が POST の場合，<POST> タグで定義されます。設定値が GET の場合，タグは省略されます。

注※ 4

設定値が No の場合，<NON_ACCEPT_OFFER> タグで定義されます。設定値が Yes の場合，タグは省略されます。

注※ 5

設定値が Passive の場合，<PASSIVE> タグで定義されます。設定値が Active の場合，タグは省略されます。

付録 F　ファイルおよびフォルダー一覧

ここでは，PFM - Agent for Service Response のファイルおよびフォルダ一覧を記載します。

Performance Management のインストール先フォルダは任意です。デフォルトのインストール先フォルダは次のとおりです。

Windows Server 2003 (x64)，64 ビット版の Windows Server 2008 の場合

システムドライブ ¥Program Files(x86)¥Hitachi¥jp1pc¥

上記以外の場合

システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥jp1pc¥

PFM - Agent for Service Response のファイルおよびフォルダ一覧を次の表に示します。

表 F-1　PFM - Agent for Service Response のファイルおよびフォルダー一覧

フォルダ名	ファイル名	説明
インストール先フォルダ ¥agtv¥	－	PFM - Agent for Service Response のルートフォルダ
	readme.txt	README.TXT（日本語）
	.	PFM - Agent for Service Response 各種ファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥agent¥	－	Agent Collector サービスのルートフォルダ
	jpcagt.ini	Agent Collector サービス設定ファイル
	jpcagt.ini.model	Agent Collector サービス設定ファイルのモデルファイル
	jpcagtv.exe	Agent Collector サービス実行プログラム
インストール先フォルダ ¥agtv¥agent¥log¥	－	Agent Collector サービス内部ログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥lib¥	－	メッセージカタログ格納フォルダ
	jpcagtvmsg.dll	PFM - Agent for Service Response メッセージカタログファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥	－	Probe Daemon および IE Probe Daemon サービスのルートフォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥bin¥	－	Probe Daemon のバイナリ・コマンド格納フォルダ
	esplastresult.exe	計測結果の参照コマンド
	esprobed.exe	Probe Daemon サービス実行プログラム

フォルダ名	ファイル名	説明
	esppasswd.exe	パスワードの登録・変更・削除コマンド
	espstatus.exe	Probe Daemon の状態確認コマンド
	espsvc.exe	Probe Daemon のサービスコマンド
	espwebrec.exe	Web Recorder
	jpcviemd.exe	IE プローブマスタデーモン
	jpcvieprobed.exe	IE プローブ計測用デーモン
	jpcvierec.exe	IE Recorder
	jpcviesvc.exe	IE Probe Daemon のサービスコマンド
	jpcviebrwsctrl.dll	IE 共通ブラウザコントロール
	jpcviectrl.dll	IE 共通ユーザーコントロール
	jpcvieopctrl.dll	IE 共通操作データコントロール
	jpcvieparts.dll	IE 共通マネージ部品ライブラリ
	jpcviexml.dll	IE 共通 XML 処理部品ライブラリ
	jpcvumcommon.dll	IE 共通ログ制御ライブラリ
	jpcvumiecom.dll	IE 共通 COM 処理ライブラリ
	jpcvumiehook.dll	IE 共通ダイアログ制御ライブラリ
	jpcvumiemsg.dll	IE 共通アンマネージ部品ライブラリ
	JpcvUmPrbPipe.dll	Collector / IE プローブ共通パイプ制御ライブラリ
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥cert¥	－	証明書格納フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥probe¥conf¥	－	定義ファイル格納フォルダ
	esp.conf	Probe 動作条件定義ファイル
	espras.conf	RAS 動作定義ファイル

フォルダ名	ファイル名	説明
	esptasklabel.conf	計測条件ラベル定義ファイル
	wr.conf	WebRecorder 動作条件定義ファイル
	jpcvieprobed.conf	IE Probe 動作条件定義ファイル
	jpcvierec.conf	IE Recorder 動作条件定義ファイル
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥log¥	－	ログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥passwd¥	－	パスワードファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥probedata¥	－	Probe Daemon 作業フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥probedata¥ftp¥	－	FTP 計測用一時ファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥probedata¥http¥	－	HTTP（S）計測用一時ファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥probedata¥webtrans¥	－	Web トランザクション計測時の HTML ファイル出力フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥probedata¥iescena¥	－	IE シナリオ計測時の HTML ファイル出力フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥probedata¥iescena¥ieprobed_計測条件 ID¥	－	計測条件別 IE シナリオ計測時の HTML ファイル出力フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥report¥	－	Probe Daemon のレポート格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥task¥	－	Probe Daemon の計測条件登録ファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥task¥esp¥	－	Probe Daemon の計測条件を格納するフォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥tmp¥	－	Probe Daemon の一時ファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥user¥	－	Probe Daemon のユーザー定義コマンド格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥usertools¥	－	Probe Daemon のサンプルファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥webtrans¥	－	Probe Daemon の Web トランザクションファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ¥agtv¥probe¥iescena¥	－	IE Probe Daemon の IE シナリオファイル格納フォルダ

フォルダ名	ファイル名	説明
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥	—	Agent Store サービスのルートフォルダ
	*.DB	パフォーマンスデータファイル
	*.IDX	パフォーマンスデータファイルのインデックスファイル
	*.LCK	パフォーマンスデータファイルのロックファイル
	jpcsto.ini	Agent Store サービス設定ファイル
	jpcsto.ini.model	Agent Store サービス設定ファイルのモデルファイル
	*.DAT	データモデル定義ファイル
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥backup¥	—	標準のデータベースバックアップ先フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥partial¥	—	標準のデータベースの部分バックアップ先フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥dump¥	—	標準のデータベースエクスポート先フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥import¥	—	標準のデータベースインポート先フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥log¥	—	Agent Store サービス内部ログファイル格納フォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥STPD¥	—	PD データベース固有のフォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥STPI¥	—	PI データベース固有のフォルダ
インストール先フォルダ ¥agtv¥store¥STPL¥	—	PL データベース固有のフォルダ
インストール先フォルダ ¥auditlog¥	—	動作ログファイルの標準の出力フォルダ
	jpcauditn.log※	動作ログファイル
インストール先フォルダ ¥setup¥	—	セットアップファイル格納フォルダ
	jpcagtvu.Z	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル（UNIX）
	jpcagtvw.EXE	PFM - Agent セットアップ用アーカイブファイル（Windows）
インストール先フォルダ ¥setup¥alarm¥	—	アラームテーブル復旧用格納フォルダ
インストール先フォルダ ¥setup¥extract¥	—	セットアップファイル展開フォルダ

フォルダ名	ファイル名	説明
システムドライブ ¥Program Files¥Hitachi¥HNTRLib2¥spool¥	－	統合トレースログフォルダ

（凡例）

－：該当しない

注※

n は数値です。ログファイル数は，jpccomm.ini ファイルで変更できます。

付録 G　移行手順と移行時の注意事項

PFM - Agent for Service Response をバージョンアップするには，PFM - Agent for Service Response を上書きインストールします。インストールの操作の詳細については，「2.　インストールとセットアップ」を参照してください。

注意

- バージョンアップする際には，古いバージョンの PFM - Agent for Service Response をアンインストールしないでください。アンインストールすると，古いバージョンで作成したパフォーマンスデータなども一緒に削除されてしまうため，新しいバージョンで使用できなくなります。
- PFM - Agent for Service Response を上書きインストールすると，次の項目が自動的に更新されます。
  ・Agent Store サービスの Store データベースファイル
  ・ini ファイル
- クラスタシステムの運用中に PFM - Agent for Service Response 08-00 をバージョンアップする場合，共有ディスク上に計測条件登録ファイルをコピーしておく必要があります。詳細については，「5.3.4　セットアップ」を参照してください。

付録 H　バージョン互換

PFM - Agent には，製品のバージョンのほかに，データモデルのバージョンがあります。

データモデルは，上位互換を保っているため，古いバージョンで定義したレポートの定義やアラームの定義は，新しいバージョンのデータモデルでも使用できます。

PFM - Agent for Service Response のバージョンの対応を次の表に示します。

表 H-1　PFM - Agent for Service Response のバージョン対応表

PFM - Agent for Service Response のバージョン	データモデルのバージョン	監視テンプレートのアラームテーブルのバージョン
08-00	4.0	8.00
08-50	4.0	8.00
09-00	5.0	09.00

PFM - Agent for Service Response の場合，PFM - Web Console の画面の［アラーム階層］に，使用中の Performance Management システムにはないバージョンのアラームテーブルが表示されることがあります。Performance Management システムで使用しているアラームテーブルのバージョンおよびバージョンの互換性をご確認の上，使用してください。

バージョン互換については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，付録に記載されているバージョン互換を参照してください。

付録 I　動作ログの出力

Performance Management の動作ログとは，システム負荷などのしきい値オーバーに関するアラーム機能と連動して出力される履歴情報です。

例えば，PFM サービスの起動・停止時や，PFM - Manager との接続状態の変更時に動作ログに出力されます。

動作ログは，PFM - Manager または PFM - Base が 08-10 以降の場合に出力できます。

動作ログは，CSV 形式で出力されるテキストファイルです。定期的に保存して表計算ソフトで加工することで，分析資料として利用できます。

動作ログは，jpccomm.ini の設定によって出力されるようになります。ここでは，PFM - Agent および PFM - Base が出力する動作ログの出力内容と，動作ログを出力するための設定方法について説明します。

付録 I.1　動作ログに出力される事象の種別

動作ログに出力される事象の種別および PFM - Agent および PFM - Base が動作ログを出力する契機を次の表に示します。事象の種別とは，動作ログに出力される事象を分類するための，動作ログ内での識別子です。

表 I-1　動作ログに出力される事象の種別

事象の種別	説明	PFM - Agent および PFM - Base が出力する契機
StartStop	ソフトウェアの起動と終了を示す事象。	• PFM サービスの起動・停止 • スタンドアロンモードの開始・終了
ExternalService	JP1 製品と外部サービスとの通信結果を示す事象。 異常な通信の発生を示す事象。	PFM - Manager との接続状態の変更
ManagementAction	プログラムの重要なアクションの実行を示す事象。 ほかの監査カテゴリーを契機にアクションが実行されたことを示す事象。	自動アクションの実行

付録 I.2　動作ログの保存形式

ここでは，動作ログのファイル保存形式について説明します。

動作ログは規定のファイル（カレント出力ファイル）に出力され，満杯になった動作ログは別のファイル（シフトファイル）として保存されます。動作ログのファイル切り替えの流れは次のとおりです。

1. 動作ログは，カレント出力ファイル「jpcaudit.log」に順次出力されます。
2. カレント出力ファイルが満杯になると，その動作ログはシフトファイルとして保存さ

れます。
シフトファイル名は，カレント出力ファイル名の末尾に数値を付加した名称です。シフトファイル名は，カレント出力ファイルが満杯になるたびにそれぞれ「**ファイル名末尾の数値** +1」へ変更されます。つまり，ファイル末尾の数値が大きいほど，古いログファイルとなります。

例

カレント出力ファイル「jpcaudit.log」が満杯になると，その内容はシフトファイル「jpcaudit1.log」へ保管されます。
カレント出力ファイルが再び満杯になると，そのログは「jpcaudit1.log」へ移され，既存のシフトファイル「jpcaudit1.log」は「jpcaudit2.log」へリネームされます。

なお，ログファイル数が保存面数（jpccomm.ini ファイルで指定）を超えると，いちばん古いログファイルから削除されます。

3. カレント出力ファイルが初期化され，新たな動作ログが書き込まれます。

動作ログの出力要否，出力先および保存面数は，jpccomm.ini ファイルで設定します。jpccomm.ini ファイルの設定方法については，「付録 I.4　動作ログを出力するための設定」を参照してください。

付録 I.3　動作ログの出力形式

Performance Management の動作ログには，監査事象に関する情報が出力されます。動作ログは，ホストごとに 1 ファイル出力されます。動作ログの出力先ホストは次のようになります。

- サービスを実行した場合：実行元サービスが動作するホストに出力
- コマンドを実行した場合：コマンドを実行したホストに出力

動作ログの出力形式，出力先，出力項目について次に説明します。

（1）出力形式

```
CALFHM x.x,出力項目1=値1,出力項目2=値2,…,出力項目n=値n
```

（2）出力先

インストール先フォルダ ¥auditlog¥

動作ログの出力先は，jpccomm.ini ファイルで変更できます。jpccomm.ini ファイルの設定方法については，「付録 I.4　動作ログを出力するための設定」を参照してください。

（3）出力項目

出力項目には二つの分類があります。

● 共通出力項目
動作ログを出力する JP1 製品が共通して出力する項目です。

● 固有出力項目
動作ログを出力する JP1 製品が任意に出力する項目です。

(a) 共通出力項目

共通出力項目に出力される値と項目の内容を次の表に示します。なお，この表は PFM - Manager が出力する項目や内容も含みます。

表 I-2　動作ログの共通出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	共通仕様識別子	—	CALFHM	動作ログフォーマットであることを示す識別子
2	共通仕様リビジョン番号	—	x.x	動作ログを管理するためのリビジョン番号
3	通番	seqnum	**通し番号**	動作ログレコードの通し番号
4	メッセージ ID	msgid	KAVExxxxx-x	製品のメッセージ ID
5	日付・時刻	date	YYYY-MM-DDThh:mm:ss.sssTZD ※	動作ログの出力日時およびタイムゾーン
6	発生プログラム名	progid	JP1PFM	事象が発生したプログラムのプログラム名
7	発生コンポーネント名	compid	**サービス** ID	事象が発生したコンポーネント名
8	発生プロセス ID	pid	**プロセス** ID	事象が発生したプロセスのプロセス ID
9	発生場所	ocp:host	• **ホスト名** • IP **アドレス**	事象が発生した場所
10	事象の種別	ctgry	• StartStop • Authentication • ConfigurationAccess • ExternalService • AnomalyEvent • ManagementAction	動作ログに出力される事象を分類するためのカテゴリー名
11	事象の結果	result	• Success（成功） • Failure（失敗） • Occurrence（発生）	事象の結果

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
12	サブジェクト識別情報	subj:pid	**プロセス** ID	次のどれかの情報 • ユーザー操作によって動作するプロセス ID • 事象を発生させたプロセス ID • 事象を発生させたユーザー名 • ユーザーに 1：1 で対応づけられた識別情報
		subj:uid	**アカウント識別子**（PFM ユーザー /JP1 ユーザー）	
		subj:euid	**実効ユーザー** ID（OS ユーザー）	

（凡例）

－：なし。

注※

T は日付と時刻の区切りです。

TZD はタイムゾーン指定子です。次のどれかが出力されます。

+hh:mm：UTC から hh:mm だけ進んでいることを示す。

-hh:mm：UTC から hh:mm だけ遅れていることを示す。

Z：UTC と同じであることを示す。

(b) 固有出力項目

固有出力項目に出力される値と項目の内容を次の表に示します。なお，この表は PFM - Manager が出力する項目や内容も含みます。

表 I-3　動作ログの固有出力項目

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
1	オブジェクト情報	obj	• PFM - Agent **のサービス** ID • **追加，削除，更新された ユーザー名**（PFM ユーザー）	操作の対象
		obj:table	**アラームテーブル名**	
		obj:alarm	**アラーム名**	

項番	出力項目		値	内容
	項目名	出力される属性名		
2	動作情報	op	• Start（起動） • Stop（停止） • Add（追加） • Update（更新） • Delete（削除） • Change Password（パスワード変更） • Activate（有効化） • Inactivate（無効化） • Bind（バインド） • Unbind（アンバインド）	事象を発生させた動作情報
3	権限情報	auth	• 管理者ユーザー Management • 一般ユーザー Ordinary • Windows Administrator • UNIX SuperUser	操作したユーザーの権限情報
		auth:mode	• PFM 認証モード pfm • JP1 認証モード jp1 • OS ユーザー os	操作したユーザーの認証モード
4	出力元の場所	outp:host	PFM - Manager **のホスト名**	動作ログの出力元のホスト
5	指示元の場所	subjp:host	• **ログイン元ホスト名** • **実行ホスト名**（jpctool alarm（jpcalarm）コマンド実行時だけ）	操作の指示元のホスト
6	自由記述	msg	**メッセージ**	アラーム発生時，および自動アクションの実行時に出力されるメッセージ

固有出力項目は，出力契機ごとに出力項目の有無や内容が異なります。出力契機ごとに，メッセージ ID と固有出力項目の内容を次に説明します。

● PFM **サービスの起動・停止**（StartStop）

- 出力ホスト：該当するサービスが動作しているホスト
- 出力コンポーネント：起動・停止を実行する各サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	起動：KAVE03000-I 停止：KAVE03001-I
動作情報	op	起動：Start 停止：Stop

● スタンドアロンモードの開始・終了（StartStop）

- 出力ホスト：PFM - Agent ホスト
- 出力コンポーネント：Agent Collector サービス，Agent Store サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	スタンドアロンモードを開始：KAVE03002-I スタンドアロンモードを終了：KAVE03003-I

注 1　固有出力項目は出力されない。

注 2　PFM - Agent の各サービスは，起動時に PFM - Manager ホストに接続し，ノード情報の登録，最新のアラーム定義情報の取得などを行う。PFM - Manager ホストに接続できない場合，稼働情報の収集など一部の機能だけが有効な状態（スタンドアロンモード）で起動する。その際，スタンドアロンモードで起動することを示すため，KAVE03002-I が出力される。その後，一定期間ごとに PFM - Manager への再接続を試み，ノード情報の登録，定義情報の取得などに成功すると，スタンドアロンモードから回復し，KAVE03003-I が出力される。この動作ログによって，KAVE03002-I と KAVE03003-I が出力されている間は，PFM - Agent が不完全な状態で起動していることを知ることができる。

● PFM - Manager との接続状態の変更（ExternalService）

- 出力ホスト：PFM - Agent ホスト
- 出力コンポーネント：Agent Collector サービス，Agent Store サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	PFM - Manager へのイベントの送信に失敗（キューイングを開始）：KAVE03300-I PFM - Manager へのイベントの再送が完了：KAVE03301-I

注 1　固有出力項目は出力されない。

注 2　Agent Store サービスは，PFM - Manager へのイベント送信に失敗すると，イベントのキューイングを開始し，以降はイベントごとに最大 3 件がキューにためられる。KAVE03300-I は，イベント送信に失敗し，キューイングを開始した時点で出力される。PFM - Manager との接続が回復したあと，キューイングされたイベントの送信が完了した時点で，KAVE03301-I が出力される。この動作ログによって，KAVE03300-I と KAVE03301-I が出力されている間は，PFM - Manager へのイベント送信がリアルタイムでできていなかった期間と知ることができる。

注 3　Agent Collector サービスは，通常，Agent Store サービスを経由して PFM - Manager にイベントを送信する。何らかの理由で Agent Store サービスが停止している場合だけ，直接 PFM - Manager にイベントを送信するが，失敗した場合に KAVE03300-I が出力される。この場合，キューイングを開始しないため，KAVE03301-I は出力されない。この動作ログによって，PFM -

Manager に送信されなかったイベントがあることを知ることができる。

● 自動アクションの実行（ManagementAction）

- 出力ホスト：アクションを実行したホスト
- 出力コンポーネント：Action Handler サービス

項目名	属性名	値
メッセージ ID	msgid	コマンド実行プロセス生成に成功：KAVE03500-I コマンド実行プロセス生成に失敗：KAVE03501-W E-mail 送信に成功：KAVE03502-I E-mail 送信に失敗：KAVE03503-W
自由記述	msg	コマンド実行：cmd= **実行したコマンドライン** E-mail 送信：mailto= **送信先メールアドレス**

注　コマンド実行プロセスの生成に成功した時点で KAVE03500-I が出力される。その後，コマンドが実行できたかどうかのログ，および実行結果のログは，動作ログには出力されない。

（4） 出力例

動作ログの出力例を次に示します。

```
CALFHM 1.0, seqnum=1, msgid=KAVE03000-I,
date=2007-01-18T22:46:49.682+09:00,
progid=JP1PFM, compid=TA1host01, pid=2076,
ocp:host=host01, ctgry=StartStop, result=Occurrence,
subj:pid=2076,op=Start
```

付録 I.4　動作ログを出力するための設定

動作ログを出力するための設定は，jpccomm.ini ファイルで定義します。設定しない場合，動作ログは出力されません。動作ログを出力するための設定内容とその手順について次に示します。

（1） 設定手順

動作ログを出力するための設定手順を次に示します。

1. ホスト上の全 PFM サービスを停止させる。
2. テキストエディターなどで，jpccomm.ini ファイルを編集する。
3. jpccomm.ini ファイルを保存して閉じる。

（2） jpccomm.ini ファイルの詳細

jpccomm.ini ファイルの詳細について説明します。

(a) 格納先フォルダ

インストール先フォルダ

(b) 形式

jpccomm.ini ファイルには，次の内容を定義します。

- 動作ログの出力の有無
- 動作ログの出力先
- 動作ログの保存面数
- 動作ログのファイルサイズ

指定形式は次のとおりです。

" 項目名 "= 値

設定項目を次の表に示します。

表 I-4　jpccomm.ini ファイルで設定する項目および初期値

項番	項目	説明
1	[Action Log Section]	セクション名です。変更はできません。
2	Action Log Mode	動作ログを出力するかどうかを指定します。この項目の設定は省略できません。 • 初期値 0（出力しない） • 指定できる値 0（出力しない），1（出力する） これ以外の値を指定すると，エラーメッセージが出力され，動作ログは出力されません。
3	Action Log Dir	動作ログの出力先を指定します。 制限長を超えるパスを設定した場合や，フォルダへのアクセスが失敗した場合は，共通ログにエラーメッセージが出力され，動作ログは出力されません。 • 初期値 省略 • 省略した場合に適用される値（デフォルト値） **インストール先フォルダ** ¥auditlog¥ • 初期値 **インストール先フォルダ** ¥auditlog¥ • 指定できる値 1 ～ 185 バイトの文字列
4	Action Log Num	ログファイルの総数の上限（保存面数）を指定します。カレント出力ファイルとシフトファイルの合計を指定してください。 • 初期値 省略 • 省略した場合に適用される値（デフォルト値） 5 • 指定できる値 2 ～ 10 の整数 数値以外の文字列を指定した場合，エラーメッセージが出力され，デフォルト値である 5 が設定されます。 範囲外の数値を指定した場合，エラーメッセージを出力し，指定値に最も近い 2 ～ 10 の整数値が設定されます。

項番	項目	説明
5	Action Log Size	ログファイルのサイズをキロバイト単位で指定します。 • 初期値 省略 • 省略した場合に適用される値（デフォルト値） 2048 • 指定できる値 512 ～ 2096128 の整数 数値以外の文字列を指定した場合，エラーメッセージが出力され，デフォルト値である 2048 が設定されます。 範囲外の数値を指定した場合，エラーメッセージが出力され，指定値に最も近い 512 ～ 2096128 の整数値が設定されます。

付録 J　IE シナリオの計測と Web トランザクションの計測の相違点

IE シナリオの計測と Web トランザクションの計測の相違点を次の表に示します。

表 J-1　IE シナリオの計測と Web トランザクションの計測の相違点

項目	IE シナリオ	Web トランザクション
計測できる応答性能	Internet Explorer で操作を実行してから動作が完了するまでの時間を応答性能として計測できます。Internet Explorer を使用しているときに体感する時間に近い時間を応答性能として計測できます。	HTTP(S)，DNS などのサービスの通信処理にかかる時間を応答性能として計測できます。
パスワードの管理	IE シナリオ定義ファイルで管理します。	Web トランザクションファイルとは別に，パスワードファイルで管理します。
スコープ定義	Internet Explorer の操作を単位として定義します。	リクエスト・レスポンスのステップを単位として定義します。
レスポンス判定	条件をニつまで組み合わせて設定できます。	三つ以上の条件を組み合わせても設定できます。
埋め込みリソースの取得	Internet Explorer が自動的に取得します。	取得するかどうかを Web トランザクションファイルで定義する必要があります。
動的セッション管理対応	Internet Explorer が自動的に処理します。	動的に変化する情報を判断して，Web トランザクションファイルで定義する必要があります。
文字セットの指定	Internet Explorer が自動的に処理します。	Web トランザクションファイルで定義する必要があります。

付録 K　各バージョンの変更内容

付録 K.1　09-00 の変更内容

- 「ソリューションセット」の名称を「監視テンプレート」に変更しました。
- 監視テンプレートのアラームテーブルのバージョンを追加しました。
- データモデルのバージョン互換について追加しました。
- 08-51 以前のコマンドと互換性を持つ新形式のコマンドが追加されたことに伴い，コマンドを次のように表記しました。
  09-00 以降のコマンド（**08-51 以前のコマンド**）
- PFM - Agent for Service Response が動作する OS および監視対象プログラムに次の OS を追加しました。
  - Windows Server 2008
- IE Probe Daemon を使って IE シナリオを測定する機能を追加しました。
- Product Log レコードタイプのレコードを収集する機能を追加しました。
- 計測条件登録ファイルについて，クラスタシステムの運用中にバージョンアップする際の注意事項を追加しました。
- 次の監視テンプレート（アラーム）を追加しました。
  - IES Failure
  - IES Replay Time
- 次の監視テンプレート（レポート）を追加しました。
  - IE Scenario Detail
  - IE Scenario Logged Message
  - IE Scenario Replay Time Status
  - IE Scenario Replay Time Status（リアルタイムレポート）
  - IE Scenario Replay Time Summary
  - IE Scenario Replay Time Trend
  - IE Scenario Scope Detail
  - IE Scenario Scope Rate
  - IE Scenario Top 10
- 次のレコードを追加しました。
  - IE Scenario（PI_IES）
  - IE Scenario Overview（PI_IESO）
  - Logged Message for IE Scenario（PL_IESM）
- 次のメッセージを追加しました。
  KAVK38815-E，KAVK38816-E，KAVK10103-E ～ KAVK10106-E，KAVK08500-E

～ KAVK08514-E

付録 K.2　08-50 の変更内容

- 計測条件を PFM - Web Console から設定できるようにしました。
- 動的セッション管理を行っているサイトを Web トランザクション計測できるようにしました。
- Web トランザクション計測で文字セットを指定できるようにしました。
- URL で区切り文字として扱われる文字が代替文字列に含まれる場合でも，URL エンコードできるようにしました。
- パフォーマンスの監視例に関する説明を追加しました。
- ステータス管理機能についての注意を追加しました。
- バージョンアップについての注意を追加しました。
- 動作ログを出力する機能を追加しました。
- セットアップ時に，PFM - Manager および PFM - Web Console へ PFM - Agent for Service Response が自動的に登録されるようにしました。
- Store バージョン 2.0 を使用できるようにしました。
- 部分的に格納されないパフォーマンスデータを補間できるようにしました。
- タスクのラベル名を計測条件登録ファイル（esptask.xml）から指定できるようにしました。
- 次のソリューションセット（レポート）を追加しました。
  FTP Rate，FTP Top 10，HTTP Rate，HTTP Top 10，HTTPS Rate，HTTPS Top 10，IMAP4 Rate，IMAP4 Top 10，POP3 Rate，POP3 Top 10，SMTP Rate，SMTP Top 10
- 共通フィールドのリザルトコード「ネットワークエラー」の説明を変更しました。
- 次のレコードで使用する HTTP バージョンを記載しました。
  - HTTP（PI_HTP）
  - Web Transaction（PI_WT）
- 次のレコードに，Internet Explorer 6.0 を使用したクライアント証明書と秘密鍵の取得方法を記載しました。
  HTTPS（PI_HTPS）
- 次のメッセージを追加しました。
  KAVF16020-W ～ KAVF16024-W，KAVK08317-W ～ KAVK08321-E，KAVK37242-E ～ KAVK37244-E，KAVK37850-E ～ KAVK37875-E
- 次のメッセージを削除しました。

KAVF16019-E

- 次のメッセージを変更しました。
  KAVK08176-E
- JP1/Performance Management - Manager で，運用中に異常停止となった PFM サービスを自動的に再起動できる機能が追加されたことに伴い，プロパティを追加しました。
- 古いバージョンからの移行時の注意事項を追加しました。
- バージョン互換に関する説明を追加しました。

付録 L （3020-3-R51-01）の変更内容

3020-3-R51-01 の変更内容を次の表に示します。

表 L-1 （3020-3-R51-01）の変更内容

項番	変更個所	追加・変更内容
1	全体	Windows Server 2003 (x64) および Windows Server 2008 (x64) を追加した。
2	全体	Windows Internet Explorer 8 を追加した。
3	1.1.1	HTTPS の注釈を削除した。
4	1.4.3	操作手順に注釈を追加した。
5	3.7	計測条件登録ファイル（esptask.xml）を直接編集する運用と PFM - Web Console から定義する運用を併用する場合の注意事項に注釈を追加した。
6	4.1	PFM - Agent for Service Response のサービス一覧に，サービス名「Extensible Service IE Probe」を追加した。
7	4.1	Windows サービスからの IE プローブの起動と終了についての説明を追加した。
8	4.2.3	IE シナリオの記録・再生に関する注意事項の説明を変更した。
9	4.2.3	IE シナリオの記録・再生に関する注意事項を追加した。
10	5.3.2	インストールとセットアップ時の項目を追加した。
11	5.3.4	セットアップの項目，セットアップ時の操作手順および注意事項を追加した。
12	5.5.2	PFM - Agent for Service Response 用定義ファイルの変更を追加した。
13	5.6	クラスタシステムで運用する場合の注意事項を追加した。
14	6.2.1	ナビゲーションおよびユーザー定義操作の説明を変更した。
15	6.2.1	Internet Explorer のウィンドウがアクティブな状態のときに使用できない IE Recorder のアクセラレータキーについて，説明を追加した。
16	6.3.8	［可変文字列の設定］画面の［文字列生成コマンドから取得］に，注意事項を追加した。
17	7.2	Probe 動作条件定義ファイルに，ie_service_flag および disable_ssl_protocol を追加した。
18	9. 共通フィールド	リザルトコードの説明に例を追加した。
19	11.2，11.4	次のメッセージを追記した。 KAVF16029-I ～ KAVF16033-W，KAVK08500-E ～ KAVK08514-E，KAVK10007-E，KAVK10103-E ～ KAVK10106-E，KAVK38700-E，KAVK38759-E，KAVK38815-E，KAVK38816-E

項番	変更個所	追加・変更内容
20	11.2，11.4	次のメッセージを削除した。 KAVK11000-I，KAVK11002-I，KAVK38600-E
21	12.2.1	Performance Management シリーズプログラムのサービスが起動しない場合のトラブルシューティングに，考えられる要因と対処を追記した。
22	12.3.2	統合トレースログに，IE Probe Daemon を追加した。
23	付録 D.3	ファイアウォール /NAT を挟んだ計測を行う時の注意事項を追加した。
24	付録 E.2	Agent Collector サービスのプロパティ一覧の Log Records フォルダのプロパティの説明を修正した。

付録 M　用語解説

(英字)

Action Handler

PFM - Manager または PFM - Agent のサービスの一つです。アクションを実行するサービスのことです。

Agent Collector

PFM - Agent のサービスの一つです。パフォーマンスデータを収集したり，アラームに設定されたしきい値で，パフォーマンスデータを評価したりするサービスのことです。

Agent Store

PFM - Agent のサービスの一つです。パフォーマンスデータを格納するサービスのことです。Agent Store サービスは，パフォーマンスデータの記録のためにデータベースを使用します。各 PFM - Agent に対応して，各 Agent Store サービスがあります。

Correlator

PFM - Manager のサービスの一つです。サービス間のイベント配信を制御するサービスのことです。アラームの状態を評価して，しきい値を超過するとアラームを Trap Generator サービスおよび PFM - Web Console に送信します。

IE Probe Daemon

Internet Explorer の操作の応答を計測するプロセスです。

IE Recorder

IE シナリオ情報および計測条件を定義するための GUI です。

IE Recorder 動作条件定義ファイル

IE Recorder の動作条件を設定したファイルです。IE Recorder の起動時に読み込まれます。

IE シナリオ

応答性能の計測対象として定義する Internet Explorer の操作です。1 回の操作だけでなく，複数の操作から成る一連の作業も IE シナリオとして定義できます。

IE シナリオ計測

Internet Explorer で操作を実行してから Web ページの表示が完了するまでの時間を取得し，Internet Explorer を使用しているときに体感するインターネットサービスの応答性能を計測できます。IE シナリオ計測をする場合は，IE シナリオファイルを作成して IE シナリオ情報を定義し，その内容に従って Internet Explorer の応答時間を計測します。IE シナリオの再生・計測は，Internet Explorer の 1 回の操作だけでなく，連続した操作をシミュレーションして行われます。IE シナリオ計測では，IE シナリオ全体の計測のほか，任意のページ遷移の応答性能や，IE シナリオ計測中の応答内容をチェックして計測対象の異常検知などもできます。

IE シナリオファイル

IE シナリオを計測する場合に，Internet Explorer で実行した操作情報を IE シナリオとして定義するファイルです。IE Probe Daemon の起動時に読み込まれます。

IE プローブ

計測を実行する機能（Internet Explorer の操作の応答性能を測定する機能）です。

IE プローブ制御サービス

IE Probe Daemon を管理するサービスプロセスです。

Master Manager

PFM - Manager のサービスの一つです。PFM - Manager のメインサービスのことです。

Master Store

PFM - Manager のサービスの一つです。各 PFM - Agent から発行されたアラームイベントを管理するサービスのことです。Master Store サービスはイベントデータの保持のためにデータベースを使用します。

Name Server

PFM - Manager のサービスの一つです。システム内のサービス構成情報を管理するサービスのことです。

ODBC キーフィールド

PFM - Manager で，SQL を使用して Store データベースに格納されているレコードのデータを利用する場合に必要な ODBC キーフィールドを示します。ODBC キーフィールドには，各レコード共通のものと各レコード固有のものとがあります。

PD レコードタイプ

→「Product Detail レコードタイプ」

Performance Management

システムのパフォーマンスに関する問題を監視および分析するために必要なソフトウェア群の総称です。Performance Management は，次の五つのプログラムプロダクトで構成されます。

- PFM - Manager
- PFM - Web Console
- PFM - Base
- PFM - Agent
- PFM - RM

PFM - Agent

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの一つです。PFM - Agent は，システム監視機能に相当し，監視対象となるアプリケーション，データベース，OS によって，各種の PFM - Agent があります。PFM - Agent には，次の機能があります。

- 監視対象のパフォーマンスの監視
- 監視対象のデータの収集および記録

PFM - Base

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの一つです。Performance Management の稼働監視を行うための基盤機能を提供します。PFM - Agent を動作させるための前提製品です。PFM - Base には，次の機能があります。

- 各種コマンドなどの管理ツール
- Performance Management と他システムとの連携に必要となる共通機能

PFM - Manager

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの一つです。PFM - Manager は，マネージャー機能に相当し，次の機能があります。

- Performance Management のプログラムプロダクトの管理
- イベントの管理

PFM - Manager 名

Store データベースに格納されているフィールドを識別するための名称です。コマンドでフィールドを指定する場合などに使用します。

PFM - View 名

PFM - Manager 名の別名です。PFM - Manager 名に比べ，より直感的な名称になっています。例えば，PFM - Manager 名の「INPUT_RECORD_TYPE」は，PFM - View 名では「Record Type」です。PFM - Web Console の GUI 上でフィールドを指定する場合などに使用します。

PFM - Web Console

Performance Management を構成するプログラムプロダクトの一つです。ブラウザーで Performance Management システムを一元的に監視するため Web アプリケーションサーバの機能を提供します。PFM - Web Console には，次の機能があります。

- GUI の表示
- 統合監視および管理機能
- レポートの定義およびアラームの定義

PI レコードタイプ

→「Product Interval レコードタイプ」

PL レコードタイプ

→「Product Log レコードタイプ」

Probe Daemon

サービスの応答を計測するサービスです。

Probe 動作条件定義ファイル（esp.conf）

Probe Daemon の起動オプションを設定したファイルです。Probe Daemon の起動時に読み込まれます。Probe 動作条件定義ファイルには，プローブの計測多重度，レポートファイルのサイズ上限などの，起動オプションの設定などがあります。

Product Detail レコードタイプ

現在起動しているプロセスの詳細情報など，ある時点でのシステムの状態を示すパフォーマンスデータが格納されるレコードタイプのことです。PD レコードタイプは，次のような，ある時点での

システムの状態を知りたい場合に使用します。
- システムの稼働状況
- 現在使用しているファイルシステム容量

Product Interval レコードタイプ

1 分ごとのプロセス数など，ある一定の時間（インターバル）ごとのパフォーマンスデータが格納されるレコードタイプのことです。PI レコードタイプは，次のような，時間の経過に伴うシステムの状態の変化や傾向を分析したい場合に使用します。
- 一定時間内に発生したシステムコール数の推移
- 使用しているファイルシステム容量の推移

Product Log レコードタイプ

UNIX 上で実行されているアプリケーションまたはデータベースのログ情報が格納されるレコードタイプのことです。

Store データベース

Agent Collector サービスが収集したパフォーマンスデータが格納されるデータベースのことです。

Trap Generator

PFM - Manager のサービスの一つです。SNMP トラップを発行するサービスのことです。

Web Recorder

Web トランザクション情報および計測条件を定義するための GUI です。

Web Recorder 動作条件定義ファイル

Web Recorder の動作条件を設定したファイルです。Web Recorder の起動時に読み込まれます。

Web トランザクション計測

HTTP(S) サービスの計測については，1 回のリクエスト・レスポンスの計測だけでなく複数の HTTP(S) のリクエスト・レスポンスから成るトランザクションを計測できます。Web トランザクション計測をする場合は，Web トランザクションファイルを作成して Web トランザクション情報を定義し，その内容に従って HTTP(S) リクエストを発行して応答時間などを計測します。トランザクションの再生・計測は，Internet Explorer などのブラウザーソフトでの連続した操作をシミュレーションして行われます。Web トランザクション計測では，Web トランザクション全体の計測のほか，任意のページ遷移の応答性能や，トランザクション計測中の応答内容をチェックして計測対象の異常検知などもできます。

Web トランザクションファイル

Web トランザクション計測をする場合に，計測対象となる Web トランザクションのアクセス先の URL，Web 認証，プロキシなどの情報を定義するファイルです。Probe Daemon の起動時に読み込まれます。

（ア行）

アクション

監視するデータがしきい値に達した場合に，Performance Management によって自動的に実行され

る動作のことです。次の動作があります。
- E メールの送信
- コマンドの実行
- SNMP トラップの発行
- JP1 イベントの発行

アラーム
監視するデータがしきい値に達した場合のアクションやイベントメッセージを定義した情報のことです。

アラームテーブル
次の情報を定義した一つ以上のアラームをまとめたテーブルです。
- 監視するオブジェクト（Process，TCP，WebService など）
- 監視する情報（CPU 使用率，1 秒ごとの受信バイト数など）
- 監視する条件（しきい値）

インスタンス
このマニュアルでは，インスタンスという用語を次のように使用しています。
- レコードの記録形式を示す場合
  1 行で記録されるレコードを「単数インスタンスレコード」，複数行で記録されるレコードを「複数インスタンスレコード」，レコード中の各行を「インスタンス」と呼びます。
- PFM - Agent の起動方式を示す場合
  同一ホスト上の監視対象を一つのエージェントで監視する方式のエージェントを「シングルインスタンスエージェント」と呼びます。これに対して監視対象がマルチインスタンスをサポートする場合，監視対象のインスタンスごとにエージェントで監視する方式のエージェントを「マルチインスタンスエージェント」と呼びます。マルチインスタンスエージェントの各エージェントを「インスタンス」と呼びます。

エージェント
パフォーマンスデータを収集する PFM - Agent のサービスのことです。

エポック秒
GMT（世界標準時）の 1970 年 1 月 1 日 0 時 0 秒からの秒数を表した値です。

（カ行）

監視テンプレート
PFM - Agent に用意されている，定義済みのアラームとレポートのことです。監視テンプレートを使用することで，複雑な定義をしなくても PFM - Agent の運用状況を監視する準備が容易にできるようになります。

管理ツール
サービスの状態の確認やパフォーマンスデータを操作するために使用する各種のコマンドまたは GUI 上の機能のことです。次のことができます。
- サービスの構成および状態の表示
- パフォーマンスデータの退避および回復

- パフォーマンスデータのテキストファイルへのエクスポート
- パフォーマンスデータの消去

計測条件 ID

計測条件に対し，一意の番号を付けて管理する ID です。計測条件の識別子になるため，重複しないように設定します。同じ計測条件であっても，異なる計測条件 ID を付けることで，別の計測条件として登録できます。

計測条件登録ファイル（esptask.xml）

計測対象サービスタイプやホスト名，計測間隔などの計測条件を登録するファイルです。Probe Daemon の起動時に読み込まれます。

計測条件ラベル定義ファイル（esptasklabel.conf）

各インターネットサービスの計測条件に任意のラベル名を定義するファイルです。

コマンド登録ファイル（espcommand.xml）

作成したユーザー定義コマンドを登録するファイルです。Probe Daemon の起動時に読み込まれます。ユーザー定義サービスの計測をする場合のサービス固有条件は，コマンドの引数として，コマンド登録ファイルに登録します。

（サ行）

サービス ID

Performance Management プログラムのサービスに付加された，一意の ID のことです。コマンドを使用して Performance Management のシステム構成を確認する場合，または個々のエージェントのパフォーマンスデータをバックアップする場合などは，Performance Management プログラムのサービス ID を指定してコマンドを実行します。サービス ID の形式は，プロダクト名表示機能の設定によって異なります。サービス ID の形式については，マニュアル「JP1/Performance Management 設計・構築ガイド」の，Performance Management の機能について説明している章を参照してください。

サービスタイプ

PFM - Agent for Service Response がサポートしているインターネットサービスおよびユーザー定義サービスの種類を示す番号です。

スタンドアロンモード

PFM - Agent 単独で起動している状態のことです。PFM - Manager の Master Manager サービスおよび Name Server サービスが，障害などのため起動できない状態でも，PFM - Agent だけを起動して，パフォーマンスデータを収集できます。

ステータス管理機能

PFM - Manager および PFM - Agent 上で動作するすべてのサービスの状態を管理する機能です。ステータス管理機能を用いると，システム管理者は各ホストでのサービスの起動や停止などの状態を正しく把握できるため，障害復旧のための適切な対処を迅速に行うことができます。

（タ行）

タスク
計測条件のことです。

タスク ID
計測条件 ID のことです。
→「計測条件 ID」を参照してください。

単数インスタンスレコード
1 行で記録されるレコードです。このレコードは，固有の ODBC キーフィールドを持ちません。
→「インスタンス」を参照してください。

データベース ID
PFM - Agent の各レコードに付けられた，レコードが格納されるデータベースを示す ID です。データベース ID は，そのデータベースに格納されるレコードの種類を示しています。データベース ID を次に示します。

- PI　：PI レコードタイプのレコードのデータベースであることを示します。
- PD　：PD レコードタイプのレコードのデータベースであることを示します。
- PL　：PL レコードタイプのレコードのデータベースであることを示します。

データモデル
各 PFM - Agent が持つレコードおよびフィールドの総称のことです。データモデルは，バージョンで管理されています。

動的セッション管理
発行するリクエストの URL やメッセージボディ，または Cookie を動的に変化させることによってセッションを管理することです。

ドリルダウンレポート
レポートまたはレポートのフィールドに関連づけられたレポートです。あるレポートの詳細情報や関連情報を表示したい場合に使用します。

（ハ行）

バインド
アラームをエージェントと関連づけることです。バインドすると，エージェントによって収集されているパフォーマンスデータが，アラームで定義したしきい値に達した場合，ユーザーに通知できるようになります。

パスワードファイル
インターネットサービスへのログインに必要なパスワードを管理するファイルです。パスワードファイルには，パスワードユーティリティを使って登録します。登録したパスワードは文字列変換されています。

パスワードユーティリティ
パスワードを登録，変更，または削除する esppasswd コマンドのことです。

パフォーマンスデータ
監視対象システムから収集したリソースの稼働状況データのことです。

フィールド
レコードを構成するパフォーマンスデータの集まりのことです。

複数インスタンスレコード
複数行で記録されるレコードです。このレコードは，固有の ODBC キーフィールドを持っています。
→「インスタンス」を参照してください。

物理ホスト
クラスタシステムを構成する各サーバに固有な環境のことです。物理ホストの環境は，フェールオーバー時にもほかのサーバに引き継がれません。

プローブ
計測を実行する機能（インターネットサービスの応答性能を測定する機能）です。

（ヤ行）

ユーザー定義コマンド
PFM - Agent for Service Response が標準でサポートするインターネットサービス以外のサービスを計測するために作成するプログラムです。一つのユーザー定義コマンドで，一つの計測項目について計測できます。

ユーザー定義サービス
PFM - Agent for Service Response が標準でサポートするインターネットサービス以外のサービスです。ユーザー定義コマンドを作成し，PFM - Agent for Service Response に登録することで，計測できるようになります。

ユーザー定義サービス ID
ユーザー定義サービスに対する計測条件に対し，一意の番号を付けて管理する ID です。計測条件の識別子になるため，重複しないように設定します。

（ラ行）

ライフタイム
各レコードに収集されるパフォーマンスデータの一貫性が保証される期間のことです。

リアルタイムレポート
監視対象の現在の状況を示すレポートです。

履歴レポート

監視対象の過去から現在までの状況を示すレポートです。

レコード

収集したパフォーマンスデータを格納する形式のことです。レコードの種類は，Store データベースの各データベースによって異なります。

レポート

PFM - Agent が収集したパフォーマンスデータをグラフィカルに表示する際の情報を定義したものです。主に，次の情報を定義します。

- レポートに表示させるレコード
- パフォーマンスデータの表示項目
- パフォーマンスデータの表示形式（表，グラフなど）

レポートファイル

計測結果を一時的に保存しておくファイルです。出力形式は CSV 形式で，1 回の計測結果が 1 行に出力されます。計測が一定期間継続する場合は，計測を実行した回数分の計測結果が出力されます。レポートファイルの最新値は，Agent Collector によって収集され，レコードの形式で管理されます。

索引

A

Action Handler〔用語解説〕 675
Agent Collector〔用語解説〕 675
Agent Collector サービスのプロパティ一覧 634
Agent Collector による収集間隔の設定 125
Agent Store〔用語解説〕 675
Agent Store サービスのプロパティ一覧 630

C

Correlator〔用語解説〕 675

D

DHCP（PI_DHCP）レコード 437
DHCP（計測条件） 282
DHCP Response Time Status 346
DHCP Response Time Status（リアルタイムレポート） 347
DHCP Response Time Summary 348
DHCP Response Time Trend 349
DNS（PI_DNS）レコード 440
DNS（計測条件） 281
DNS Response Time Status 350
DNS Response Time Status（リアルタイムレポート） 351
DNS Response Time Summary 352
DNS Response Time Trend 353

E

esp.conf 265
espcommand.xml 309
esppasswd 492
esptask.xml 271
esptasklabel.conf 311

F

FTP（PI_FTP）レコード 442
FTP（計測条件） 283
FTP Failure アラーム 322
FTP Rate 354
FTP Response Time Status 355
FTP Response Time Status（リアルタイムレポート） 356
FTP Response Time Summary 357
FTP Response Time Trend 358
FTP Response Time アラーム 323
FTP Top 10 359

H

HA クラスタシステム 168
hntr2util コマンド 495
HNTRLib2 60
HTTP（計測条件） 274
HTTP Rate 360
HTTP Response Time Status 361
HTTP Response Time Status（リアルタイムレポート） 362
HTTP Response Time Summary 363
HTTP Response Time Trend 364
HTTP Top 10 365
HTTP（PI_HTP）レコード 446
HTTPS（計測条件） 276
HTTPS Rate 366
HTTPS Response Time Status 367
HTTPS Response Time Status（リアルタイムレポート） 368
HTTPS Response Time Summary 369
HTTPS Response Time Trend 370
HTTPS Top 10 371
HTTPS（PI_HTPS）レコード 451

I

IE Probe Daemon〔用語解説〕 675
IE Recorder 9
IE Recorder〔用語解説〕 675
[IE Recorder]（メイン）画面 200
[IE Recorder]（メイン）画面のメニュー項目 206

IE Recorder 動作条件定義ファイル 313
IE Recorder 動作条件定義ファイル〔用語解説〕675
IE Recorder の画面 200
IE Recorder の起動 77
[IE Recorder の設定] 画面 220
IE Recorder の動作条件の設定 49
IESCENA 285
IE Scenario（PI_IES）レコード 458
IE Scenario Detail 372
IE Scenario Logged Message 373
IE Scenario Overview（PI_IESO）レコード 460
IE Scenario Replay Time Status 374
IE Scenario Replay Time Status（リアルタイムレポート）375
IE Scenario Replay Time Summary 377
IE Scenario Replay Time Trend 378
IE Scenario Scope Detail 379
IE Scenario Scope Rate 381
IE Scenario Top 10 382
IES Failure アラーム 324
IES Replay Time アラーム 325
IE シナリオ〔用語解説〕675
IE シナリオ計測〔用語解説〕675
IE シナリオ計測の概要 9
IE シナリオのオプション設定 79
IE シナリオの確認 83
IE シナリオの記録 78
IE シナリオの計測 8
IE シナリオの計測と Web トランザクションの計測の相違点 669
IE シナリオの定義（IE シナリオファイルの作成）76
IE シナリオの保存 84
IE シナリオファイル 9,289
IE シナリオファイル〔用語解説〕676
IE シナリオを計測するための定義 76
IE プローブ〔用語解説〕676
IE プローブおよびプローブの計測多重度 121
IE プローブ使用時のセキュリティ管理 120
IE プローブ制御サービス〔用語解説〕676
IE プローブの自動起動 120
IE モード 87
IMAP4（PI_IMP4）レコード 464
IMAP4（計測条件）281
IMAP4 Failure アラーム 326
IMAP4 Rate 383
IMAP4 Response Time Status 384
IMAP4 Response Time Status（リアルタイムレポート）385
IMAP4 Response Time Summary 386
IMAP4 Response Time Trend 387
IMAP4 Response Time アラーム 327
IMAP4 Top 10 388
IP アドレスの設定 34

J

jpcconf db define(jpcdbctrl config) コマンド 54
jpchosts ファイル 180
jpcras コマンド 604
jpcsto.ini 55
jpcvierec.conf 313

L

Logged Message for IE Scenario（PL_IESM）レコード 468

M

Master Manager〔用語解説〕676
Master Store〔用語解説〕676

N

Name Server〔用語解説〕676

O

ODBC キーフィールド〔用語解説〕676
ODBC キーフィールド一覧 424

P

PD レコードタイプ 4

PD レコードタイプ〔用語解説〕 676
Performance Management〔用語解説〕 676
Performance Management システムの障害回復 609
Performance Management の障害検知 608
PFM - Agent〔用語解説〕 676
PFM - Agent for Service Response のアンインストールとアンセットアップの流れ 186
PFM - Agent for Service Response のアンセットアップ 188
PFM - Agent for Service Response の運用方式の変更〔クラスタ運用時〕 193
PFM - Agent for Service Response の起動と終了 114
PFM - Agent for Service Response の機能 7
PFM - Agent for Service Response の登録 44
PFM - Agent for Service Response の特長 2
PFM - Agent for Service Response の論理ホスト環境をセットアップする 177
PFM - Agent for Service Response 用各定義ファイルをコピーする 183
PFM - Agent for Service Response を登録する 176
PFM - Base〔用語解説〕 677
PFM - Manager〔用語解説〕 677
PFM - Manager が停止した場合の影響 171
PFM - Manager での設定の削除 51, 191
PFM - Manager 名〔用語解説〕 677
PFM - View 名〔用語解説〕 677
PFM - Web Console〔用語解説〕 677
PFM - Web Console からの計測条件の定義 104
PI_DHCP 437
PI_DNS 440
PI_FTP 442
PI_HTP 446
PI_HTPS 451
PI_IES 458
PI_IESO 460
PI_IMP4 464
PI_PI 475
PI_POP3 471
PI_SMTP 476
PI_TCP 480
PI_UDEF 482
PI_WT 483
PI_WTO 487
PI レコードタイプ 4
PI レコードタイプ〔用語解説〕 677
PL_IESM 468
PL レコードタイプ 4
PL レコードタイプ〔用語解説〕 677
POP3（PI_POP3）レコード 471
POP3（計測条件） 280
POP3 Failure アラーム 328
POP3 Rate 389
POP3 Response Time Status 390
POP3 Response Time Status（リアルタイムレポート） 391
POP3 Response Time Summary 392
POP3 Response Time Trend 393
POP3 Response Time アラーム 329
POP3 Top 10 394
Probe Daemon〔用語解説〕 677
Probe 動作条件定義ファイル 265
Probe 動作条件定義ファイル〔用語解説〕 677
Product Detail レコードタイプ〔用語解説〕 677
Product Interval レコードタイプ〔用語解説〕 678
Product Log レコードタイプ〔用語解説〕 678

S

Scope Detail 395
Service Summary Interval（PI_PI）レコード 475
SMTP（PI_SMTP）レコード 476
SMTP（計測条件） 278
SMTP Failure アラーム 330
SMTP Rate 396
SMTP Response Time Status 397
SMTP Response Time Status（リアルタイムレポート） 398
SMTP Response Time Summary 399

SMTP Response Time Trend 400
SMTP Response Time アラーム 331
SMTP Top 10 401
[SSL 認証] タブ（[トランザクションの設定] 画面） 237
Store データベース 4
Store データベース〔用語解説〕 678
Store データベースに記録されるときだけ追加されるフィールド 430
Store バージョン 2.0 への移行 58

T

TCP（PI_TCP）レコード 480
TCP（計測条件） 284
TCP Failure アラーム 332
TCP Response Time Status 402
TCP Response Time Status（リアルタイムレポート） 403
TCP Response Time Summary 404
TCP Response Time Trend 405
TCP Response Time アラーム 333
Transaction Detail 406
Trap Generator〔用語解説〕 678

U

URL エンコード 17
User Defined Service（PI_UDEF）レコード 482
User Defined Service Response Time Status 407
User Defined Service Response Time Status（リアルタイムレポート） 408
User Defined Service Response Time Summary 409
User Defined Service Response Time Trend 410
USERSERV（計測条件） 286

W

Web Recorder 13
Web Recorder〔用語解説〕 678
[Web Recorder]（メイン）画面 226
[Web Recorder]（メイン）画面のメニュー項目 227
Web Recorder 動作条件定義ファイル 315
Web Recorder 動作条件定義ファイル〔用語解説〕 678
Web Recorder の画面 226
Web Recorder の動作条件の設定 49
Web Transaction Overview（PI_WTO）レコード 487
Web Transaction Response Time Status 411
Web Transaction Response Time Status（リアルタイムレポート） 412
Web Transaction Response Time Summary 413
Web Transaction Response Time Trend 414
Web Transaction Scope Detail 415
Web Transaction Scope Rate 416
Web Transaction Top 10 417
Web Transaction（PI_WT）レコード 483
WEBTRANS（計測条件） 285
Web トランザクション計測〔用語解説〕 678
Web トランザクション計測の概要 12
Web トランザクションの計測 12
[Web トランザクションの作成] 画面 229
[Web トランザクションの選択] 画面 232
Web トランザクションファイル 16,290
Web トランザクションファイル〔用語解説〕 678
Webトランザクションを計測するための定義 87
[Web 認証] タブ（[プロパティ] 画面） 243
Web ブラウザでマニュアルを参照するための設定 66
Windows イベントログの一覧 514
wr.conf 315
WT Failure アラーム 334
WT Response Time アラーム 335

X

XML 形式の記述 263

あ

アクション 5
アクション〔用語解説〕 678
アラーム 5
アラーム〔用語解説〕 679
アラーム一覧 320
アラームテーブル 5
アラームテーブル〔用語解説〕 679
アラームの記載形式 319
アンインストール 192
アンインストール手順 51
アンインストールとアンセットアップ 50,186
アンインストールの前に 50
アンセットアップ手順 51

い

移行時の注意事項 658
移行手順 658
インスタンス〔用語解説〕 679
インストール 176
インストールから運用開始までの流れ 174
インストール手順 42
インストールとセットアップ 33,172
インストールとセットアップの流れ 40
インストールとセットアップの前に 34
インストールを始める前に 172
インターネットオプションの設定 78
インターネットサービス計測の概要 8
インターネットサービスの計測 7
インターネットサービスを計測するための定義 72

う

埋め込みリソースの取得 15
埋め込みリソースの取得対象 15
運用上の注意事項 119
運用方式の変更 54

え

エイリアス名 34
エージェント〔用語解説〕 679
エポック秒〔用語解説〕 679

お

応答性能情報 2
大文字・小文字の区別 263
置き換えが必要な文字 263

か

改行コード 264
開始タグと終了タグ 263
稼働状況ログ 594
[可変文字列設定の取込元選択] 画面 254
[可変文字列] タブ（[可変文字列の設定] 画面） 250
[可変文字列] タブ（[プロパティ] 画面） 248
[可変文字列の設定] 画面 250
画面 197
画面遷移 198
画面の基本操作 198
環境設定で使用する定義ファイル 262
監視テンプレート 5,317,318
監視テンプレート〔用語解説〕 679
監視テンプレートの概要 318
管理ツール〔用語解説〕 679

き

記述例(IE Recorder 動作条件定義ファイル) 314
記述例（Probe 動作条件定義ファイル） 269
記述例（Web Recorder 動作条件定義ファイル） 315
記述例（Web トランザクションファイル） 307
記述例（計測条件登録ファイル） 287
記述例（計測条件ラベル定義ファイル） 312
記述例（コマンド登録ファイル） 310
既存の Web トランザクション定義を表示・編集する 95
起動・停止の確認 185
起動オプションの設定 49,178

起動と終了 113
共通フィールド 432
共通メッセージログ 47,593,594
共有ディスクをオフラインにする 182
共有ディスクをオンラインにする 177

く

空白，タブ，改行の削除 263
クラスタ運用時のディスク占有量 623
クラスタシステムでの運用 167
クラスタシステムでの環境を設定する 185
クラスタシステムの概要 168
クラスタソフトの登録を解除する 191
クラスタソフトへ PFM - Agent for Service Response を登録する 184
クラスタソフトへ登録する 183

け

計測条件 ID〔用語解説〕 680
計測条件登録ファイル 271
計測条件登録ファイル（esptask.xml）への簡易登録 85
計測条件登録ファイル〔用語解説〕 680
計測条件の定義（IE シナリオ） 84
計測条件の定義（Web トランザクション） 96
計測条件の定義（インターネットサービス） 72
計測条件の定義（ユーザー定義サービス） 102
計測条件ラベル定義ファイル 311
計測条件ラベル定義ファイル〔用語解説〕 680
計測テスト 84
欠落データ補間の設定 61

こ

コマンド一覧 490
コマンド格納フォルダ 491
コマンド登録ファイル 309
コマンド登録ファイル〔用語解説〕 680
コマンドによるサービスの起動と終了 116
コマンドプロンプトの起動方法 62
コメントの記述 264

さ

サービス ID〔用語解説〕 680
サービス一覧 114
サービス計測の定義にあたっての注意事項 71
サービス自動起動の設定手順 115
サービスタイプ〔用語解説〕 680
サービスの起動 115
サービスの停止 115
再生 83
[再生レポート] 画面 223

し

識別子一覧 624
時刻の変更 119
システム構成の変更 53
システムの運用に関する注意事項 119
システム見積もり 612
システムログ 593
実行系ノードの論理ホスト環境をアンセットアップする 188
実行系ノードの論理ホスト環境をセットアップする 176
実ホスト名 34
障害が発生した場合のフェールオーバー 170
書式（IE Recorder 動作条件定義ファイル） 313
書式（Probe 動作条件定義ファイル） 265
書式(Web Recorder 動作条件定義ファイル) 315
書式（Web トランザクションファイル全体） 290
書式（Web トランザクションファイルの計測条件） 291
書式（計測条件登録ファイル） 271
書式（計測条件登録ファイルの共通部分） 273
書式（計測条件登録ファイルのサービス固有条件部分） 273

書式（計測条件ラベル定義ファイル） 311
書式（コマンド登録ファイル） 309
資料の採取方法 604

す

[スコープ一覧] 画面 222
[スコープ起点の設定] 画面 221
[スコープ終点の設定] 画面 222
[スコープ選択] 画面 233
スコープの解除 79
スコープの起点の設定 94
スコープの起点の設定（IE シナリオの計測） 79
スコープの削除 94
スコープの終点の設定 94
スコープの終点の設定（IE シナリオの計測） 79
スコープの設定 94
スコープの設定（IE シナリオの計測） 78
スコープの定義例（IE シナリオの計測） 10
スコープの定義例（Web トランザクションの計測） 14
スタンドアロンモード〔用語解説〕 680
ステータス管理機能 608
ステータス管理機能〔用語解説〕 680
ステップ再生 83
ステップ情報のカスタマイズ 92
ステップ情報の記録（IE モード） 90
ステップ情報の項目一覧と必須項目 89
ステップ情報の削除 93
ステップ情報の挿入 93
ステップ情報の追加 93
ステップ情報の定義 89
ステップ情報の定義（直接入力モード） 92
ステップ情報の変更 93

せ

接続先 PFM - Manager の設定 48
接続先 PFM - Manager を設定する 177
セットアップ 176
セットアップコマンドを実行 46
セットアップ手順 44
セットアップファイルをコピー 45
前提 OS 34
前提プログラム 36

そ

[操作対象] タブ 213
[操作の設定] 画面 210
その他の Performance Management シリーズプログラムの論理ホスト環境をアンセットアップする 189
その他の Performance Management シリーズプログラムの論理ホスト環境をセットアップする 180

た

待機系ノードの論理ホスト環境をアンセットアップする 190
待機系の論理ホスト環境をセットアップする 182
[代替文字列設定の取込元選択] 画面 259
[代替文字列] タブ（[可変文字列の設定] 画面） 252
[代替文字列の設定] 画面 255
タイムアウト時間 123
タグの特定 11,79
タスク〔用語解説〕 681
タスク ID〔用語解説〕 681
単数インスタンスレコード〔用語解説〕 681

ち

直接入力モード 88

て

定義情報の反映（IE シナリオ） 85
定義情報の反映（Web トランザクション） 98
定義情報の反映（インターネットサービス） 75
定義情報の反映（ユーザー定義サービス） 103

定義内容（IE Recorder 動作条件定義ファイル）313
定義内容（Probe 動作条件定義ファイル）265
定義内容（Web Recorder 動作条件定義ファイル）315
定義内容（Web トランザクションファイル全体）290
定義内容（Web トランザクションファイルの計測条件）291
定義内容（計測条件登録ファイル）272
定義内容（計測条件登録ファイルの共通部分）273
定義内容（計測条件登録ファイルのサービス固有条件部分）273
定義内容（計測条件ラベル定義ファイル）311
定義内容（コマンド登録ファイル）309
定義の流れ 70
定義ファイル一覧 262
ディスク占有量 613
データ型一覧 427
データベース ID〔用語解説〕681
データモデル 4,420
データモデル〔用語解説〕681
[デフォルトプロキシ] タブ（[トランザクションの設定] 画面）236

と

統合トレースログ 594,596
統合トレースログ機能の設定の変更 60
統合トレースログの設定を変更する 495
動作ログ出力の設定 48
動作ログ出力を設定する 181
動作ログの出力 660
動的セッション管理〔用語解説〕681
動的セッション管理対応（Web トランザクションの計測）15
トラブルシューティング 585
トラブル発生時に採取が必要な資料 598
トラブルへの対処方法 583
[トランザクション] タブ（[トランザクションの設定] 画面）234
トランザクションの設定 95
[トランザクションの設定] 画面 233
ドリルダウンレポート（フィールドレベル）336
ドリルダウンレポート（レポートレベル）336
ドリルダウンレポート〔用語解説〕681
トレースログ 594,596

な

[名前を付けて保存] 画面 231

に

任意の操作の応答性能計測 10
任意のページ遷移の応答性能計測 13

ね

ネットワークの環境設定 34
ネットワークの設定 47
ネットワークの設定をする 180

は

バージョンアップの注意事項 38
バージョン互換 659
バインド 5
バインド〔用語解説〕681
[パスワードの変更] 画面 219
パスワードファイル〔用語解説〕681
パスワードユーティリティ 72
パスワードユーティリティ〔用語解説〕682
パスワードを登録・変更・削除する 492
バックアップ 64
パフォーマンス監視の運用例 22
パフォーマンス監視の目的 22
パフォーマンスデータ〔用語解説〕682
パフォーマンスデータの格納先の変更47,54
パフォーマンスデータの格納先を変更する181
パフォーマンスデータの管理方法 21

パフォーマンスデータの収集と管理の概要 20
パフォーマンスデータの収集方法 20

ふ

ファイアウォール /NAT を通過させる通信の計測対象ごとの設定方法 629
ファイアウォール /NAT を挟んだ計測を行う時の注意事項 628
ファイアウォールの通過方向 626
ファイルおよびフォルダ一覧 653
フィールド 4,336
フィールド〔用語解説〕 682
フィールドの値 428
フェールオーバー時の処理 170
複数インスタンスレコード〔用語解説〕 682
物理ホスト〔用語解説〕 682
ブレークポイントの設定 83
プローブ〔用語解説〕 682
[プロキシ] タブ（[プロパティ] 画面） 244
プロセス一覧 625
プロパティ 630
[プロパティ] 画面 238

へ

[ページ情報] タブ（[プロパティ] 画面） 239
ベースラインの選定 22

ほ

ポート番号一覧 626
ポート番号の設定 35
ポート番号の設定を解除する 188

ま

[待ち時間] タブ 210

め

メッセージ 497
メッセージ一覧 516
メッセージの記載形式 498
メッセージの形式 498
メッセージの出力形式 498
メッセージの出力先一覧 499
メモリー所要量 612

も

文字セットの指定 16

ゆ

ユーザー定義コマンド 18
ユーザー定義コマンド〔用語解説〕 682
ユーザー定義サービス 18
ユーザー定義サービス〔用語解説〕 682
ユーザー定義サービス ID〔用語解説〕 682
ユーザー定義サービス計測の概要 18
ユーザー定義サービスを計測するための定義 101

よ

[要素の絞り込み条件の設定] 画面 259
要約ルール 425

ら

ライフタイム〔用語解説〕 682

り

リアルタイムレポート 3
リアルタイムレポート〔用語解説〕 682
[リクエスト情報] タブ（[トランザクションの設定] 画面） 235
[リクエスト情報] タブ（[プロパティ] 画面） 241
リストア 65
履歴レポート 3
履歴レポート〔用語解説〕 683

れ

レコード 4,336,419
レコード〔用語解説〕 683
レコード一覧 436

レコードの記載形式 421
レスポンス判定（IE シナリオの計測） 11,82
レスポンス判定（Web トランザクションの計測） 14
[レスポンス判定] タブ 217
[レスポンス判定] タブ（[プロパティ] 画面） 246
レポート 3
レポート〔用語解説〕 683
レポート一覧 341
レポートの記載形式 336
レポートのフォルダ構成 338
レポートファイル〔用語解説〕 683

ろ

ログ情報 593
ログのファイルサイズ変更 47
ログのファイルサイズ変更をする 181
ログファイルおよびフォルダ一覧 594
論理ホスト環境定義ファイルのエクスポート・インポート 193
論理ホスト環境定義ファイルを待機系ノードにコピーする 182,190
論理ホスト環境定義をインポートする 182
論理ホスト環境定義をエクスポートする 181,189
論理ホスト環境の PFM - Agent for Service Response をアンセットアップする 188

ソフトウェアマニュアルのサービス ご案内

１．マニュアル情報ホームページ

ソフトウェアマニュアルの情報をインターネットで公開しています。

URL　http://www.hitachi.co.jp/soft/manual/

ホームページのメニューは次のとおりです。

■マニュアル一覧	日立コンピュータ製品マニュアルを製品カテゴリ，マニュアル名称，資料番号のいずれかから検索できます。
■CD-ROMマニュアル	日立ソフトウェアマニュアルと製品群別CD-ROMマニュアルの仕様について記載しています。
■マニュアルのご購入	マニュアルご購入時のお申し込み方法を記載しています。
■オンラインマニュアル	一部製品のマニュアルをインターネットで公開しています。
■サポートサービス	ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開サービスを記載しています。
■ご意見・お問い合わせ	マニュアルに関するご意見，ご要望をお寄せください。

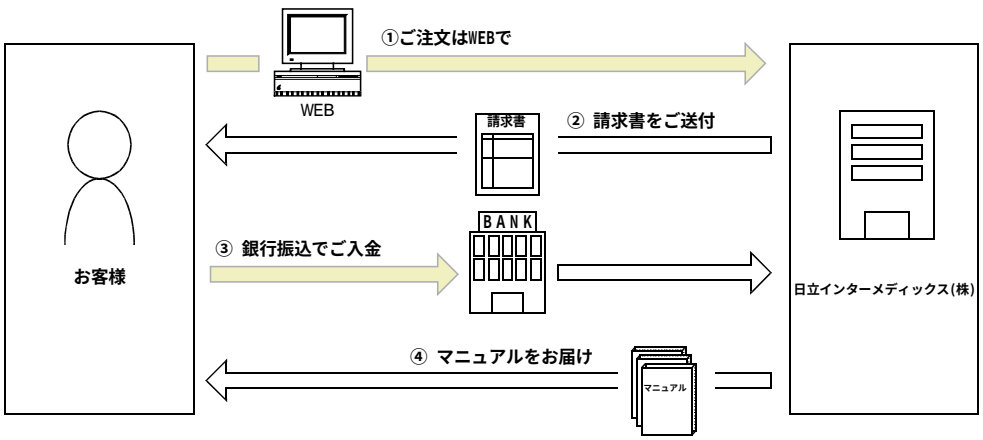
２．インターネットでのマニュアル公開

2 種類のマニュアル公開サービスを実施しています。

(1) マニュアル情報ホームページ「オンラインマニュアル」での公開
　製品をよりご理解いただくためのご参考として，一部製品のマニュアルを公開しています。

(2) ソフトウェアサポートサービスお客様向けページでのマニュアル公開
　ソフトウェアサポートサービスご契約のお客様向けにマニュアルを公開しています。公開しているマニュアルの一覧，本サービスの対象となる契約の種別などはマニュアル情報ホームページの「サポートサービス」をご参照ください。

３．マニュアルのご注文



① マニュアル情報ホームページの「マニュアルのご購入」にアクセスし，お申し込み方法をご確認のうえ WEB からご注文ください。ご注文先は日立インターメディックス(株)となります。

② ご注文いただいたマニュアルについて請求書をお送りします。

③ 請求書の金額を指定銀行へ振り込んでください。

④ 入金確認後 7 日以内にお届けします。在庫切れの場合は，納期を別途ご案内いたします。